

# 中野谷地区遺跡群

— 県営畑地帯総合土地改良事業横野平  
地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

1994

群馬県安中市教育委員会

# 中野谷地区遺跡群

—県営畑地帯総合土地改良事業横野平  
地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

1 9 9 4

群馬県安中市教育委員会



中原遺跡 溝全景



天神原遺跡と妙義山



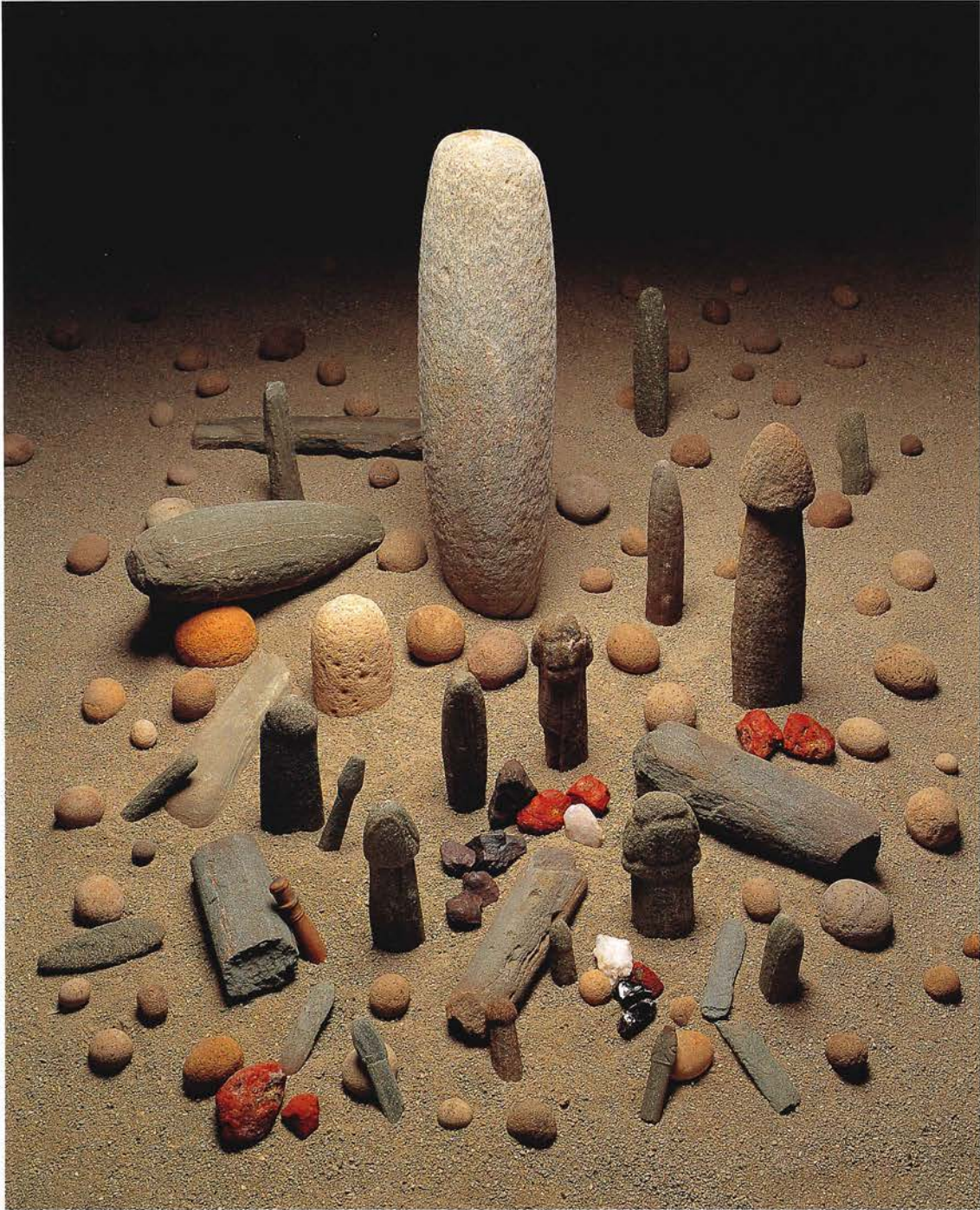


天神原遺跡石棒祭祀遺構



天神原遺跡出土の石（黒曜石・チャート・鉄鉱石・石英・凝灰岩）





天神原遺跡出土の球石等



天神原遺跡出土の土偶



天神原遺跡出土の石棒・石剣



# 序

安中市は浅間山、妙義山の麓に広がる緑豊かな田園都市です。中野谷地区は碓氷川の南に広がる肥沃な台地で、県内でも有数の畑作地帯です。今回の発掘調査は、この地域の農地を現代社会に見合った機械化された耕作を行える優良耕地を生み出すための土地改良事業に伴うものです。

毎年秋季から冬季にかけて実施された発掘調査も5カ年に及び、旧石器時代から平安時代に至る多数の遺跡の存在が明らかとなりました。特に、縄文時代では環状列石が発見された天神原遺跡をはじめ、重要な遺跡が続々と発見され、「縄文の里」といってもよい地域であることが判明しました。また、奈良・平安時代にはこの台地上に大規模な「牧」が拓かれ、たくさんの馬が生産されていたことも確認されました。碓氷の関・東山道とともに古代交通の重要な位置を占めていたことでしょう。このように、今回の発掘調査により、安中市の原始・古代の歴史に新しいページを加えることができました。

こうして調査された遺跡は、二度と同じ状態に戻すことはできません。そこで、本報告書を作成し、記録として後世へ伝えて行く所存であります。また、重要な成果は学校教育・社会教育の場をとおして、郷土の歴史を学習する資料として、有効に活用して行きたいと思えます。

なお、発掘調査にご協力いただきました地元地権者の皆さまをはじめ、調査に従事していただいた大勢の方々、調査に際し有益なご助言・ご指導をいただいた多くの方々には、厚く御礼申し上げます。

平成6年3月

安中市教育委員会

教育長 山中 誠次



# 例 言

- 1 本書は群馬県高崎土地改良事務所が実施した県営畑地帯総合土地改良事業横野平地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査及び遺物整理は群馬県高崎土地改良事務所からの委託金と、国宝重要文化財等保存整備費補助金及び群馬県文化財保存事業費補助金の交付を受けて実施した。
- 3 発掘調査は昭和63年度から平成4年度までの5カ年間実施し、遺物整理は昭和63年度から平成5年度までの6カ年間実施した。
- 4 各年度に調査を実施した遺跡は下記のとおりであるが、紙面の関係により中原遺跡、東畑遺跡、金井谷戸遺跡、天神原遺跡について、本書に掲載した。  
昭和63年度 下塚田遺跡、落合遺跡、北下原遺跡、落合原遺跡、三本木遺跡、中原遺跡  
平成元年度 中原遺跡、東畑遺跡、金井谷戸遺跡、下宿東遺跡、北東・堤下遺跡、北北原遺跡  
平成2年度 下宿東遺跡、北東・堤下遺跡、天神原遺跡  
平成3年度 和久田遺跡、細田遺跡、東向原遺跡  
平成4年度 和久田遺跡、東向原遺跡
- 5 調査は安中市教育委員会直営事業として実施し、安中市教育委員会社会教育課主事大工原豊が担当し、主査松本豊が現場庶務を行った。
- 6 土器の分類・分析は、中原遺跡・東畑遺跡については、関根慎二（群馬県埋蔵文化財調査事業団）が行い、金井谷戸遺跡については、石坂茂（同）が行い、天神原遺跡については、林克彦（青山大学大学院生）が行った。また、石器の分類・分析は天神原遺跡、金井谷戸遺跡については、大工原が行い、中原遺跡、東畑遺跡については麻生敏隆（群馬県埋蔵文化財調査事業団）、中島誠（藤岡市教育委員会）、大工原が行った。遺構の分類・分析は大工原、金井京子が行った。
- 7 本書の編集は大工原が行い、本文の執筆は大工原、金井、関根、林が行った。
- 8 調査指導は小林達雄（國學院大学教授）、能登 健（埋蔵文化財調査事業団）の各氏に行っていた。
- 9 馬骨の鑑定は宮崎重雄（県立大間々高校）、鉄鉱石及び塗彩資料の分析は田口勇（国立歴史民俗博物館教授）・斎藤努（同助手）・江鹿立男（産業考古学会会員）の各氏に行っていた。
- 10 現場の遺構図面の作成は大工原、千田のほか、新井幸介、新井真弓、井上慎也、金井京子、鈴木茂美、瀧沢徹、（故）田村悦子、中川京子、森由一、和田宏子が行った。
- 11 遺構・遺物実測図の整理・実測、採拓・トレースは大工原、石坂、金井、麻生、中島、林、

伊田百合子、及川敦美、佐々木裕子、佐藤佐由里、佐藤秀子、清水正、白石純子、白石俊子、神宮幸四郎、鈴木茂美、鈴木将之、鈴木健之、田中利策、筑井美佐子、中川京子、古立善之、矢野京子、山村ヨネ子が行った。

- 12 写真図版の構成・作成は和田宏子、大工原が行った。
- 13 基準杭設置及び国家座標取付は（株）桜井測量設計事務所に委託して行った。
- 14 遺構写真の撮影は原則として大工原が行ったが、天神原遺跡ステレオ写真の撮影は一部石井克己（子持村教育委員会）が行った。また、航空写真及び航空ビデオの撮影は（有）青高館に委託して実施した。
- 15 遺物写真の撮影は金井谷戸遺跡については、石坂茂が行い、その他については小川忠博に委託して行った。
- 16 テフラ・鈹物分析、炭化物分析は（株）パリオ・サーヴェイ及び（有）古環境研究所に委託して行った。また、プラント・オパール分析は（有）古環境研究所に委託して行った。
- 17 発掘調査における記録、出土遺物はすべて安中市教育委員会が保管している。
- 18 長期にわたる発掘調査及び遺物整理の期間中、下記の方々ほか多くの方々に御指導・御助言・御協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。（敬称略・50音順）

赤山容造 麻生敏隆 麻生 優 安孫子昭二 淡路博和 安齋正人 飯島義雄 石井克己  
石井 寛 石岡憲雄 石川正之助 石坂 茂 磯貝基一 磯部建設（株） 伊藤実 井上和人  
井上 太 植田 真 宇貫俊夫 梅沢重昭 大賀 健 大塚昌彦 大野憲司 岡本東三  
小川忠博 小沢克也 小野和之 角張淳一 金井安子 金山喜昭 金子直行 狩野正好  
加部二生 亀井正道 櫛原功一 小島敦子 小島純一 小杉 康 小林達雄 小宮俊久  
坂口 一 坂爪久純 阪本英一 桜井 旭 （株）桜井測量設計事務所 桜井達也 佐藤春重  
設楽博己 清水信行 清水 豊 志村 哲 新藤 彰 杉山真二 鈴木徳雄 鈴木保彦  
須藤 隆 関根慎二 早田 勉 高井佳弘 高島英之 田口 勇 田口 修 田村晃一  
多胡好夫 田多井用章 田野倉武男 谷口康浩 谷藤保彦 塚本師也 堤 隆 寺内敏朗  
戸田哲也 遠間真也 遠間日出輝 中島 宏 中島 誠 中村五郎 能登 健 橋口尚武  
長谷川福次 羽生淳子 林 謙作 原田恒弘 平野進一 福田豊彦 福山俊彰 藤巻幸男  
古郡正史 細野高伯 前澤和之 前原 豊 松田 猛 三浦茂三郎 水沢祝彦 水田 稔  
宮崎朝雄 宮崎重雄 武藤康弘 茂木 努 森田秀策 山口英雄 吉田 格 若狭 徹  
和田 正

## 凡 例

1 遺構実測図は1/80を基本としたが、遺構の大きさにより1/40としたものもある。

2 遺物実測図の縮尺は次のとおりである。

土器・土製品：1/4・1/6・1/8

小形石器：1/1・2/3・1/2、中形石器：1/4、大形石器：1/8

3 石器実測図中の記号は石材を示し、主な略号は以下のとおりである。

Ob：黒曜石      Ch：チャート      Sh：頁岩      HSh：硬質頁岩

Sch：輝緑凝灰岩    BAn：黒色安山岩    An：安山岩    SS：(牛伏) 砂岩

Sc：結晶片岩      GrR：緑色岩類      Tf：凝灰岩

4 A類石器、B類石器・鉄鉱石では実測図中の細密平行線は使用痕・研磨痕の範囲と使用方向を示す。ただし、使用方向が不明のものは縦線とした。

磨石・凹石・石皿では基本的には使用部分を白抜きとし、原礫面は点描とした。ただし、一部使用部分を含め点描で表現したものもある。そして、凹石の場合、凹と磨面の切り合い関係を示すため、凹→磨では凹の範囲を破線で表現し、磨→凹では実線で表現した。

砥石は使用方向を点描で表現した。また、石棒・石剣・棒状礫・岩版・垂飾等は点描により表現した。



# 目 次

序		III 遺跡の地理的・歴史的環境 …24
例 言		1 地理的環境 ……24
凡 例		2 歴史的環境 ……27
I 調査の経緯 …… 1		3 層 序 ……31
1 調査に至る経過 …… 1	IV 各遺跡の概要 ……33	
2 調査の経過 …… 2	1 中原遺跡 ……33	
II 調査の方法 …… 3	(1) 縄文時代 ……33	
1 発掘調査の方法 …… 3	(2) 弥生時代 ……33	
(1) 発掘調査の方針 …… 3	(3) 古墳時代 ……34	
(2) グリッドの設定 …… 3	(4) 奈良・平安時代 ……34	
(3) 遺構確認面 …… 4	(5) 平安時代末から中世 ……34	
(4) 遺構の調査と記録の方法 …… 4	2 東畑遺跡 ……34	
2 遺物整理の方法 …… 9	3 金井谷戸遺跡 ……35	
(1) 遺物整理の方針 …… 9	4 天神原遺跡 ……36	
(2) 遺構の記載の方法 ……10	(1) 縄文時代 ……36	
(3) 遺物の記載の方法 ……11	(2) 古墳時代 ……38	
(4) 遺構、遺物相互の分析・記載 の方法 ……23	(3) 奈良時代 ……38	

# I 調査の経緯

## 1 調査に至る経過

この発掘調査の契機となったのは、「県営畑地帯総合土地改良事業横野平地区」であり、昭和50年代に計画が立案されたものである。その後、地元地権者の同意が得られ、事業を実施する運びとなった。

昭和61年9月、県営畑地帯総合土地改良事業横野平地区の事業実施に伴う埋蔵文化財の取扱いについて、協議を行いたいとの申し出が高崎土地改良事務所より、安中市教育委員会にあった。そこで、二者間で協議を行い、今後の対応を円滑に行っていくために、「埋蔵文化財の発掘調査に係る覚書」を交換した。

この地域には遺跡が多く存在している可能性が濃厚であるため、当教育委員会としては早急に対応を図る必要があると判断し、該当地区の遺跡の分布状態の把握に努めた。そこで、昭和61年度に「遺跡詳細分布調査事業」の一環として、該当地域を含む中野谷地区全域について、詳細分布調査を実施し、遺跡の分布状態の実態の把握を行った。その結果、該当地区内には縄文時代を中心に多数の遺跡が存在していることが判明した。また、事業実施により、多くの遺跡が影響を被ることも確実であると予測された。

そこで、詳細分布調査の結果を高崎土地改良事務所に伝達し、土地改良事業と遺跡保護の調整を図るため、再三にわたり協議を行ってきた。しかし、土地改良事業は中野谷地区の住民にとって、将来的に農業振興を計るための重要な事業であり、事業実施の要望も大きいことから、事業は実施される運びとなった。

そのため、最終的に事業実施により遺跡が影響を被る部分については、発掘調査を行い記録保存の措置を講ずることになった。土地改良事業が冬期施工であり、休耕も行わずに事業を実施する計画であることから、発掘調査期間を十分に取ることができないことが、当初から予想された。そして、初年度事業では発掘調査と工事が同時に行われる事態となり、調査の途中で中止せざるを得ない状態に陥ってしまった。

この反省から、高崎土地改良事務所及び横野平土地改良区と協議を行い、第2年度以降は秋期段階で作物の収穫が終わった区域から試掘を行い、早期に遺跡の規模と範囲の把握に努める方法を採用ことにした。また、次年度事業区域についても、先行して冬期に実施することになった。その結果、第2年度以降は調査期間をやや長く設定することが可能となり、未調査のまま工事が実施される区域は大幅に削減された。

## 2 調査の経過

発掘調査は昭和63年度実施区域の場合、道路・水路部分に沿って実施した。そして、遺構・遺物が濃密に分布し、かつ切土等で遺構が破壊される部分については、面的に拡張して調査を行った。また、平成元年度以降は、本事業により道路・水路以外の区域でも広範囲に切土工事を行う部分が存在することが判明したため、調査対象域を道路・水路部分に限定せず、遺跡の状況と切土高を勘案し、実情に即して調査対象範囲を決定した。例えば、集落遺跡の場合、集落全体を調査対象域とし、「牧」を区画する溝状遺構の場合、溝の延びる区域を調査対象域とした。

調査は農作物の収穫後から開始され、工事が年度内に終了する日程の中で行うことになっていたため、毎年非常に苛酷な調査日程で作業を行うことを強いられた。さらに、降雪等の気象条件によっても調査日程は左右された。

発掘調査の日程は次のとおりである。

下塚田遺跡	昭和63年12月9日～平成元年2月25日
落合遺跡	昭和63年12月9日～平成元年2月25日
北下原遺跡	昭和63年12月9日～平成元年2月25日
落合原遺跡	昭和63年12月9日～平成元年2月25日
三本木遺跡	昭和63年12月9日～平成元年2月25日
中原遺跡	昭和63年12月9日～平成元年2月25日、平成元年10月2日～平成2年3月8日
東畑遺跡	平成元年10月2日～平成2年3月8日
金井谷戸遺跡	平成元年10月2日～平成2年3月8日
下宿東遺跡	平成元年10月2日～平成2年3月8日、平成2年10月9日～平成3年3月25日
北東・堤下遺跡	平成元年10月2日～平成2年3月8日、平成2年10月9日～平成3年3月25日
乙北原遺跡	平成元年10月2日～平成2年3月8日
天神原遺跡	平成2年10月9日～平成3年3月25日
和久田遺跡	平成3年10月11日～平成4年1月21日
細田遺跡	平成3年10月11日～平成4年1月21日、平成5年2月8日～2月26日
東向原遺跡	平成3年10月11日～平成4年1月21日、平成5年2月8日～2月26日

また、遺物整理は平成元年2月10日～平成6年3月31日の間、継続して断続的に実施した。なお、この間に『発掘調査概報』1～4を平成2年～平成5年に刊行した。そして、市道拡張事業と本事業の両方に跨って存在した三本木遺跡・落合遺跡については、すでに市道拡張事業において、『三本木遺跡・落合遺跡』として、平成元年3月に報告書刊行済みである。



## II 調査の方法

### 1 発掘調査の方法

#### (1) 発掘調査の方針

土地改良事業に伴う今回の発掘調査は、調査対象区域が広範囲に及んでおり、調査日数も限られていることから、精緻な発掘調査をすべての遺跡に対して、実施することは困難であることが当初から予想された。そのため、事業に先立ち1筆毎に遺物を表面採集する方法で、遺跡詳細分布調査を実施し、遺跡の規模と内容の把握に努めた。

そして、当初は山なり整地により工事を実施するため、道路・水路部分以外は遺跡が影響を被る可能性は低いものと推察された。そこで、当初年度は道路・水路建設予定地部分に重点を置き、この部分の遺構・遺物についての調査を主眼とした。

しかし、実際に工事が行われた状態を見ると、道路・水路部分以外でも大幅に切り盛りが行われていたことが判明した。このような状態で道路・水路部分のみの発掘調査を実施しても、それ以外遺跡部分が広範囲に破壊されてしまい、遺跡の記録保存の措置としては不適切であると思われる。そこで、第2年度以降は調査方針を変更し、まず、道路・水路部分について試掘調査を行い、住居址が検出された場合、その周囲の区域を拡張し、集落単位で調査を行うようにした。その際、工事により破壊される可能性の高い遺跡のうち、集落遺跡等大規模な遺跡を重点的に調査することにした。

#### (2) グリッドの設定

中野谷地区遺跡群の発掘調査は、広大な区域について、数カ年にわたって継続的に実施されることと、遺跡が方々に点在することが予想されることから、グリッドは土地改良事業実施区域全体を含む範囲に100m×100mの大グリッドと4m×4mの小グリッドを併用するかたちで設定した。グリッドの呼称は北西隅の座標値とし、北から南へアルファベットでA、B、C……Y、西から東へ算用数字で1、2、3……と4m進法で呼称することにした。また、大グリッドは南北方向ではアルファベットの頭に1A、2C、3Eなどと算用数字を冠し、100mごとに数字が大きくなるようにした。そして、さらに細分割が必要な場合は小グリッドを4分割し、北西隅からa、b、c、dとグリッドの呼称の最後に付して記録することにした(第1図-1)。

グリッドの方向は当初年度に調査を行った下塚田遺跡の土地改良事業の基準杭と関連性を持たせて設定した。北東・堤下遺跡、乙北原遺跡以外は、このグリッドを用いた。また、北東・堤下遺跡、乙北原遺跡では、幹線道路の方向をグリッドの東西方向として設定した。

## II 調査の方法

グリッド杭の基準となる測量基準杭は業者に委託して設定し、国家座標に取り付けた。天神原遺跡の位置に当たる5 C-1は $X=32271.317$ 、 $Y=-87617.080$ 、5 C-8は $X=32271.267$ 、 $Y=-87585.080$ である。中原遺跡の8 A-101は $X=31937.450$ 、 $Y=-86413.597$ 、9 C-101は $X=31829.450$ 、 $Y=-86413.764$ である。東畑遺跡の4 P-131は $X=31718.194$ 、 $Y=-86893.937$ 、4 P-145は $X=31718.108$ 、 $Y=-86837.937$ である。

### (3) 遺構確認面

基本層序は次章で詳細に述べるが、ここで簡単に基本層序について説明しておく。基本層序は、Ia層：浅間A軽石を含む層(現表土)、Ib層：浅間A軽石純層、IIa層：浅間B軽石を含む層、IIb層：浅間B軽石純層、III層：黒色土層、IV層：褐色土層、V層：黄褐色土層、VI層：浅間板鼻黄色軽石(YP)層である。

原則として遺構確認面は、IV層上位から中位までの間に設定し、この深さまでバックホーにより掘削した。しかし、土層の堆積が浅い場合や、ゴボウの深耕により攪乱が著しい場合はV～VI層まで確認面を下げた。中原遺跡C区南東部、同F区南部、下宿東遺跡道北部分などが該当する。

また、天神原遺跡A区・C区ではIII層上面までをバックホーにより掘削し、その後人力で包含層(III層～IV層上部)を掘り下げて遺構を確認した。

中原遺跡、細田遺跡の沼地部分はII b層上面までバックホーで掘削し、その後人力でIII層上面まで掘り下げ、遺構確認を行った。

### (4) 遺構の調査と記録の方法

本遺跡群の調査は5カ年に及んだため、その間に調査と記録の方法も徐々に改善されていった。したがって、年度により方法が異なる。原則的な調査方法は第1表のとおりである。

昭和63年度・平成元年度は以下の手順で調査を行った。

表土掘削→遺構確認→基準杭設置→グリッド杭設置→遺構精査→遺物出土状況写真撮影  
→土層断面写真撮影→遺物分布図作成→遺物取り上げ→遺構写真撮影→遺構平面図作成  
平成元年度は金井谷戸遺跡以外の遺跡については以下の手順で調査を行った。

表土掘削→遺構確認→基準杭設置→グリッド杭設置→遺構精査(中層まで)  
→遺物取り上げ→遺物出土状況カード作成→下層遺物出土状況写真撮影→土層断面写真撮影  
→土層断面図作成→遺構写真撮影→遺構平面図作成→遺跡全景写真撮影

金井谷戸遺跡は以下の手順で調査を行った。

人力による表土掘削→グリッド杭設置→包含層精査→遺構精査→遺物出土状況写真撮影  
→遺物分布図作成→遺物取り上げ→土層断面写真作成→土層断面図作成→遺構写真撮影

1 発掘調査の方法

作業の種類	方			法	
	昭和63年度	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年
基準杭設置	業者委託	業者委託	業者委託	業者委託	直 営
グリッド杭設置	直 営	直 営	業者委託・直営	直 営	直 営
表土掘削・除去	バックホー (0.7m3)	バックホー (0.7m3) 金井谷戸遺跡 ジョレン	バックホー (0.7m3)	バックホー (0.7m3)	バックホー (0.7m3)
包含層調査	ジョレン	ジョレン 金井谷戸遺跡 ねじり鎌	天神原遺跡 A区：ねじり鎌 C区：ジョレン	ジョレン	
遺構精査・掘削	移植ゴテ ねじり鎌 ジョレン	移植ゴテ ねじり鎌	移植ゴテ ねじり鎌 バックホー (1.5t級) 天神原遺跡 配石墓：フルイ	移植ゴテ ねじり鎌 溝：バックホー (2t級)	ジョレン ねじり鎌
遺物取上げ法 住居址 土壌・ピット 溝 配石・集石土坑 包含層	通し番号 一部4分割法 一括 分層2m毎 グリッド	通し番号 一括 分層2m毎 通し番号 グリッド 金井谷戸遺跡 通し番号	分層16分割法 一部通し番号 一括 分層2m毎 分層8分割法 一部通し番号 グリッド 天神原遺跡 2mグリッド	分層16分割法 一括 分層2m毎 通し番号 グリッド	グリッド
平面図	平板測量	平板測量	平板測量 航空写真	航空ビデオ 一部平板測量	平板測量
遺物分布図	住居址のみ	住居址 金井谷戸遺跡 すべての遺物	天神原遺跡 環状列石部分 石棒祭祀遺構 埋設土器	集石土坑 埋設土器	
土層断面図	通常の方法	通常の方法	通常の方法 土層転写法	土層転写法	
遺構断面図		通常の方法	通常の方法	大型真弧	

第1表 発掘調査の方法

## II 調査の方法

→遺跡全景写真撮影

平成2年度は天神原遺跡A区・C区以外の遺跡については以下の手順で調査を行った。

表土掘削→遺構確認→基準杭設置→グリッド杭設置→遺構掘削・精査（中層まで）

→遺物出土状況カード作成→下層遺物出土状況写真撮影→土層断面写真撮影→

土層断面図作成→遺構写真撮影→遺跡全景写真撮影→遺構平面図作成

天神原遺跡A区・C区は以下の手順で調査を行った。

表土掘削→基準杭設置→グリッド杭設置→包含層精査・遺構確認

→III層下面遺跡全景写真撮影（航空写真）→遺構平面図・遺物分布図作成

→遺物・礫取り上げ→配石遺構精査→フルイによる微細遺物検出→土層断面写真撮影

→土層断面図作成→遺構写真撮影→IV層上面遺跡全景写真撮影→遺構平面図作成

平成3年度は以下の手順で調査を実施した。

表土掘削→遺構確認→基準杭設置→グリッド杭設置→遺構掘削・精査（中層まで）

→遺物出土状況カード作成→下層遺物出土状況写真撮影→土層断面写真撮影→

土層断面図作成→遺構写真撮影→遺跡全景写真撮影→遺構平面図作成

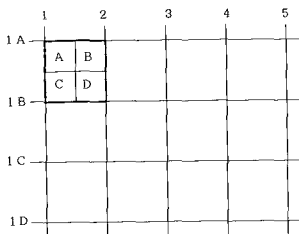
調査機材としては、原則として住居址・土坑等の精査にはねじり鎌・移植ゴテを用いた。また、ピットにはこれに山芋掘り用の「突き」を用いた。また、大溝については、平成元年度にはジョレンを用いて精査を行っていたが、溝に伴う遺物がほとんど存在しないことと、莫大な労力と時間を費やしてしまうため、平成2年度以降は層・区（2m単位）ごとにミニバックホーとジョレン・スコップによる掘削を併用して実施した。初めは遺物の大部分が掘り上げられてしまうことを危惧したが、実際には丁寧になんげ掘削を行うことにより、遺物回収率をさほど低下させることなく実施できた。そこで、ゴボウの深耕により攪乱が激しい下宿東遺跡の古墳時代以降の住居址についても、実験的にこの方法で中層までの調査を行った。その結果、比較的容易に調査が行えることが判明したため、北東・堤下遺跡では古墳時代以降の住居址について、この方法を用いて中層まで調査を行った。しかし、縄文時代の住居址ではサブトレンチの調査に導入してみたところ、遺物が多すぎて不向きであることが判明したため、途中で中止した。

また、土地改良区域内の水田部分については、水田址の存在が推定されたが、土地改良事業により破壊される可能性が低いと、土層中に含まれるテフラ分析とプラントオパールにより、水田址の時期と範囲確認を行うにとどめた。埋没沼地と「牧」の大溝についても、同様な分析を行った。

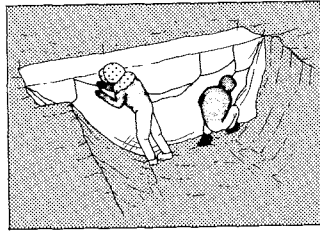
なお、遺構の調査方法は平成2年度以降、時間と経費節減のため新しい方法を導入しているの  
で、若干説明を必要とする。

【分層16分割法】 住居址の調査方法で、従来行われていた4分法を改良したものである。まず最

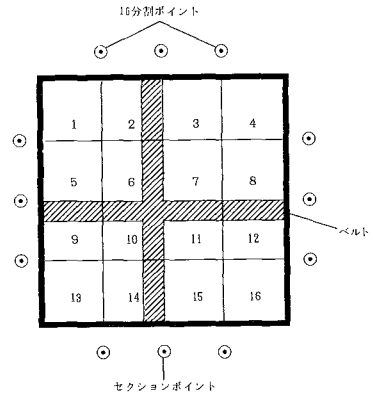
1 発掘調査の方法



1-1 グリッドの設定



1-2 土層転写法



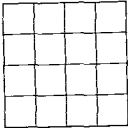
1-3 住居址の16分割の方法と各区の位置

遺物出土状況カード

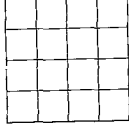
遺物略称 住居名 調査年月日  
記録者

遺物出土状況

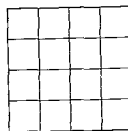
1層



2層



3層



◎ 大量 (大判り以上)  
○ 多量 (大判り)  
△ 少量 (中判り)  
\* 音干 (小判り)

土層の区分



層名 厚さ  
1層 Cm  
2層 Cm  
3層 Cm

1-4 住居遺物出土状況カード

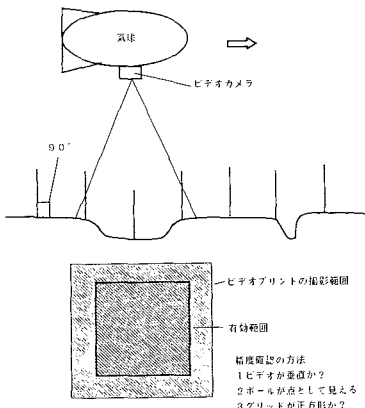
遺構土層説明カード

遺構略称 遺構名 調査年月日 記録者

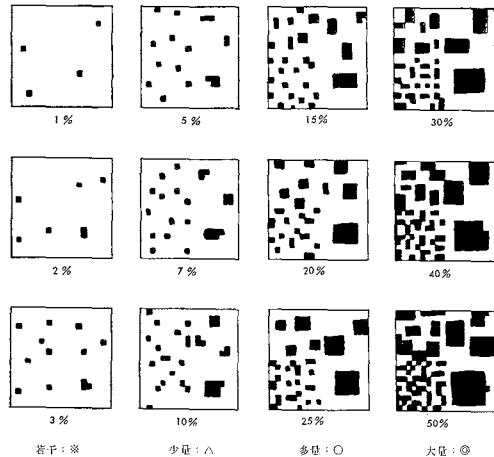
遺構名	No	層	名	色	調	しまり	粘性	混入物				
								R P	R B	Y P	物	

暗く明 あり ◎ 大量 色調 ◎ RP: ローム砂子 (溶け込んだ状態)  
ややあり ○ 多量 しまり ○ RB: ロームブロック (かたまりの状態)  
あまりない △ 少量 粘性 △ YP: 板敷黄色粘土  
ない \* 音干 ※

1-5 遺構土層説明カード



1-6 航空写真・ビデオ利用による平面図作成



1-7 混入物の量の基準 (新版標土色帖を一部改編)

第1図 調査の方法

## II 調査の方法

初に住居址の中心に主軸方向（通常南北方向）に幅50cmのサブトレンチを設定し、土層堆積状態及び床面・壁面を確認する。次に平面上16の区に分割し、サブトレンチの土層観察により大雑把に分層された層ごとに遺物を取り上げる。なお、明確に分層できない場合は20cm程度で人為層を設定する。また、最下層・床直遺物について原位置に残し、写真撮影を行って記録する。そして、遺物出土状況カードに分層単位及び出土量を記録する（第1図-4）。16分割の各区の呼称は、北西隅から1区、2区、3区、で、南東隅が16区となる（第1図-3）。例えば、J-6住11区3層というように遺物の出土位置は記録される。また、住居址カードを1軒1軒住居址ごとに現場で作成し、分層状況と遺物出土状態について大雑把に把握できるようにした。

平成2年度の場合、最下層遺物については遺物分布図を作成した。これは従来からの過渡的段階であり、複数の調査方法の併用は作業工程が煩雑になることと、その後のデータエラーを生じるの原因となることが判明し、かえって精度が低下してしまったため、平成3年度以降は下層の分布図も作成しないことにした。

【土層転写法】 土層断面図を迅速に作成する方法である。ロールのビニール（2m×50m×0.1mm）を用い、直接土層断面に貼り付けて、マジックインキにより原寸大で転写して断面図を作成する（第1図-2）。その後、長焦点法により写真撮影し、必要な縮尺の図面を作成する。短時間で作業が可能であり、精度も高く非常に有効な方法である。なお、遺構の下端を正確に図化するために、地山に切れ込みを入れる方法を用いる。また、集石土坑や竈のように石を伴う遺構の場合は、大形真弧（140cm×75cm）を併用した。この方法の採用により、土層説明は図中に記載せず、カードに記載することとした（第1図-5）。記載には客観性を保つため、平成3年度以降は色調・混入物の量は『標準土色帖』に準拠するようにした（第1図-7）。この方法は集石土坑など煩雑な平面図の作成にも有効である。

【航空写真・ビデオ利用による平面図作成法】（第1図-6） この方法は遺構平面図を簡易に作成する方法である。最初は航空写真を大きく引き伸ばし、それを製図用フィルムにトレースする方法である。この方法では、写真撮影の際にグリッド・セクションポイント等に対空標識を設置し、垂直画像を確認するため、2mポールを随所に垂直に立てて写真精度の確認を行った。写真は高高度から広範囲を撮影したものと、個々の遺構を低高度から撮影したものを使用した。これらの写真はデジタルコピー機（リコー IMAGIO-320・420P）により部分ごとに歪を補正し、これをもとに現場で個々の遺構を確認しつつ、製図用フィルムにトレースする方法である。平面図の縮尺は1/40を基本とした。

しかし、写真を利用した方法では写真撮影から図化するまでの時間がかかることと、写真の縁辺部が歪むことから、改善する余地があることが判明した。そこで、平成3年度からは航空写真に変えて航空ビデオの画像を利用する方法を採用した。この方法は通常的全景写真撮影を行った

後に、遺構の上端・下端に水性ペイントによりマーキングを行い、図化箇所が明確になるように処理をする。特に白色がビデオでは発色が良い。垂直画像を確認するため、写真同様随所にポールを立てた。そして、同じ場所を2度通過するように撮影コースを設定し、気球によりビデオ撮影を行う。こうして撮影されたビデオ画像から図化に最適の静止画像を選択し、ビデオプリンターにより一定の間隔ごとに印画し原版を作成する。次に、原版をデジタルコピー機により歪の補正と縮尺合わせを行い、第2原版を作成する。これをもとに現場で個々の遺構を確認しつつ、製図用フィルムに色鉛筆でトレースする。レベリングは通常の方法で実施する。

この航空ビデオ利用の方法の長所は考古学的図面に要求される精度は維持できること、精度の確認が容易に行えること、図化作業が短期間で実施できること、測定の助手を必要としないこと、経費が安価であることなどがあり、非常に有効な方法である。特に、この方法は遺構が高密度に集中する部分について有効であることが確認されたので、その後に調査を行った中野谷松原遺跡では、すべてこの方法により平面図化を実施している。

## 2 遺物整理の方法

### (1) 遺物整理の方針

本事業は土地改良事業に伴う調査であり、期間・経費とも限られた範囲内で実施されたため、特別重要な地点については精緻な調査を行ったが、それ以外については調査精度があまり高くない。したがって、両者は遺物整理の方法も異なるが、原則としては、次のような要領で整理を行うことにした。第1段階として遺構と遺物を別々に扱い、それぞれの諸特徴が明らかになるように整理を行った。第2段階として遺構と遺物を総合化し、相互補完的整理を行う手順をとった。そして、最終的には遺跡相互の関係を総合的に扱い、地域全体の中での遺跡群の、時空的在り方を掌握し、歴史的・社会的変化の様相を解明することを整理及び報告書作成の方針とした。この分析・記載の方法は、原則として『大下原・吉田原遺跡』（大工原他 1993）に準拠して行った。本書においても、この方法を踏襲し、さらに発展させることを心掛けた。個々の分析の具体的根拠については、ここでは詳しく説明しないので、前掲書を参照していただきたい。

また、それぞれの遺跡の整理方針としては、精緻な調査が実施できた金井谷戸遺跡と天神原遺跡A区については、個々の遺構・遺物についての詳細な記録を整理・分析し、遺構と遺物の有機的関係が把握できるように配慮して、時間と労力を費やして整理を行うことにした。

縄文時代前期の集落遺跡である下塚田遺跡・中原遺跡・東畑遺跡・細田遺跡などでは調査精度に高低があるため、なるべく個別的内容には踏み込むことを避け、各遺跡の時間的・空間的な傾向を把握することに主眼を置いた。



## II 調査の方法

「牧」に関連する下塚田遺跡・中原遺跡・天神原遺跡・細田遺跡などでは、区域が広大であり、「溝」や関連する遺構が複数の遺跡に跨って点在する場合が多いので、それらの関係が明確になるように考慮しつつ、整理を実施した。「溝」では遺物はほとんどが流れ込みであり、遺構に伴うものが少ないので、充分吟味して共伴する遺物を抽出することにした。また、最終的に「牧」の全体景観が明確になるように、周辺遺跡との関係についても検討を行った。

### (2) 遺構の記載の方法

〔住居址の記載方法〕 住居址は平面図・土層断面図・遺物分布図・写真・調査時の所見を検討し、住居址の状態を把握することにした。重複がある場合は、主として土層断面図及び、土器群の分布状況を調べ新旧関係を判断した。支柱穴は位置及び深さにより配列を検討した。

時期決定は炉体土器・床直遺物・最下層の遺物を根拠とした。また、最終的には住居形態と重複関係により確認された時期変遷との整合性を確認した。

本書には各住居址の平面図・遺物分布図・土層断面図・炉址（竈）土層断面図・遺構断面図・土層説明表・住居址観察表を掲載した。その後、住居址は形態（平面形及び竪穴の深さ）・壁溝・支柱穴の配列・炉址の形態から分類を行ない、各時期の住居形態を明らかとすることにした。

〔掘立柱建物址等の記載方法〕 掘立柱建物址は少なくとも3本以上のピットが2列平行に存在するものとし、平面図・遺構断面図を掲載した。また、縄文時代の円形柱穴列及び方形柱穴列も平面図・遺構断面図・土層断面図を掲載した。

〔土坑の記載方法〕 土坑は「土壇」と「土坑」と表記する場合がありますが、前者は墓を推定し、後者は特定の機能を示さないで用いている。ここでは墓と推定される例が少ないため、基本的には「土坑」で統一して表記した。ただし、「陥穴」と推定される例については、個々に「陥穴」の呼称を用いた。そして、原則として平面図・土層断面図・遺構断面図・土層説明表を掲載した。

〔集石・集石土坑の記載方法〕 集石は本来掘り込みを有していた可能性もあるので、集石土坑と一緒に扱うことにした。集石土坑は礫の重量・欠損率・被熱率・石材を調べ、機能・性格について明かにすることを主眼とした。ただし、本書には平面図・遺構断面図のみを掲載した。

〔配石墓の分析・記載方法〕 配石墓は埋葬方法を明かにするため、分層8分割法により精査を行った。配石墓では一度に埋め戻されていることが多いと判断されるため、肉眼観察で分層できない場合は人為層で分層して遺物を取り上げた。また、微細遺物・骨片等を回収する目的で、埋土をフルイにかけた。しかし、骨片等有機物はほとんど存在しなかった。そこで、装身具・副葬品の出土位置から頭位を推定することにし、遺物出土位置の分布図を作成した。

また、埋土中の植物珪酸体分析を行い、埋葬方法の推定を行った。調査地が調査直前まで牛の糞尿置き場として利用されており、動物脂肪酸が土壌中に染み込んでいることから動物脂肪酸分

析は実施しなかった。

本書にはこうした分析結果を含め、記録と調査所見をできるだけ掲載するよう心掛けた。平面図は蓋石の状態、副室を確認した状態、底面まで完掘した状態、掘り方の状態を掲載した。また、S-4号、S-6号は晩期に再利用されているため、その状態も掲載した。側面図・土層断面図・遺構断面図も併せて掲載した。また、被熱礫が多用されていることから、被熱礫分布図も掲載することにした。遺物分布図は8分割法により石器と土器を層ごとに掲載した。

〔溝の記載方法〕 溝は本遺跡群では重要な意味を持つ遺構であり、奈良・平安時代の「牧」に付随すると考えられる。この溝は規模が大きく、長大であり、数遺跡に及んでいる。このため、溝の存在する部分と周囲の地形を併せて読み取ることができるよう配慮して平面図の作成を行った。ただし、規模が大きいため、小縮尺の平面図となっている。また、土橋・柵列等溝に付随する施設が存在する箇所については、適宜大縮尺の平面図・土層断面図を掲載した。土層断面図は非常に多いが、なるべく掲載するようにした。

遺物分布図は特別作成しなかった。これは、溝に伴う遺物が非常に少ないことによる。

〔水田址の記載方法〕 水田址については、通常の発掘調査は実施せず、試掘坑を調査対象区域全体をカバーできるように設置し、プラントオパール分析を実施した地点を全体図に図示することにした。

### (3) 遺物の記載の方法

〔遺物出土状態の分析・記載方法〕 住居址・配石墓・遺物包含層の調査では、分層16分割法や2m単位の細分グリッドごとに取り上げを行っているため、それができるだけ有効活用できるように考慮して分析・記載を行うことにした。

土器・石器・礫はそれぞれ別図とし、各層各区ごとに分布図を作成した。そして、遺物の一括性・共伴関係の有無・頻度を確認した。また、遺構の埋没過程と遺物廃棄の関係及び、廃棄の方向も同時に確認した。なお、遺物出土量の多寡の把握は重量と個数を併せて計測することによって行い、それを大別レベルで掲載した。

ただし、必要に応じ、一部の遺跡・遺構についてはドットマップを掲載することとした。

〔土器の分析・記載の方法〕 土器群については、型式学的検討を行い、大別・細別を行った。分類の根拠は、現段階での各時代の土器群の研究成果を反映したものになるよう配慮した。また、クロスチェックの機能を果たすため、出土状態の分析を重視した。

住居址では廃棄過程と一括性のある程度把握できるように、各層ごとに特徴的な資料を選択し、掲載した。なお、個々の資料の出土位置が確認できるように、図中に出土位置を明記した。なお、その他の遺構においても、この掲載方法は同じである。また、グリッド・包含層遺物については、

## II 調査の方法

時期ごとに掲載した。そして、掲載した資料については、観察表を作成した。

なお、土器の実測は完形及びそれに近いものは長焦点法により撮影した写真（小川忠博撮影）を用いて実施した。また、それ以外のものについては、実測台を用いる通常の実測方法で行った。破片等は拓本を用い、真弧により断面図を作成する通常の方法によった。

また、縄文時代の土器群については、遺跡により時期が異なるため、以下に遺跡ごとの分類方法を示す。

**中原遺跡・東畑遺跡出土の縄文時代前期の土器群の分類** 中原遺跡で出土した縄文時代前期の土器資料は多く、住居跡から関山期の良好な資料が出土している。また、遺構外出土の土器も少数ではあるが、安中市中野谷地域における状況を知る上で重用と思われる当該期の土器について掲載した。

土器は、出土遺構ごとにまとめ、下記の基準で分類を行い掲載した。また、出土土器について、型式・特徴など各々について記述せず、分類記号によって代用した。下記分類における「群」は、時間軸として捉え型式的变化を含む単位とした。次に「類」は土器型式が器形や文様構成・モチーフ・施文方法などの諸属性によって設定されていることから、特に文様構成によって分類したものを、さらにいくつかの小項目によって分類し、これらの集合とした。細かい時間的推移については、別項を設け記載する。

### I 群土器 前期前半 羽状縄文系土器

#### 1 類 関山式

##### A 口縁部文様帯に貼付が加わる

- 1 有刻平行沈線 菱形・山形・蕨手状の幾何学的文様を施文
- 2 無刻平行沈線 菱形・山形・蕨手状の幾何学的文様を施文
- 3 半截竹管による平行沈線 コンパス文様を施文

##### B 口縁部文様帯に貼付を持たない

- 1 有刻平行沈線 菱形・山形・蕨手状の幾何学的文様を施文
- 2 無刻平行沈線 菱形・山形・蕨手状の幾何学的文様を施文
- 3 半截竹管による平行沈線 コンパス文様を施文

##### C 縄文施文

#### 2 類 神ノ木式

##### A 櫛歯状工具による条線 口唇に直行するように施文

##### B 束の縄文

#### 3 類 有尾式

##### A 櫛状工具による口縁部文様帯施文土器

- 1 列点刺突 口唇に直行する施文
- 2 列点刺突 菱形に施文
- 3 列点刺突 横位に施文

## B 櫛状工具・半截竹管による平行沈線を併用

- 1 菱形に施文
- 2 横位に施文

## C 半截竹管による爪形文

- 1 菱形に施文
- 2 横位に施文

## D 半截竹管による平行沈線

- 1 菱形に施文
- 2 横位に施文

## E 縄文施文の土器

## II群土器 中期後半

## 1類 加曾利EⅣ式

A 口縁部に微隆起線を持ち胴部に磨り消し縄文帯を持つ

B 縄文施文

(関根慎二)

**天神原遺跡出土の縄文土器の分類** 天神原遺跡では、縄文時代前期から晩期にかけての縄文土器が出土しているが、前期と後期前半の土器群は住居址等の遺構と深く関係し、後・晩期の土器群は配石墓や祭祀遺構等の遺構と深く関係している。したがって、縄文土器の分類については、これらの遺構との関係を考慮し、前期、中期、後・晩期の各時期に分けて分類を行った。遺構出土の土器については遺構ごとに掲載し、グリッド出土の土器については時期ごとに掲載した。なお、どの時期の土器も多量出土しているが、ここでは、本遺跡で新たに位置付けが明確となった晩期「天神原式」土器群に多くの紙面を割き、その他の時期の土器については紙面の都合上、多くのものを割愛せざるを得なかった。したがって、図示した時期ごとの土器の割合は、本遺跡で出土した土器量の割合を示すものではない。出土量は、遺物分布図を参照されたい。(林 克彦)

**前期の土器群の分類** 縄文時代前期の土器は数量は多くないが、住居址から良好な資料が出土している。また、グリッド出土の土器にも少数ではあるが、中野谷地区における状況を知る上で重要と思われる当該期の土器について掲載した。

土器は、出土遺構ごとにまとめ、下記の基準で分類を行い掲載した。また、出土土器について、型式・特徴など各々について記述せず、分類記号によって代用した。下記分類における「群」は、時間軸として捉え型式的变化を含む単位とした。次に、「類」は土器型式が器形や文様構成・モチー

## II 調査の方法

フ・施文方法などの諸属性によって設定されていることから、特に文様構成によって分類したものを、さらにいくつかの小項目によって分類し、これらの集合とした。細かい時間的推移については、別項を設け記載する。

### I 群土器 前期前半 羽状縄文系土器

#### 1 類 有尾式

A 櫛状工具による口縁部文様帯施文土器 刺突・平行沈線を併用する。

B 縄文施文の土器

### II 群土器 前期後半 竹管文系土器及びそれに平行する周辺地域の土器

#### 1 類 諸磯 a 式

A 細い半截竹管による平行沈線 波状施文

B 細い半截竹管による爪形文 横位に施文

C 縄文施文の土器

#### 2 類 諸磯 b 式

A 粘土紐による浮線 横位・弧状・渦巻状に施文

B 半截竹管による平行沈線 横位・弧状・渦巻状に施文

C 縄文施文の土器

#### 3 類 諸磯 c 式

A 半截竹管による平行沈線 平行沈線を連続して施文、または数本束ねた集合沈線により縦位に文様を施文

B 集合沈線上に棒状・ボタン状・耳たぶ状の粘土紐が貼付

#### 4 類 大木 5 式

A 細い粘土紐による鋸歯状の施文 (関根慎二)

**中期の土器群の分類** 天神原遺跡で出土した縄文時代中期の土器の量は、他の時期の土器の量と比べて少なく、また本遺跡の遺構と直接関係するものがほとんどないことから、細かい分類は行わず、従来の型式分類によるまとまりを「群」とし、それを文様によっていくつかの「類」に分類した。尚、量的に少ない加曾利 E 3 式土器は、それに続く加曾利 E 4 式土器と共に、一つの群として分類した。

### 中期 I 群土器 五領ヶ台式に比定されるもの

1 類 細い粘土紐によって格子状の文様が施されたもの

2 類 平行沈線を集合化した文様が施されたもの

3 類 縄文を地文とし、数条の沈線が施文されたもの

### 中期 II 群土器 阿玉台式に比定されるもの

1 類 指頭圧痕が横方向に連続的に施され、雲母を多量含むもの

2 類 横方向の平行沈線が施され、沈線の間縦方向の刻みが施され、雲母を多量含むもの

中期Ⅲ群土器 加曾利 E 3 式・加曾利 E 4 式に比定されるもの

1 類 縄文帯と無文帯が太い沈線で区画され、太い隆起を持つもの

2 類 縦方向に施された縦長の波状線によって、縄文帯と無文帯が区画されたもの

3 類 縦方向の多数の条線が施されたもの

4 類 櫛歯状工具によって器面全体に沈線が施されたもの：尚、この類の土器は縄文時代後期の堀之内式の段階まで見られるため、時期的には後期まで降る可能性がある。

5 類 文様帯の構成は 1 類に似るが、縄文の施される部分に羽状の沈線が加えられるもの：この類は曾利式に比定される。 (林 克彦)

後・晩期の土器群の分類 縄文時代後期以降には漸次土器の器種分化が進行し、多数の器種が存在するようになる。そして器面に施される文様も、器種ごとに系統的な変遷を示すようになる。また、他地域の土器の系統を引くものが明瞭に存在する。そのため、縄文時代後・晩期の土器を分類する際には、「群」にいくつかの地域的な様相を持つ型式をまとめて、時間的に多少幅のあるものとし、その中で器種の分類を文様の分類に優先して行った。

後期Ⅰ群土器 称名寺式に比定されるもの（三十稲葉式に類似する文様をもつ土器群を含む）

1 類 口縁が小波状を呈し、底部から口縁部に直線的に立ち上がる深鉢形土器

2 類 口縁が平縁あるいは小波状を呈し、胴部でくびれる深鉢形土器：口縁の一部が大きな突起状となるものがある。

A 縄文を施すもので、口縁波頂部から縦方向の隆帯が付されたもの

B 縄文を施すもので、縦方向の隆帯が付かないもの

C 縄文を施すもので、口縁波頂部下に楕円形の粘土帯が付されるもの

D 縄文を施さず、列点を施したもの

E 縄文を施さず、口縁波頂部から縦方向の隆帯が付されたもの

F 縄文を施さず、縦方向の隆帯が付かないもの

G 口縁の一部が大きな突起状となるもの：大きな把手状になるものと、注口の口のように筒状に作り出されるものがある。

3 類 器形は 2 類に似るが、器壁が薄く作られていて、口縁部が内側に曲げられた深鉢形土器

4 類 胴部から口縁部に向かって内湾し、球状の胴部を持つ鉢・深鉢形あるいは広口壺形土器

A 口縁部が外側へ屈曲しないもの

B 口縁部が外側へ屈曲するもの

5 類 底部から口縁部に向かって直線的に立ち上がる深鉢形土器

## II 調査の方法

- 6類 器形は底部から口縁部に向かって直線的に立ち上がる深鉢形土器で、砲弾形を呈するが、口縁部よりやや下がったところに一条の隆帯がめぐらされるもの
- 7類 器形は4類に似るが、口縁部が若干内側に傾く深鉢形土器で、口縁部よりやや下がったところに一条の隆帯がめぐらされ、その上を指頭などで連続的に圧痕を加えたもの。
- 8類 球状の胴部を持ち、口縁部が外側に屈曲する深鉢形土器：器形は4類に似る。口縁部屈曲下のほぼ全面に、刺突あるいは列点が施されている。

### 後期II群土器 堀之内式に比定されるもの

- 1類 口縁が平縁あるいは小波状を呈し、胴部で緩やかにくびれる深鉢形土器：後期I群2類土器に器形が似るが、本類は口縁部に幅の狭い文様帯を有する点で異なる。
- 2類 口縁が平縁あるいは小波状を呈し、胴部で外側へ強く屈曲する深鉢形土器
- A 屈曲部が器高中位にあるもの
- B 屈曲部が器高中位にあり、波状部が橋状把手となるもの
- C 屈曲部が口縁部側に寄っているもの
- 3類 口縁が大波状となり、胴部でくびれる深鉢形土器
- 4類 口縁が平縁あるいは小波状口縁となり、底部から口縁部へ直線的に立ち上がる薄手でやや小形の深鉢形土器
- A 口縁部に刺突を伴った細い隆帯がめぐるもの：隆帯は一条のものと二条のものがある。
- B 口縁部に隆帯がめぐらないもの
- 5類 口縁は平縁あるいは小波状を呈し、胴部で内側に強く内湾する土器 鉢形あるいは広口壺形の土器となるであろう。

### 後期III群土器 加曾利B式に比定されるもの

- 1類 器形はII群4類に類似するが、内側に数条の沈線が巡る深鉢形土器 或いは堀之内式か
- 2類 底部から口縁部に向かって直線的に立ち上がる鉢形土器：口縁部は内側へ屈曲し、土器表面は無文となるが内側には数条の幅の狭い縄文帯が施される。
- 3類 平縁で口縁部が直線的に立ち上がるか、あるいは若干内湾する鉢形あるいは深鉢形土器
- 4類 口縁が平縁あるいは小波状を呈し、底部から口縁部へ直線的に立ち上がる深鉢形土器
- 5類 口縁が数単位（恐らくほとんどのものが三単位）の小波状口縁となり、胴部に緩い屈曲を持ち、屈曲部以下が丸みを帯びた深鉢形土器
- A 横位の数条の縄文帯が施されたもの
- B 口縁の波状部が大きくなり、沈線や貫通孔等で飾られたもの：横位の弧状沈線によって文様が描かれる。
- C B類に似るが、文様が弧状の沈線によるものではなく、直線的な斜めの沈線によって菱



形構成をとるもの

- 6類 口縁が数単位（恐らく二単位のもの主）の小波状口縁となり、底部に近いところで緩くくびれる鉢形土器
- 7類 砲弾形の深鉢形土器
- 8類 平縁で頸部で緩やかに外反する深鉢形土器
- 9類 平縁で頸部から口縁部に向かって内湾する浅鉢あるいは鉢形土器：3類土器に似るが、口縁部が3類に比べ内湾する事や、やや大型になる点異なる。
- A 口縁部が文帯となり、頸部以下に5B類の頸胴部に施される文様に類似する文様が施されるもの：口縁部の内湾の度合いは緩やかである。
- B 口縁部に下向きの円弧（連弧文）、ステッキ状の文様等が沈線で描かれ、その沈線と口縁端部の間に縄文が施されるもの
- C 口縁部に幅の狭い一条の縄文帯がめぐるもの
- 10類 口縁が小波状を呈する砲弾形の深鉢形土器
- 11類 胴部が算盤玉状に張り、口縁部が外側に屈曲する深鉢形土器
- A 口頸部文様帯に下向きの連弧文が施されるもので、円弧の連結部には円形の窪みが施される。
- B 11A類で円形の窪みが施される部分に、貼瘤が施されるもの
- 12類 やや大きめの波状口縁となり、胴部でくびれる深鉢形土器
- 13類 器形は12類に似るが、平縁となる深鉢形土器
- A 文様構成が12類とほぼ同じであるもの
- B 文様構成が12類と異なり、口縁部に無文帯があり、頸部に斜状線が施される文様帯がくるもの
- 14類 平縁で砲弾形の深鉢形土器：6類に似るが、施される文様が斜条線主体となる。
- 15類 粗製土器の範疇にはいるもの：器形は砲弾形のもの、胴部あるいは頸部で若干くびれるものがある。
- A 深めの沈線によって格子状の文様が施されるもの
- B 右上がりの沈線群と右下がりの沈線群が、横方向に鋸歯状に施されるもの
- C 数本の条線の束が縦長の（）状あるいは縦長の8字状に施されるもの
- D 指頭圧痕の施された隆帯が一条あるいは二条、口・頸部にめぐらされるもの
- E 口縁が折り返し口縁となる粗大な深鉢形土器 口縁の折り返し部には指頭による圧痕が施される。
- 16類 注口土器：器形は胴部下半の形状によって二分類される。

## II 調査の方法

A 胴部が球状で内湾しながら底部に至るもの

B 胴部から外反しながら底部に至るもの

### 17類 壺形土器

A 胴部が球状になるもの

B 器形がフラスコ状になるもの：渦巻状の磨消縄文が施される。

C 胴部が張り、口縁部が外傾する広口壺形土器：無文で調整は粗い。この類は後期Ⅳ群土器に含まれる可能性がある。

### 18類 吊手土器

19類 台付土器 台部のみ確認された。この類は後期Ⅳ群土器に含まれる可能性がある。

20類 無文の浅鉢形土器：この類は後期Ⅳ群土器に含まれる可能性がある。

A 丸底の浅鉢形土器

B 平面形、側面形とも方形となる浅鉢形土器

後期Ⅳ群土器 加曾利B式の終末から後期終末の時期のものと思われるもの

1類 口縁部に一条ないし二条の刺突帯を持つ土器 鉢形土器と、恐らく波状口縁深鉢になると思われる土器が存在する。

2類 大波状口縁となり、口縁部に向かって内湾する鉢あるいは深鉢形土器

3類 頸部あるいは口縁部で内傾する鉢形土器

A 貼瘤あるいは隆帯を持つもの

B 貼瘤を持たず縄文帯のみが施されるもの

4類 大波状口縁となり、胴部でくびれる深鉢形土器

5類 平縁の深鉢形土器：口唇部が面取りされたものが多い。器表のほぼ全面に縄文が施されるものと、縄文が施されていたであろう部分の一部を削り、残された縄文部分を浮き上がらせているものがある。

後期Ⅴ群土器 高井東式に比定されるもの

1類 大波状口縁となり、胴部でくびれる深鉢形土器 口縁部に、口縁に沿って一本から数本の沈線あるいは凹線が加えられる幅の狭い文様帯を有する。

A 波状部に指頭圧痕をともなった縦長の隆帯が張り付けられるもの

B 口縁部が折り返し状に作られているもので、口縁部文様帯の部分が平面的でないもの

C 口縁部が折り返し状に作られているもので、口縁部文様帯の部分が平面的なもの

D 口縁部が折り返し状にならないもの

2類 平縁で、口縁部に口縁に沿って数本の沈線または凹線をめぐらす文様帯を持ち、この文様帯の直下でくの字に屈曲あるいは内湾し、胴部でくびれる深鉢形土器

- A 口縁部文様帯の部分が平面的に作られているもの
- B 口縁部文様帯の部分が平面的に作られていないもの

3類 平縁で、口縁部が直線的に立ち上がる深鉢形土器

- A 口縁が折り返し状になるもの
- B 口縁が折り返し状にならないもの

4類 平縁で、口縁部に口縁に沿って数本の沈線または凹線をめぐらす文様帯を持ち、この文様帯の直下でくの字に屈曲あるいは内湾する鉢ないし浅鉢形土器：口縁部文様帯の部分が平面的に作られているものと、そうでないものがある。

5類 台付浅鉢形土器：無文：口縁端部は内側に肥厚される。

6類 平縁で、口縁部が直立し、鍋状を呈する鉢あるいは浅鉢形土器

後期Ⅵ群土器 曾谷式、安行1式、安行2式に比定されるもの

1類 口縁が大波状を呈し、胴部でくびれる深鉢形土器

- A 口縁部に沿って刺突帯を持つもの
- B 隆起帯縄文を持つもの：波頂部下、波底部下には貼瘤が施される。
- C 刻み目が施された隆起帯を持つもの：豚鼻状突起が付けられる。

2類 平縁で、胴部がくびれる深鉢形土器

- A 口縁部に一条の縄文帯を有し、その直下で屈曲するもの
- B 口縁部に一条の刺突帯を持つもの
- C 隆起帯縄文を持つもの：貼瘤が施される。

3類 鉢あるいは浅鉢形土器：胴部に刻み目が施された隆起帯を持つ。

4類 紐線文が付く深鉢形土器：口縁直下に刻みを施した隆帯を持つ。

後期Ⅶ群土器 新地式に比定されるもの（北陸地方の後期終末の型式を含む）

1類 平縁で、胴部が緩くくびれる深鉢形土器

2類 平縁で、口縁が外傾する鉢形土器

3類 注口土器

- A 口縁は恐らく大波状となるもの：頸部は細く、その直下でくびれて球状の胴部にいたる。
- B 体部が環状を呈するもの

4類 平縁で、頸部でくびれる深鉢形土器

晩期Ⅰ群土器 安行3a式あるいは大洞B式に比定されるもの

1類 大波状の口縁部を持つ深鉢形土器：胴部でくびれるものと、くびれないものがある。

2類 平縁あるいは小波状口縁で、頸胴部でくの字に屈曲する鉢形土器：屈曲部には連続的な突起が施される。

## II 調査の方法

3類 紐線文が施される平縁砲弾形の深鉢形土器

4類 胴部から口縁部へ、直線的あるいはやや内湾しながら立ち上がる深鉢形土器

A 口縁が小波状を呈するもの

B 口縁が平縁となるもの

5類 頸胴部で屈曲する深鉢形土器

A 口縁が小波状を呈するもので、胴部に屈曲部を持つもの

B 口縁が小波状を呈するもので、頸部に屈曲部を持つもの

C 口縁が平縁を呈し、頸部に屈曲部を持つもの

6類 注口土器

A 口縁が平縁あるいは小波状を呈し、胴部に内傾する屈曲部を有するもの：口縁部は折り返し状に厚く作られ、そこに玉抱き三叉文等の文様が彫刻的に施される。

B 平縁で、頸部に外傾する屈曲部を有するもの

7類 壺形土器：頸部で強くくびれ、球状の胴部を持つ。

8類 鉢あるいは浅鉢形土器

9類 台付鉢形土器

晩期II群土器 安行 3b 式・3c 式に平行する在地の土器（天神原式）

1類 大波状口縁を呈し、頸胴部でくびれる、口縁外傾する深鉢形土器

A 地文に縄文を持つもの

B 1 A類の縄文が施される部分に、縄文ではなく列点あるいは刺突を持つもの

C 地文が無文のもの：沈線によって文様を描くものと貼付・隆帯のみによって器面を飾るものがある。

2類 大波状口縁を呈し、頸胴部でくびれず、ほぼ真っ直ぐに立ち上がる深鉢形土器

A 地文に縄文を持つもの：口縁部文様帯は三角形構成をとるものが多い。

B 地文に列点あるいは刺突を持つもの：口縁部文様帯は菱形構成をとるものが多い。

C 地文が無文のもの：沈線によって文様を描くものと、貼付文のみのもものがある。

3類 口縁が平縁あるいは小波状を呈し、底部から直線的に立ち上がる深鉢形土器：地文に縄文を施すもの、刺突・列点を施すもの、無文のものがある。いずれも貼付を多用する。

4類 口縁が平縁あるいは小波状を呈し、頸部でくびれ口縁が外傾する深鉢形土器 地文に縄文を施すもの、刺突・列点を持つもの、無文のものがある。

5類 頸部でくびれる広口壺形土器

6類 台付鉢形土器：頸部に外傾する屈曲部を持つ。

7類 鉢あるいは浅鉢形土器

8類 器形不明のもの

9類 おそらく、この群に含まれるもの：鉢形土器と深鉢形土器がある。

晩期Ⅲ群土器 大洞B-C式・C1式に比定されるもの

- 1類 口縁が平縁で、底部からやや内湾しながら立ち上がる深鉢形土器
- 2類 口縁が平縁で、頸部でくびれ、口縁部が外傾する深鉢形土器
- 3類 口縁が平縁で、頸部でくびれ、口縁部が外傾する鉢あるいは浅鉢形土器
- 4類 口縁が平縁で、底部から内湾しながら立ち上がる鉢あるいは浅鉢形土器
- 5類 台付鉢形土器
- 6類 頸部でくびれ、口縁部が外傾する壺あるいは広口壺形土器
- 7類 口縁部までやや内湾しながら緩やかに立ち上がり、口縁端部で強く屈曲する壺形土器
- 8類 香炉形土器
- 9類 器形不明のもの

晩期Ⅳ群土器 中部・北陸地方の晩期縄文土器に系統が追えるもの

- 1類 口縁が平縁あるいは小波状を呈し、底部からやや内湾しながら立ち上がる（頸部で緩くくびれるものもある）深鉢形土器で、一条の列点（刺突）帯を持つもの
- 2類 口縁が波状あるいは平縁を呈し、底部から直線的に、あるいは内湾しながら立ち上がる深鉢形土器で、隆帯を施すもの
- 3類 口縁が平縁で、頸部でくびれ、そこに隆帯が一条めぐらされる壺あるいは広口壺形土器
- 4類 胴部で緩やかに内湾し、くびれ部を持たない深鉢形土器
- 5類 口縁が平縁あるいは小波状を呈し、頸部でくびれ、口縁部が外傾する深鉢形土器
- 6類 口縁が平縁で、頸部でくびれる壺あるいは広口壺形土器
- 7類 口縁が平縁の鉢あるいは浅鉢形土器 口唇部に文様を施したものがある。
- 8類 器形不明のもの

晩期Ⅴ群土器 無文粗製土器

- 1類 口縁が折り返し口縁となるか、粘土紐を何段か重ねたもので、口縁が内湾あるいは直立する深鉢形土器
  - A 口縁折り返し部あるいは粘土紐の部分（以下折り返し部とする）が無文のもの
  - B 折り返し部に二列の刺突を持つもの
- 2類 口縁部が内湾する深鉢形土器：口唇部にB突起を施すものや、刺突・刻みを施すものが多い。また輪積痕を残すものも多い。
- 3類 平縁の鉢あるいは浅鉢形土器
- 4類 頸部に屈曲を持つ深鉢形土器：口唇部に刺突・刻みを持つものが多い。



## II 調査の方法

### 晩期VI群土器 条痕文土器

(林 克彦)

**その他の土製品** 天神原遺跡からは、縄文時代前期から晩期までの種々の土製品が出土している。これらの中で比較的量が多いものは、土偶と耳飾りである。土偶は山形土偶、みみずく土偶、遮光器土偶等に分類される。また、耳飾りは白形、滑車形、大型漏斗状のもの等に分類が可能である。その他の土製品としては、ミニチュア土器や土版、手燭形土製品、スタンプ形土製品、舟形土製品、斜めの穿孔を持つ棒状の土製品、貝製腕輪に似た形状の土製品等が存在するが、各器種とも少量で細分することはできない。

(林 克彦)

#### [礫記載・分析の方法]

礫として分類したものは安山岩であり、それ以外は搬入石材として、石器に分類した。礫は重量・個数を計測し、被熱・欠損について観察を行った。住居址の場合、各区・各層ごとに個数・被熱のデータを掲載した。配石遺構・集石土坑の場合、各遺構別にグラフ化して諸属性が明確になるように図示した。

#### [石器記載・分析の方法]

石器は器種と石材との間に一定の結びつきがあることについては、これまでも指摘し、分類基準を提示している(大工原 1993)。この分類方法は従来行われていた分類に比べ、より系統的なものであるので、今回もこれに基づき分類を行った。

また、住居址での出土状態について、各区・各層ごとに器種及び石材を観察して石器出土状況をパソコンによりデータベース化した。土坑についても同様にデータベース化した。本書では紙面の関係から「種別」レベルでの出土状態を図示するにととめた。石器の場合、器種により大きさが著しく異なるので、重量により表示しても分布状態を客観的に示すことはできないので、重量による分布図は作成しなかった。

石器の掲載は遺跡単位で器種ごとに一括して掲載し、出土遺構・区・層位を明記した。これは石器を型式学的・機能形態学的に検討し、その情報を明かにすることを目的としている。また、前期と後・晩期というように明らかに時期が異なる石器群の場合、可能な限り分けて図示するようにした。この場合の時期決定はこれまでの石器研究の成果による。

石器群の分析では、器種・形態・使用痕・石材を重点として、各器種ごとに観察・検討を行った。器種ごとに観察表を作成し、法量・諸要素を記載し、データベース化した。また、遺構・ブロック・遺跡ごとの石器・石材組成は一括して掲載した。

石器製作時の剥片剥離技術は、従来型の技術形態学的実測図で器種・形態の典型例を図示し、それ以外のものについては機能形態学的実測図により使用痕・リダクションの状態等使用時の情報を盛り込んだ実測図とした。この意図は、縄文時代の石器分析では製作時の情報(技術形態学的情報)以上に、使用時の情報(機能形態学的情報)が重要と考えられるからである。

また、スクレイパー・石匙の場合、これまでの表現方法では区別ができない剥片剥離の方法を記号として付した。押圧剥離：P・直接打撃：D・使用による微細な連続剥離：Mである。また分類もこの大別により行った。これは従来看過されていたスクレイパーの技術基盤と製作者の社会的位置を明らかにすることを目的としている。

そして、石器の石材も識別できるよう、個々の図には石材の略称を付した。これは同一器種での形態差と石材の性質との関係を調べるためである。

なお、石器の実測には効率化を図るため、長焦点法により撮影した写真（小川忠博撮影）を原寸・1/2・1/3に引き伸ばしたものを用いた。また、それ以外の石器については従来の実測方法にデジタルコピー機を利用する方法を併用して図化を行った。

### (4) 遺構、遺物相互の分析・記載の方法

遺跡の景観を明かにするためには、遺構と遺物の関係を把握する必要がある。そこで、第1段階として個々に検討してきた遺構と遺物を関連付け、総合的に分析を行った。この総合化という概念は曖昧なものであり、方法を間違えると循環論に陥り易い。その点を十分認識しつつ、遺構・土器群・石器群それぞれの分析結果の一致点・矛盾点・関連性の有無を顕在化し、その理由の解釈を行った。

具体的には、遺構と土器群・石器群の時間的変遷の整合性を見出す作業が重要である。例えば、住居址では遺構分析によって抽出された住居形態と、土器群の変遷が整合性を確認する。また、石器群は時間的検討が可能な程研究が進展していないので、分類された形態と土器群との共伴関係を調べ、時間軸に組み込む作業が重要である。なお、個々の分析は多岐にわたっており、ここですべて説明することはできないので、本文中に方法と意図を述べている。

こうした分析を通して、個々の分析でははっきりしなかった部分を検討し、細分化された諸要素を再構成した。そして、最終的には集落の景観を復元し、遺跡群の歴史的・社会的意味について言及することにした。

## III 遺跡の地理的・歴史的環境

### 1 地理的環境

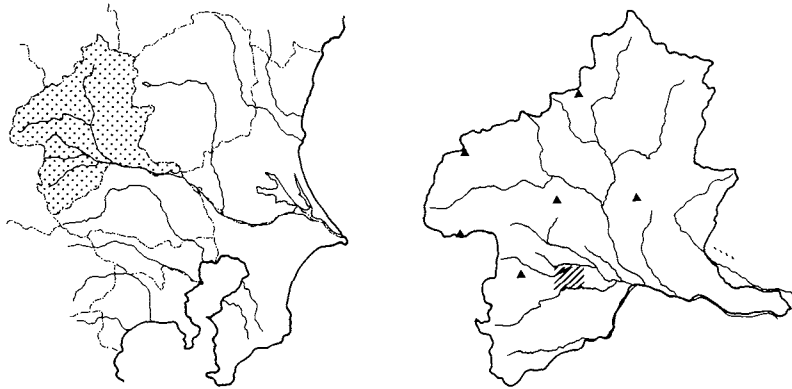
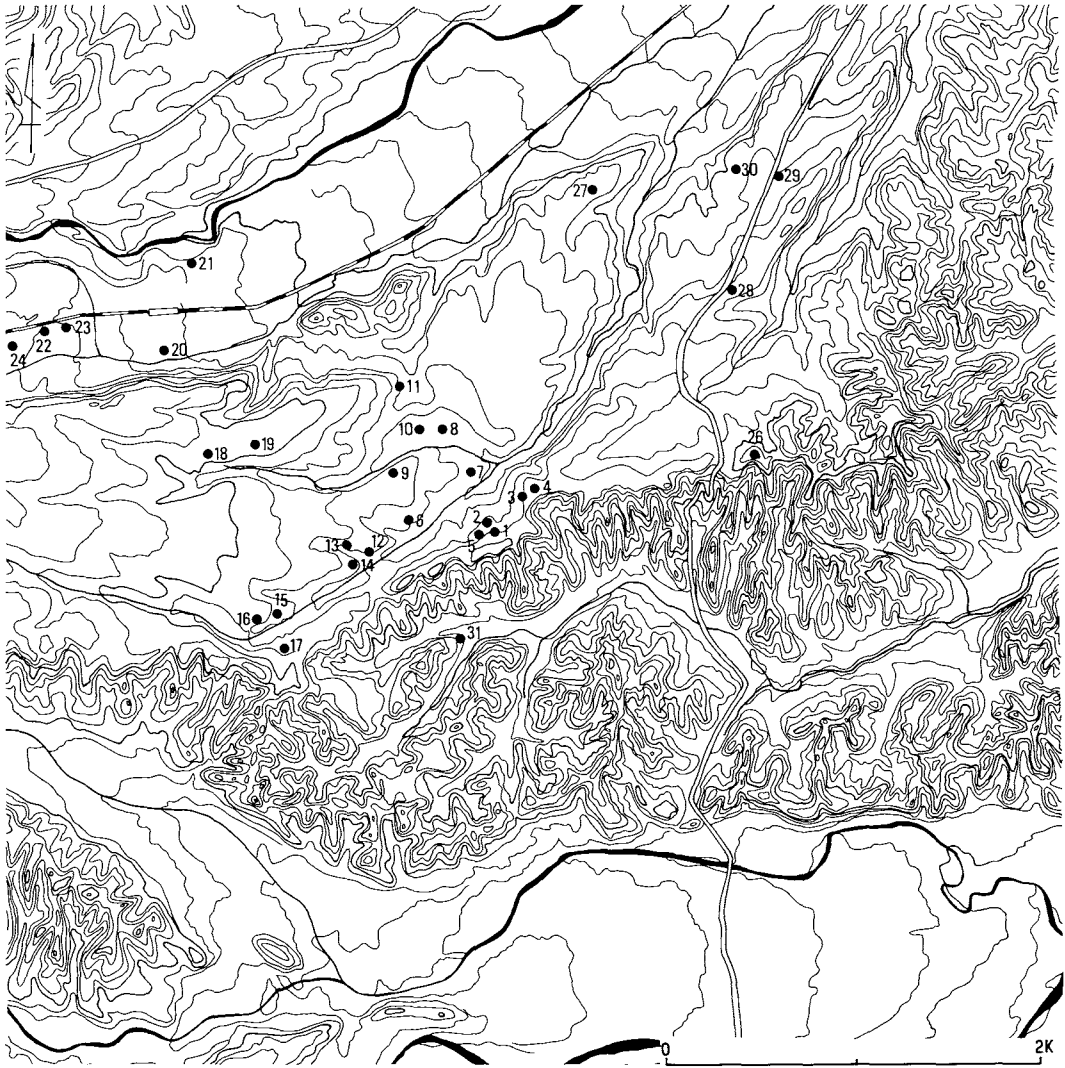
安中市は関東平野の周縁部である群馬県西部に位置する。碓氷峠付近に源を発する碓氷川が地域の中心を西から東へ流れる。沿岸には碓氷川、九十九川によって形成された河岸段丘が発達している。本遺跡群の存在する中野谷地区は安中市の南部、碓氷川河岸段丘の上位段丘面に存在する。この場所には、横野台地と呼称されるなだらかな台地が広範囲に広がる。台地の北側には碓氷川と支流の柳瀬川により形成された下位段丘面が広がり、台地との境には比高40m～50mの急峻な段丘崖線が存在する。一方、横野台地の南側には鑄川の支流星川が流れ、この河川によって浸食された急峻な峡谷が存在する。また、南西には妙義山に源を発する鑄川の支流高田川が流れ、この沖積低地との間にも急峻な段丘崖線が存在する。横野台地は中野谷地区で南北1.5kmほどの幅を有し、碓氷川流域では最も幅の広い地域である（第2図）。

次に、横野台地の地形について、さらに詳しく見て行くことにする。台地の西部、松井田町上人見地内に源を発する猫沢川は、台地南部を北東方向へ流れ、これに注ぎ込む多くの小河川により台地は浸食され、東西方向に細長い舌状台地が連続する地形を呈する。北部の通称天神川（間仁田地区を流れる天神川とは異なる）は最も規模が大きく、東流して台地の東部で猫沢川に合流する。また、猫沢川の南部は丘陵性の起伏のある地形が連続する。この馬の背状の台地が、ちょうど碓氷川と鑄川の分水嶺となる。

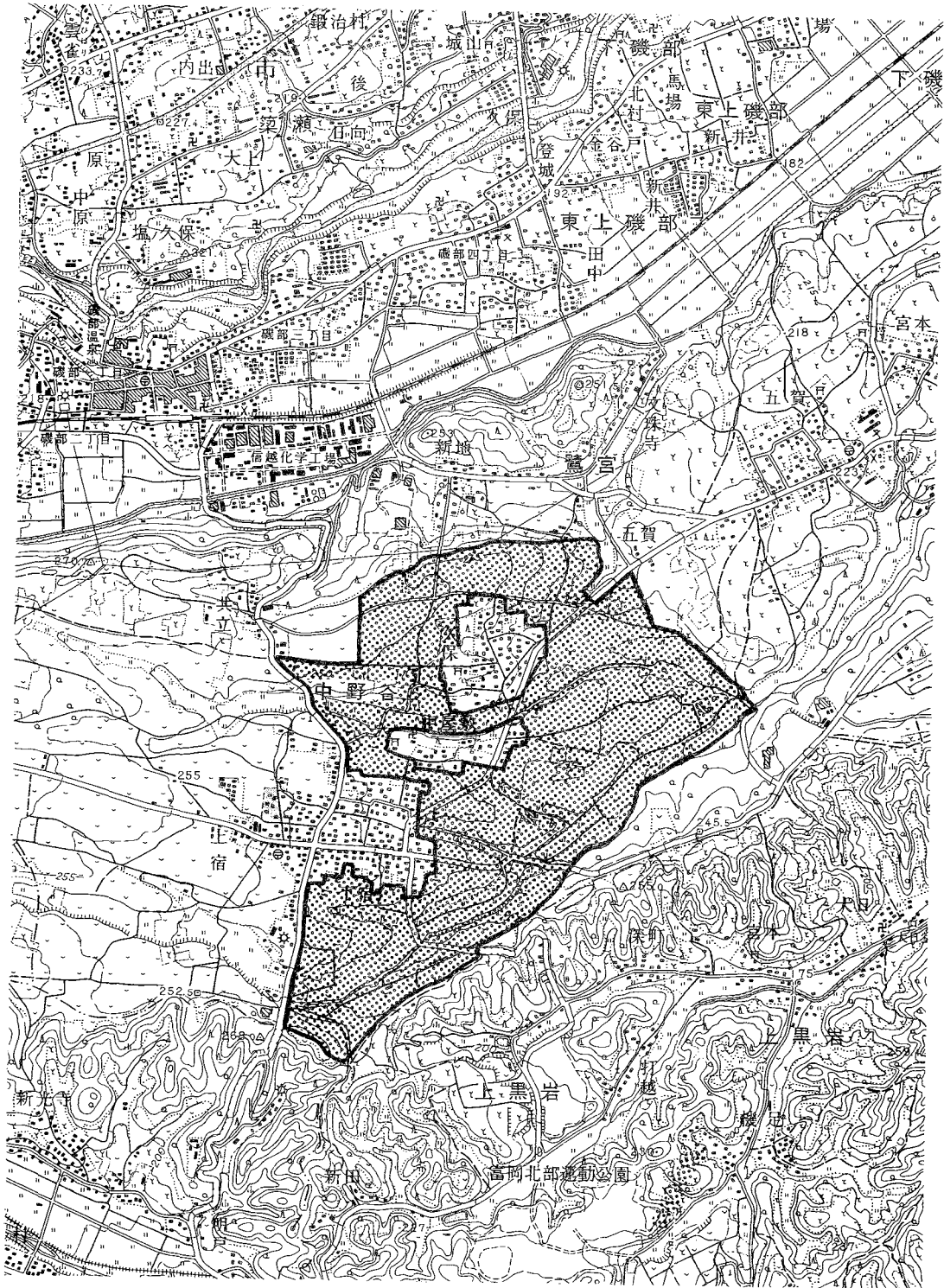
今回調査を実施したのは、この横野台地の東半分の地域に存在する中野谷地区遺跡群である（第3図）。多くの遺跡は猫沢川本流域に存在する。北岸台地上には東から落合原遺跡・中原遺跡・金井谷戸遺跡・下宿東遺跡・細田遺跡・和久田遺跡が点々と連なる。同様に南岸丘陵性台地上には東から注連引原Ⅱ遺跡・注連引原遺跡・大下原遺跡・下原遺跡・吉田原遺跡・東向原遺跡が連なる。また、猫沢川本流から支流へ少し入り込んだ場所には東畑遺跡が存在する。一方、天神川流域にも多くの遺跡が存在し、落合遺跡・下塚田遺跡・北下原遺跡・松原遺跡・天神原遺跡が存在する。

また、横野台地の北を流れる柳瀬川に注ぐ小河川に面した台地東斜面部には、北東・堤下遺跡が存在する。この遺跡の立地は本遺跡群の中では唯一異なっている。

台地の南縁辺には湧水により台地が浸食された小規模な沼状の地形が所々に存在する。この湧水点の周囲には、必ず遺跡が形成される。中原遺跡・細田遺跡・東畑遺跡・落合遺跡は、この湧水点の周囲に存在する。また、和久田遺跡にもこうした湧水点が存在していたと推定されるが、以前に行われた河川改修事業で消滅してしまっている。



第2図 中野谷地区遺跡群と周辺関連遺跡



第3図 遺跡群位置図 (1:25,000 松井田・富岡)



## 2 歴史的環境

本遺跡群及び周囲の遺跡の時期と概要は第2表のとおりである。本遺跡群の特徴は縄文時代前期の集落遺跡が多い点と、奈良・平安時代の「牧」に関連する遺跡が多い点である。そして、典型的な弥生時代以降の農業集落が非常に少ない点も大きな特徴である。

以下、本遺跡群の歴史的変遷について概観する。

**旧石器時代** この地区で最古の遺跡は松原遺跡である。ここからは後期旧石器時代前半期のナイフ形石器及び石核が AT 下位の黒色帯中から検出されている。実年代は2万数千年以前である。

また、注連引原Ⅱ遺跡では尖頭器文化期の槍先形尖頭器が1点、落合遺跡では細石刃文化期の荒屋型彫器が1点検出されている（大工原1988・1990）。両遺跡とも後期旧石器時代終末に相当する石器群である。

このように、旧石器時代の遺跡は、いずれも石器が単発的に検出された程度であり、明確な集落遺跡は確認されていない。また、AT 降灰以降のナイフ形石器文化の石器群は全く発見されていない。このような現象は西毛地域全体に認められるものである。

また、横野台地のすぐ南の谷底にあたる星川流域の上黒岩遺跡では、オオツノシカの化石が江戸時代に多数発見されている（中東1984）。その後の岡山大学の調査により、化石の含まれていた地層は、後期旧石器時代前半期に相当する AT 下位の泥炭層中と推定されている（稲田1989）。

**縄文時代** 草創期では下宿東遺跡と松原遺跡が確認されている。両遺跡とも小瀬ヶ沢型有舌尖頭器が表面採集されているのみで、集落の存在は確認されていない。早期では押型文段階の遺跡が確認されている。金井谷戸遺跡は集落遺跡であり、住居址と集石土坑が検出されている。また、中原遺跡でもこの段階の土坑が検出されている。

前期の遺跡は本地域では最も多く、多数の集落遺跡が存在する。最も古い段階のは注連引原遺跡であり、花積下層期の遺物が検出されているが、遺構は確認されていない。また、関山期の集落遺跡としては、中原・東畑・下宿東・吉田原・下塚田・北下原といった遺跡で住居址が検出されている。中原遺跡・東畑遺跡は比較的規模が大きい、それ以外の遺跡は住居址1～2軒程度の小規模な遺跡である。

黒浜期の集落遺跡としては、大下原・吉田原・落合原・東畑・細田・松原などの遺跡がある。このうち、大下原遺跡と松原遺跡は中央広場を有する大規模な集落である。それ以外は、いずれも小規模な集落である。また、諸磯 a・b 期の集落遺跡としては、大下原・下宿東・細田・北東堤下・松原・天神原などが存在する。このうち、大下原遺跡・松原遺跡は中央広場を有する大規模な環状集落であり、広範囲にわたる集団領域の拠点集落とみられる。また、諸磯 c・十三菩提

III 遺跡の地理的・歴史的環境

期の集落遺跡は大下原遺跡と松原遺跡のみであり、以前の時期に比べ大幅に減少する。そして、いずれの遺跡でも住居址は少数である。

	遺跡名	旧	縄文				弥生		古墳			奈良	平安
			草	早	前	中	後	晩	中	後	前		
1	大下原				◎	△		○					△
2	吉田原				◎								
3	注連引原				◎		◎						
4	注連引原II	*			○	*	△	◎					△
5	下原						○						
* 6	中原		△		◎		*		△			?	◎
7	落合原				△								
8	落合原	*			*	*	*	*			△	◎	◎
9	北下原				○							?	◎
10	下塚田				△	*					△	△	△
11	北東・堤下				◎	△					◎	○	
* 12	金井谷		◎		△								
* 13	東畑				◎	△							
14	下宿東	*			◎	△	○				◎	?	◎
15	細田				◎	△				△	○	?	◎
16	和久田				*	*				△		?	◎
17	東向原				*	*						?	?
* 18	天神原				◎	◎	◎	◎		○		◎	
19	中野谷松原	△	*		◎	◎	○				◎	?	?
20	田中田・久保田									◎			◎
21	塩ノ久保										◎		
22	西裏・西新井				△	△					◎	◎	◎
23	諏訪辺												◎
24	松井田工業団地					*		○		○		◎	◎
25	上人見							◎					
26	経塚古墳									◎			
27	荒神平・吹上				△	◎	○		◎	◎	○	◎	◎
28	道前久保				◎	◎	◎					◎	◎
29	蔵畑										◎	◎	
30	諏訪ノ木								◎		◎		
31	上黒岩	◎											

第2表 周辺遺跡一覧表

中期の遺跡は、前期に比べて大幅に減少する。中期中葉までは、特にこの傾向が顕著である。五領ヶ台期の遺跡としては大下原遺跡が存在する。この遺跡では土坑が数基検出されているが、住居址は確認されていない。阿玉台期では、北東堤下遺跡・天神原遺跡・松原遺跡において遺物が検出されているものの、遺構は確認されていない。このように、中葉段階までは少数の遺構が存在するのみで、住居址は全く検出されず、はっきりした集落遺跡は存在しない。しかし、加曾利E期になると、住居址のある集落遺跡が存在するようになる。東畑・下宿東・細田・松原・天神原の各遺跡がそれである。いずれの遺跡も加曾利E期でも新しい時期の該当し、遺跡の規模も小さく、継続性に乏しい。この中で天神原遺跡と下宿東遺跡は後期まで継続する集落遺跡である。

後期・晩期の集落遺跡も少なく、天神原遺跡と下宿東遺跡のみである。下宿東遺跡は後期前半の堀之内期の小規模な集落で、敷石を伴う住居址が検出されている。天神原遺跡は後期から晩期まで継続する大規模な集落遺跡である。住居址以外に配石墓、環状列石などが存在しており、全容は明かではないが、集団領域の中心的位置を占める拠点集落とみられる。

中野谷地区周辺の縄文時代の集落遺跡では、道前久保遺跡（上間仁田地区）、荒神平・吹上遺跡（鷲宮地区）、西裏・西新井遺跡（磯部新寺地区）が存在する。道前久保遺跡は前期・中期・後期の集落遺跡であり、多数の住居址が検出されている。荒神平・吹上遺跡、西裏・西新井遺跡では中期の住居址が検出されている。

**弥生時代** この時代の遺跡は中野谷地区では少ない。注連引原遺跡・注連引原II遺跡は前期終末から中期初頭（初期弥生段階）の集落遺跡である。特に、注連引原II遺跡では集落を囲む壕を有するいわゆる環壕集落である。また、中原遺跡・落合遺跡・大下原遺跡・下原遺跡でもこの時期の遺物が検出されており、注連引原遺跡を中心に初期弥生段階の遺跡群を形成している。

大下原遺跡は唯一の後期の集落遺跡である。この遺跡からは樽期の住居址が3軒検出されている。なお、落合遺跡でも樽期の遺物が出土している。

周辺遺跡としては、横野台地の西方に上人見遺跡（松井田町）が初期弥生期の遺跡として存在する。また、北西の低位段丘上に中期後半（竜見町期）の松井田工業団地遺跡が存在する。そして、東方には後期（樽期）の荒神平・吹上遺跡、諏訪ノ木遺跡が存在する。

**古墳時代** 古墳時代の集落遺跡はいずれも小規模であり、住居軒数も少ない。前期・中期（石田川期～和泉期）では中原遺跡・下宿東遺跡・細田遺跡・天神原遺跡が存在する。この中で下宿東遺跡は本遺跡群では最も規模が大きい集落遺跡であり、14軒の住居址が確認された。また、後期（鬼高期）では北東・堤下遺跡と細田遺跡が存在する。

古墳は台地北部の段丘縁辺には、前期～中期に築造されたと推定される旧磯部2号墳・同3号墳（長谷津向山古墳）が存在する。また、松原遺跡では横穴式石室を有する後期古墳が調査されている。また、この東方にも以前にはいくつかの古墳が存在しており、中野谷古墳群としてとら

### Ⅲ 遺跡の地理的・歴史的環境

えることができる。

そして、農業関連遺構としては、落合遺跡で古墳時代に開鑿したとみられる溜井が検出されている。

次に周囲の当期の遺跡をみると、北方の下位段丘面に多くの遺跡が存在する。西裏・西新井遺跡と松井田工業団地遺跡は大規模な集落遺跡である。また、磯部古墳群もこの東方に存在する。そして、河岸段丘のすぐ下の田中田・久保田遺跡では、方形周溝墓が検出されている。

**奈良・平安時代** 奈良・平安時代で最も特徴的であるのは、「牧」の放牧施設の区画と推定される大溝や柵列の存在する遺跡である。下塚田遺跡・北下原遺跡・中原遺跡・下宿東遺跡・細田遺跡でこうした遺構が検出されている。詳細は別章に譲ることにする。

これに対し、この時期には中野谷地区には小規模な集落遺跡が点在する程度である。奈良時代では、北東堤下遺跡・大下原遺跡があり、平安時代では和久田遺跡が存在する。

また、下塚田遺跡では古墳時代後期から平安時代にかけての鍛冶工房址が検出されている。そして、天神原遺跡でも「牧」に関連する工房址と推定される遺構がまとめて検出されている。

農業関連の遺跡としては、平安時代の水田址が存在する。現在、水田として利用されている谷地の全域にわたって当期の水田址が存在している。

次に、周辺の遺跡としては、古墳時代から継続する大規模な集落遺跡として、西裏・西新井遺跡、松井田工業団地遺跡、荒神平・吹上遺跡などが存在する。また、田中田・久保田遺跡・松井田工業団地遺跡では平安時代の水田址が検出されている。

**中世** この時代の遺跡としては、中原遺跡がある。ここでは掘立柱建物址が検出されている。また、中野谷地区の中央に存在する中野谷神社には方形区画と土塁が現存しており、東に隣接する清元寺境内と、北西に位置する通称「浄土のお堂」の敷地内には室町時代の宝篋印塔が存在しており、中世館址が存在していたと推定される。

**近世** この時代の遺跡は今回の調査では検出されなかった。中野谷地区は江戸時代には天領であり、中屋敷地区には「陣屋」「屋敷」「中屋敷」の小字が残っている。「陣屋」の小字は中野谷神社の南方の場所にあり、一辺が約190mの方形の地割が残っている。そして、南東隅は欠けており、この場所は「でーもん（だいもん）」と呼ばれている。以上のことから、「陣屋」の場所に江戸時代には代官所（陣屋）が存在していたと推定される。

また、「上宿」「下宿」の大字があることと、東西に通じる道路に沿って、集落が形成されていることから、宿が存在していたことが理解される。

一方、久保地区は「多胡新田」と呼ばれており、ほとんどが多胡氏で占められている。そして、安中市北部の東上秋間地区からやってきたとの伝承をもっている。したがって、新しく形成された集落と推定される。

### 3 層 序

本遺跡群の基本層序は第4図のとおりであり、土層説明は第3表のとおりである。基本層序は台地部分と低地部分で異なっているため、別個に説明することにする。

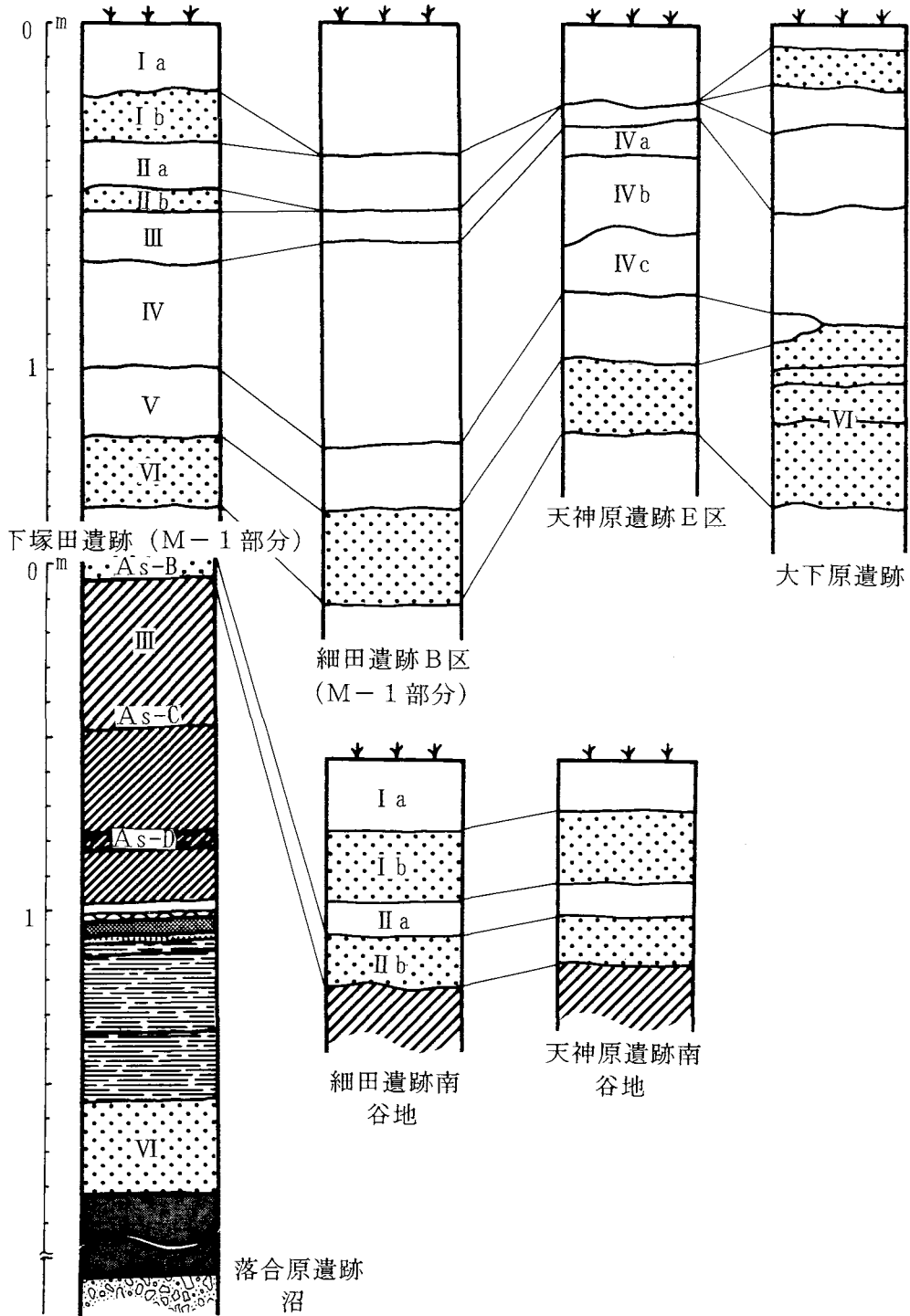
台地部分では耕作により攪乱され、浅間A軽石（As-A：1783年）が純層で堆積していた場所は少ない。しかし、道路部分など攪乱を受けない場所では、純層で堆積していた。また、浅間A軽石を人為的に集めた場所も所々に存在していた。このような場所は比較的低い場所であった。そして、浅間B軽石（As-B：1108年）が純層で堆積していた場所はほとんど存在せず、ほぼ遺構覆土中に限られた。Ⅲ層中には浅間C軽石（As-C：4世紀中葉）が存在するが、ほとんどの場所で確認できない。肉眼で観察できたのは天神原遺跡のみであった。

低地部分では、ほぼ全体に浅間A軽石、浅間B軽石が純層で堆積していた。また、湧水点の沼地では浅間A軽石、浅間B軽石は純層の上に二次堆積していた。浅間C軽石は沼地では肉眼で確認できる場合もあったが、谷地ではほとんど肉眼では観察することは不可能であった。また、浅間一粕川テフラ（As-Kk：噴出年代不明）、浅間D軽石（As-D：約4,500年前）、鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah：約6,300年前）などはテフラ検出分析により確認されている。

台地部分では、Ⅱa層が中世の遺構覆土、Ⅲ層が縄文時代晩期～平安時代、Ⅳ層が縄文時代早期～後期、Ⅴ層以下は旧石器時代の地層に相当する。

	層名	色調	しまり	粘性	混入物					備考
					RP	RB	YP	As-A	As-B	
Ia層	黒褐色土層		△	△				◎		
Ib層	灰白色軽石	Ia<Ib	×	×				◎		純層
Ⅱa層	黒色土層	Ib>Ⅱa							◎	
Ⅱb層	灰褐色軽石	Ⅱa<Ⅱb	×	×					◎	純層
Ⅲ層	黒色土層	Ⅱb>Ⅲ	△	○						
Ⅳ層	暗褐色土層	Ⅲ<Ⅳ	○	○	※		※			
Ⅳa層	暗褐色土層		○	○	※		※			
Ⅳb層	暗褐色土層	Ⅳa<Ⅳb	○	○	※		※			
Ⅳc層	暗褐色土層	Ⅳb>Ⅳc	○	○	※		※			
Ⅴ層	暗黄褐色土	Ⅳ<Ⅴ	◎	◎	◎	○	※			
Ⅵ層	黄褐色土層	Ⅴ<Ⅵ	×	×			◎			純層

第3表 基本土層説明表



第4図 基本層序柱状図

## IV 各遺跡の概要

### 1 中原遺跡

#### (1) 縄文時代

縄文時代では、早期と前期前半期の遺構と遺物が検出された。まず早期では、押型文段階の土坑1基が検出された。遺物は少なく、土坑及びその周辺より山形押型文土器が3点検出されたほか、調査区外で三角錐形石器1点が表面採集されている。

前期前半期（関山～有尾・黒浜段階）では集落址が存在していたことが確認された。検出された遺構としては、住居址16軒・土坑33基である。本遺跡では重複例1例もなく、拡張ないし建て替えが行われた例は4例（J-1・6・12・15号住）確認された。これらの住居址は規則的な配列は認められず、土器群の様相から時期が長期に及んでいる。以上のことから、本遺跡は小規模な集落が断続的に形成された結果と推定される。

住居址は長方形ないし、正方形を呈するものであり、炉址は大部分「コ」の字形に転石を配置した石囲炉である。また、地床炉も4例存在する。こうした住居址形態は当期では群馬県内で一般的なものである。

遺物の出土状態をみると、多くの住居址で覆土中から廃棄された状態で検出されている。この場合、多量の土器、石器のほか拳程度の大きさの焼礫が多量混在した状態で検出されている。また、遺物が比較的少量しか検出されない例も認められる。また、炭化物（胡桃）等も出土している。

遺物としては、含繊維羽縄文系の関山式から有尾式の土器片が多量各住居址から出土している。一方、石器類は各住居址からまとめて出土しており、当期の特徴を表す石器組成を有している。石鏃・石錐・石匙・スクレイパーA類・打製石斧・スクレイパーB類・磨石・凹石・石皿・敲石・砥石・棒状礫等が出土している。特に、石鏃や片刃形態の打製石斧、スクレイパーB類が多く出土している。

#### (2) 弥生時代

弥生時代ではF区において中期前半期の土坑1基（US-2）が発見され、条痕文系の壺・甕の破片が若干検出された。土坑は不正形のもので掘り込みは浅い。また、当期の土器は調査区内で散見された。

#### Ⅳ 各遺跡の概要

##### (3) 古墳時代

古墳時代の遺構としては、F区において5世紀の住居址1軒が検出されたのみである。この住居址は比較的大形の正方形を呈するものである。高坏・小型甕・甕・小型台付甕・高台付碗の土器片が出土している。

##### (4) 奈良・平安時代

奈良・平安時代では、台地上を台形に区画する溝とそれに付随する各種施設が存在することが確認された。この施設は、9世紀頃の「牧」の放牧施設と推定される。溝で囲まれた区画の規模は、南北約410m・東西260～300mであり、推定面積は約8.9haと非常に大規模な施設である。溝の形態は、上幅約3m・下幅約1m・深さ約1.2mで、溝の外側には土塁が存在していたことが、覆土の状態から確認された。

出入口は、西辺の北から約90mの部分で確認され、幅約5mの土橋状のものであった。また、区画内には多数のピットが存在し、柵状に一行に配列するものは幾つか確認することができるが、掘立柱建物址（3×1間）は1棟確認されたにとどまる。

そして、溝で囲まれた区画の南西隅に大規模な沼地が存在し、牧の水場として利用されたと考えられる。沼地の規模は約50m×40mとかなり大規模なものである。また、沼の東にほぼ同時代とみられる炭焼窯が1基検出された。

遺物としては、溝の中から土師器・須恵器の破片（9世紀前半）が検出されたほか、沼の底面（浅間B直下）からは、木製品（板材・棒）・自然木などが検出された。しかし、概して奈良・平安時代の遺物は非常に少量であった。

##### (5) 平安時代末から中世

平安末期・中世では、浅間B軽石降下以降の掘立柱建物址が1棟検出された。この建物址は溝の西側に位置し、3×1間で南側に庇を有する。この建物址の周囲にも多数のピットが検出されたが、明確に配列するものは確認することができなかった。また、この建物址の周囲ではIV層上面で土間状の硬化面が数カ所確認された。  
(大工原豊 金井京子)

## 2 東畑遺跡

本遺跡では、前期から中期にかけての遺構と遺物が検出された。本遺跡も中原遺跡同様、小規模な集落が、断続的に営まれたものである。

縄文時代前期前半期（関山～有尾・黒浜段階）では、住居址6軒、円形柱穴列1基、ピット多



数が検出された。住居址の形態は長方形ないし正方形であり、南側がやや開くものもある。主柱穴は6本または4本で、壁に沿って壁柱穴が並んでいる。また、炉址は「コ」の字形に転石を配置する石囲炉が多いが、地床炉の例もある。住居址の重複例は2例認めらる。

遺物の出土状況は、中原遺跡と同様に覆土中に土器、石器類、焼礫が多量廃棄された例と、少量の遺物しか検出されない例が存在する。

また、隅円方形を呈した円形柱穴列は、楕円形を呈した柱穴が約20本円形に配列されたもので、円の直径は約11mと大形の構造物である。また、楕円形の柱穴の長軸は円周に沿う形で掘られており、偏平な割材等が埋められていた可能性がある。こうした遺構は通常の住居とは考えにくく、公共的性格の強い特殊な施設と考えられる。

遺物としては、関山式や有尾式の土器片が、各住居址から出土しているが、比較的少ない。石器類では石鏃・石匙・スクレイパーA類・打製石斧・スクレイパーB類・磨石・凹石・石皿・敲石・砥石が出土しているが、概して出土点数は少ない。

前期後半期（諸磯b段階）では、住居址1軒が検出された。この住居址は不正形な正方形を呈するもので、深鉢形土器の下半部を炉体土器として設置した埋甕炉であった。遺物はほとんど検出されなかった。

中期終末期（加曽利E4段階）では、敷石住居址1軒、土坑1基、竪穴状遺構1基が検出された。敷石住居址は依存状態が比較的良好で、柄鏡形に敷石が配置されている。柄部先端と柄部と住居部分の付け根に埋甕が設置されていた。敷石の用材は偏平な転石で、材質は在地の石材とみられる安山岩系であった。遺物は埋設土器以外は少量の土器片、石器類が検出されたのみである。

（大工原豊 金井京子）

### 3 金井谷戸遺跡

この遺跡は、縄文時代早期から前期にかけての遺跡である。このうち中心となるのは早期押型文土器段階の遺構と遺物である。検出された遺構としては、竪穴住居址1軒と、集石を伴う土坑4基、ピット多数である。

住居址は約4mの円形を呈していると推定されるが、南半分はすでに道路によって削平されている。IV層下部において浅い掘り込みが確認された。柱穴は壁際にやや斜めに存在している。住居址内から検出された土器は数十片と数量的にはさほど多くない。この中には、押型文・捺糸文・縄文の各土器群が含まれるが、押型文と縄文の土器群が多い。集石を伴う土坑は、拳大から洗面器大の焼礫が充填されている大形の土坑と、土坑の脇に拳大程度の焼礫が約20～30個まとまる小形の土坑がある。大形の土坑では長さ約1.8mの楕円形で、小形のものでは長さ約0.7～0.9mの楕円

#### Ⅳ 各遺跡の概要

形である。

また、早期の遺物としては、土器では押型文・捺糸文・縄文の各土器群の土器片が検出された。押型文では山形・楕円・格子目のものがあるが、山形が主体を占める。

そして、石器では当期に特徴的な局部磨製石鏃・スクレイパーB類（削器・礫器）・特殊磨石・磨石・凹石・砥石・磨製石斧（偏平な小石に刃部を作出したもの）・結晶片岩製の線刻を施した石製品等が検出された。（大工原豊 金井京子）

## 4 天神原遺跡

天神原遺跡は縄文時代前期から晩期及び、古墳時代中期、奈良時代の遺跡である。主体となるのは縄文時代後期～晩期中葉である。特に、後期後半から配石墓群が構築され、晩期には環状列石を中心とする遺構群が存在することが明かとなった。

### (1) 縄文時代

前期後半（諸磯b～諸磯c段階）の遺構としては、住居址2軒、土坑数基が確認された。これらの遺構はB区を中心に分布しており、隣接する中野谷松原遺跡（平成4年度調査）の第3期集落の一部に相当するとみられる。当期の土坑中からは、良質な黒曜石の原石が36点まとまって出土した。また、住居址からは多量の土器・石器のほか、土偶・ミニチュア土器なども出土している。

中期終末～後期前半（加曾利E～堀之内段階）では住居址8軒がC区中心に分布していることが確認された。これらの住居址はほとんどが柄鏡型を呈する敷石住居址であるが、敷石の方法に差異が認められ、同時期に形成されたものではなく継続的に営まれたものとみられる。重複例は1例認められる。また、C区南部では立石を伴う配石遺構が検出されている。遺物は住居址覆土中から検出されたほか調査区全域に存在する遺物包含層からも検出されている。

後期後半～晩期初頭（加曾利B段階～安行3a・大洞B段階）では、配石墓群がA区中央部で35基検出された。この配石墓群は、さらに調査区北側市道下部に及んでいることが、地下レーダー探査により確認されている。これらの配石墓は、大きく分けると6形態に分類することができる。配石墓は西に位置するものほど大規模かつ、丁寧構築されている。重複関係が認められる配石墓も多く、継続的に墓域として利用されていたことが判明した。また、装身具や副葬品は全く認められず、この地域の墓制の特徴がうかがえる。配石墓群の中心部では2次調査の際、比較的規模の大きな柱穴群（HT-3）が検出され、配石墓群に伴う遺構であることが確認された。さらに、南東のE区（2次調査）では、この段階の配石遺構が検出されている（調査区全体図参照）。

この段階の遺物は、A区配石墓群の南東からC区・E区にかけて遺物包含層を形成し、濃密に分布していることが確認された。なお住居址は検出されておらず、この段階では、少なくとも調査区域内に居住域は存在していなかった可能性が高い。

晩期前半（安行3b・3c段階）では、後期の配石墓群上部に環状列石の南半部分が検出された。環状列石を伴う遺構群は、内円部、周溝部、周堤帯の3重円構造を呈し、全体規模は直径約60mと推定される。内円部の環状列石は、配石墓の石を再利用して構築されたもので、直径約10mである。また、内円部の周囲には幅12mの周溝部が地山削り出しにより造られ、さらに外側には幅約10m、高さ0.5～0.7mの周堤帯が構築されていたことが確認された。

内円部の環状列石の西側には、祭壇状石組遺構が付随して構築されている。この部分は河原石を長方形に配列したもので、西縁部には妙義山の3つの峯に対応するように長さ1メートルほどの立石が3本等間隔で存在している。また、南東部には門状の2枚の将棋駒状の巨石と祭壇状遺構へ向かって内側に直線的に伸びる通路状の配石遺構が検出された。そして、配石墓の蓋石が除去され、小規模な環状配石遺構として再利用されているものが2例認められる。

周溝部にはこの段階に構築された様々な遺構が検出された。南西には石棒、石皿、球石など特殊な遺物が集中する石棒祭祀遺構が検出された。また、周溝西部には根巻き石状の配石を伴う方形柱穴列（HT-1）が検出された。南西部周溝内で1軒住居址が検出されたが、位置的にみて通常の住居址と異なる遺構と推定される。周溝南部では小さな柱穴の密集部分が数カ所認められ、繰り返し簡易な構造物が構築されていたとみられる。

周帯堤は土塁状の盛土遺構であり、環状列石の外縁部を区画する遺構と推定される。周帯堤の延長線上にある西隣の雑木林の中にも緩やかな起伏が続いており、少なくとも南部から西南部には存在している。また、2次調査の際してE区においても周帯堤の続きが確認された。

この段階の埋設土器8基検出されたが、すべて周溝部の西半分位置し、内円部祭壇状遺構の下部を中心に存在する。この埋設土器群が形成された時期は、環状列石形成後、祭壇状遺構構築前と推定される。

また、内円部の中心を通る溝が検出されたが、緩やかに弧を描いて南東調査区外へ延びており、直径約80mの円形に巡る遺構であることが確認されている。

晩期の遺構の中で注目される遺構としては、石棒祭祀遺構がある。この遺構は周溝南西部に存在し、最大規模の配石墓（S-4）の西隣接する位置にあたる。直径約4mの範囲に大形の石棒・石皿・球石を中心とし、小形の石棒・石剣・磨製石斧約30本と、200個以上の球石・磨石・凹石が集中した状態で検出された。なお、この遺構を含め、晩期の遺構からは、鉄鉱石（磁鉄鉱：餅鉄）が出土している。これらの鉄鉱石には加工痕跡を有するものも認められる。

後期の土器群では、加曽利B式、高井東式が量的にまとまって出土している。また、晩期前半

#### Ⅳ 各遺跡の概要

の土器群としては、在地の土器群（天神原式）、東北地方の大洞系の土器群、中部・北陸系の土器群が出土している。在地の土器群の量が最も多いが、大洞系の土器の量も多く、中部・北陸系の土器を合わせると、晩期前半の土器の約半数を占める。なお、特筆されることとしては、従来安行 3b・3c 式に含めて考えられていた土器群の中に、安行 3b・3c 式とは異なる、「天神原式」とでも呼称すべき地域的な土器群の存在が明確になったことがあげられる。なお、晩期終末の土器群は全く検出されていない。

一方、土製品では、耳飾りや土偶が比較的多く出土しているが、土偶は後期のものが大多数を占める。耳飾りは後期終末から晩期前半のものが多い。また、後期前半では土製腕輪がまとまって出土している。それ以外にも、土版・土錘をはじめ多様な土製品が出土しているが、いずれも少量である。

石器・剥片類は、約15,000点と膨大な量が出土している。石鏃・石錐・石匙・打製石斧・磨石・凹石・石皿・敲石・砥石・磨製石斧・石錘・石棒・石剣・多孔石・球石・石製品等、非常に多くの器種が存在する。中でも石鏃は多く、約1000点検出されている。また、環状列石を中心に石棒・石剣類、多孔石・球石も比較的多く出土している。そして、この時期に特徴的な局部磨製石鏃も検出されている。これらの石器類は形態からみて、後・晩期のものが大部分を占め、この時期の特徴をよく示している。また、鉄鉱石は12点出土しており、ほとんどが晩期の遺構に伴っていることが判明した。縄文時代の多様な石材・鉱物利用の一端をうかがい知る上で重要な資料とみられる。

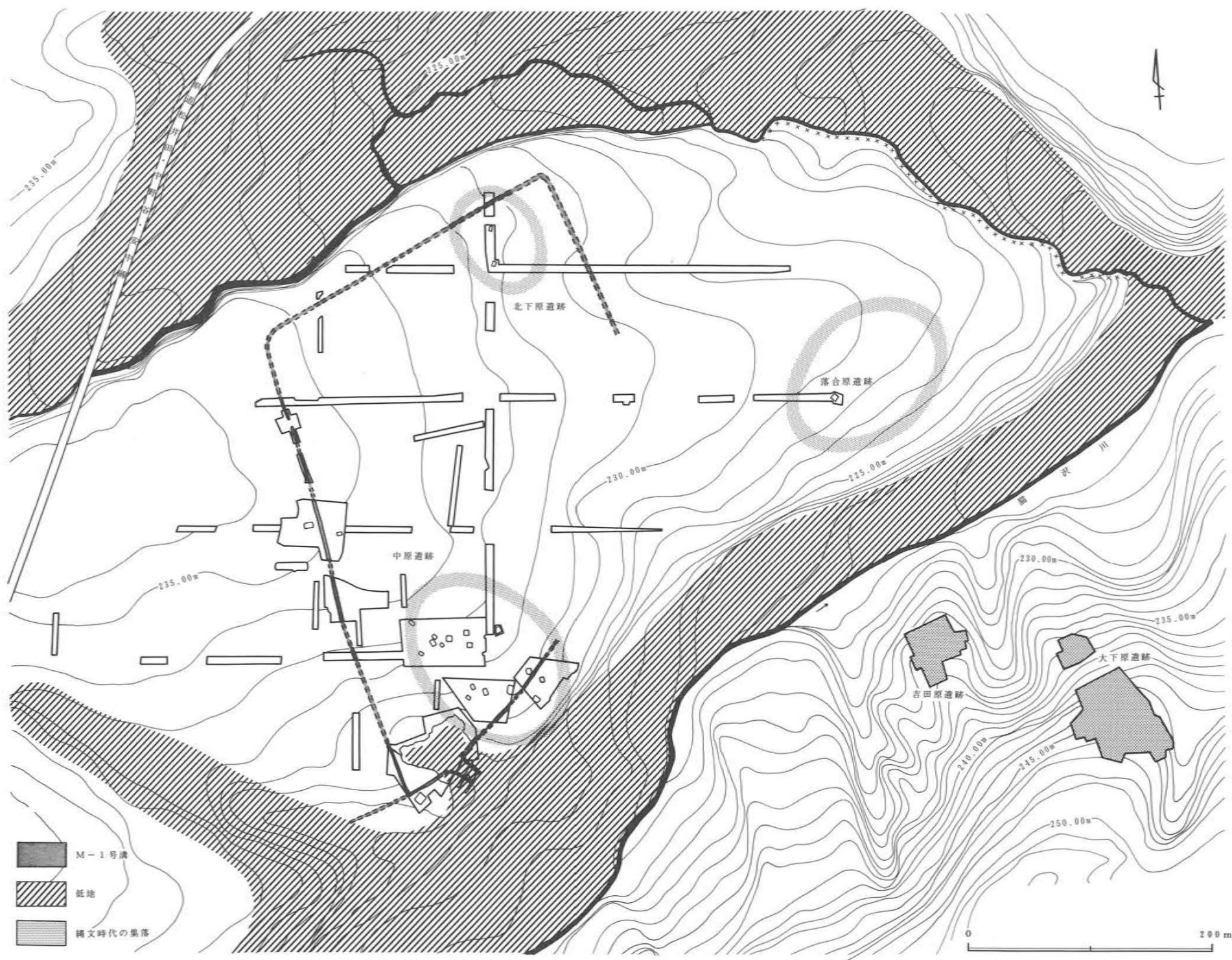
#### (2) 古墳時代

古墳時代中期（和泉期）の住居址は2軒検出された。いずれも5世紀前半の住居址であり、H-1号住居址は、高坏・埴・台付甕・甕などの土器片が覆土中から大量廃棄された状態で出土している。特に、高坏・埴が大多数を占めており、祭祀の様相が窺える。また、H-4号住居址は掘り込みが浅く、住居址以外の遺構の可能性もある。石製紡錘車等が出土している。

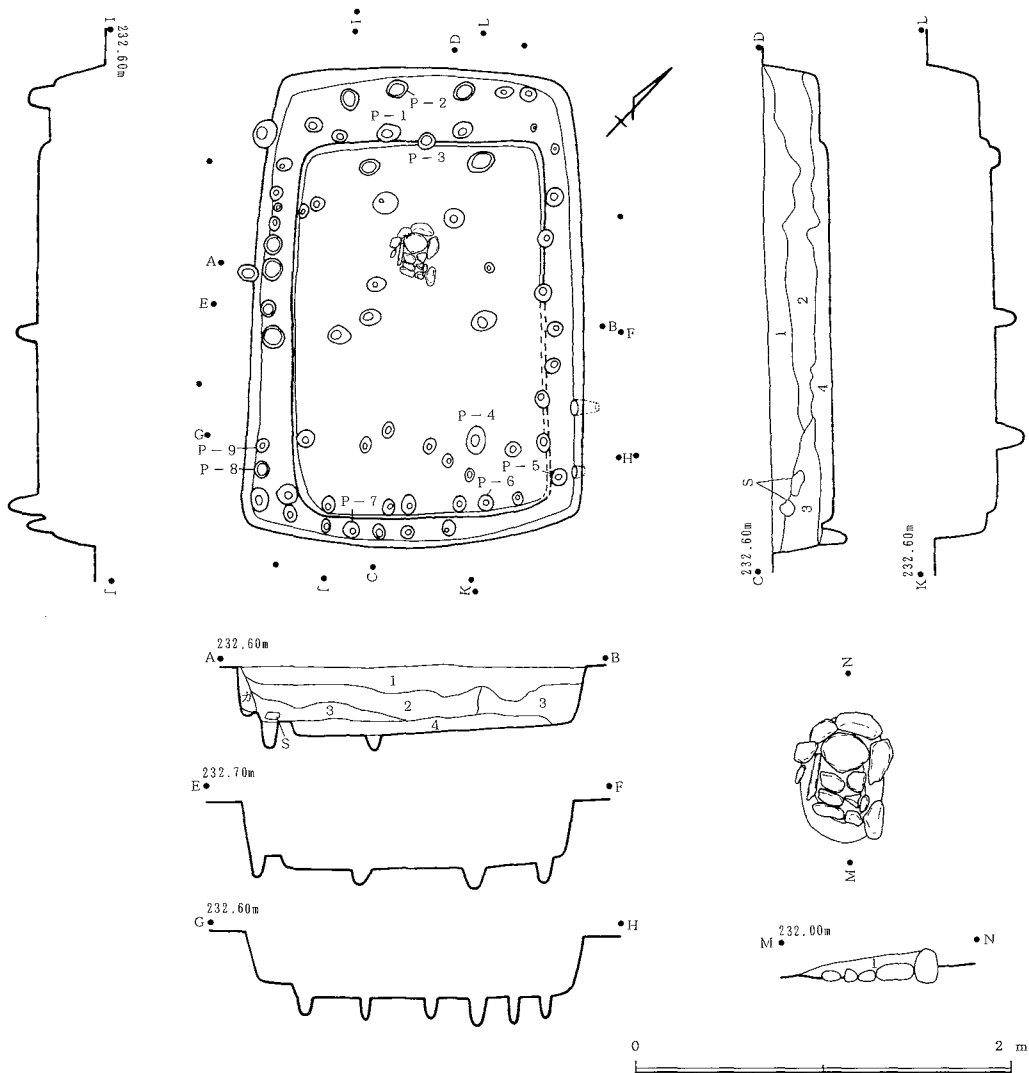
#### (3) 奈良時代

奈良時代の住居址は4軒検出された。このうち2軒は約3.5m×約18m、約5m×約15mと大規模な、長屋形を呈する特殊な住居址（建物址）である。遺物は、少量の須恵器蓋・須恵器盤状形坏・などが床面直上から出土している。また、小形の住居址からは土師器坏・須恵器坏や台石が出土しておる。これらの住居址は出土遺物と規則的配列から、ほぼ同時期のものとみられ、この時期に中野谷地区全体に存在する「牧」に関連する何らかの作業を行った工房址群と推定される。

(大工原豊 金井京子 林 克彦)



第5図 北下原遺跡・中原遺跡・落合原遺跡調査区位置図

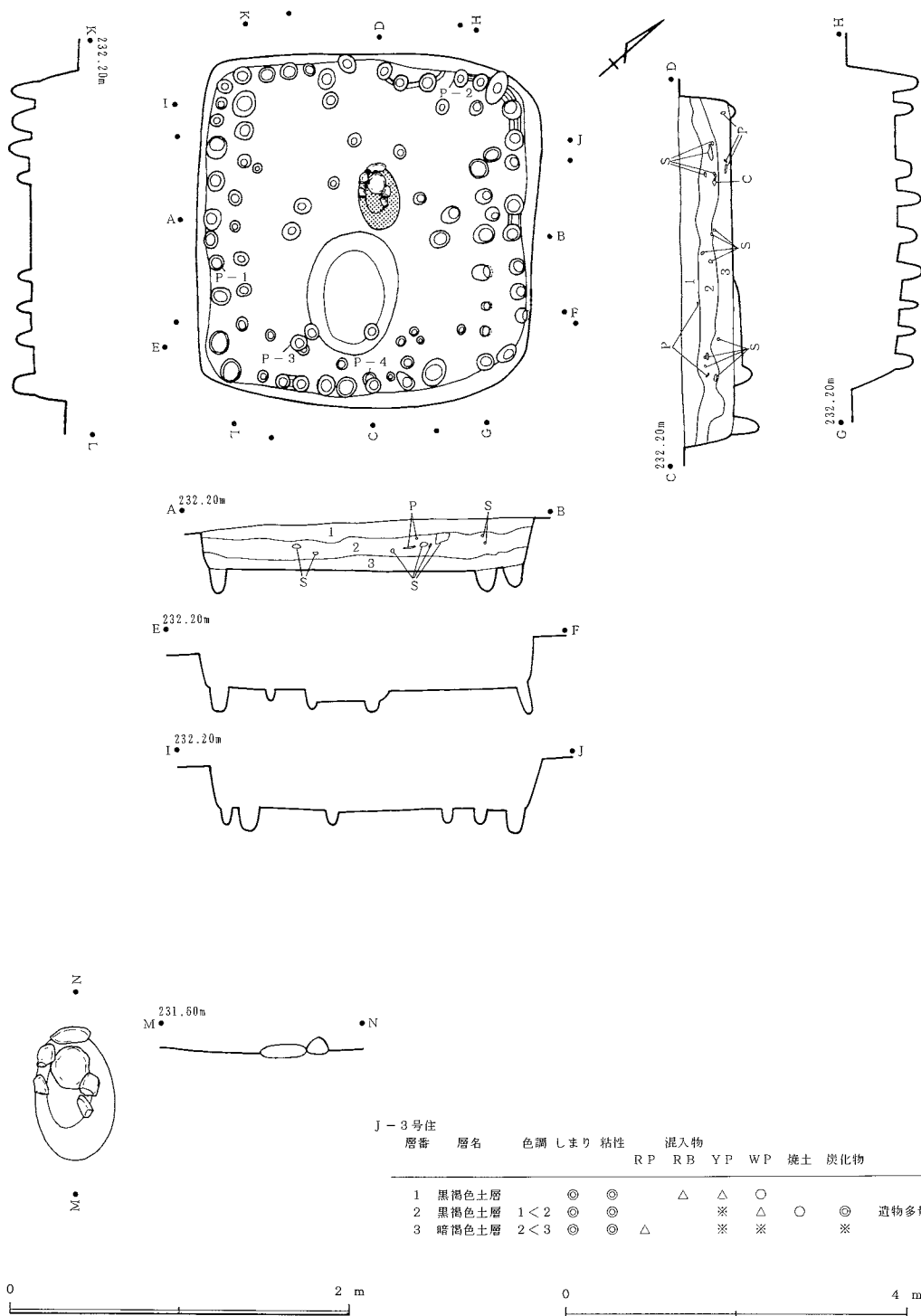


J-1号住

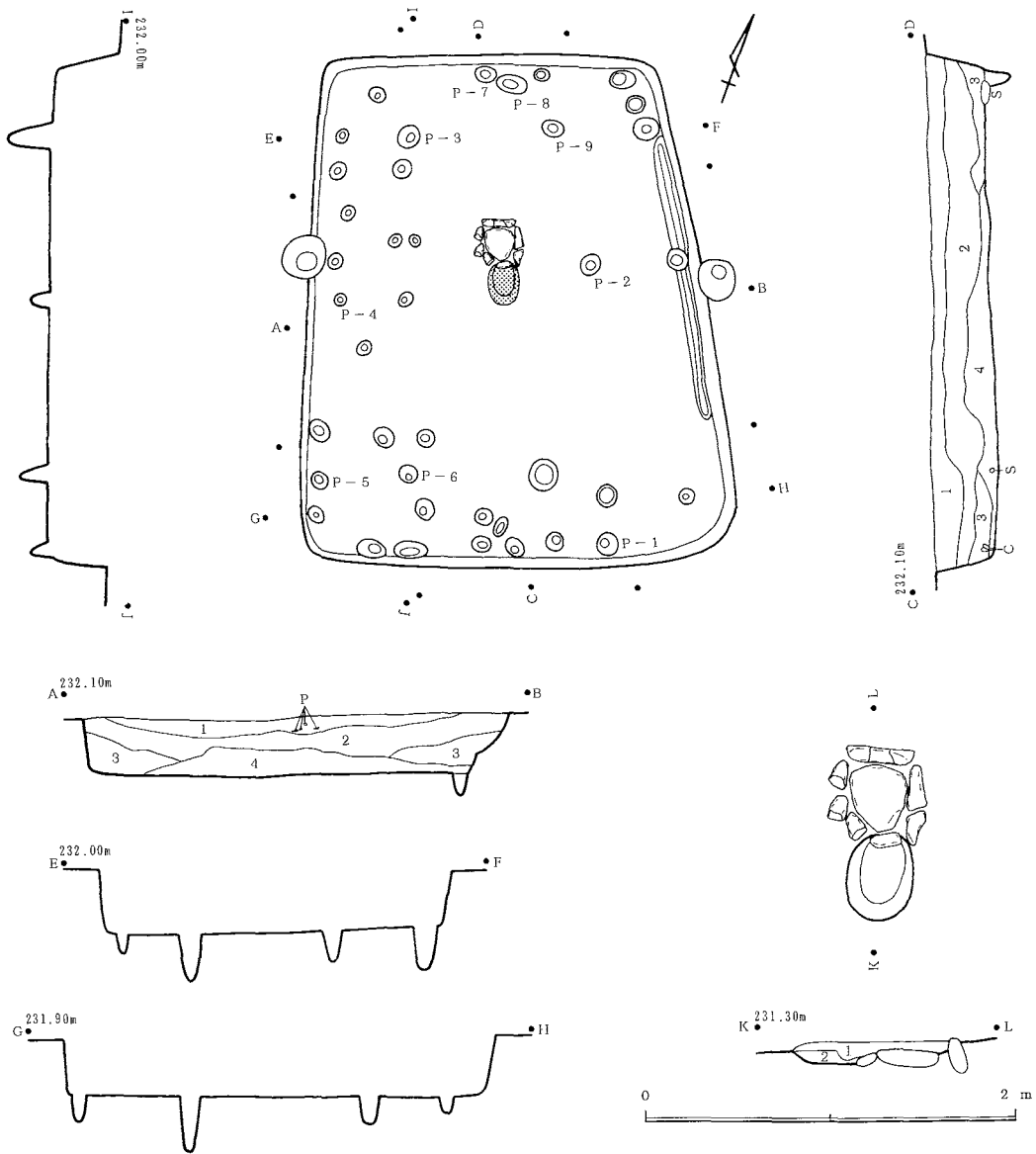
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物					
					RP	RB	YP	WP	焼土	炭化物
1	黒褐色土層	◎	◎				△	○		
2	黒褐色土層	1<2	◎	◎			△	○		△
3	暗褐色土層	2<3	◎	◎			△	△		
4	暗黄褐色土層	3<4	○	◎	○					△
炉1-1	暗褐色土層	○	○	○		△	※	※	△	※



第6図 J-1号住居址実測図



第7図 J-3号住居址実測図



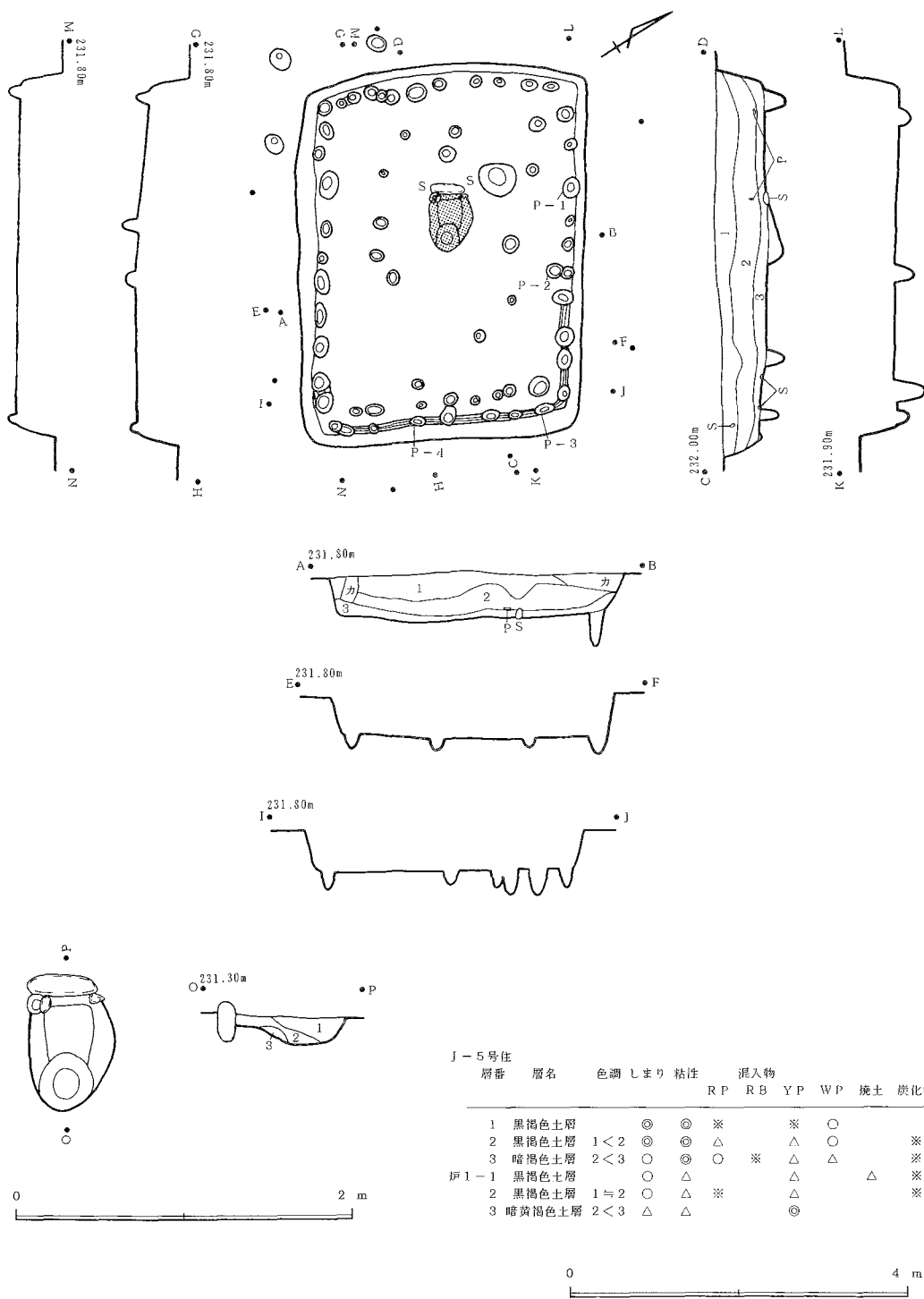
J-4号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物					遺物多量
					RP	RB	YP	WP	焼土	
1	黒褐色土層	◎	◎	※		※	○		※	
2	黒褐色土層	1>2	◎	△		△	○		※	
3	黒褐色土層	2>3	◎	◎	△	○	△	△	※	○
4	暗黄褐色土層	3<4	◎	○	◎	△	△	△	※	○
1-1	黒褐色土層	1<2	○	△	※		※			△
2	暗灰褐色土層	1<2	×	×						木灰層

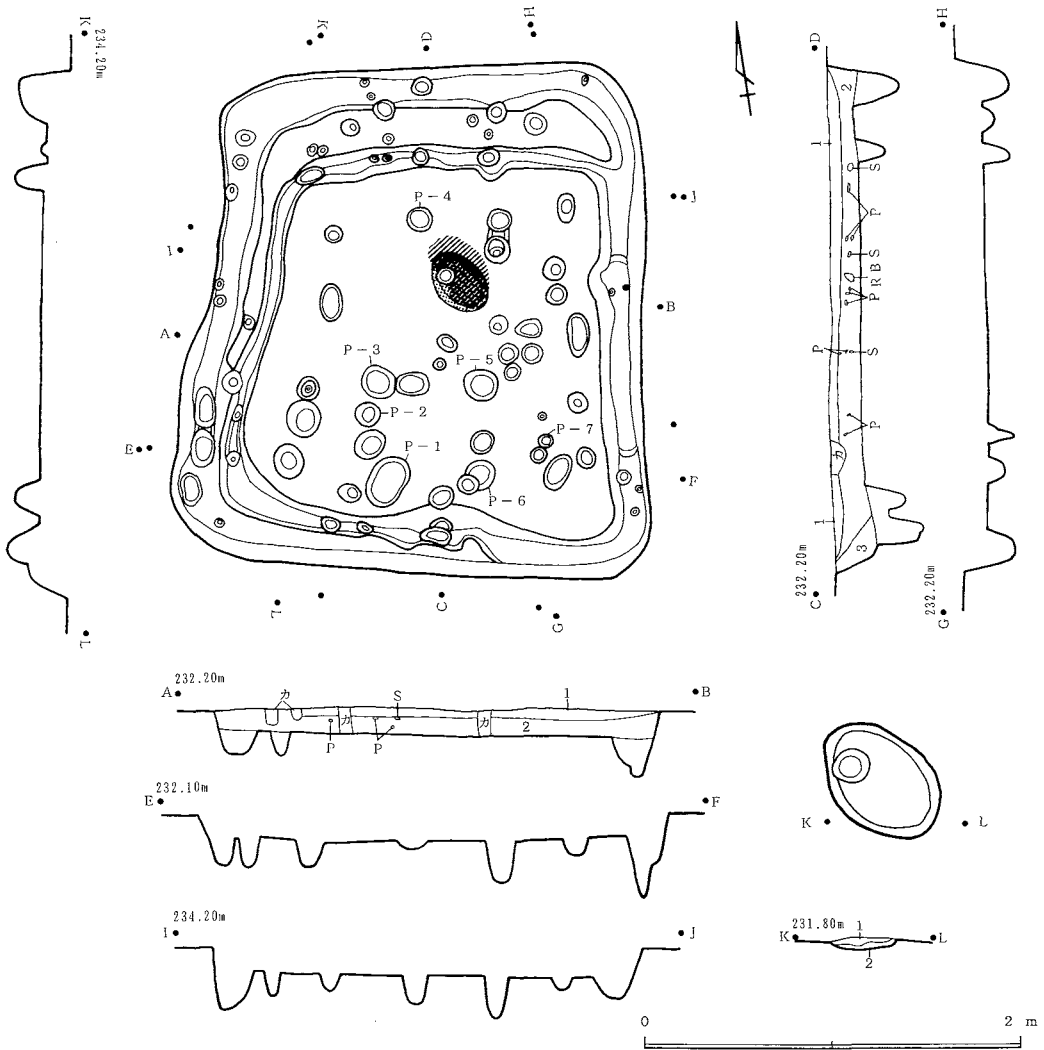


第8図 J-4号住居址実測図



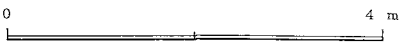


第9図 J-5号住居址実測図

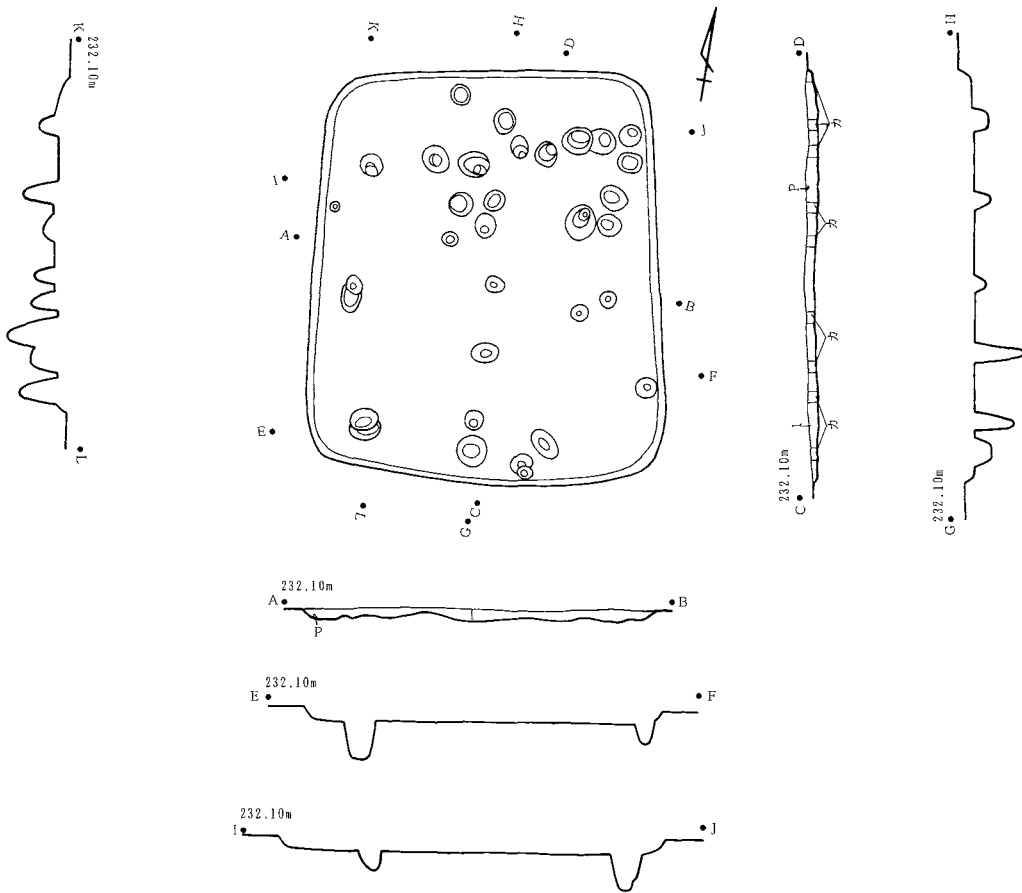


J-6号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
					RP	RB	YP	WP	焼土
1	黒褐色土層	◎	◎	※			※	※	※
2	暗褐色土層 1<2	◎	◎	※			△	△	○
3	暗黄褐色土層 2<3	◎	◎	△	△		△	△	△
坑1-1	暗赤褐色土層	◎	△	△	△		※	○	△
2	黄赤褐色土層 1<2	◎	△	○			※	○	△

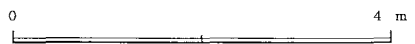


第10図 J-6号住居址実測図

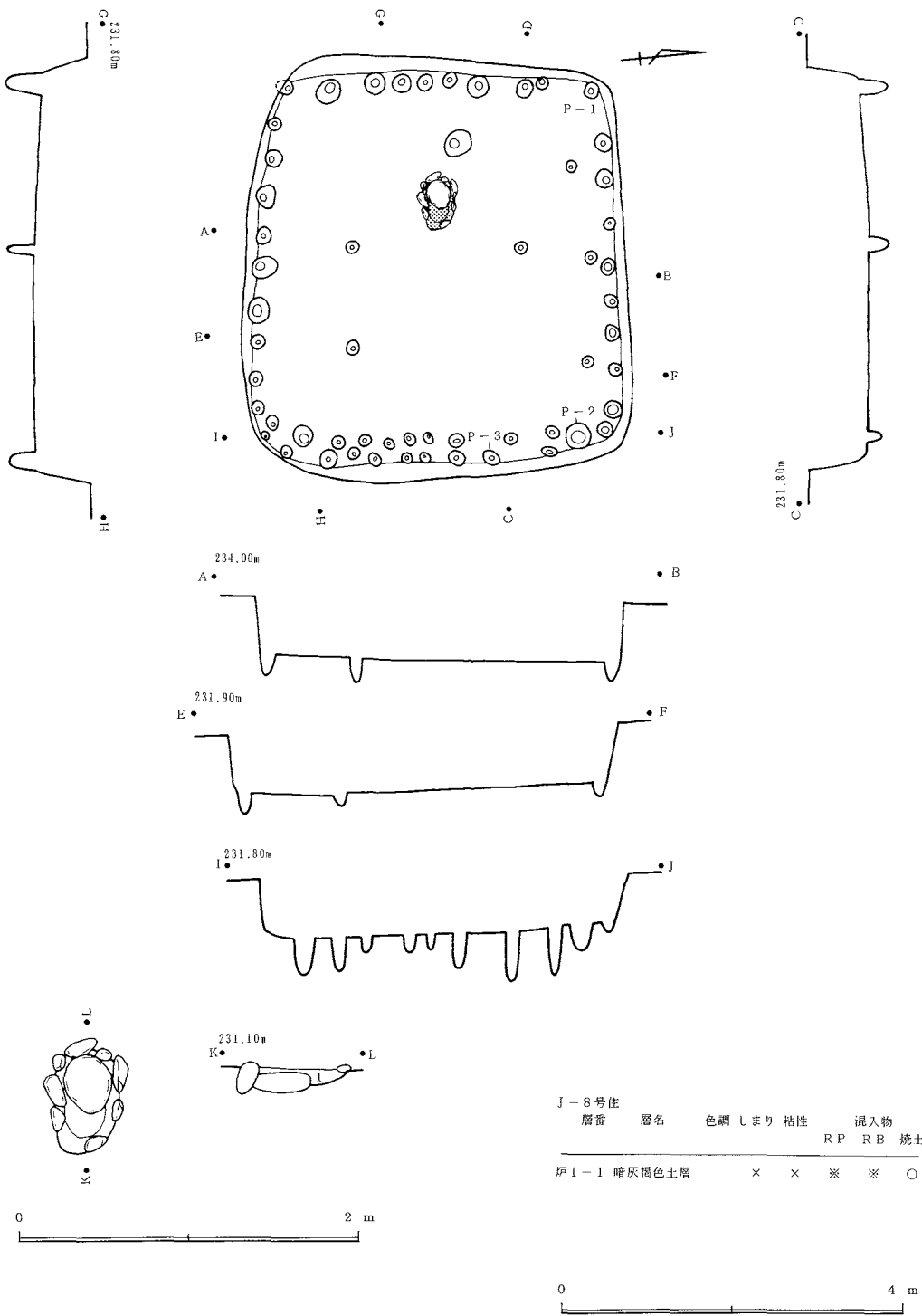


J-7号住  
 層番 層名 色調 しまり 粘性 混入物  
 RB Y P WP

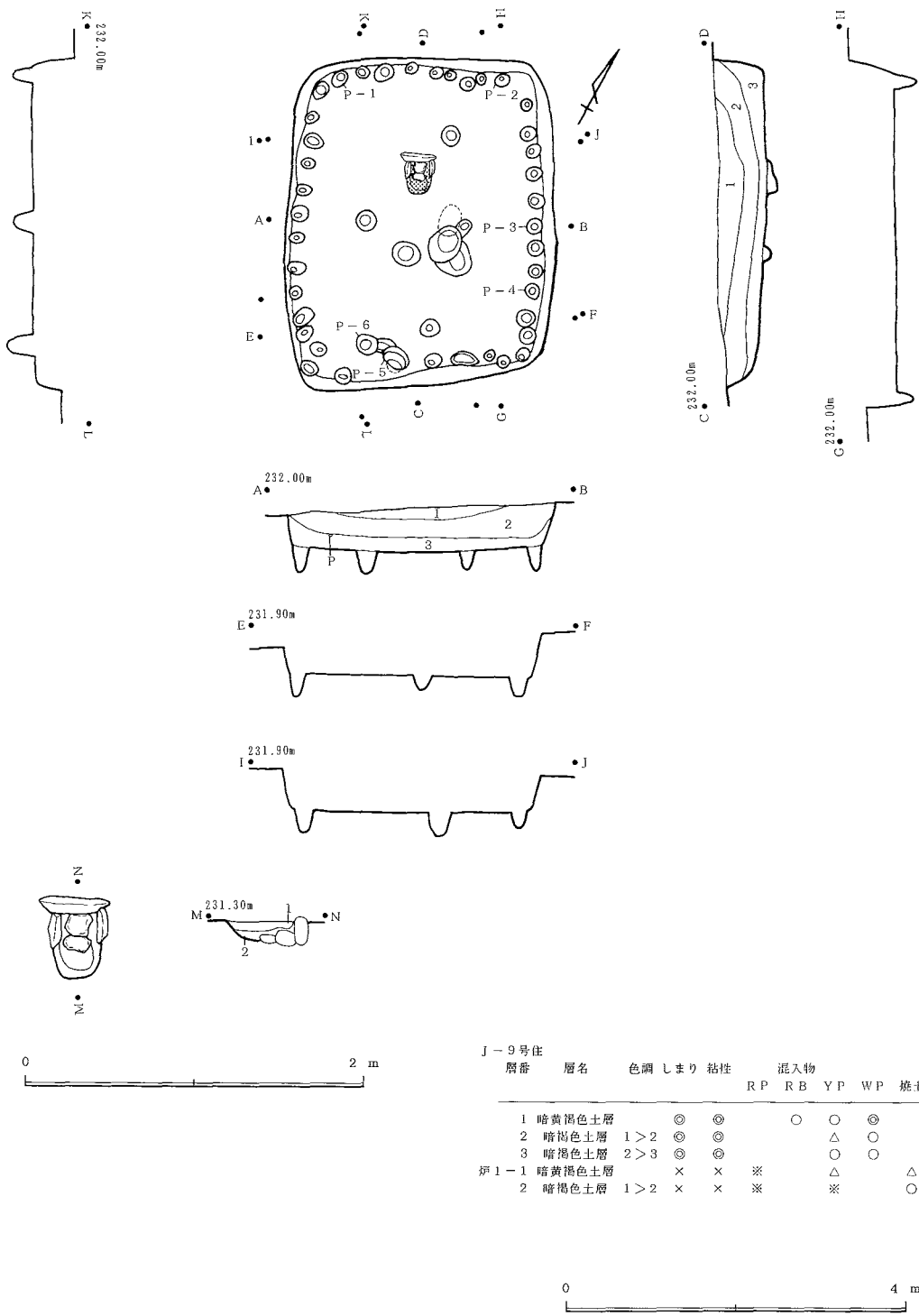
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物
					RB Y P WP
1	暗褐色土層	○	◎		※ ○
2	暗黄褐色土層	1<2 ◎	◎	○	△ ○



第11図 J-7号住居址実測図



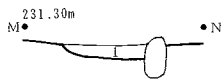
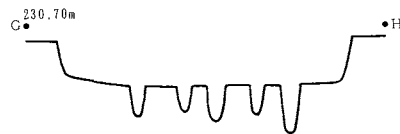
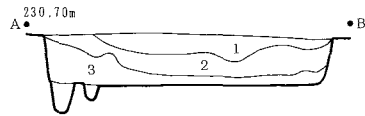
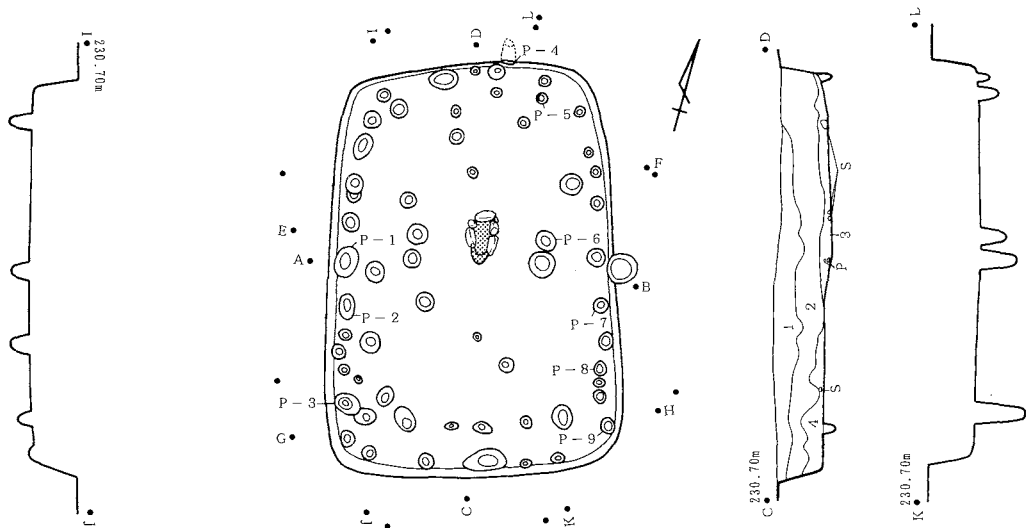
第12図 J-8号住居址実測図



J-9号住

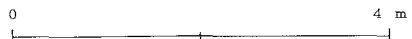
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				撫土
					RP	RB	YP	WP	
1	暗黄褐色土層	◎	◎		○	○	◎		
2	暗褐色土層 1>2	◎	◎			△	○		
3	暗褐色土層 2>3	◎	◎			○	○		
炉 1-1	暗黄褐色土層	×	×	※		△		△	
2	暗褐色土層 1>2	×	×	※		※		○	

第13図 J-9号住居址実測図

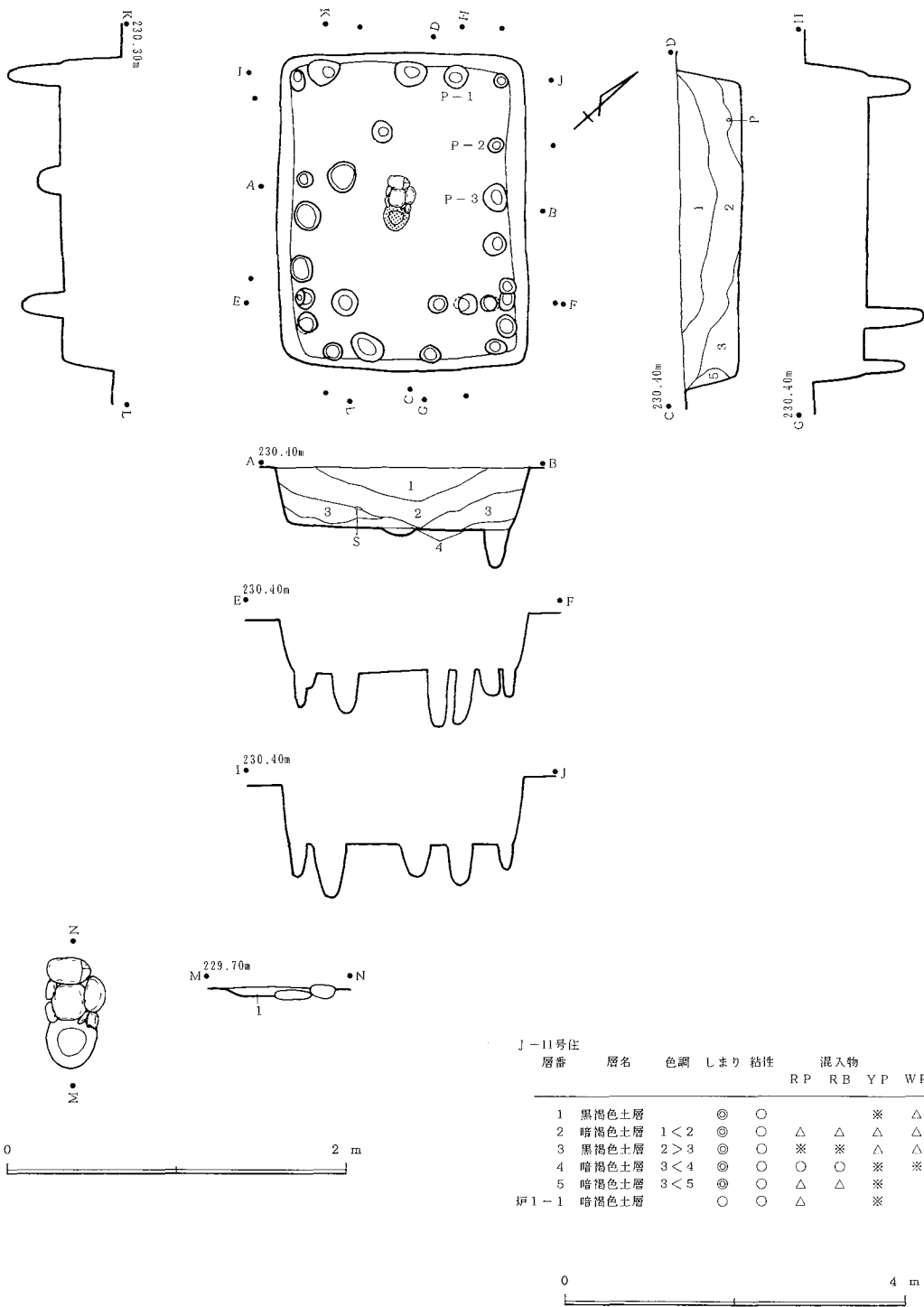


J-10号住

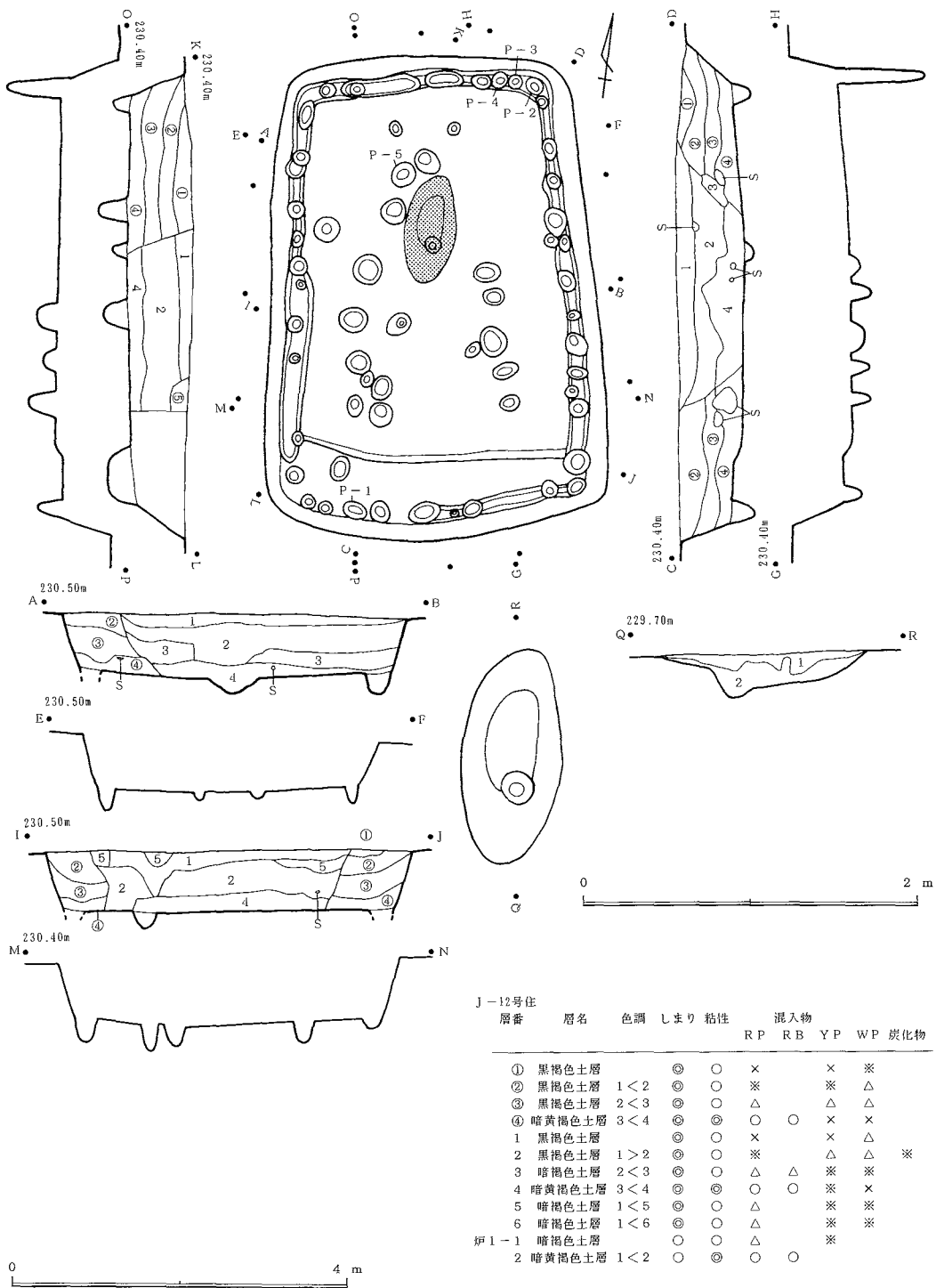
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
					RP	RB	YP	WP
1	暗褐色土層	◎	○	△	△	△	△	△
2	黒褐色土層	1 > 2	◎	○	※	※	△	△
3	黒褐色土層	2 > 3	◎	○	※	×	※	※
4	暗黄色土層	2 < 4	◎	○	○	○	△	※
埴 1-1	暗褐色土層		○	◎	△	△	※	



第14図 J-10号住居址実測図

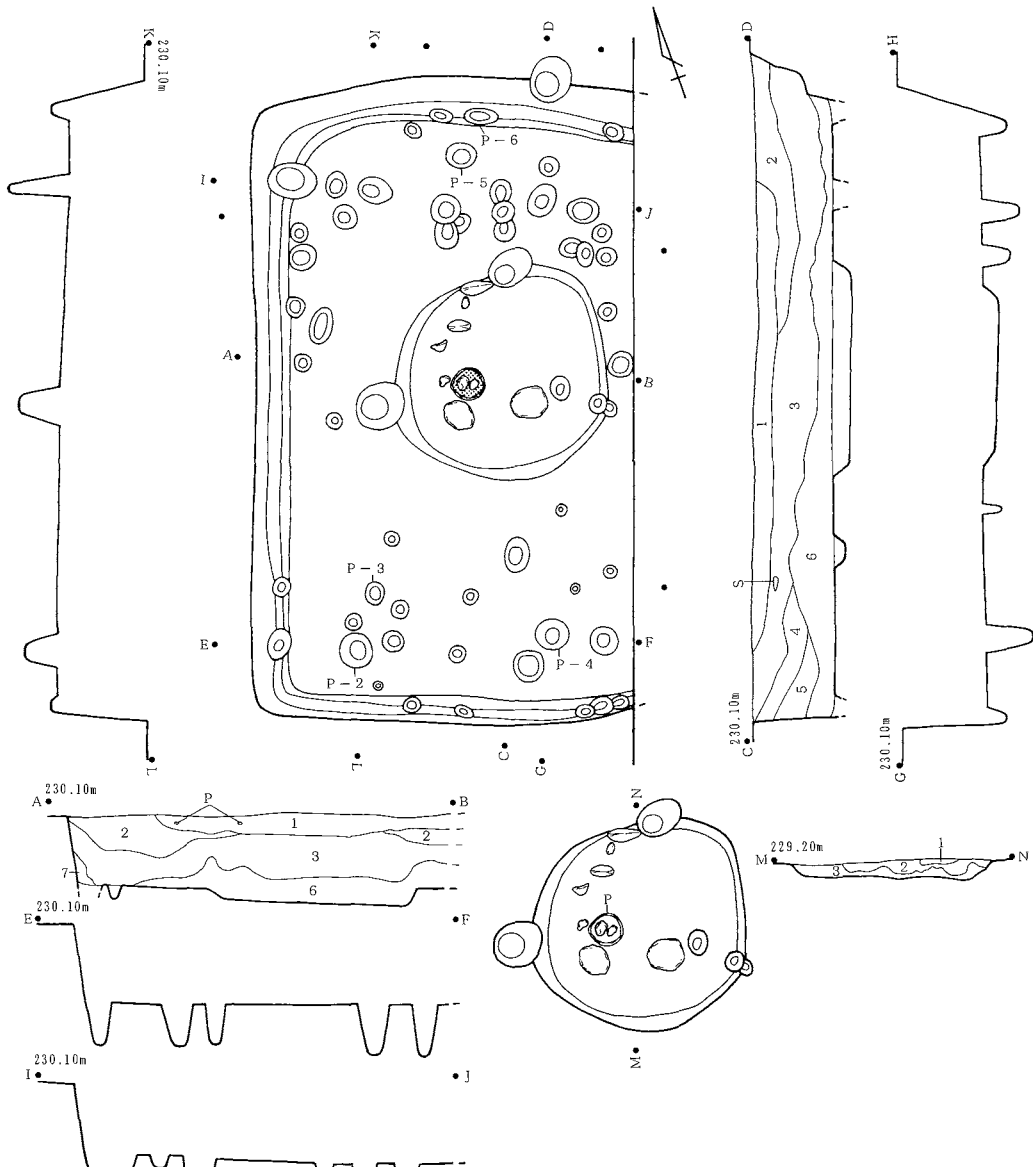


第15図 J-11号住居址実測図



第16図 J-12号住居址実測図

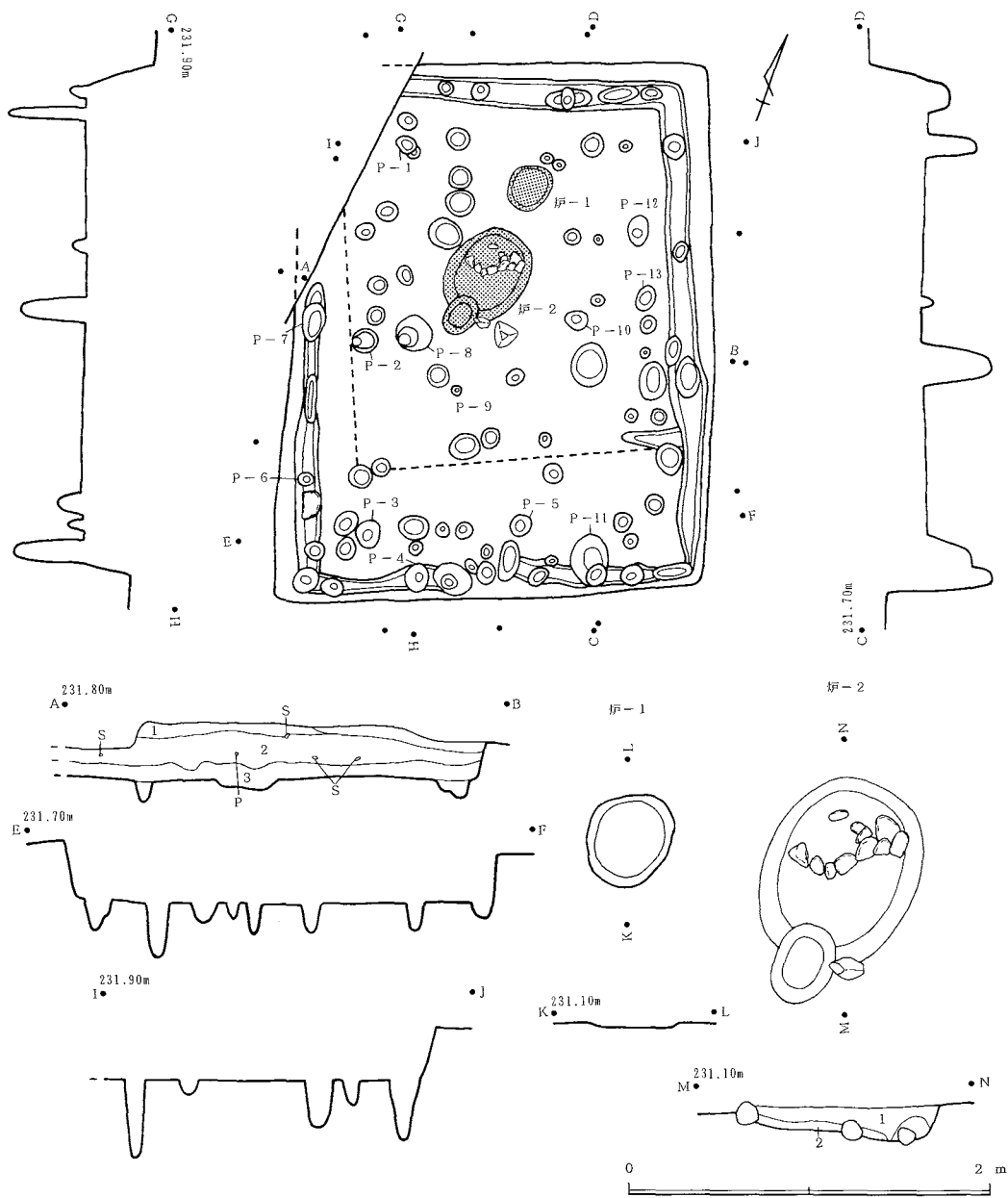




J-14号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
					RP	RB	YP	WP	炭化物
1	黒褐色土層	◎	○	※	×	※	※		
2	暗褐色土層	1 < 2	◎	○	△	×	△	△	
3	黒褐色土層	2 > 3	◎	○	※	×	△	△	
4	暗褐色土層	3 < 4	◎	○	※	△	※	※	
5	暗褐色土層	4 > 5	◎	○	※	△	※	△	
6	暗赤褐色土層	3 < 6	◎	◎	※	△	△	△	
7	黄褐色土層	3 < 7	○	◎	◎	◎	※	×	
炉 1-1	暗黄褐色土層		◎	◎	○	○	※		
2	暗褐色土層	1 > 2	○	○	△	※	△		※
3	暗黄褐色土層	2 < 3	○	◎	○	○	※		

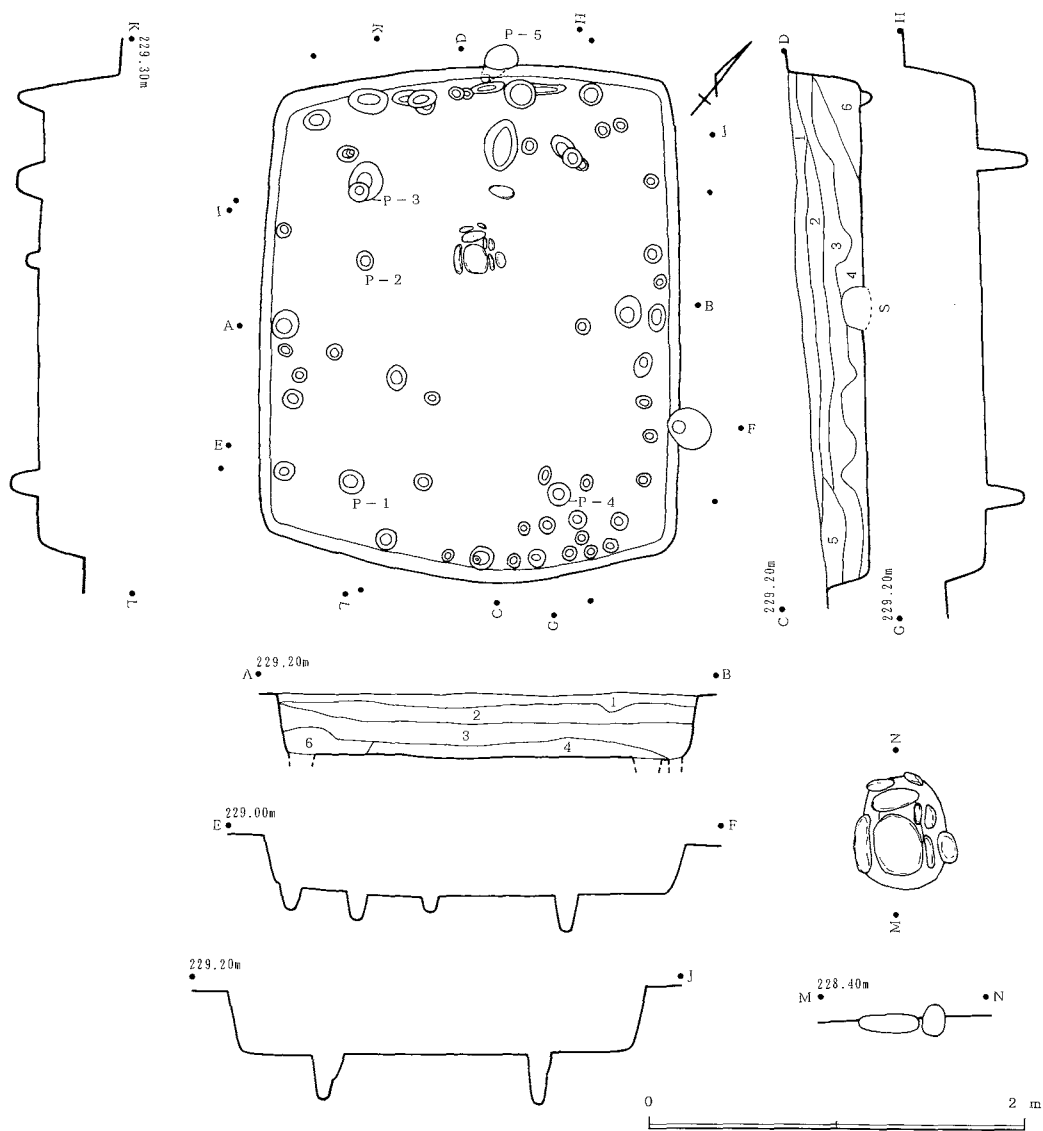
第17図 J-14号住居址実測図



J-15号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物					
					RP	RB	YP	WP	攪土	炭化物
1	黒褐色土層	◎	◎				※	△		
2	黒褐色土層	1>2	◎	◎			○	○		※
3	暗褐色土層	2<3	◎	◎			※	△		
跡1-1	暗褐色土層		○	×	△		※			○
2	暗黄褐色土層	1<2	◎	△	△	△				△

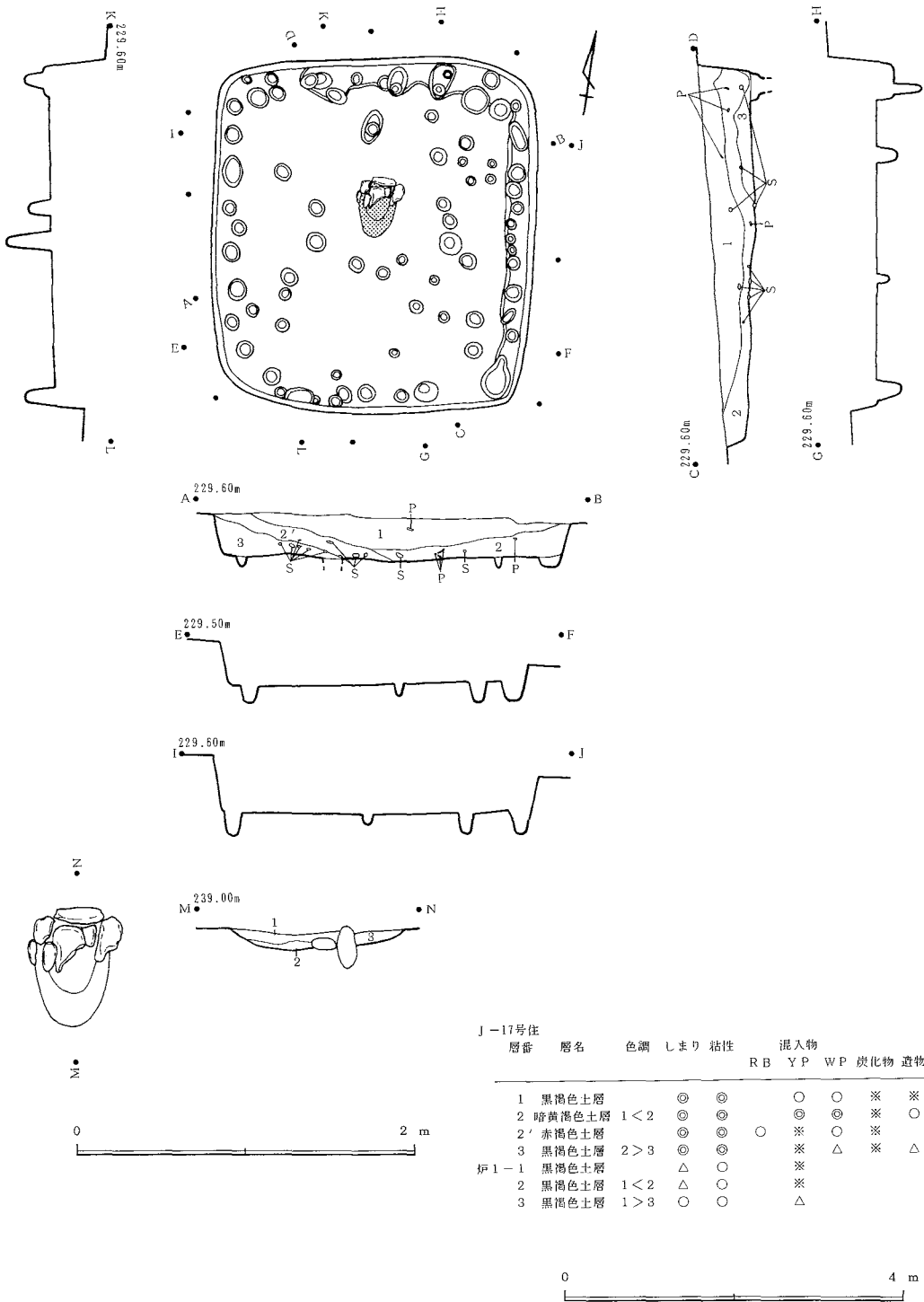
第18図 J-15号住居址実測図



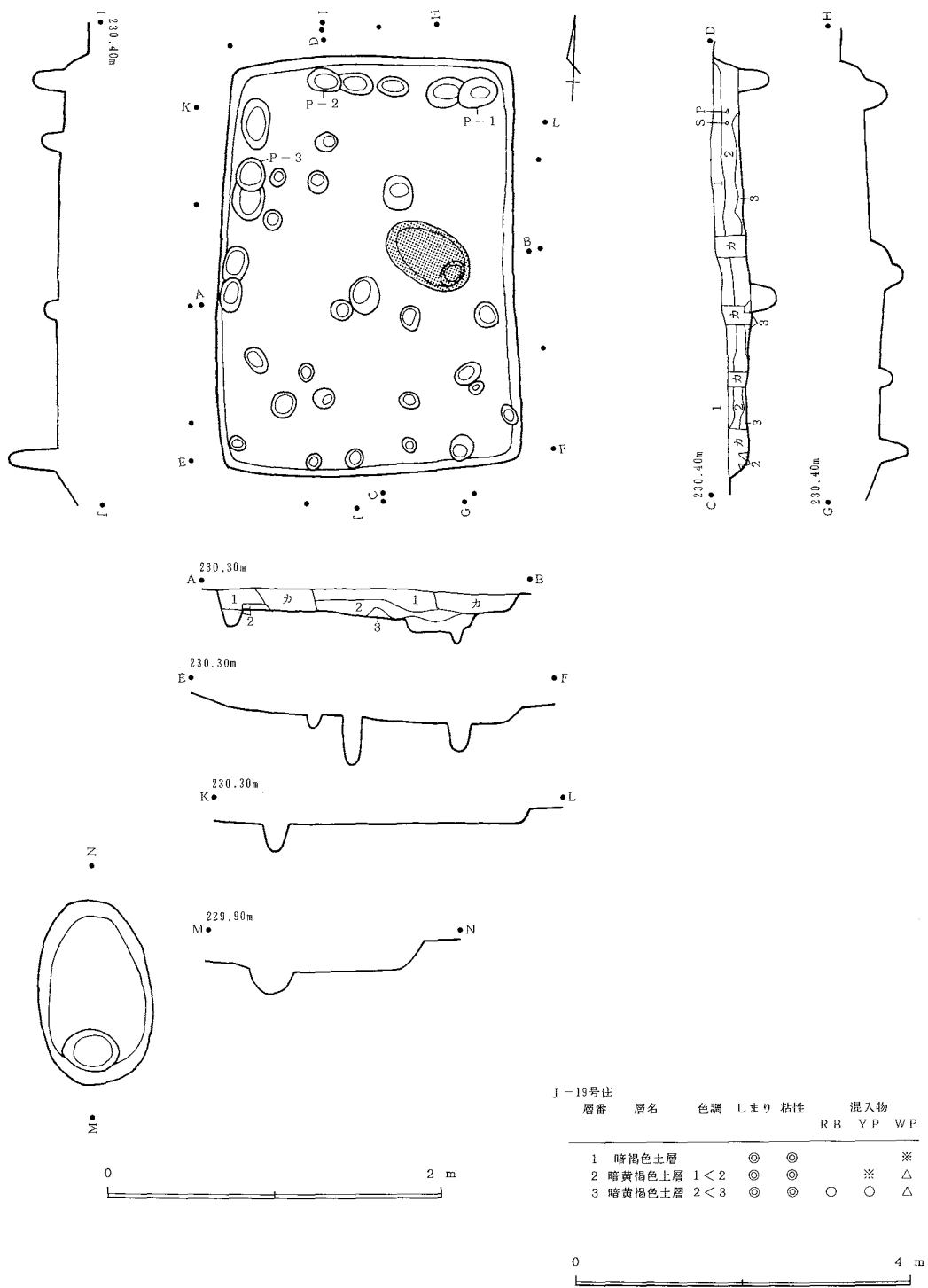
J-16号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					RB	YP	WP
1	黒褐色土層		◎	◎		※	○
2	黒褐色土層	1 < 2	◎	◎		△	○
3	黒褐色土層	2 < 3	◎	◎	△	△	○
4	赤褐色土層		◎	◎	○	△	○
5	褐色土層	3 < 5	◎	◎	△	△	○
6	黒褐色土層	4 > 6	◎	◎	△	○	○

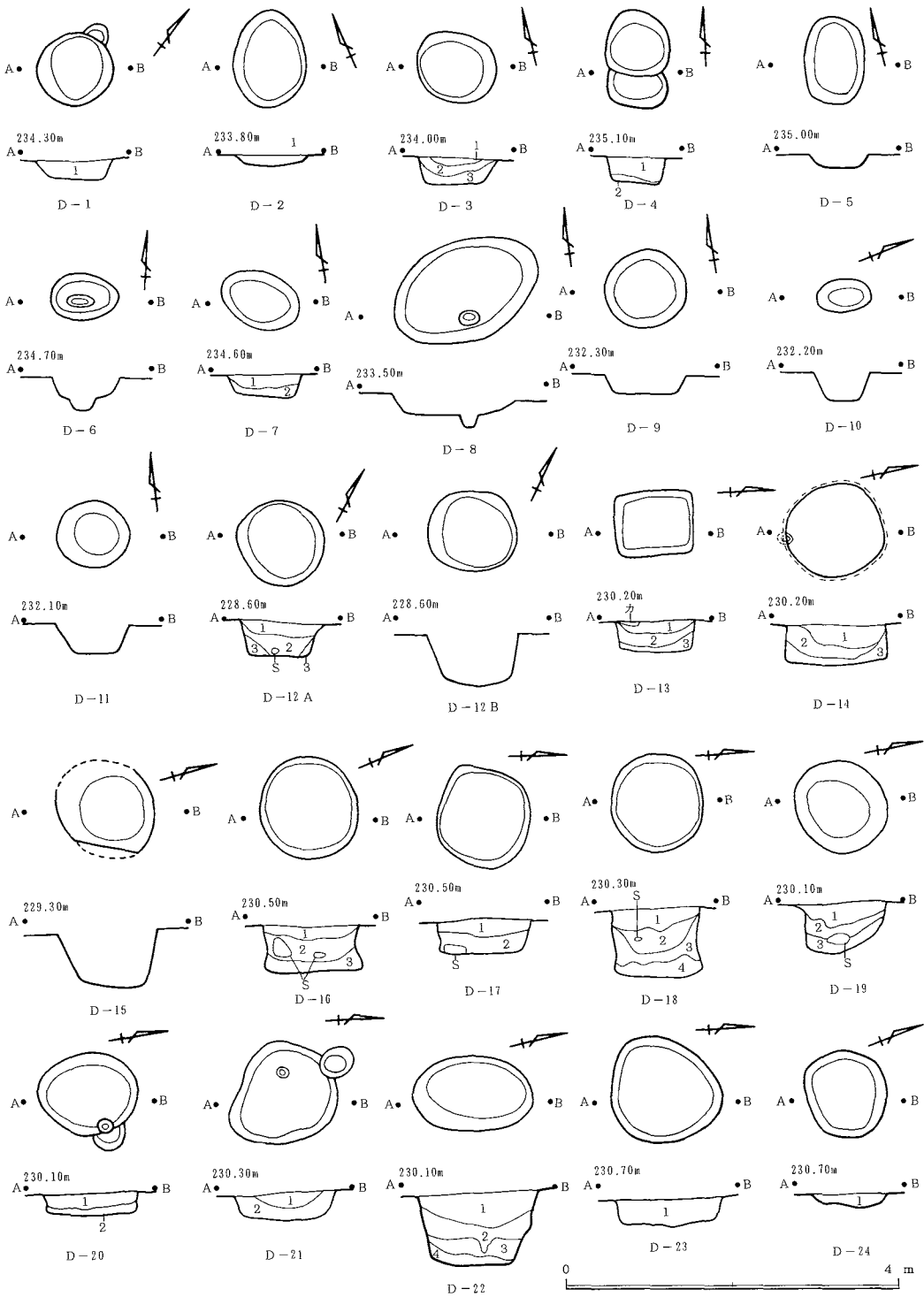
第19図 J-16号住居址実測図



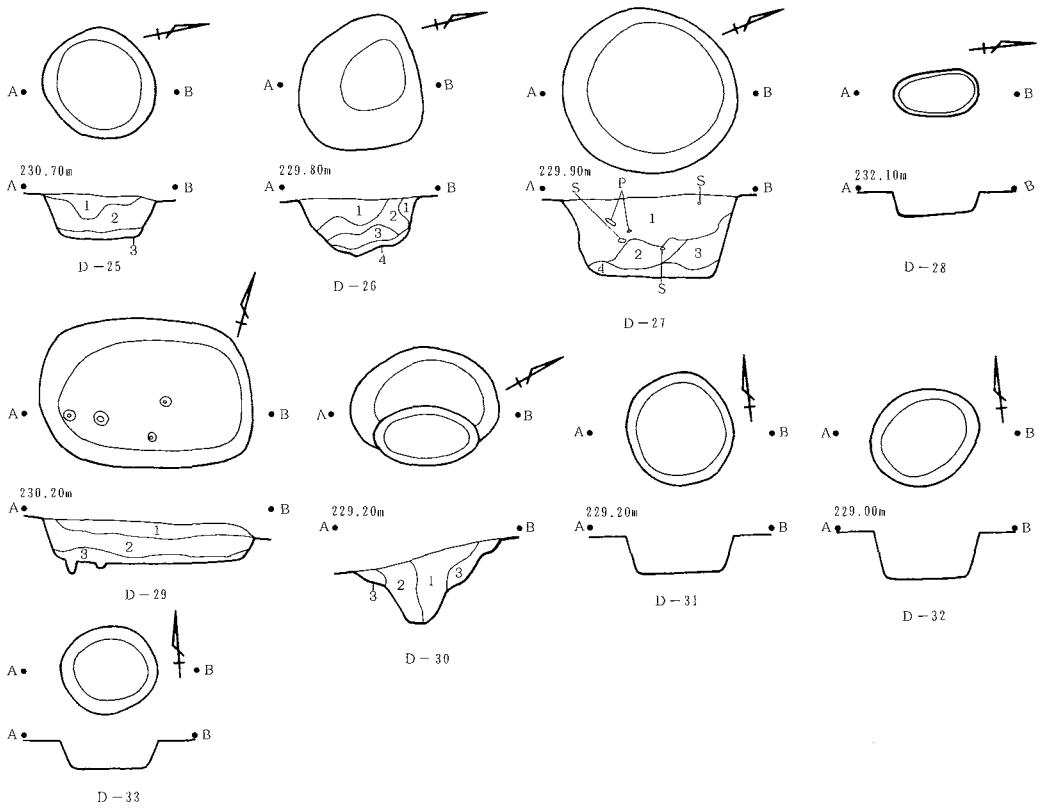
第20図 J-17号住居址実測図



第21図 J-19号住居址実測図



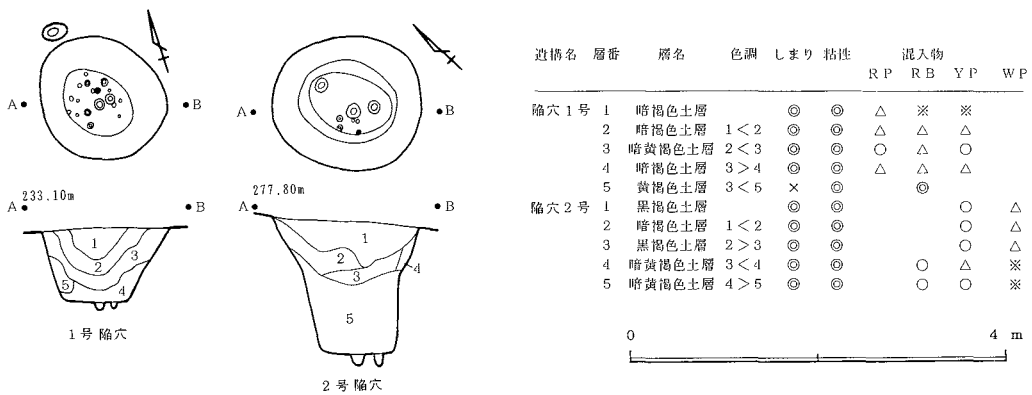
第22图 土坑实测图(1)



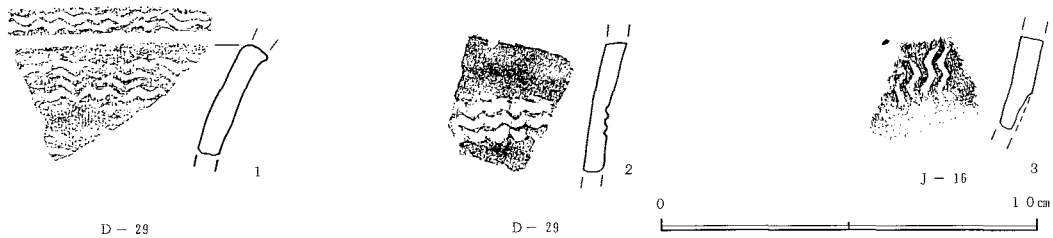
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
						RP	RB	YP	WP	炭化物
D-1	1	暗褐色土層	◎	◎	※	※				※
D-2	1	暗褐色土層	◎	◎	△					
D-3	1	暗褐色土層	◎	◎	※	※	※			
	2	暗褐色土層	◎	◎	※	△	※			
	3	暗黄褐色土層	◎	◎	△		※			
D-4	1	暗褐色土層	○	○	※					
	2	暗褐色土層	◎	◎	△	※				
D-7	1	暗褐色土層	○	○	※	※				
D-13	1	暗褐色土層	◎	◎	△		△	△		
	2	暗褐色土層	◎	◎	◎		○	△	※	
	3	暗黄褐色土層	◎	◎	◎		○	※		
D-14	1	黒褐色土層	◎	◎	△	△	△	△		
	2	暗黒褐色土層	◎	◎	△	△	△	△		
	3	暗黄褐色土層	◎	◎	○	△	※			
D-15	1	黒褐色土層	◎	○						
	2	黒褐色土層	◎	○	※	※	○	△		
	3	黒褐色土層	◎	○		△	△	△		
D-17	1	黒褐色土層	◎	○	※			※		
	2	黒褐色土層	◎	○				※		
D-18	1	黒褐色土層	◎	○	△		※	△		
	2	黒褐色土層	◎	○	△		※	△		
	3	黒褐色土層	◎	○	※		※			
	4	黒褐色土層	◎	○	△	△	※			
D-19	1	黒褐色土層	◎	○	△		※	△		
	2	黒褐色土層	◎	○	△		※	※		
	3	黒褐色土層	◎	○	△		※	※		
D-20	1	暗褐色土層	◎	○	※					△
	2	暗黄褐色土層	1<2	◎	◎					
D-21	1	暗褐色土層	◎	○	※		※	△		△
	2	暗褐色土層	1<2	◎	○	※		△	○	△
D-22	1	黒褐色土層	◎	○	※		△	※	※	※
	2	黒褐色土層	1<2	◎	○	△		△		※
	3	暗黄褐色土層	2<3	○	○	○		○		○
	4	黄色土層	3<4	○	◎	◎				
D-23	1	黒褐色土層	◎	○			※	※		△
D-24	1	暗褐色土層	◎	○	※			※	※	※
D-25	1	黒褐色土層	◎	○						※
	2	黒褐色土層	1<2	◎	○	※		※		△
	3	黒褐色土層	2>3	◎	○	△				
D-26	1	黒褐色土層	◎	○	※					※
	2	暗黄褐色土層	1<2	◎	○	○		※		△
	3	黒褐色土層	2>3	◎	○	※				※
	4	黄褐色土層	3<4	◎	◎	◎				
D-27	1	黒褐色土層	◎	○	※		※	○	△	遺物多量
	2	暗褐色土層	1<2	○	○	△		△	※	※
	3	黒褐色土層	2>3	◎	○	※		※	△	※
	4	暗褐色土層	3<4	○	○	△		○	※	×
D-29	1	黒褐色土層	◎	○				※		△
	2	黒褐色土層	1<2	◎	○	△		△	○	△
	3	暗褐色土層	2<3	◎	○	△		△	△	△
D-30	1	黒色土層	○	○	※					
	2	黒褐色土層	1<2	○	○	※				△
	3	暗褐色土層	2<3	○	○	△				※



第23図 土坑実測図(2)

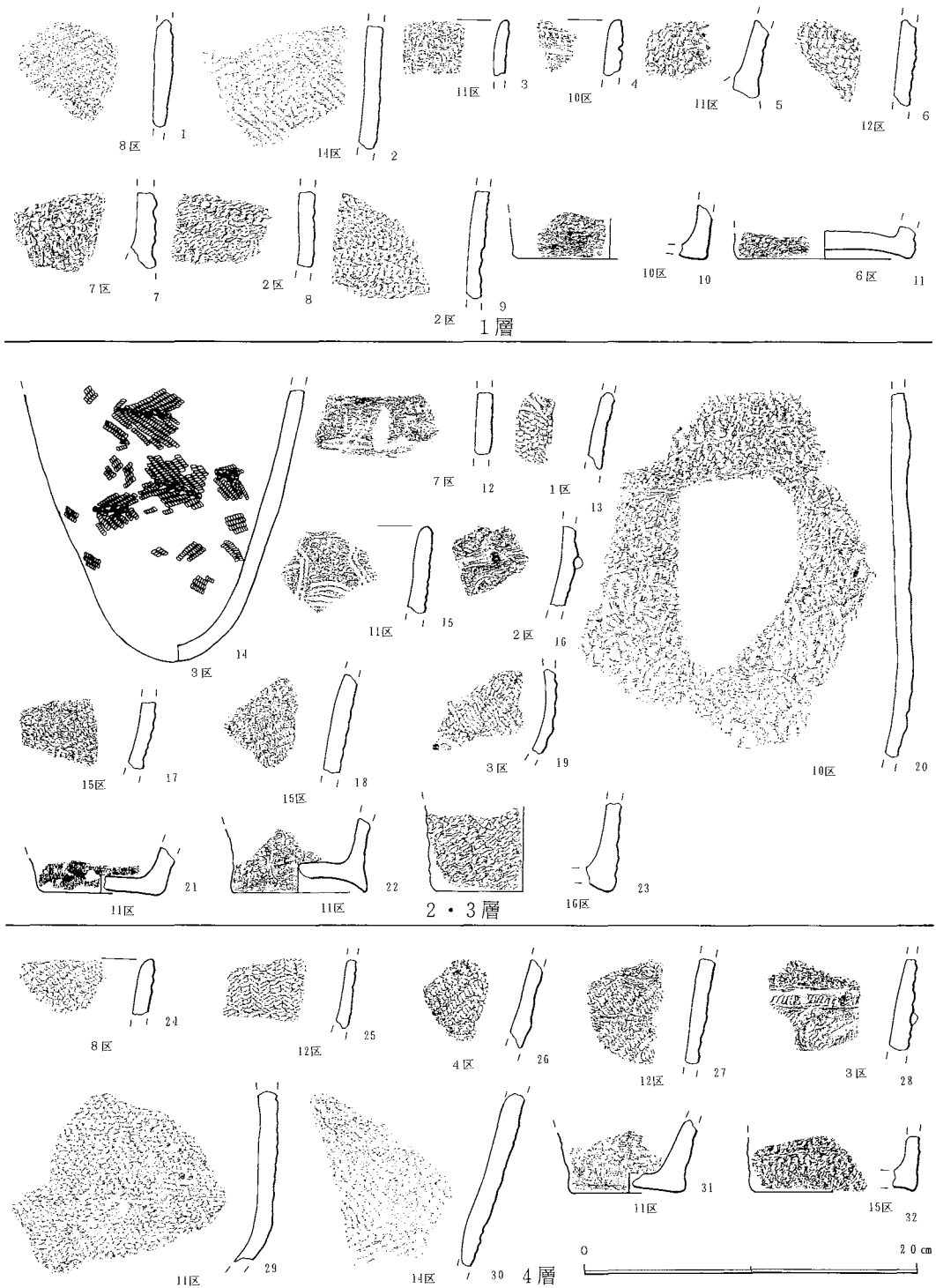


第24図 陥穴1号・陥穴2号実測図

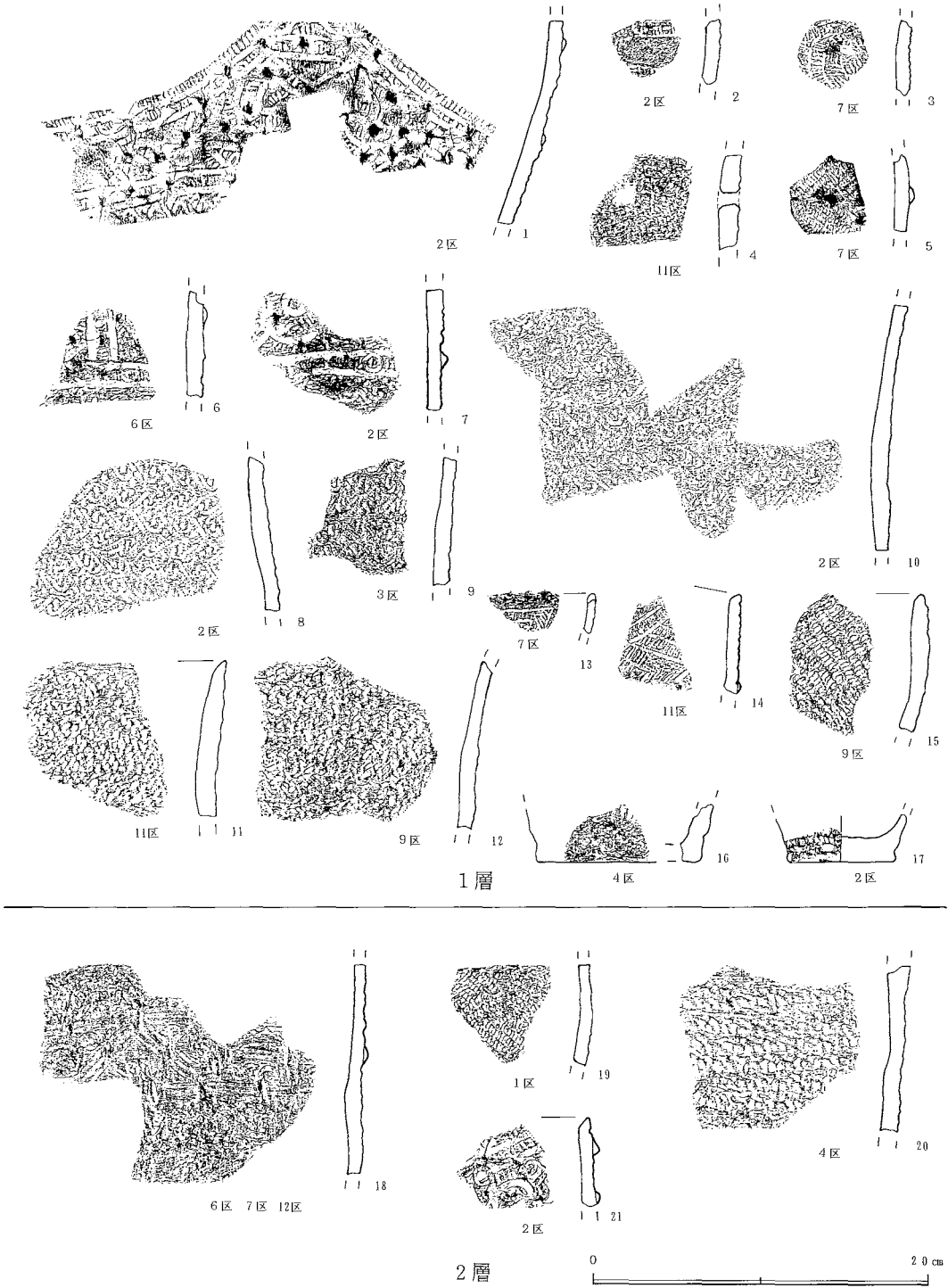


第25図 縄文時代早期の土器

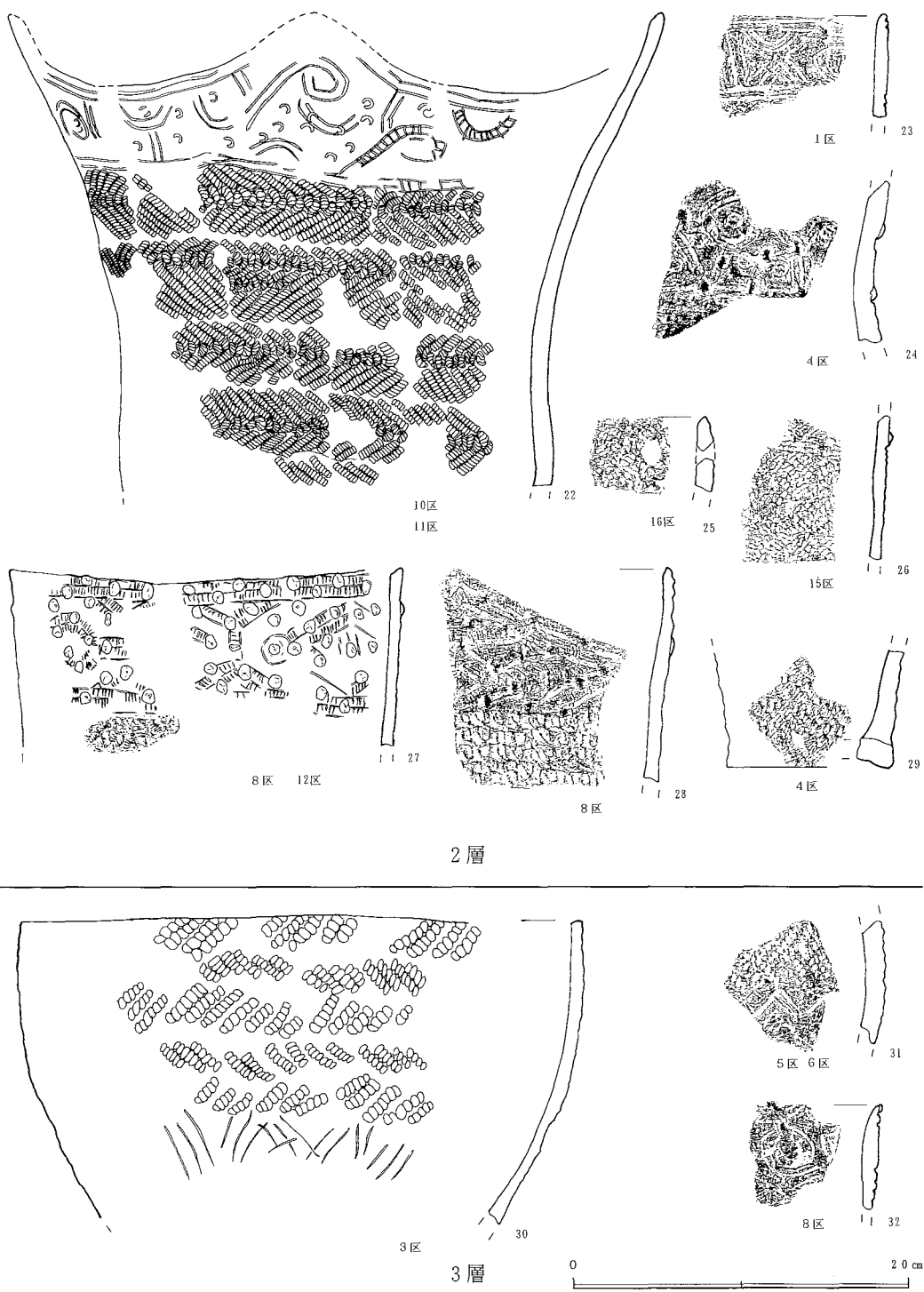




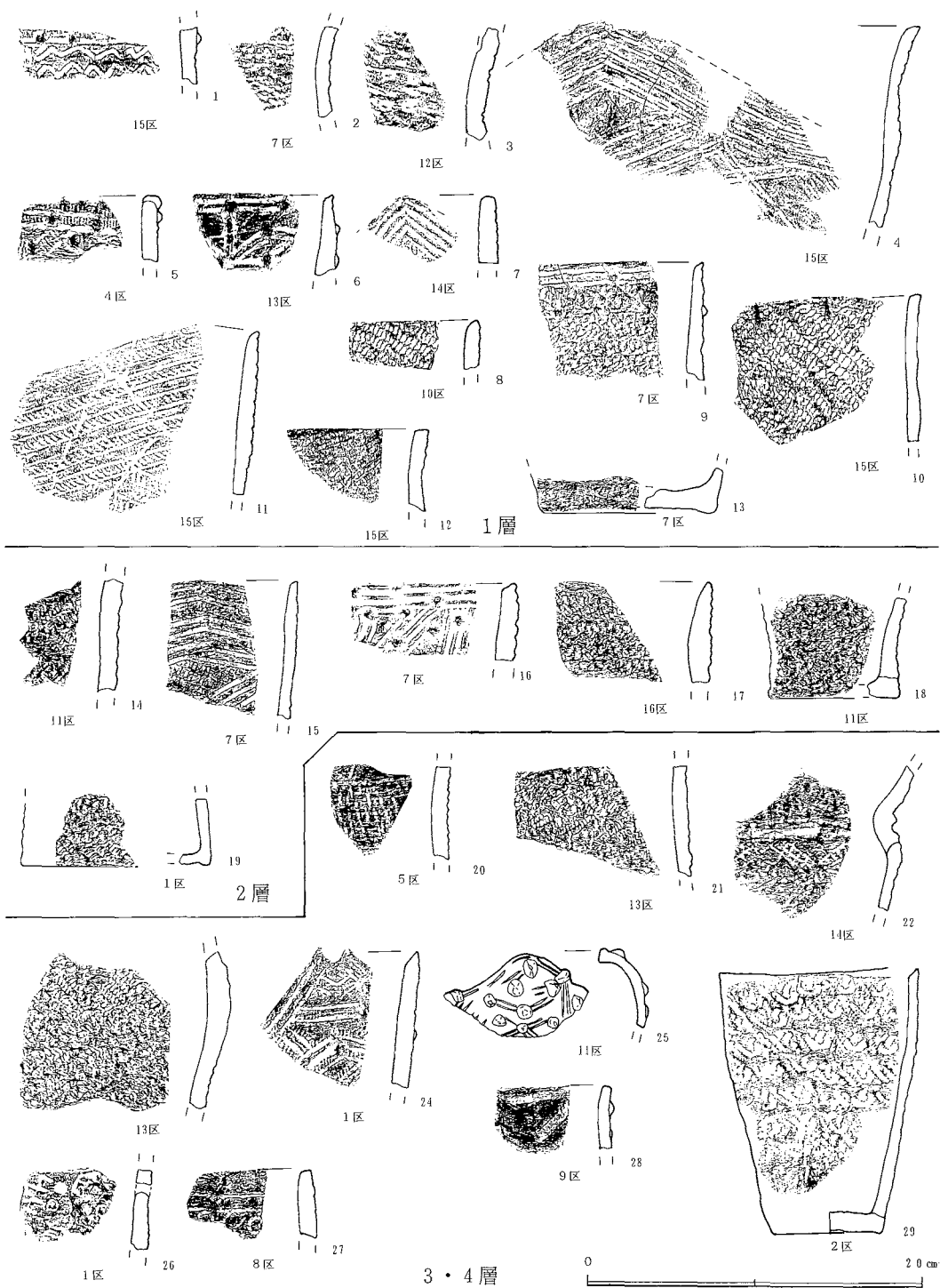
第26図 J-1号住居址出土の遺物



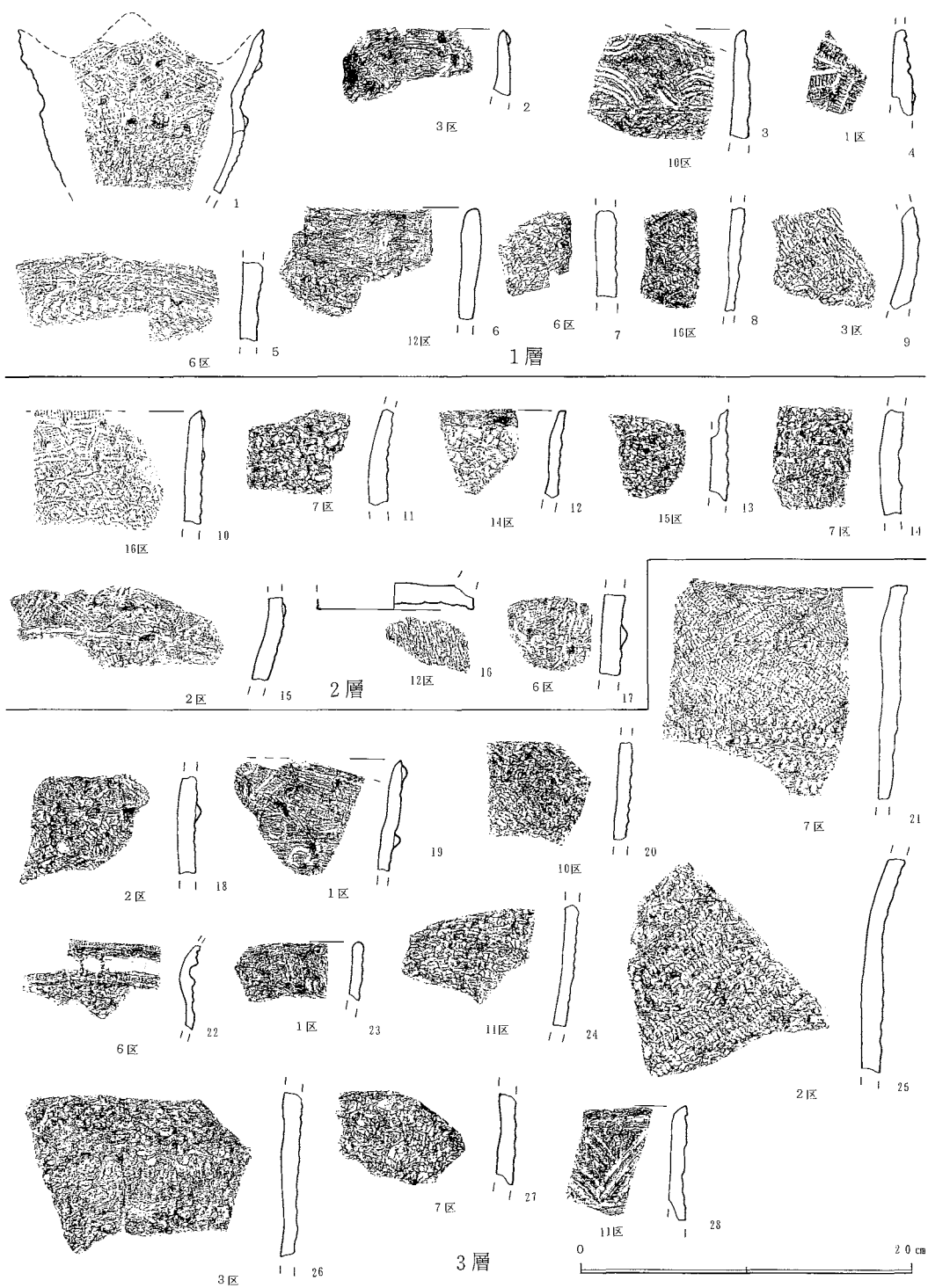
第27図 J-3号住居址出土の遺物(1)



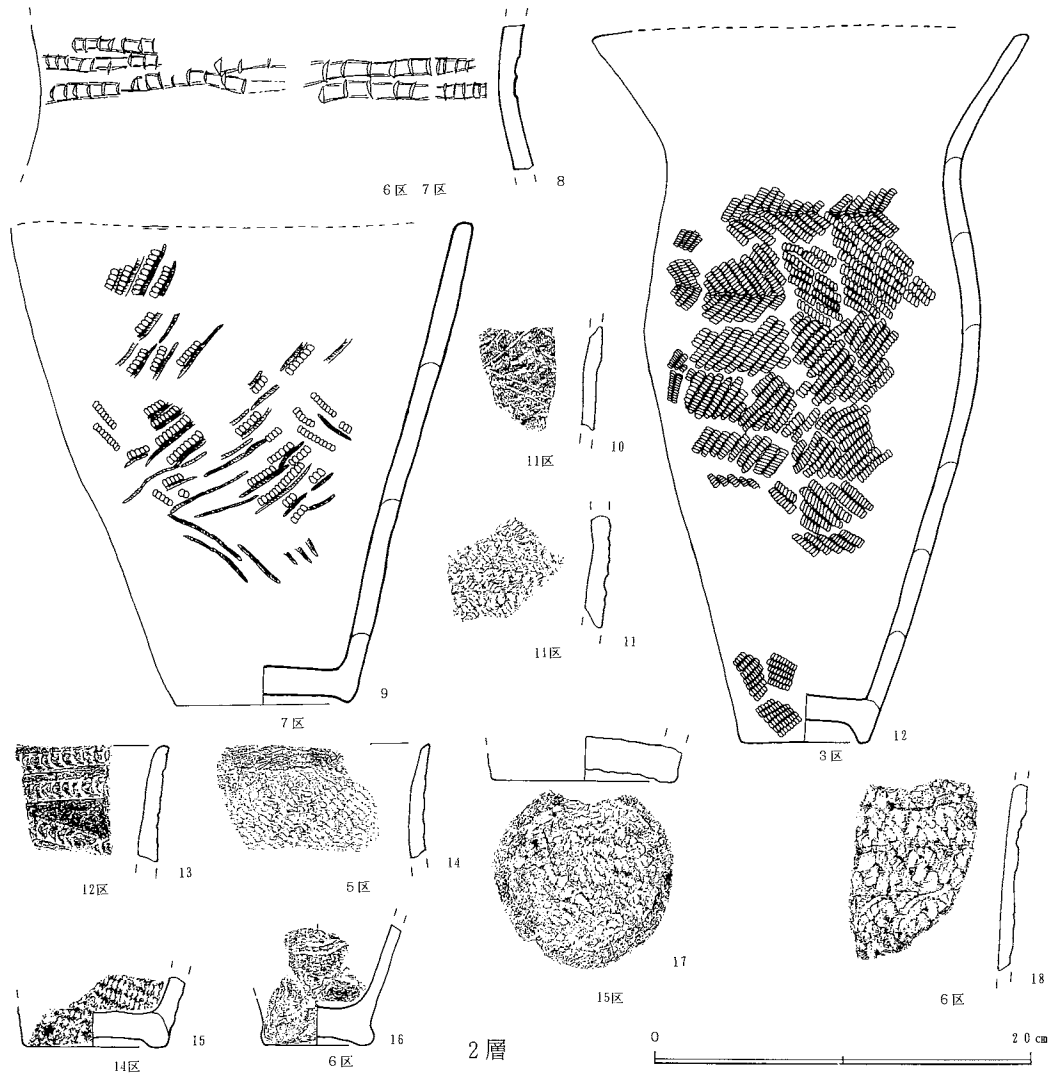
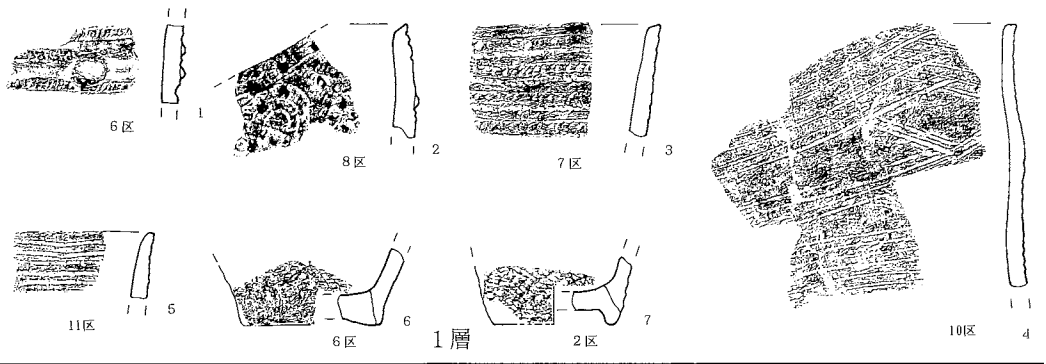
第28図 J-3号住居址出土の遺物(2)



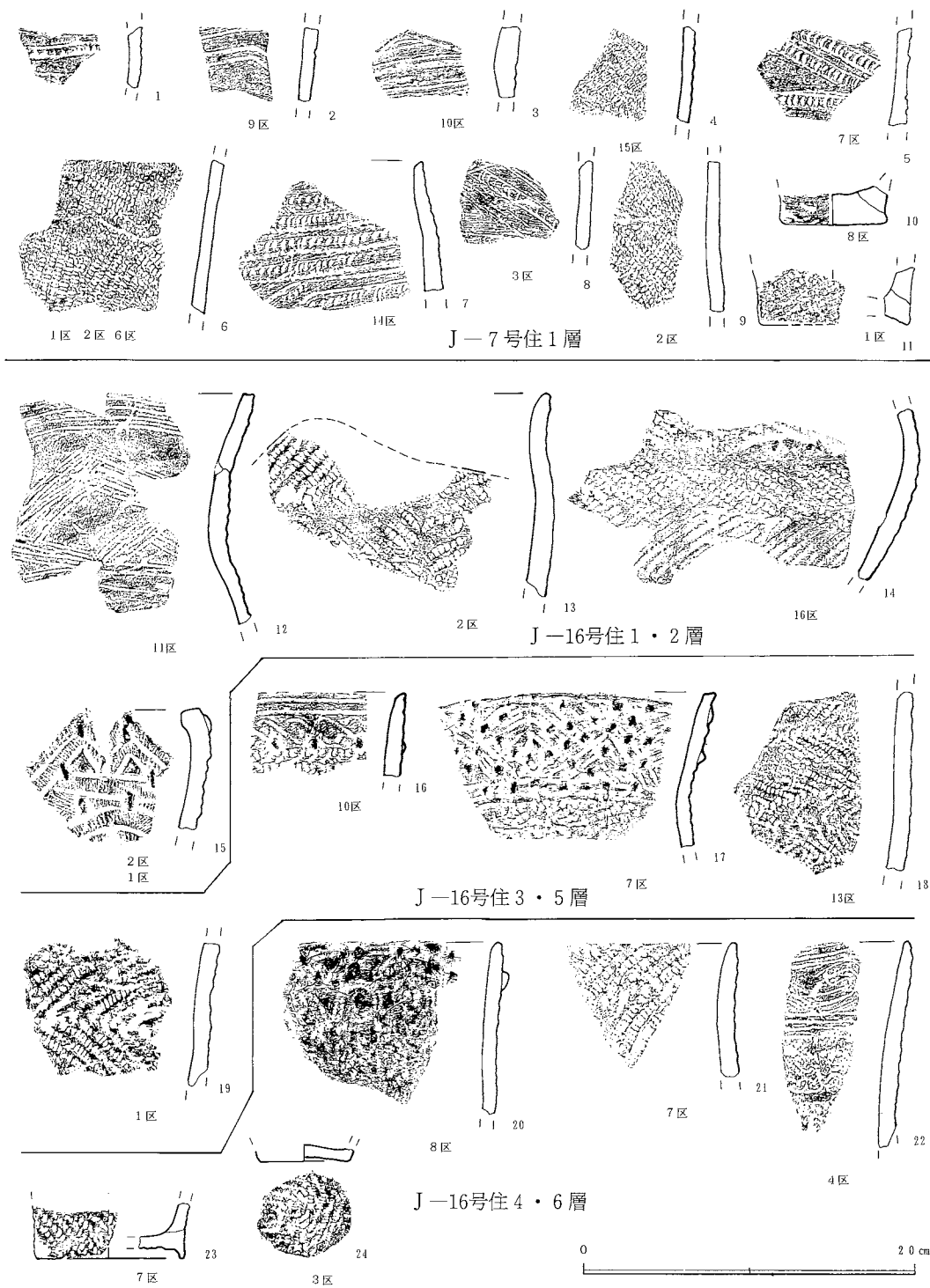
第29図 J-4号住居址出土の遺物



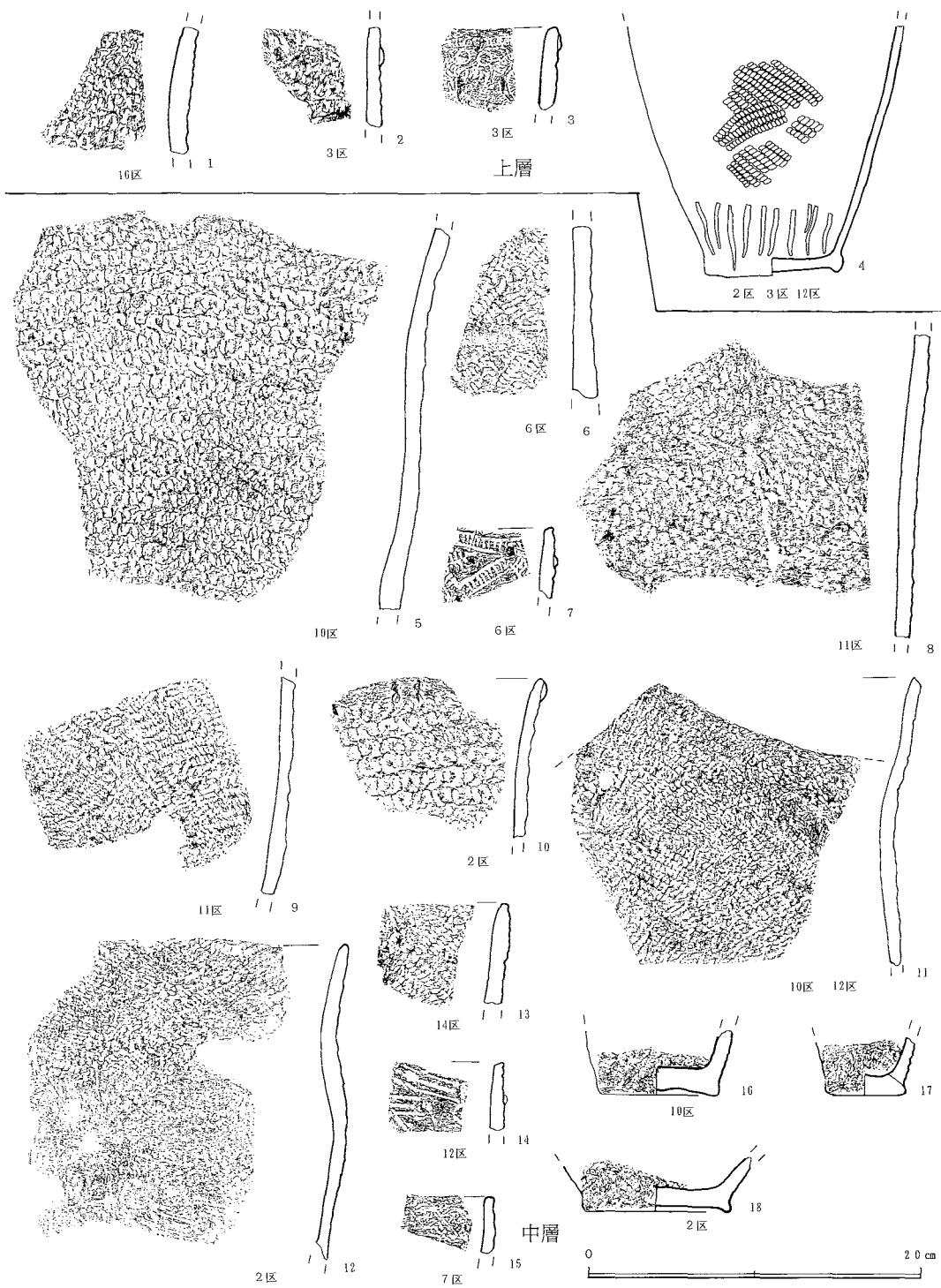
第30図 J-5号住居址出土の遺物



第31図 J-6号住居址出土の遺物

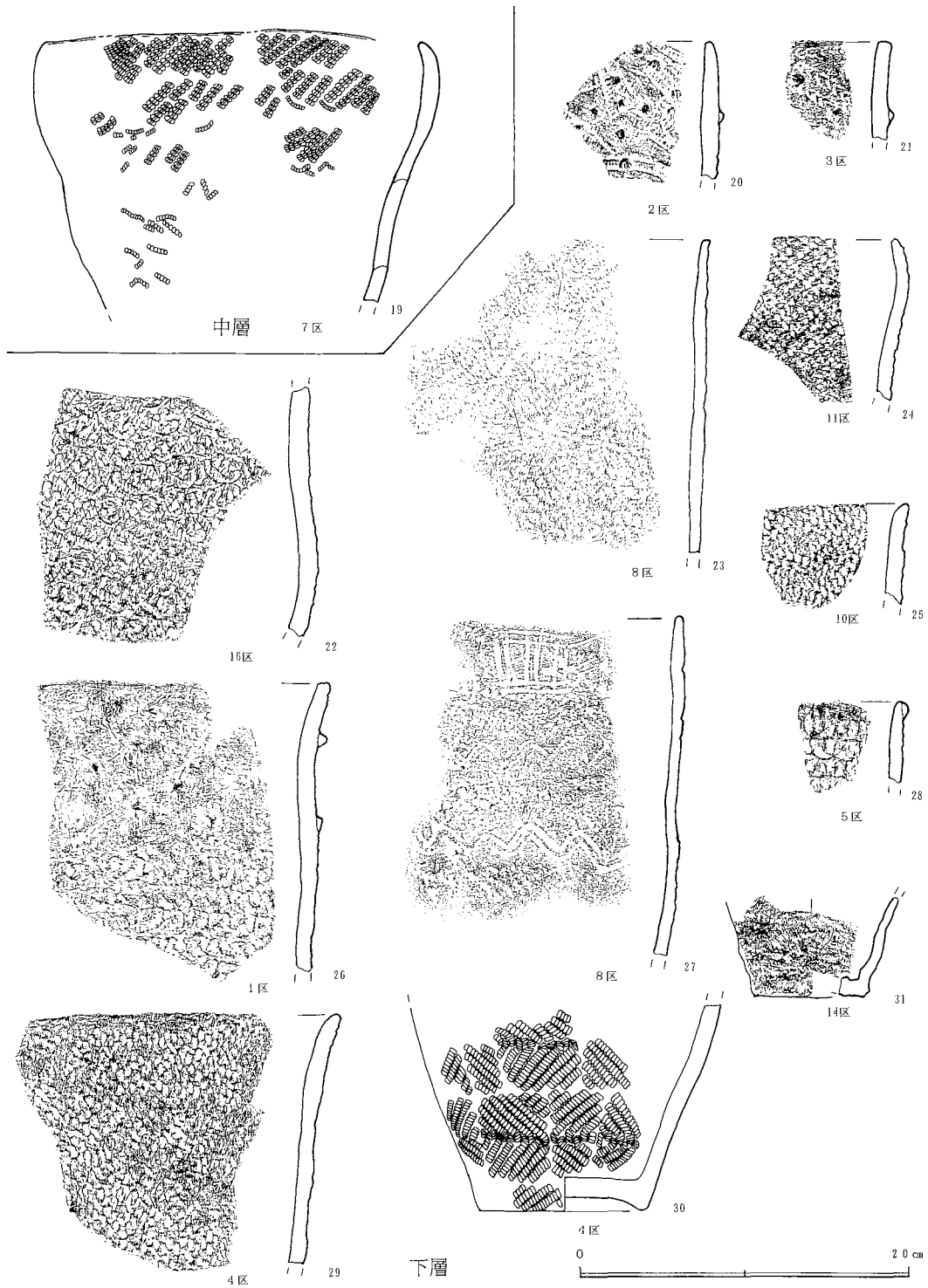


第32図 J-7号・16号住居址出土の遺物

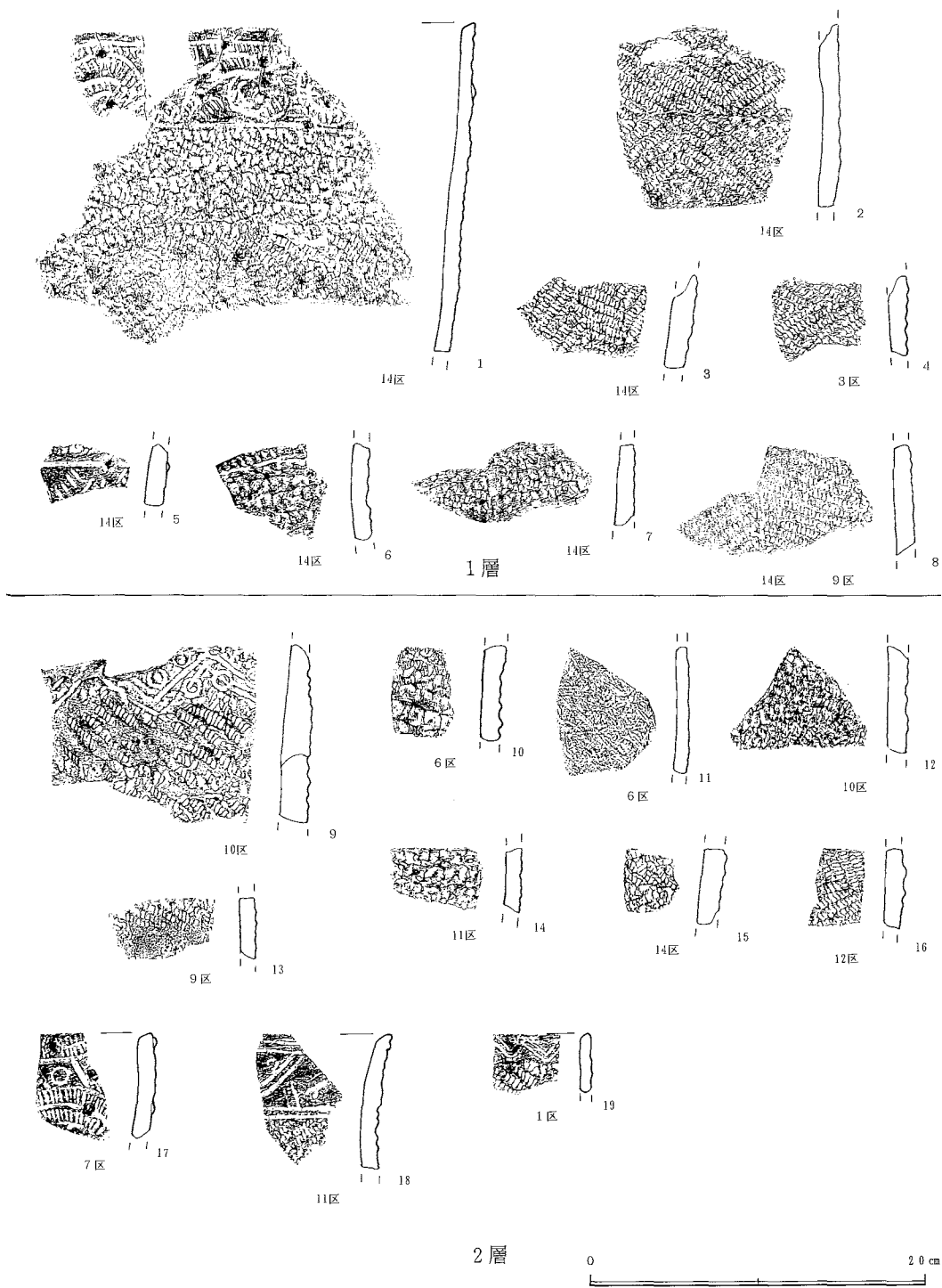


第33図 J-8号住居址出土の遺物(1)

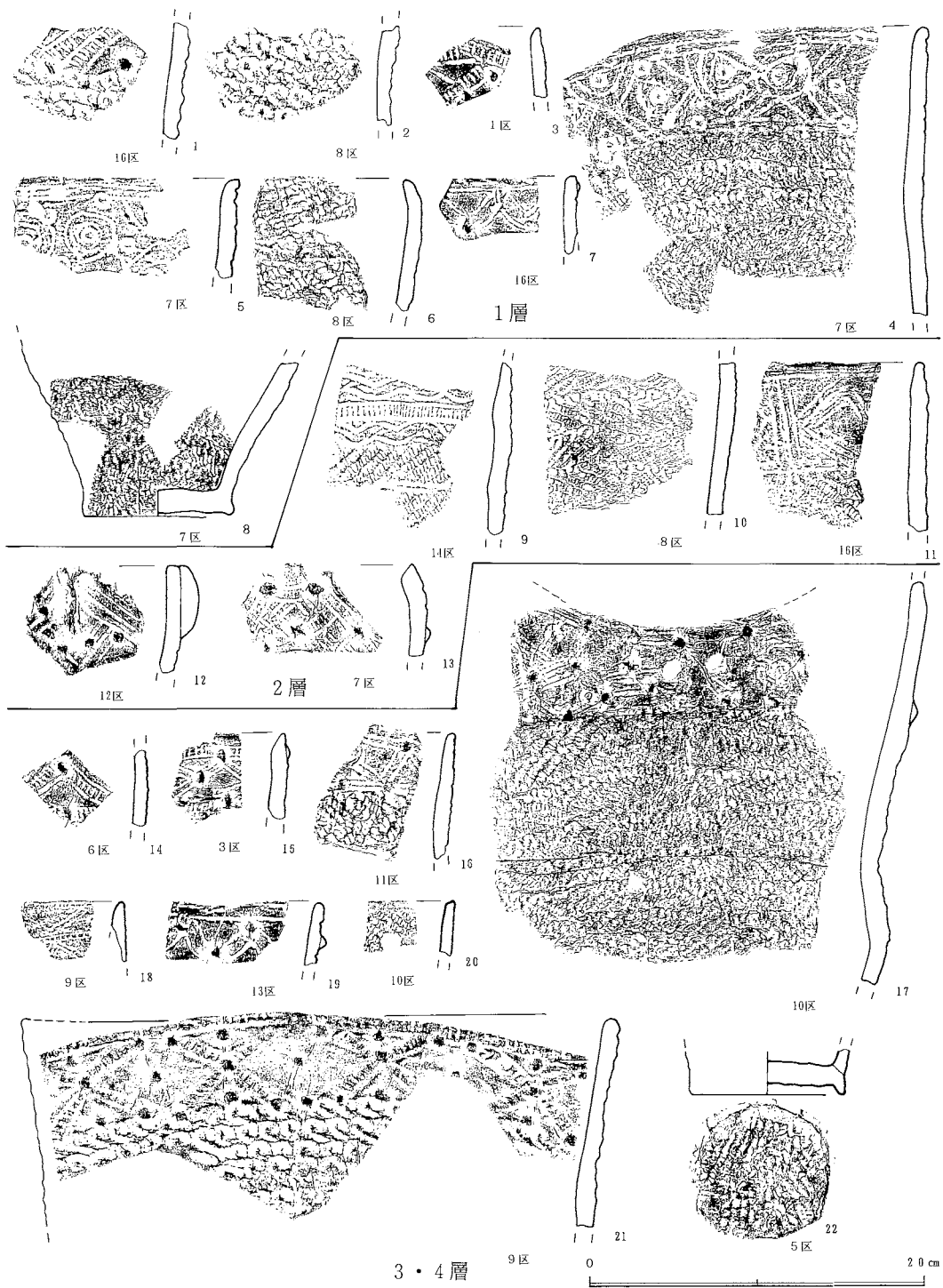




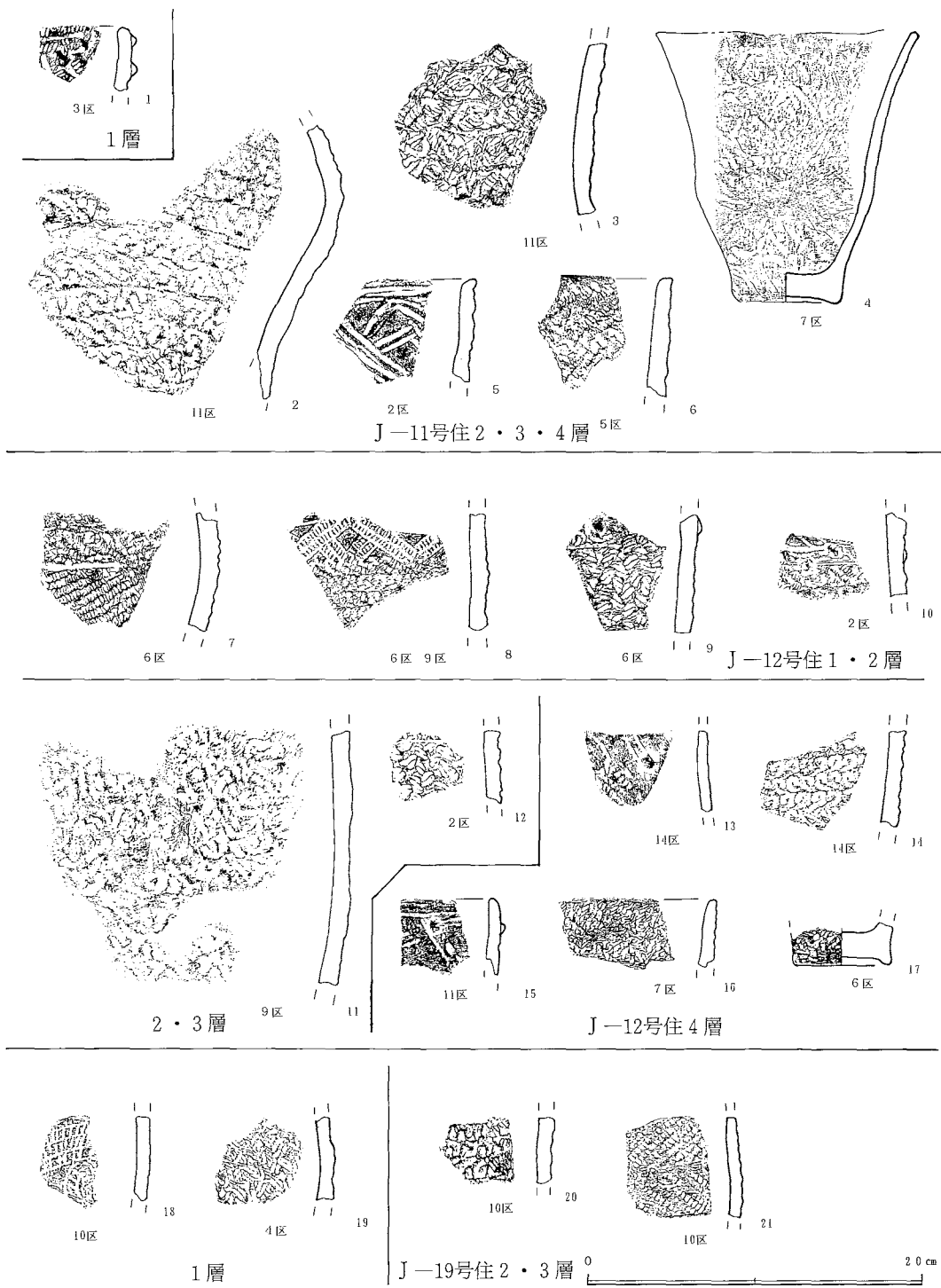
第34図 J-8号住居址出土の遺物(2)



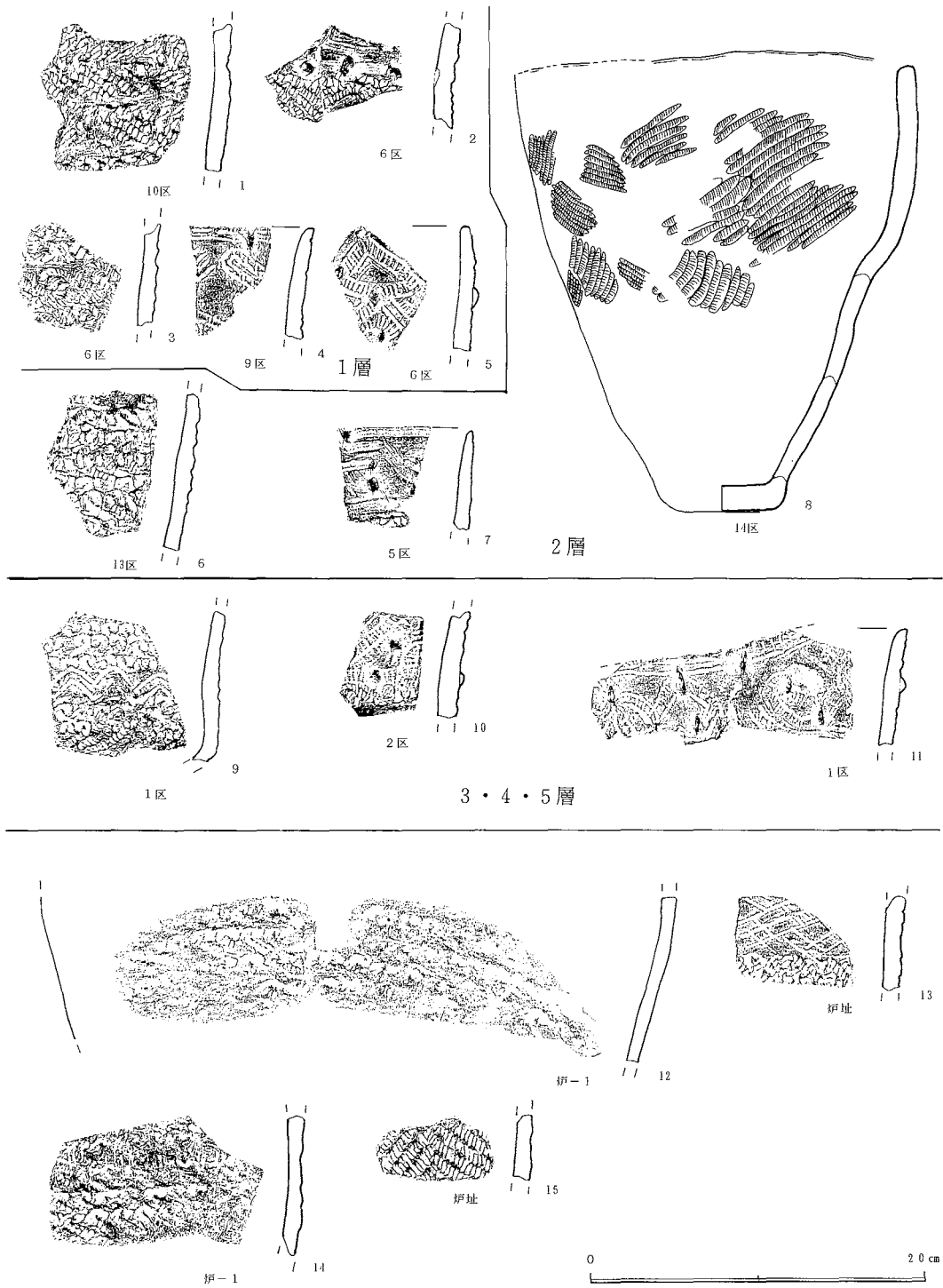
第35図 J-9号住居址出土の遺物



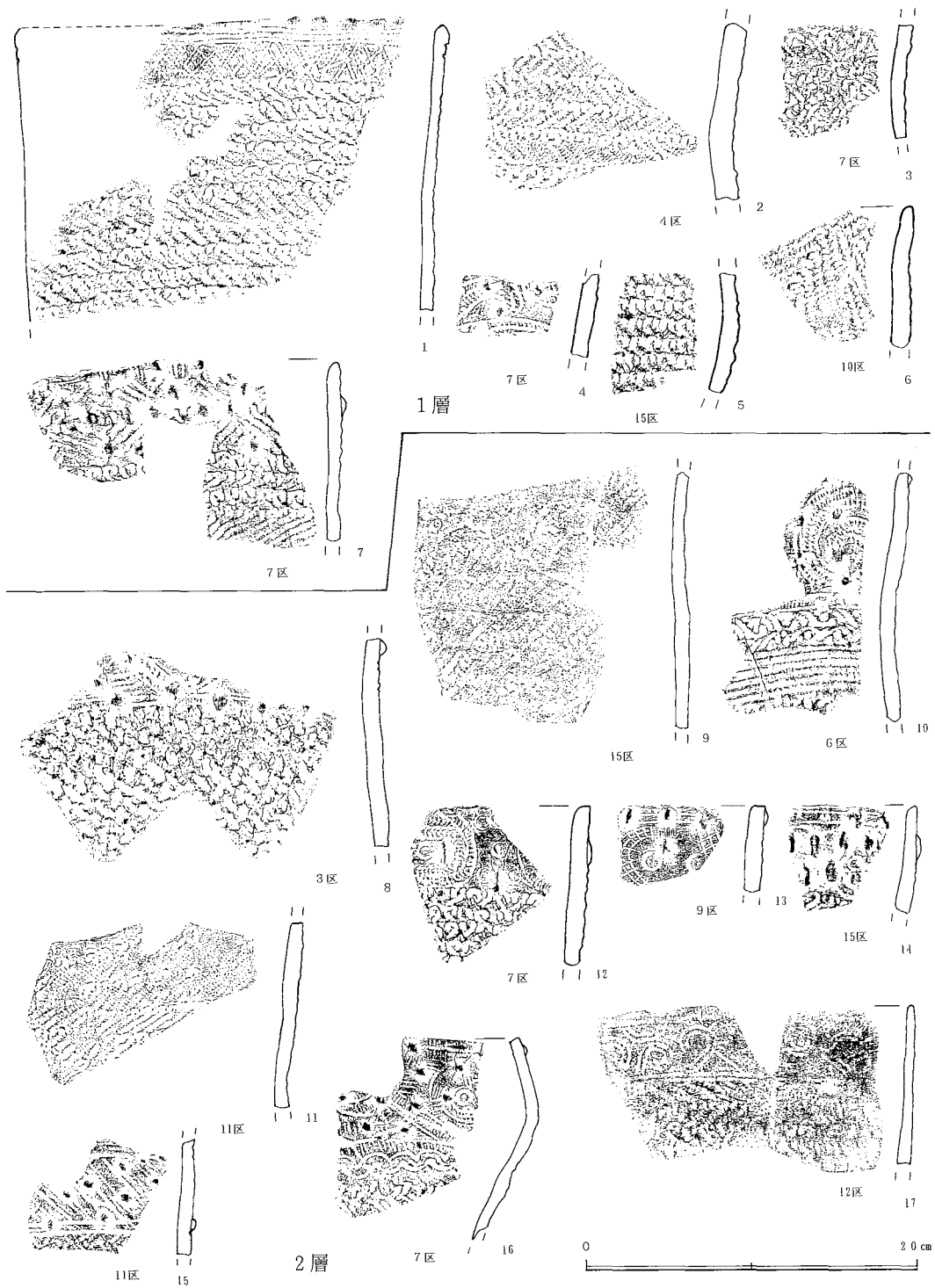
第36図 J-10号住居址出土の遺物



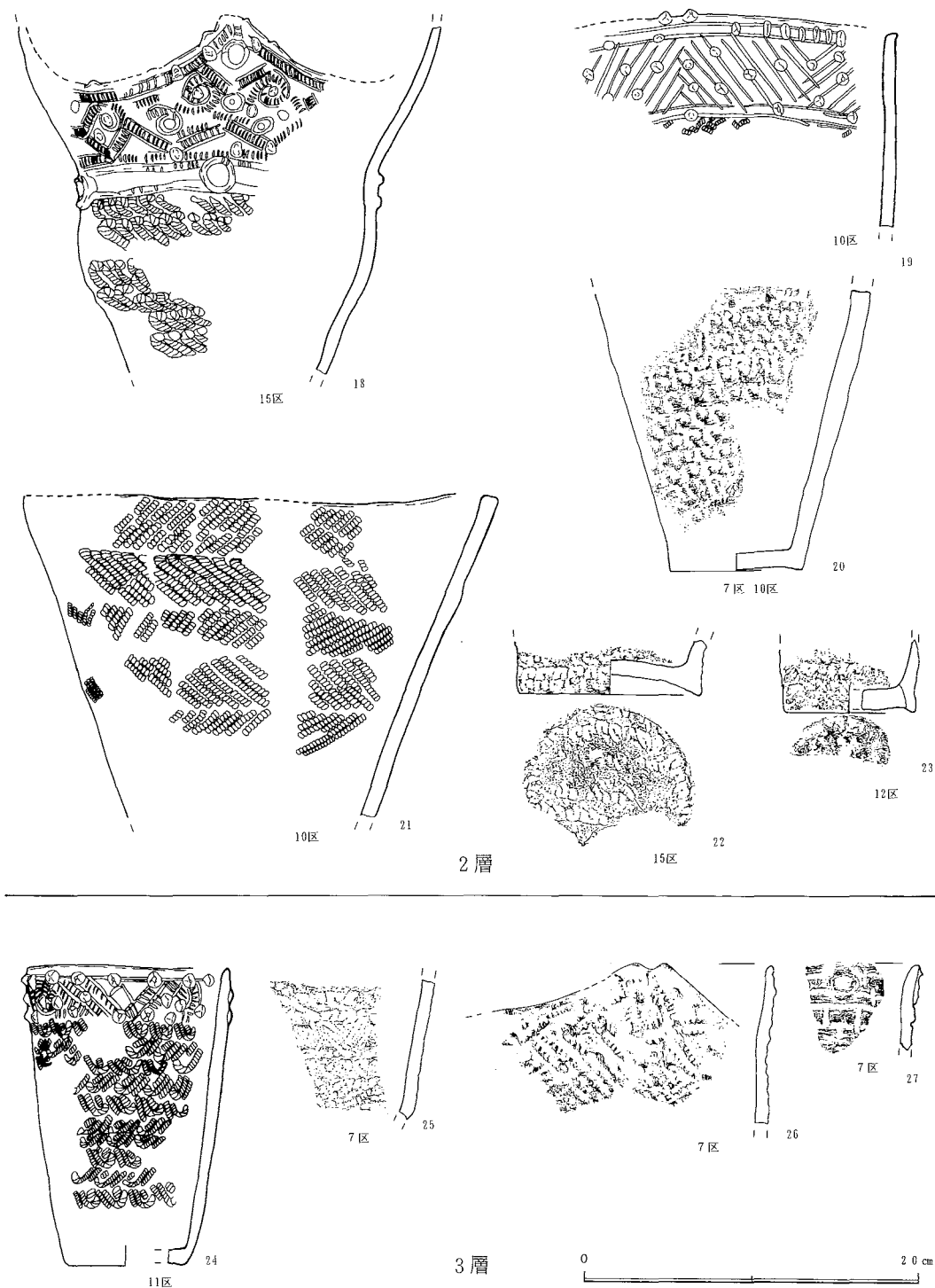
第37図 J-11・12・19号住居址出土の遺物



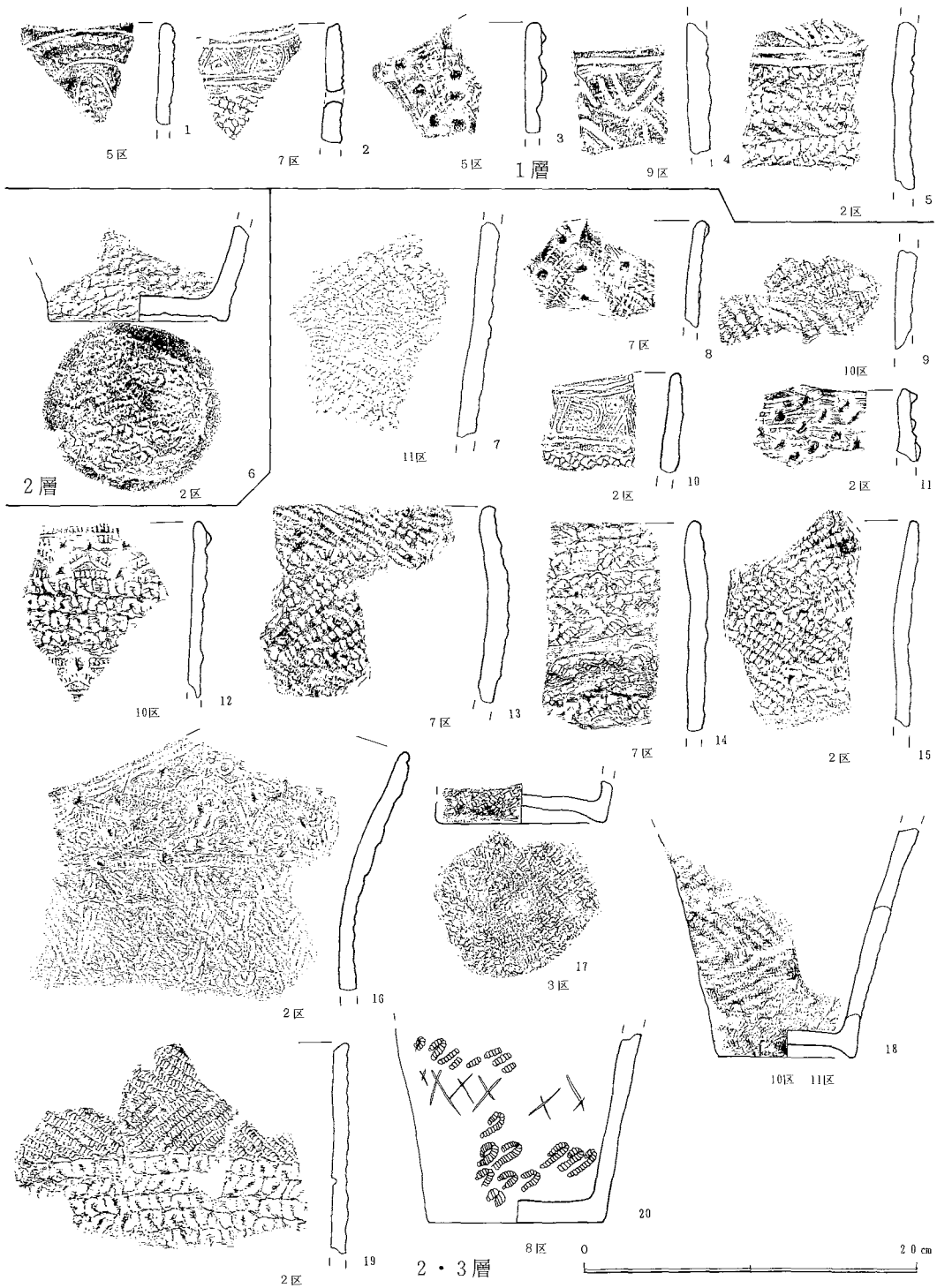
第38図 J-14号住居址出土の遺物



第39図 J-15号住居址出土の遺物(1)

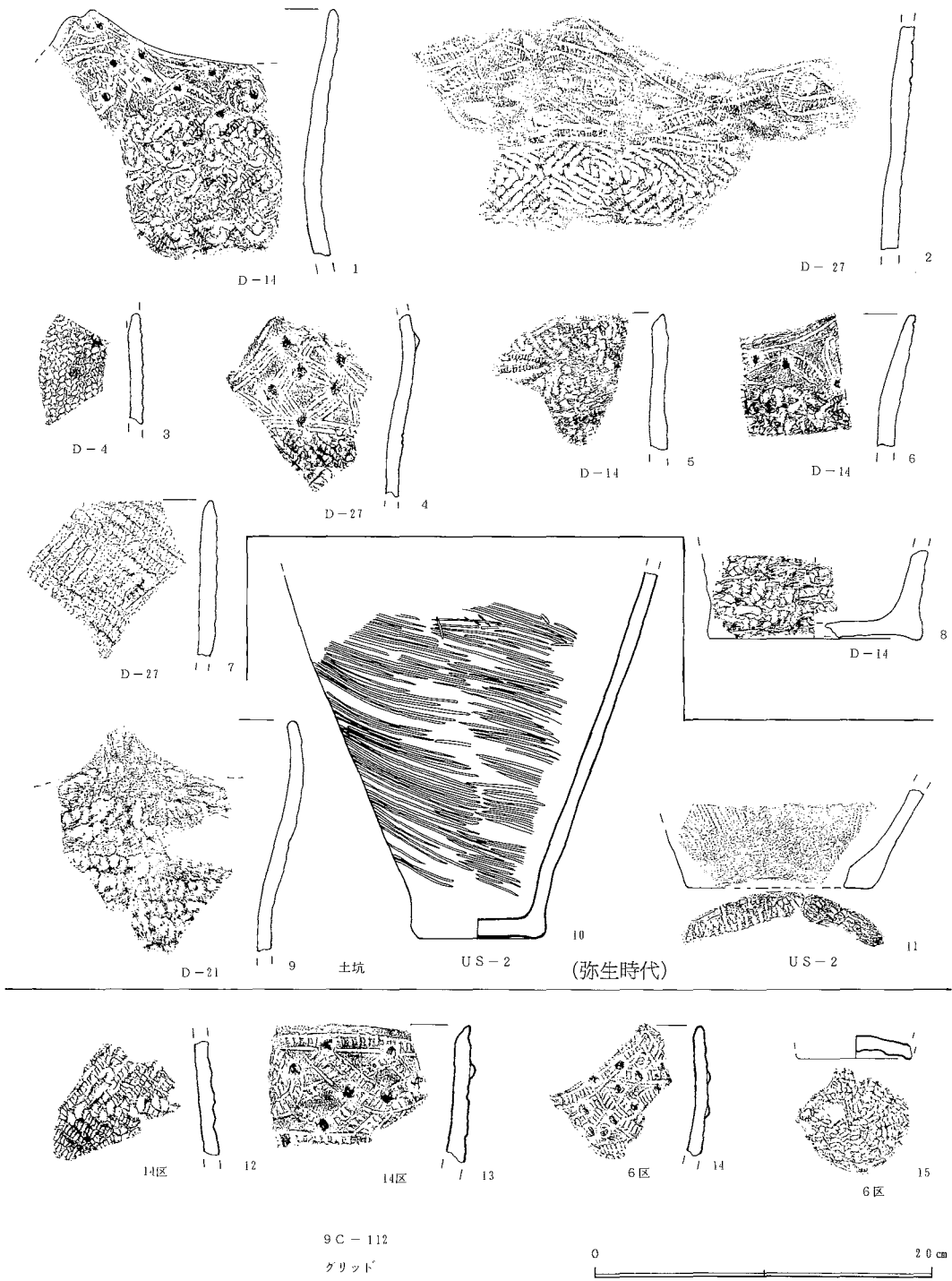


第40図 J-15号住居址出土の遺物(2)

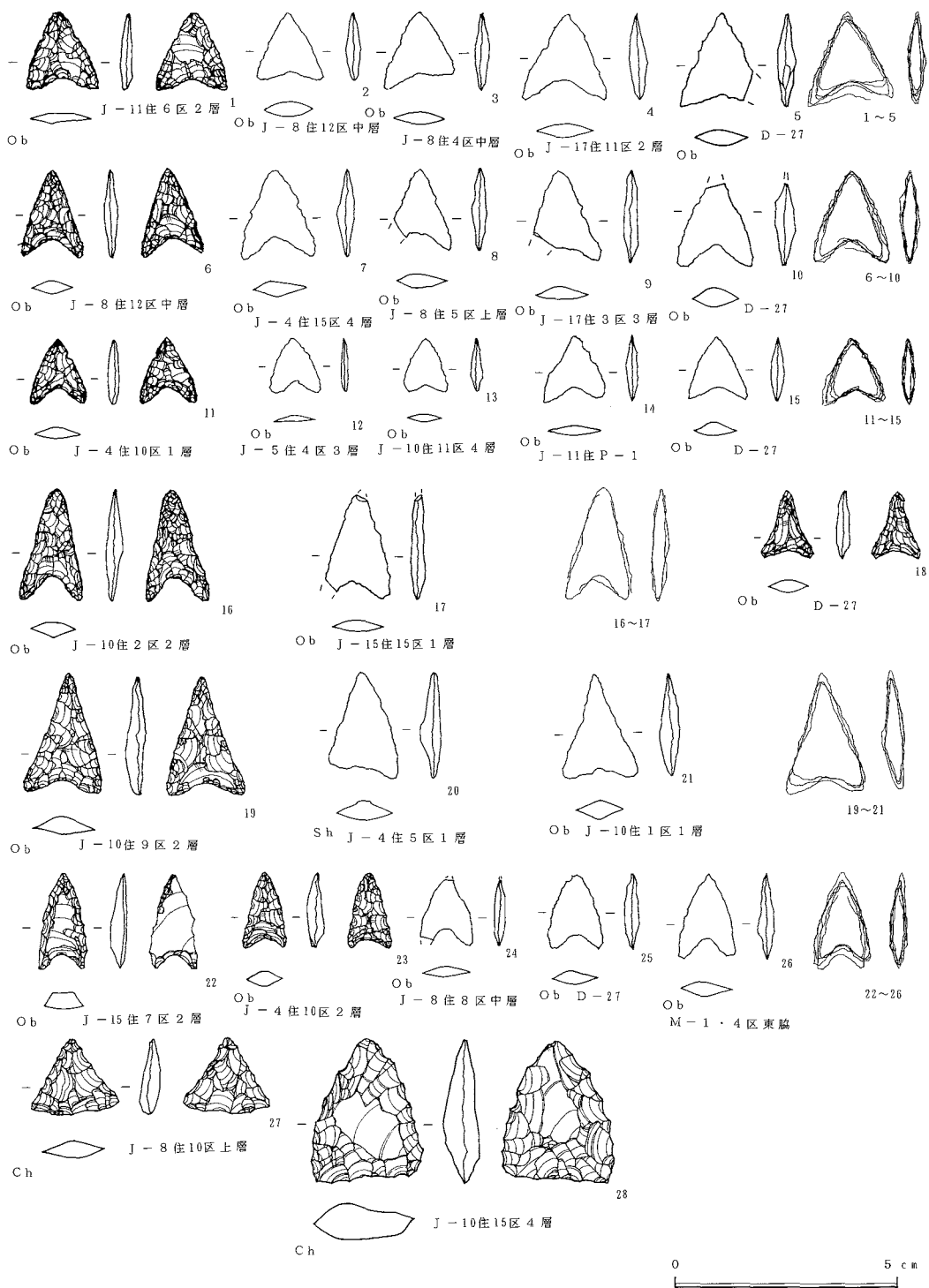


第41図 J-17号住居址出土の遺物

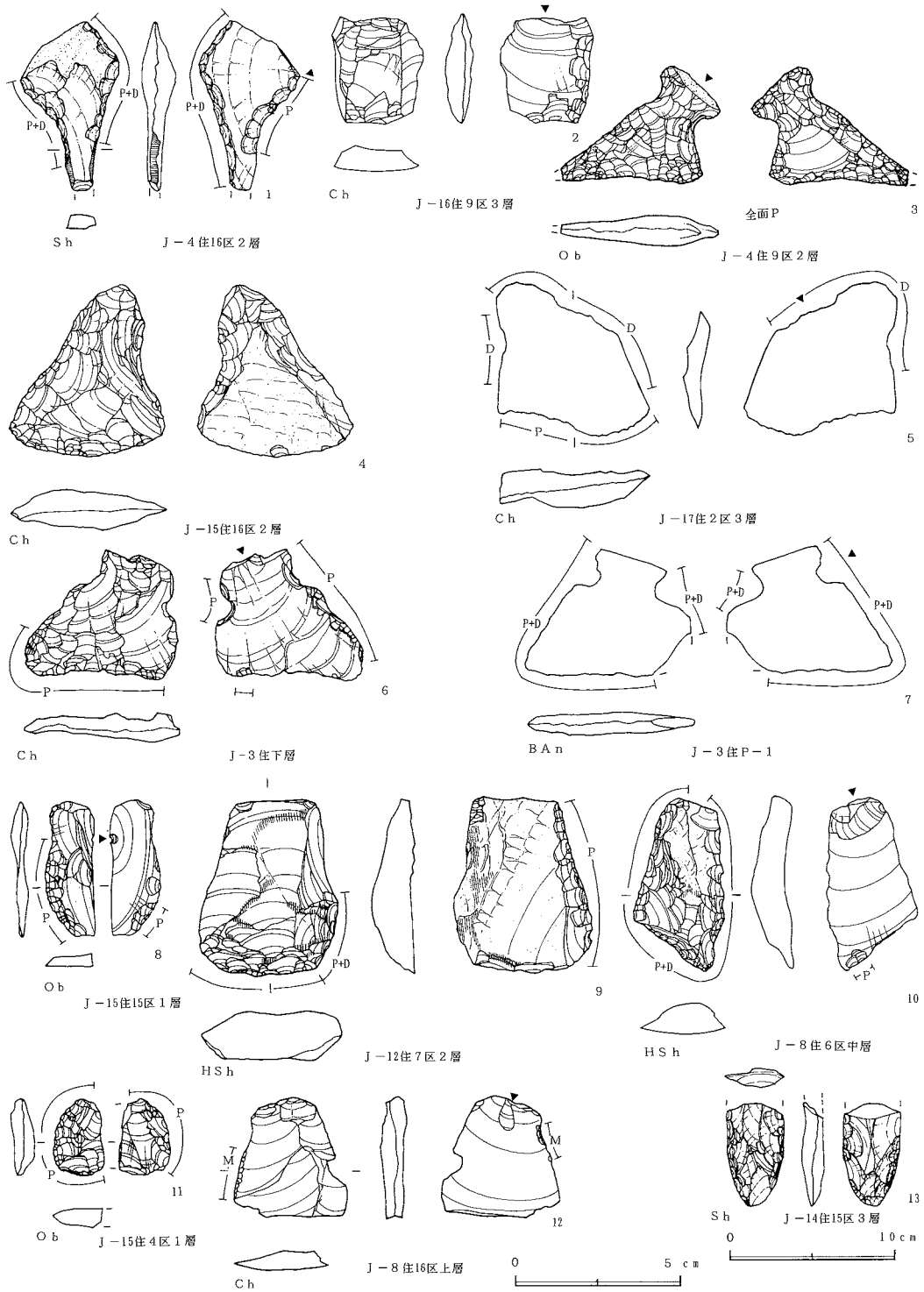




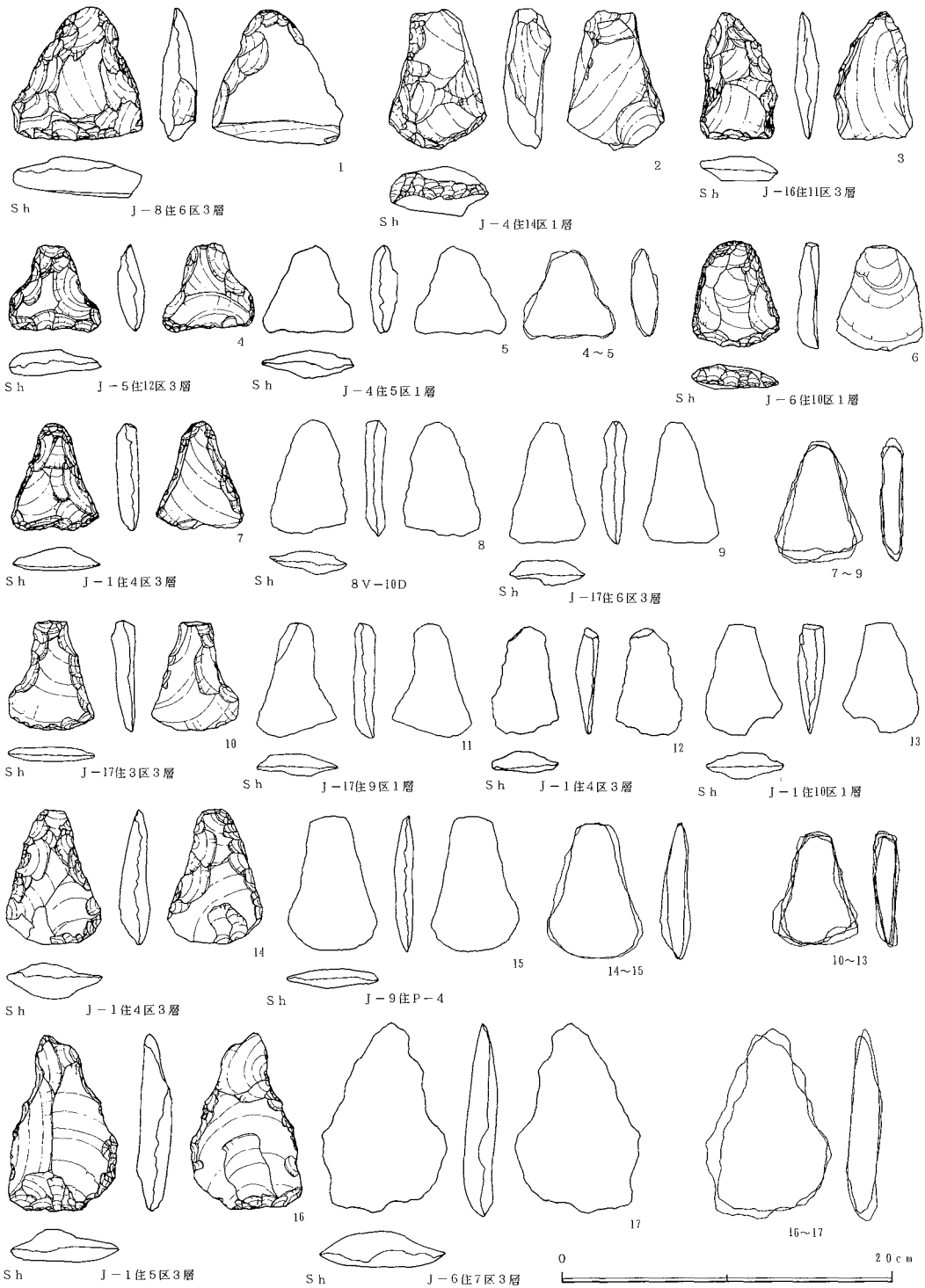
第42図 土坑・グリッド出土の遺物



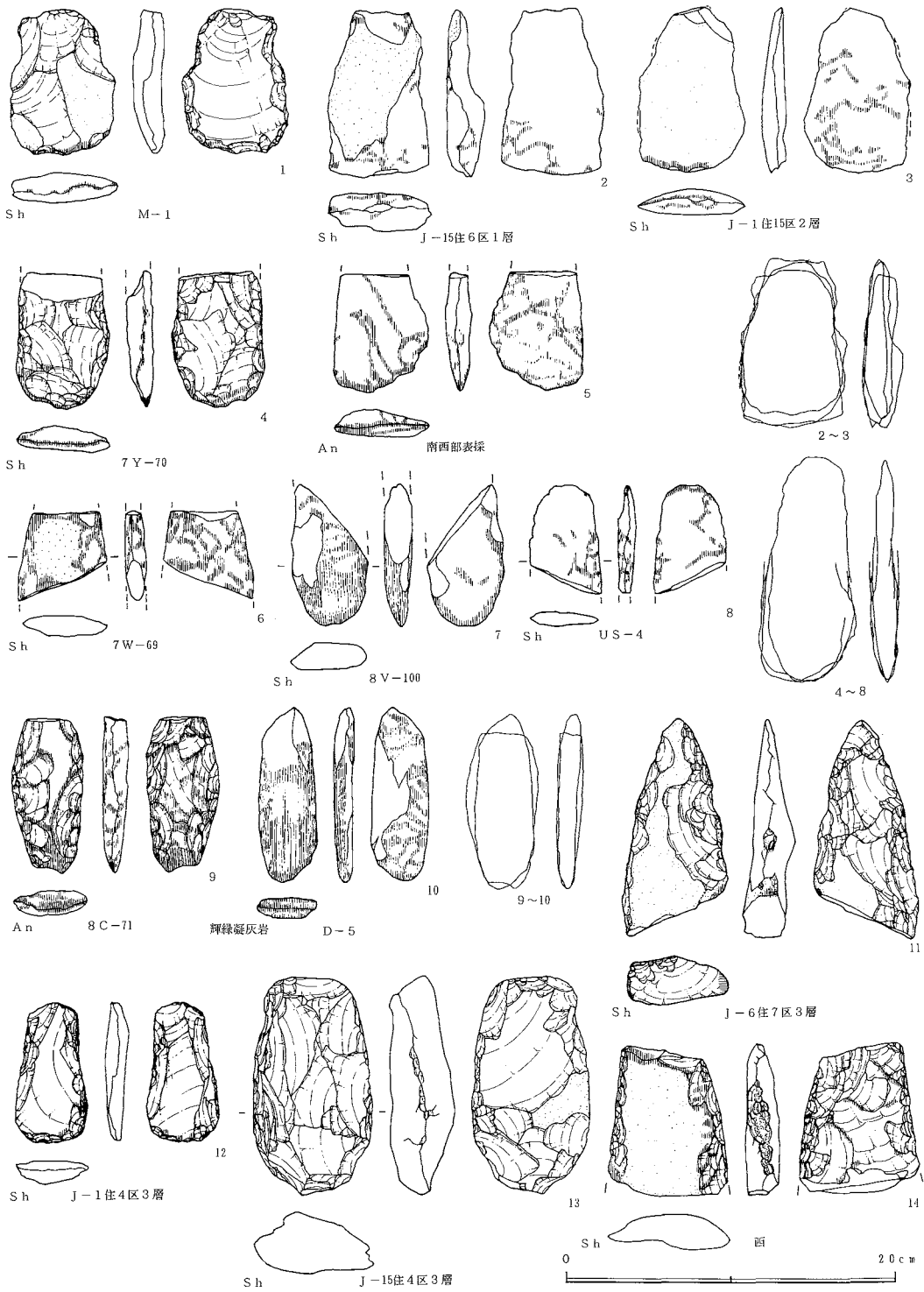
第43图 石鏃実測图



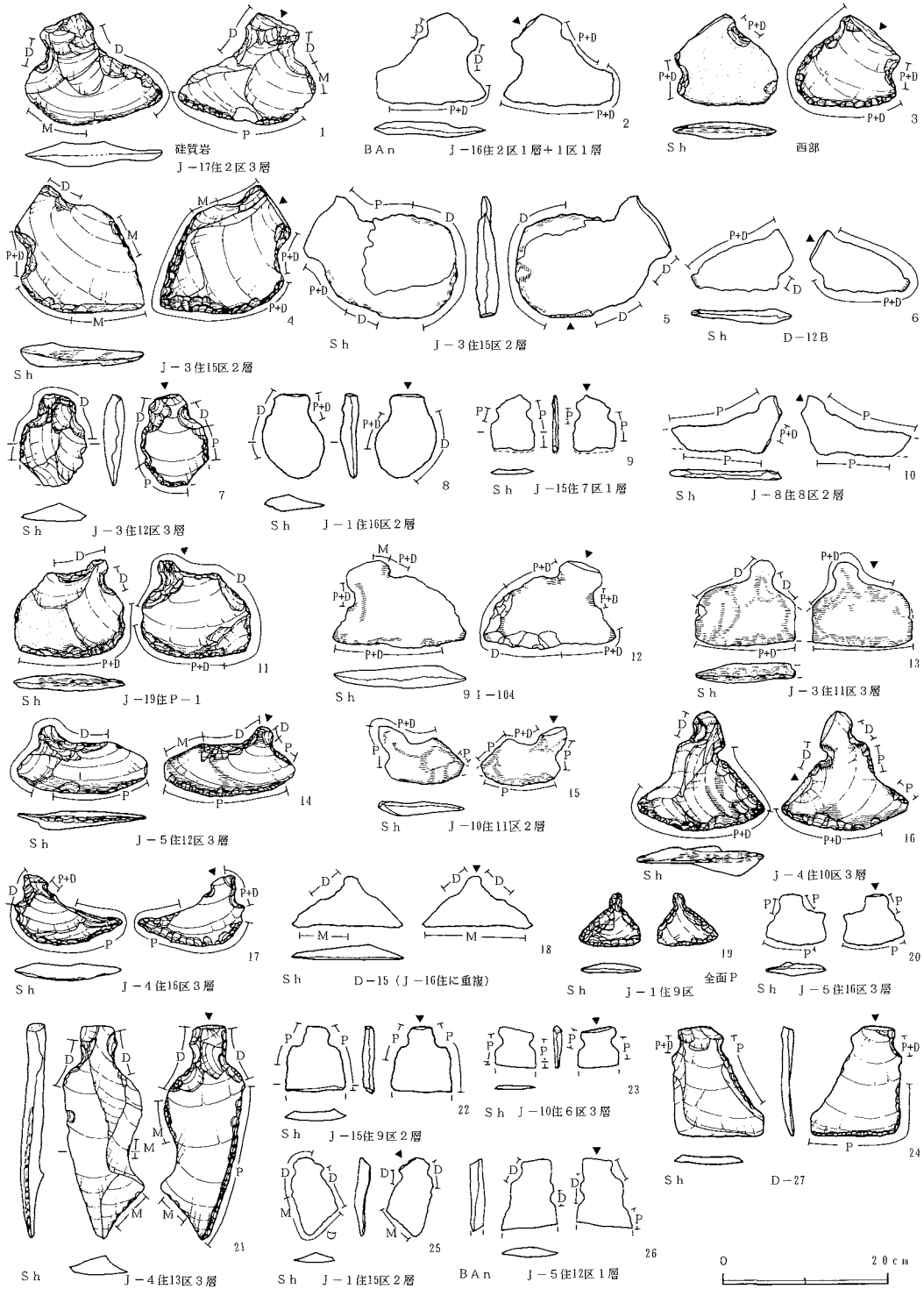
第44図 石錐・石匙A類等実測図



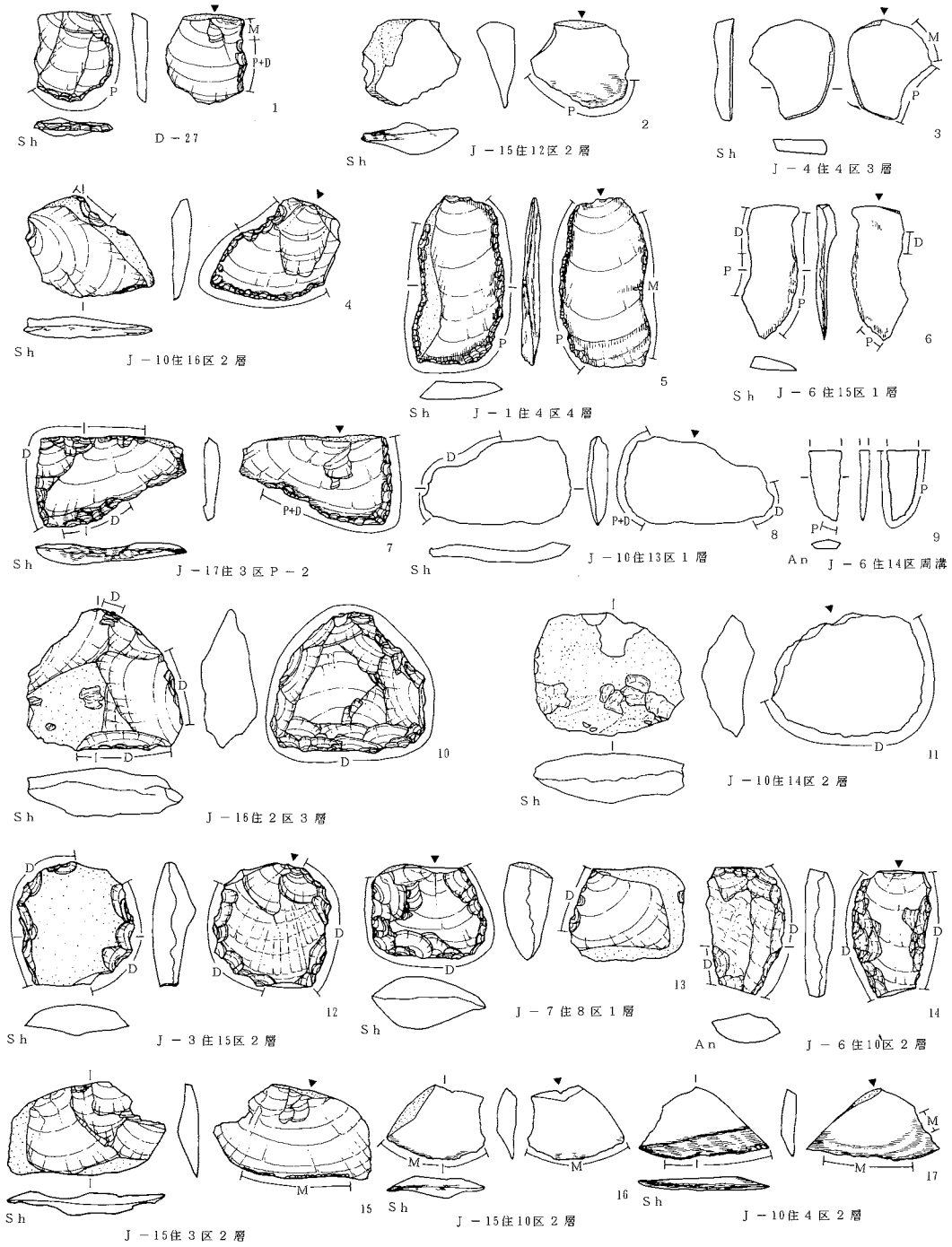
第45図 打製石斧実測図(1)



第46図 打製石斧実測図(2)

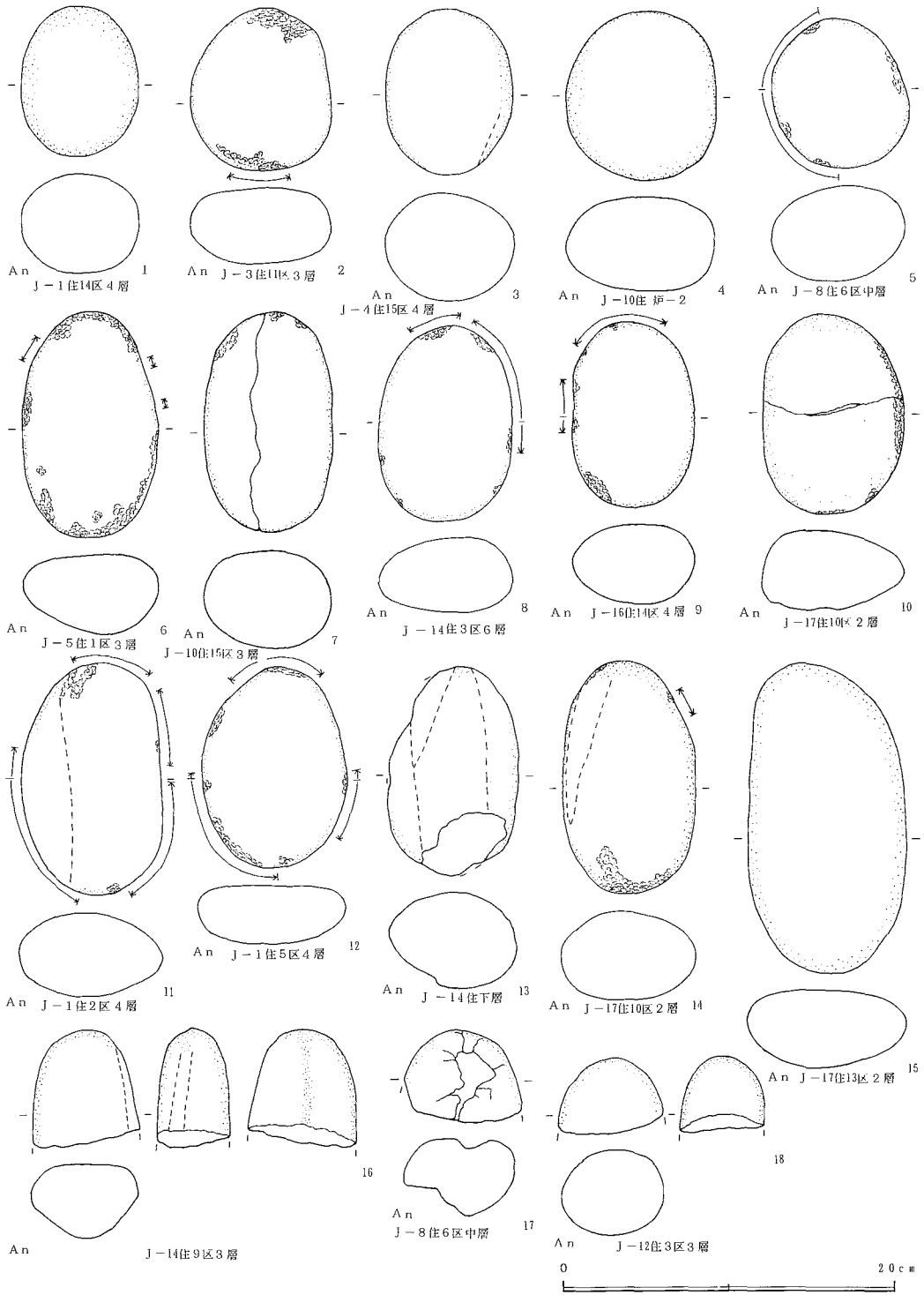


第47图 石匙B類実測図



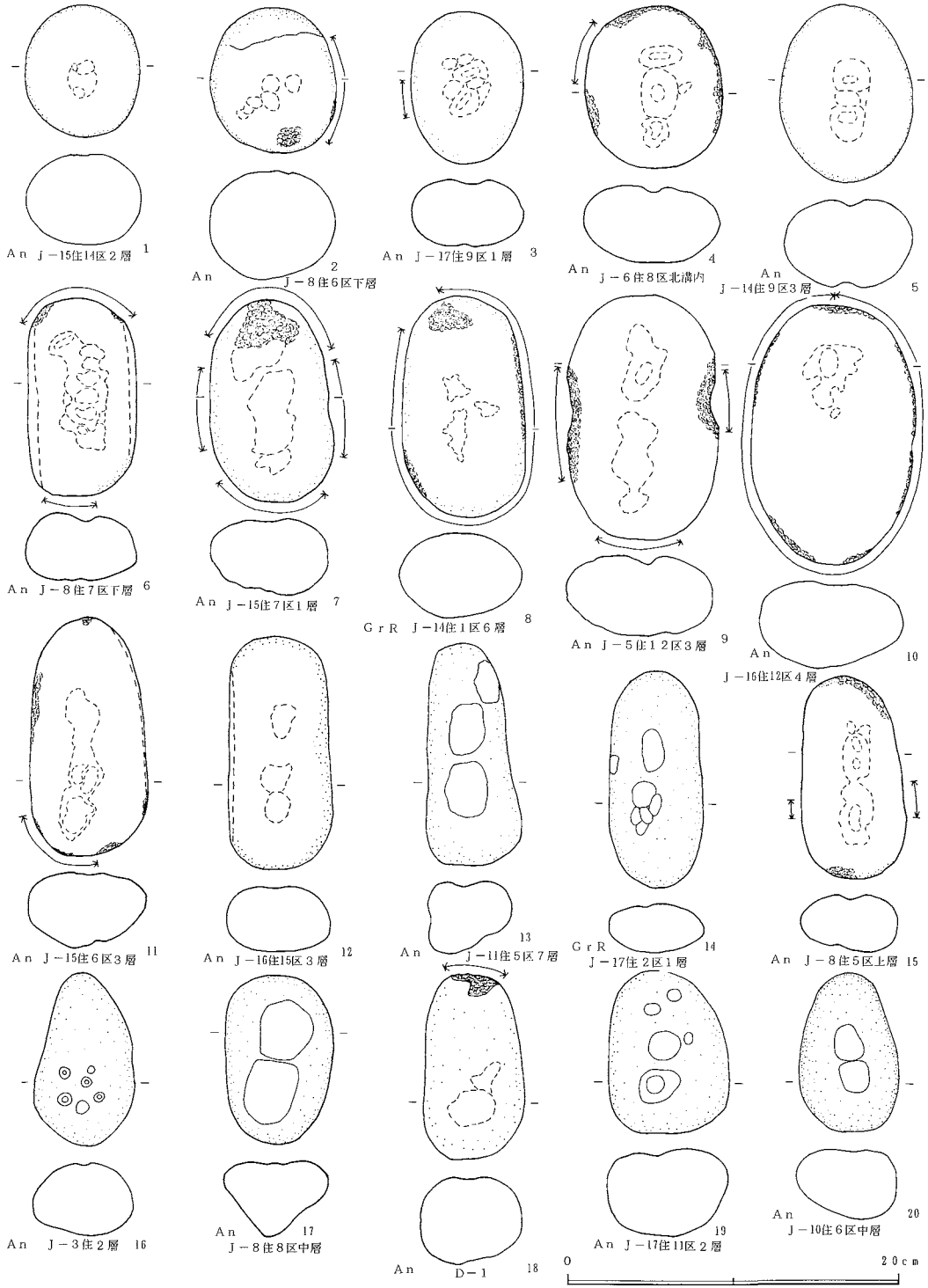
0 20cm

第48図 スクレイパー-B類実測図

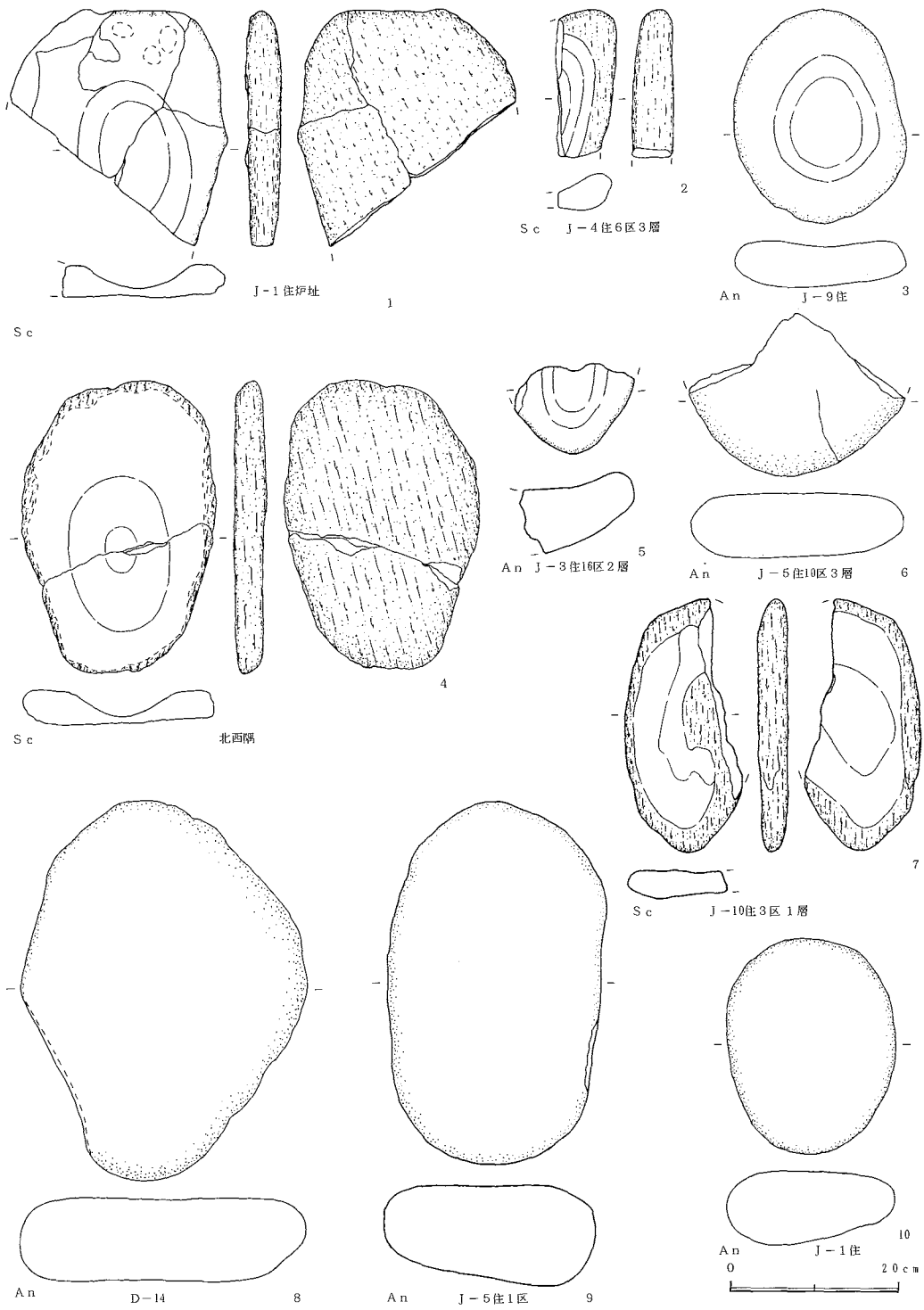


第49图 磨石実测图

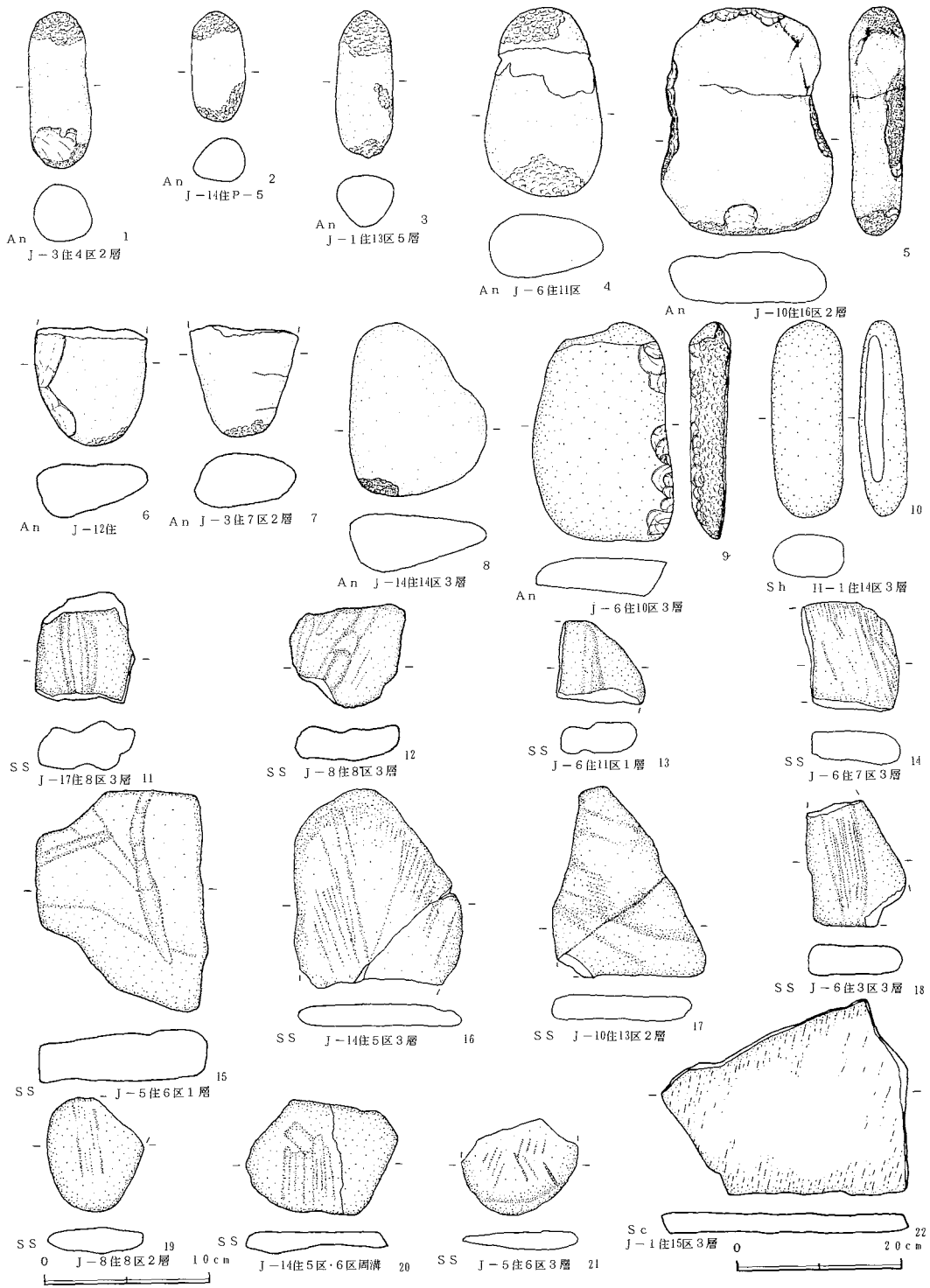




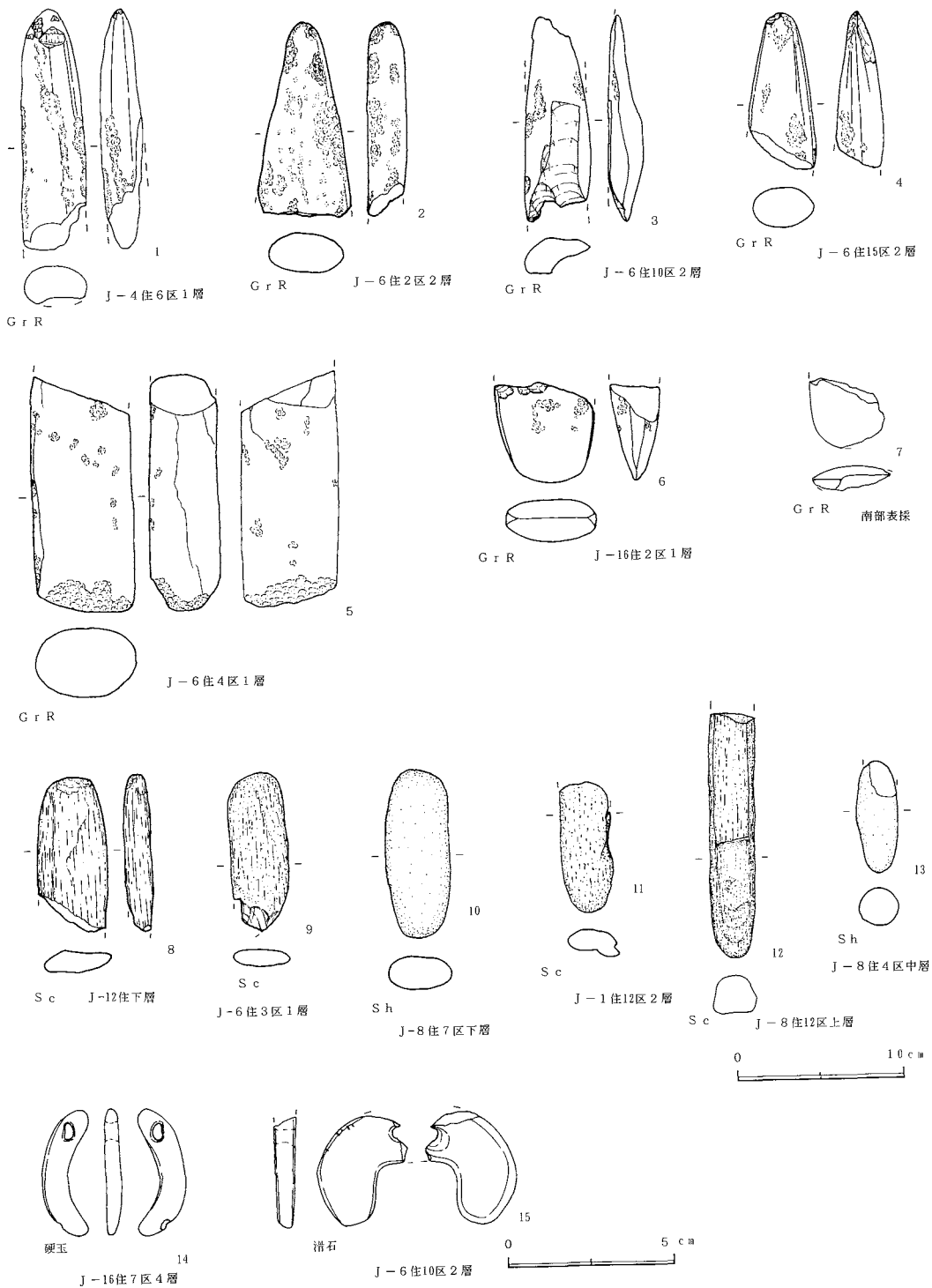
第50图 凹石実測图



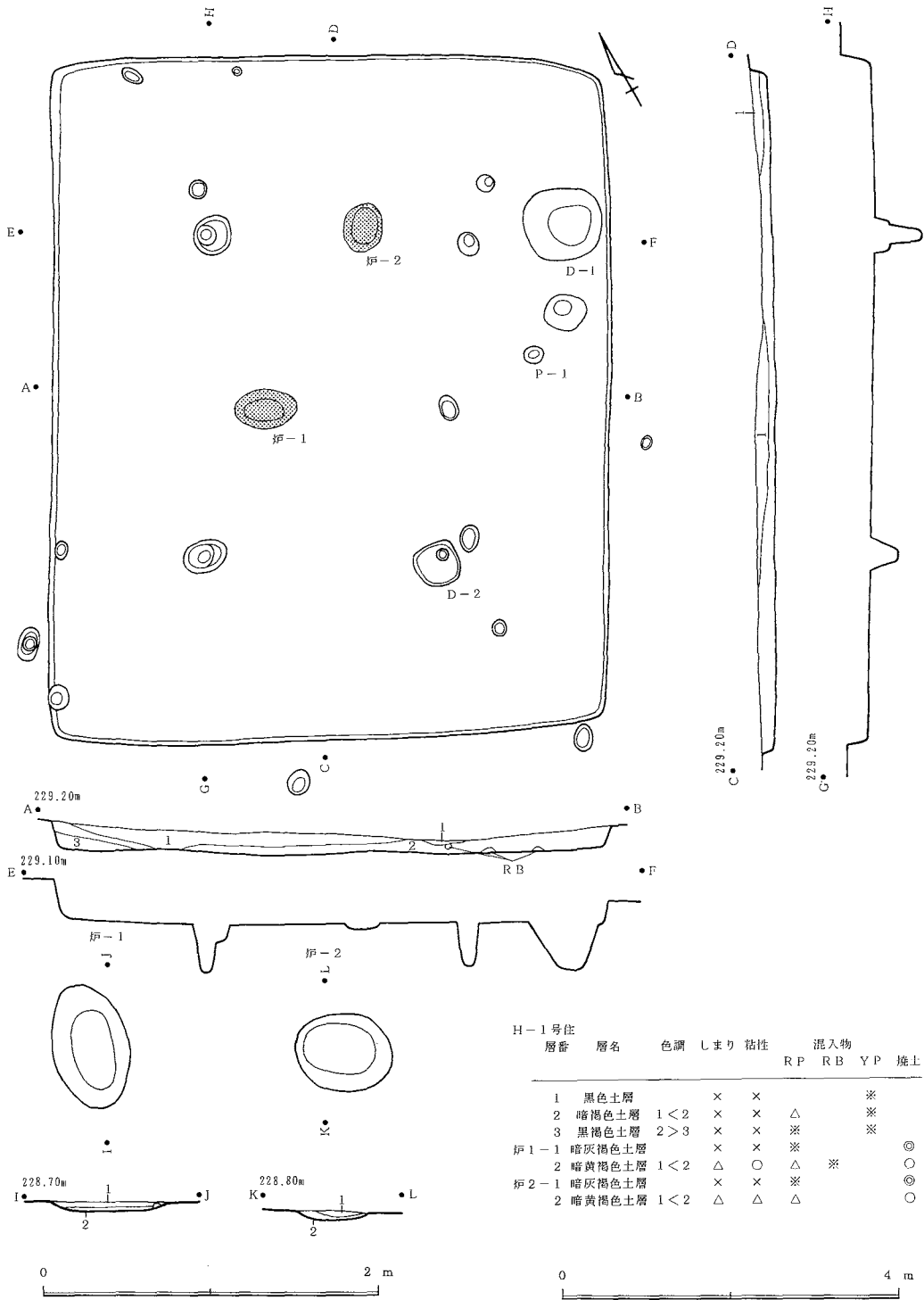
第51図 石皿実測図



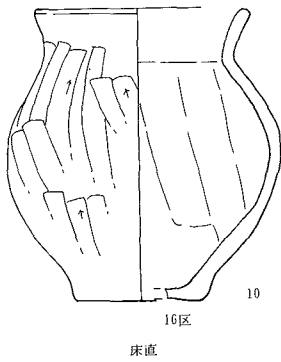
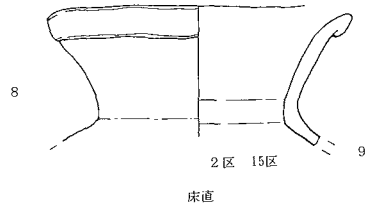
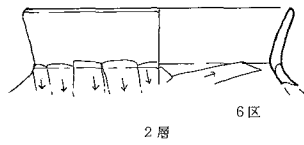
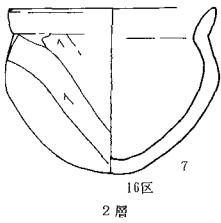
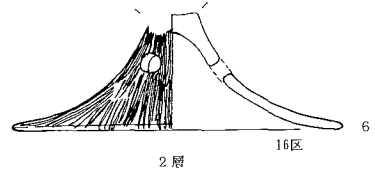
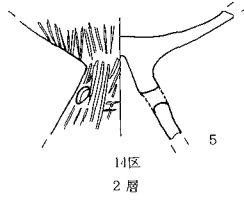
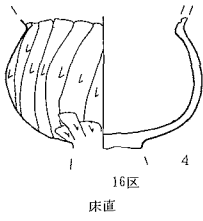
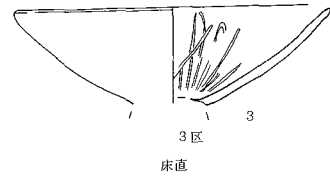
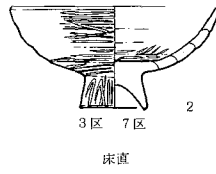
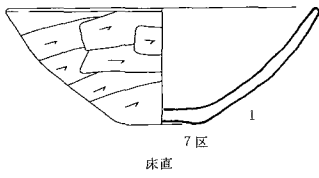
第52図 敲石・砥石実測図



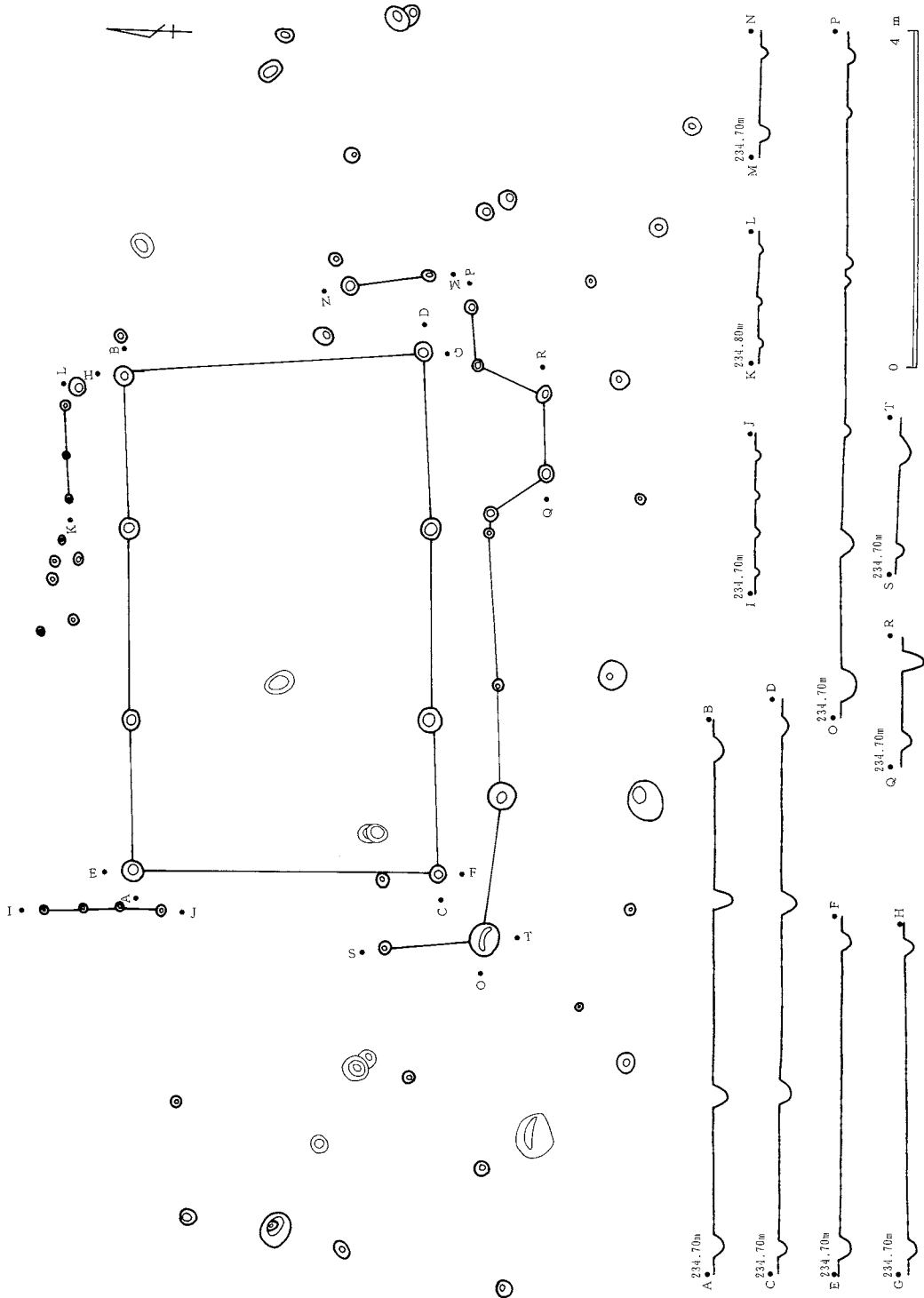
第53図 磨製石斧・棒状礫・石製品実測図



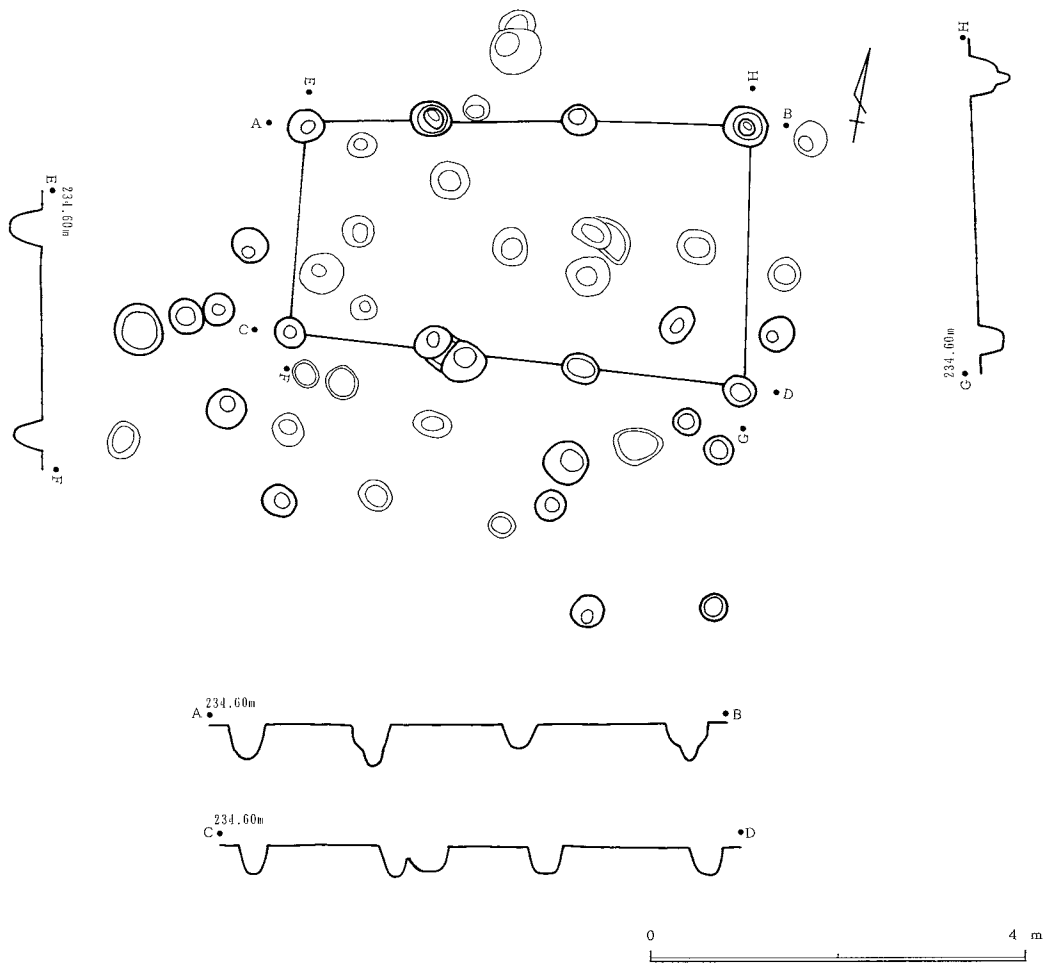
第54図 H-1号住居址実測図



第55図 H-1号住居址出土の遺物

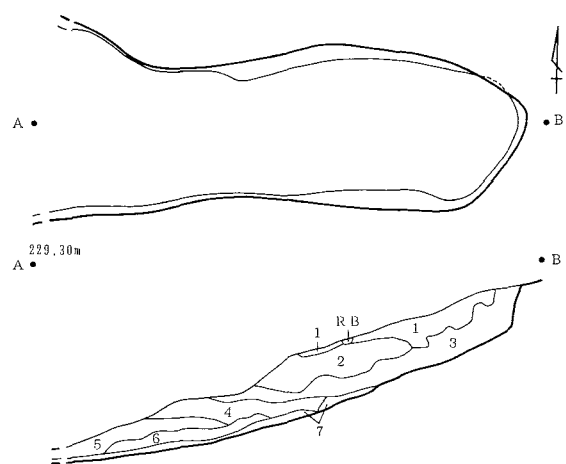
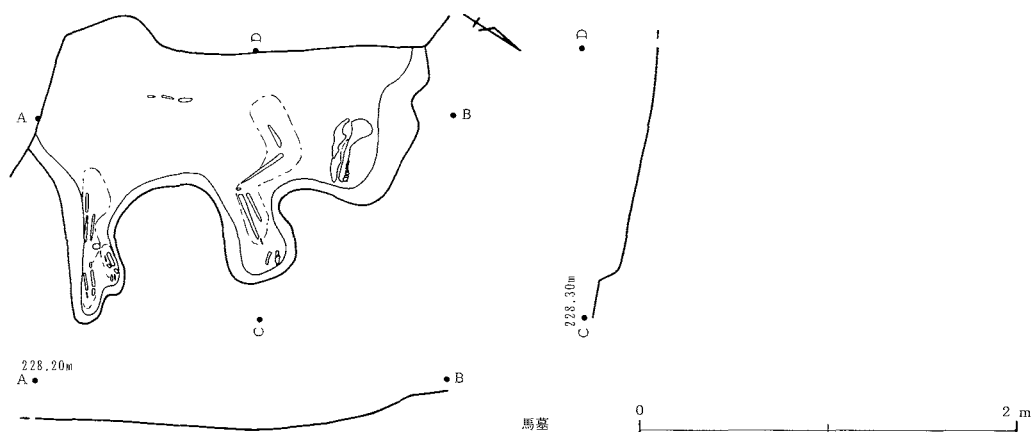


第56图 HT-1号掘立柱建物址实测图



第57图 HT-2号掘立柱建物址实测图

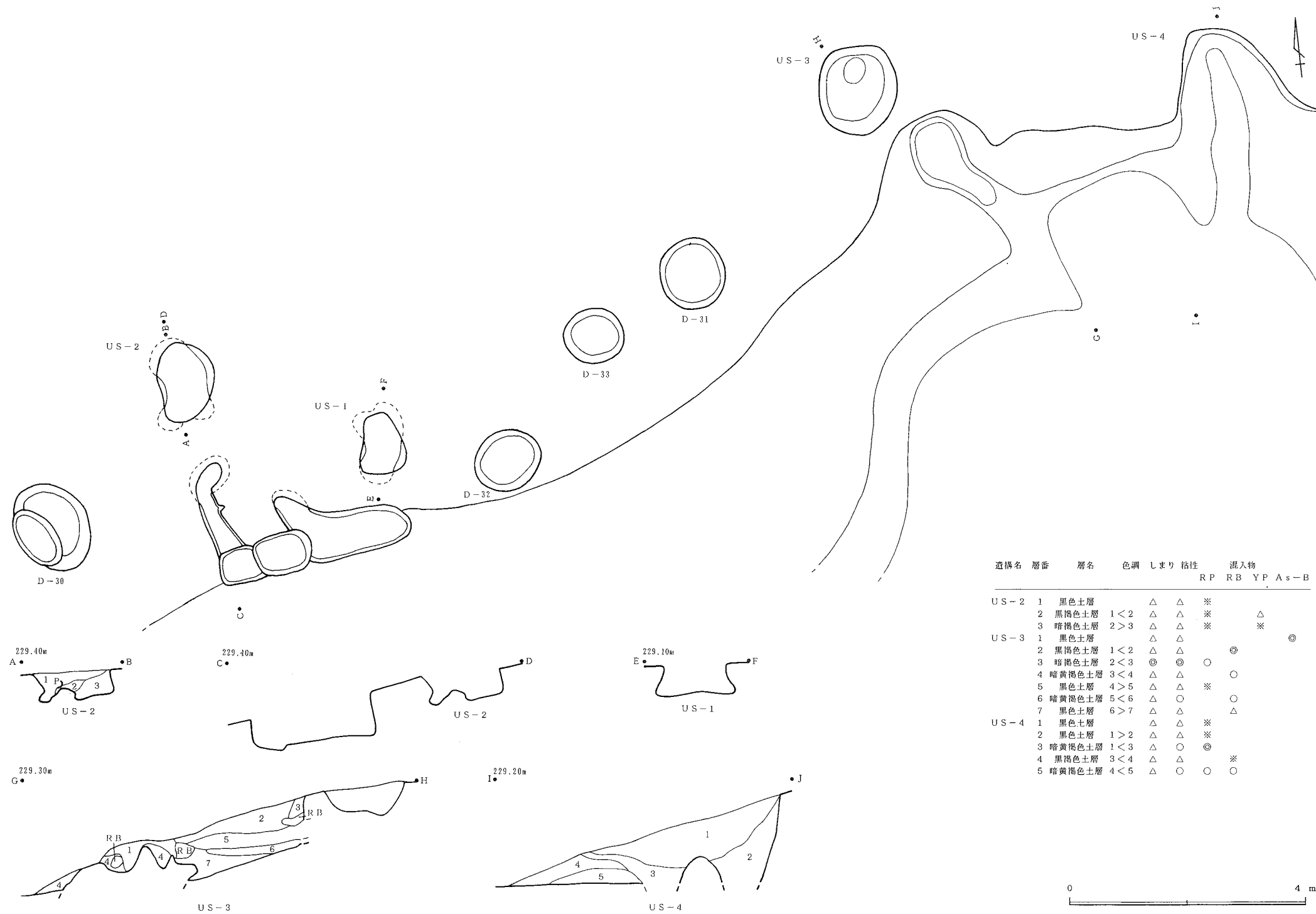




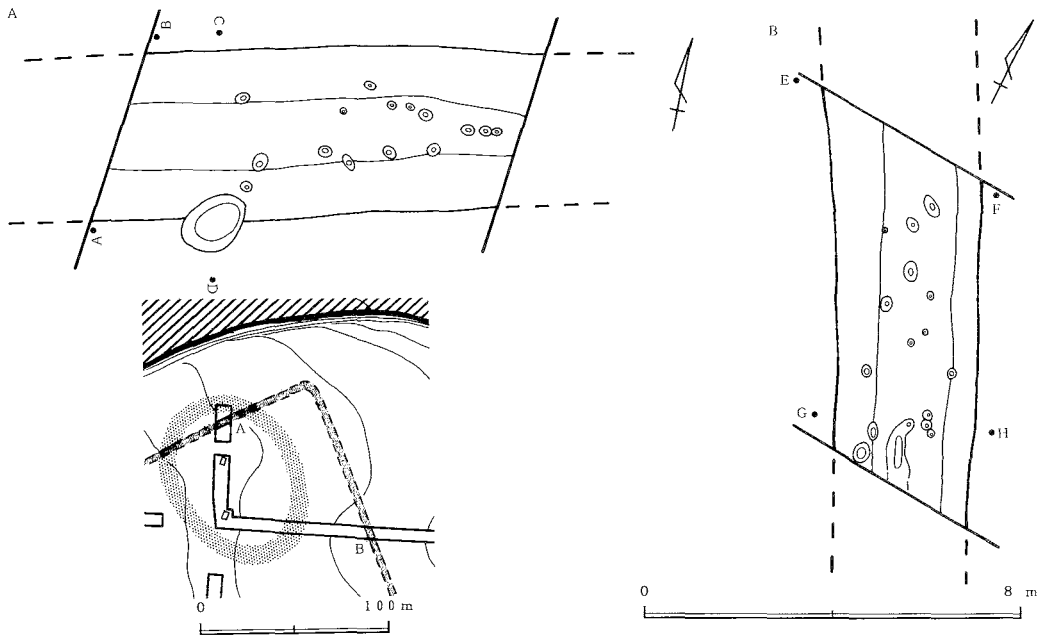
1号炭窯

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					R B	Y P	焼土 炭化物
1	黒褐色土層		△	△		※	※
2	暗黒褐色土層	1 < 2	△	△	△	※	※
3	暗黄褐色土層	2 < 3	△	△	○	△	※
4	暗黄褐色土層	3 < 4	△	○	○		※
5	暗褐色土層	4 > 5	△	○	△		※
6	赤黄褐色土層	5 < 6	○	○		○	
7	炭化物層	6 > 7	×	×			◎

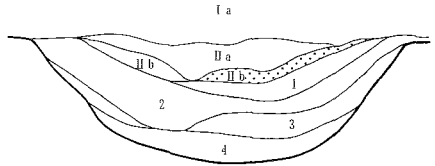
第58図 馬墓・1号炭窯実測図



第59図 涌水坑実測図



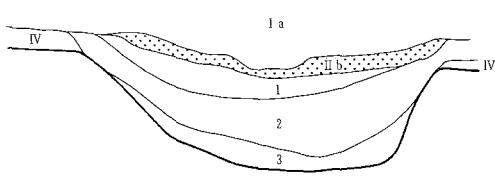
231.00m M-4 A ● B ●



231.50m C ● D ●



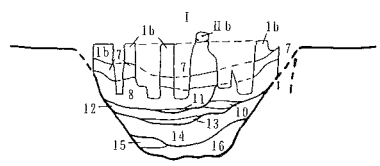
230.40m M-5 F ●



230.70m G ● H ●



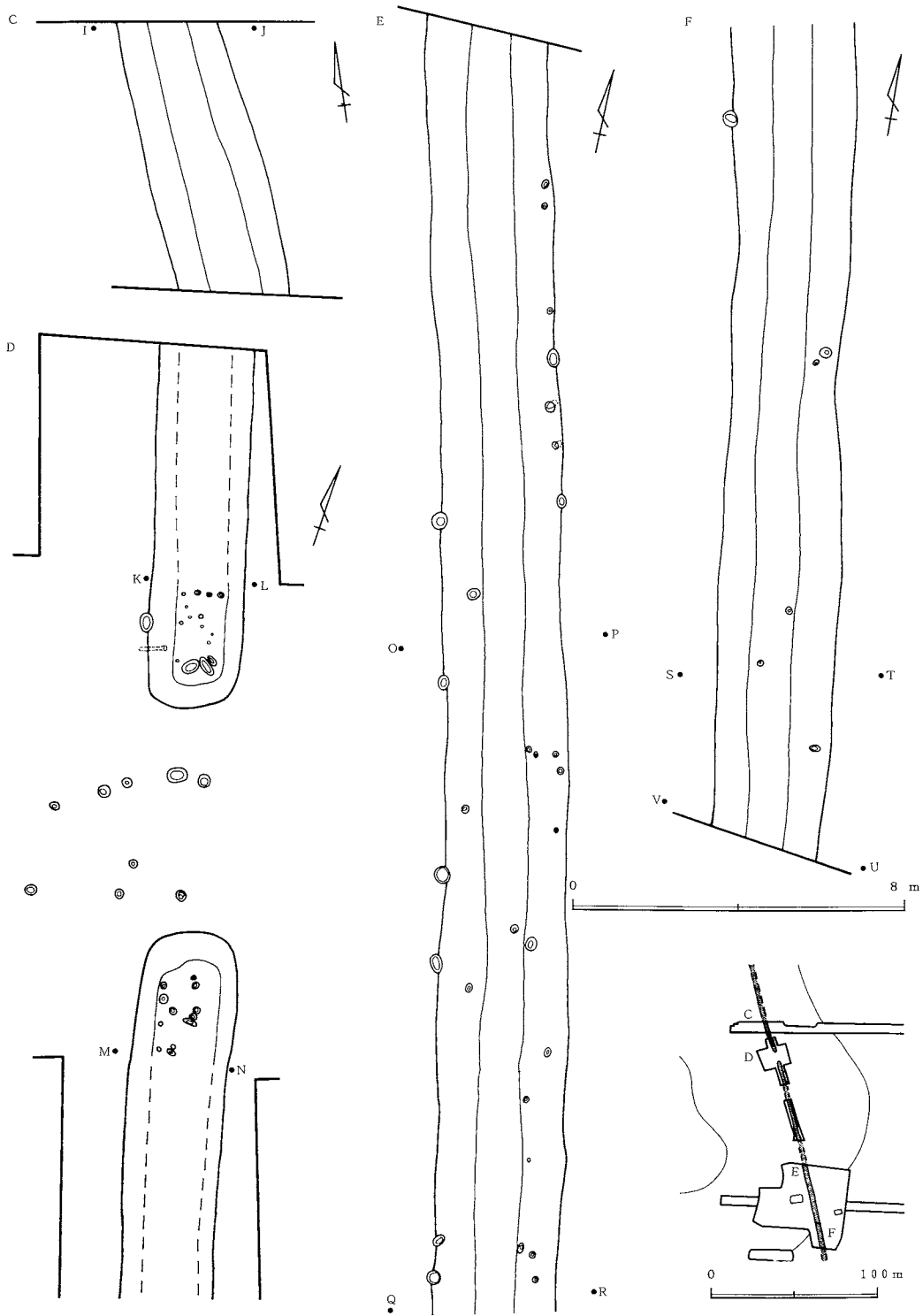
235.60m I ● J ●



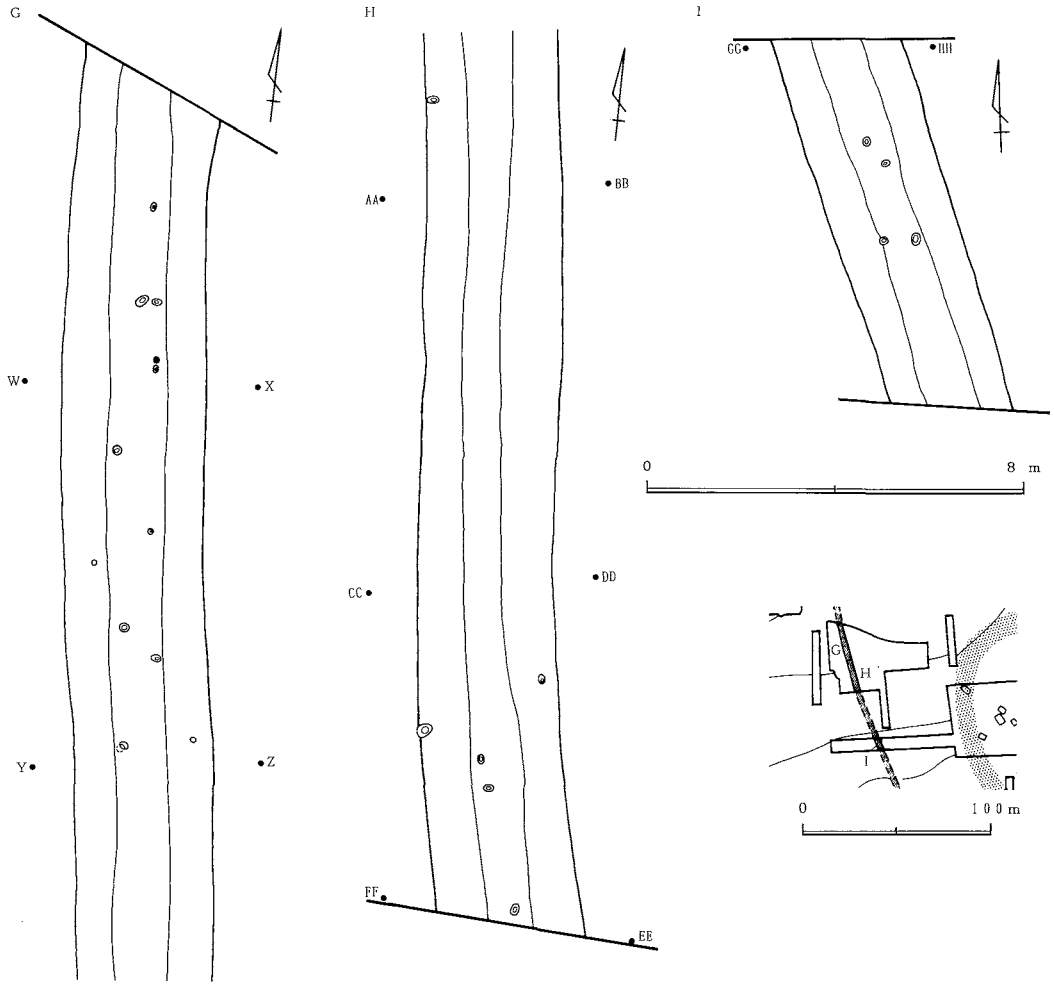
M-4・5号溝

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					R	P	Y P
1	黒褐色土層		△	△			△
2	暗褐色土層		○	○			△
3	褐色土層		○		○		○
4	暗褐色土層	17=19	○	○			

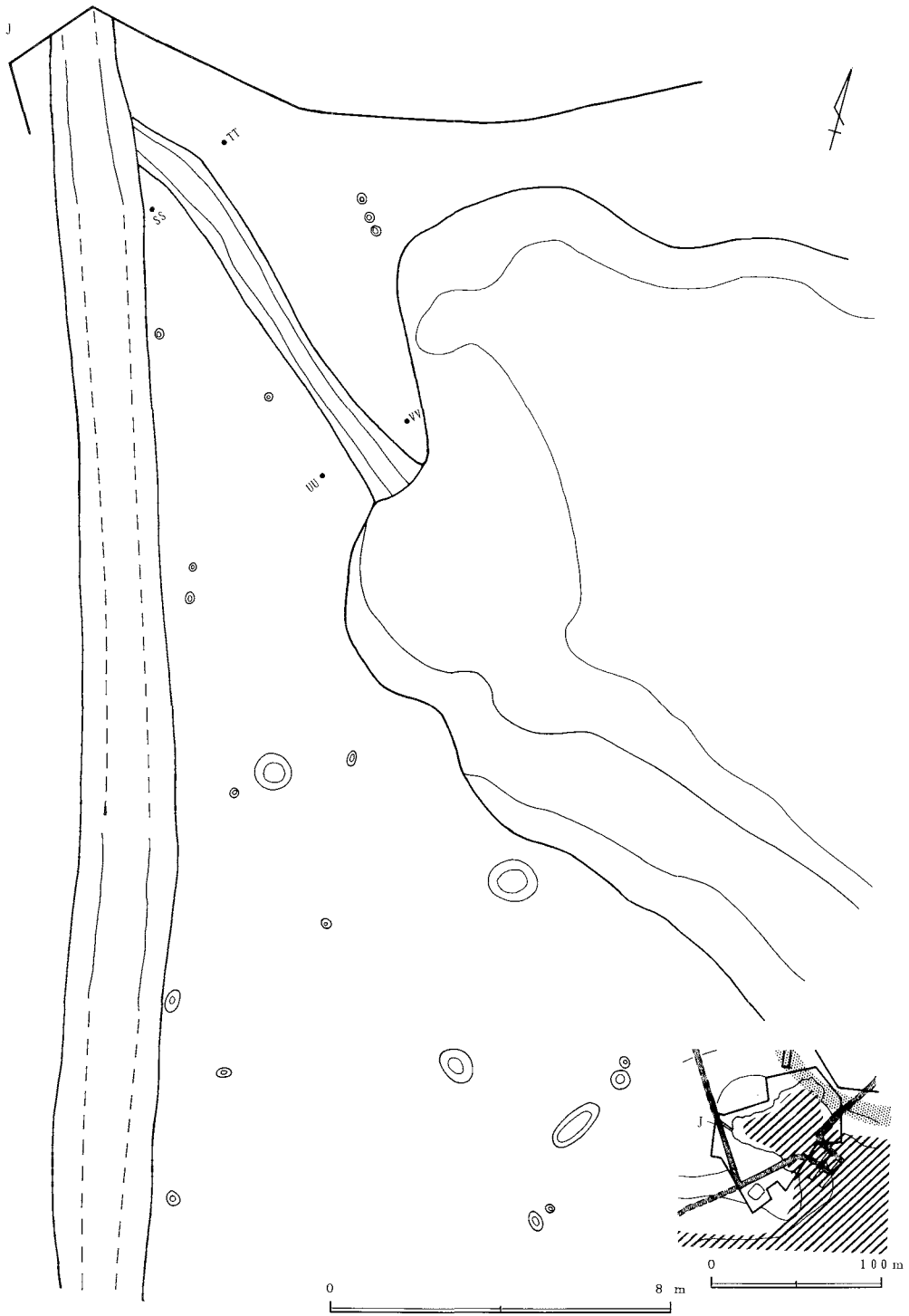
第60図 M-4・5号溝実測図



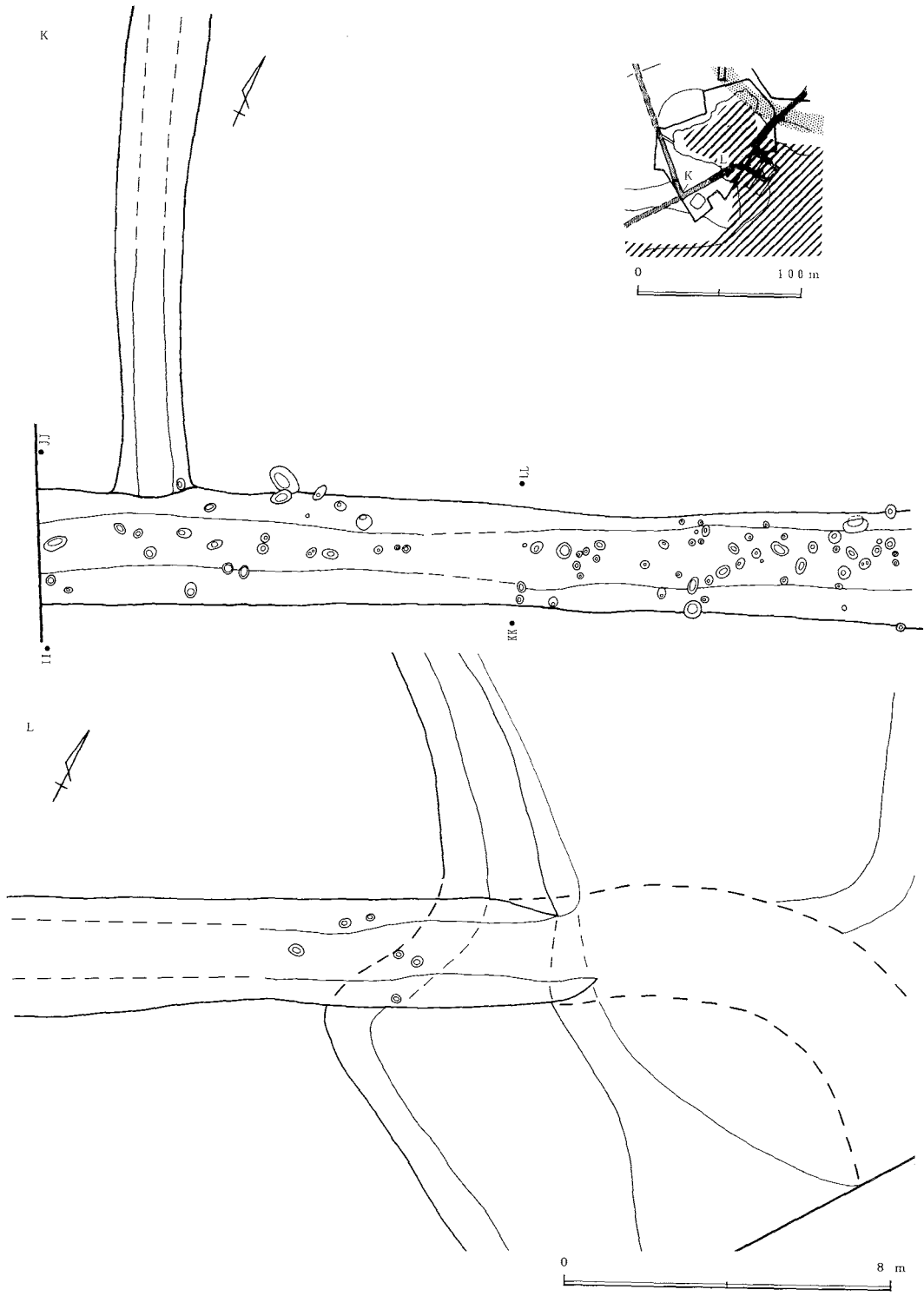
第61图 M-1号沟平面图 (A区·土橋部分)



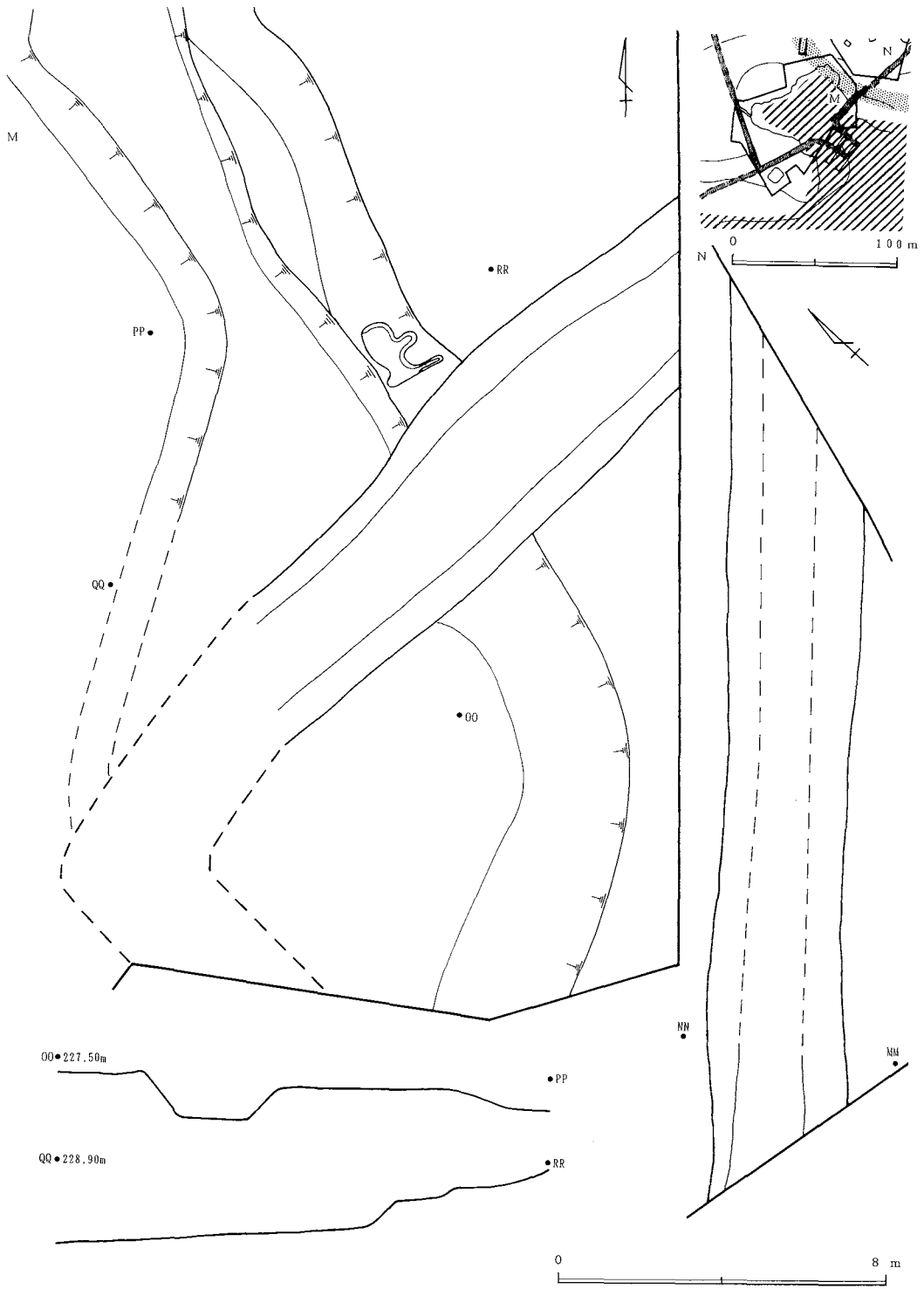
第62图 M-1号沟平面图 (B区)



第63图 M-1号沟平面图(F区)

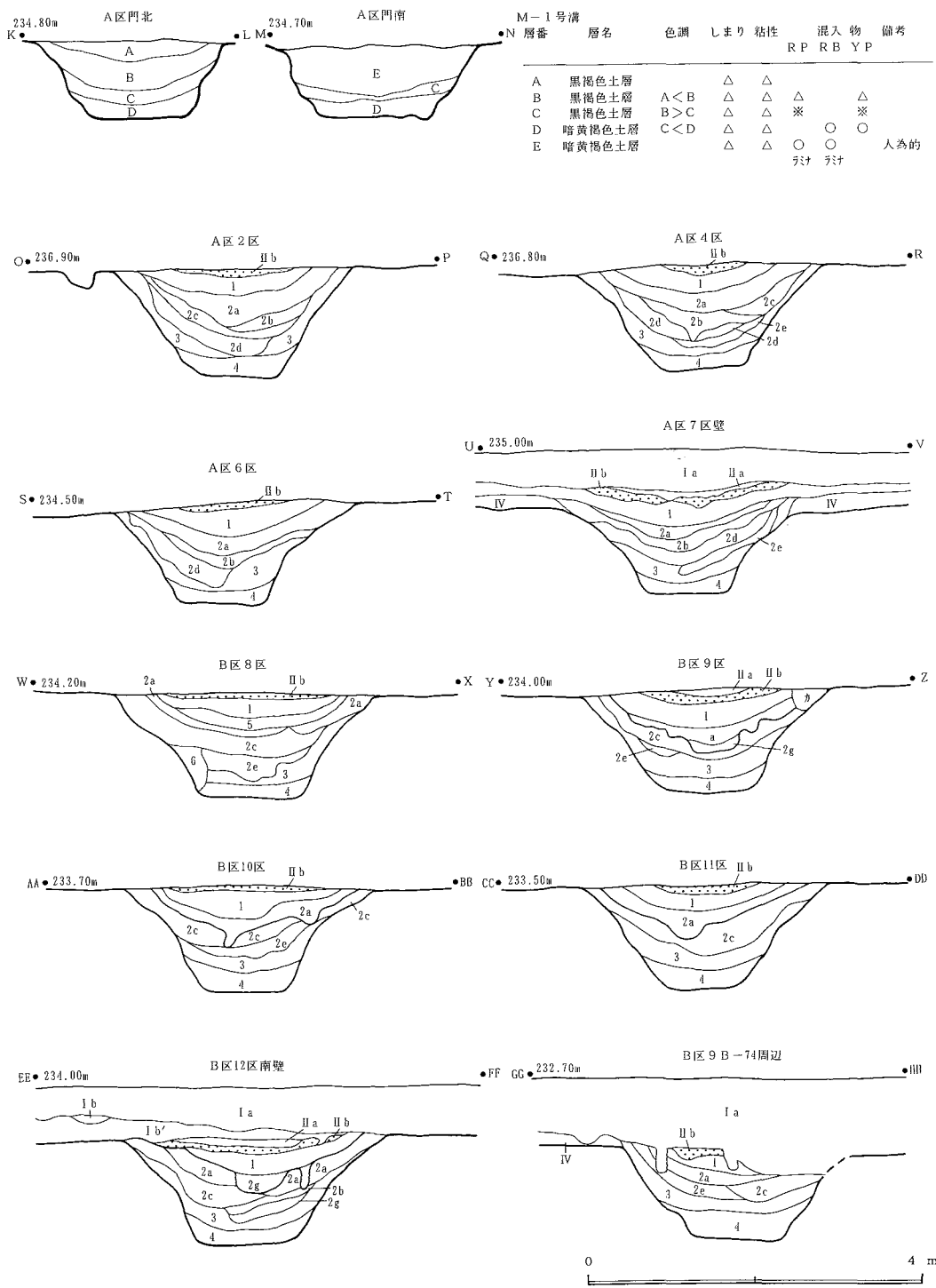


第64图 M-1号沟平面图 (F区)

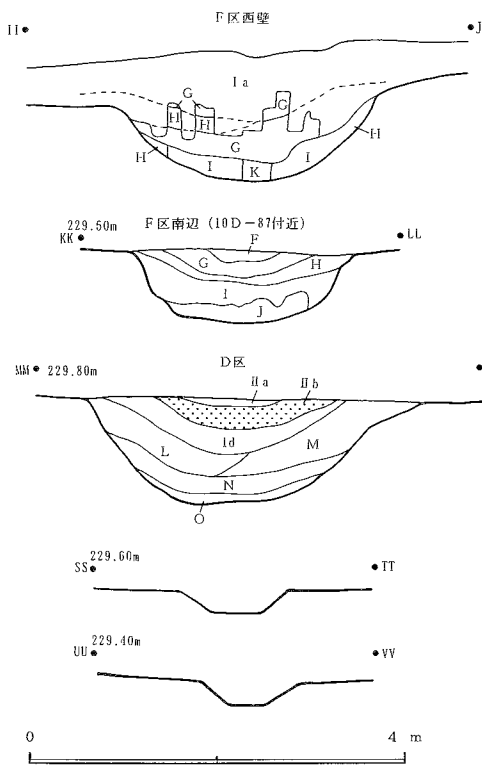


第65图 M-1号沟平面图 (F区·D区)



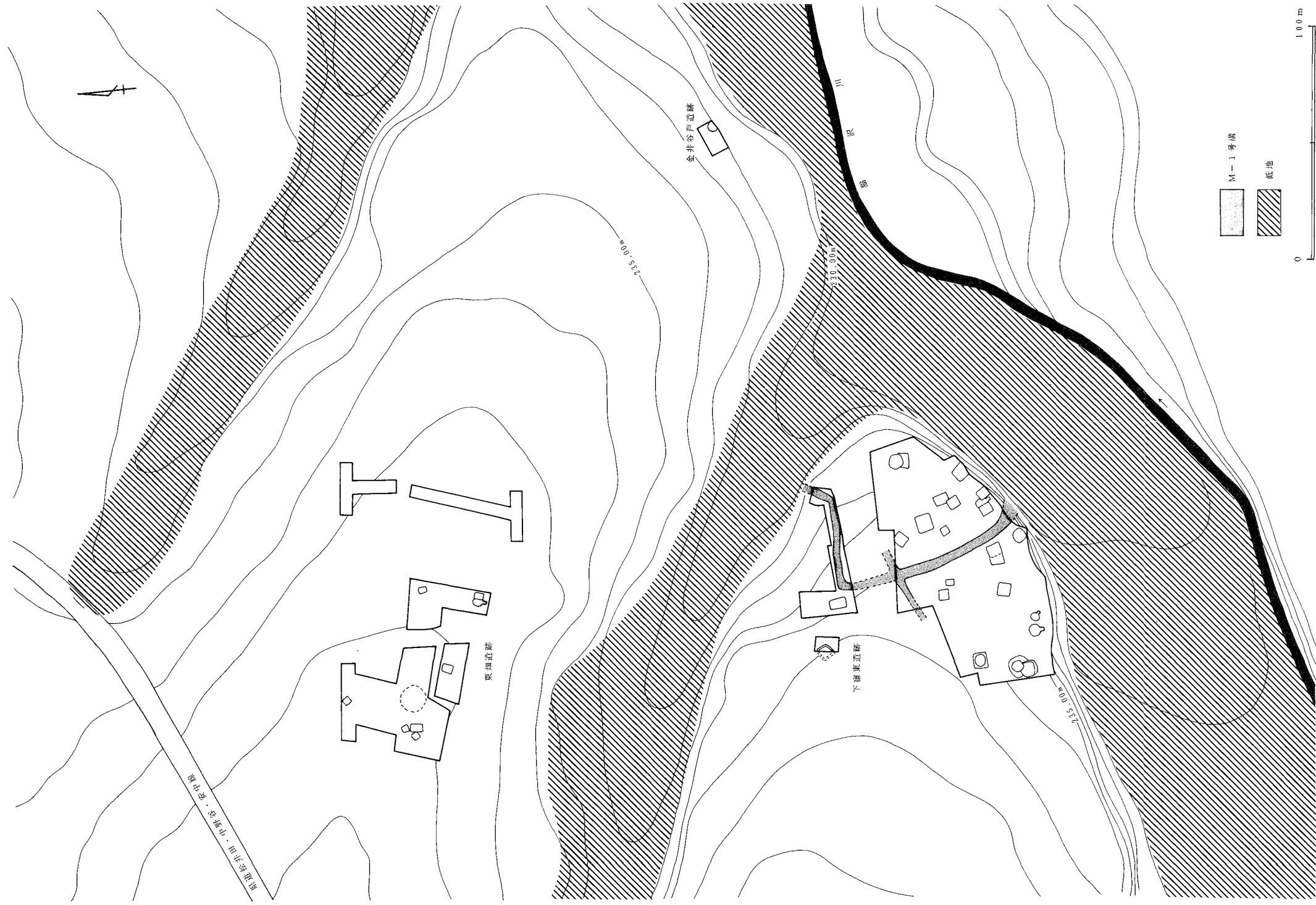


第66図 M-1号溝土層断面図(1)

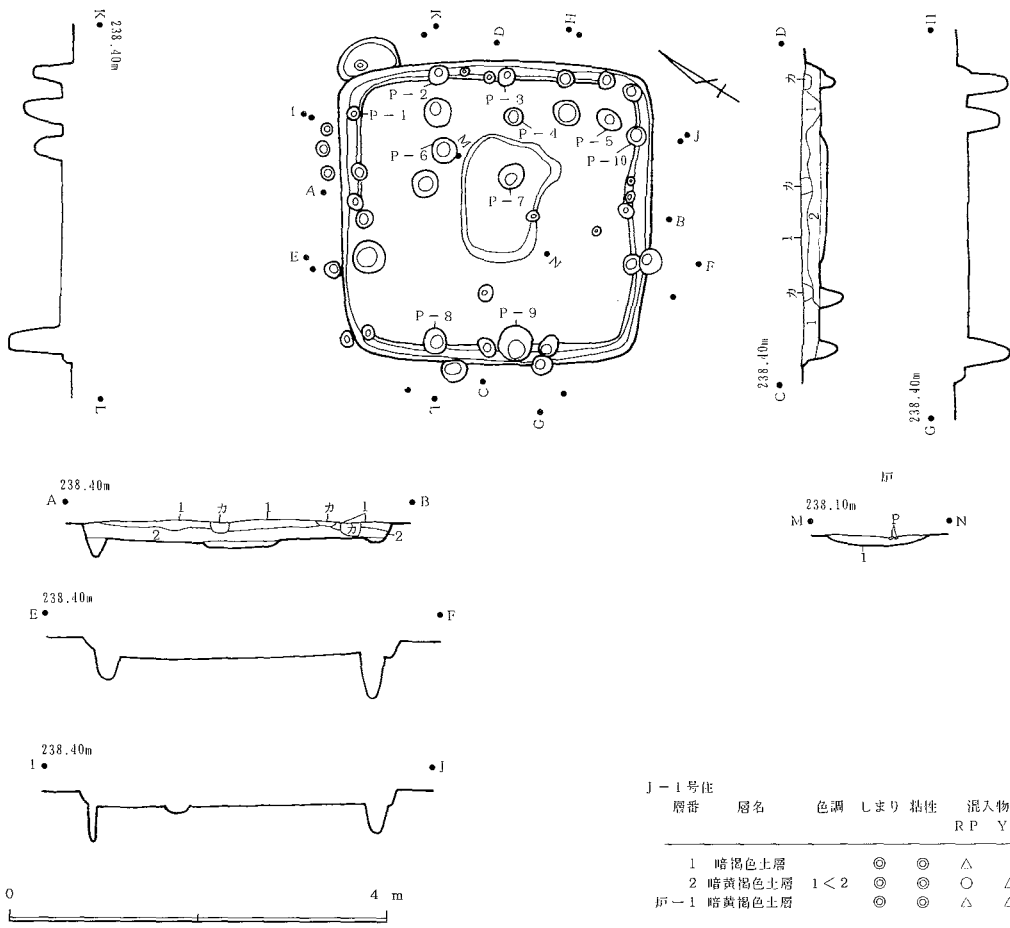


層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				備考
					R P	R' B	Y P	W P	
1	黒色土層		○	○					
1 b	黒褐色土層		○	○	※			△	
1 d	黒褐色土層		△	△			※		
2 a	暗褐色土層	1 < 2 a	○	△		○	※		
2 b	黒褐色土層	2 a > 2 b	◎	◎		△	※		
2 c	暗黄褐色土層	2 a < 2 c	◎	◎		◎	△		
2 d	暗黄褐色土層	2 c > 2 d	◎	◎		◎	△		
2 e	黒褐色土層	2 d > 2 e	◎	◎			△		
2 f	暗褐色土層	2 a > 2 f	◎	◎			△		
2 g	黒褐色土層	2 a < 2 g	○	○			△		不連続面
3	暗黄褐色土層	2 d > 3	○	○			△		※
4	暗黄褐色土層	2 d < 4	○	○		○	○		不連続面
5	暗褐色土層	1 < 5	○	○				○	不連続面 及び
6	黒褐色土層	2 c > 6	△	○		※			
7	暗褐色土層	1 b < 7	○	○	△			△	
8	黒褐色土層	7 > 8	○	○	○			○	
9	暗褐色土層	8 = 9	○	○	○	△		○	
10	黒褐色土層	9 > 10	○	○	△			※	
11	暗灰色土層	8 < 11	○	×	△			△	砂質
12	黒褐色土層	10 < 12	○	○	△			△	
13	暗灰色土層	12 < 13	○	×	※			※	砂質
14	黒褐色土層	12 < 14	○	○	○			○	
15	黒褐色土層	14 = 15	○	○	△			△	
16	暗褐色土層	15 < 16	○	○	◎			△	
F	暗黄褐色土層		△	○		○			
G	黒褐色土層	F > G	△	△		◎			
H	暗黄褐色土層	G < H	△	○		○	△		
I	暗褐色土層	H > I	△	○		△	△		
J	暗黄褐色土層	I < J	△	○		○	○		
K	暗黄褐色土層	I > K	△	○		△	△		
L	暗褐色土層	I d < L	△	△			※		
M	暗黄褐色土層	L < M	△	△		○		※	
N	黒褐色土層	L < N	△	△		△		※	
O	暗黄褐色土層	N < O	○	△		○	○	※	

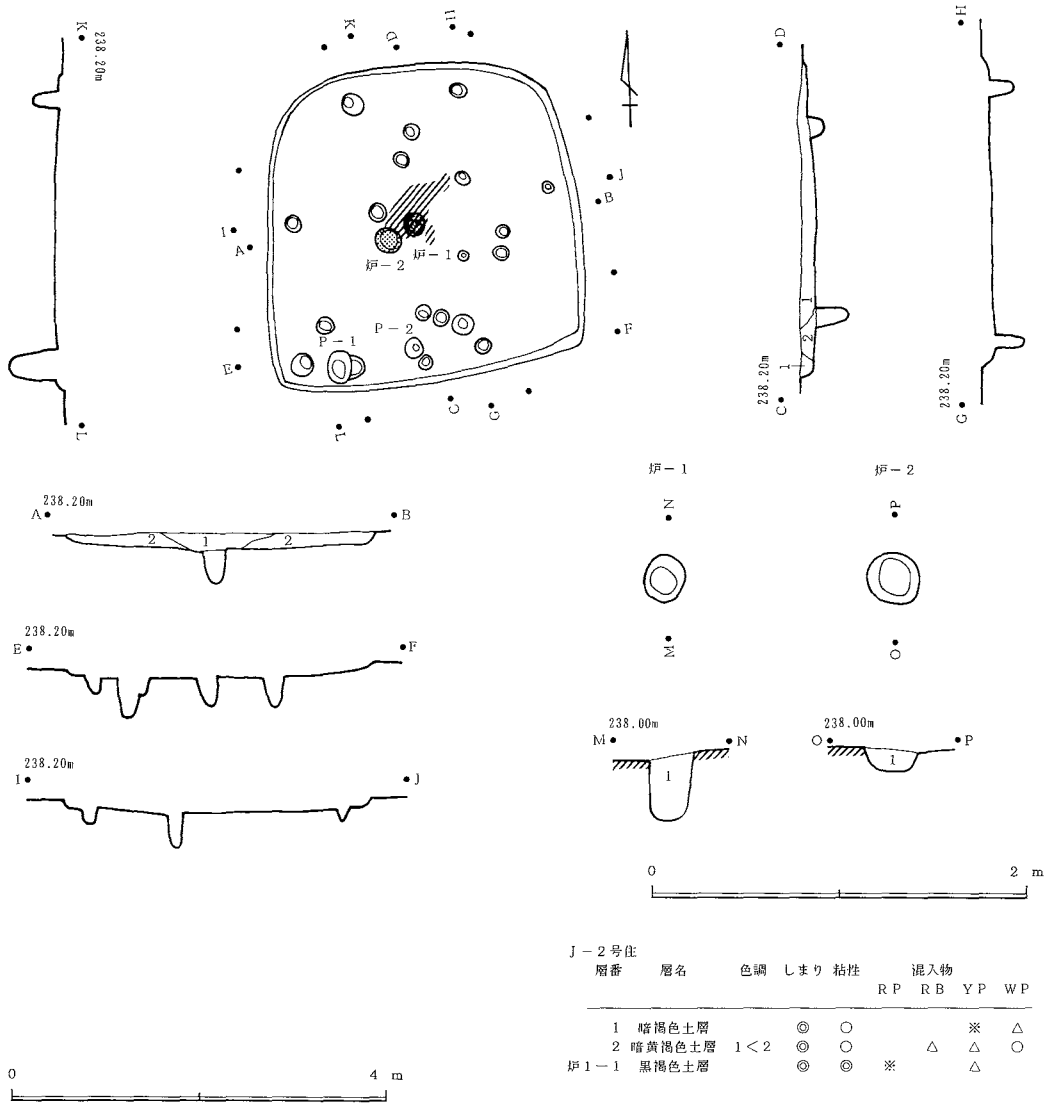
第67図 M-1号溝土層断面図(2)



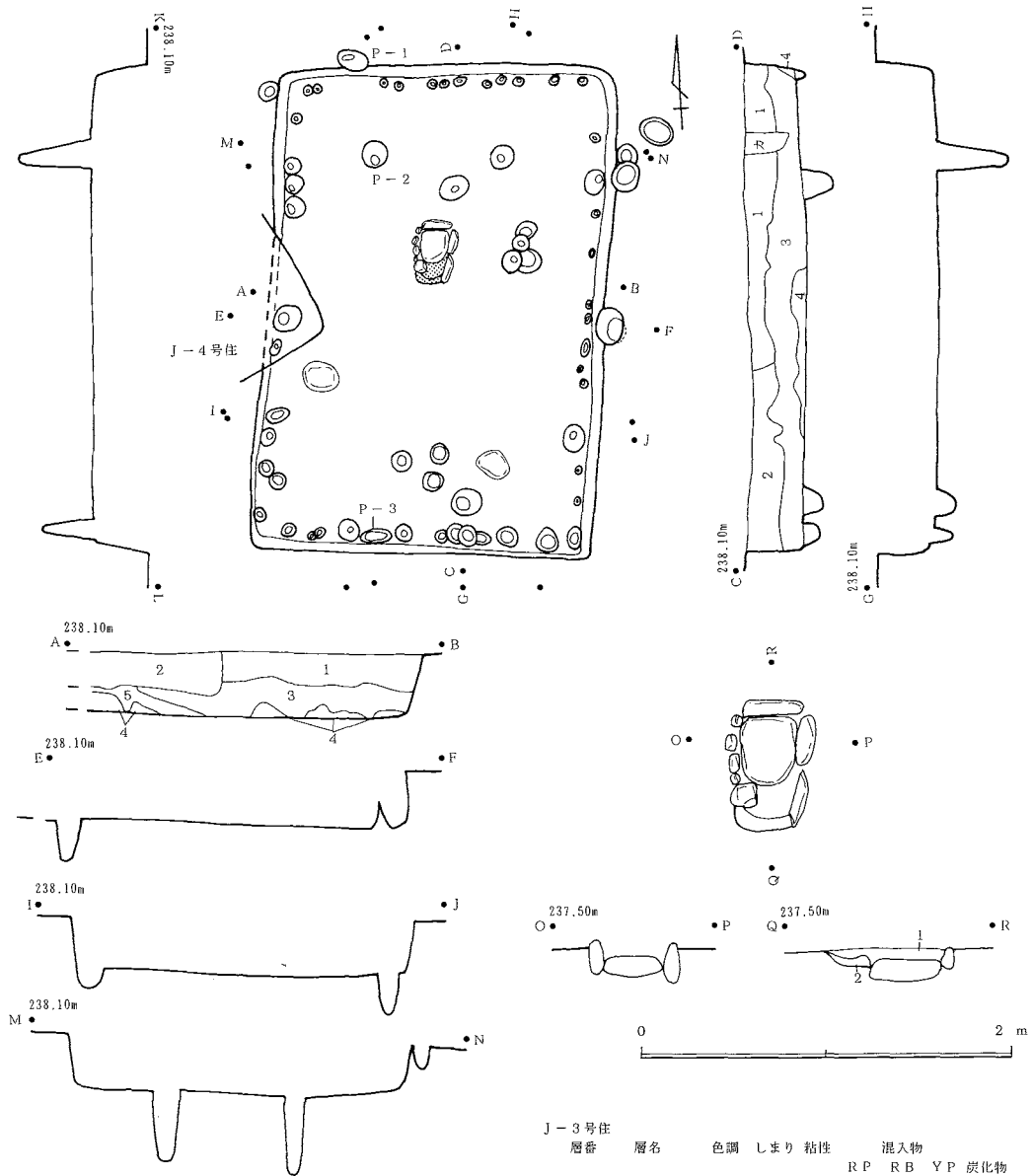
第68図 東畑遺跡・下宿東遺跡・金井谷戸遺跡調査区位置図



第69図 J-1号住居址実測図



第70図 J-2号住居址実測図

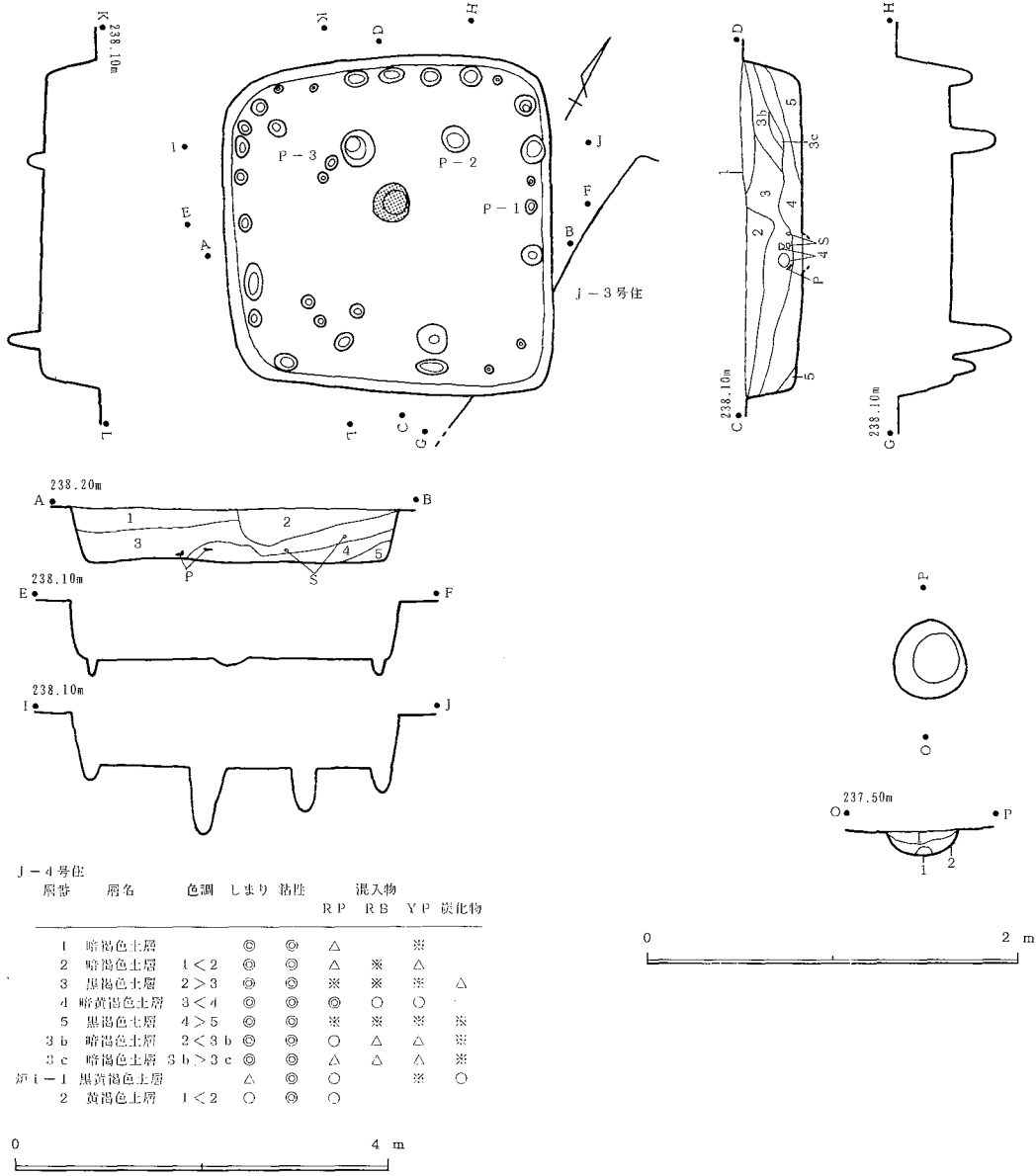


J-3号住

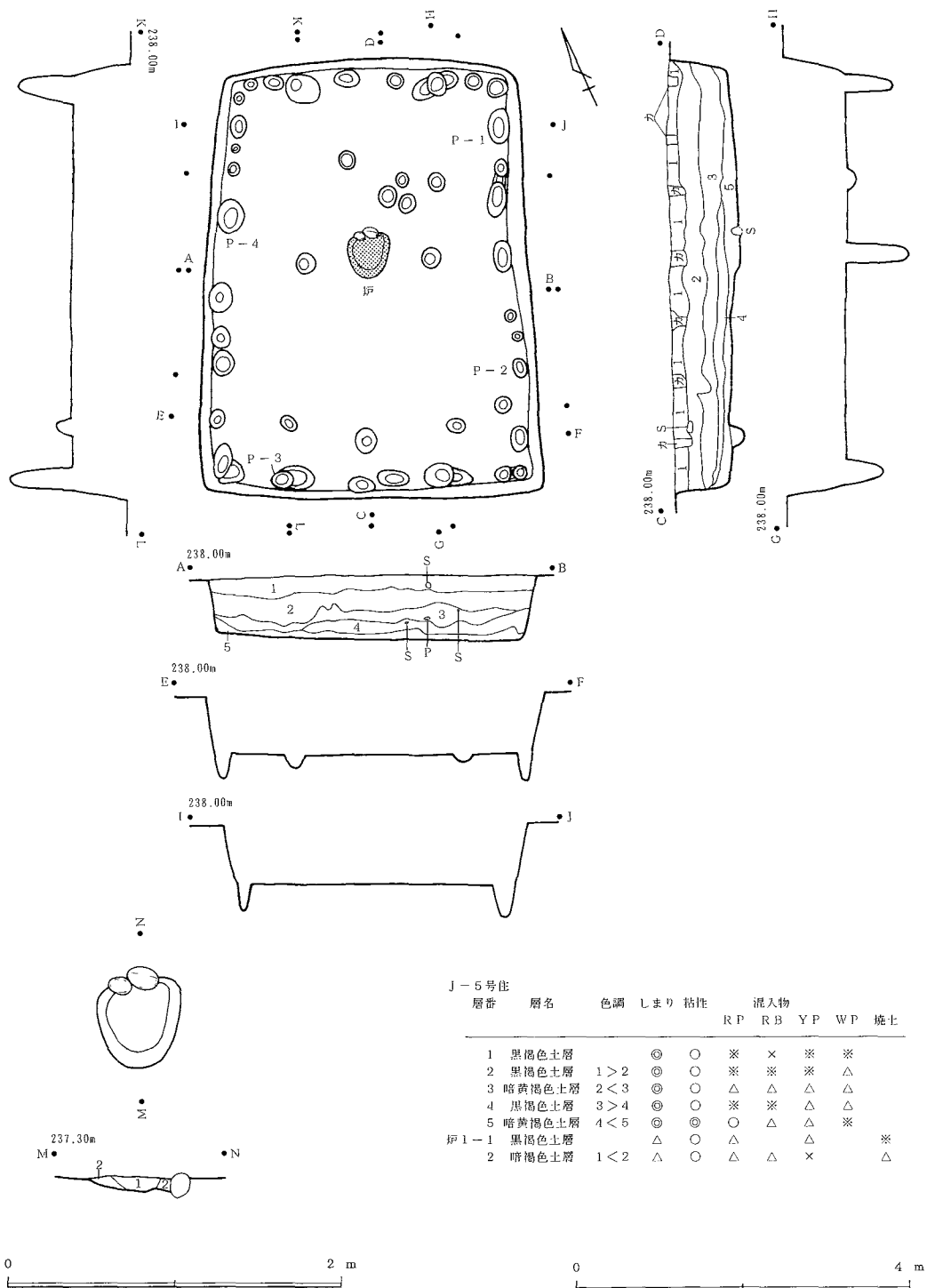
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
					R	P	RB	YP	炭化物
1	暗褐色土層	◎	◎	△				※	
2	暗褐色土層	1<2	◎	◎	△			△	
3	暗黄褐色土層	2<3	◎	◎	△		※	○	
4	暗黄褐色土層	3<4	◎	◎			◎	△	
5	暗黄褐色土層	4<5	◎	◎	△		△	○	
炬1-1	暗褐色土層	△	△	※				※	○
2	暗黄褐色土層	1<2	◎	◎			◎		



第71図 J-3号住居址実測図



第72図 J-4号住居址実測図

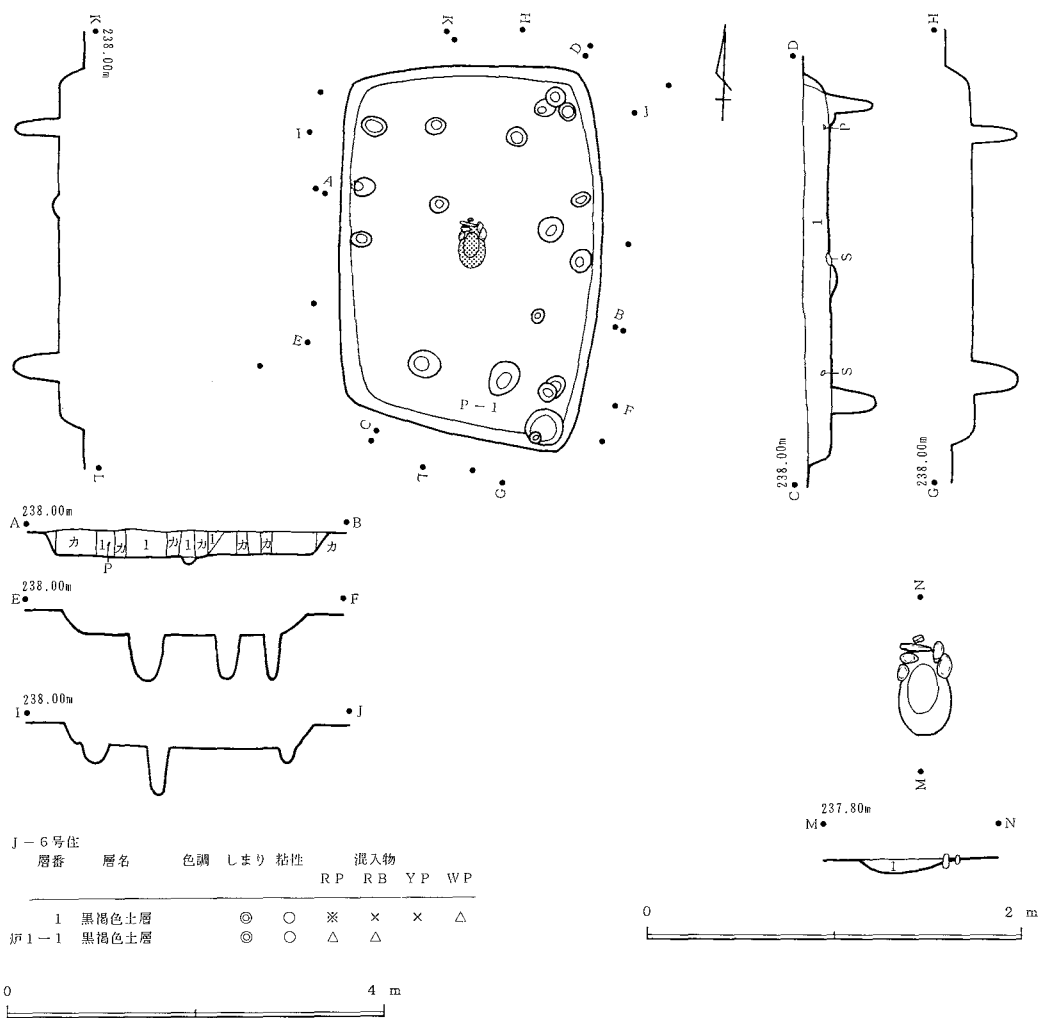


J-5号住

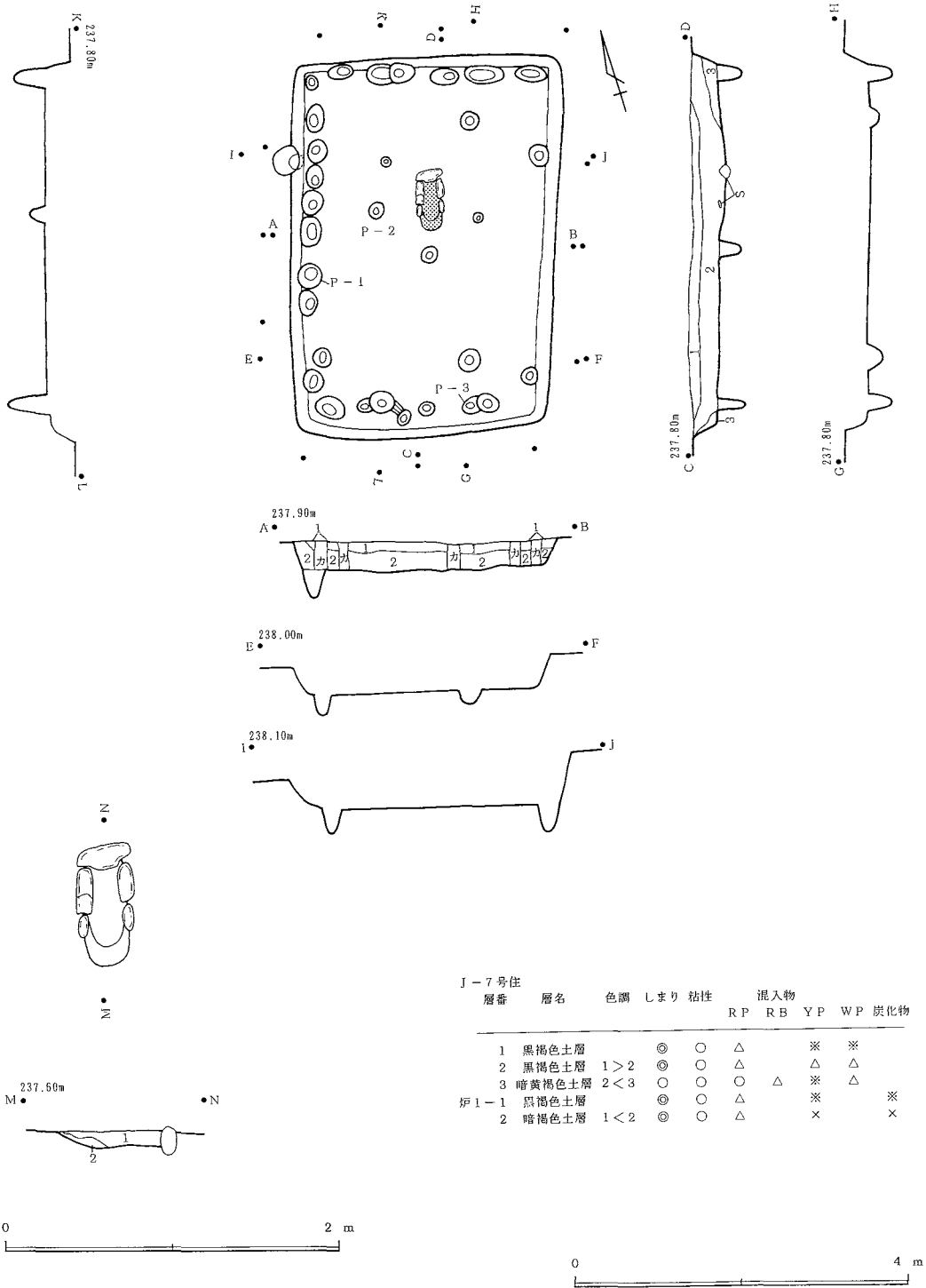
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
					RP	RB	YP	WP	焼土
1	黒褐色土層		◎	○	※	×	※	※	
2	黒褐色土層	1 > 2	◎	○	※	※	※	△	△
3	暗黄褐色土層	2 < 3	◎	○	△	△	△	△	△
4	黒褐色土層	3 > 4	◎	○	※	※	△	△	△
5	暗黄褐色土層	4 < 5	◎	◎	○	△	△	※	
炉 1-1	黒褐色土層		△	○	△	△	△		※
2	暗褐色土層	1 < 2	△	○	△	△	×		△

第73図 J-5号住居址実測図

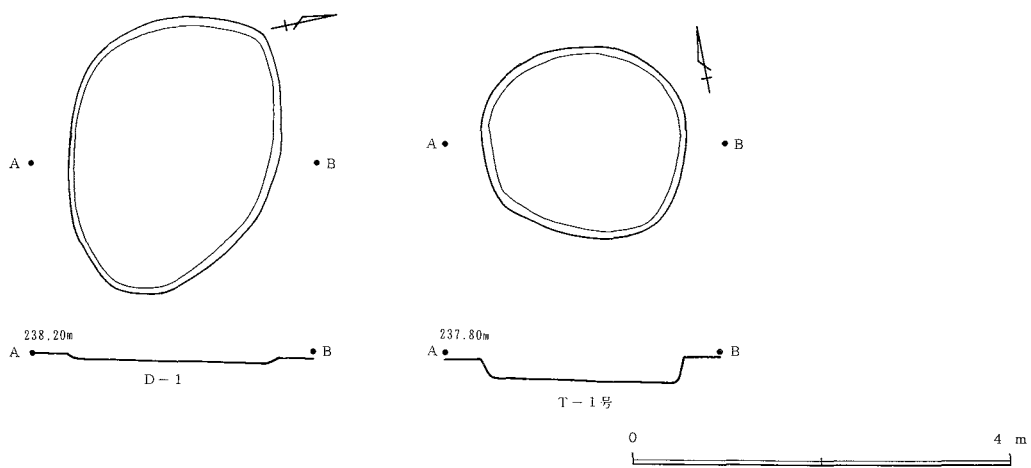
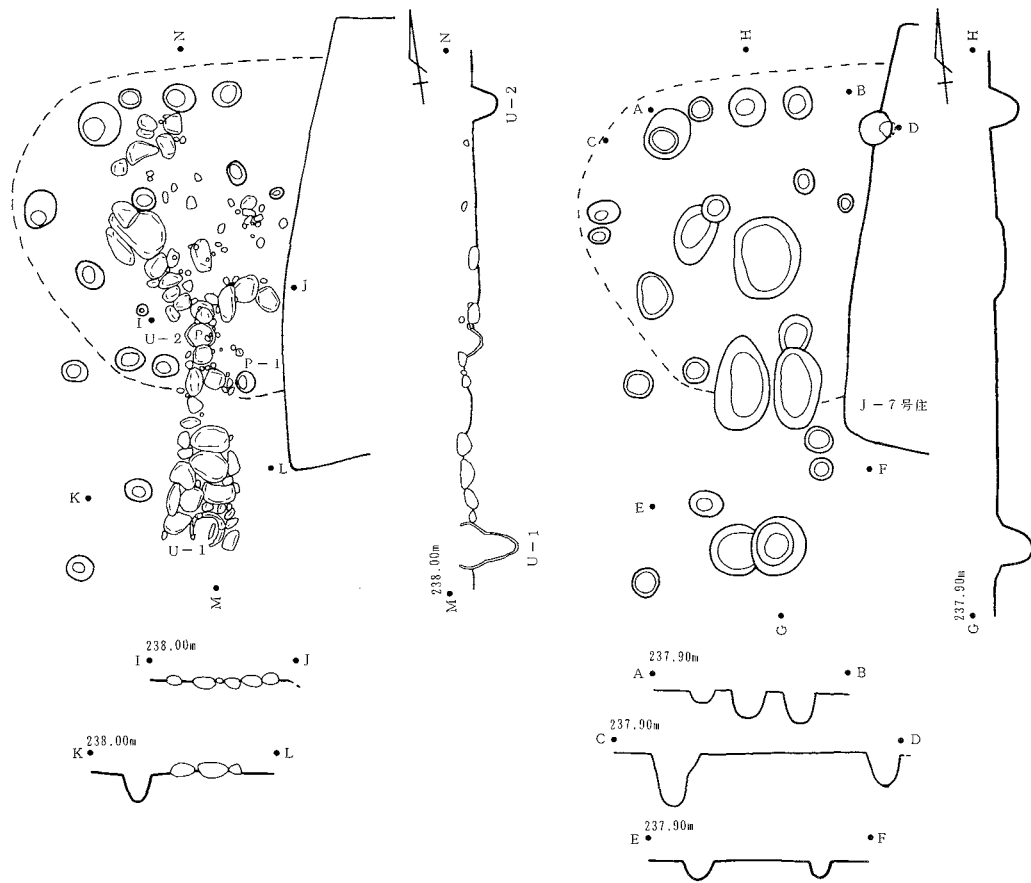




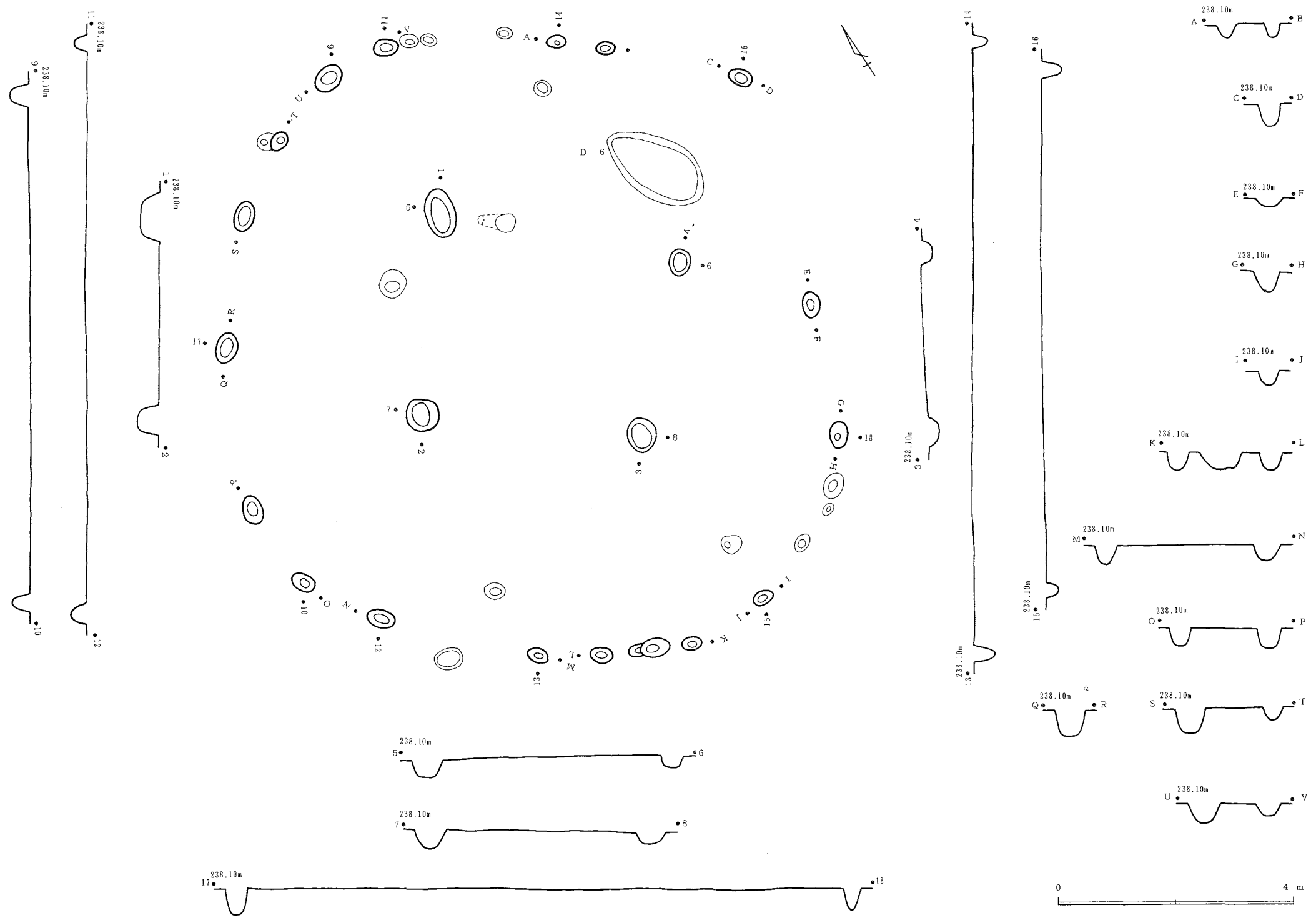
第74図 J-6号住居址実測図



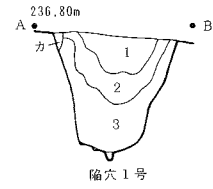
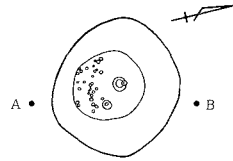
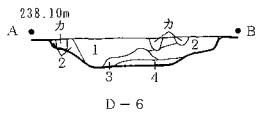
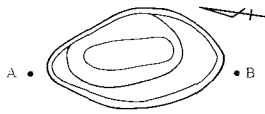
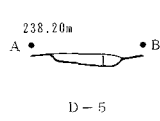
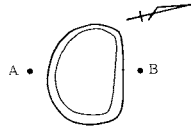
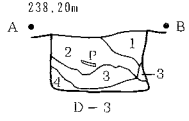
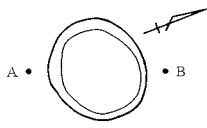
第75図 J-7号住居址実測図



第76图 J-8号住居址・D-1号・T-1号竖穴状遺構実測図



第77图 円形柱穴列実測図

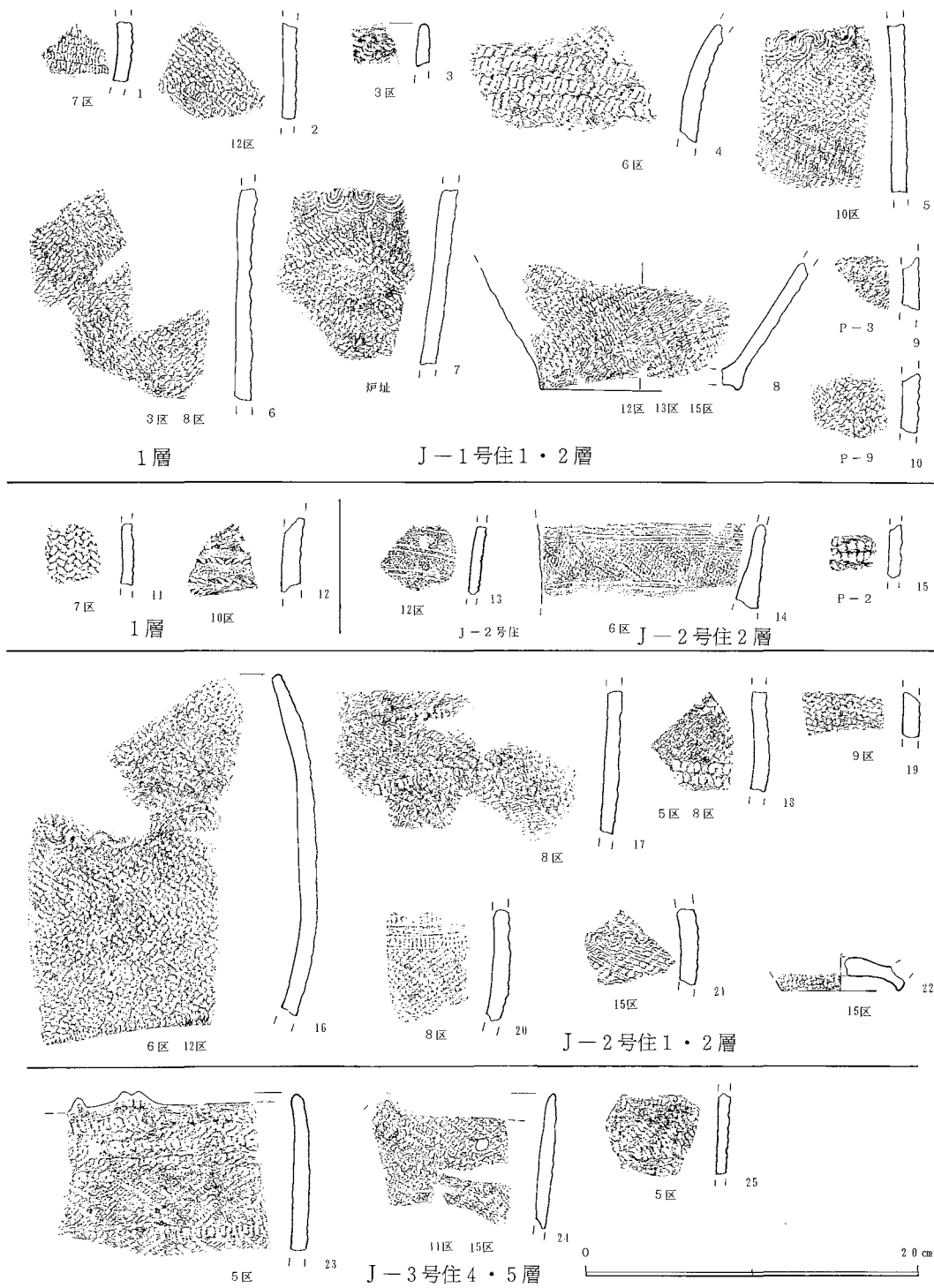


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
						RP	RB	YP	WP
D-3	1	暗褐色土層	◎	○			※	△	
	2	暗褐色土層	1 > 2	◎	○			△	○
	3	暗褐色土層	2 < 3	◎	○			※	△
	4	暗黄褐色土層	3 < 4	○	○		△	△	※
D-5	1	暗黄褐色土層	◎	◎			※	△	
D-6	1	暗黄褐色土層	◎	◎	△			△	※
	2	暗黄褐色土層	1 < 2	◎	◎	△		※	△
	3	暗黄褐色土層	2 < 3	◎	◎	△		○	※
	4	黄褐色土層	3 < 4	◎	◎	△		◎	×

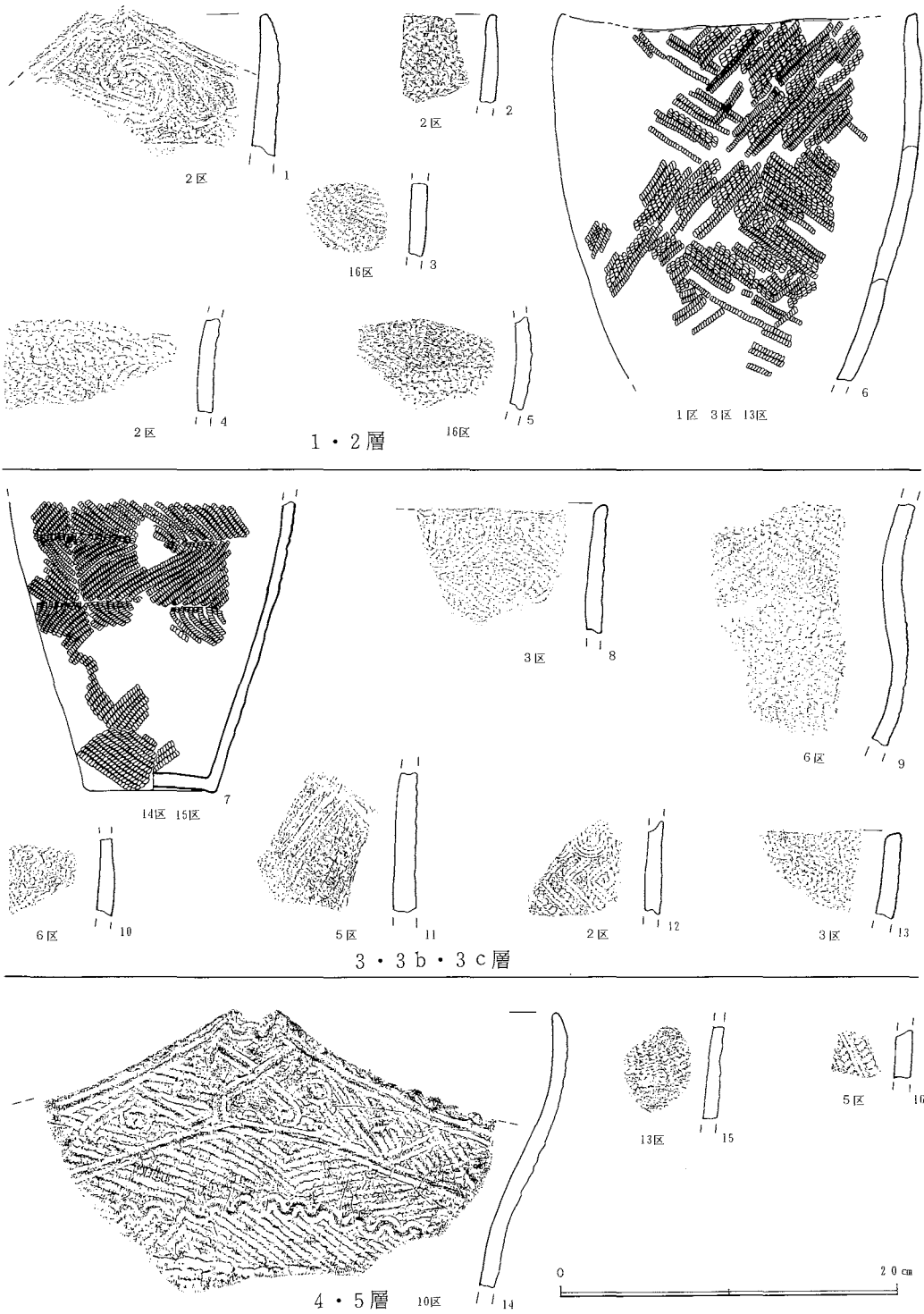
陥穴1号

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
					RP	RB	YP	WP
1	黒褐色土層	◎	◎	◎	※	※	※	※
2	暗褐色土層	1 < 2	◎	◎	△	※	△	△
3	暗黄褐色土層	2 < 3	◎	◎	○	△	△	※
0					4 m			

第78図 東畑遺跡土坑・陥穴実測図



第79図 J-1号・2号・3号住居址出土の遺物

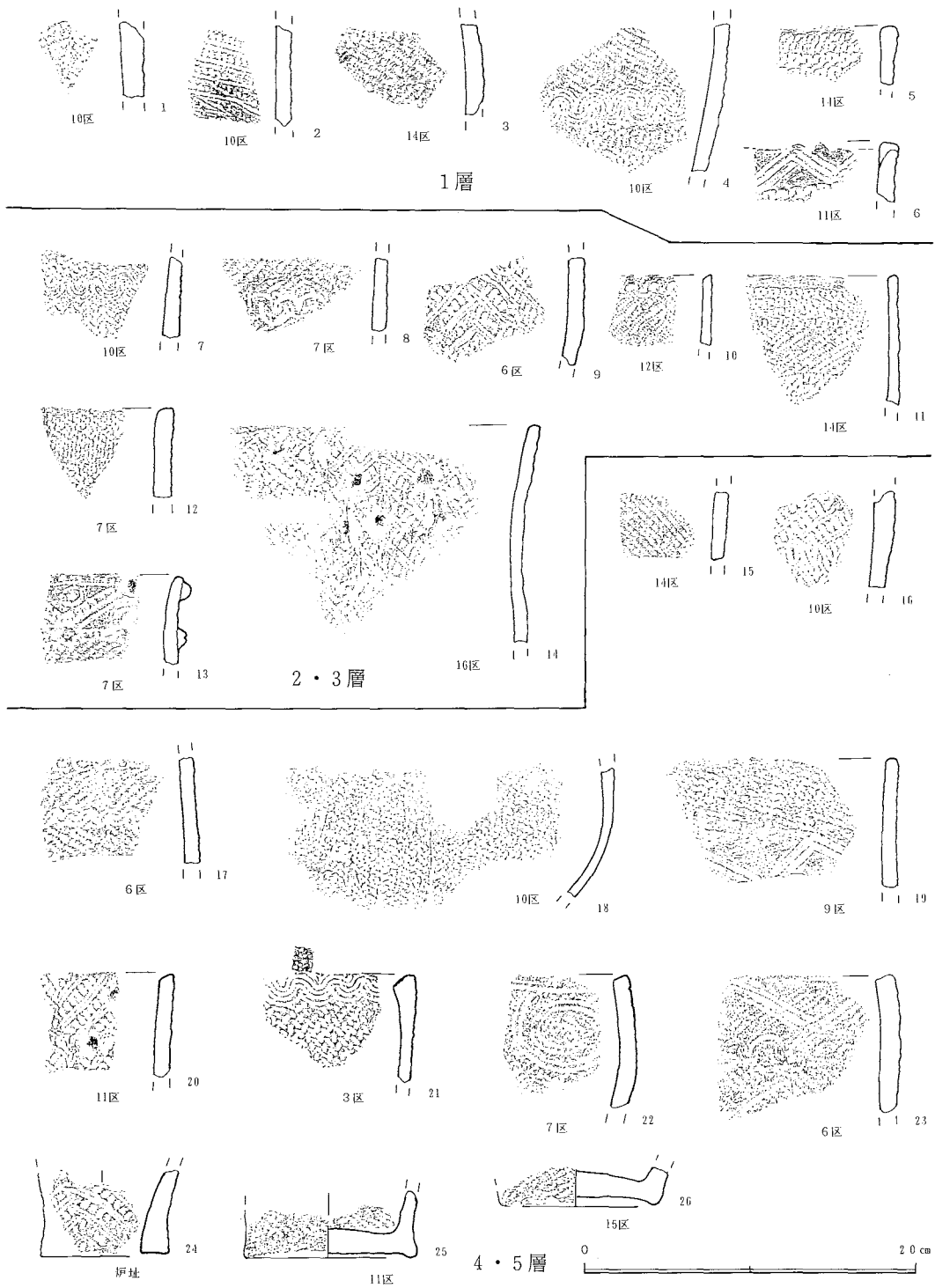


第80図 J-4号住居址出土の遺物(1)

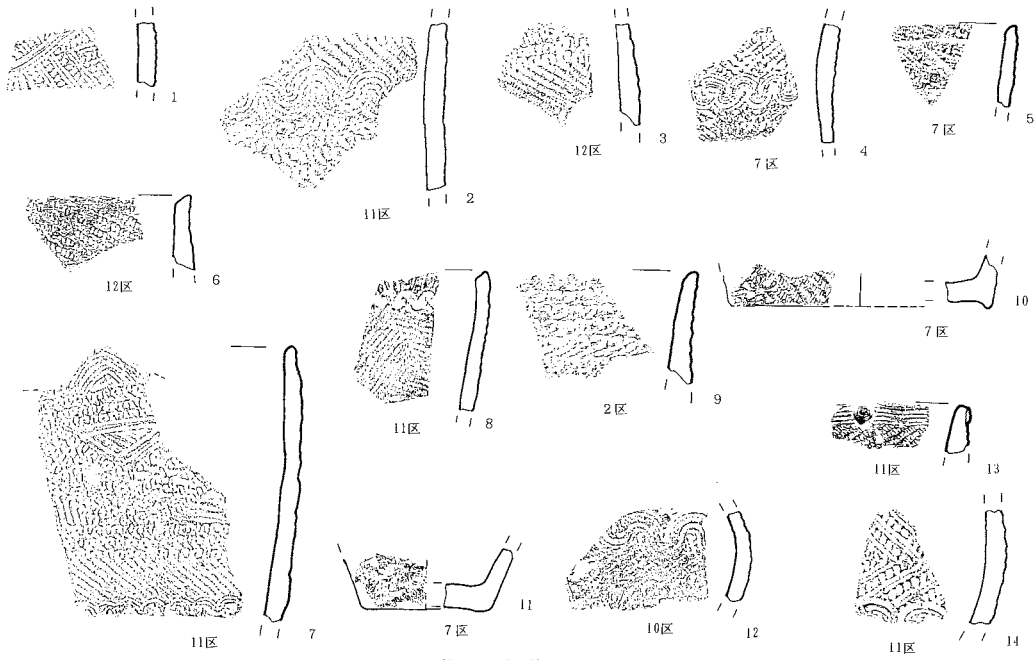


第81図 J-4号住居址出土の遺物(2)

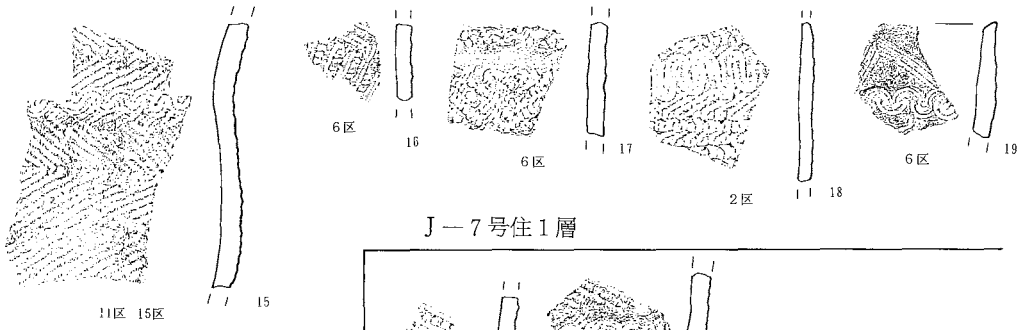




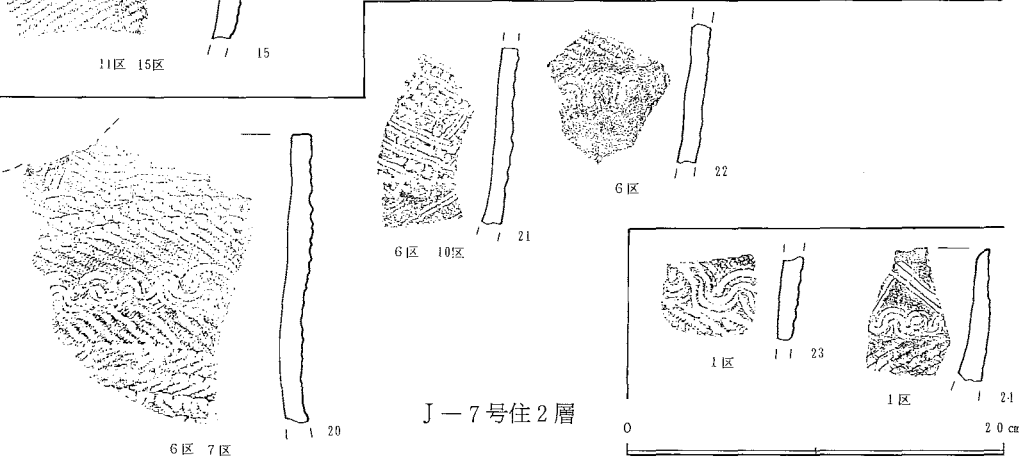
第82図 J-5号住居址出土の遺物



J-6号住1層

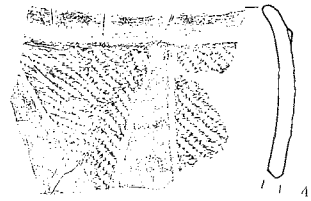
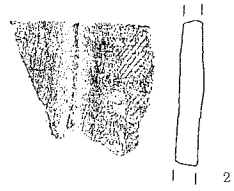
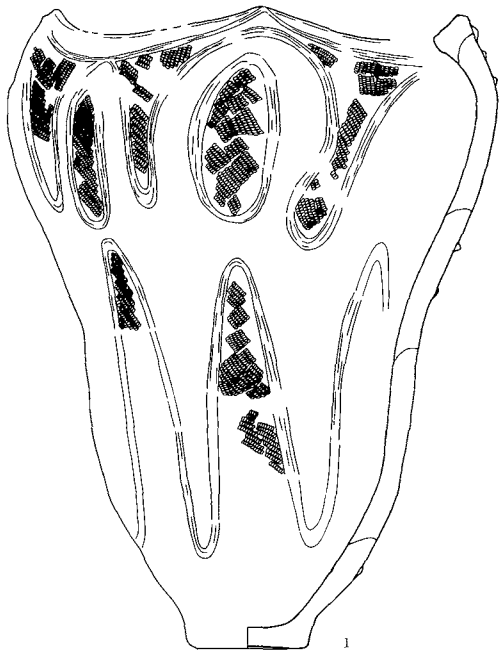


J-7号住1層

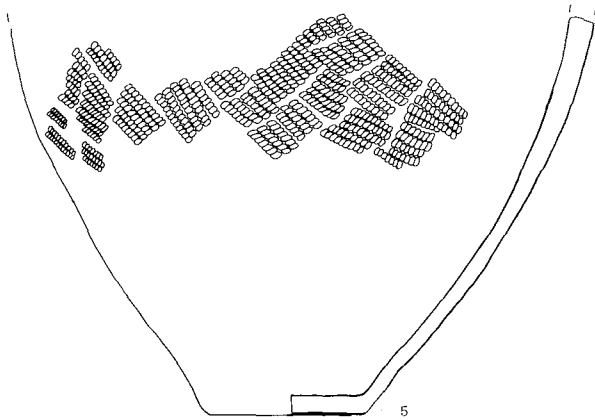


J-7号住2層

第83図 J-6号・7号住居址出土の遺物



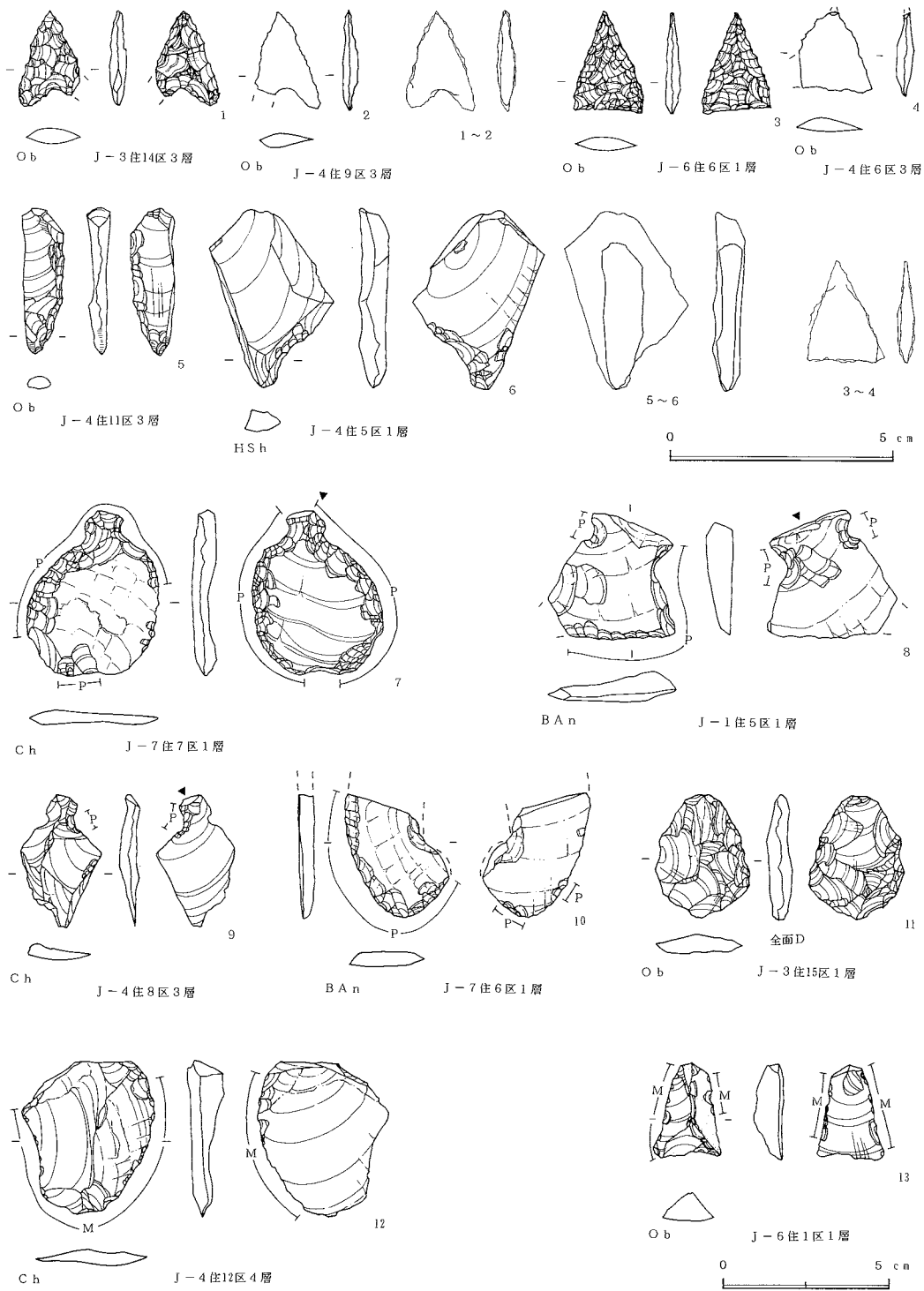
U-1



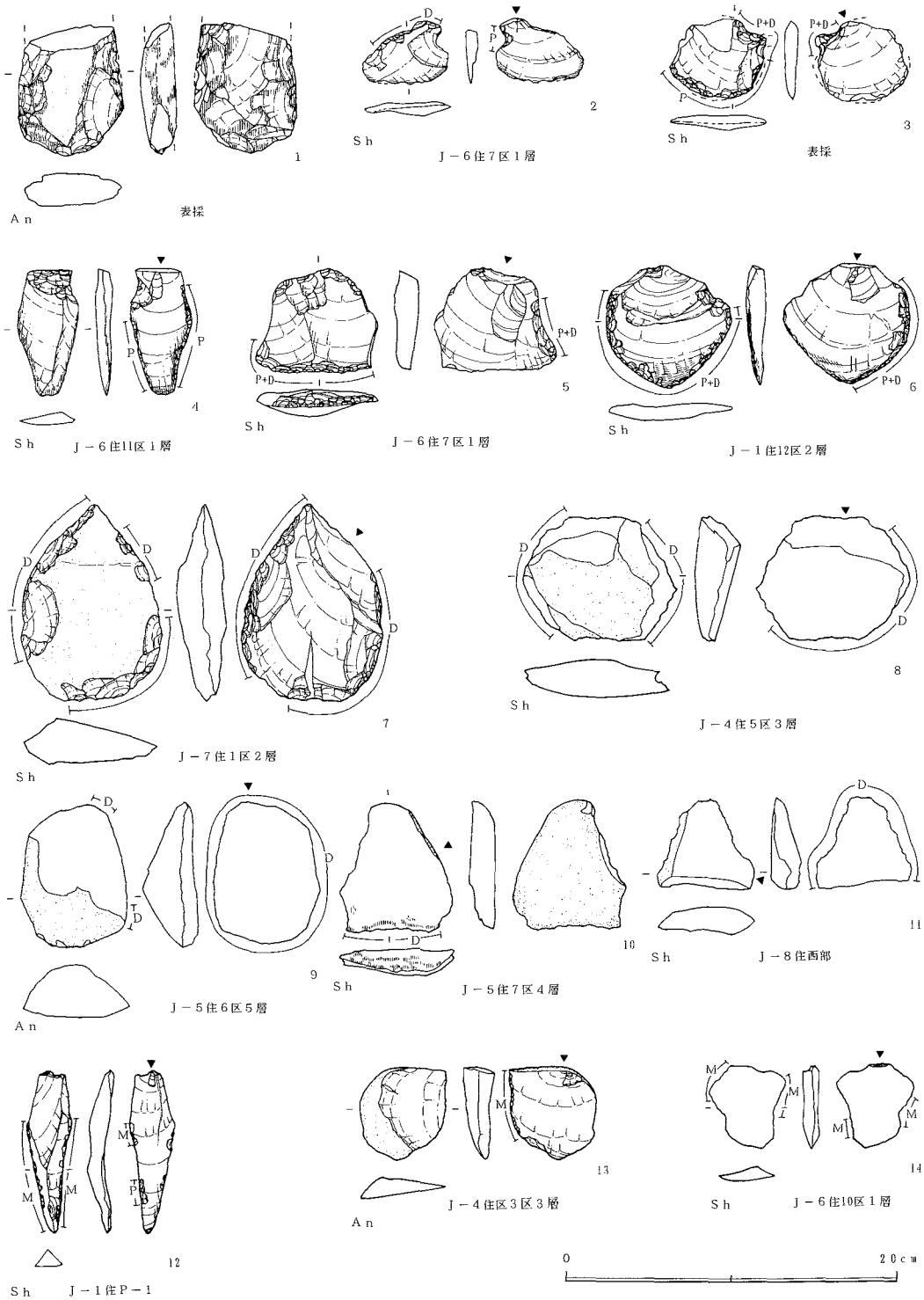
U-2



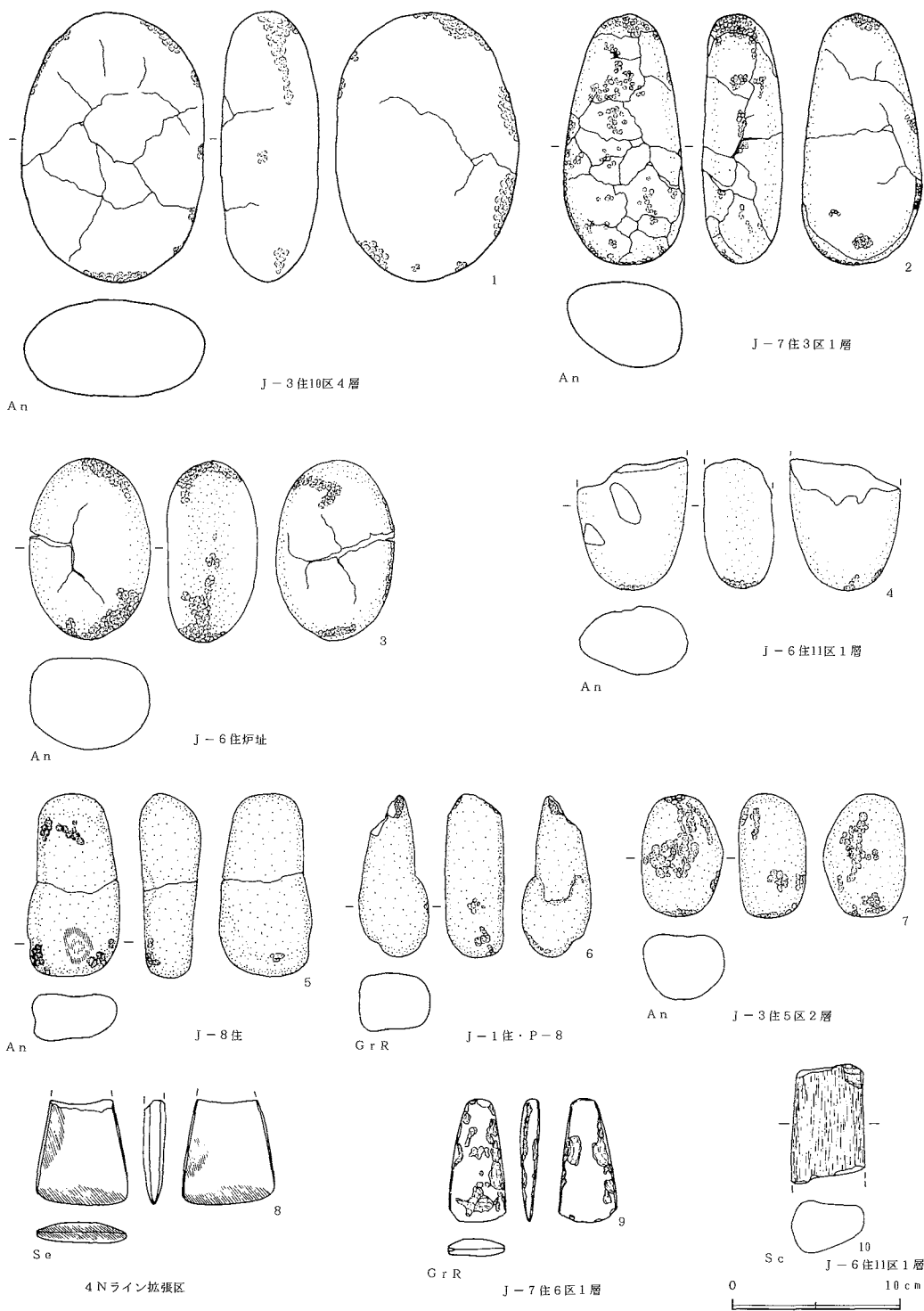
第84图 J-8号住居址埋設土器



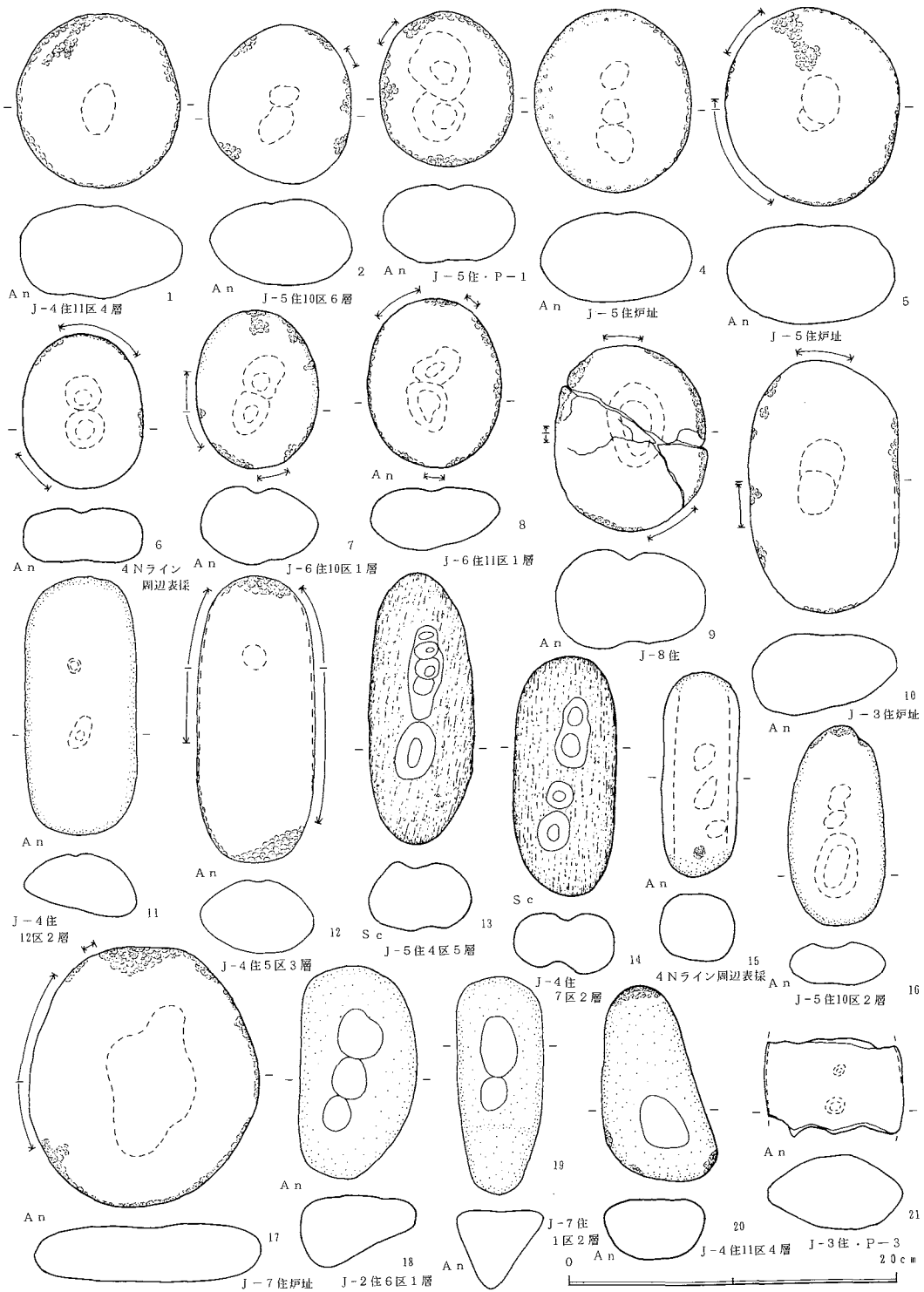
第85図 石鏃等実測図



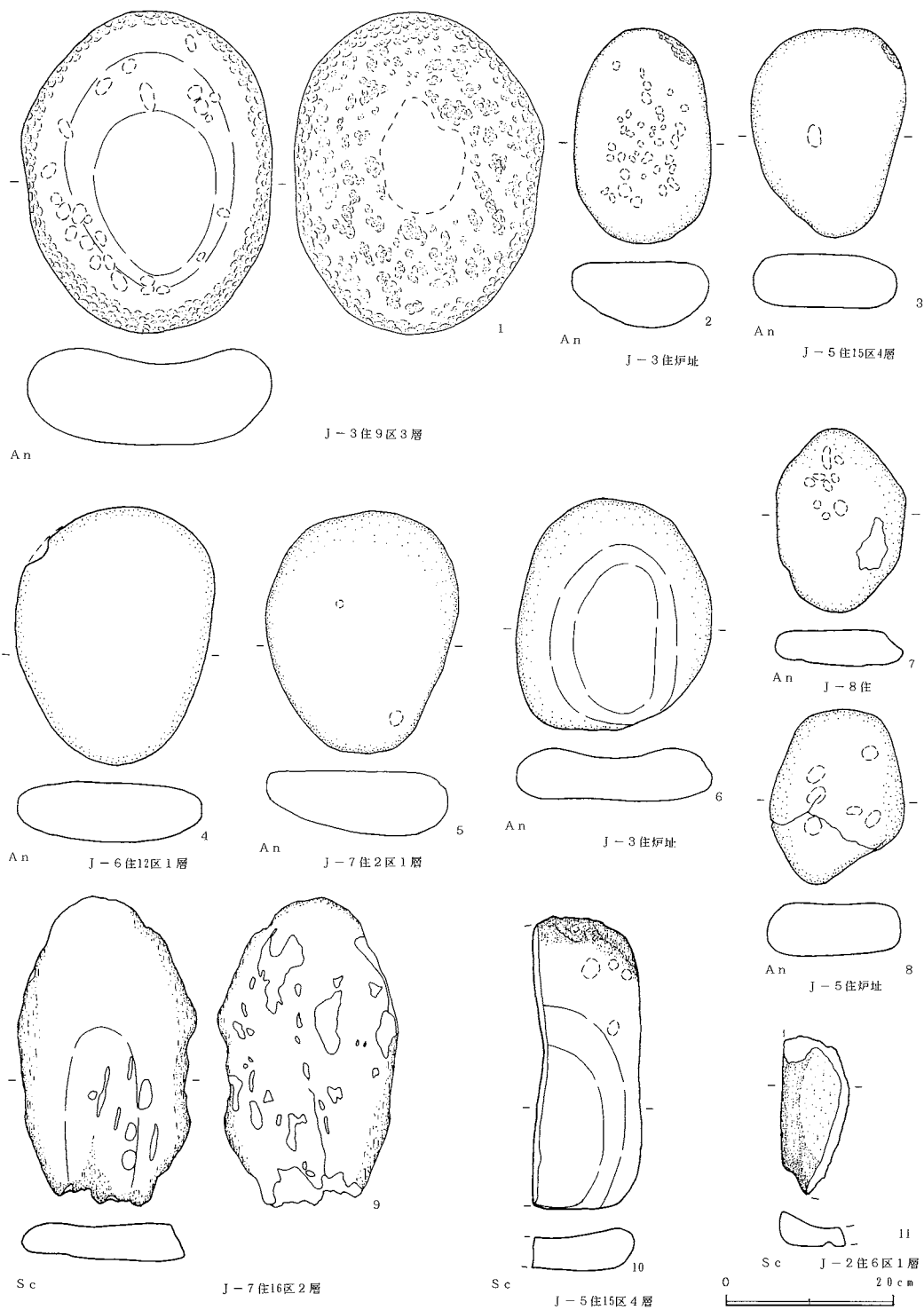
第86图 打製石斧等実測図



第87図 磨石等実測図

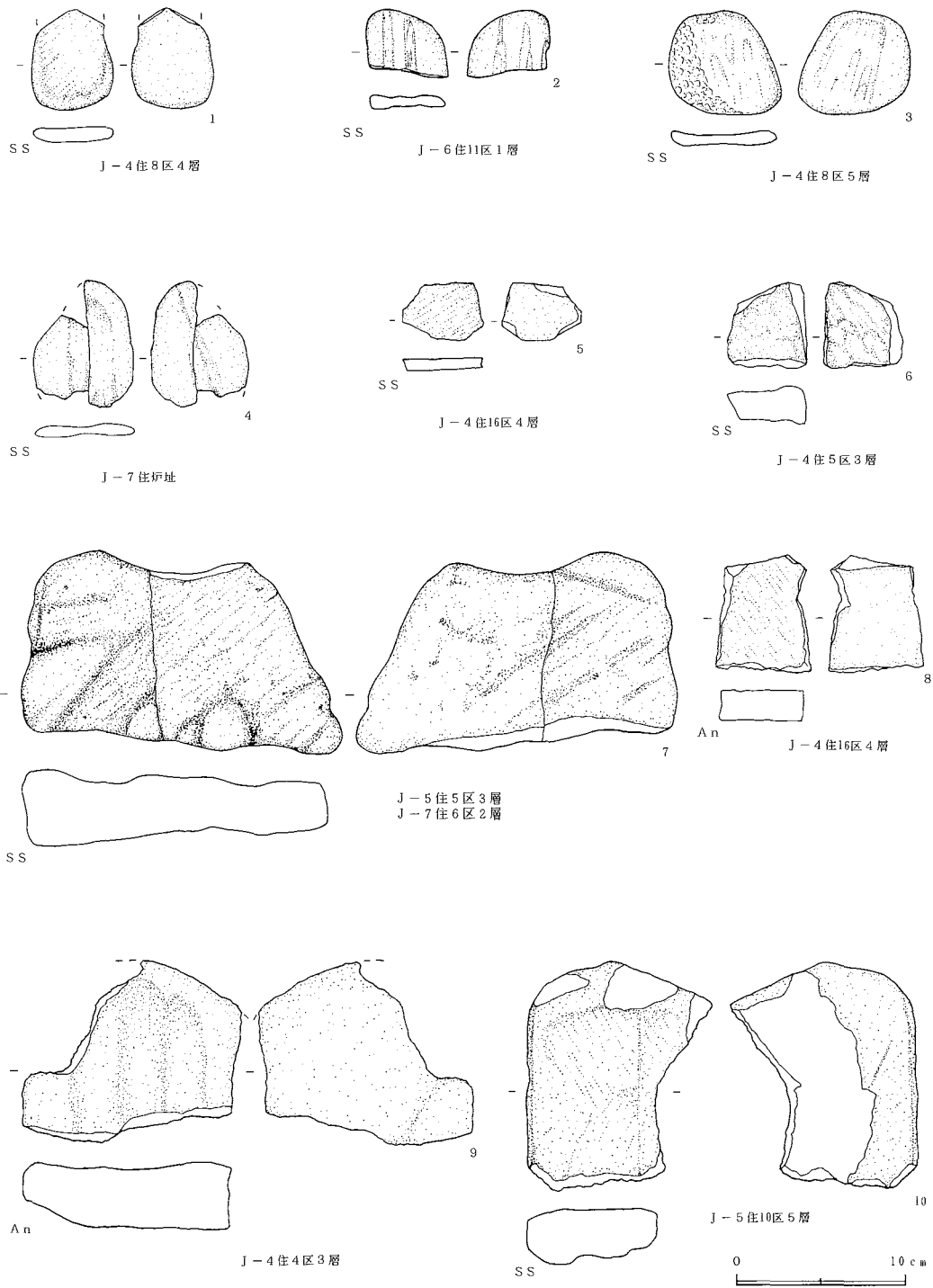


第88図 凹石実測図

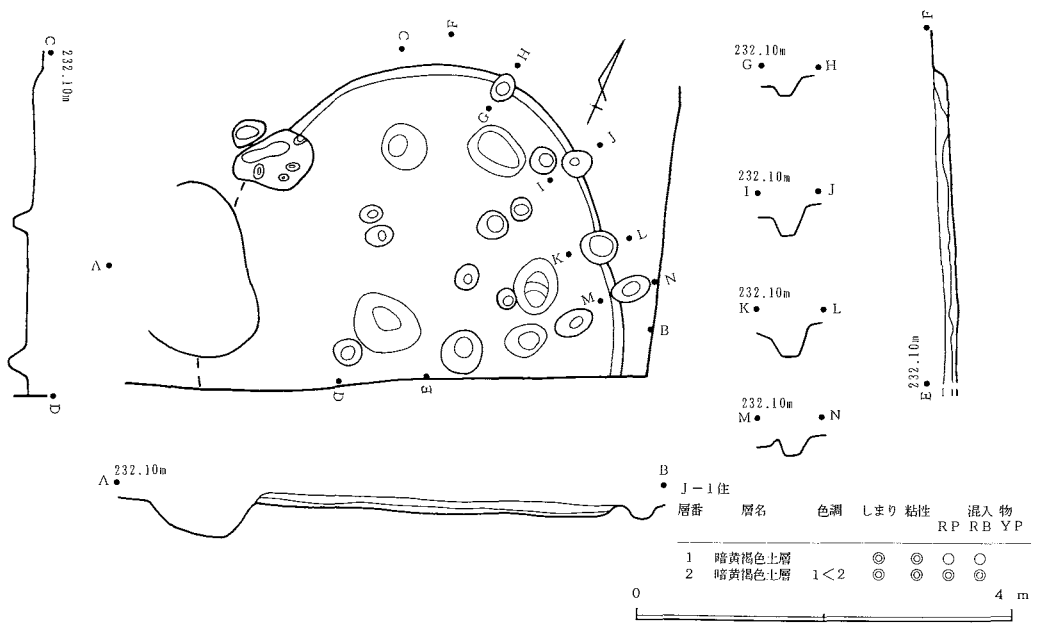
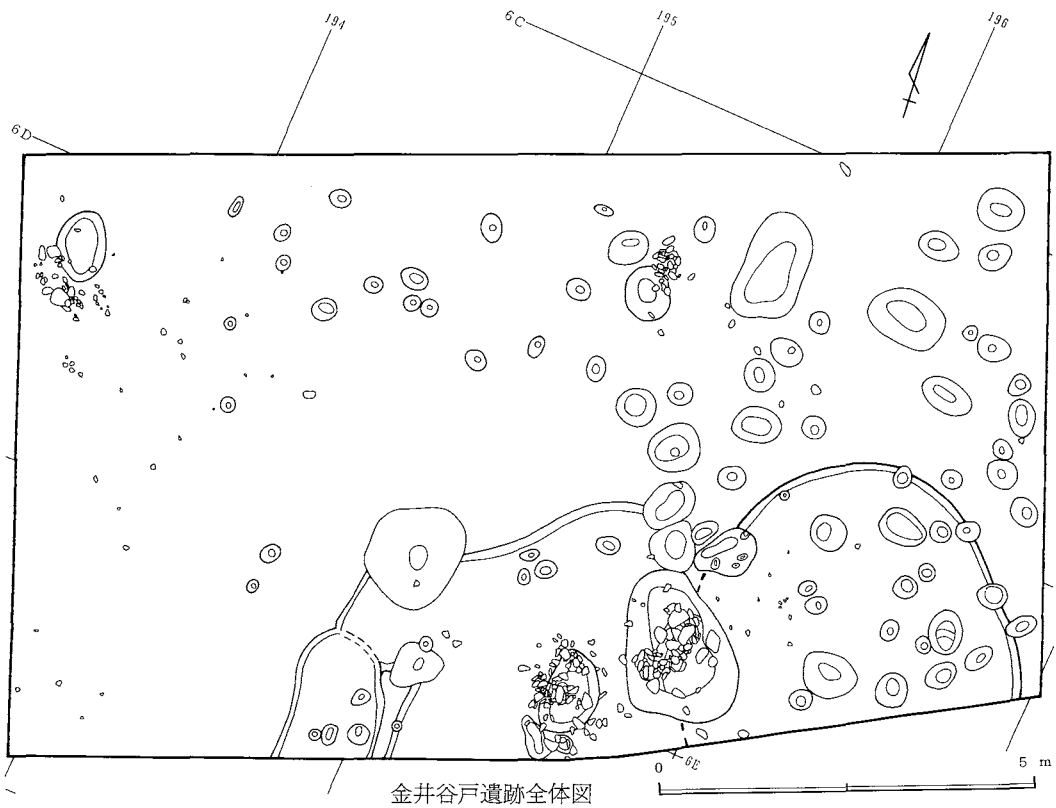


第89图 石皿实测图

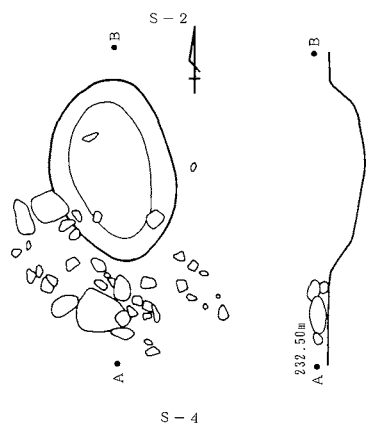
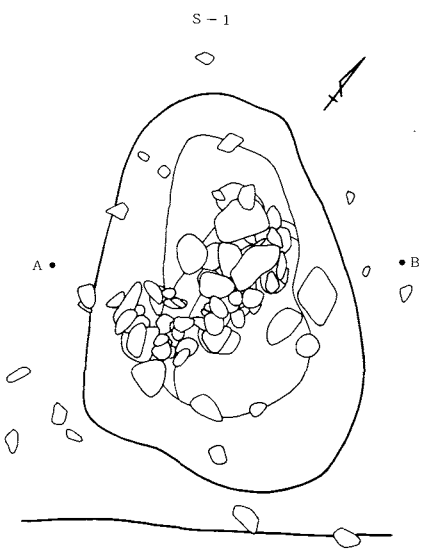
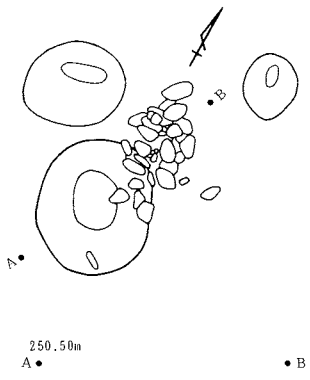
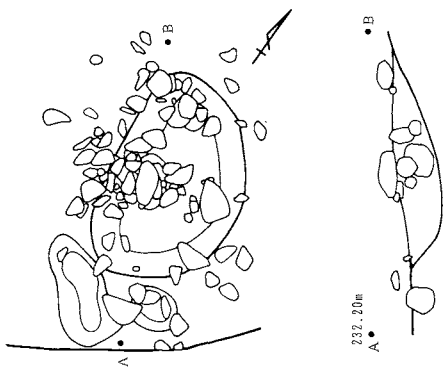




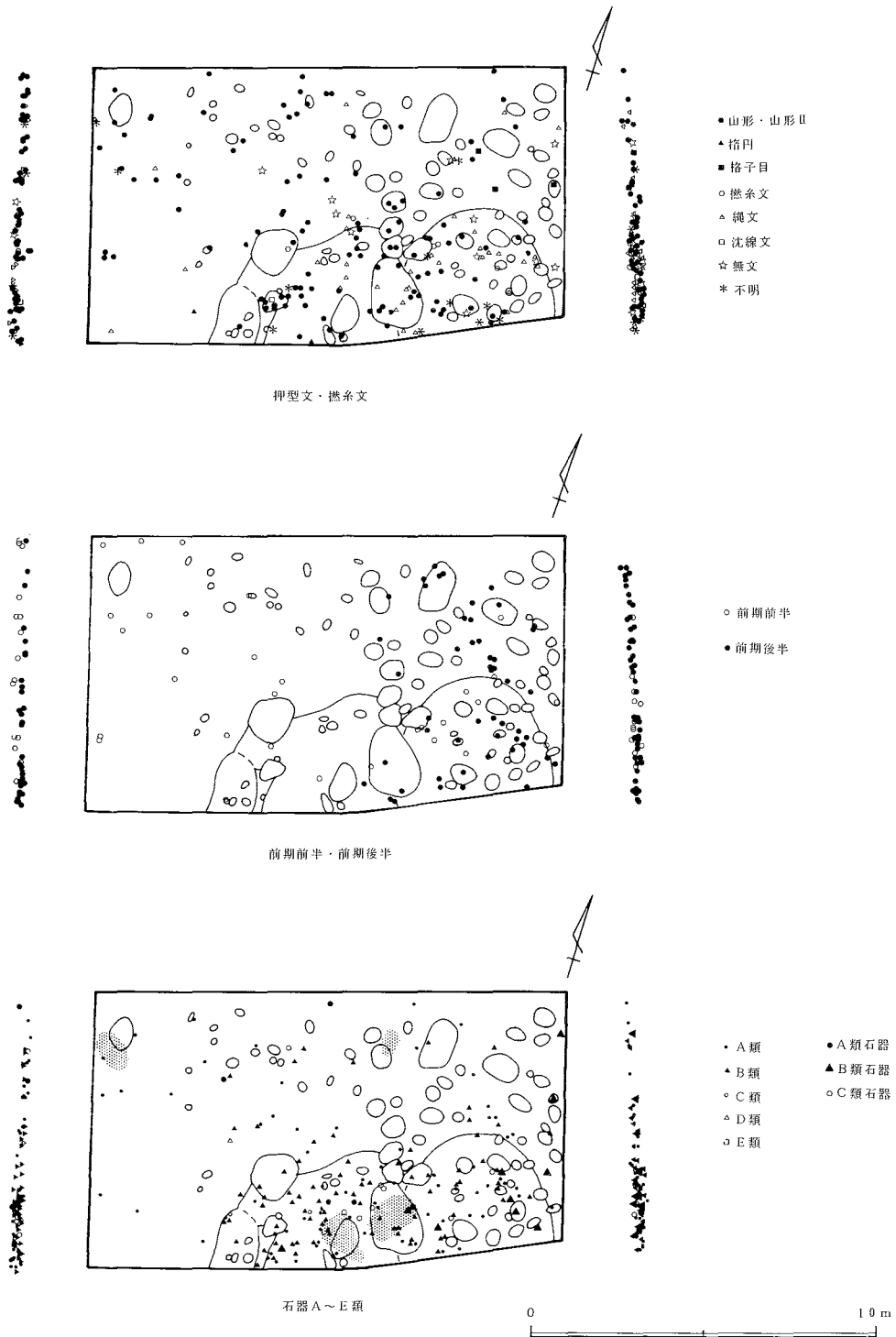
第90图 砥石実測図



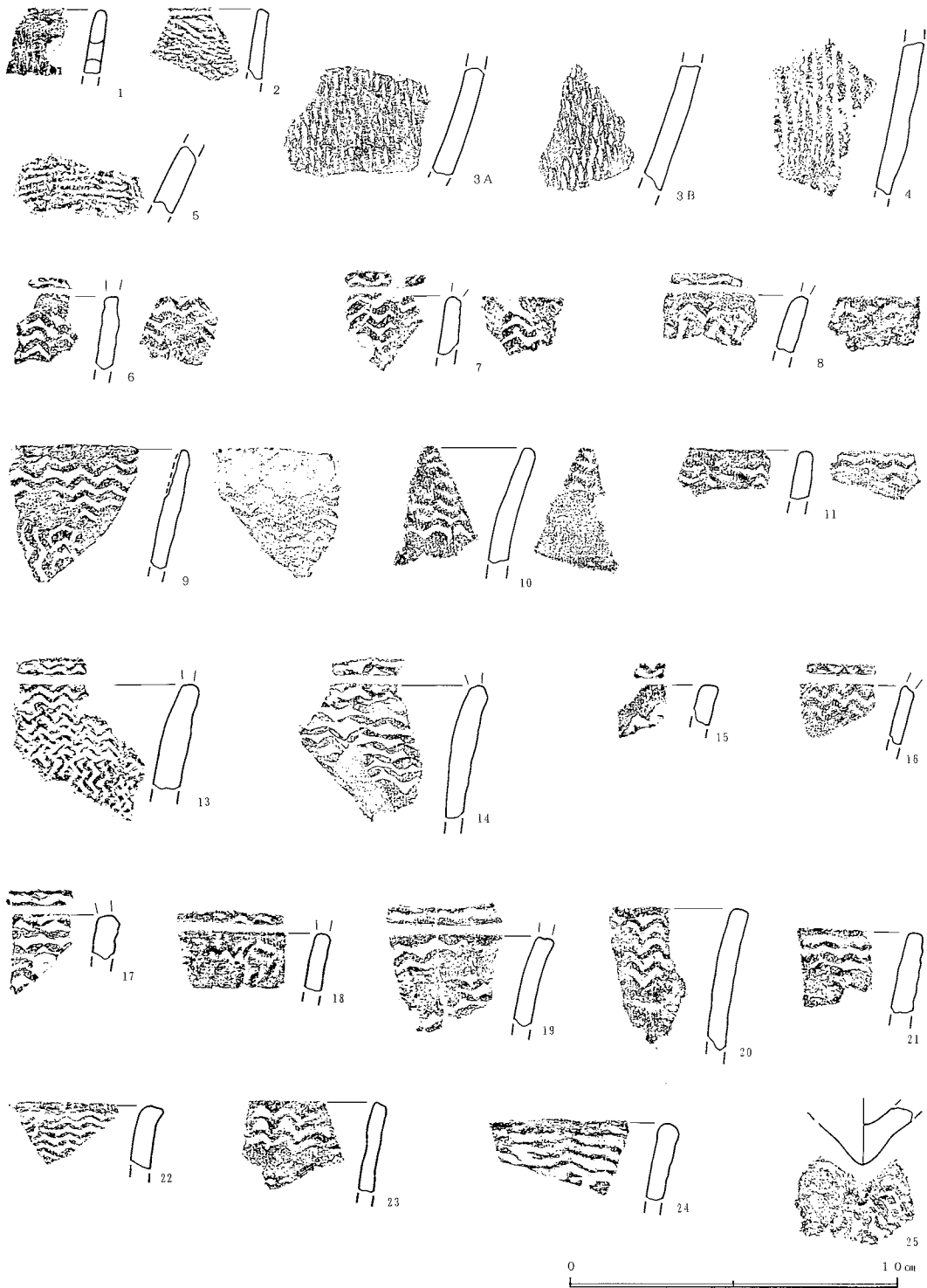
第91図 金井谷戸遺跡全体図・J-1号住居址実測図



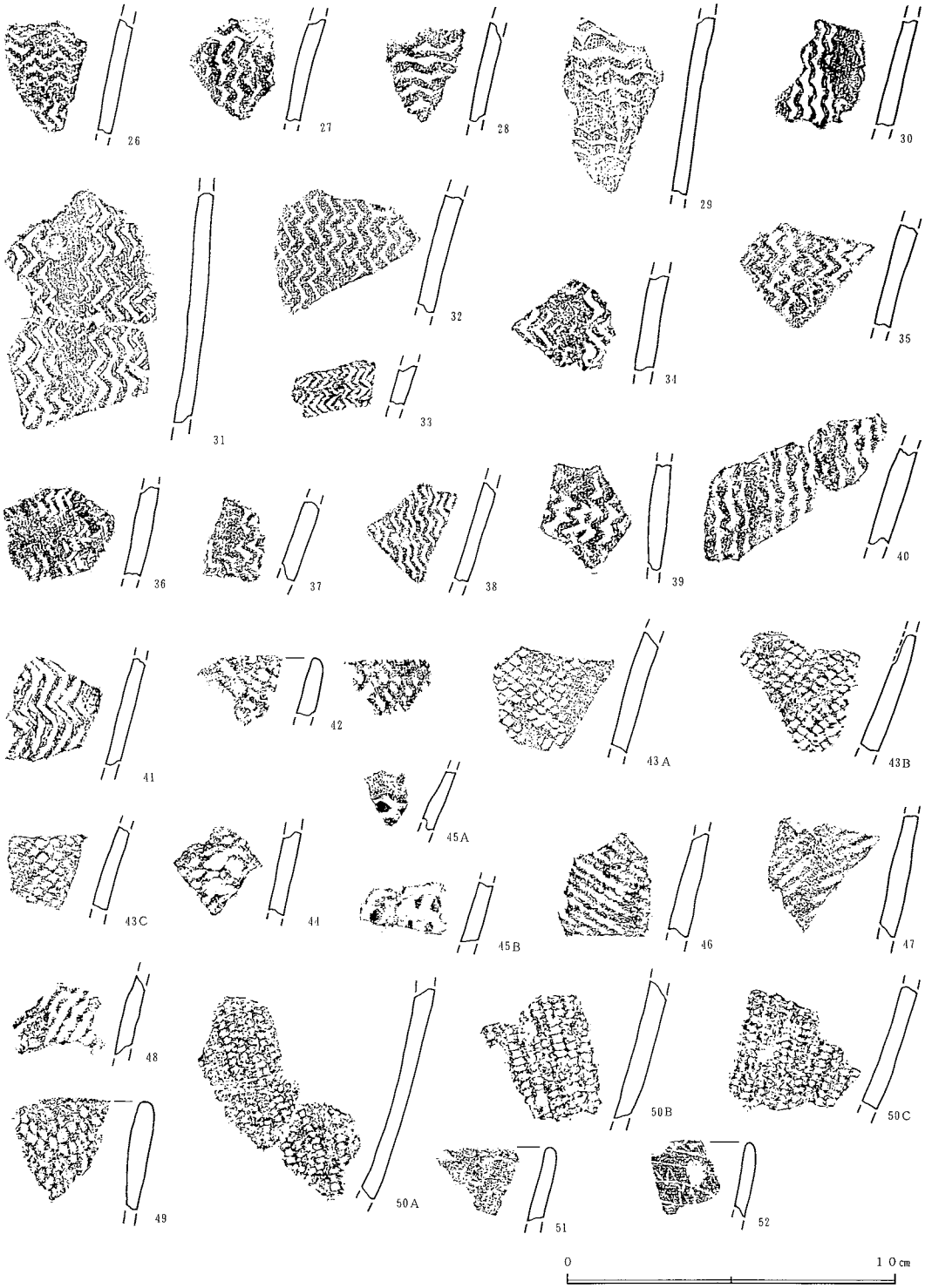
第92图 集石土坑实测图



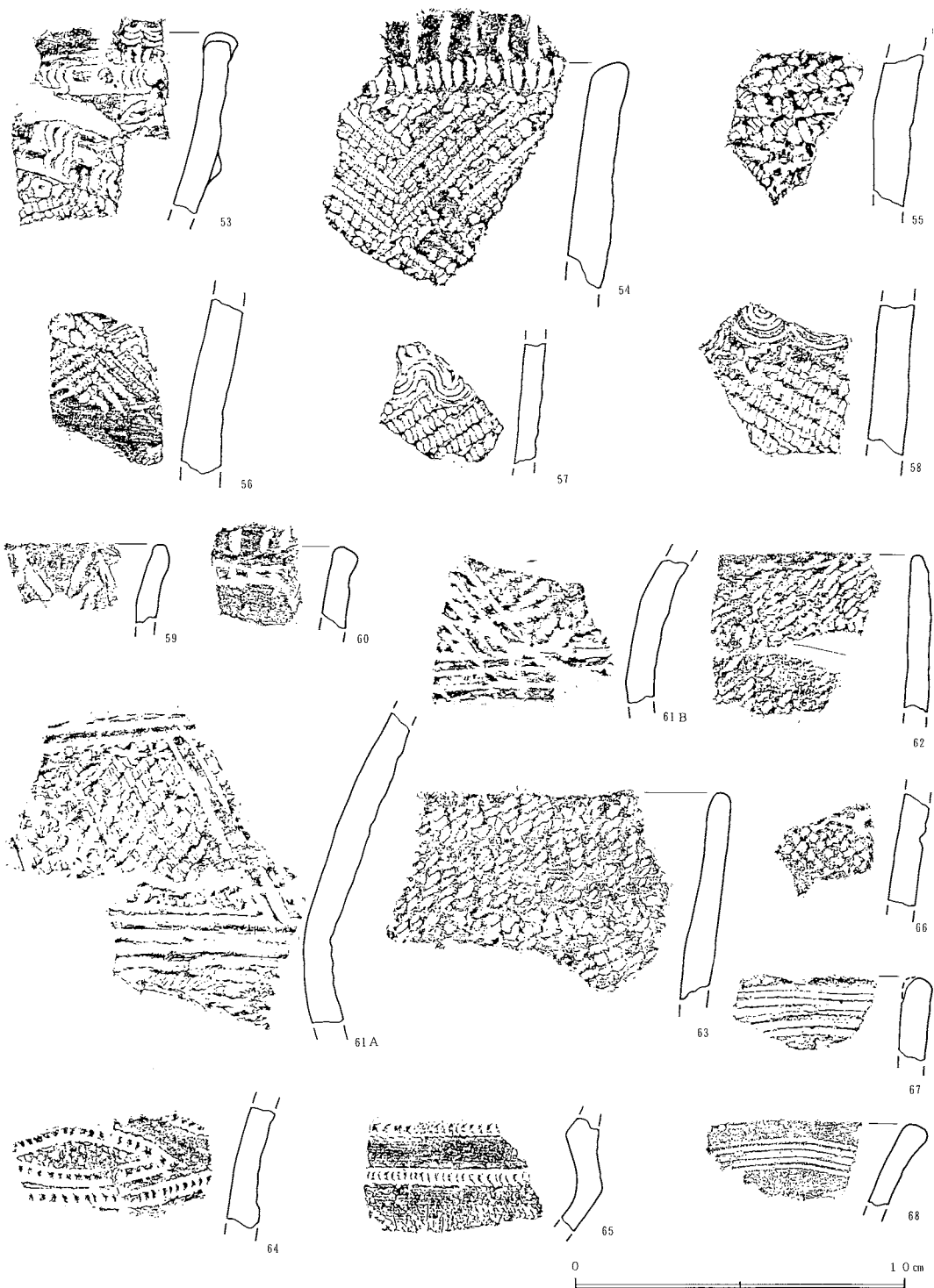
第93図 遺物分布図



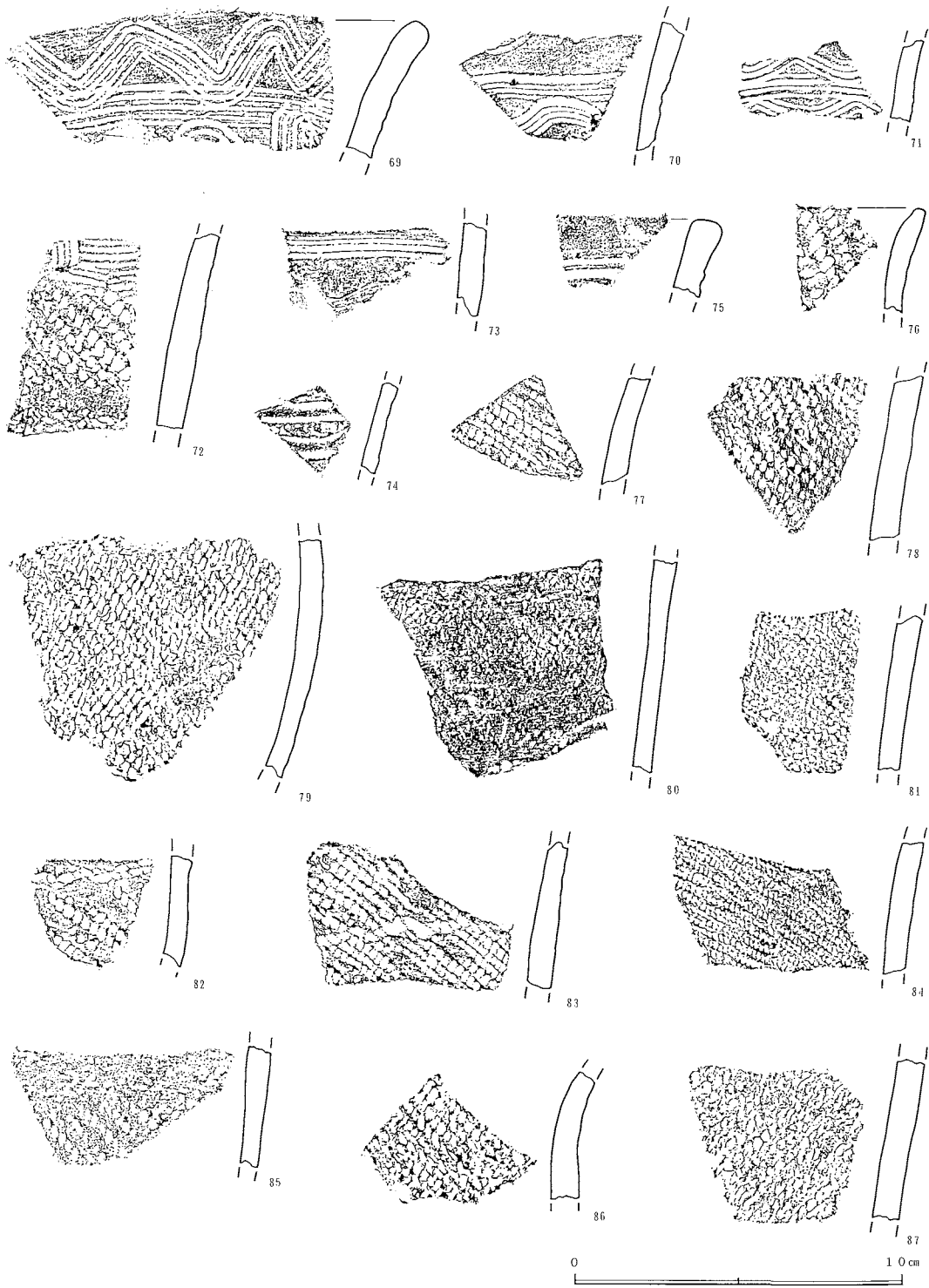
第94図 金井谷戸遺跡出土の土器(1)



第95図 金井谷戸遺跡出土の土器(2)

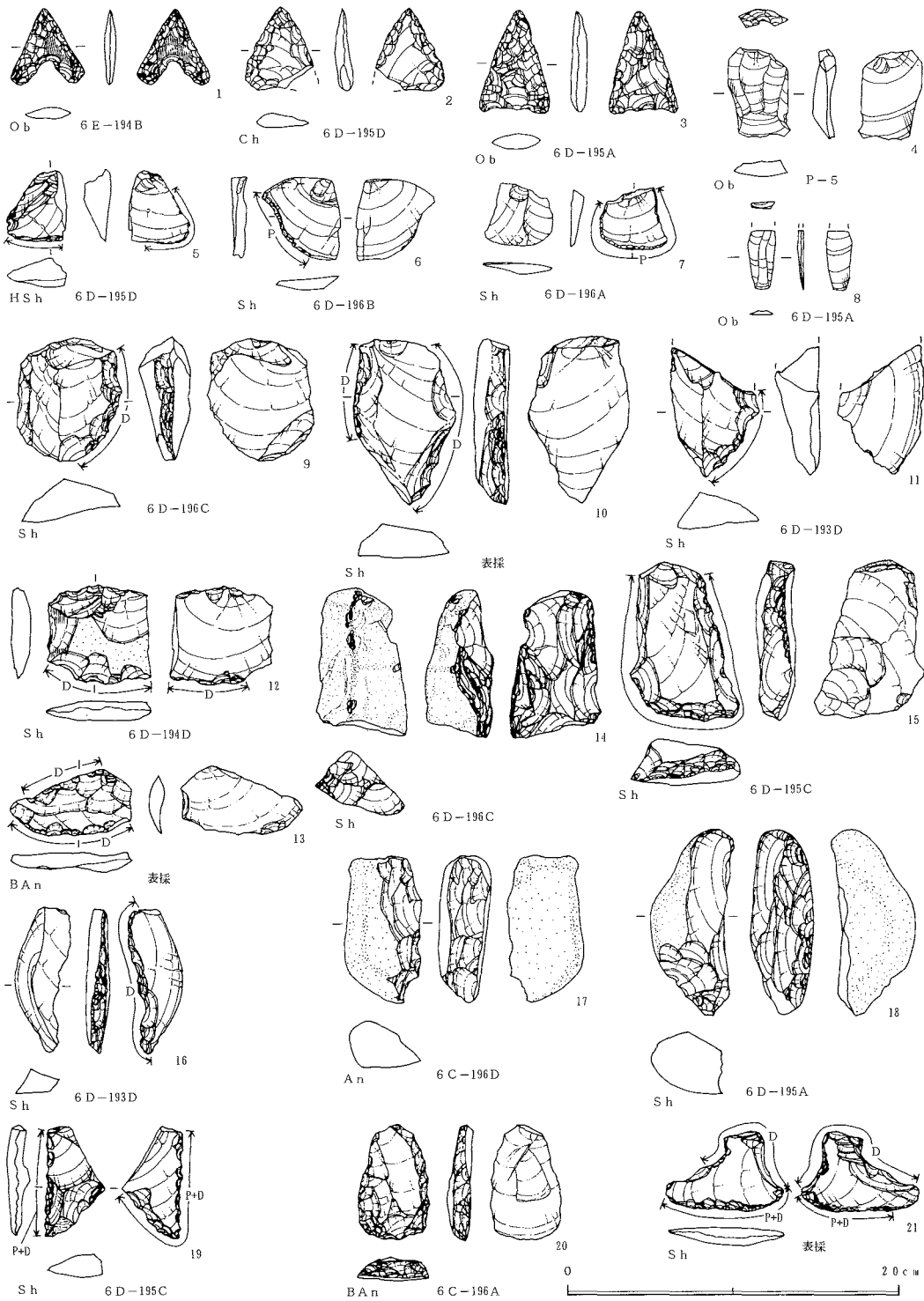


第96図 金井谷戸遺跡出土の土器(3)

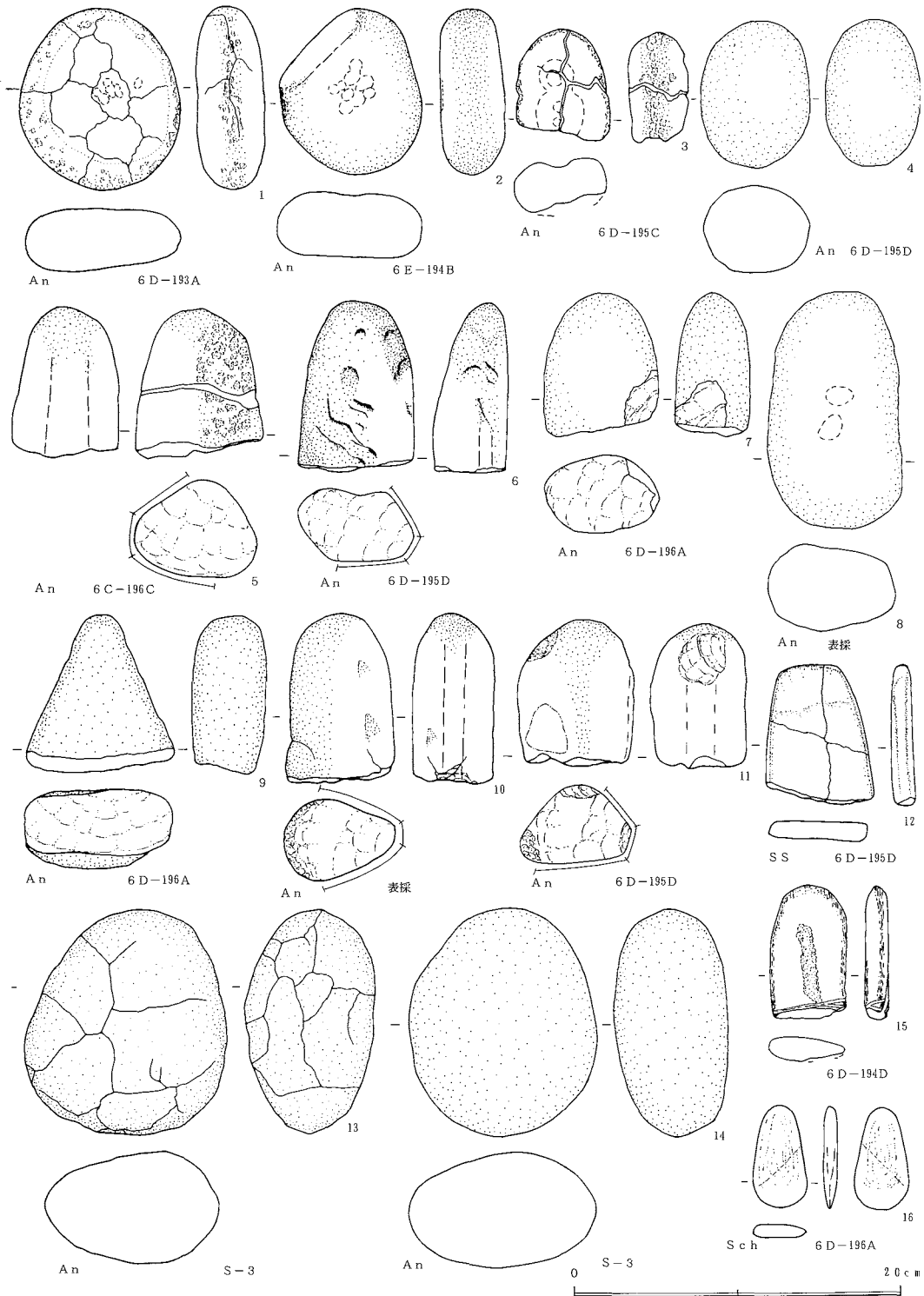


第97図 金井谷戸遺跡出土の土器(4)

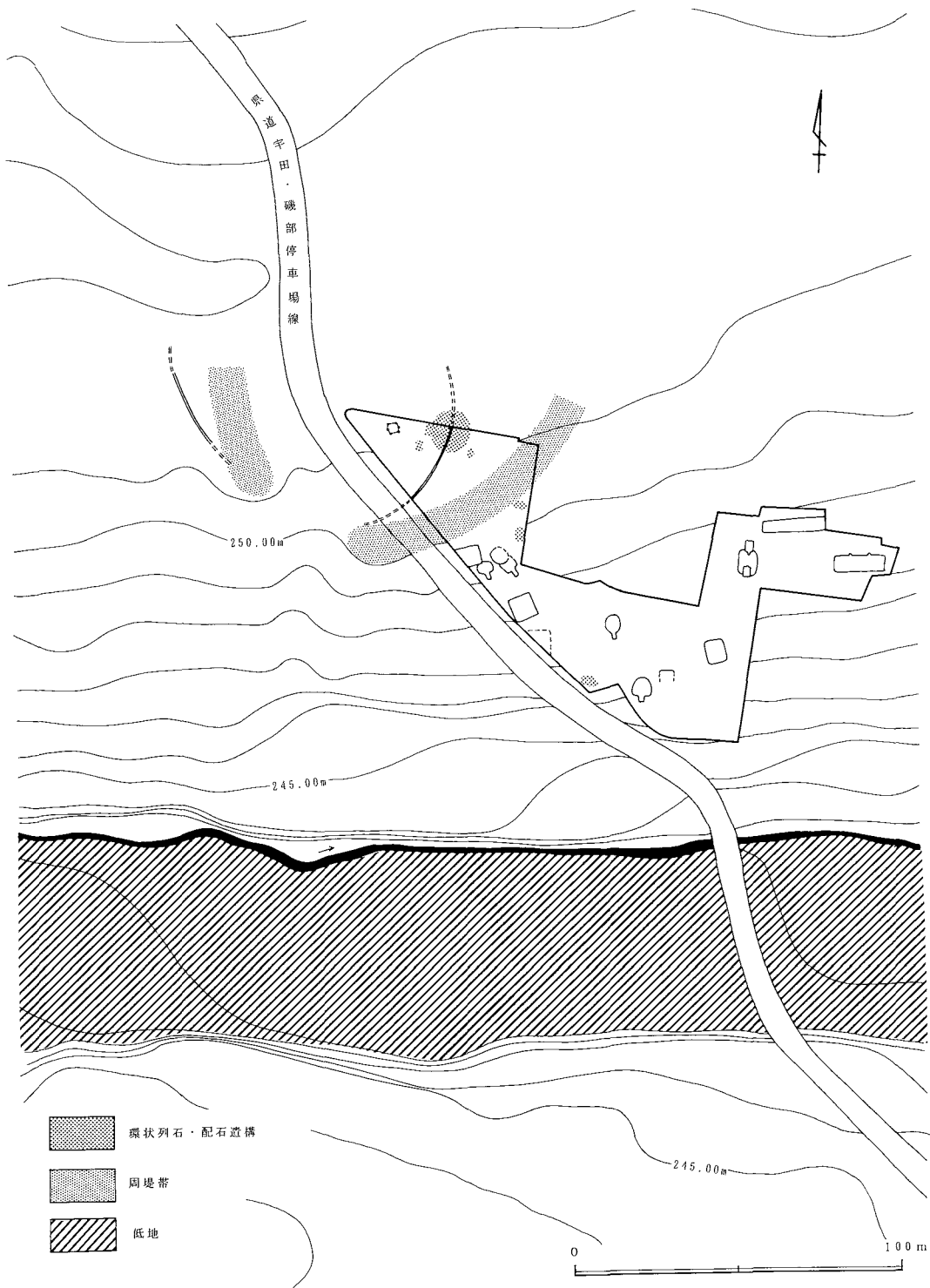




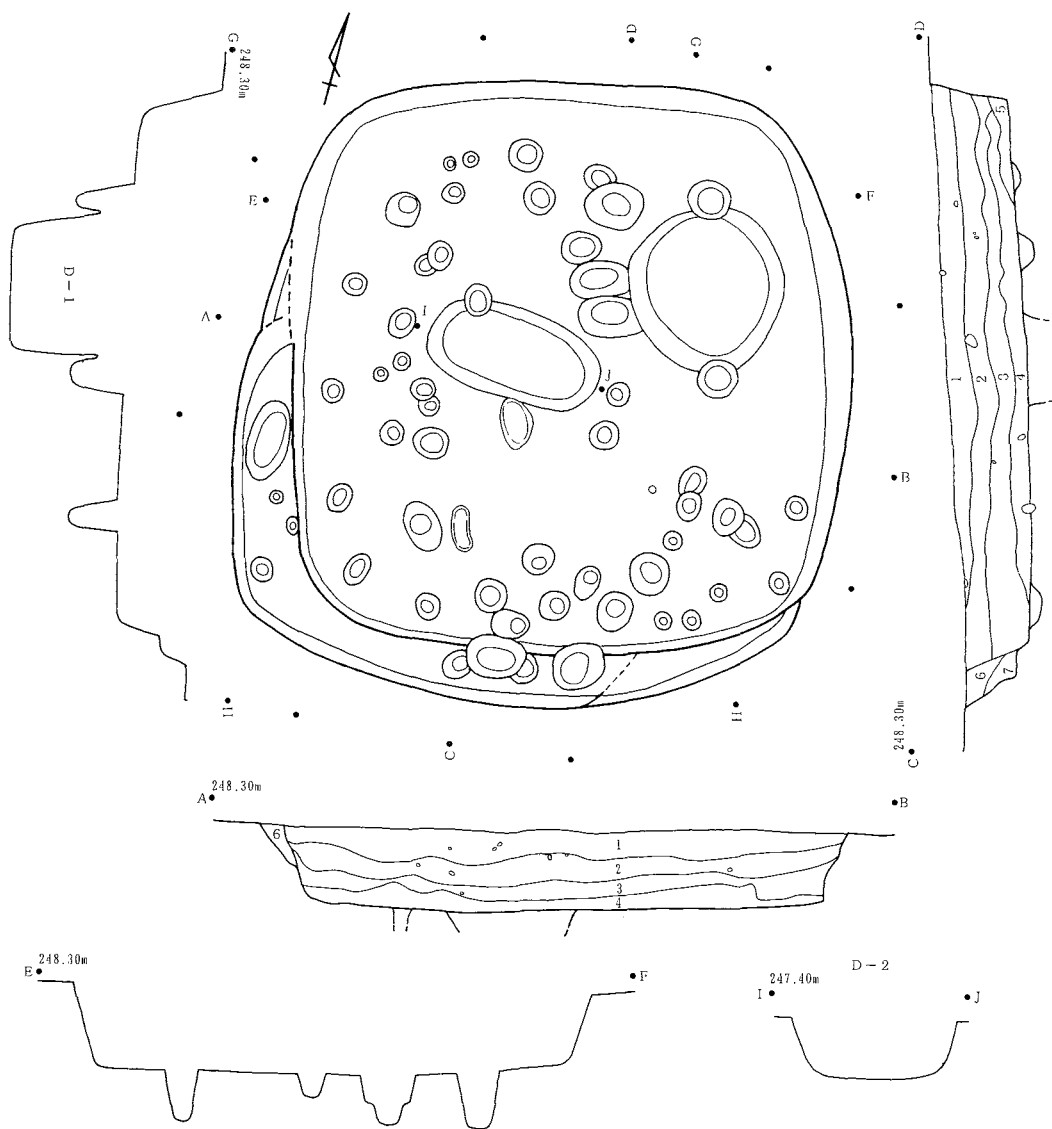
第98図 金井谷戸遺跡出土の石器(1)



第99図 金井谷戸遺跡出土の石器(2)

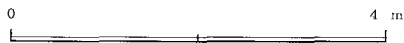


第100図 天神原遺跡調査区位置図

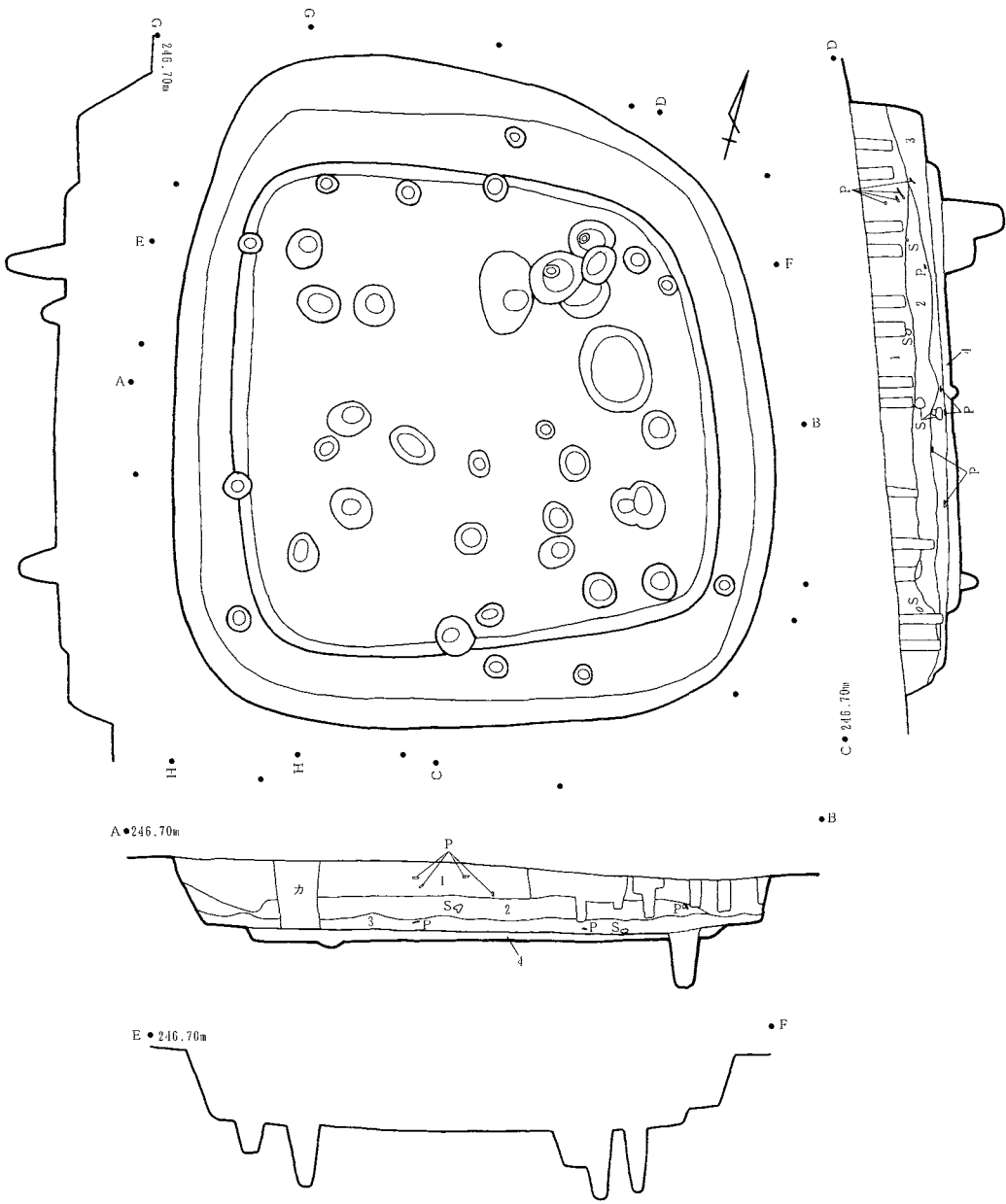


J-1住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
					R	P	B	Y
1	黒褐色土層	1	< 2	○	○	×	×	※
2	黒褐色土層	2	< 3	○	○	※	※	※
3	暗褐色土層	3	< 4	○	○	△	△	△
4	暗黄褐色土層	3	< 4	○	◎	◎	◎	△
5	暗褐色土層	4	< 5	○	○	△	△	※



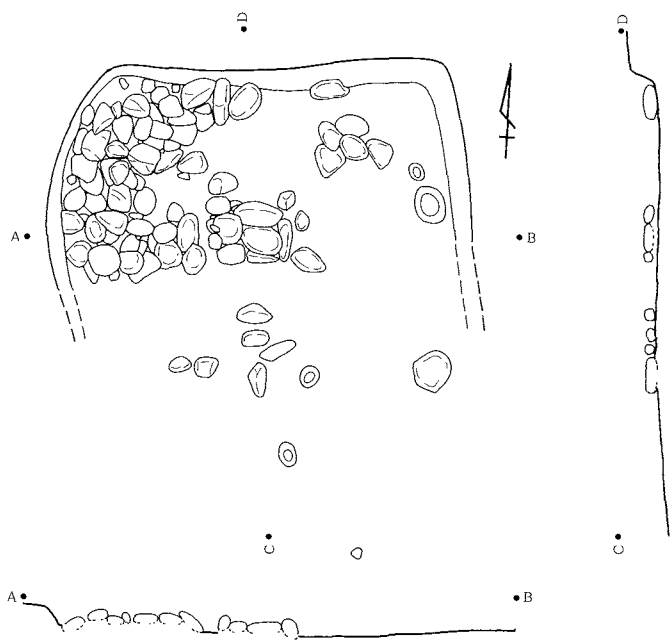
第101図 J-1号住居址実測図



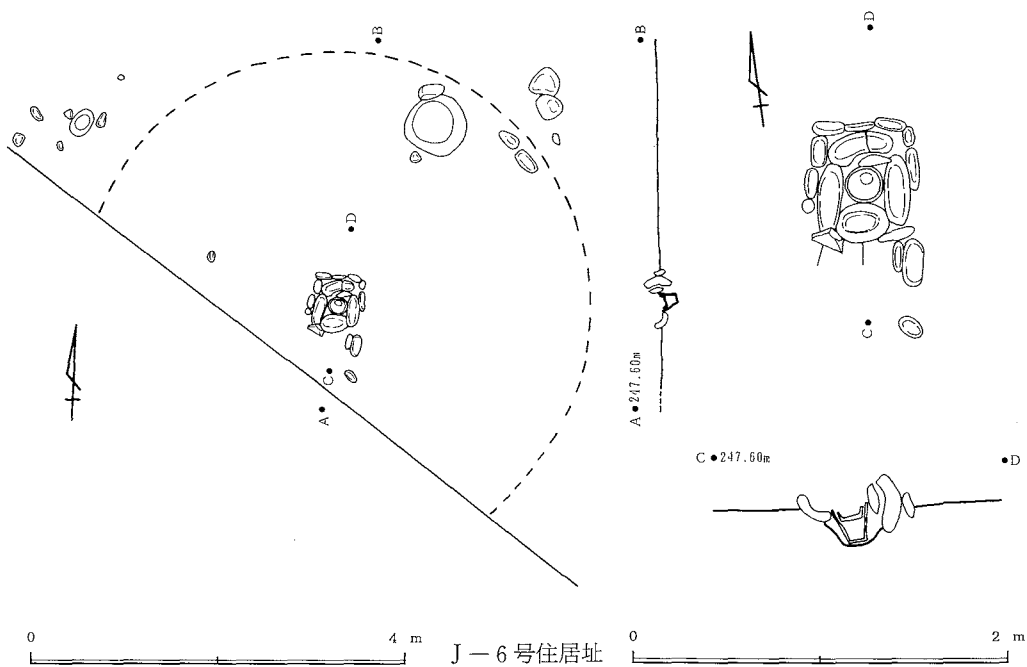
J-2号住  
 層番 層名 色調 しまり 粘性 混入物  
 R P RB Y P

1	黒褐色土層	○		※	※	※
2	暗褐色土層	1<2	◎	△	△	※
3	暗褐色土層	2<3	◎	○	△	※
4	暗黄褐色土層	3<4	○	◎	○	○

第102図 J-2号住居址実測図

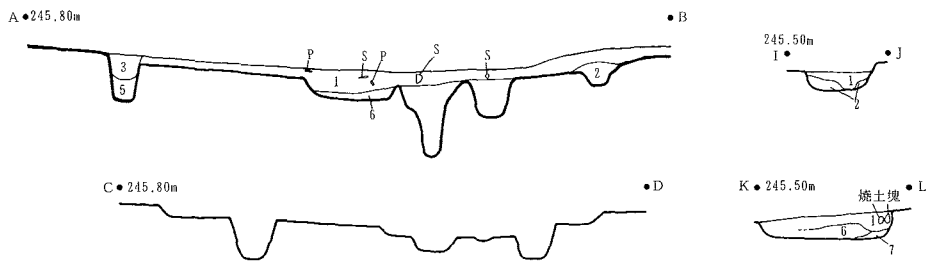
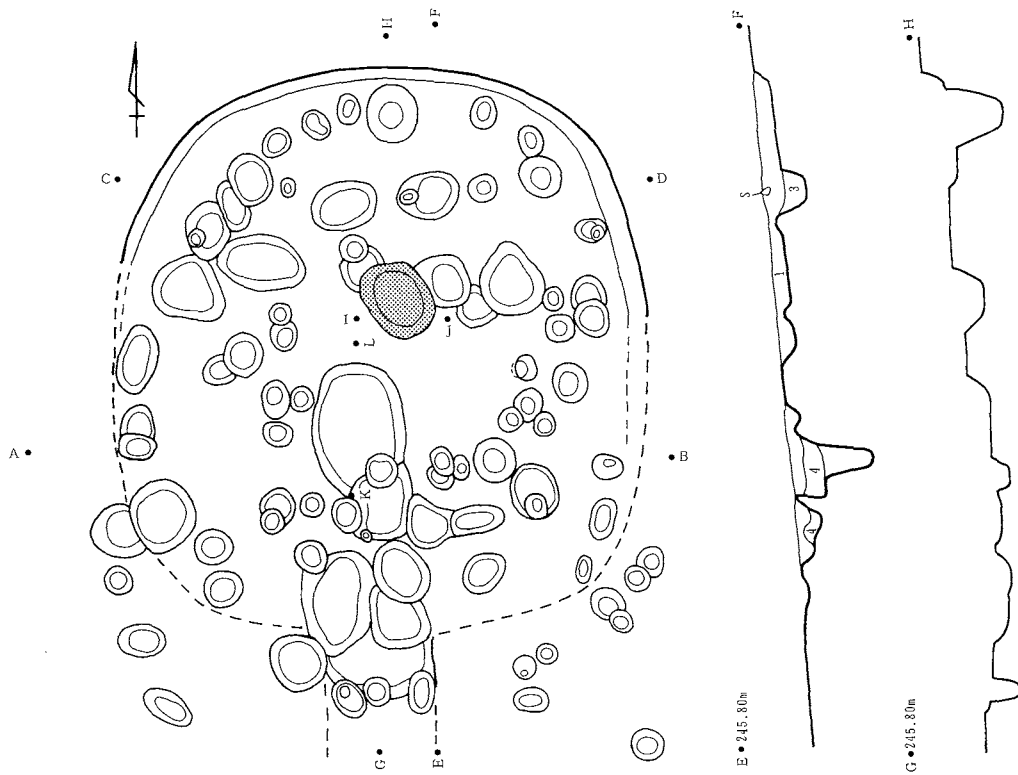


J-3号住居址



J-6号住居址

第103图 J-3号·J-6号住居址实测图

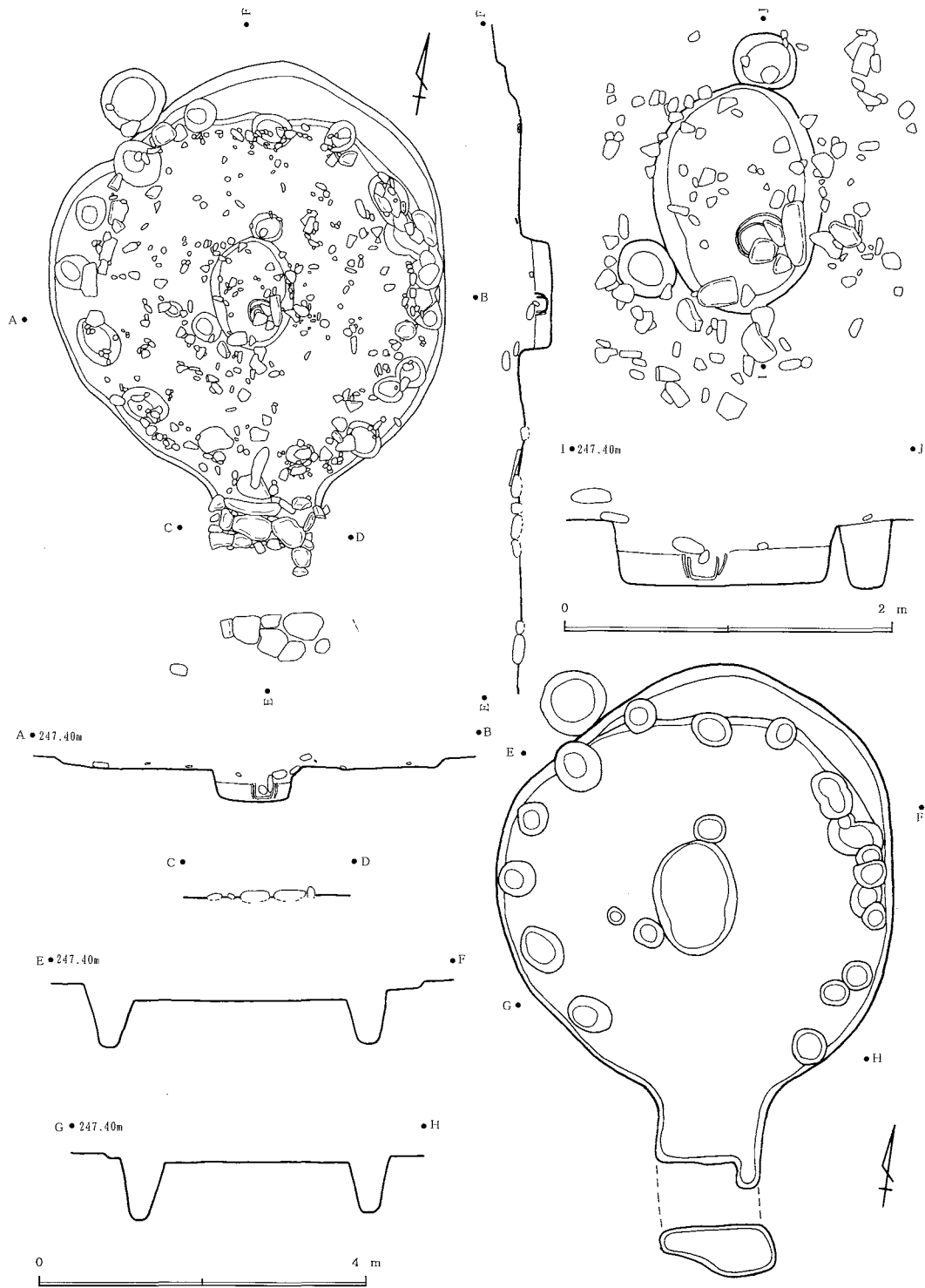


J-4号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				焼土
					R	P	R	B	
1	黒褐色土層		○	○	※	※	△		
2	暗黄褐色土層	1<2	○	◎	◎	◎	○		
3	黒褐色土層	1<3	○	○	○	△	△		
4	暗褐色土層	1<4	○	○	○	△	△		
5	黒褐色土層	3<5	○	○	○	△	△		
6	暗赤褐色土層	1<6	○	◎	◎	△	△	△	
7	黄褐色土層	6<7	◎	◎	◎	△	△	△	※
炉-1	暗褐色土層		○	○	△	※	△	△	△
炉-2	黄赤褐色土層	1<2	○	○	○	△	○	○	○

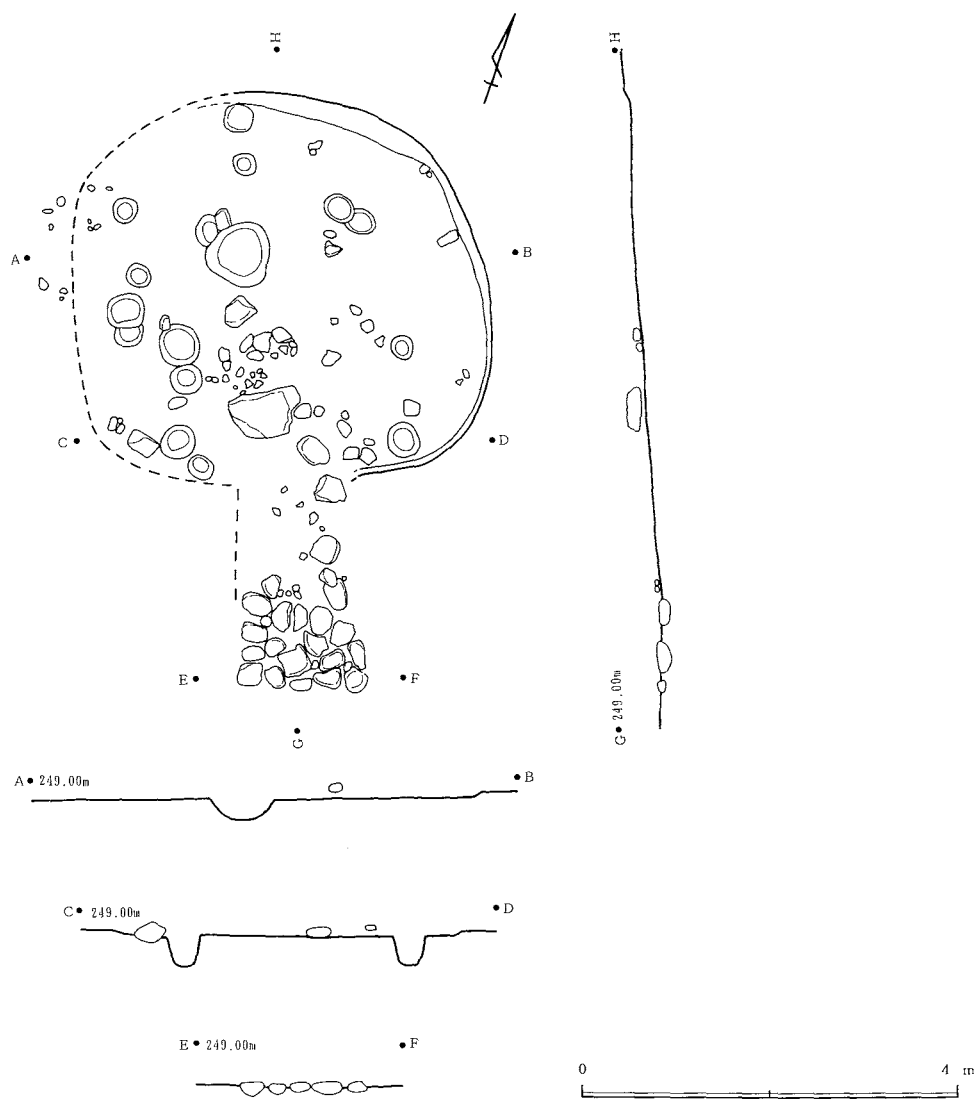


第104図 J-4号住居址実測図



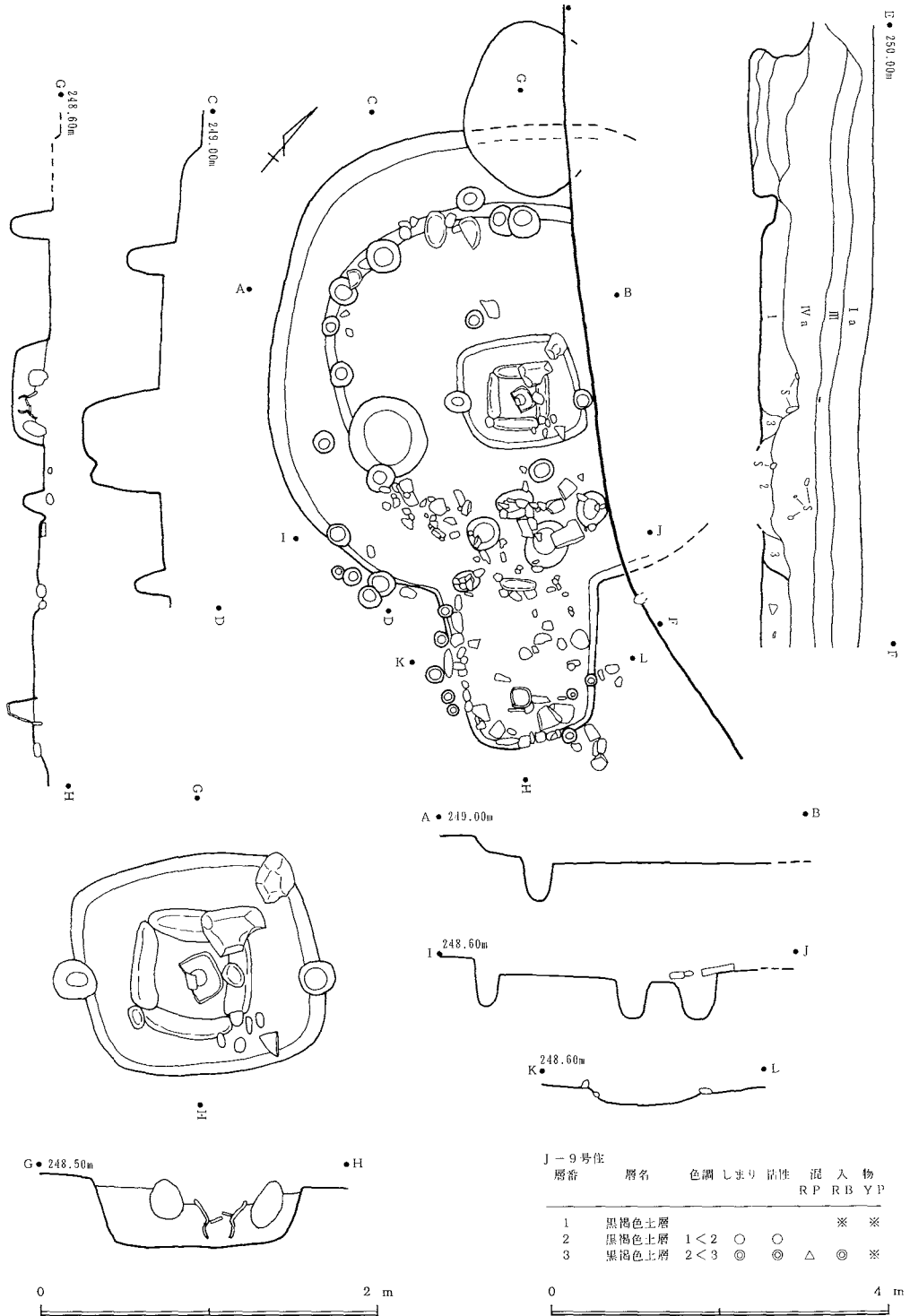
第105图 J—5号住居址实测图



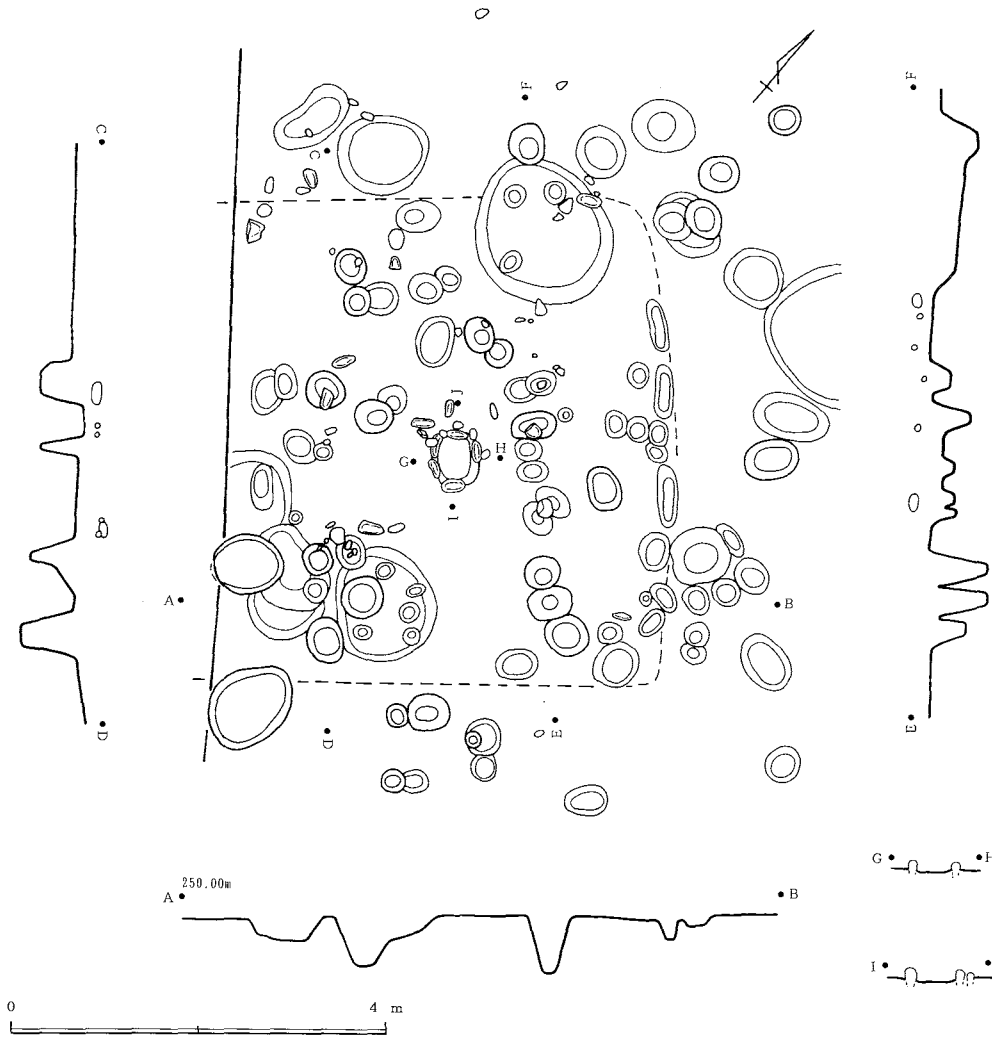


第106图 J-7号住居址实测图

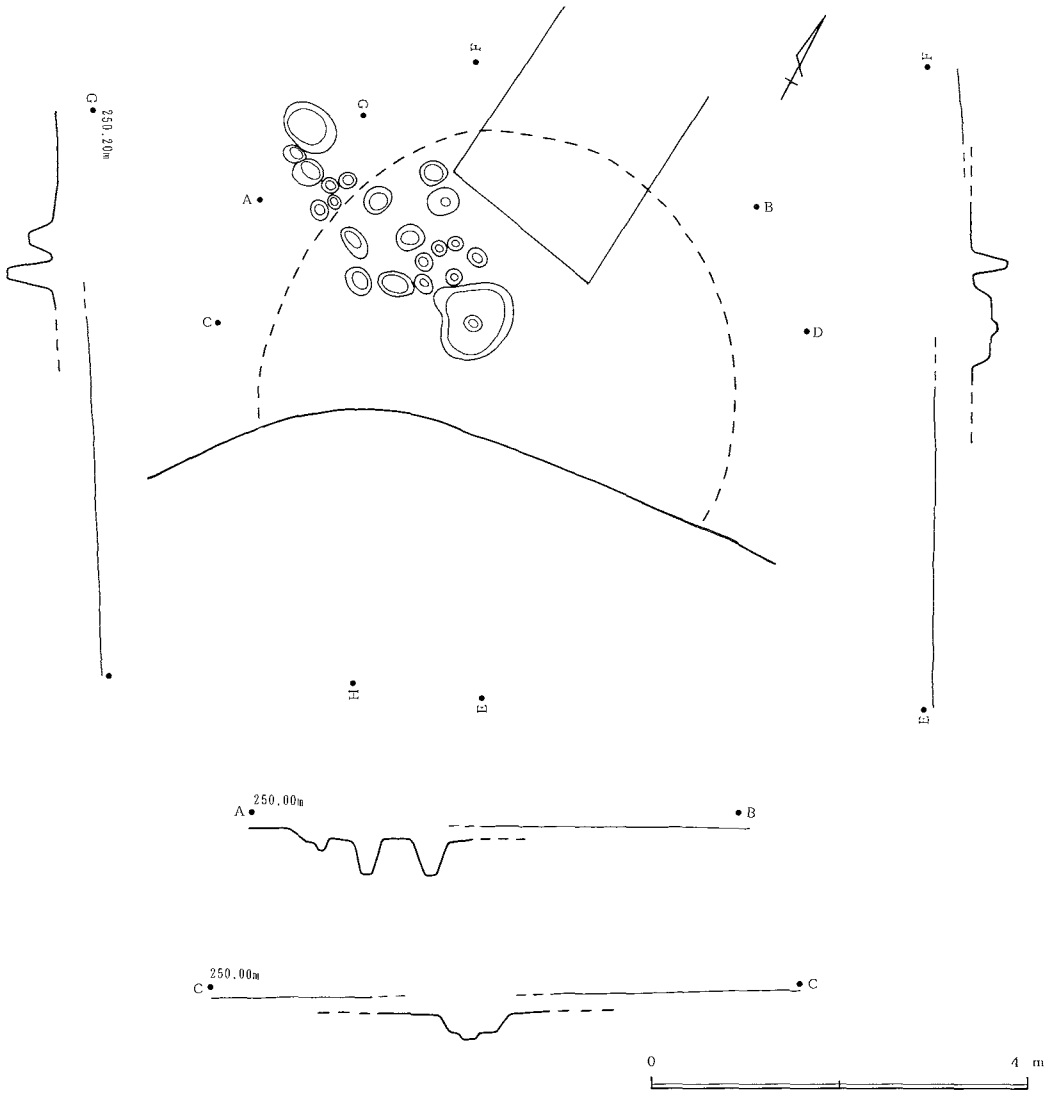




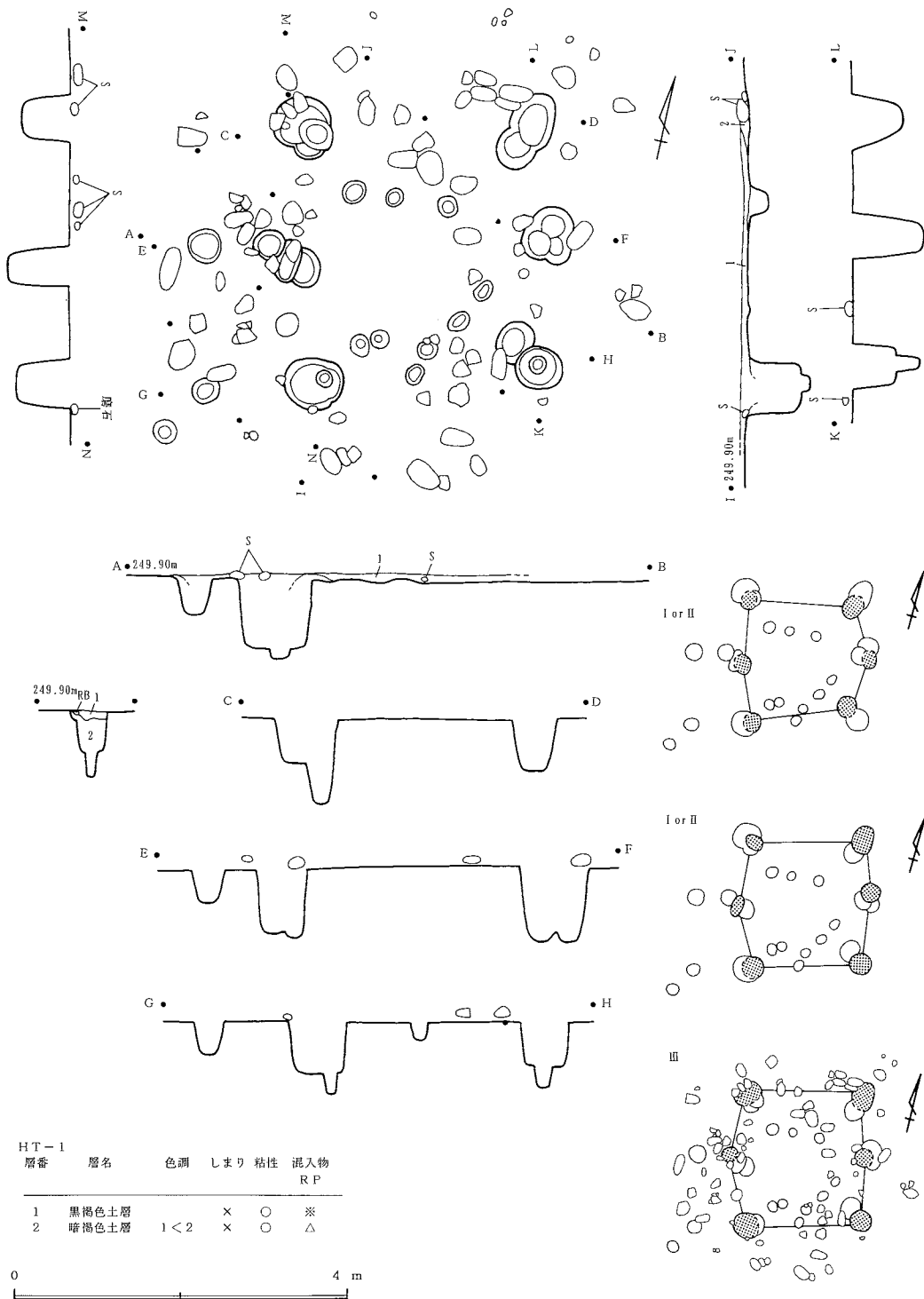
第108図 J-9号住居址実測図



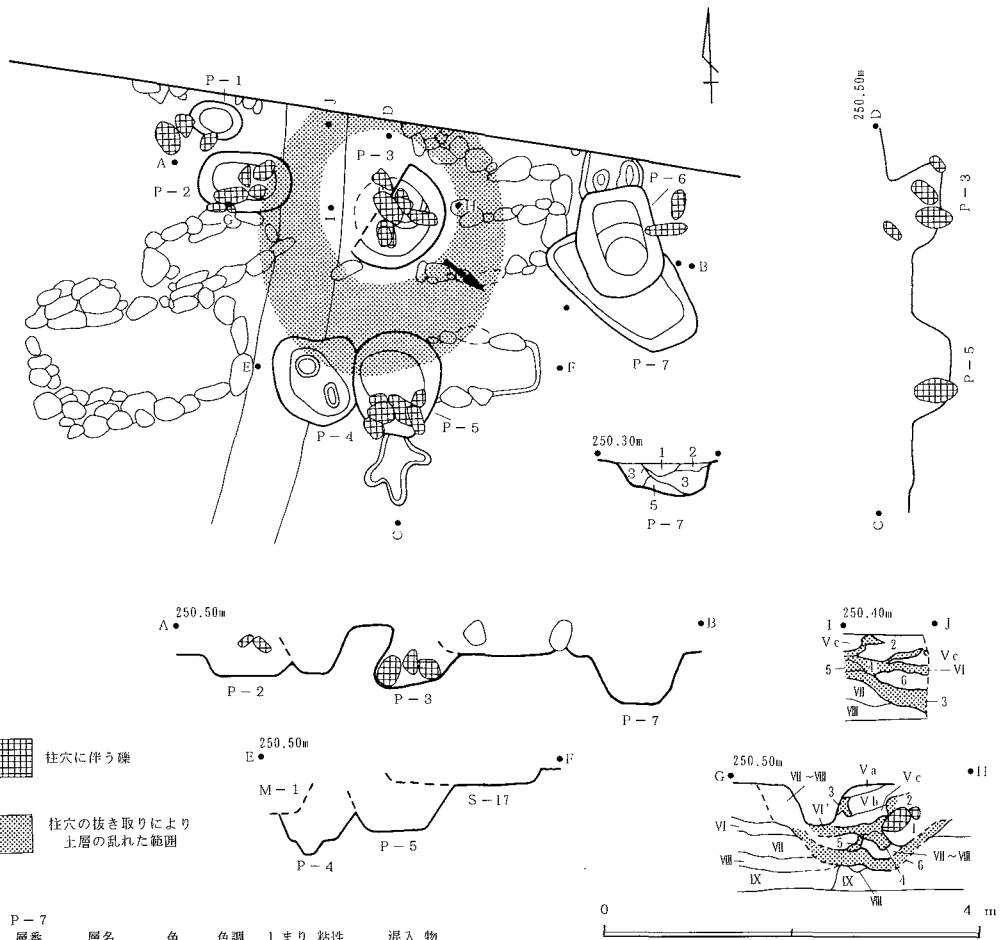
第109图 J-10号住居址实测图





第110图 J-11号住居址实测图



第111図 HT-1号掘立柱建物址実測図



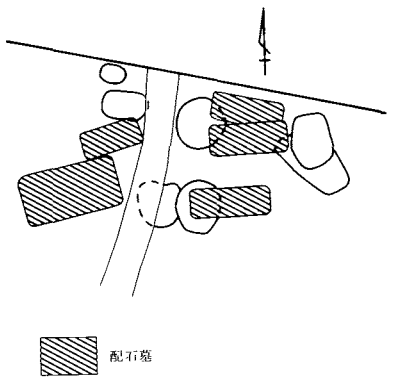
 柱穴に伴う礫  
 柱穴の抜き取りにより  
土層の乱れた範囲

P-7

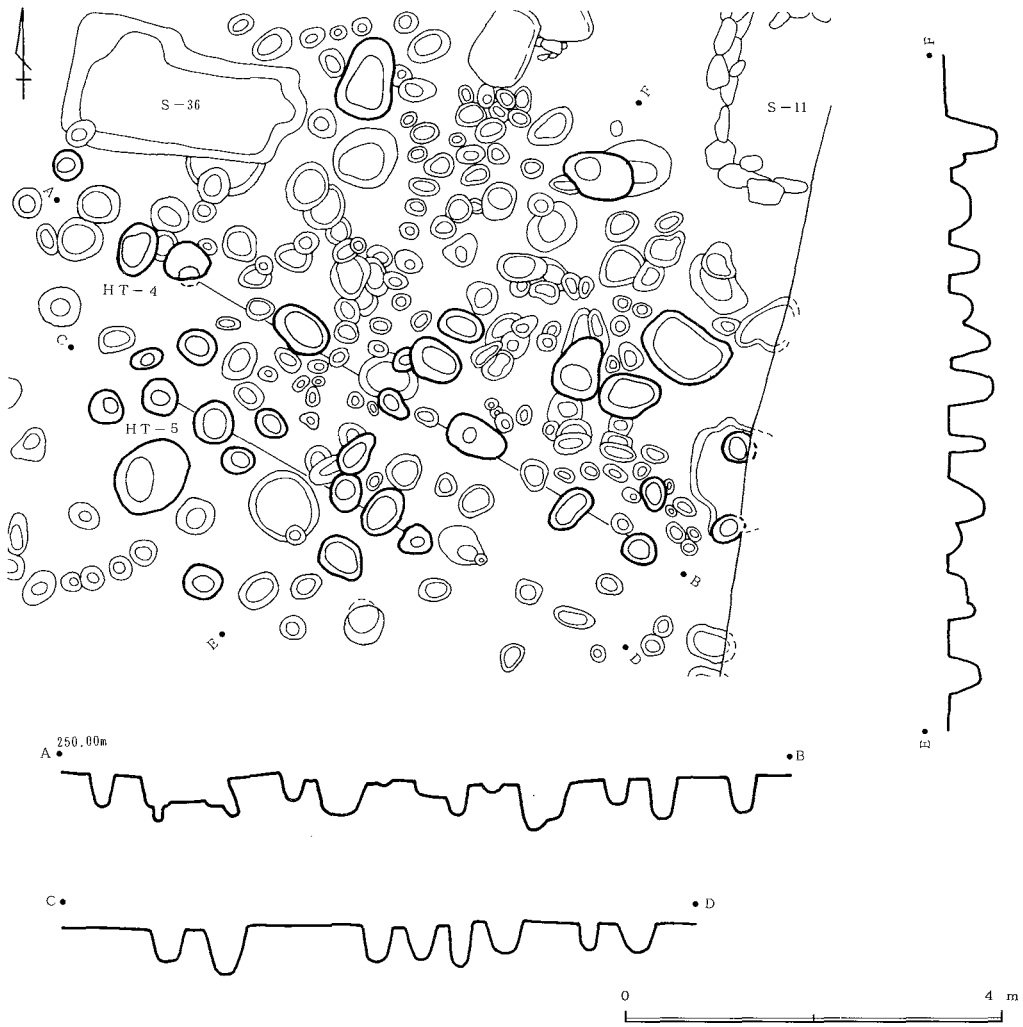
層番	層名	色	色調	しまり	粘性	混入物		
						R	B	Y
1	暗褐色土層	10YR	3<2	○	○	※	※	※
2	褐色土層	10YR	1<2	○	○	△	×	※
3	褐色土層	10YR	1<3	○	◎	△	×	×

P-3

層番	層名	色	色調	しまり	粘性	混入物					
						R	B	Y	P	○	k-l
1	黒褐色土層										
2	褐色土層	10YR	3<2	△	◎						※
3	暗褐色土層	10YR	Vc>3	×	○						
4	暗褐色土層	10YR	VI>4	△	○	※	○	△	△		
5	褐色土層	10YR	VII~VIII>5	○	○	△	○	△	△		
6	褐色土層	10YR	5<6	△	○	○	○	◎			
Va	褐色土層	10YR		◎	◎				×		※
Vb	褐色土層	10YR	Va≐Vb	◎	◎				×	△	
Vc	褐色土層	10YR	Vb≐Vc	◎	◎				×	※	
VI	暗褐色土層	10YR	2>VI	△	○	○	○	○			
VII~VIII	褐色土層	10YR	VI<VII~VIII	◎	◎						※
VII	褐色土層	10YR	6<VII	△	◎		◎				

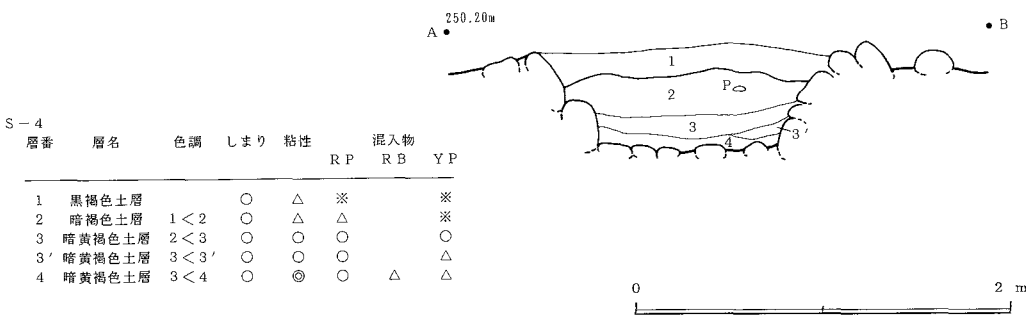
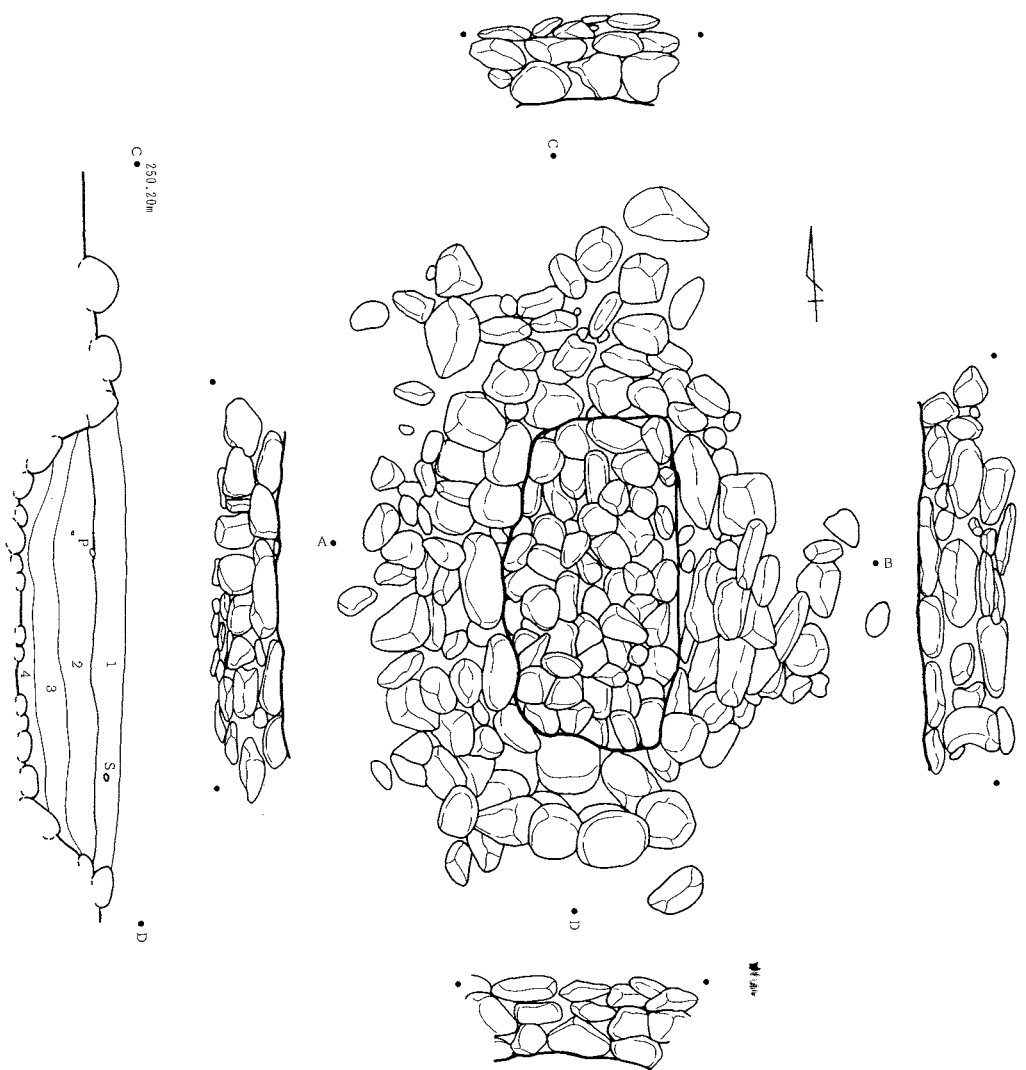


第112図 HT-3号柱穴群実測図



第113图 HT-4・5柱穴列表测图



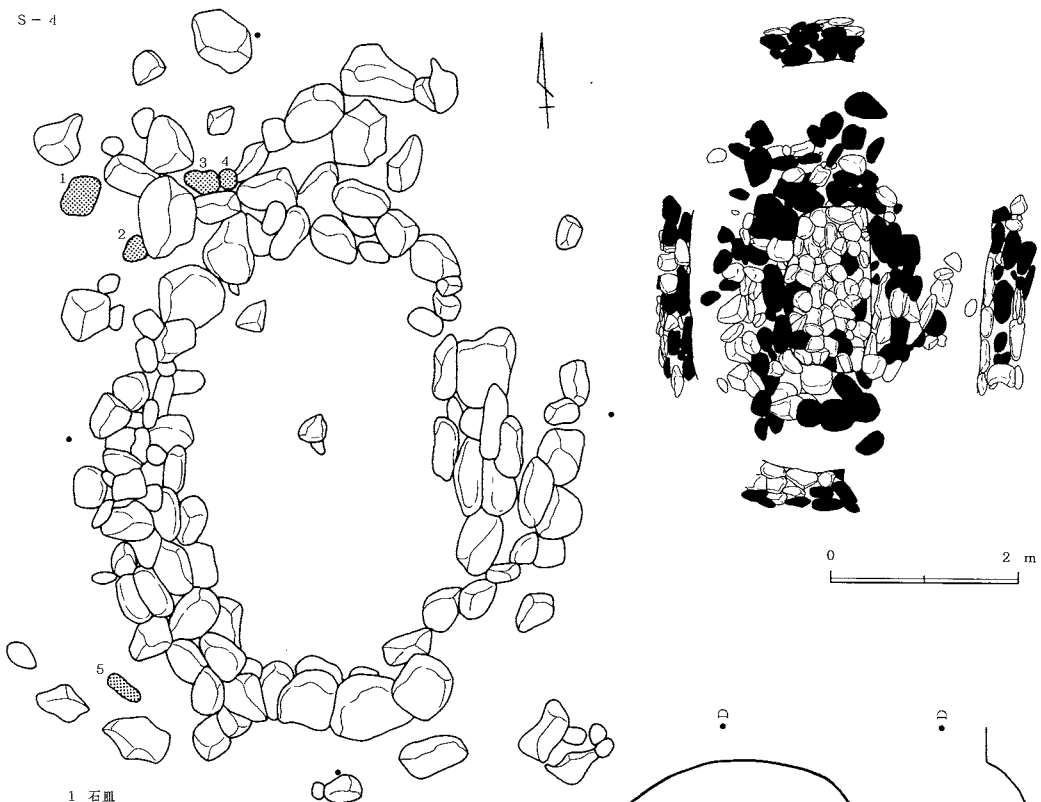


S-4

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					RP	RB	YP
1	黒褐色土層		○	△	※		※
2	暗褐色土層	1 < 2	○	△	△		※
3	暗黄褐色土層	2 < 3	○	○	○		○
3'	暗黄褐色土層	3 < 3'	○	○	○		△
4	暗黄褐色土層	3 < 4	○	◎	○	△	△

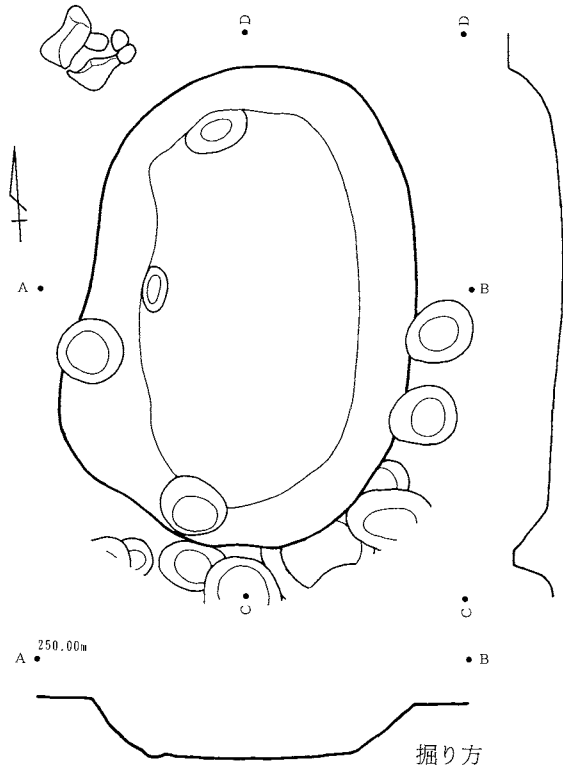
第114図 S-4号配石墓実測図(1)

S-4

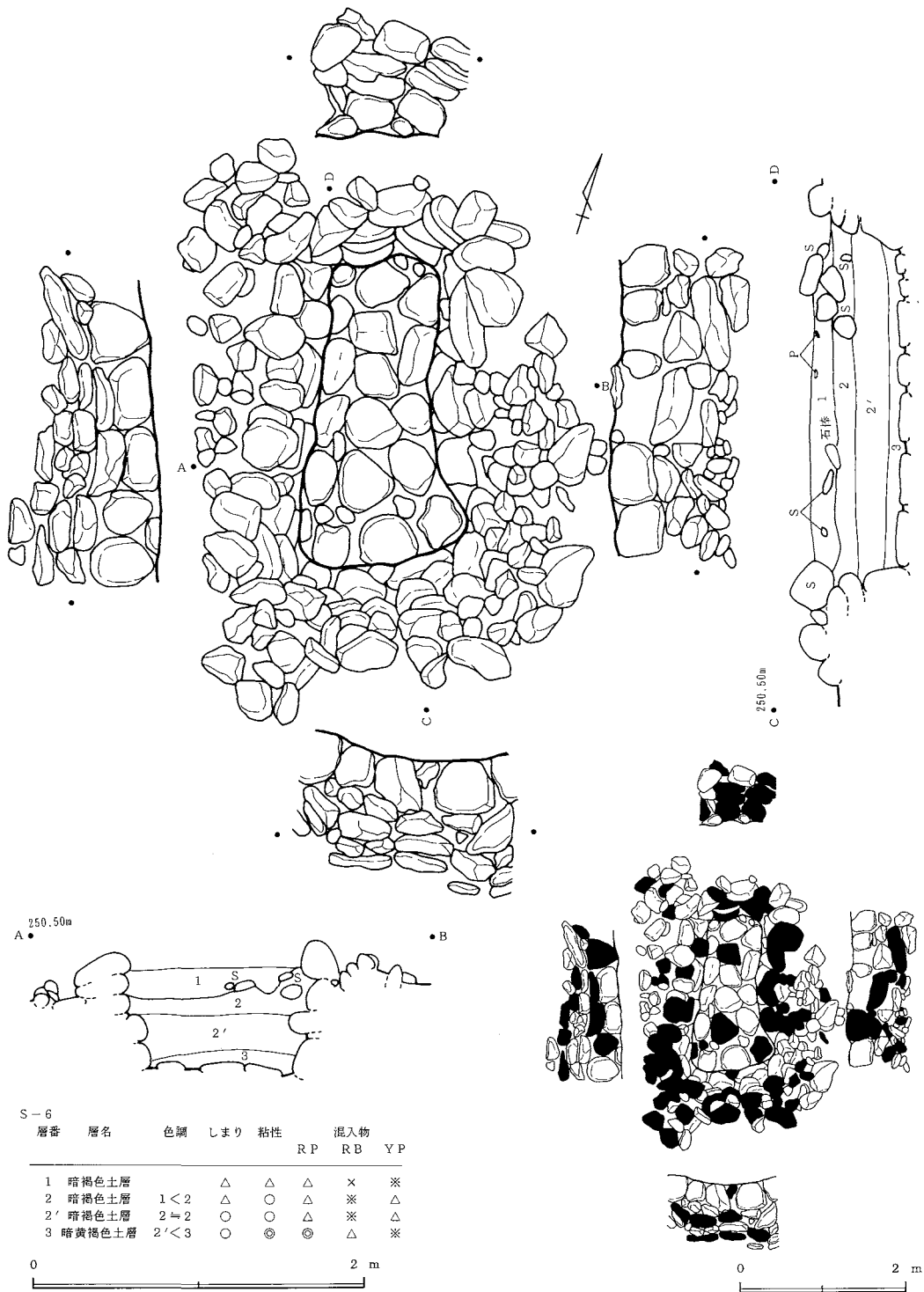


- 1 石皿
  - 2 磨石
  - 3 石皿
  - 4 磨石
  - 5 石棒
- 石器

晚期使用状態

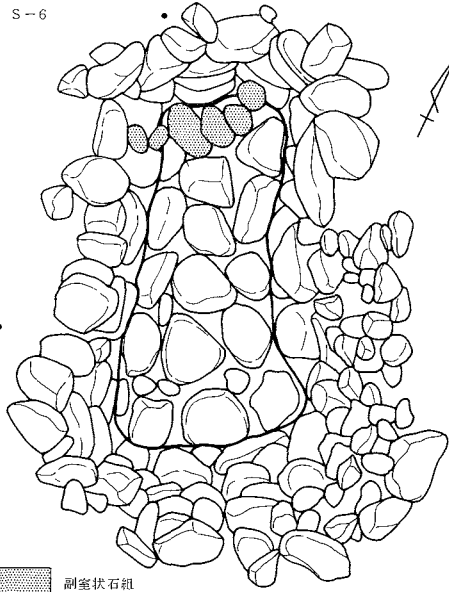


第115図 S-4号配石墓実測図(2)

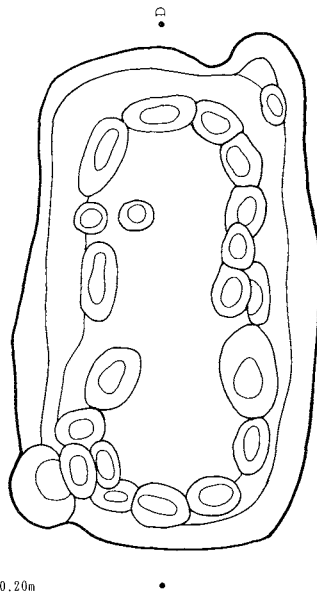


第116図 S-6号配石墓実測図(1)

S-6



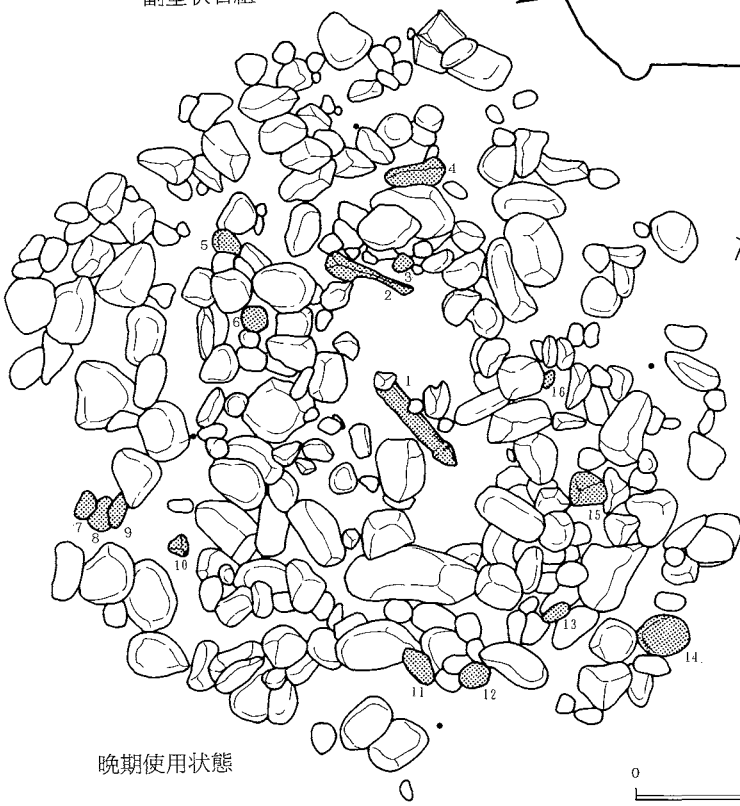
副室状石組



掘り方

250.20m

副室状石組



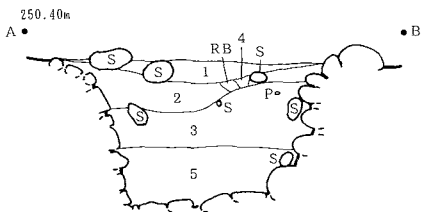
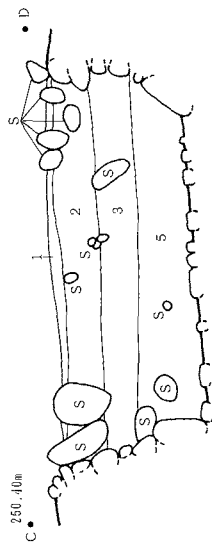
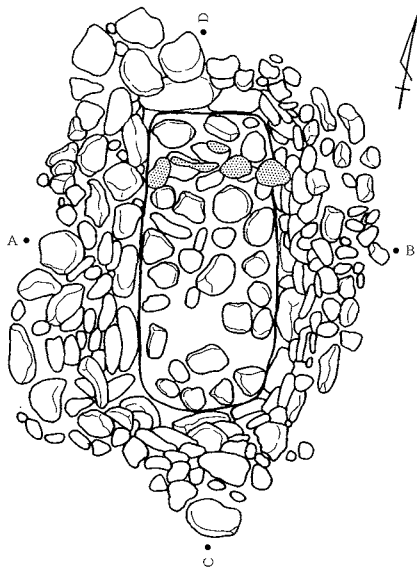
晚期使用状態

石器

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1 石棒       | 9 磨石        |
| 2 石皿       | 10 砥石       |
| 3 FLD (KH) | 11 石皿       |
| 4 FLD (KH) | 12 磨石       |
| 5 砥石       | 13 FLD (KH) |
| 6 磨石       | 14 多孔石      |
| 7 磨石       | 15 石皿       |
| 8 打斧       | 16 磨石       |

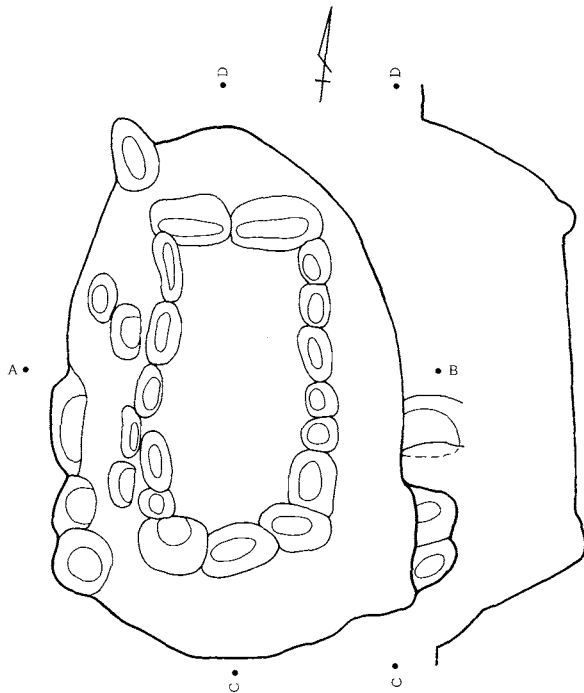
0 2 m

第117図 S-6号配石墓実測図(2)



副室状石組

副室状石組



S-22

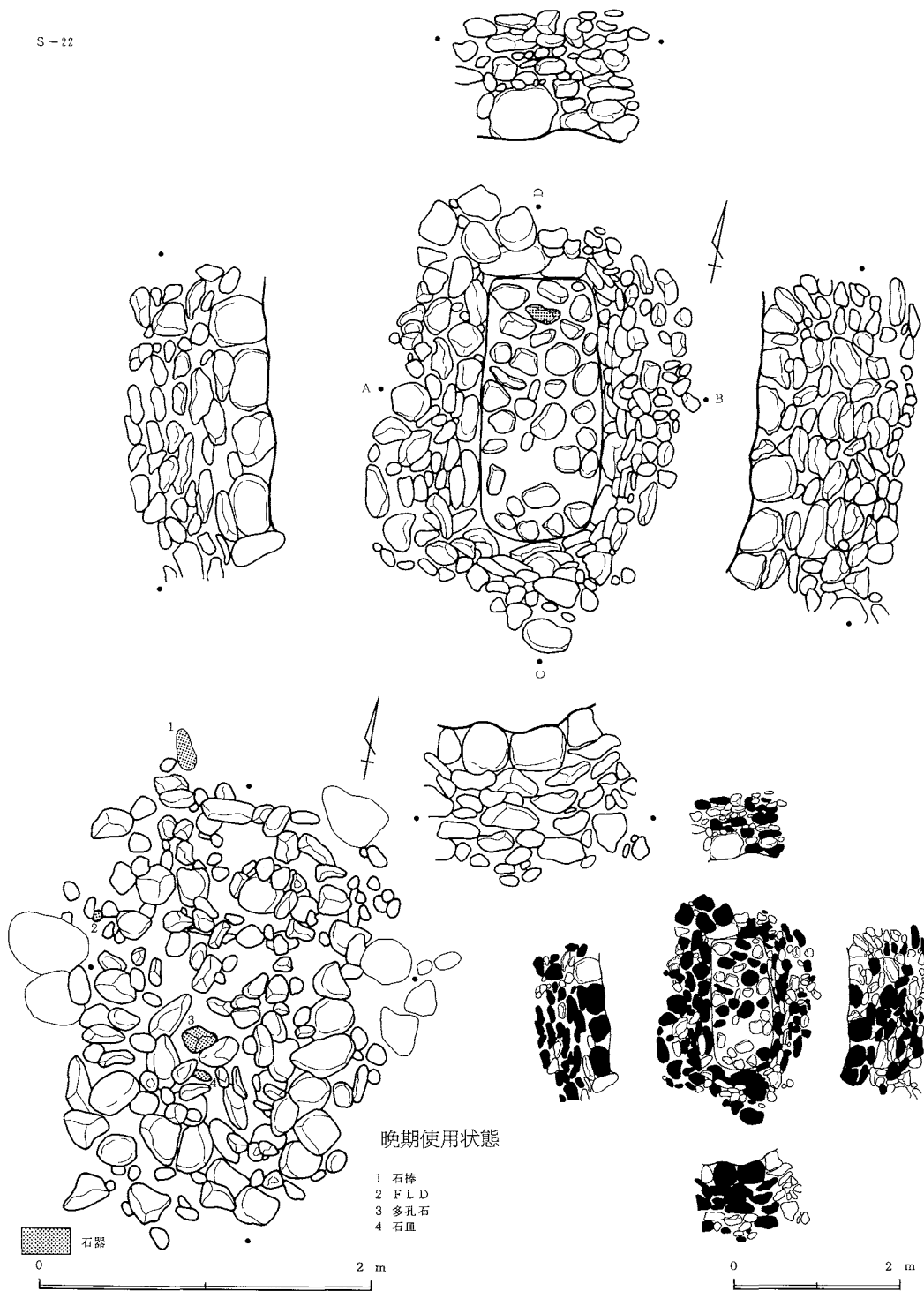
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					RP	RB	YP
1	黒褐色土層		×	×	※		※
2	暗褐色土層	1 < 2	△	△	△		※
3	暗褐色土層	2 < 3	○	△	△	※	△
4	黒色土層	1 > 4	×	×	×	×	×
5	暗黄褐色土層	3 < 5	○	○	○	○	○

0 2 m

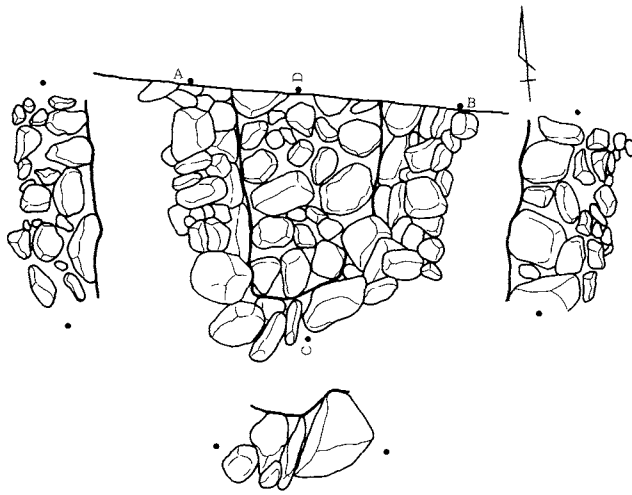


掘り方

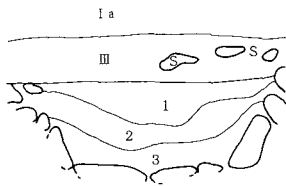
第118図 S-22号配石墓実測図(1)



第119图 S-22号配石墓实测图(2)

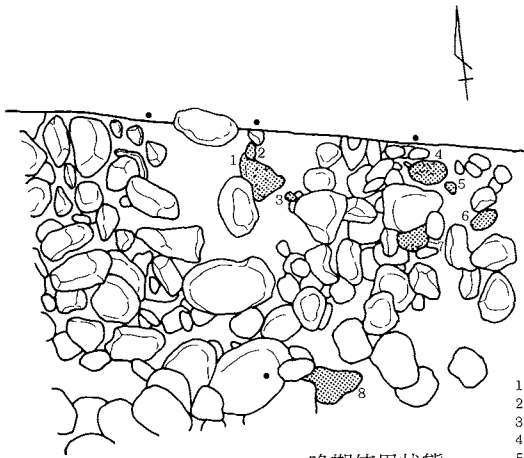


250.80m  
A • B



S-40

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					RP	RB	YP
1	暗褐色土層		○	○	※	※	※
2	暗褐色土層	1 < 2	○	○	△	※	△
3	褐色土層	2 < 3	○	○	○	※	△

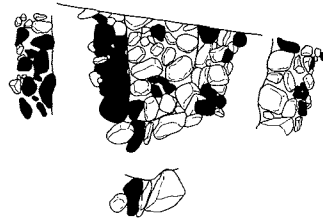


晚期使用状態

石器

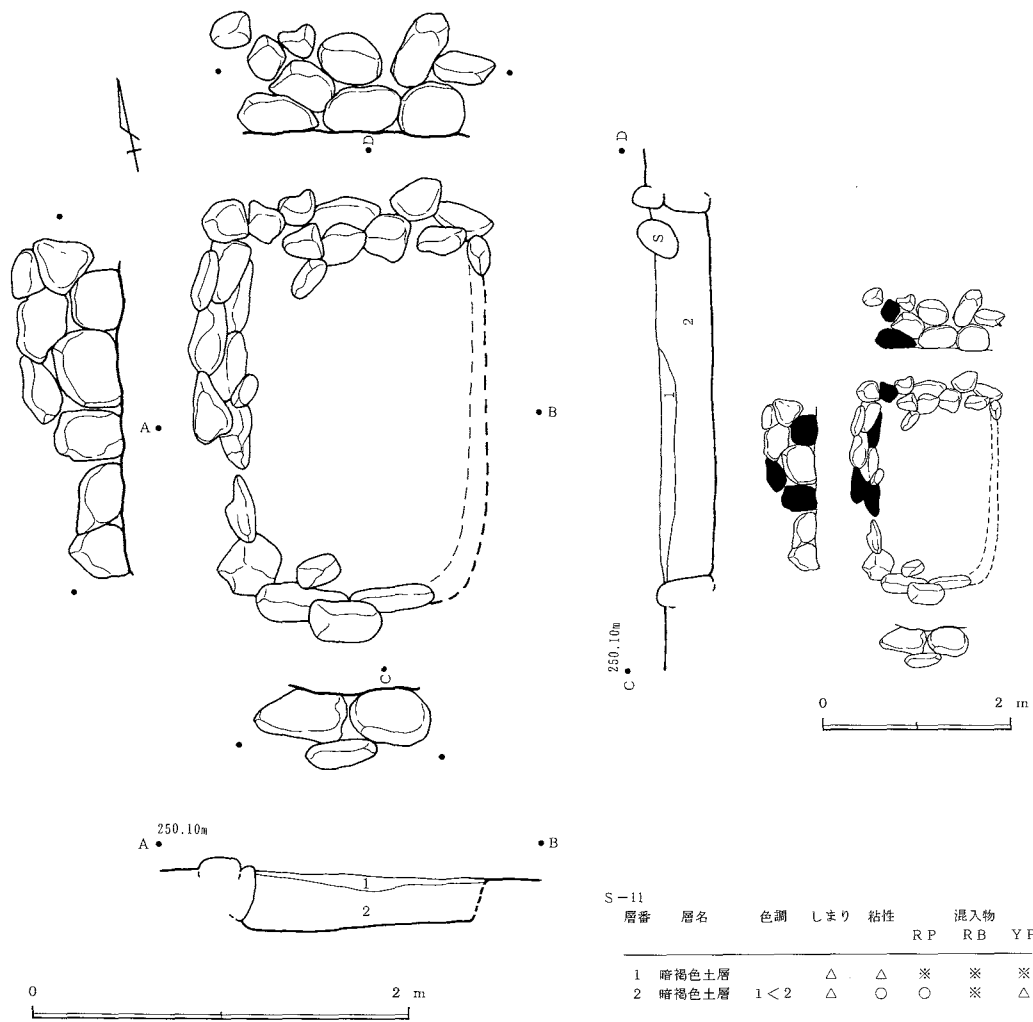
0 2 m

- 1 多孔石
- 2 FLD
- 3 FLD
- 4 多孔石
- 5 磨石
- 6 凹石
- 7 多孔石
- 8 多孔石



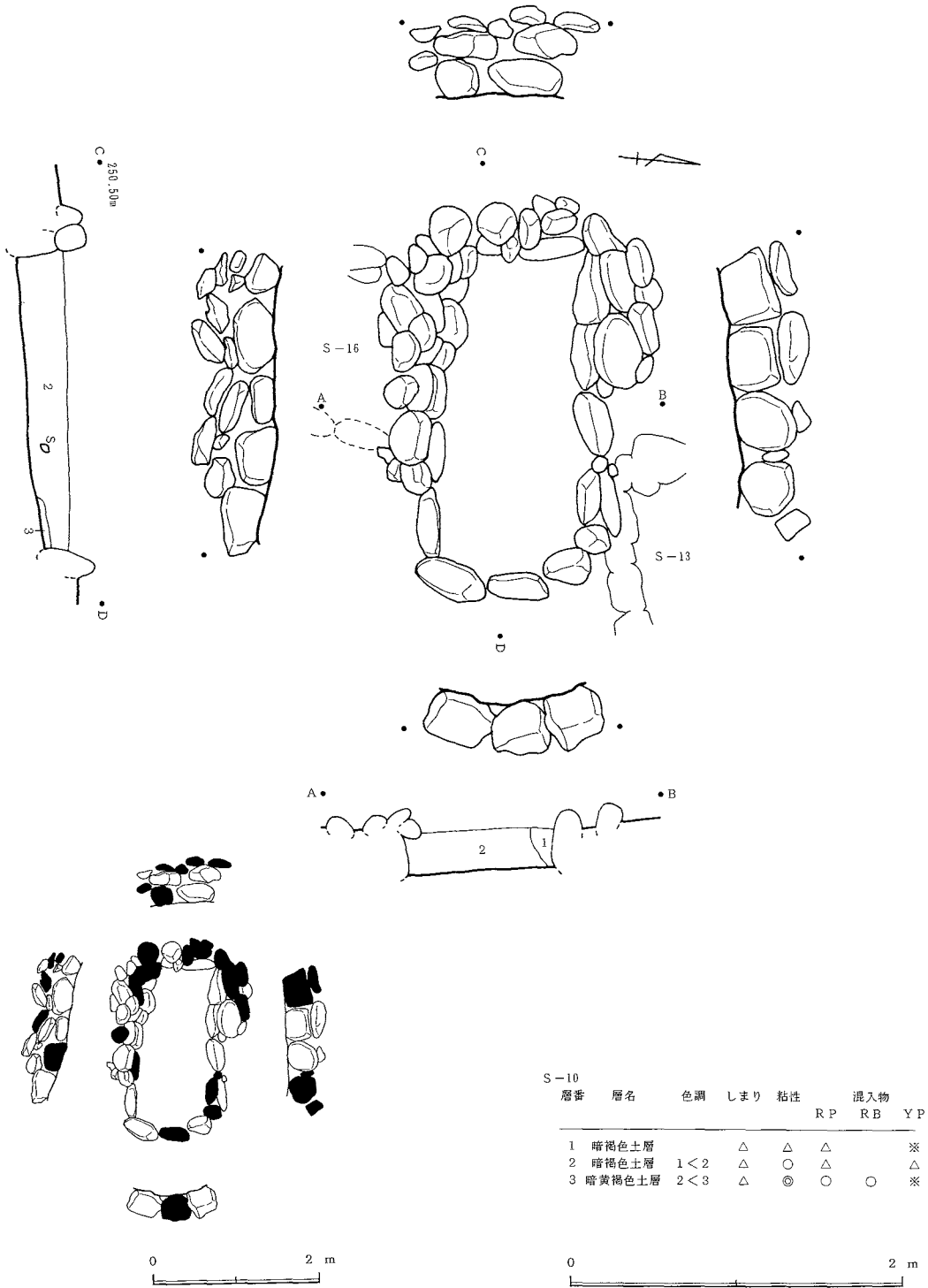
0 2 m

第120図 S-40号配石墓実測図

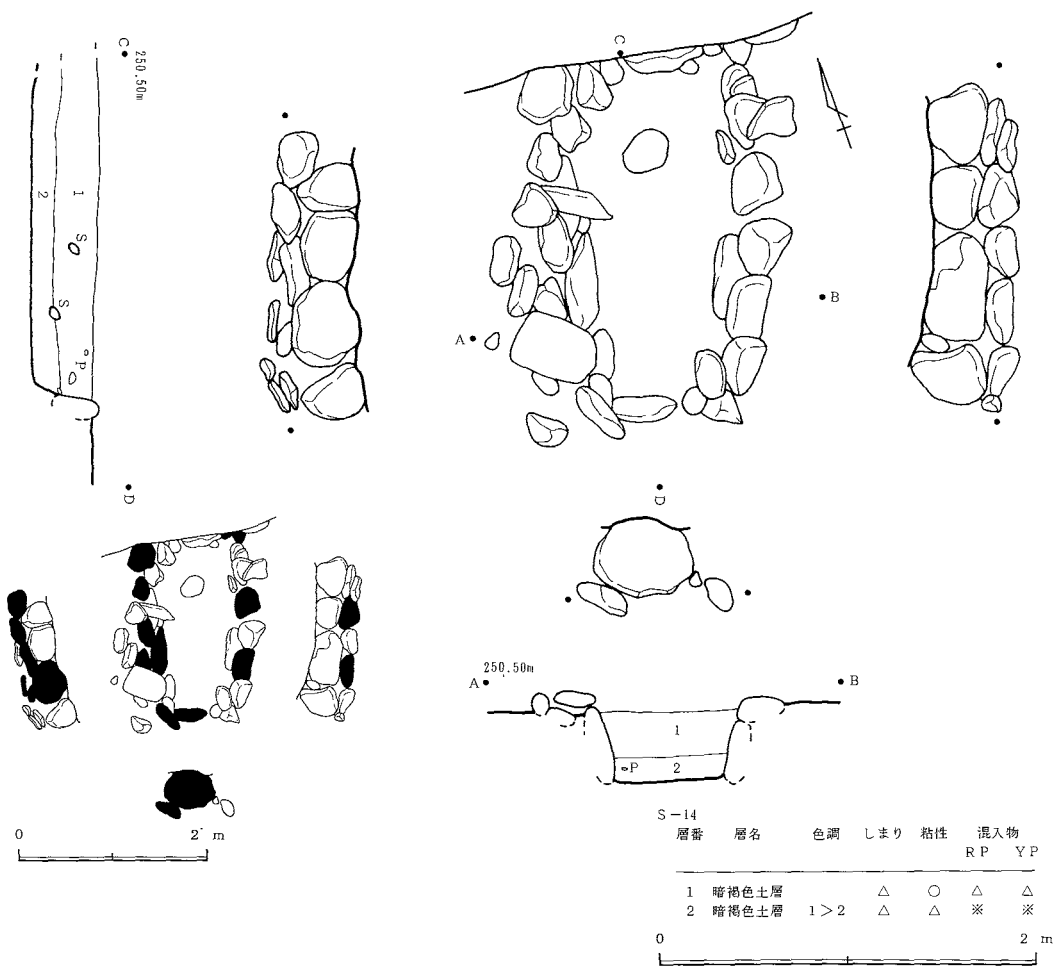


第121図 S-11号陪石墓実測図

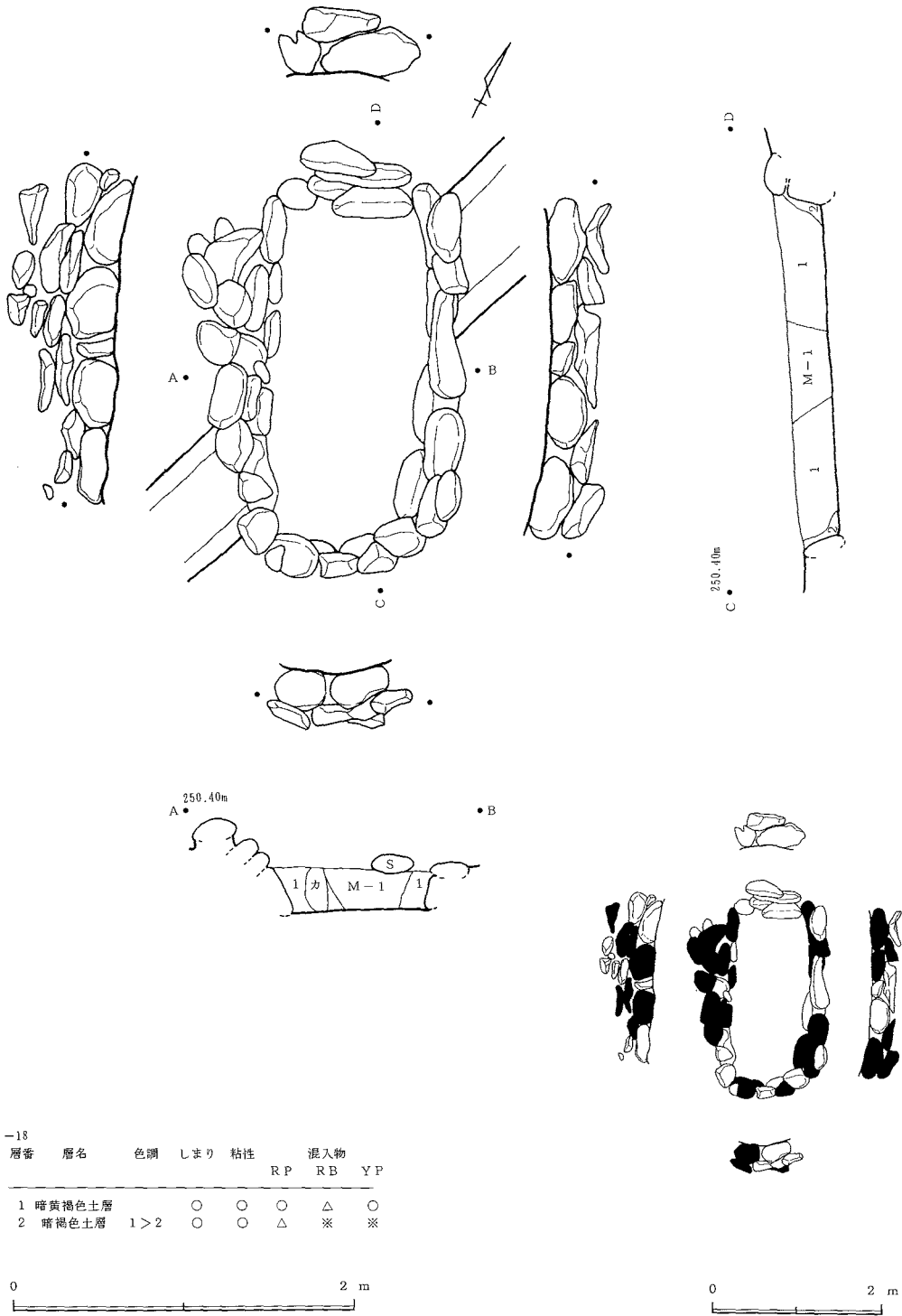




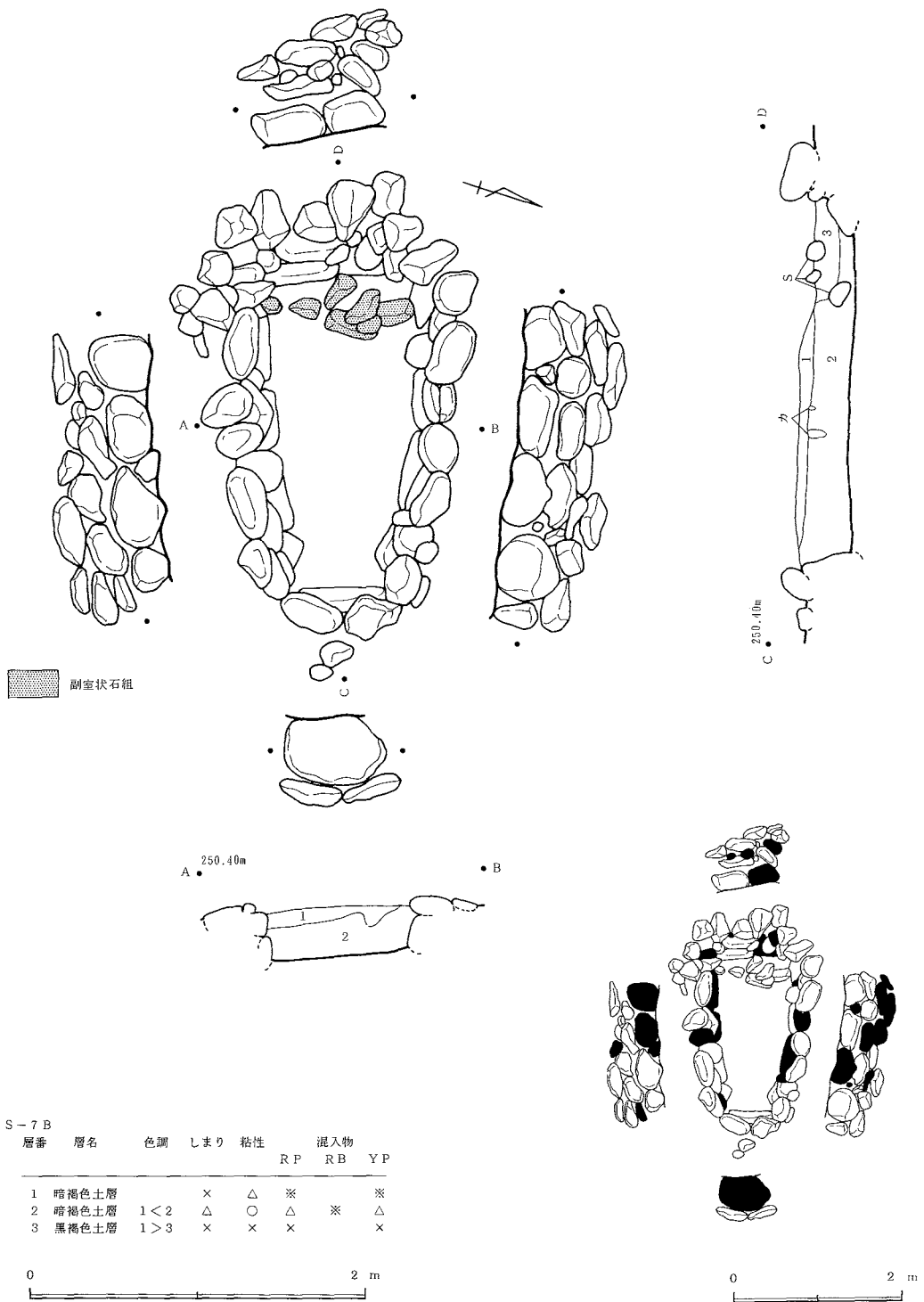
第122図 S-10号配石墓実測図



第123図 S-14号配石墓実測図

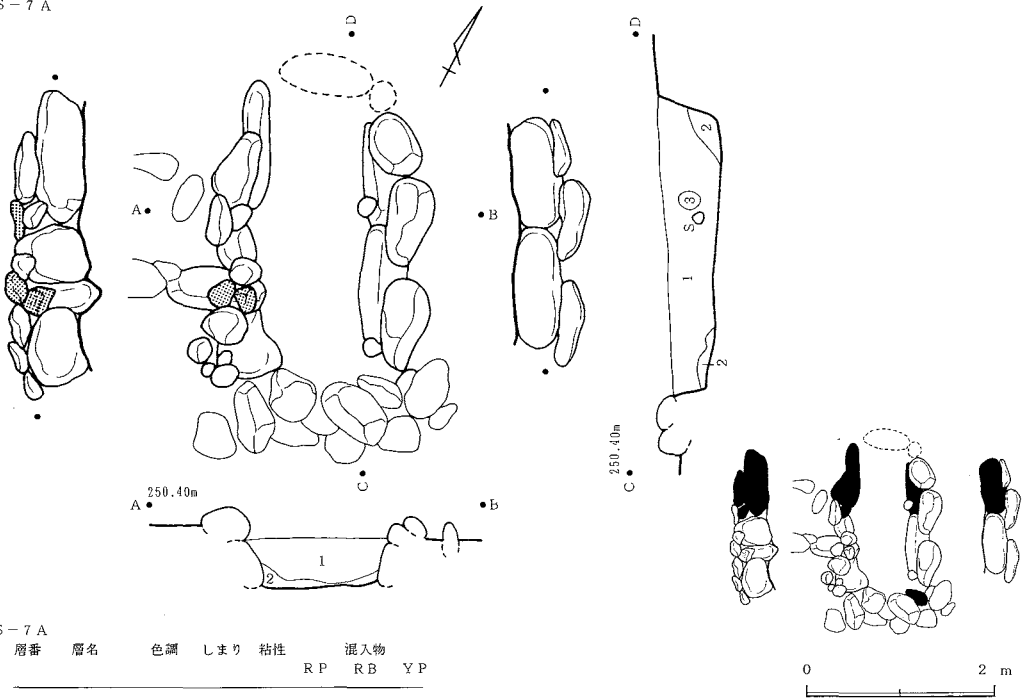


第124図 S-18号配石墓実測図



第125図 S-7 B号配石墓実測図

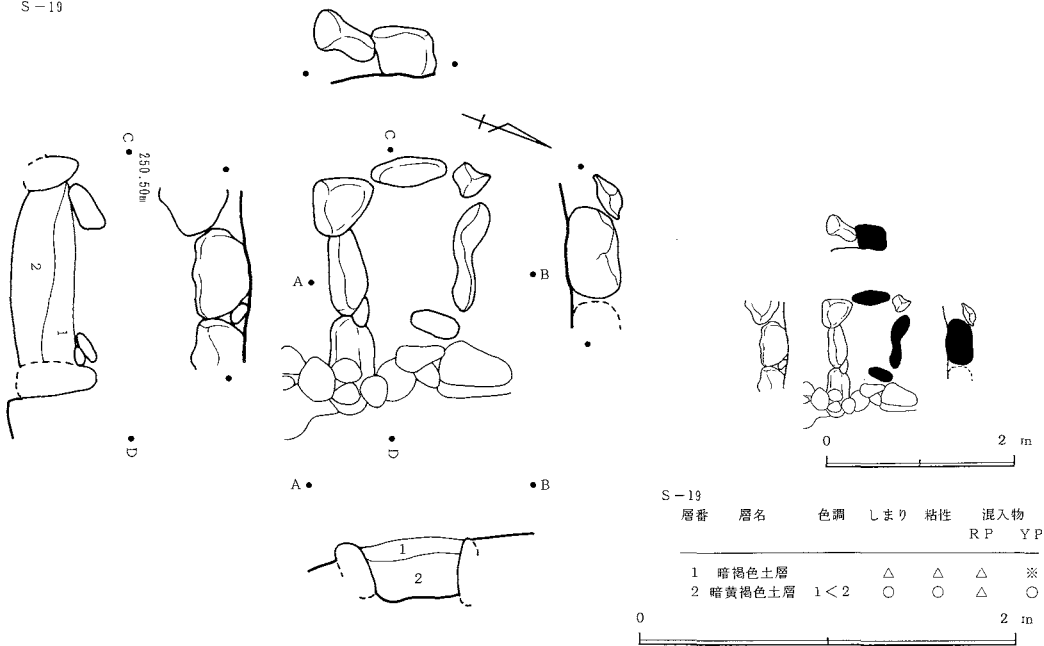
S-7 A



S-7 A

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					RP	RB	YP
1	暗褐色土層		△	△	△		※
2	暗黄褐色土層	1 < 2	△	×	○	○	×
3	暗褐色土層	1 > 3	△	○	※		×

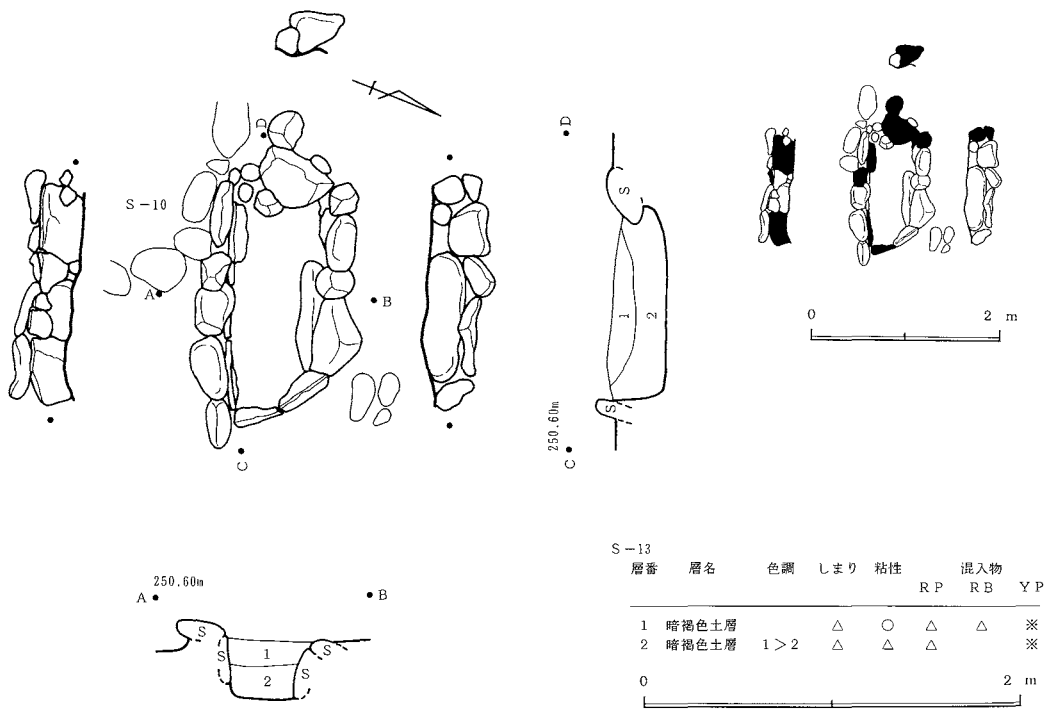
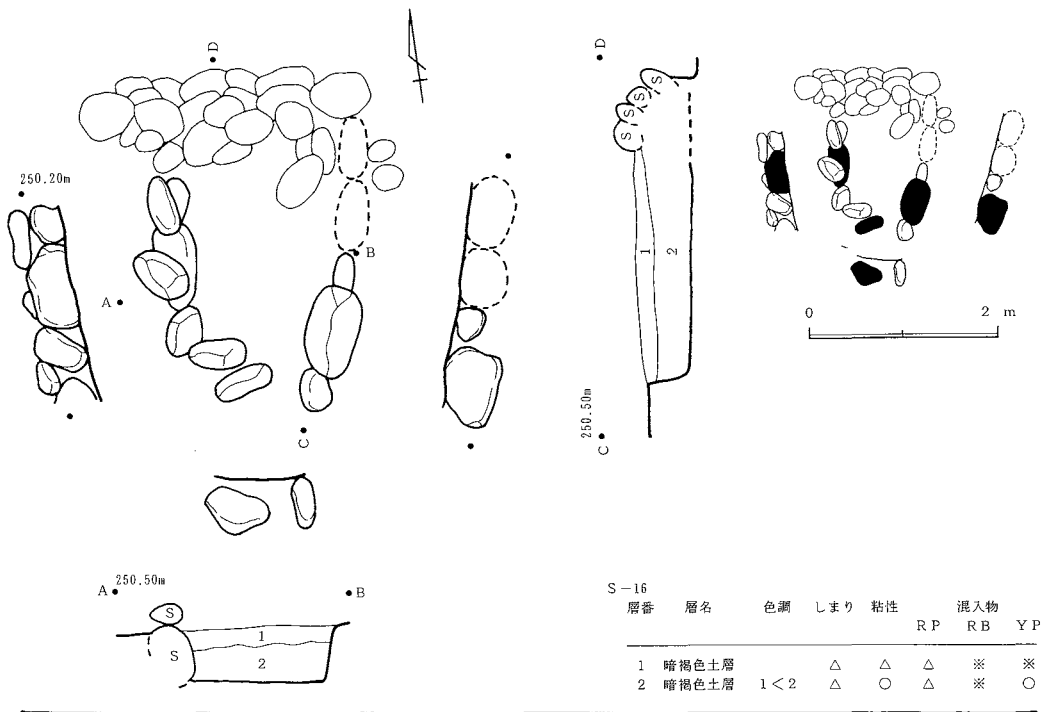
S-19



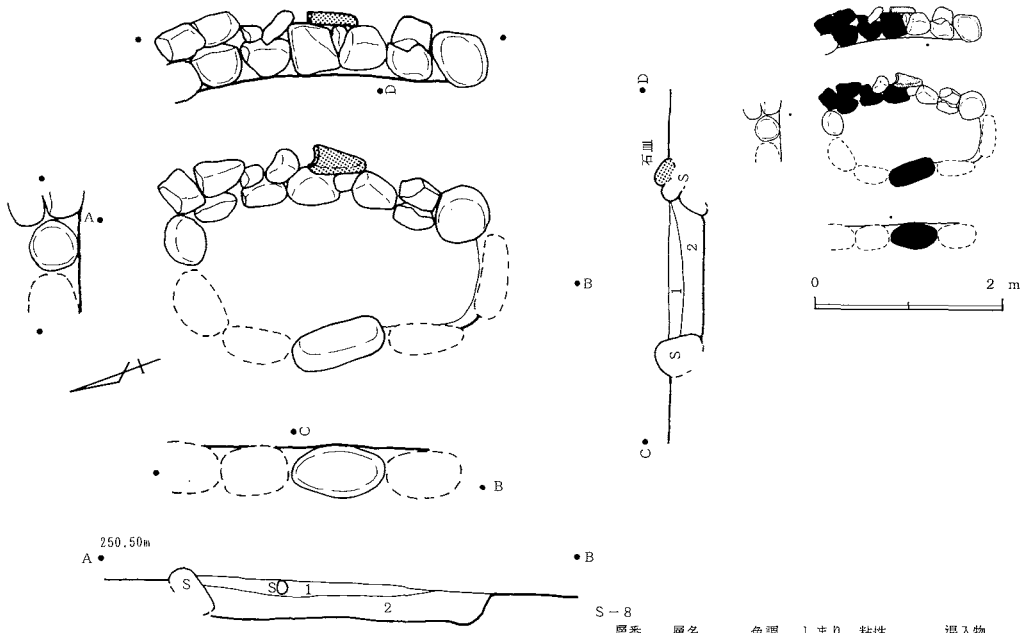
S-19

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					RP	YP	
1	暗褐色土層		△	△	△	※	
2	暗黄褐色土層	1 < 2	○	○	△	○	

第126図 S-7 A・19号配石墓実測図

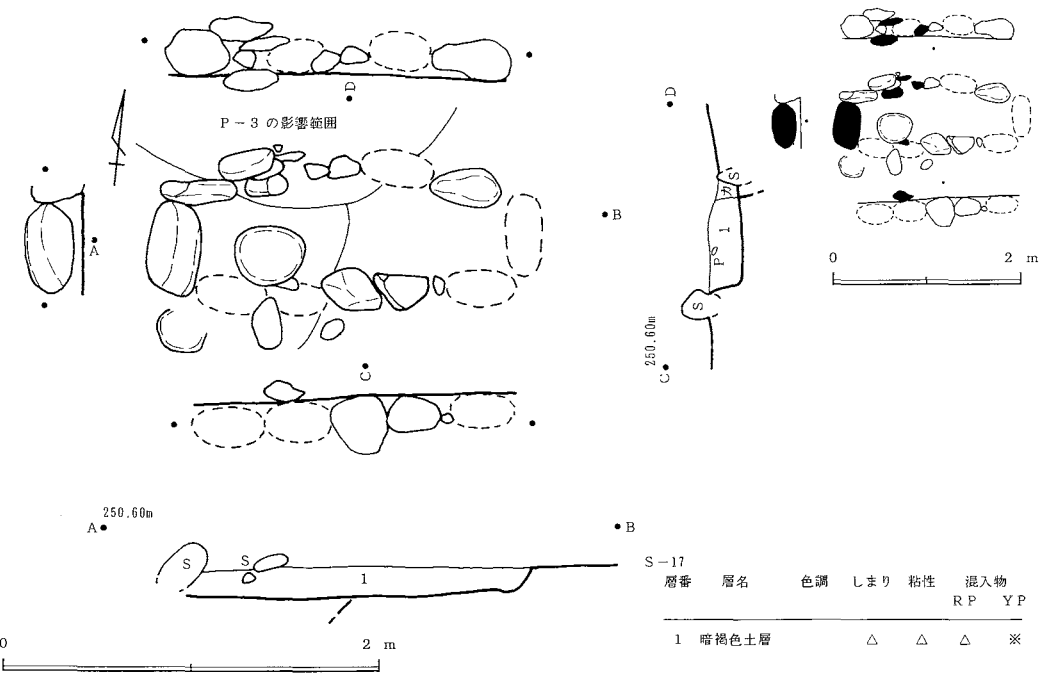


第127図 S-13・16号配石墓実測図



S-8

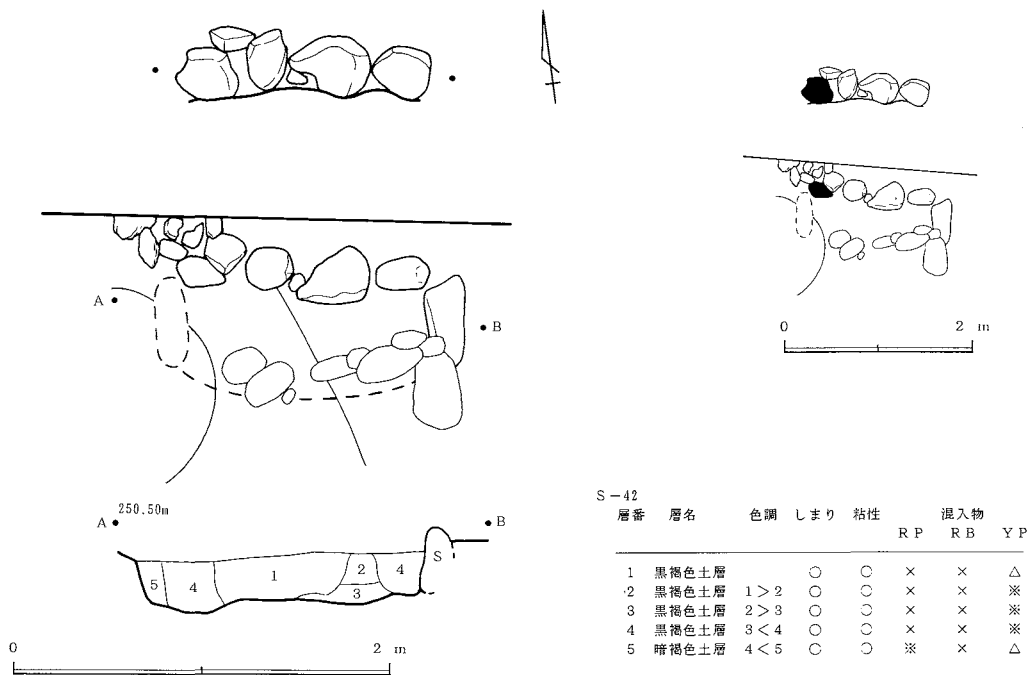
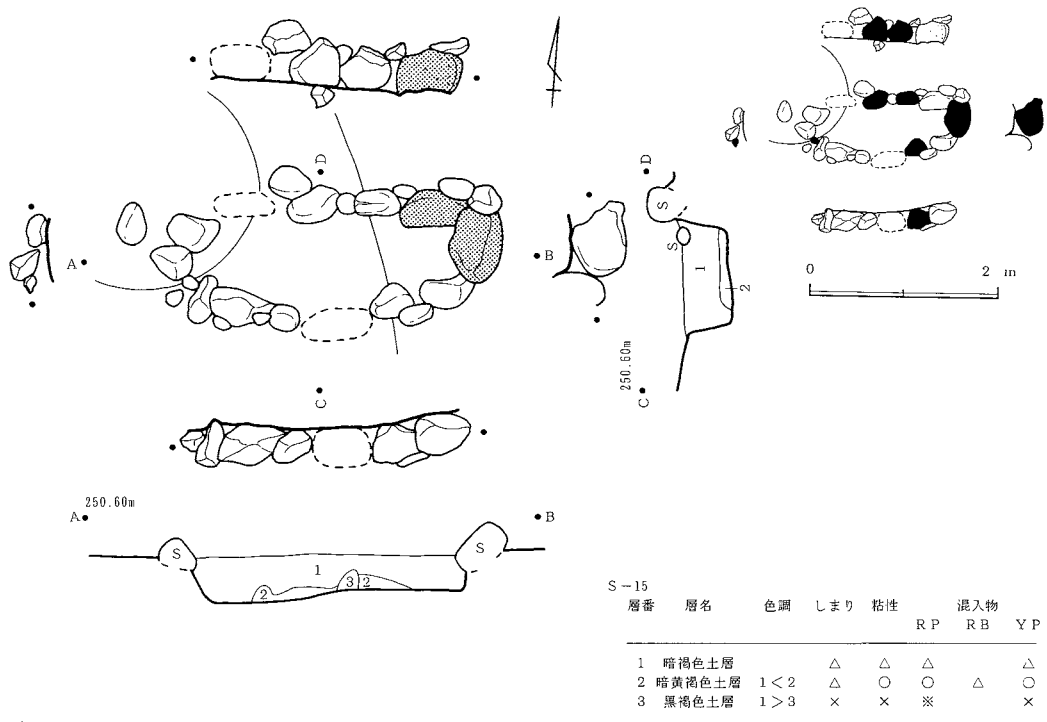
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
					RP	RB	YP
1	暗褐色土層		△	△	※	×	×
2	暗褐色土層	1<2	○	○	△	△	※



S-17

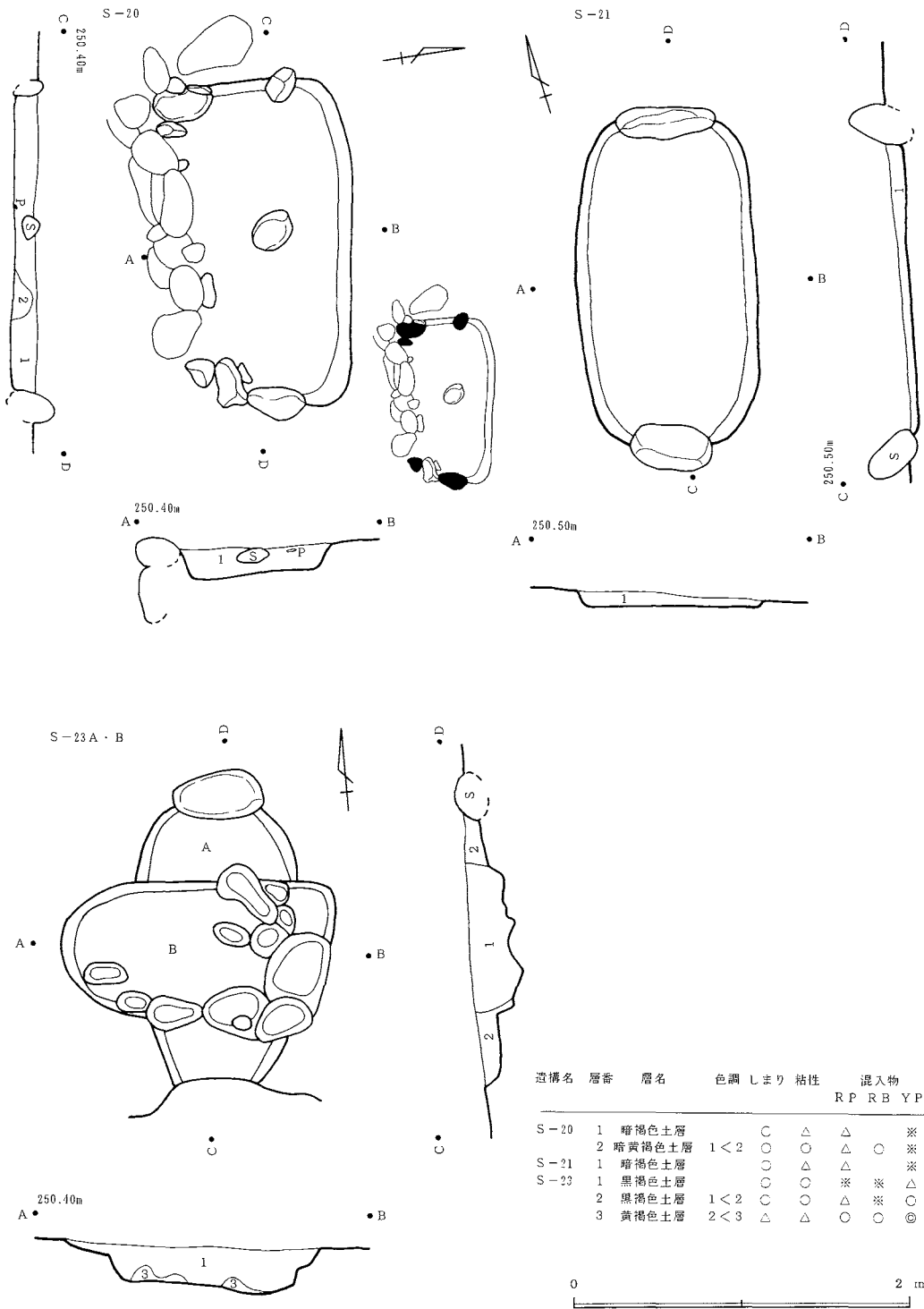
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物	
					RP	YP
1	暗褐色土層		△	△	△	※

第128図 S-8・17号配石墓実測図

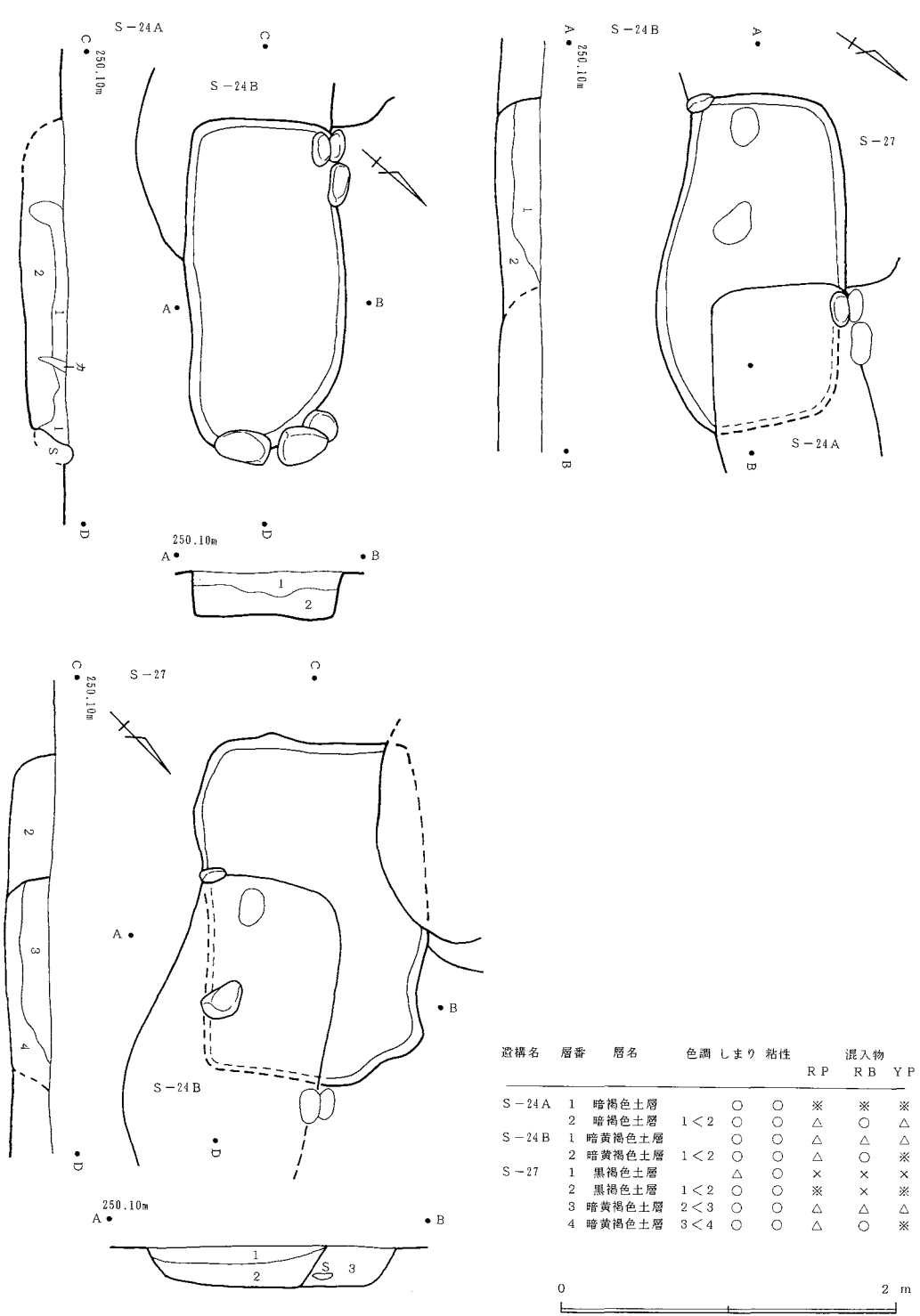


第129図 S-15・42号配石墓実測図

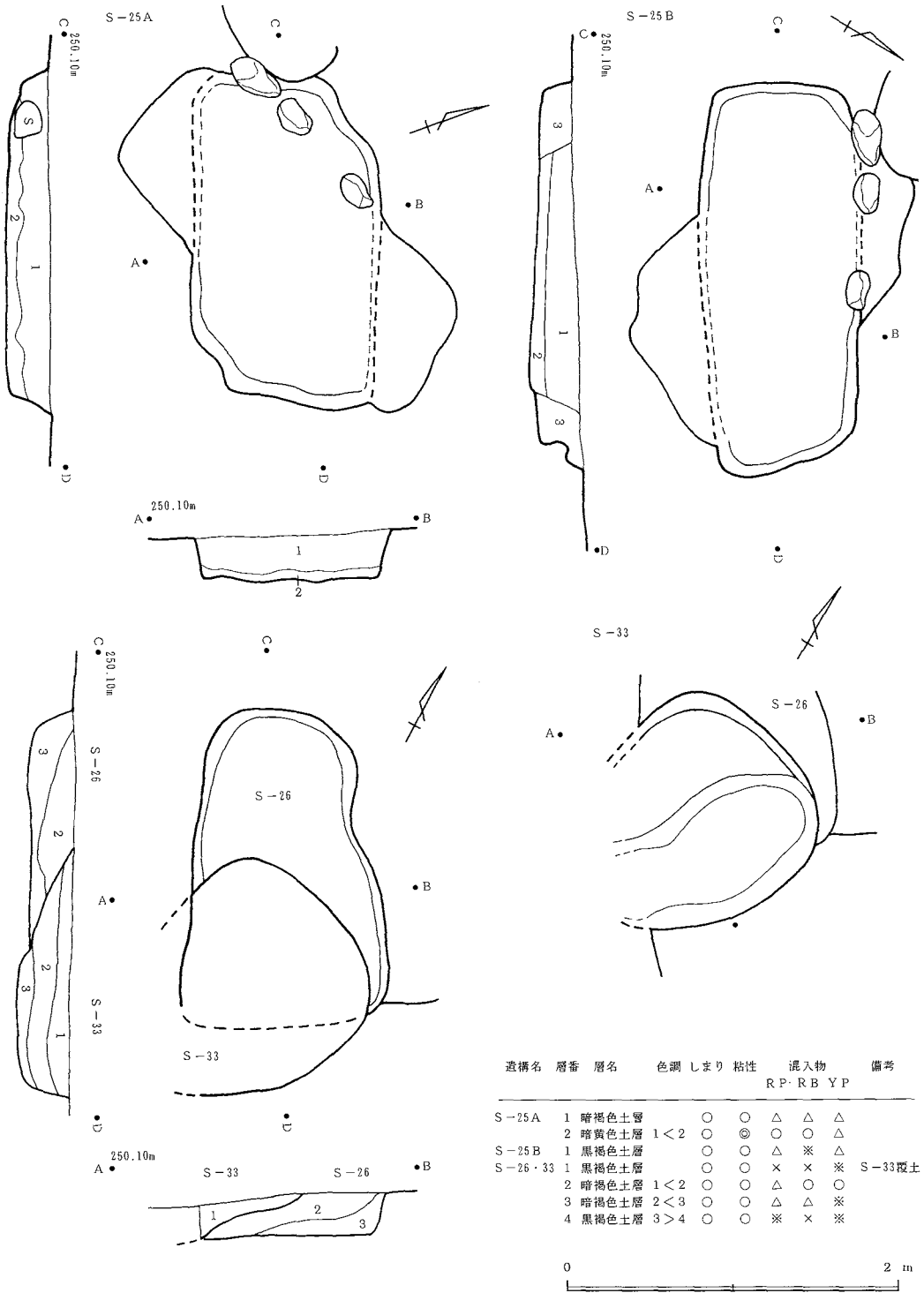




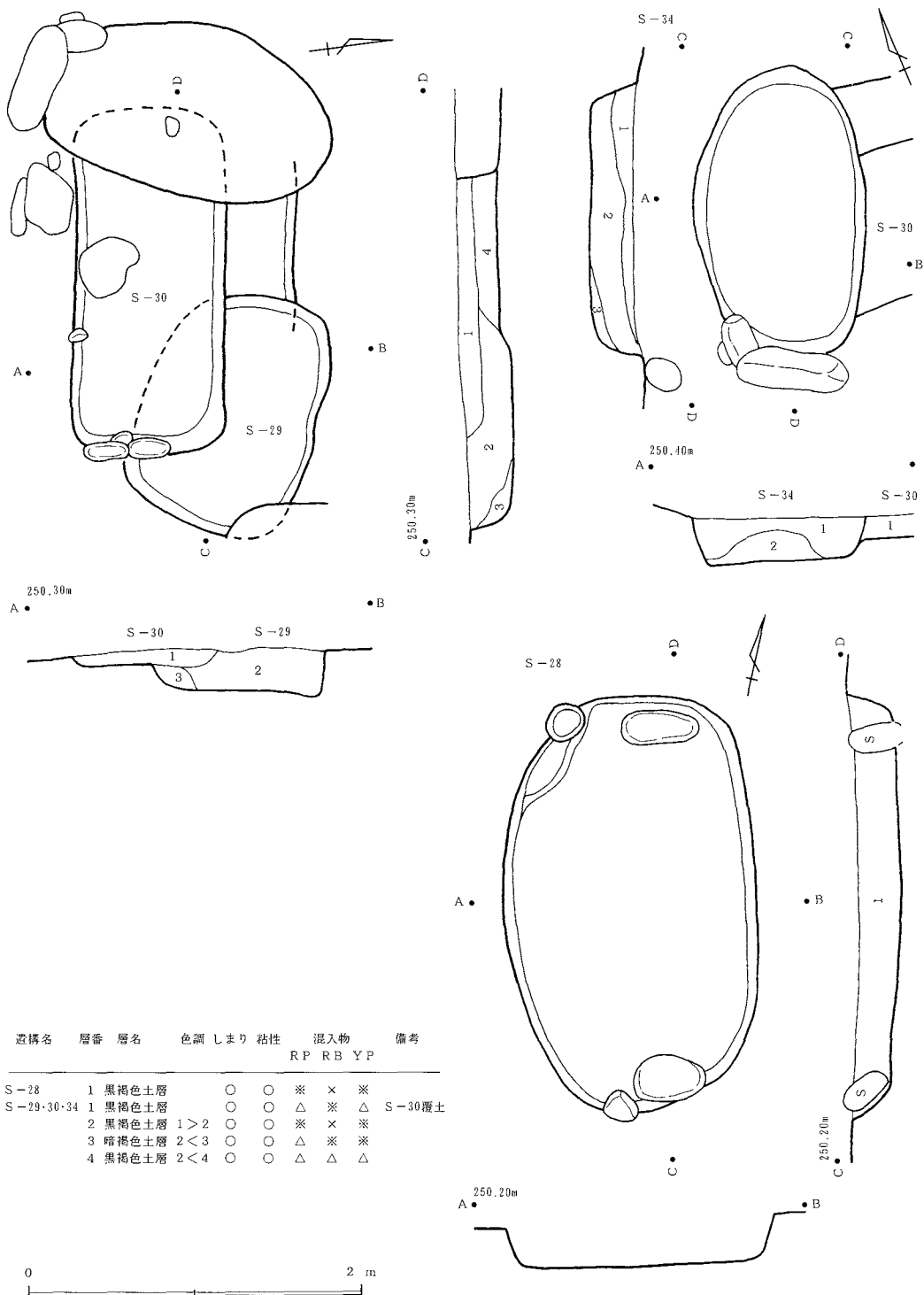
第130図 S-20・21・23A・23B号陪石墓実測図



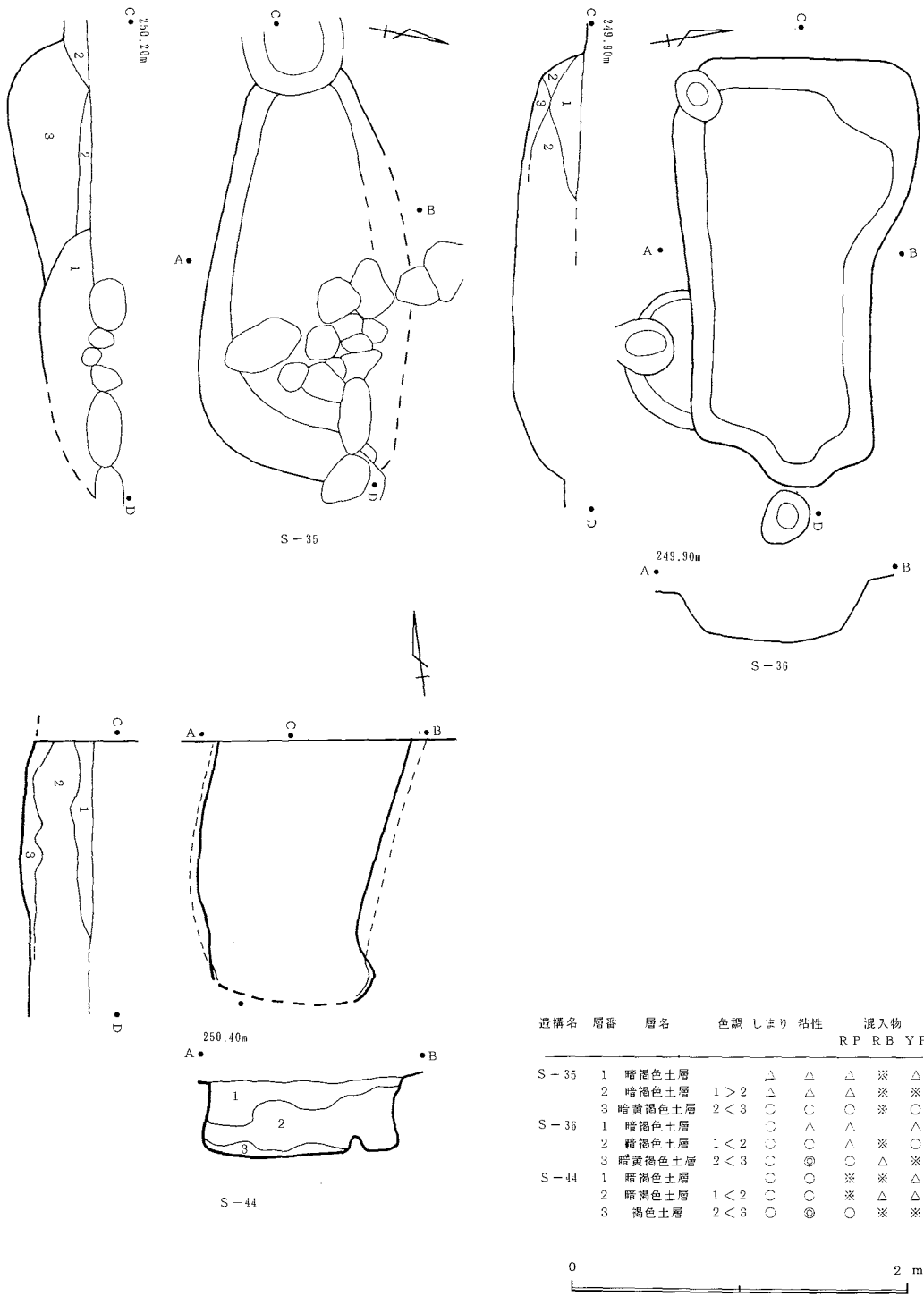
第131図 S-24A・24B・27号配石墓実測図



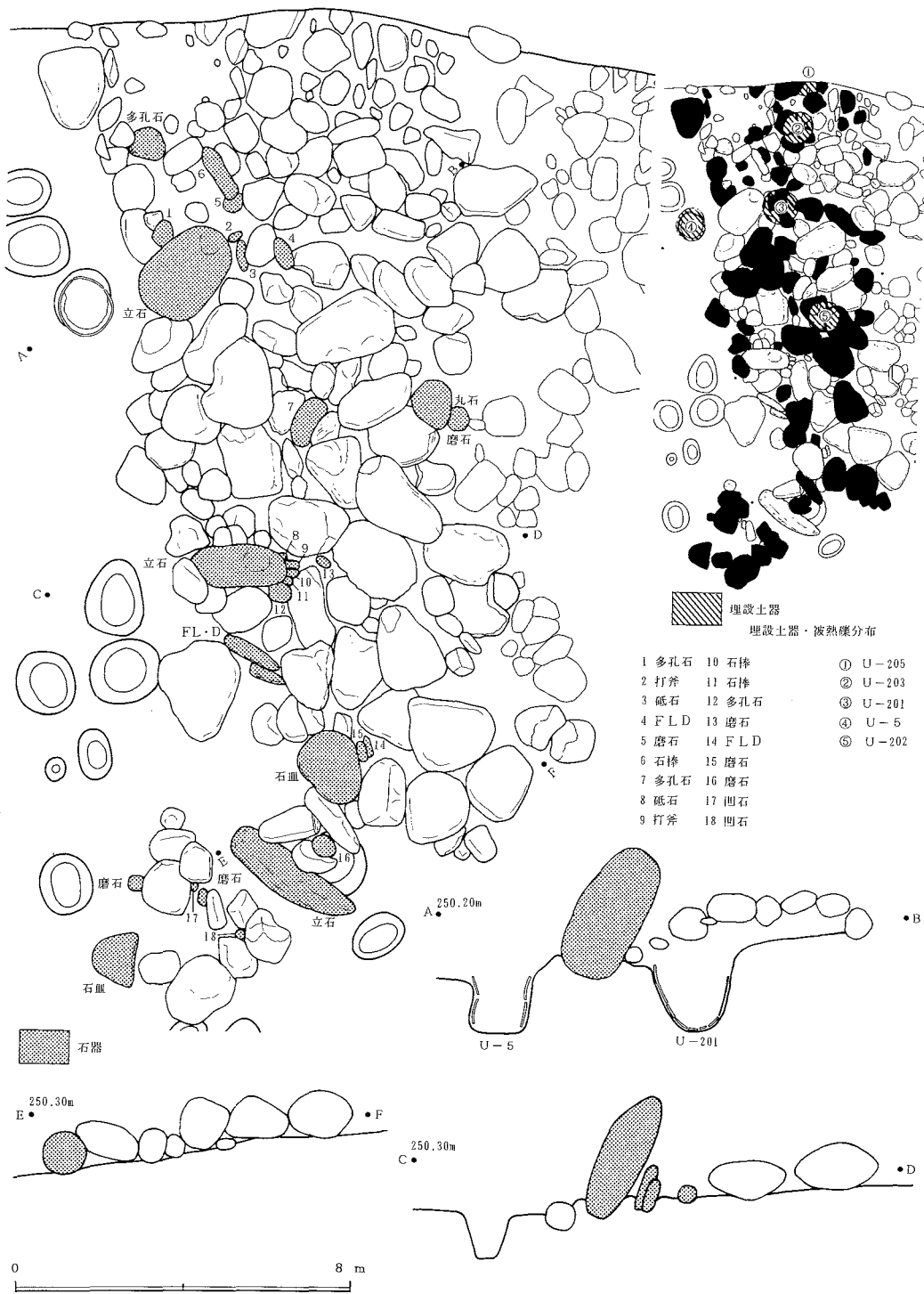
第132図 S-25A・25B・26・33号配石墓実測図



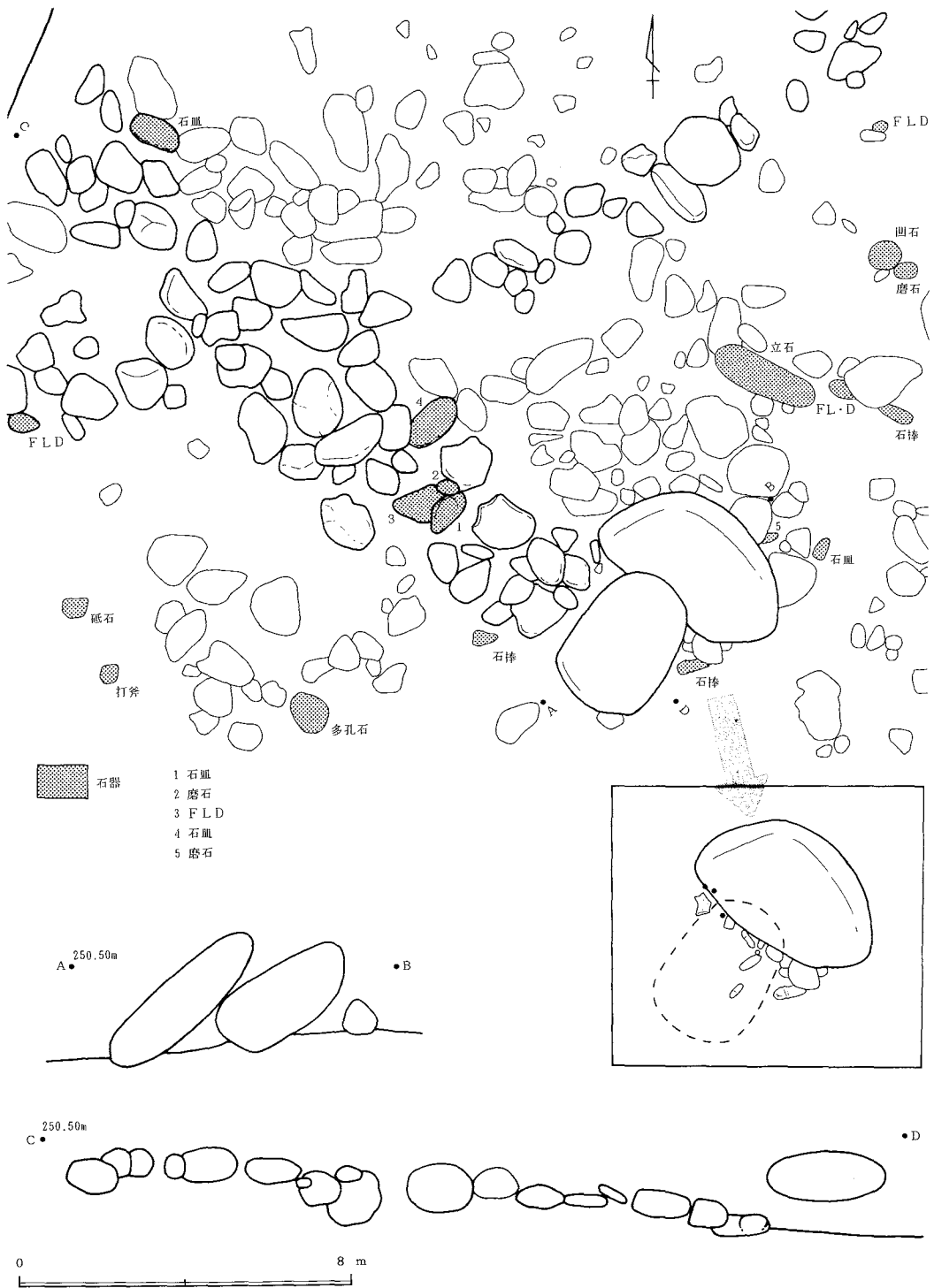
第133図 S-28・29・30・34号配石墓実測図



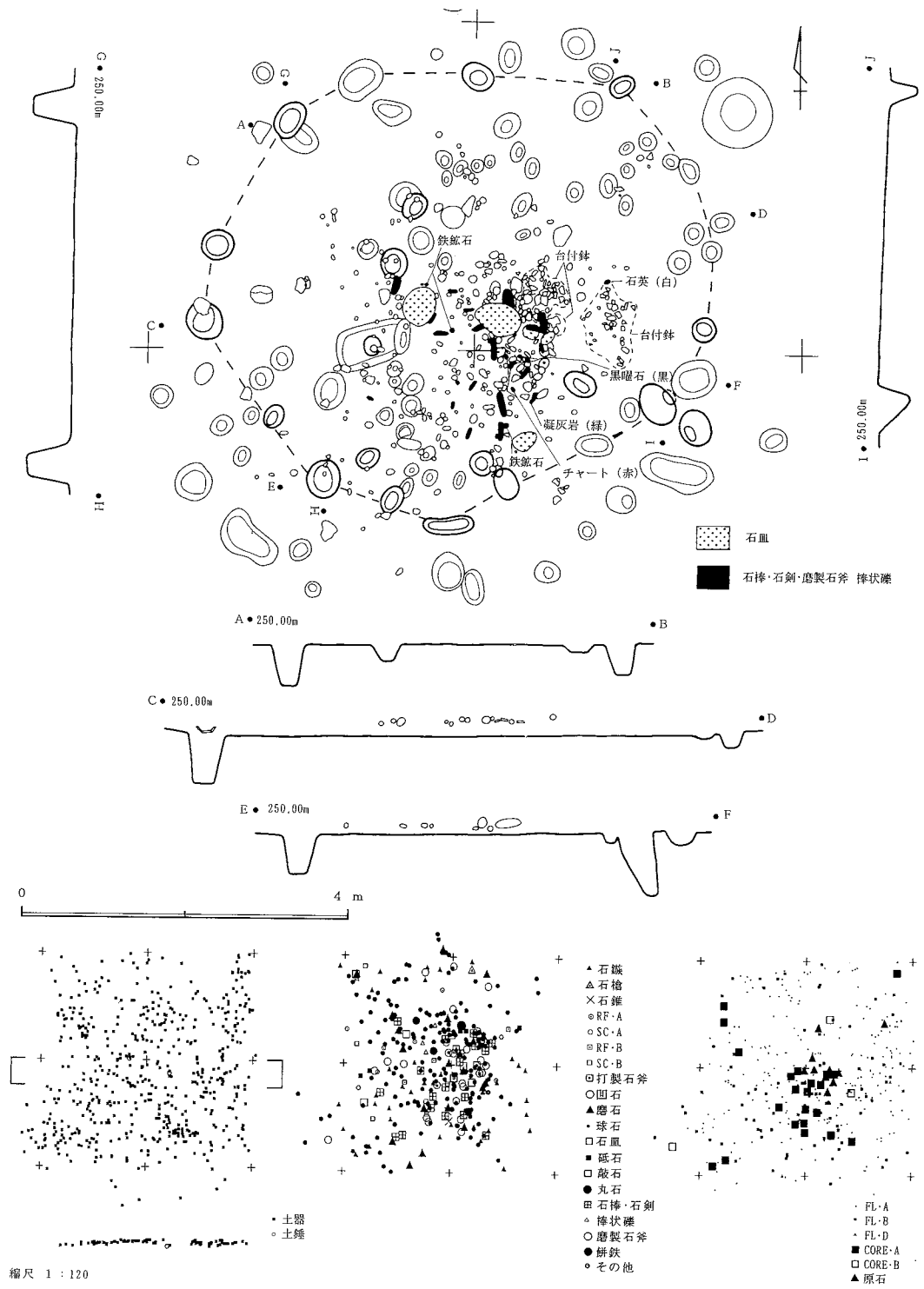
第134図 S-35・36・44号陪石墓実測図



第135图 S-5号祭壇状配石遺構実測図



第136图 S-3号墓道状配石遺構実測図



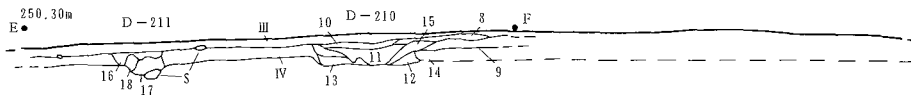
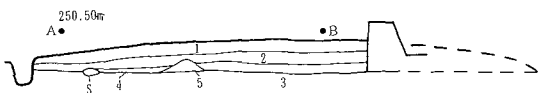
第137図 S-2号石棒祭祀遺構実測図



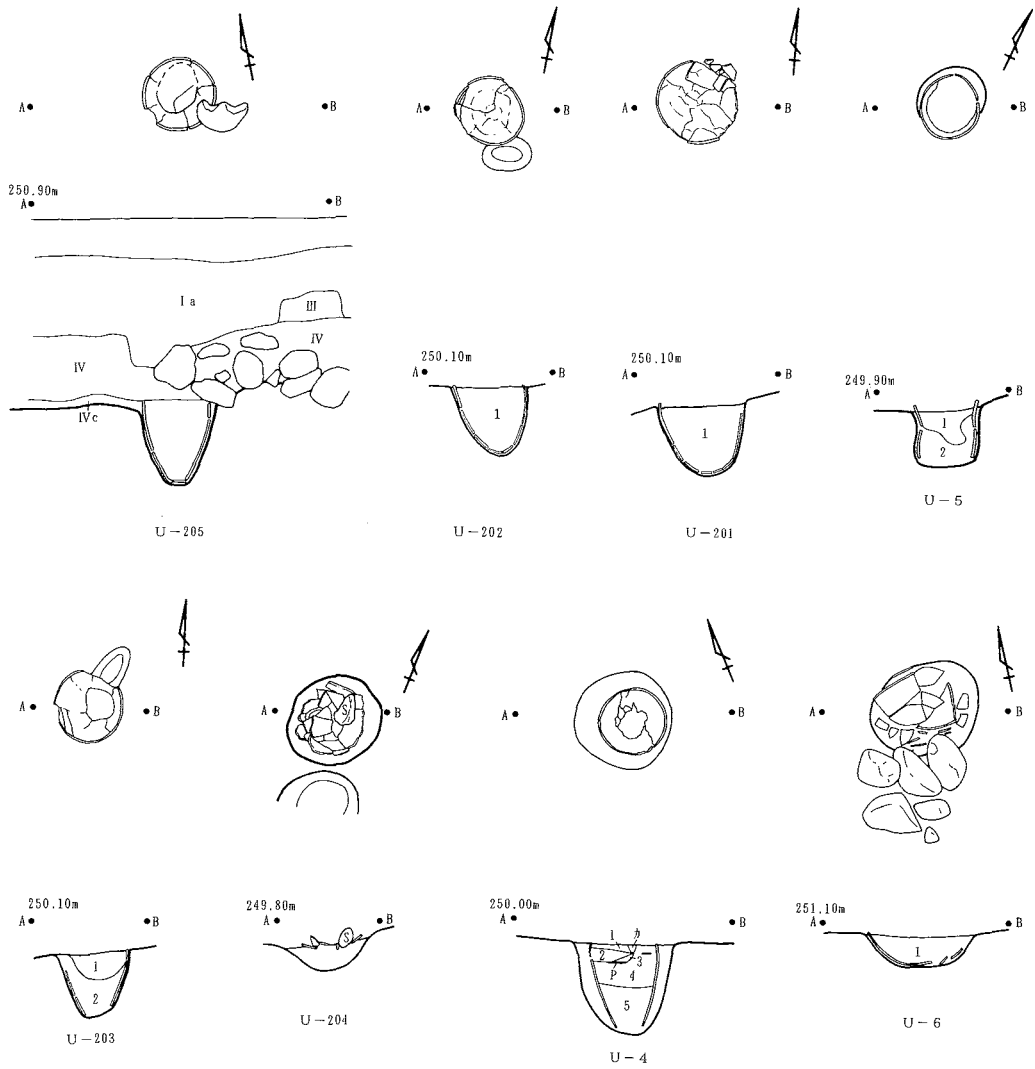


岡堤帯

層番	層名	色	色調	しまり	粘性	混入物			備考	
						RP	RB	YP		炭化物
1	黒褐色土層				○	○	△	※	△	△
2	黒褐色土層				○	○	※	※	※	△
3	黒褐色土層		2<3		○	○	△	※	※	※
4	黒褐色土層		3<4		○	○	△	※	※	×
5	暗黄褐色土層		4<5		◎	◎	○	○	△	×
6	黒褐色土層		5>6		○	○	○	○	△	
7	黄褐色土層		6<7		◎	◎	◎	◎	◎	×
8	褐色土層	10YR			○	○	○	△	※	D-210
9	褐色土層	10YR	8<9		○	○	○	△	※	D-210
10	暗褐色土層	10YR	9>10		○	○	○	△	※	D-210
11	暗褐色土層	10YR	10<11		○	○	※	※	※	D-210
12	暗褐色土層	10YR	11<12		○	○	△	○	△	
13	暗褐色土層	10YR	15<13		○	○	△	△	△	
14	黄褐色土層	10YR	12<14		○	○	△	◎	※	
15	暗褐色土層	10YR	11<15		○	○	※	※	※	
16	暗褐色土層	10YR			○	○	△	※	※	D-211
17	暗褐色土層	10YR	16<17		○	○	△	※	※	D-211
18	暗褐色土層	10YR	17<18		○	○	△	△	※	D-211



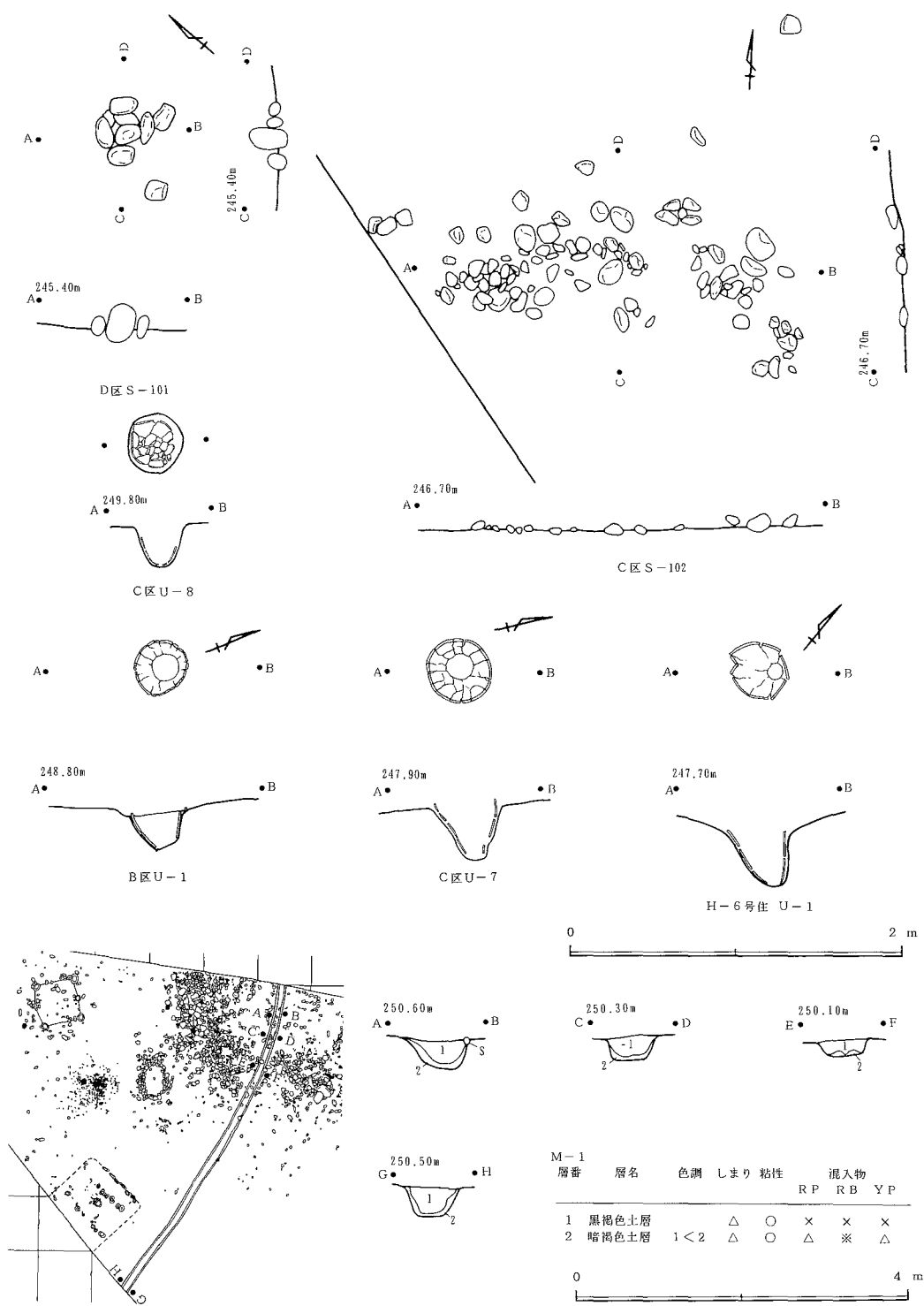
第138図 岡堤帯実測図



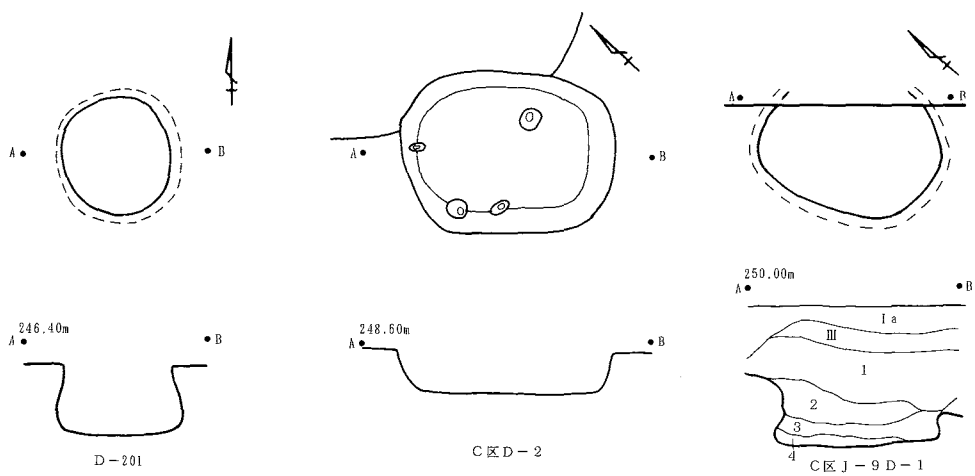
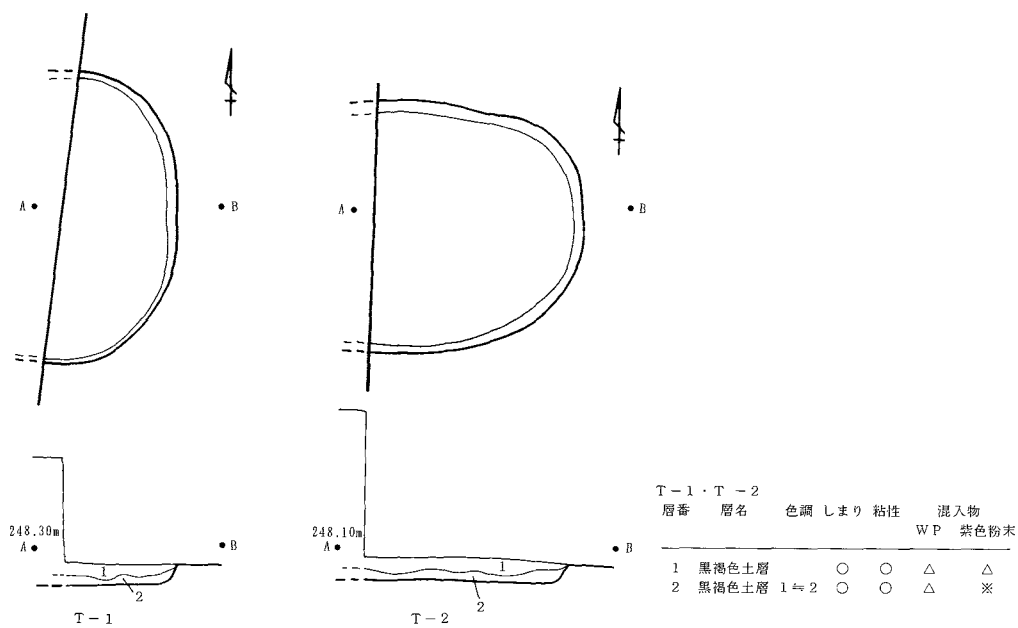
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
						R	P	R	B	Y
U-202	1	暗黄褐色土層	○	○	○	○	△	△		
U-201	1	褐色土層	○	○	○	○			※	
U-5	1	暗黄褐色土層	○	○	○	○			※	
	2	暗黄褐色土層	1 < 2	○	◎	◎			※	
U-203	1	明黄褐色土層	○	○	○	○			※	◎
	2	黄褐色土層	1 > 2	○	○	◎	※		※	
U-4	1	暗褐色土層	△	△	△	△			※	
	2	暗褐色土層	1 < 2	△	△	△			※	
	3	暗褐色土層	2 < 3	△	△	△	※		※	
	4	暗黄褐色土層	3 < 4	△	○	○	△	※	※	
	5	暗黄褐色土層	4 < 5	△	◎	◎	◎	×	※	底層に炭化物有り
U-6	1	暗褐色土層	○	×	※	×	△			



第139図 埋設土器実測図



第140图 S-101・102号集石遺構・埋設土器実測図・M-1号溝土層断面図

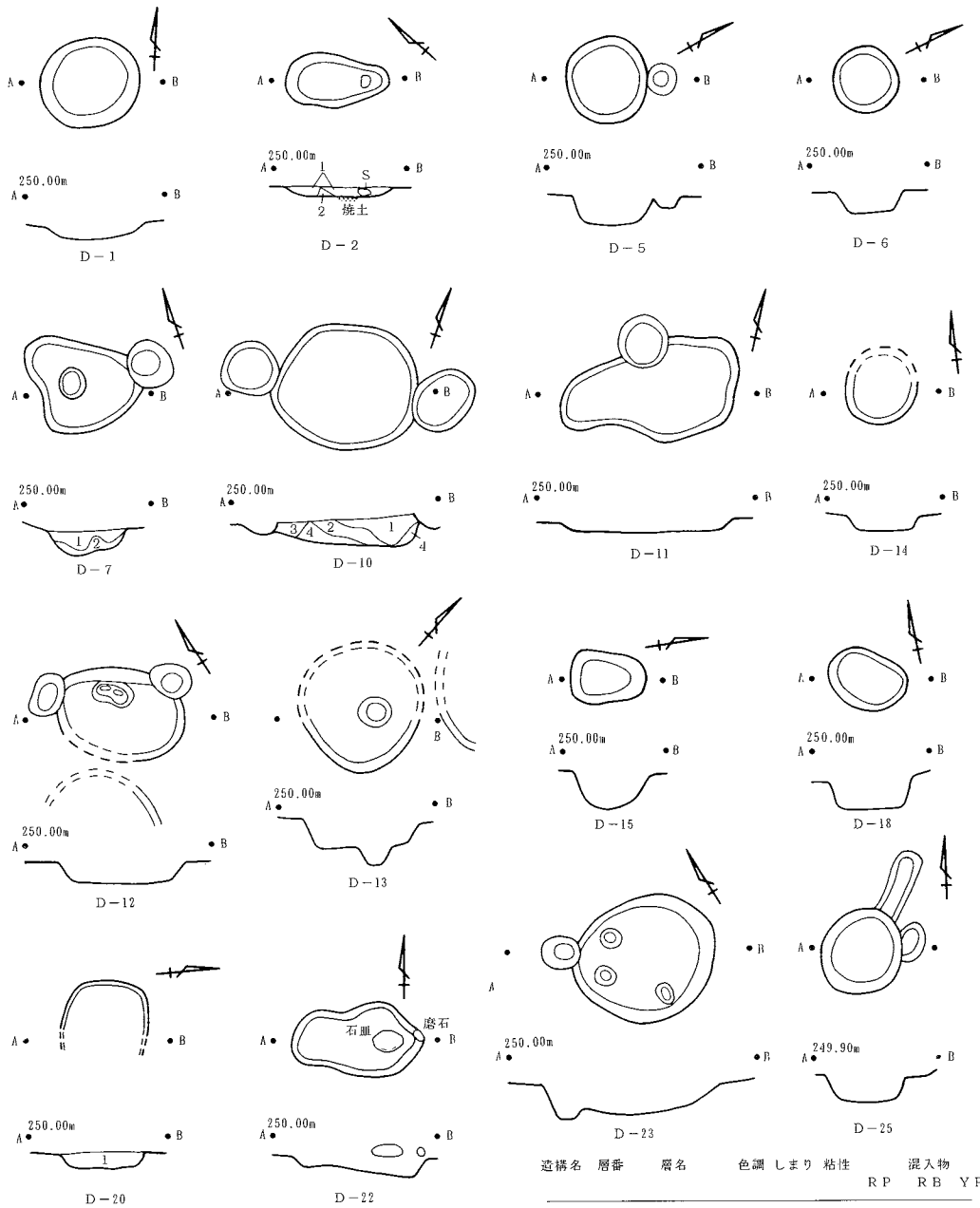


D-1

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物
					RP RB YP
1	黒褐色土層	○	○	×	×
2	黒褐色土層	1<2	○	×	※ ※
3	黒褐色土層	1<3	○	×	×
4	暗黄褐色土層	3<4	◎	△	◎ ※

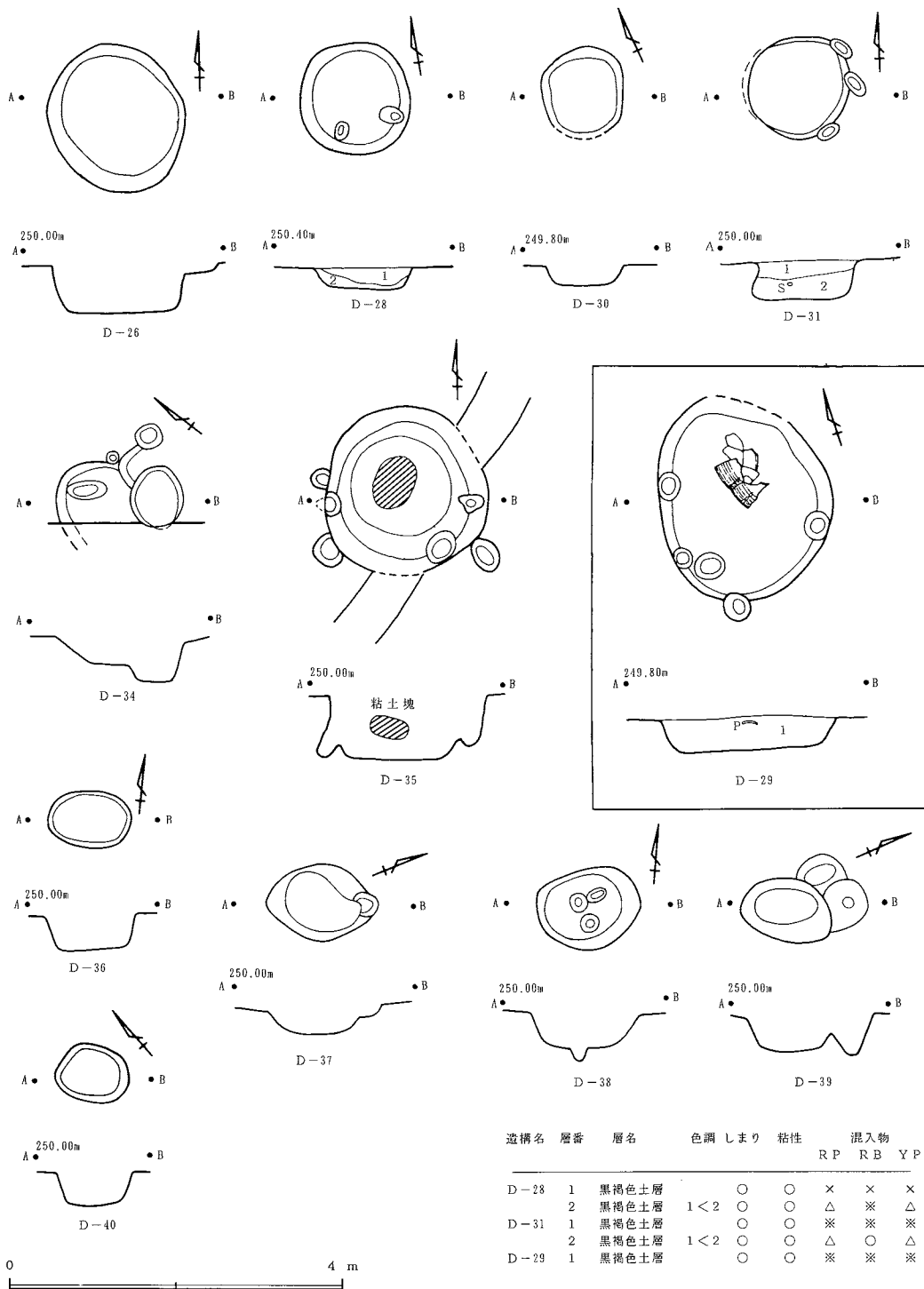


第141図 竪穴状遺構実測図・土坑実測図(1)

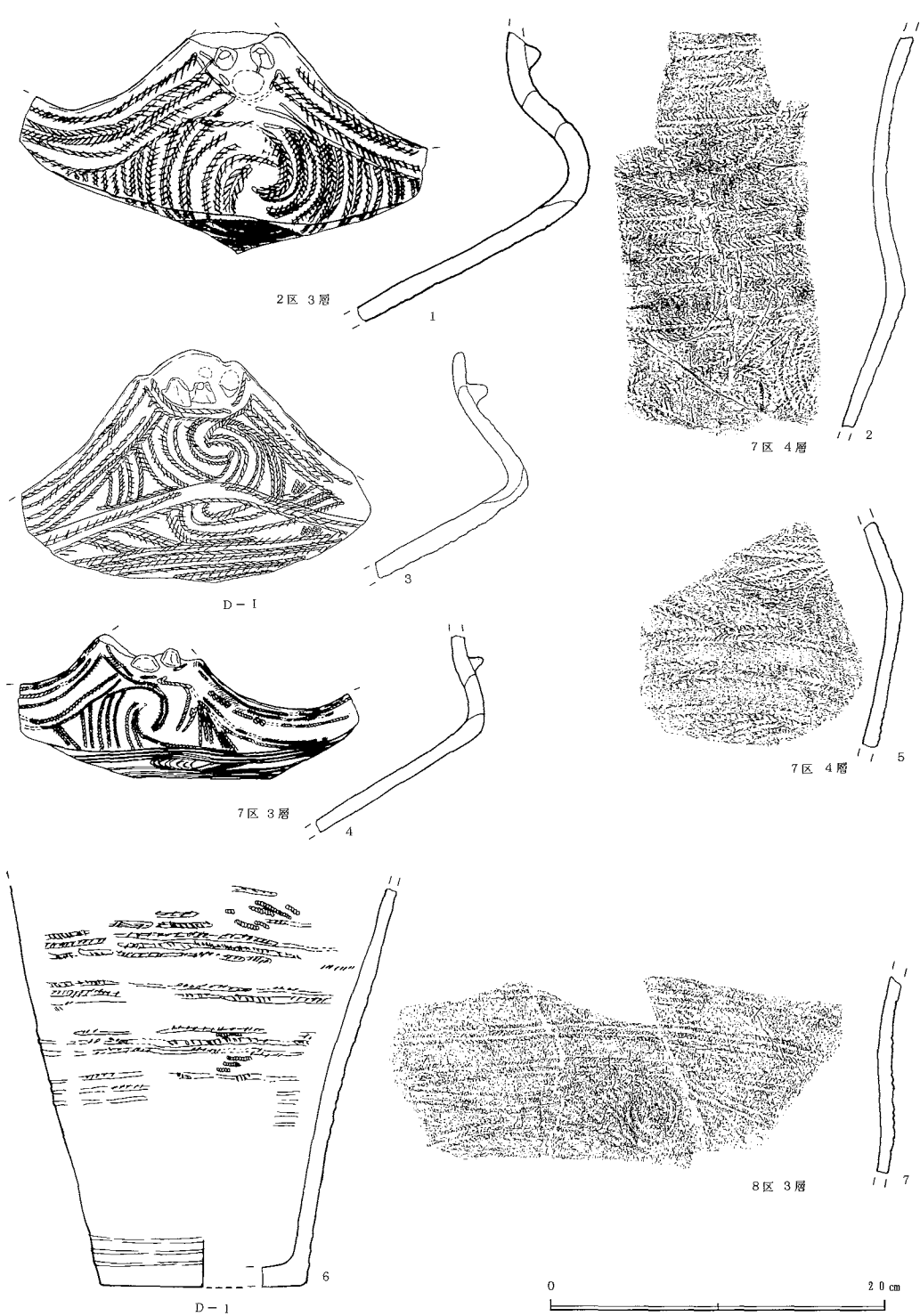


近構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
						RP	R	B	YP
D-2	1	暗褐色土層		△	△	△			※
	2	暗黄褐色土層	1<2	△	○	△	※		○
D-7	1	黒褐色土層		○	○	※	※		※
	2	暗褐色土層	1<2	○	○	△	△		※
D-10	1	黒褐色土層		○	○	※	×		※
	2	黒褐色土層	1<2	○	○	△	×		※
	3	暗黄褐色土層	2<3	○	○	△	※		△
	4	暗黄褐色土層	3<4	○	○	○	△		○
D-20	1	黒褐色土層		○	○	※	×		※

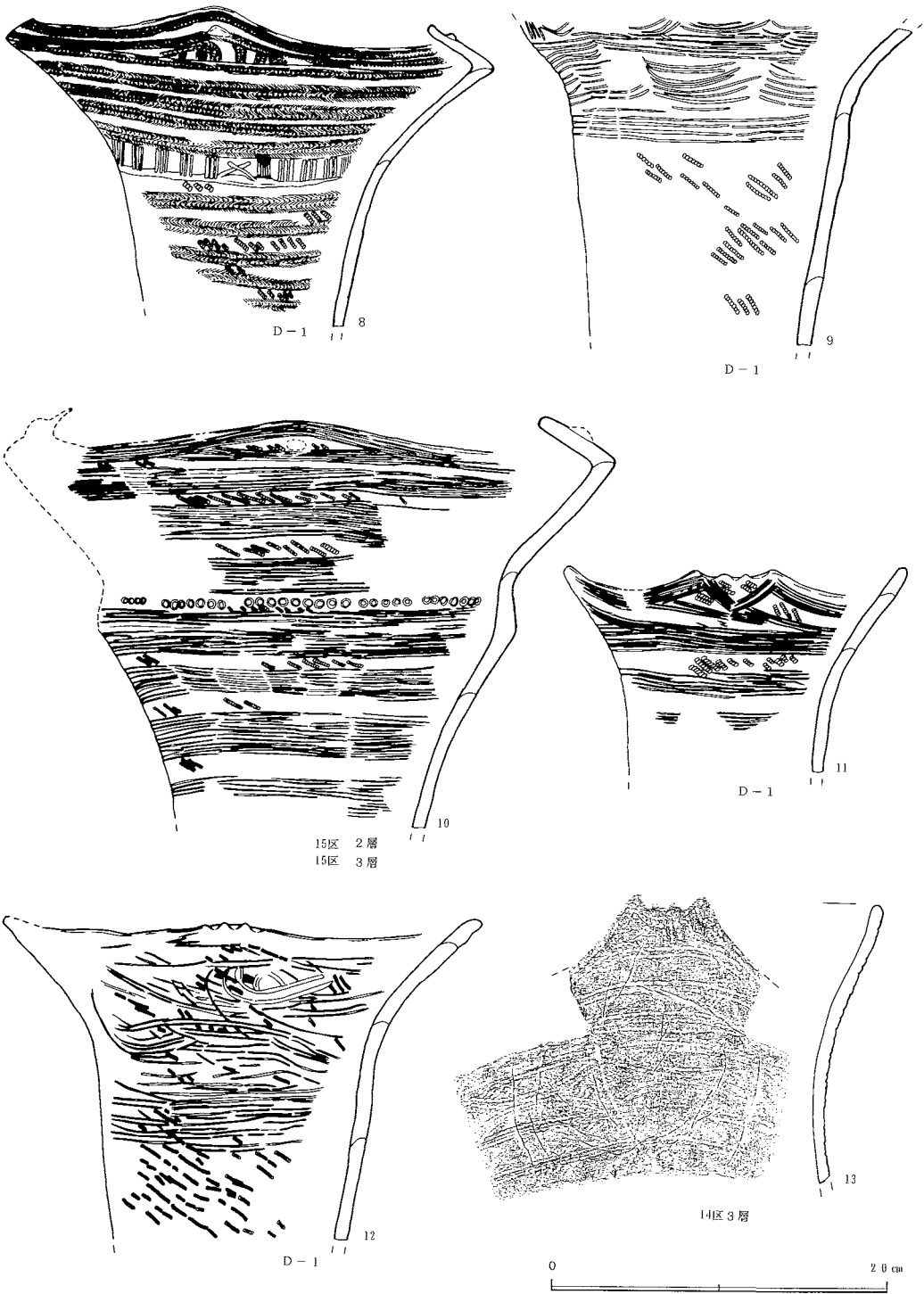
第142図 土坑実測図(2)



第143図 土坑実測図(3)

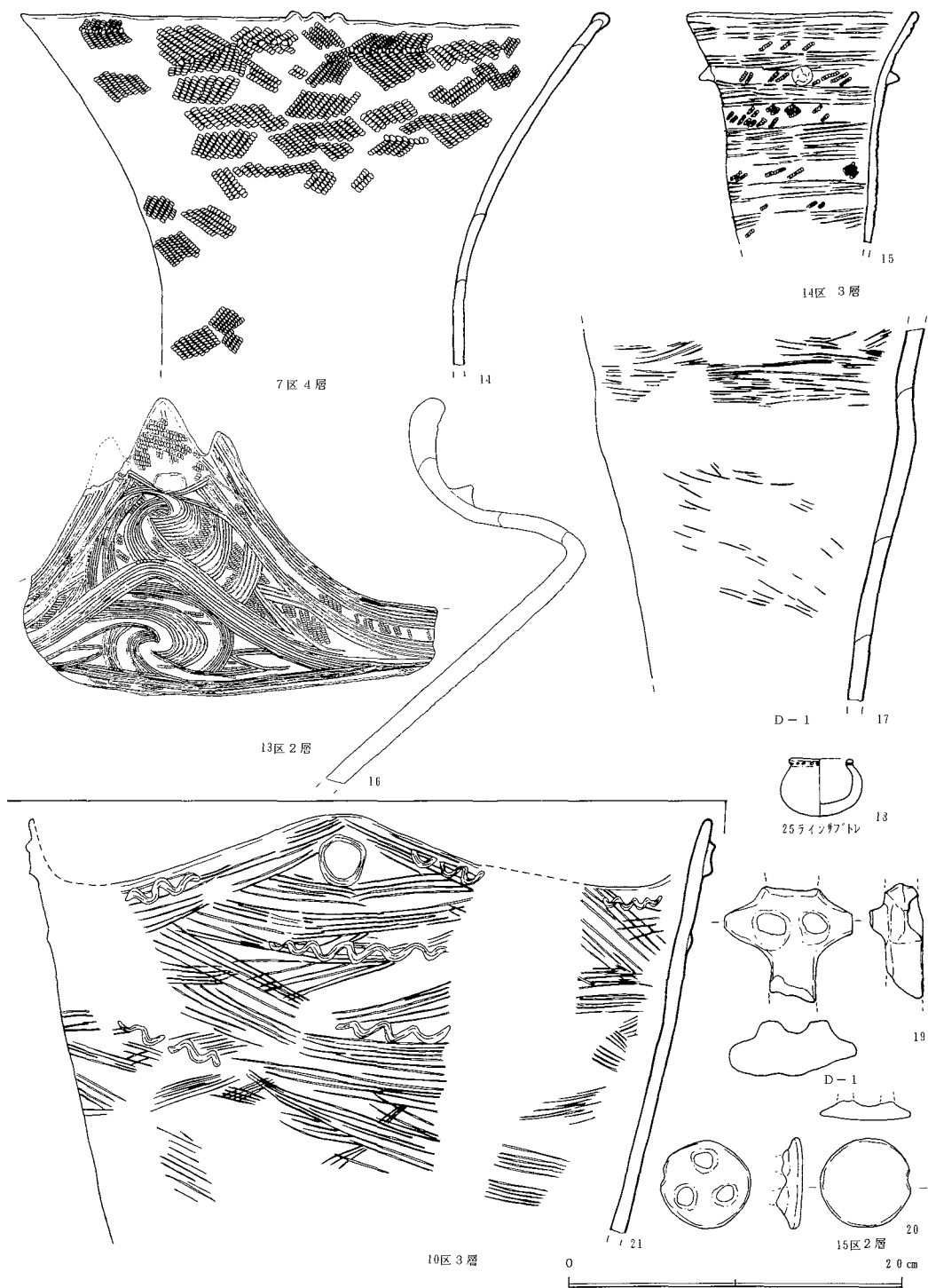


第144図 J-1号住居址出土の遺物(1)

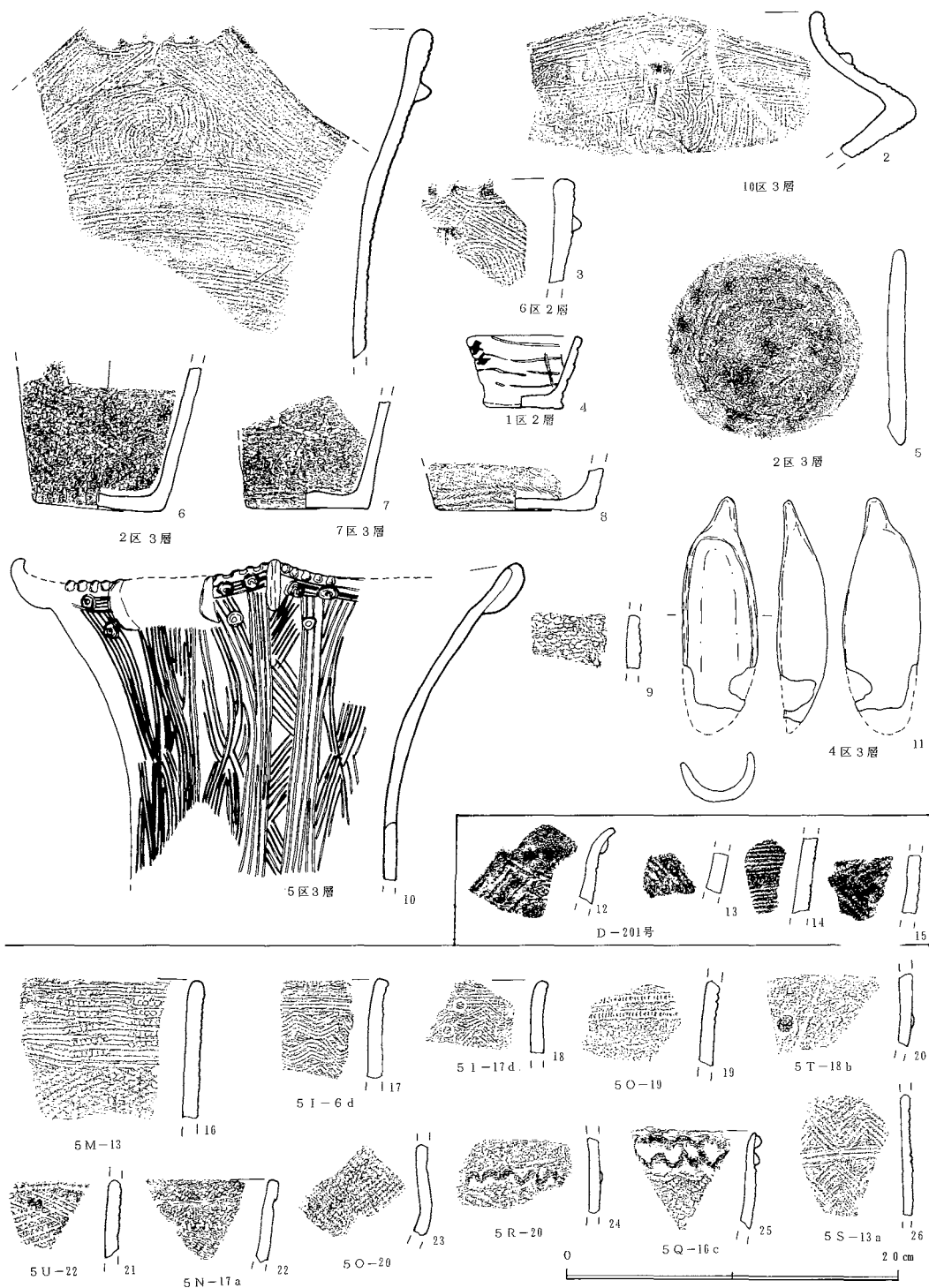


第145図 J-1号住居址出土の遺物(2)

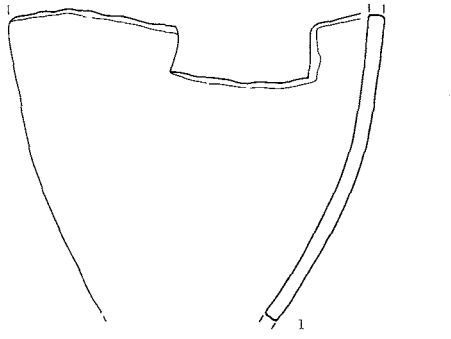




第146図 J-1号住居址(3)・2号住居址出土の遺物

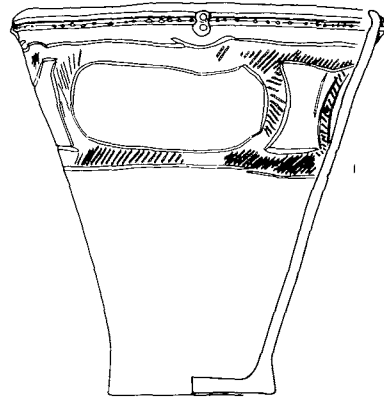


第147図 J-2号住居址・土坑・グリッド出土の遺物



炉址

J-3号住居址出土の土器



3



4

5P-9A



炉址

2



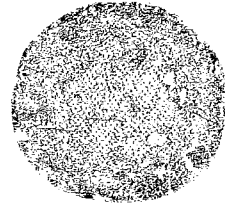
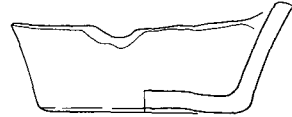
5

P-8D



6

5P-9C

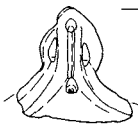


炉址

7

5P-9C

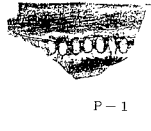
J-6号住居址出土の土器



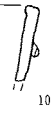
P-12



9



P-1



10



5U-18B



11



P-8

12



13

炉址



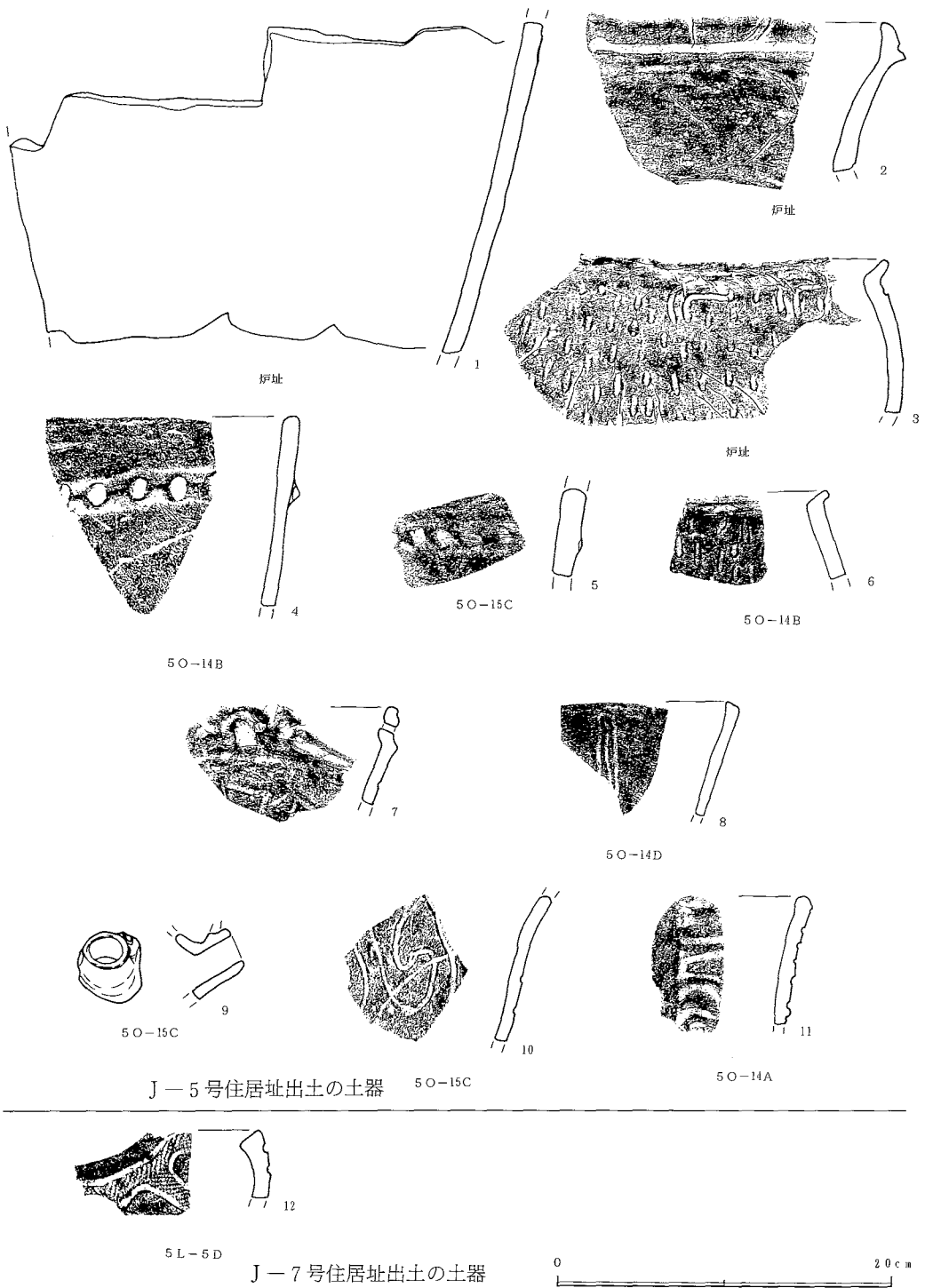
14

5U-18B

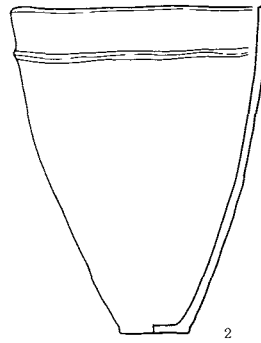
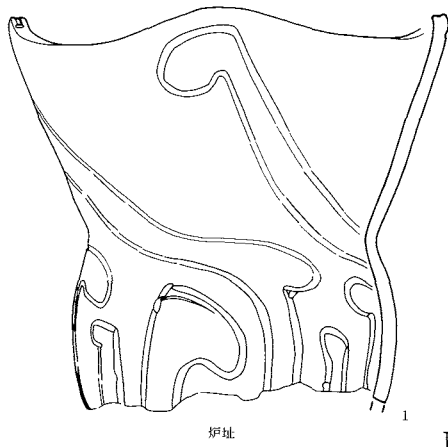
J-4号住居址出土の土器



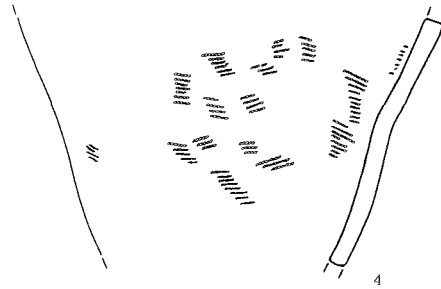
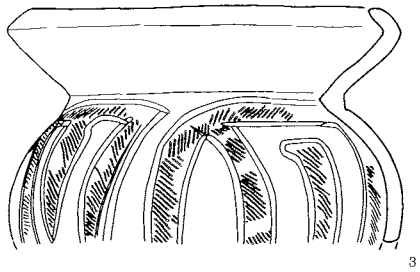
第148図 J-3・J-6・J-4号住居址出土の土器



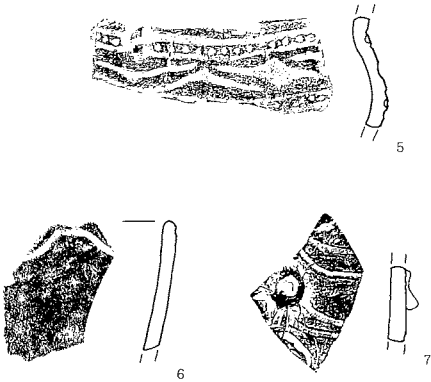
第149図 J-5・J-7号住居址出土の土器



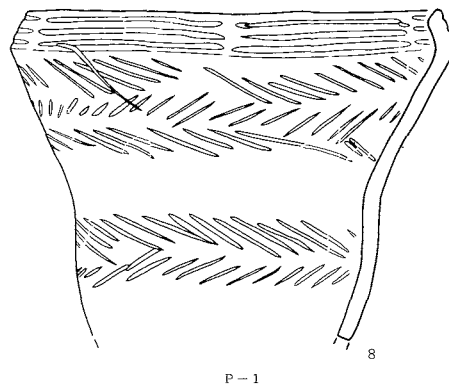
J-9号住居址出土の土器



J-11号住居址出土の土器



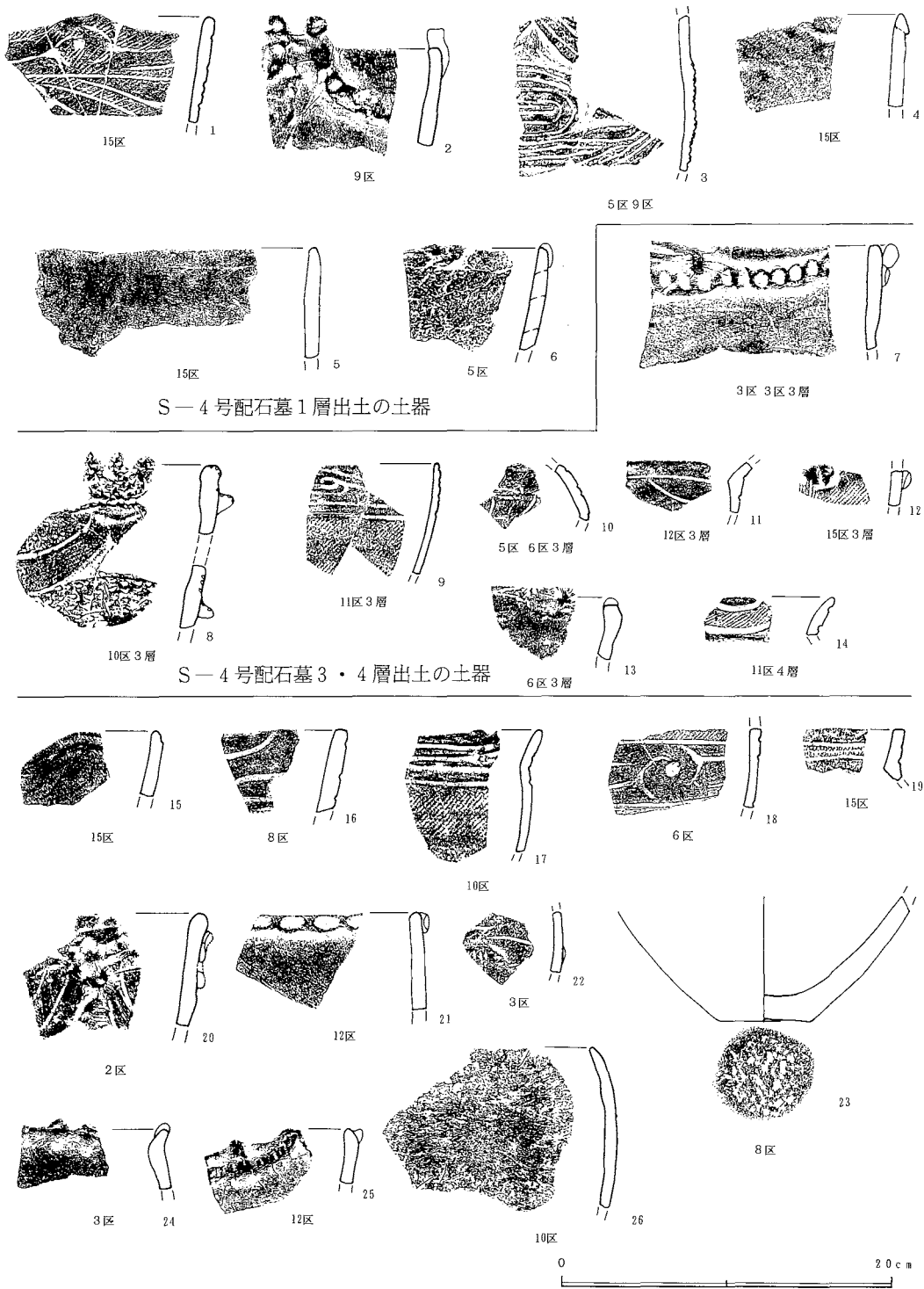
HT-1号掘立柱建物址出土の土器



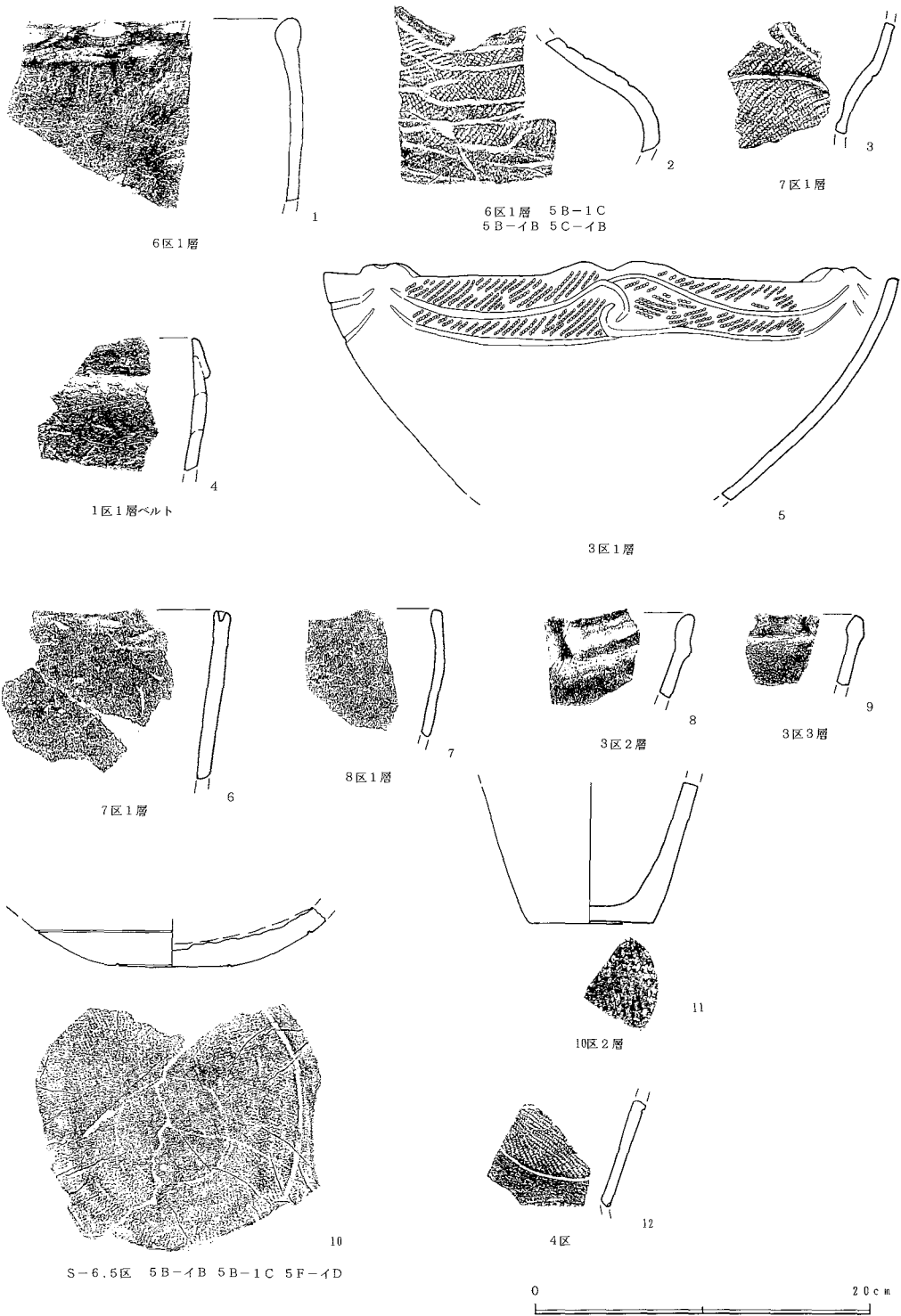
HT-3号柱穴群出土の土器



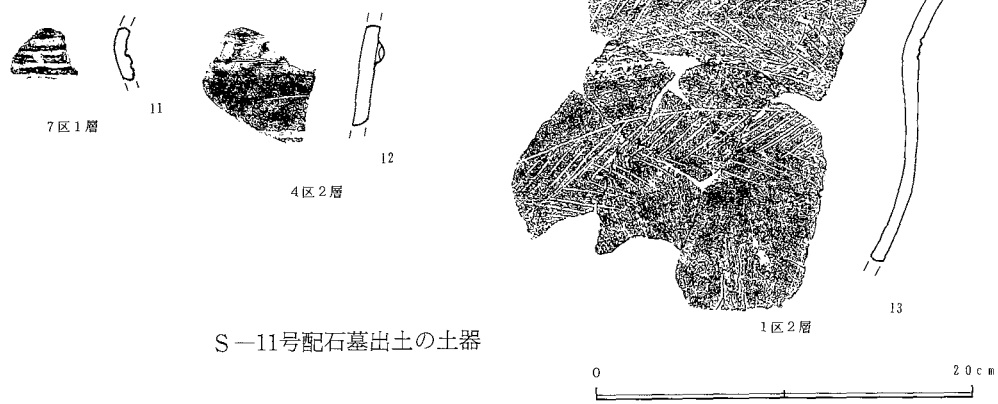
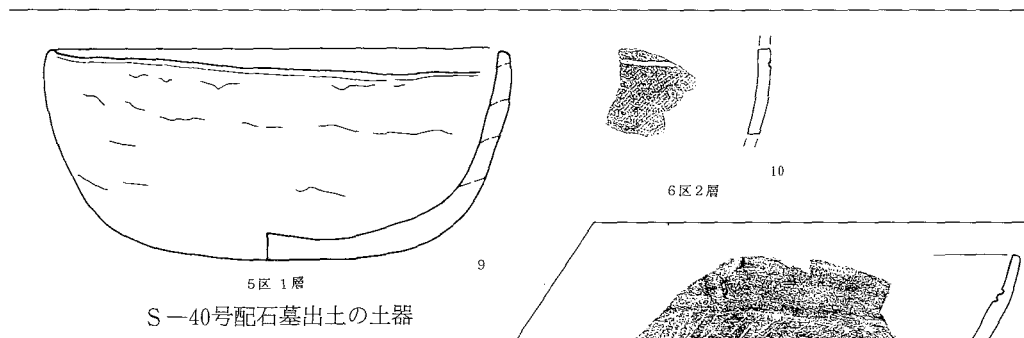
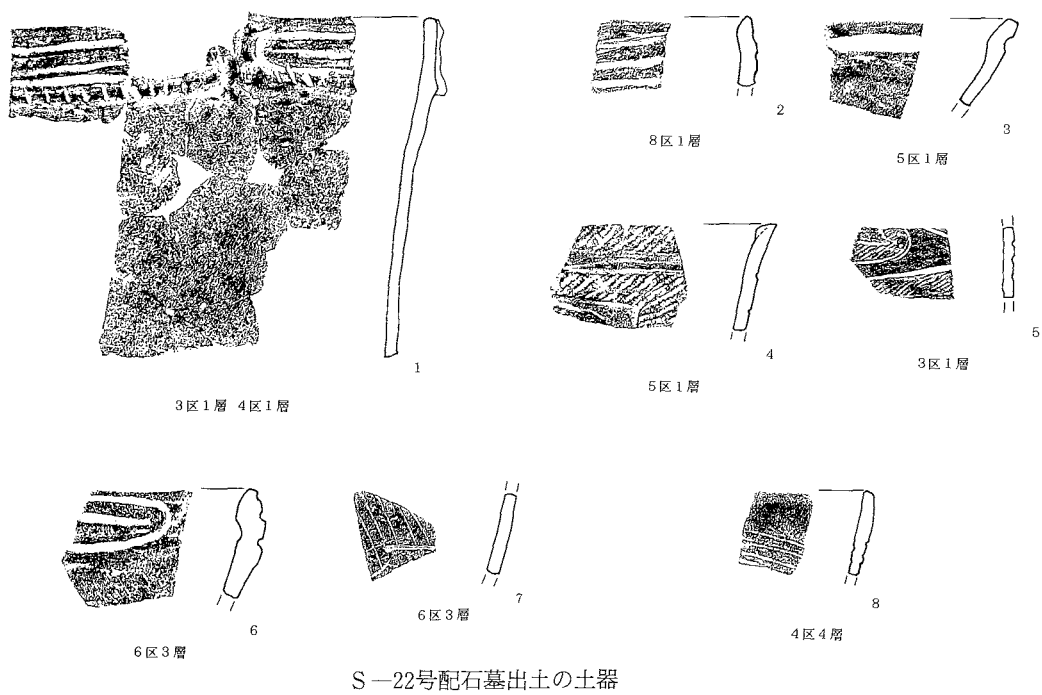
第150図 J-9・J-11号住居址、HT-1・HT-3出土の土器



第151図 S-4号配石墓出土の土器

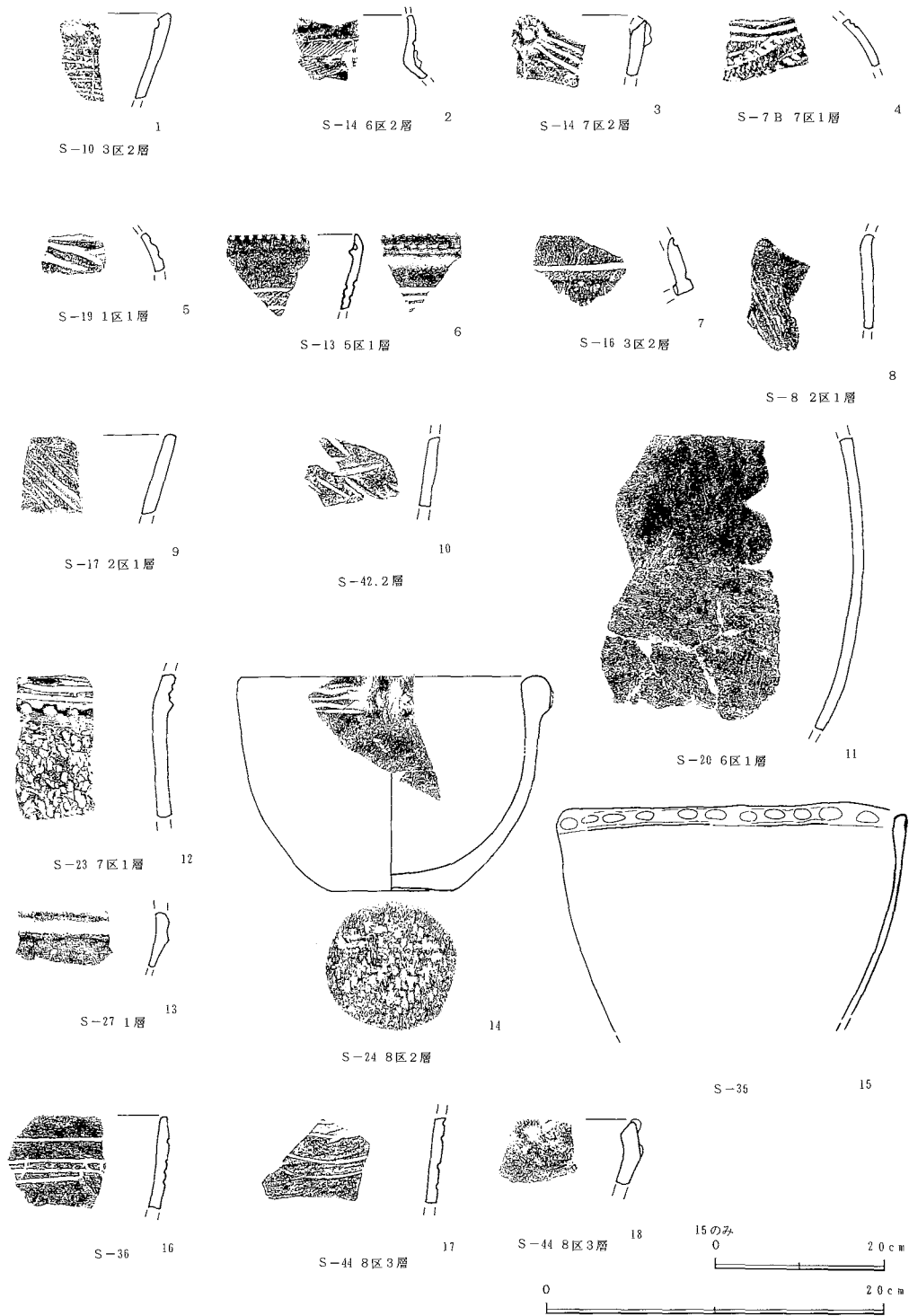


第152図 S-6号配石墓出土の土器

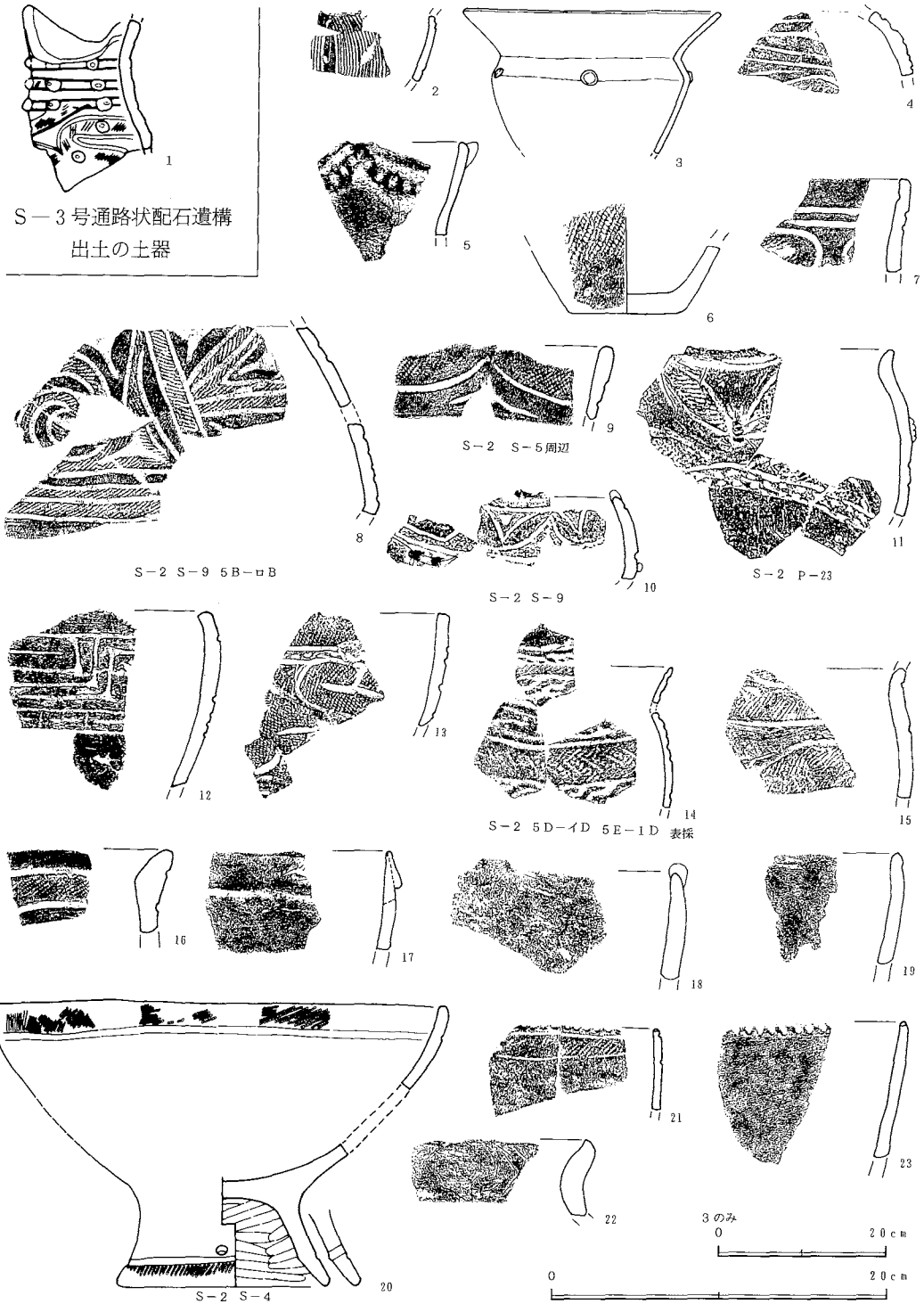


第153図 配石墓出土の土器(1)

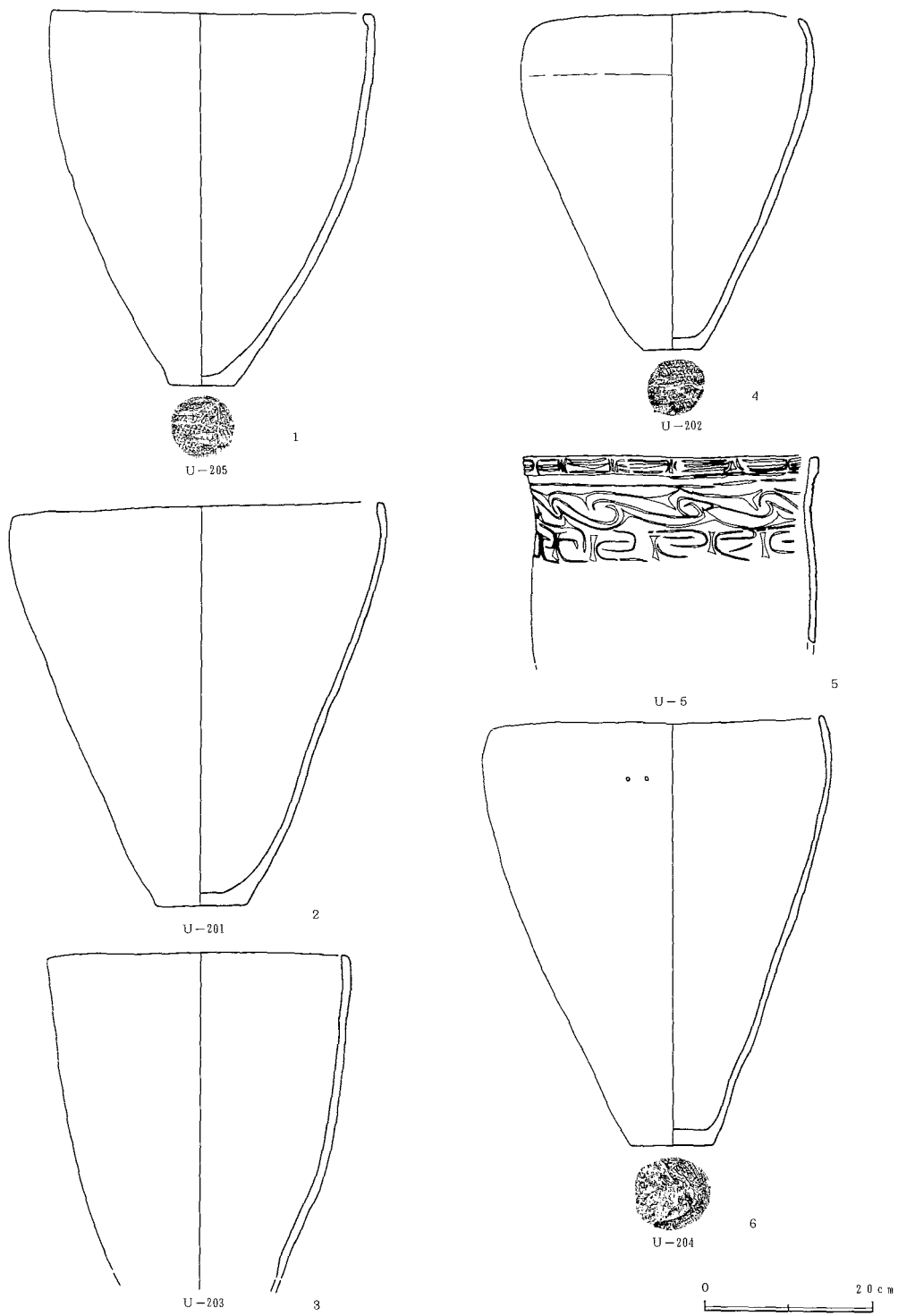




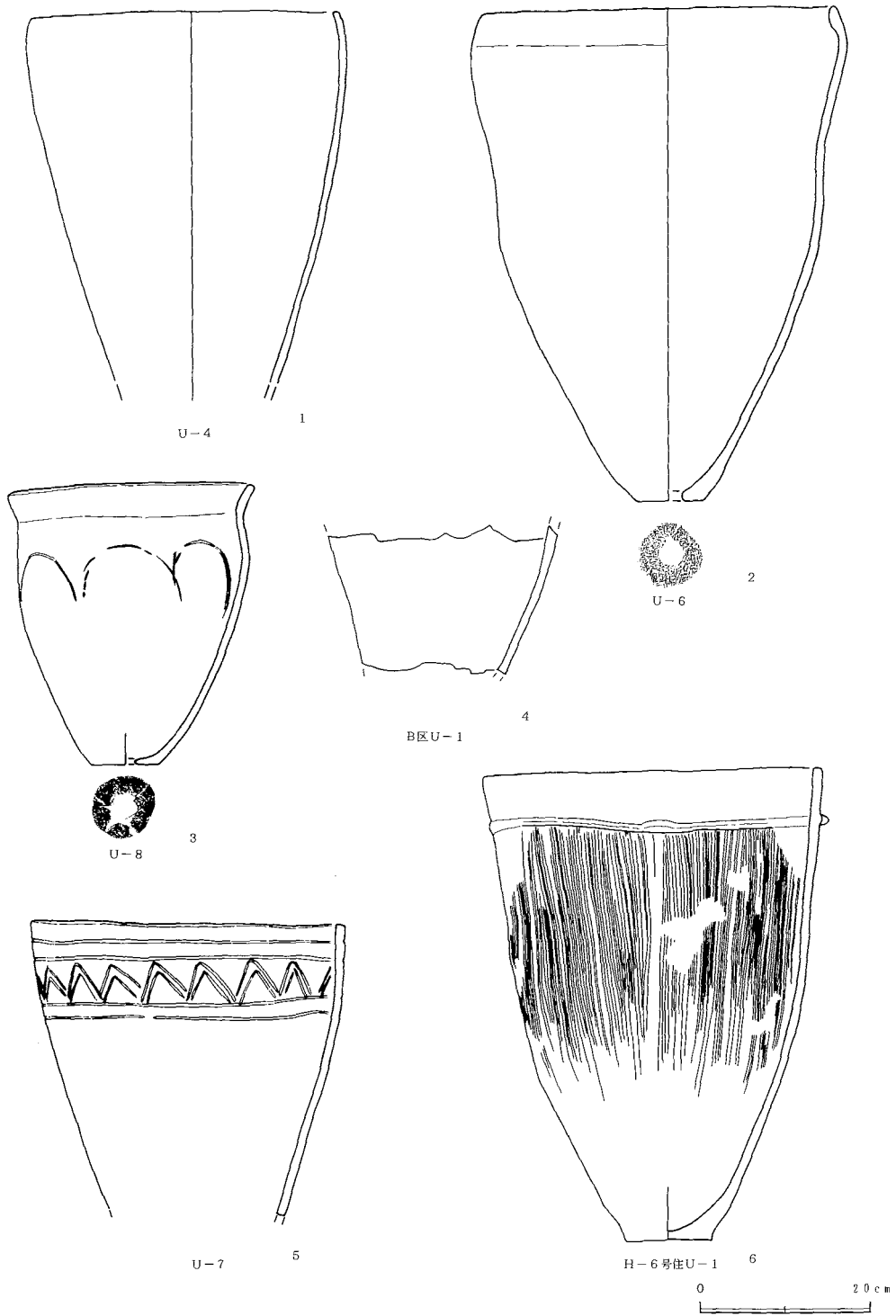
第154図 配石墓出土の土器(2)



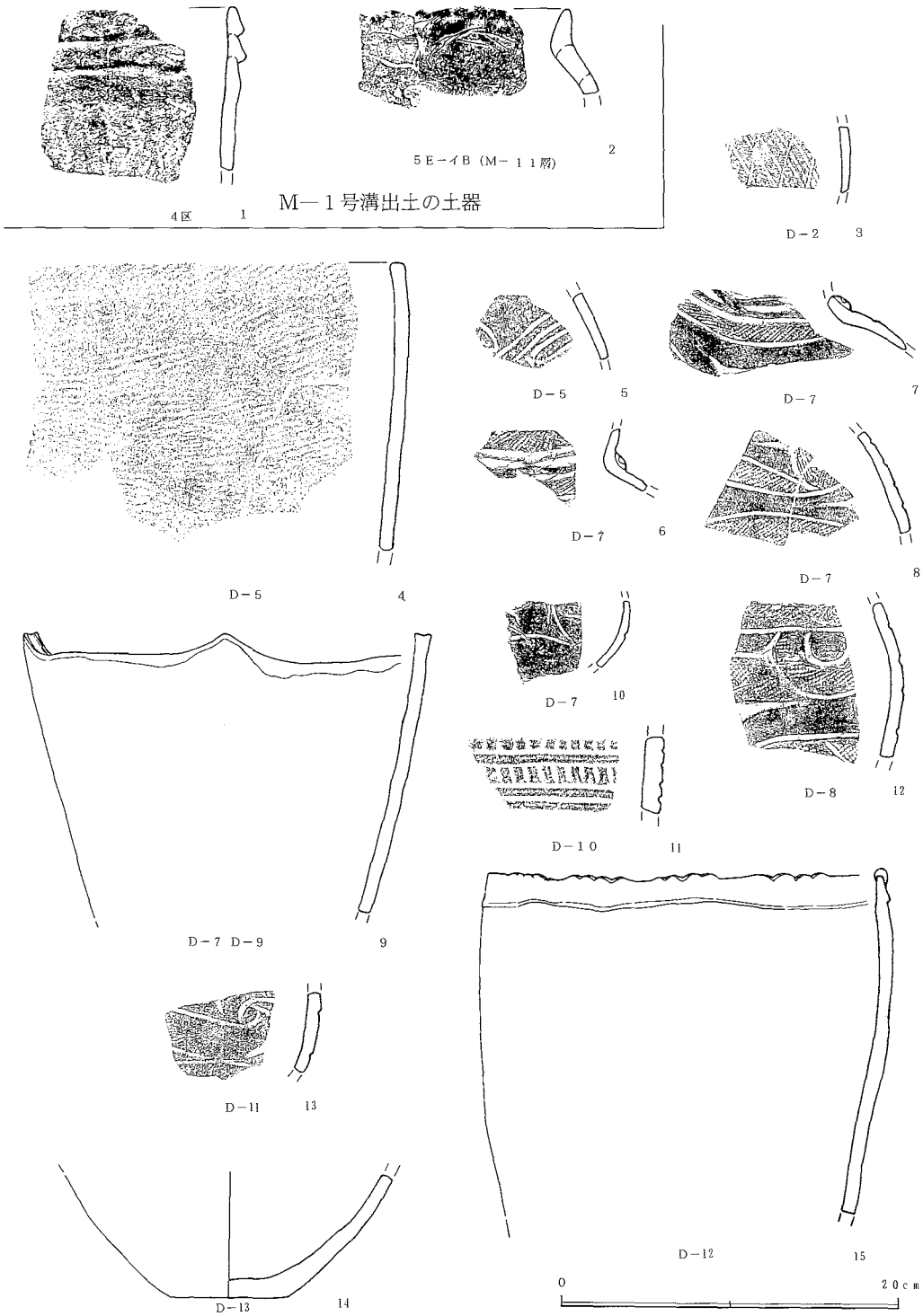
第155図 S-3・S-2号石棒祭祀遺構出土の土器



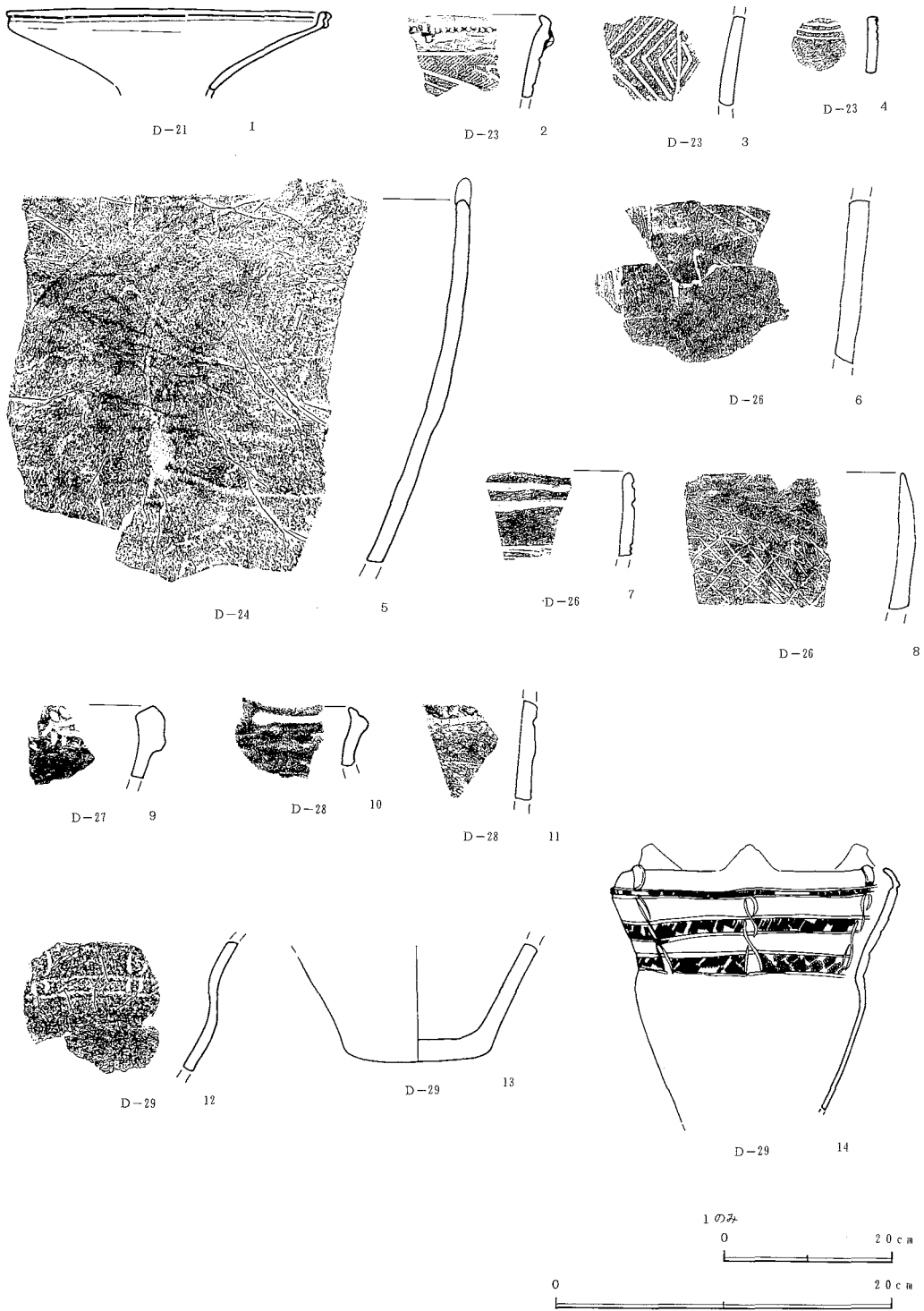
第156図 埋設土器(1)



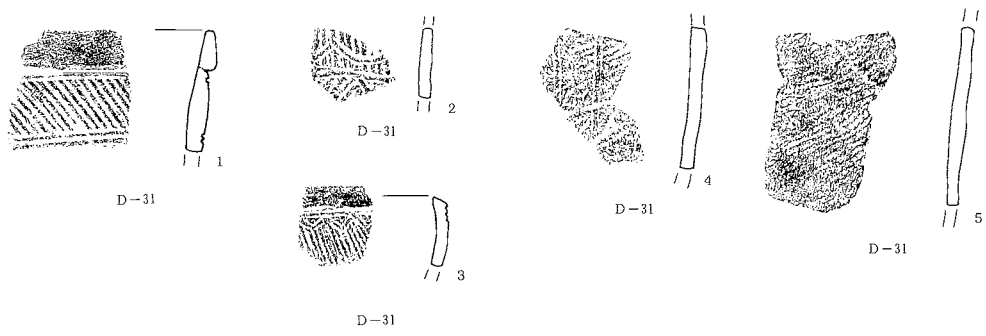
第157図 埋設土器(2)



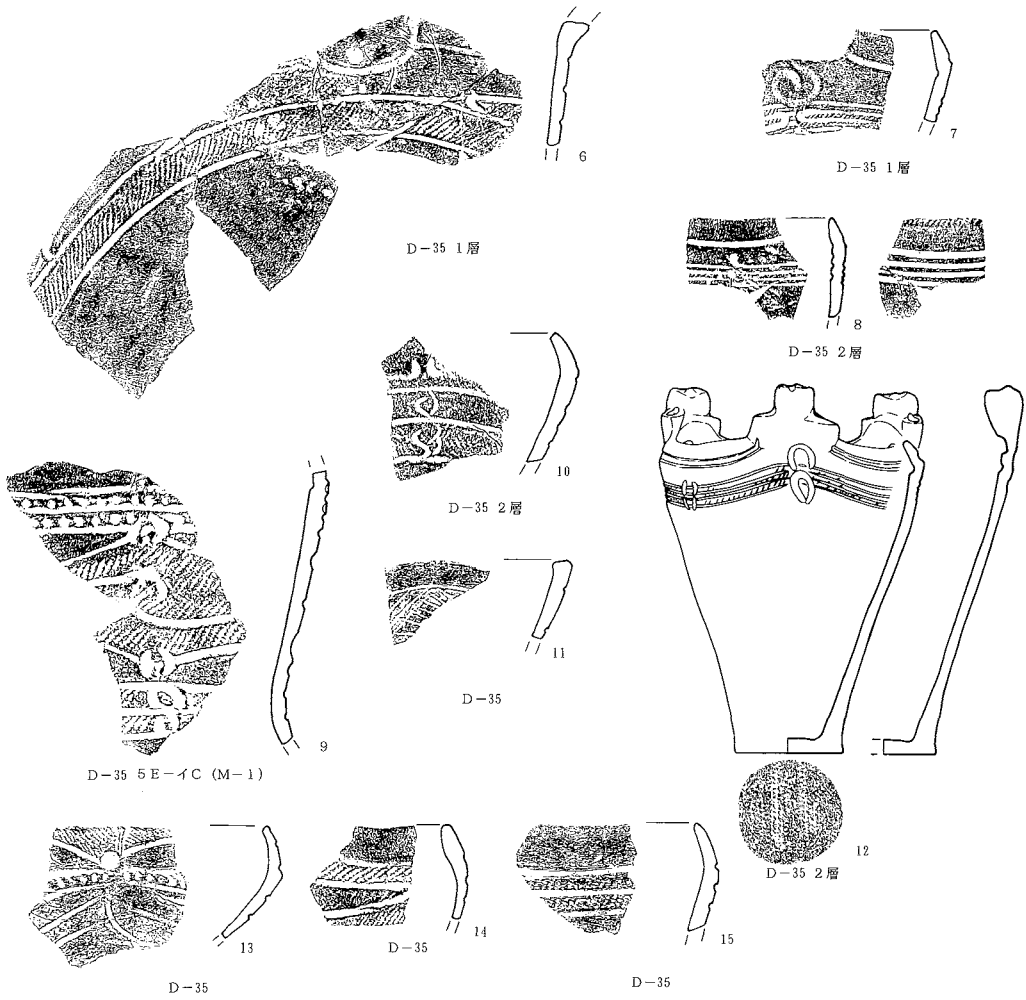
第158図 M-1号溝、土坑出土の土器(1)



第159図 土坑出土の土器(2)

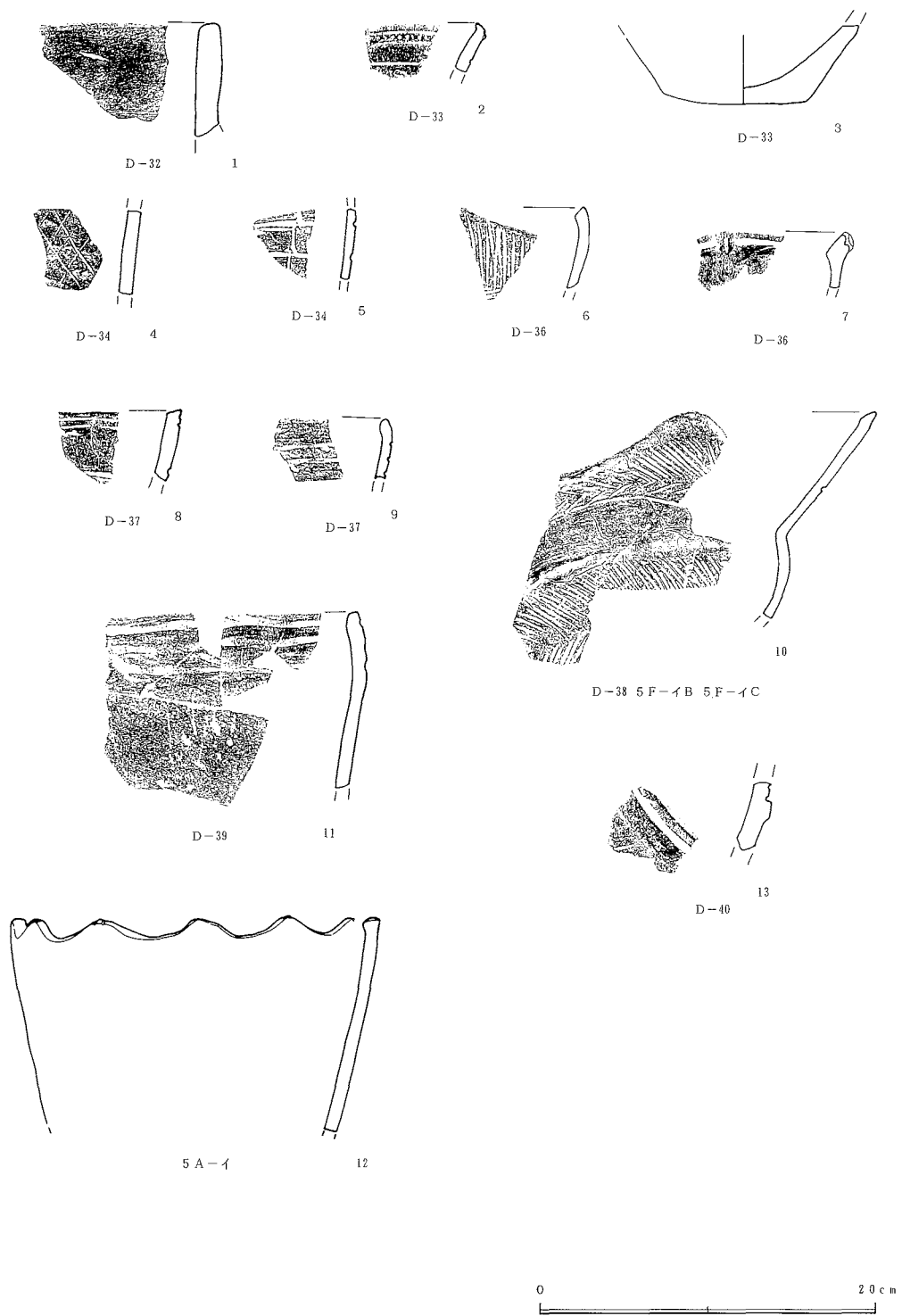


31号土坑出土の土器



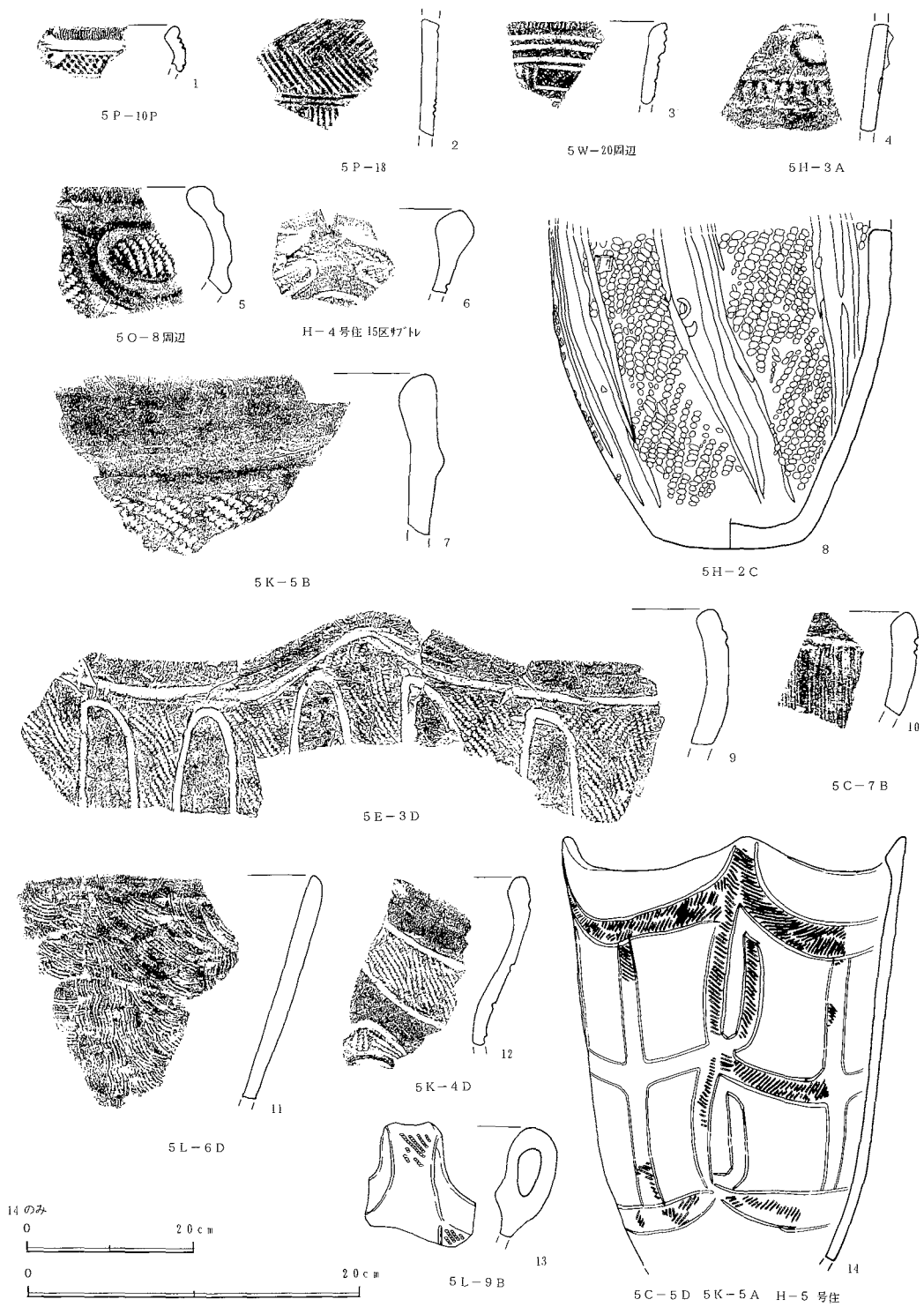
35号土坑出土の土器

第160図 土坑出土の土器(3)

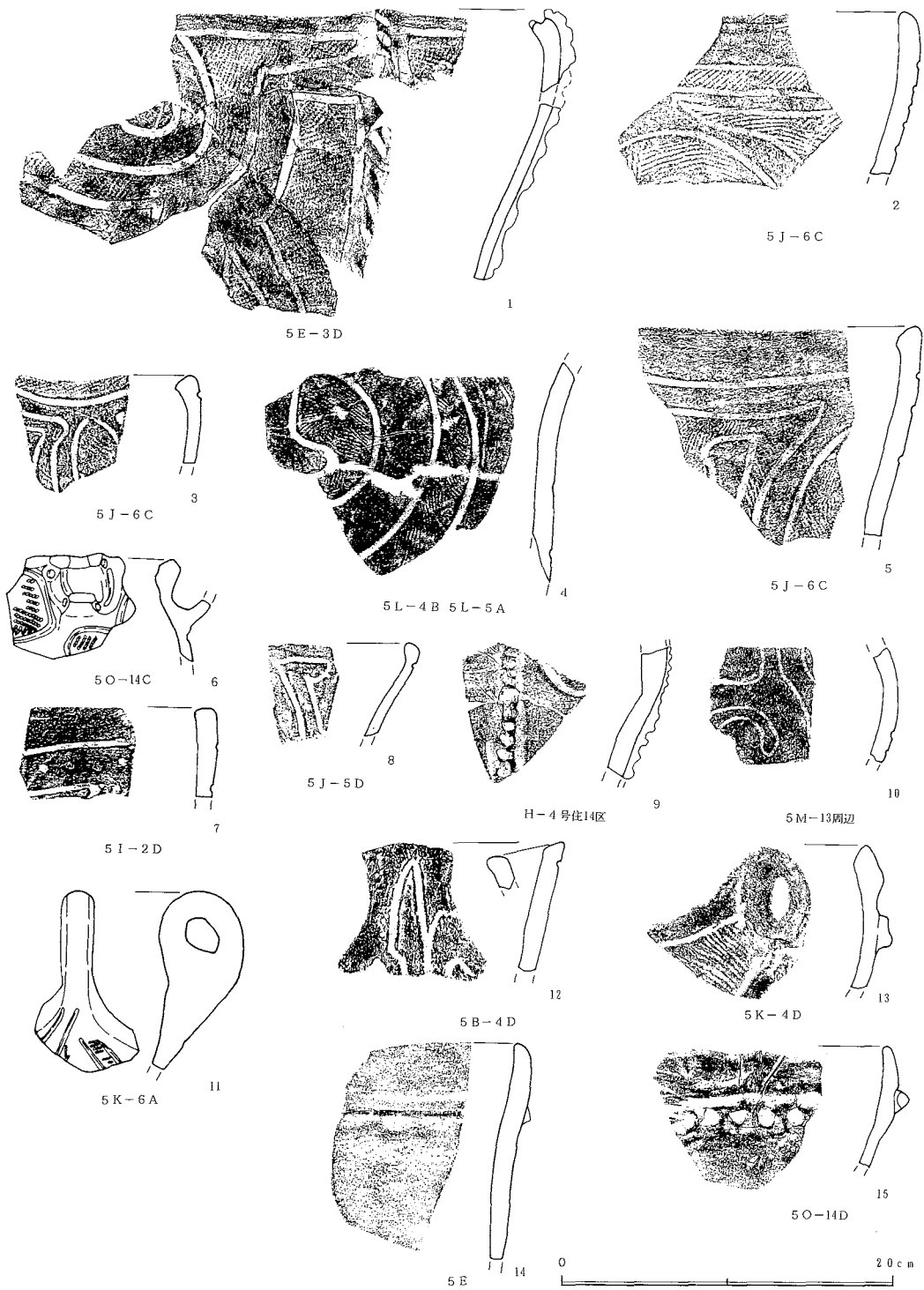


第161図 土坑出土の土器(4)

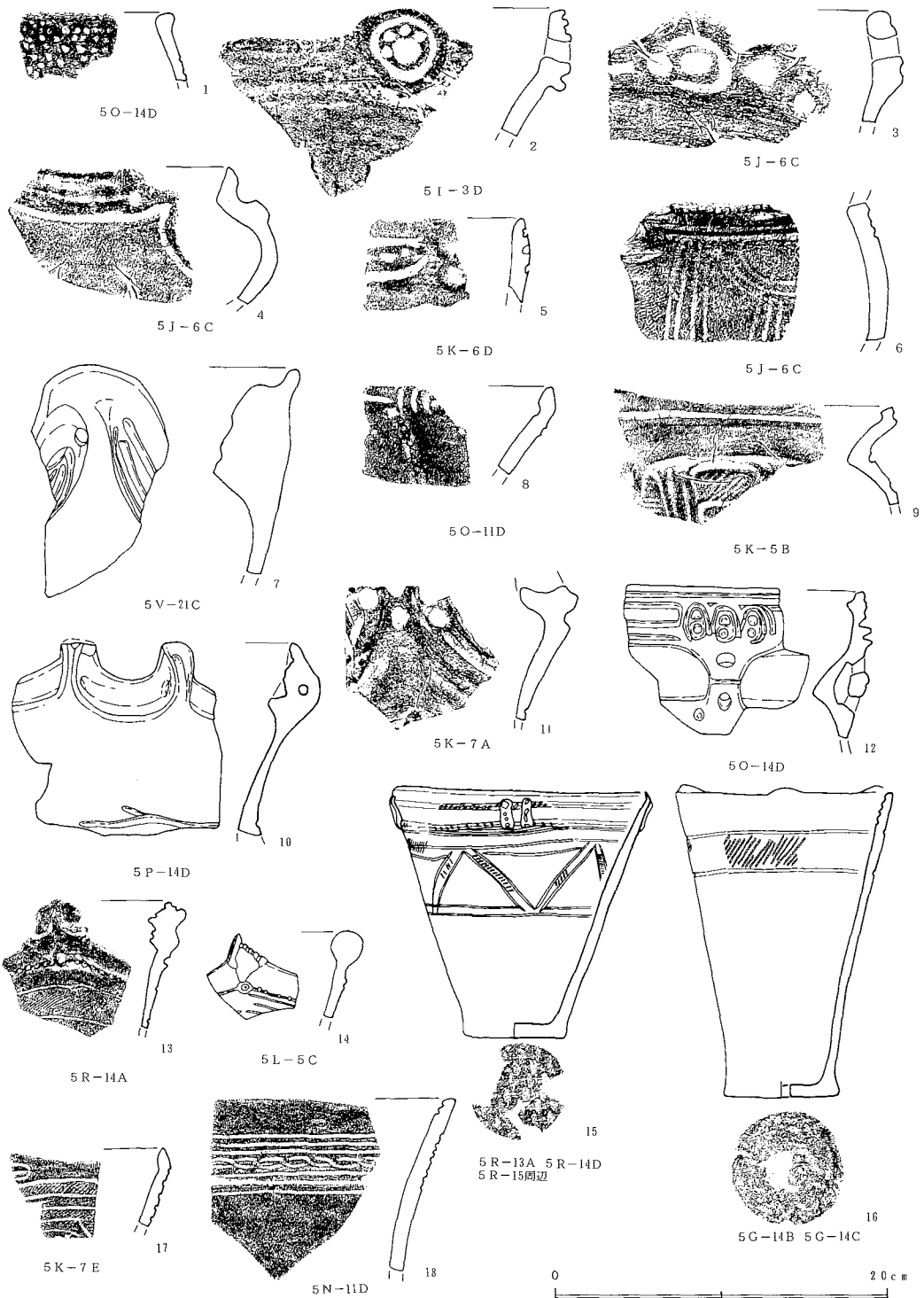




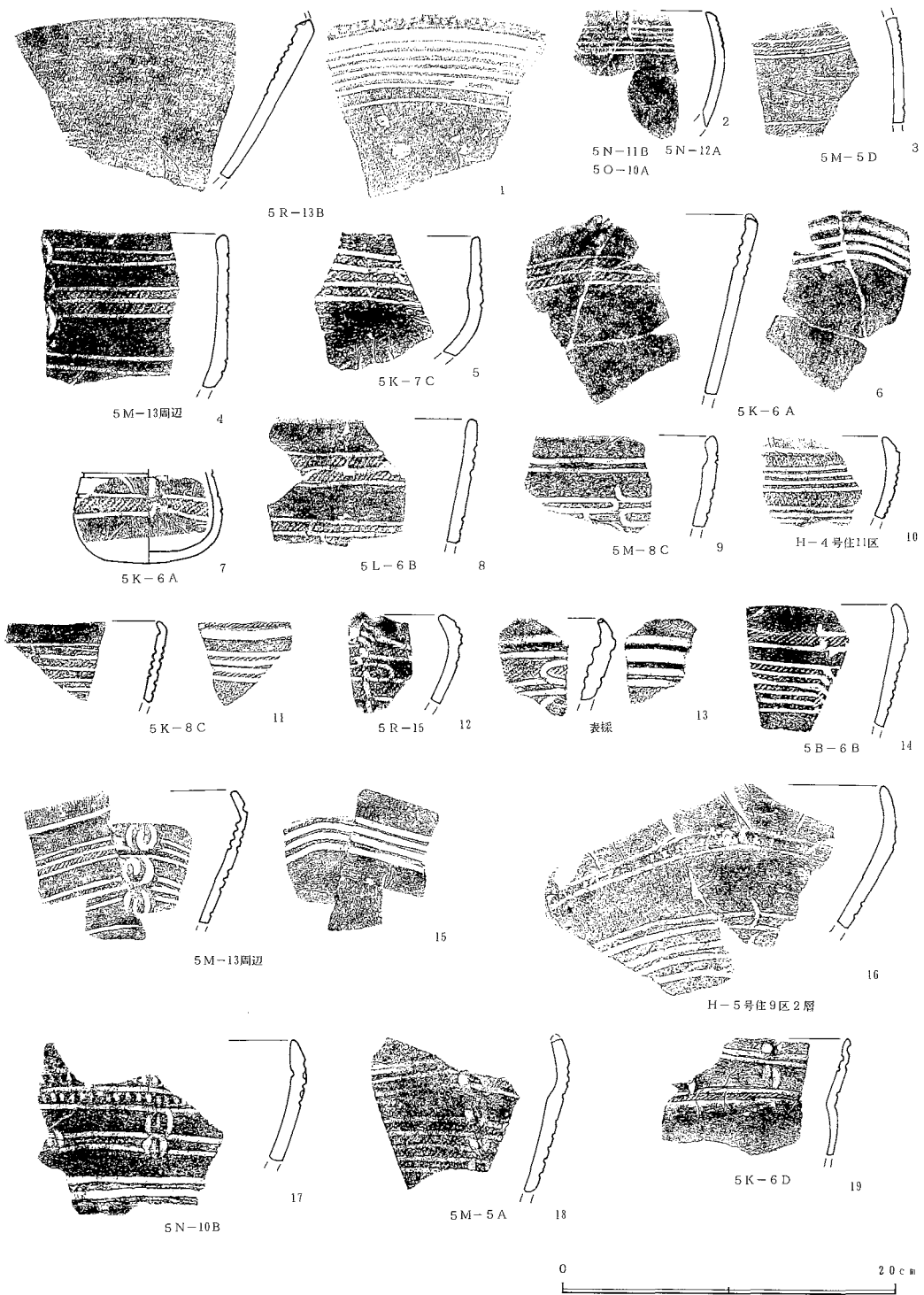
第162図 グリッド出土の土器(1)



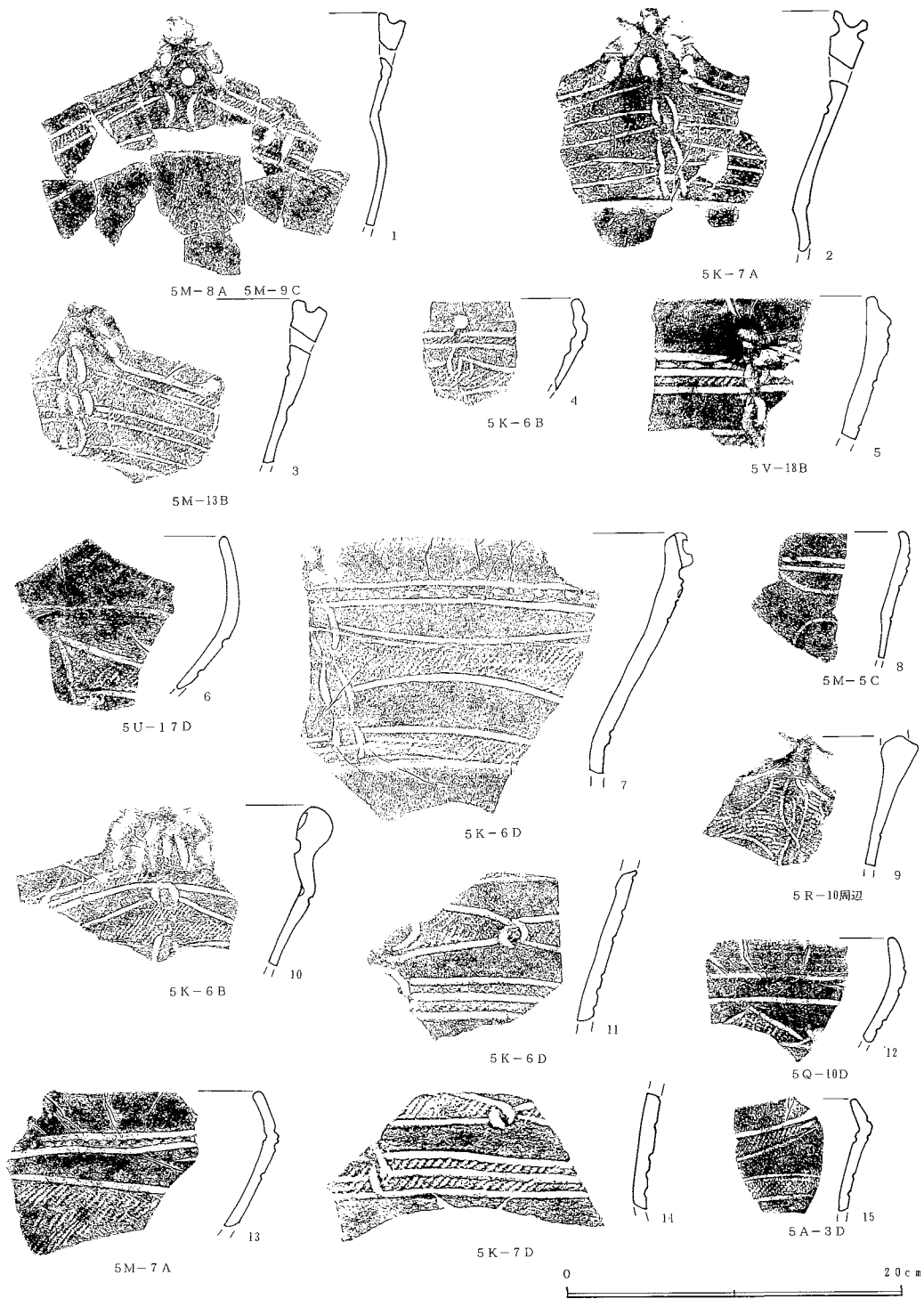
第163図 グリッド出土の土器(2)



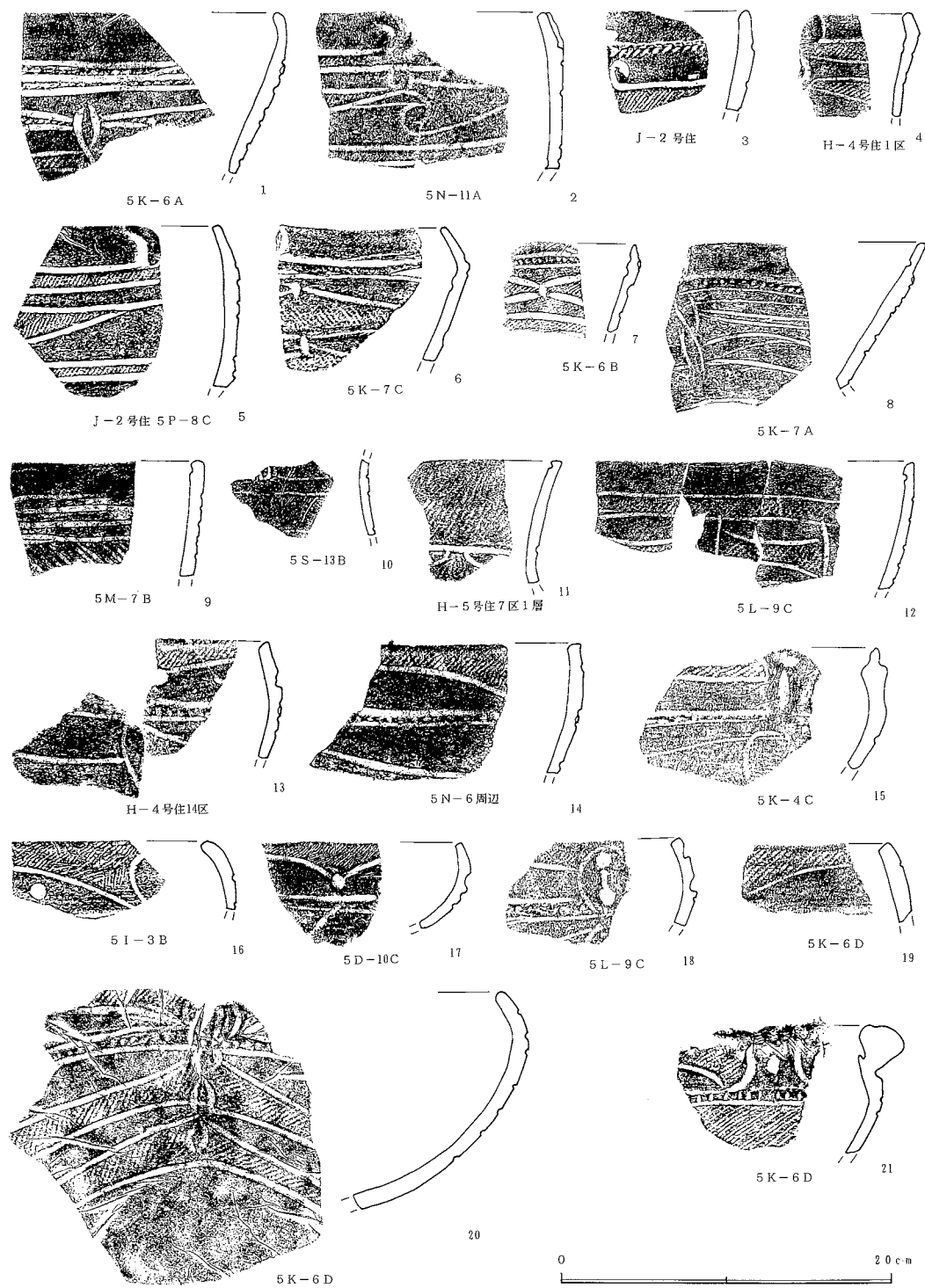
第164図 グリッド出土の土器(3)



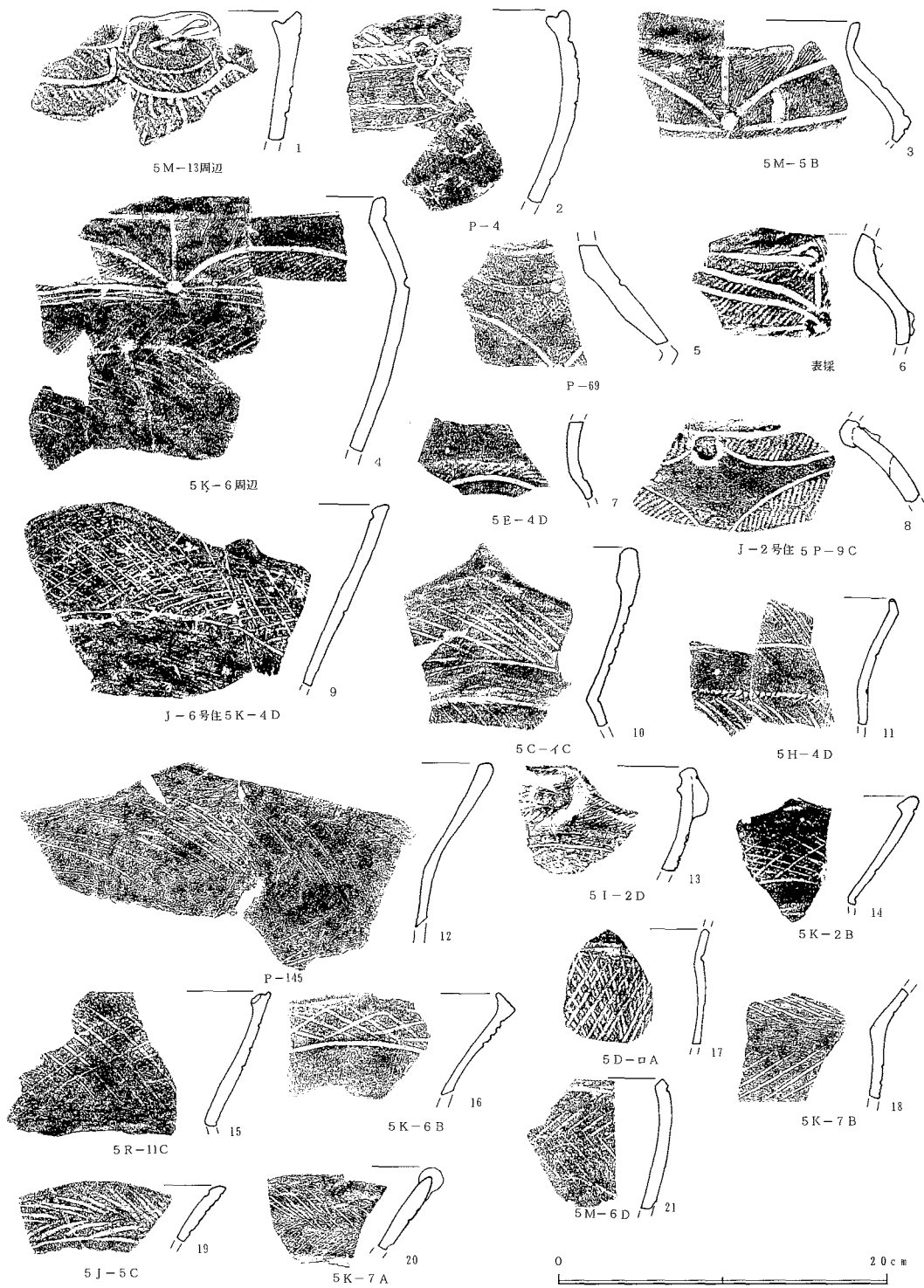
第165図 グリッド出土の土器(4)



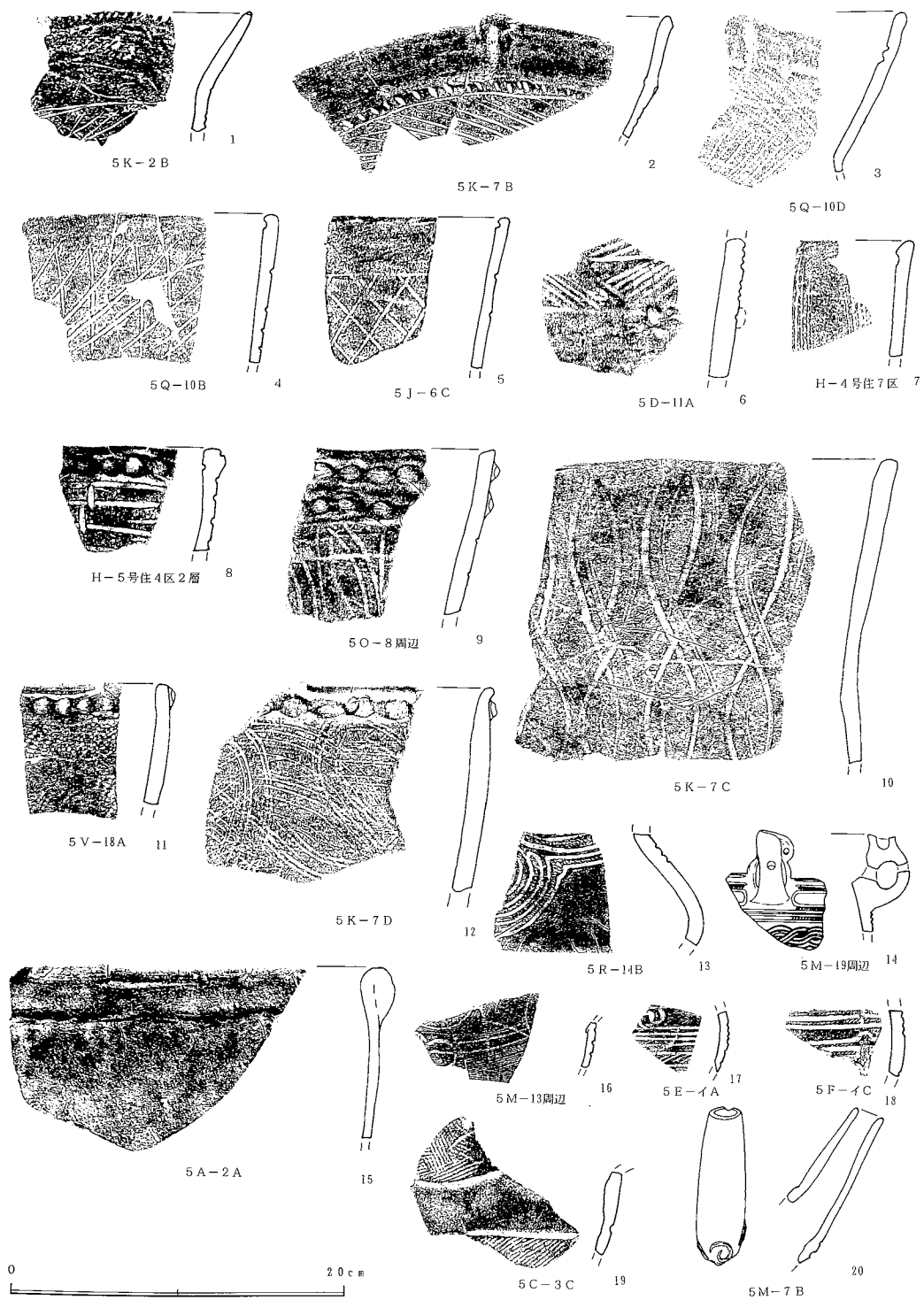
第166図 グリッド出土の土器(5)



第167図 グリッド出土の土器(6)

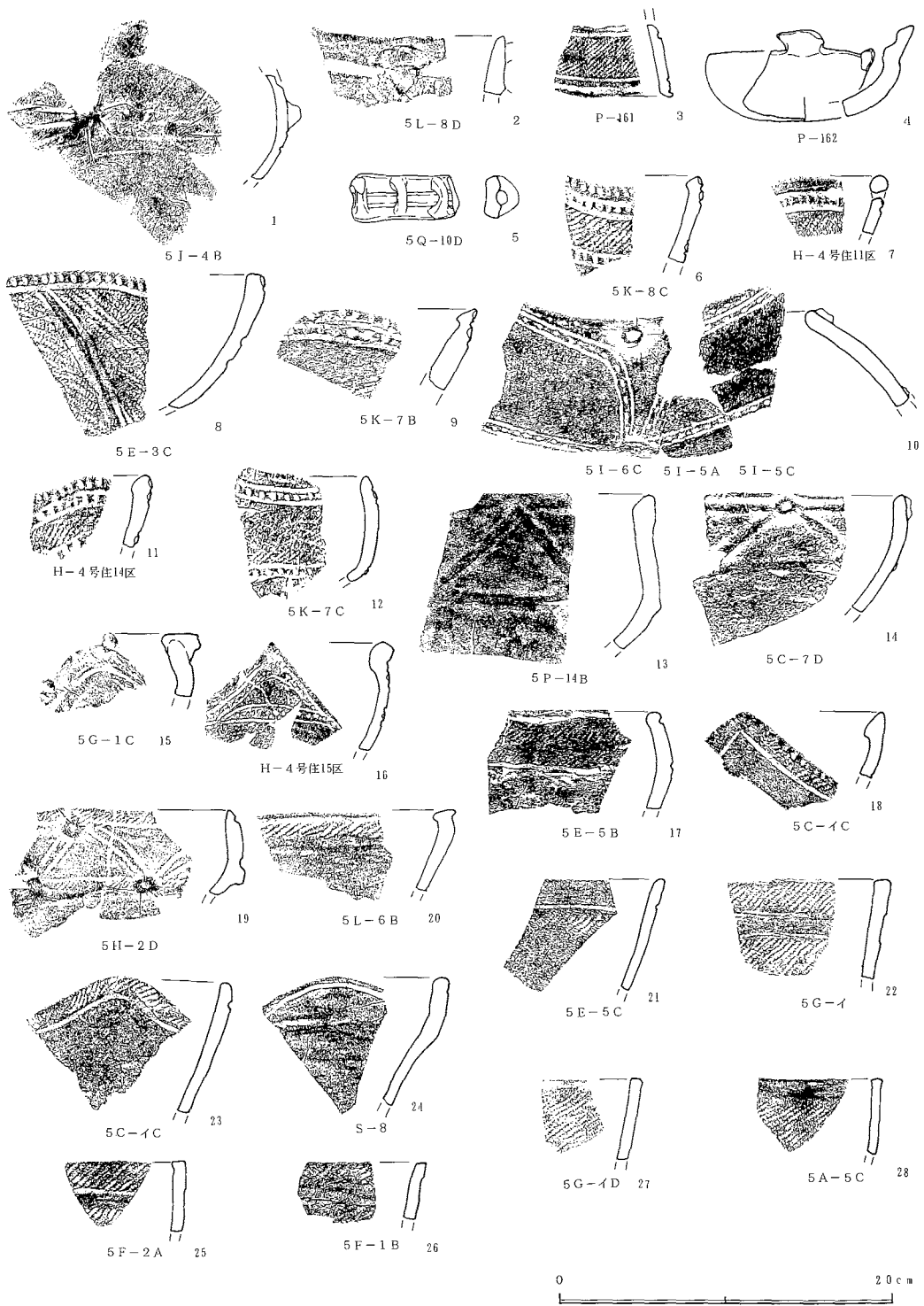


第168図 ピット・グリッド出土の土器(7)

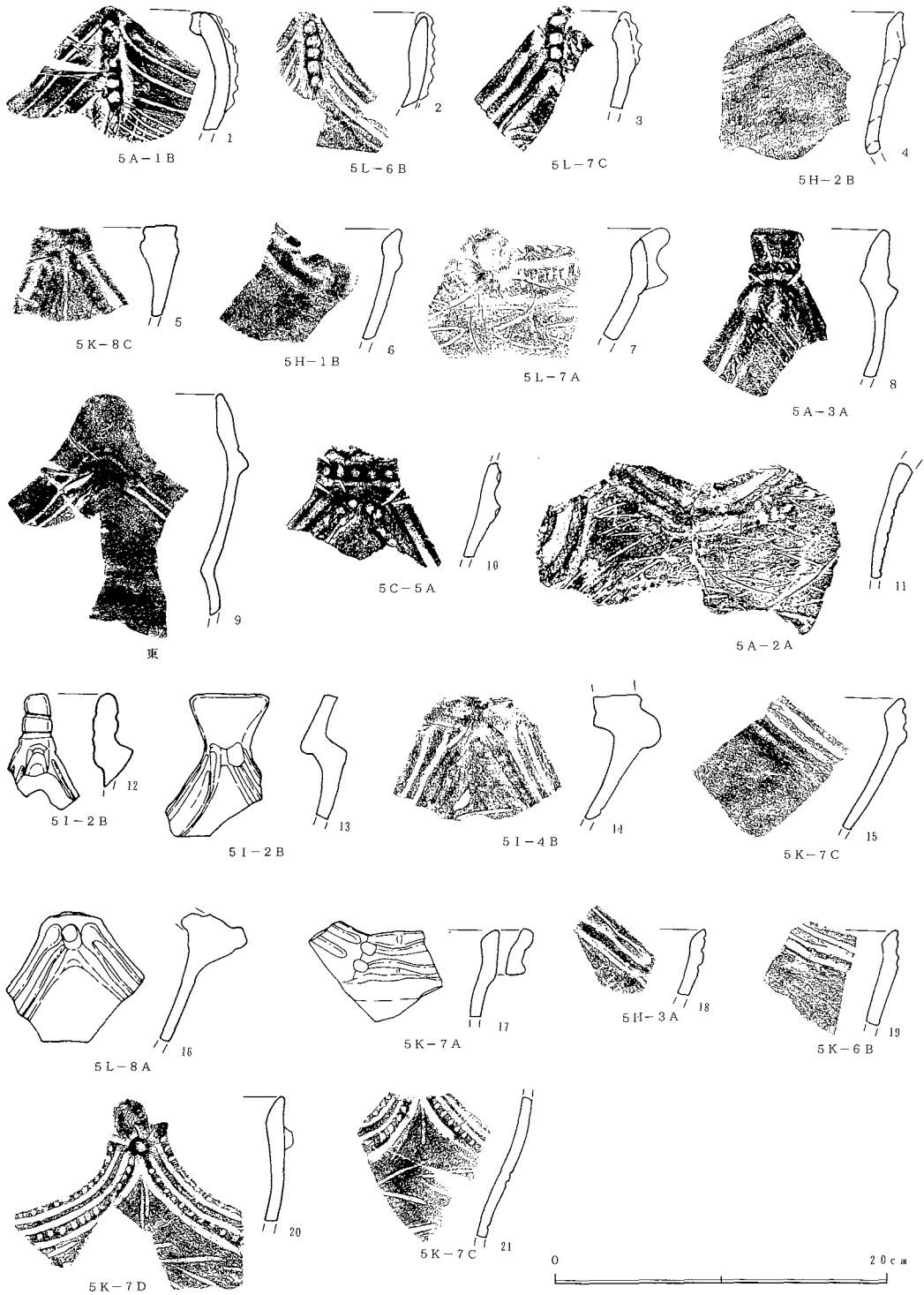


第169図 グリッド出土の土器(8)

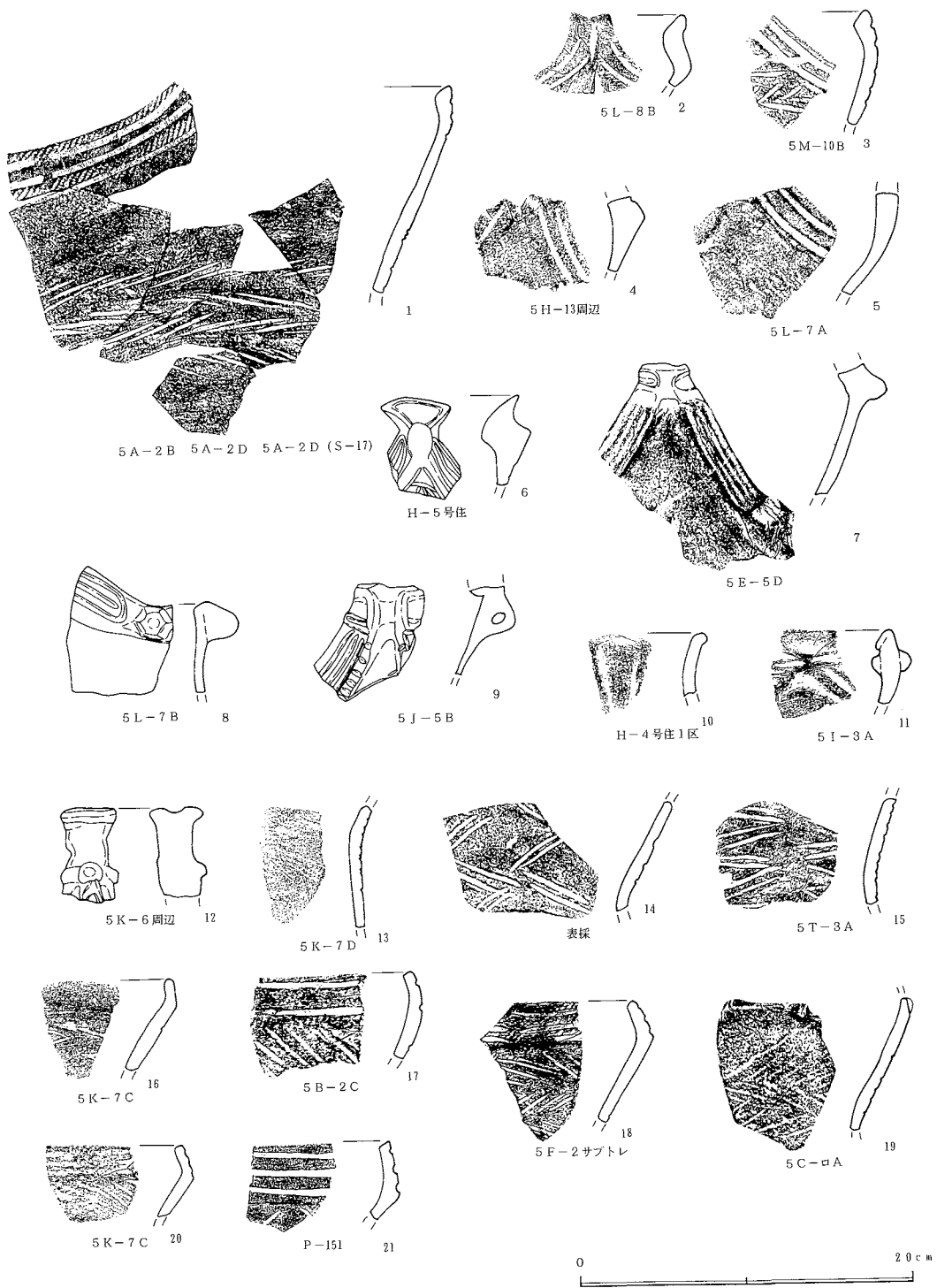




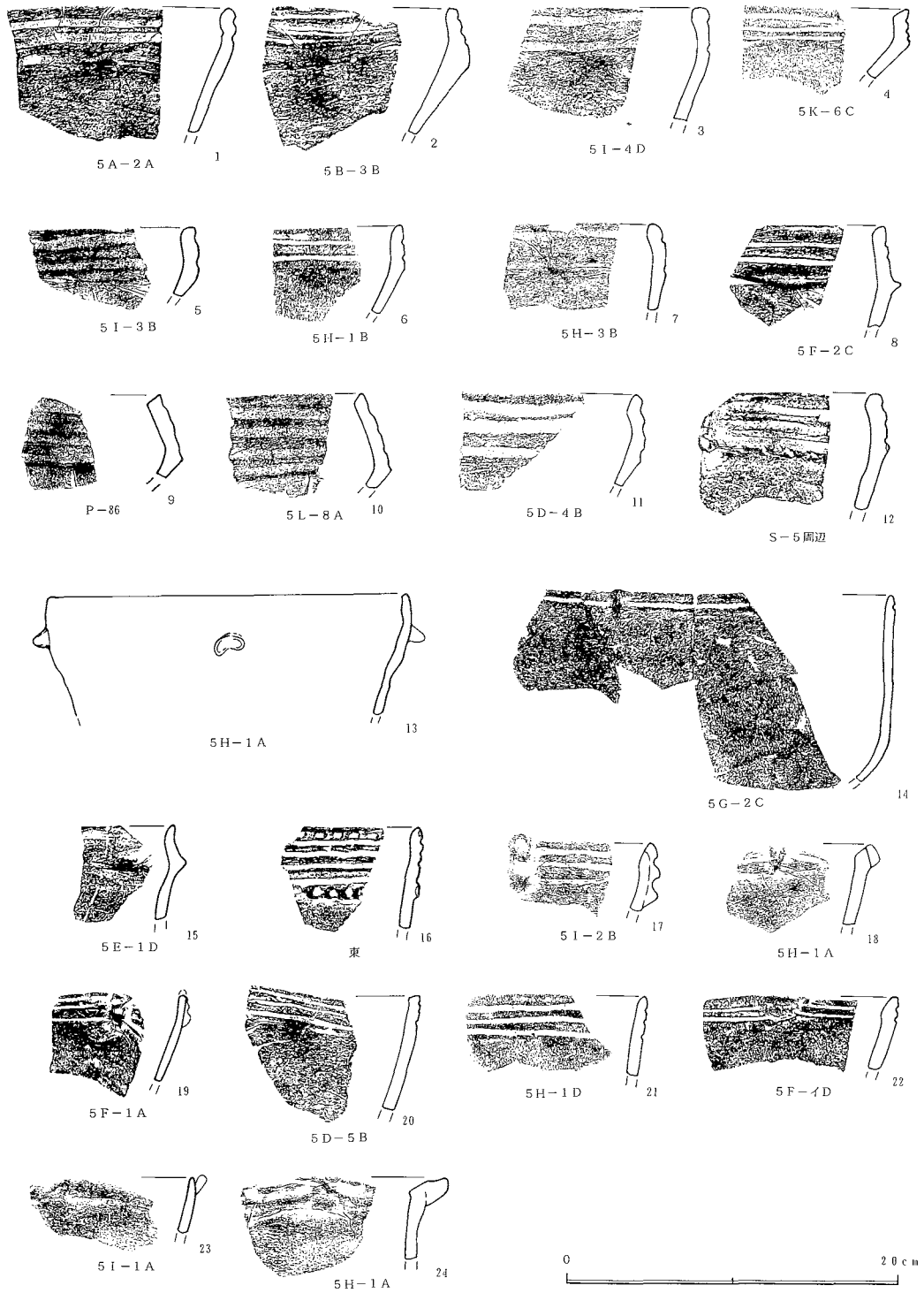
第170図 ピット・グリッド出土の土器(9)



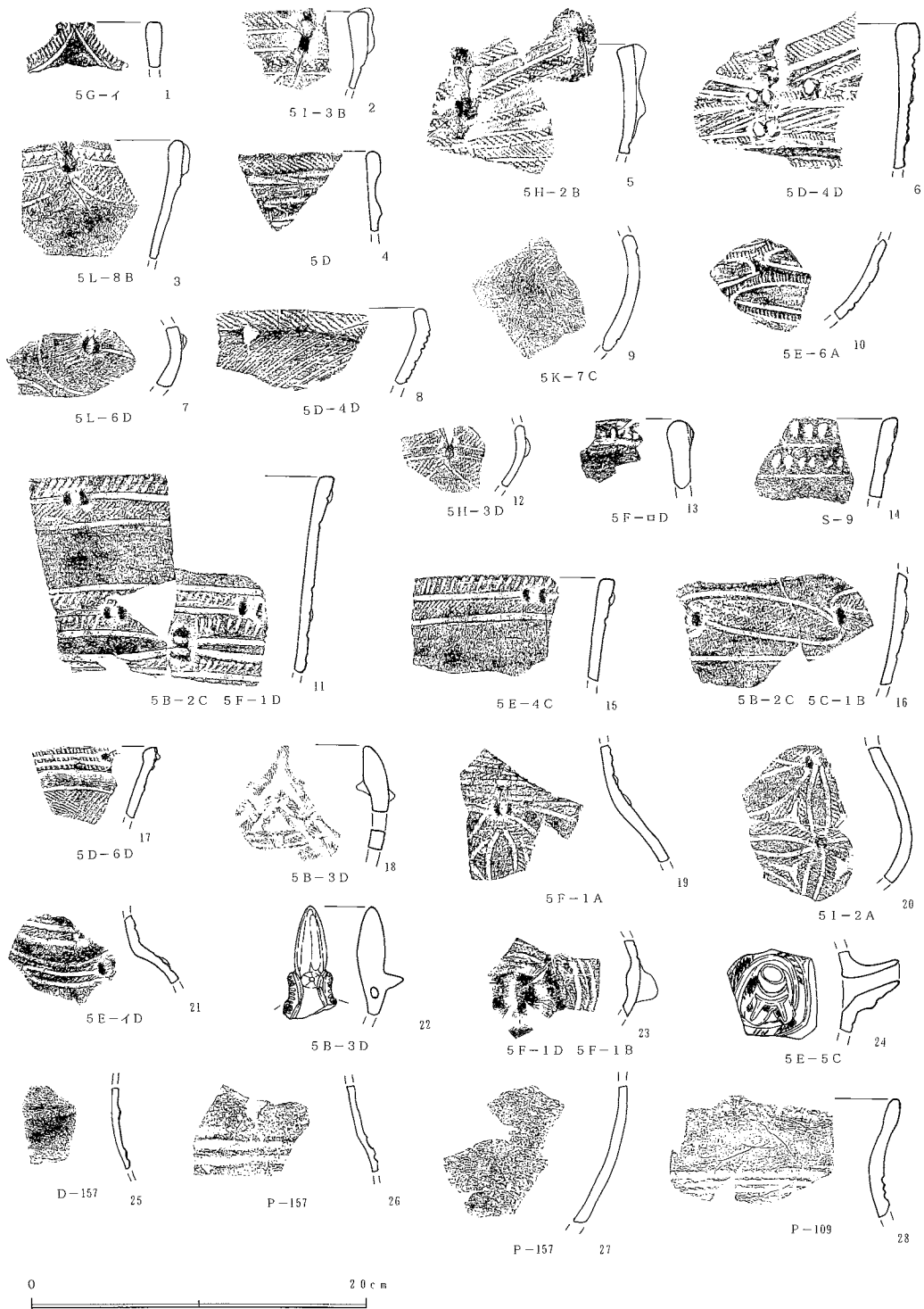
第171図 グリッド出土の土器(10)



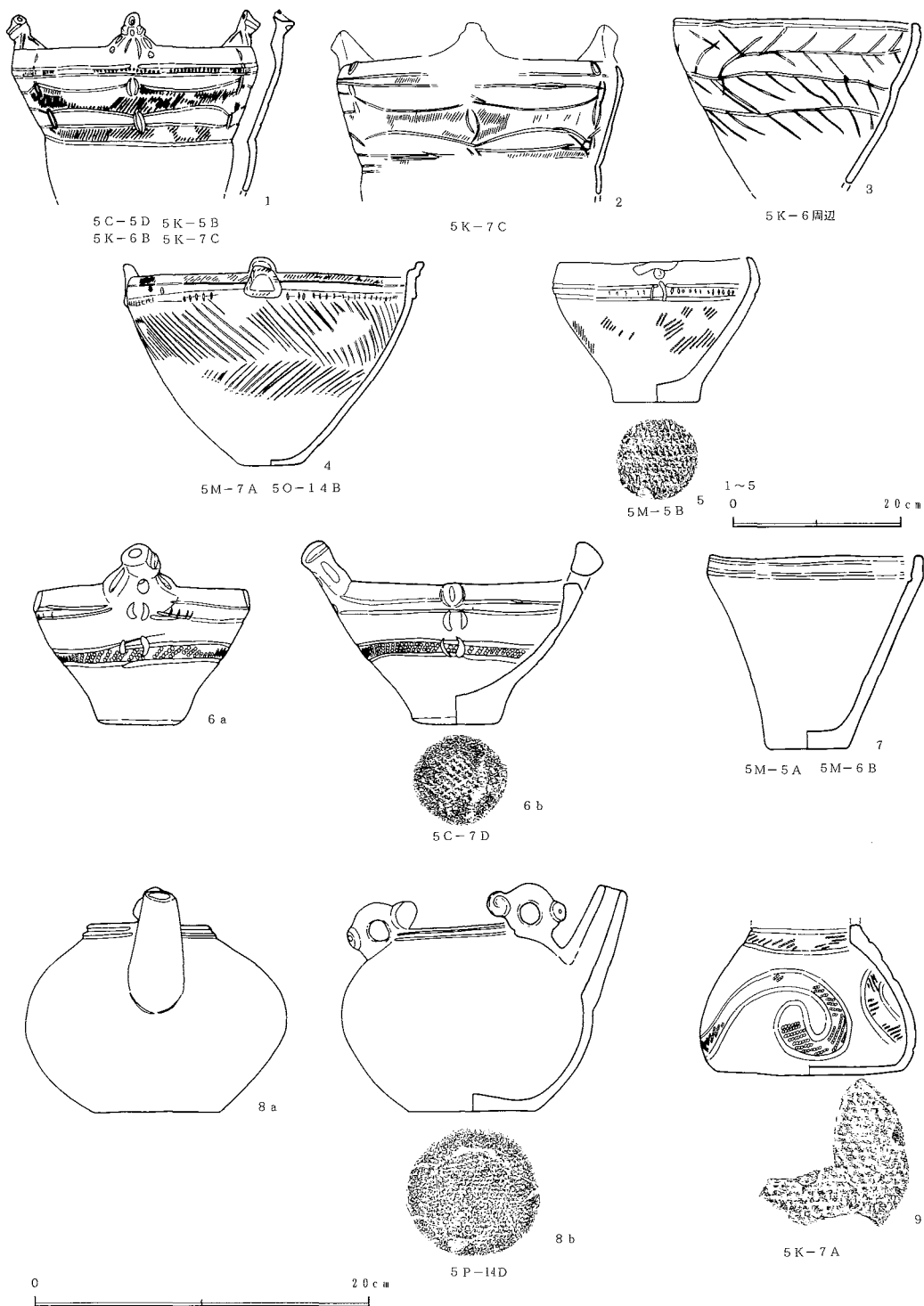
第172図 ピット・グリッド出土の土器(II)



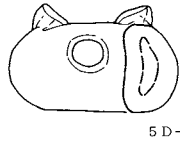
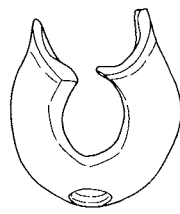
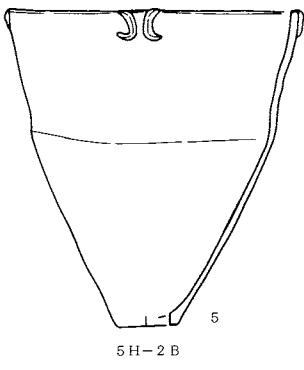
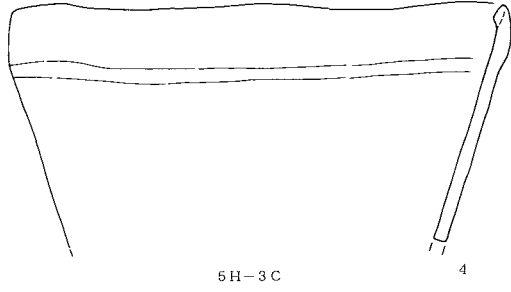
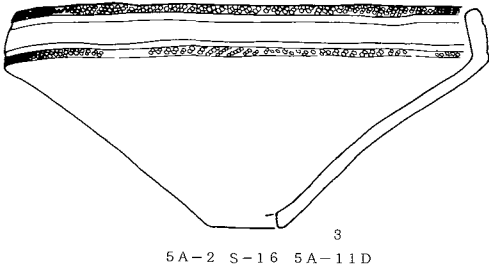
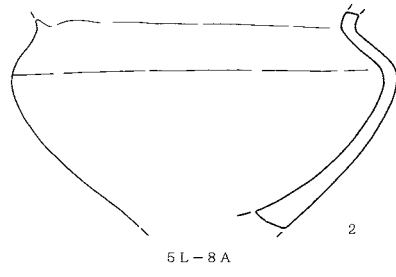
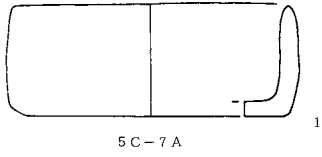
第173図 ピット・グリッド出土の土器(12)



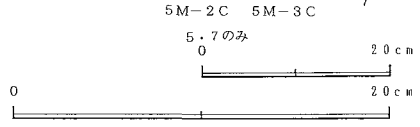
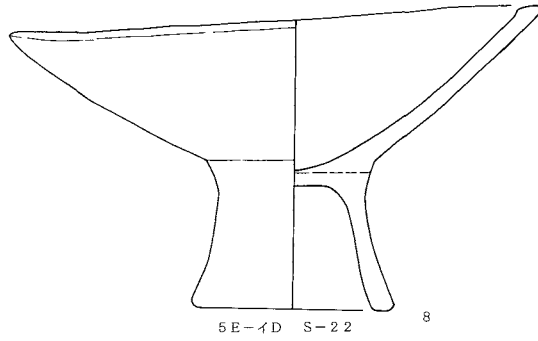
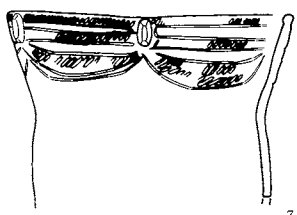
第174図 ピット・グリッド出土の土器(13)



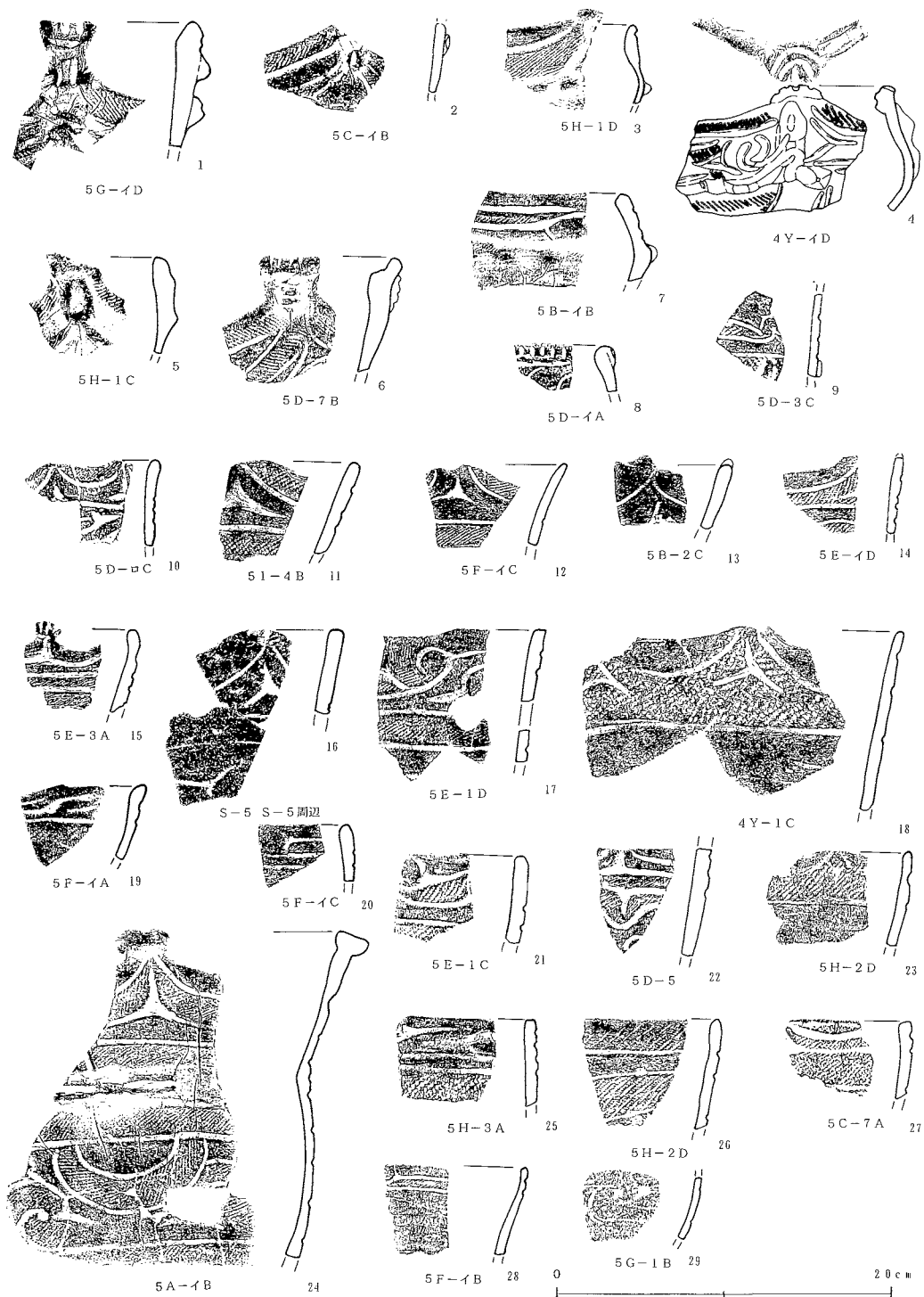
第175図 グリッド出土の土器(14)



5D-4A 5D-5C 6

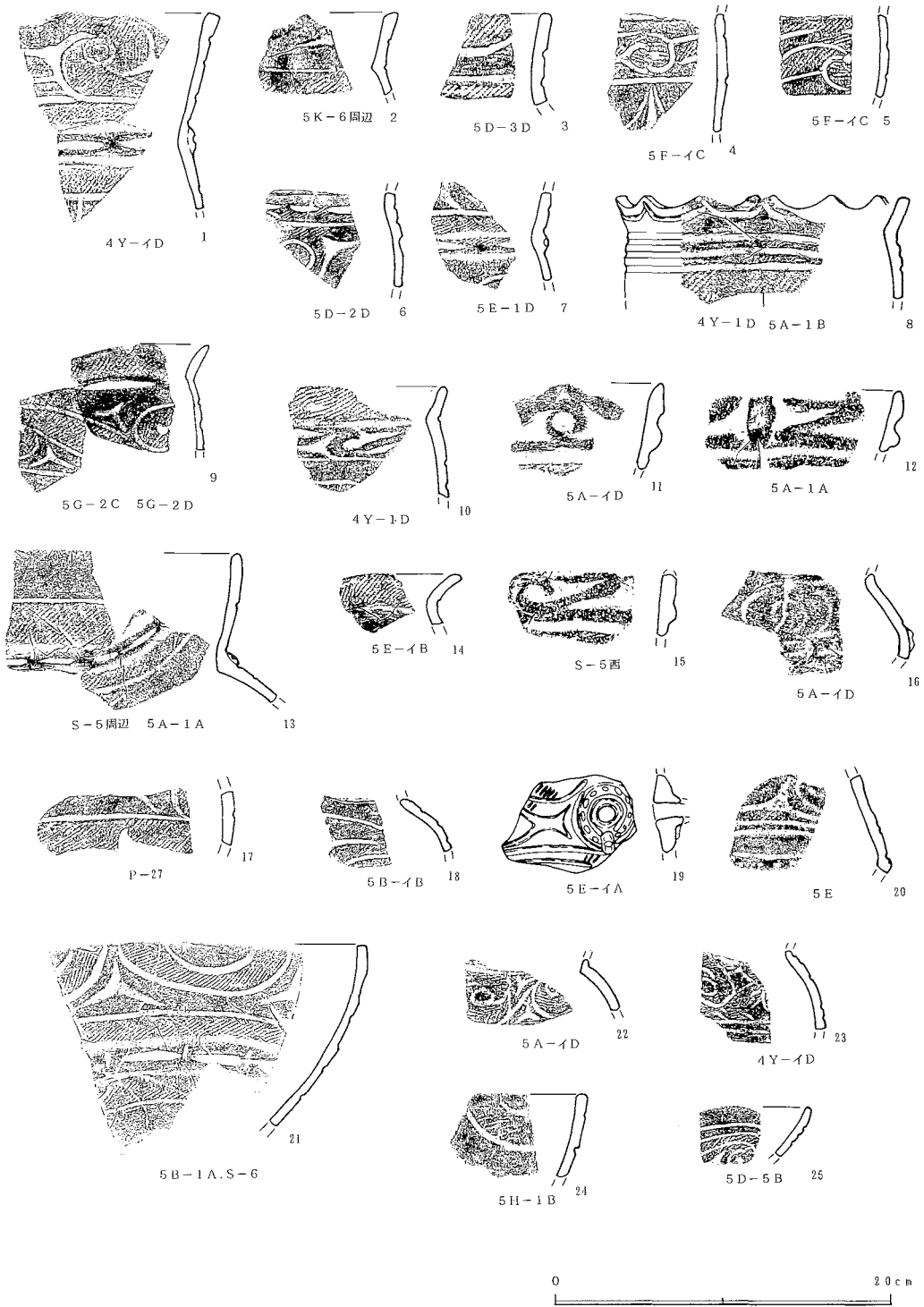


第176図 グリッド出土の土器(15)

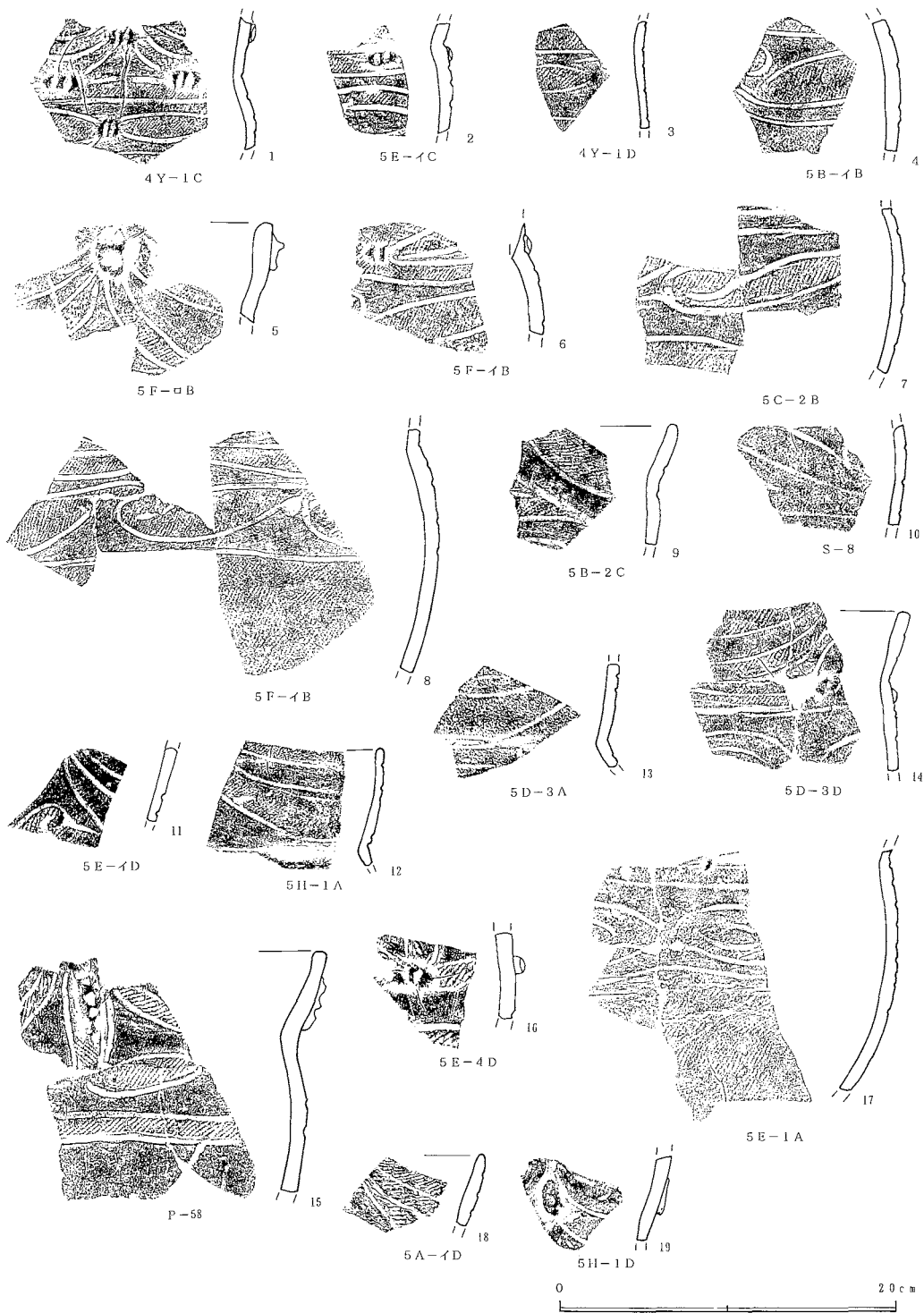


第177図 グリッド出土の土器(16)

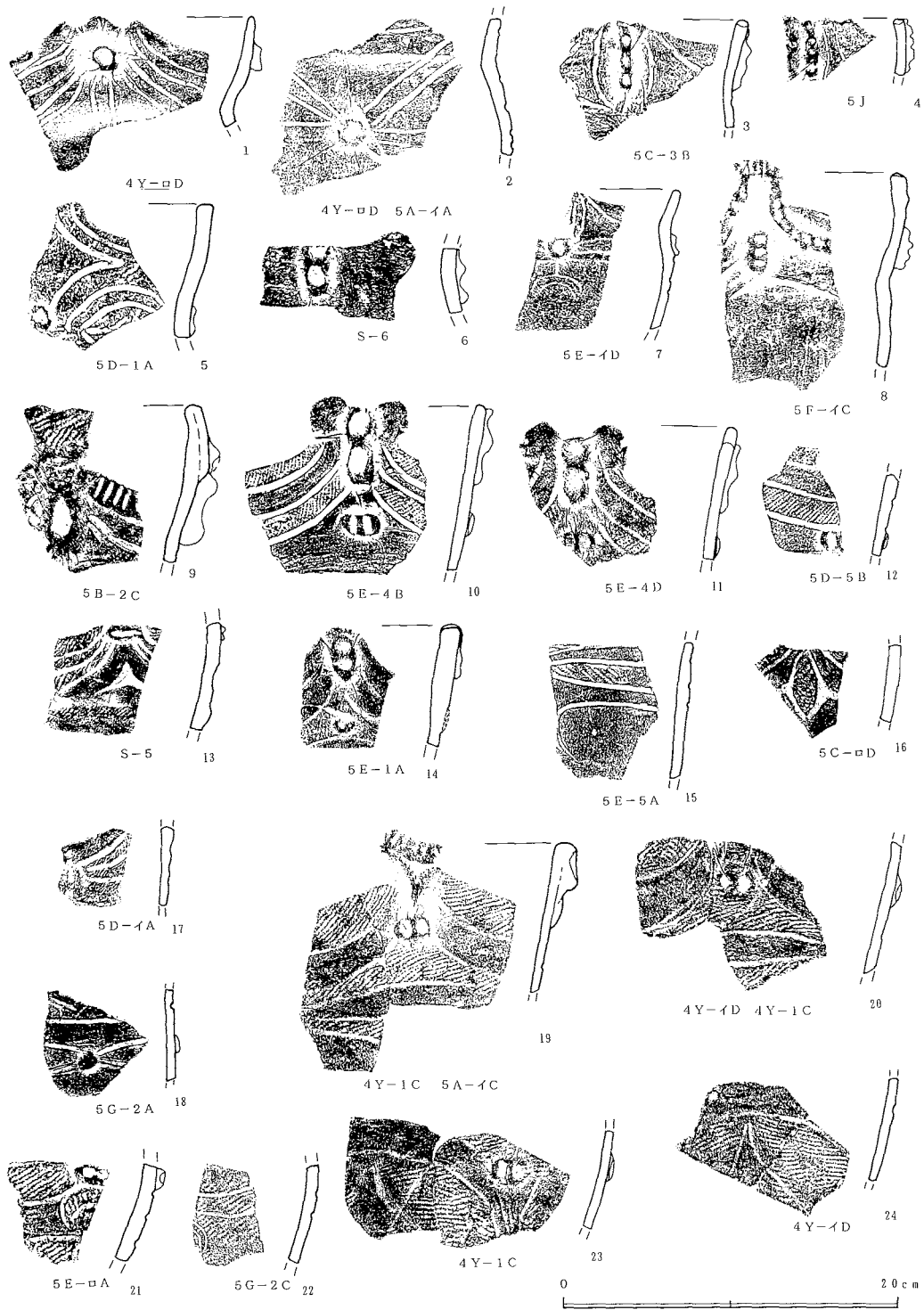




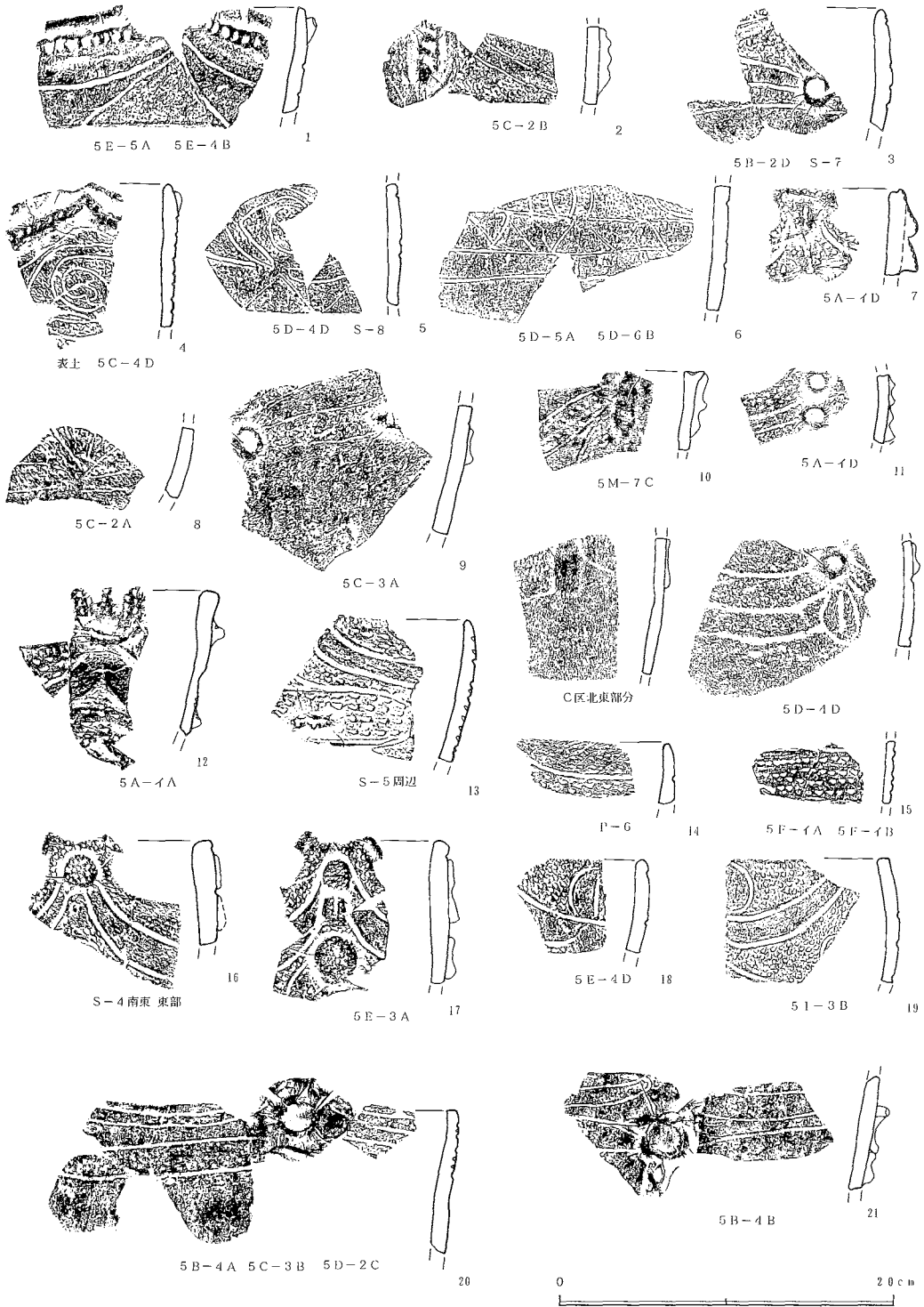
第178図 ピット・グリッド出土の土器(17)



第179図 ピット・グリッド出土の土器(18)



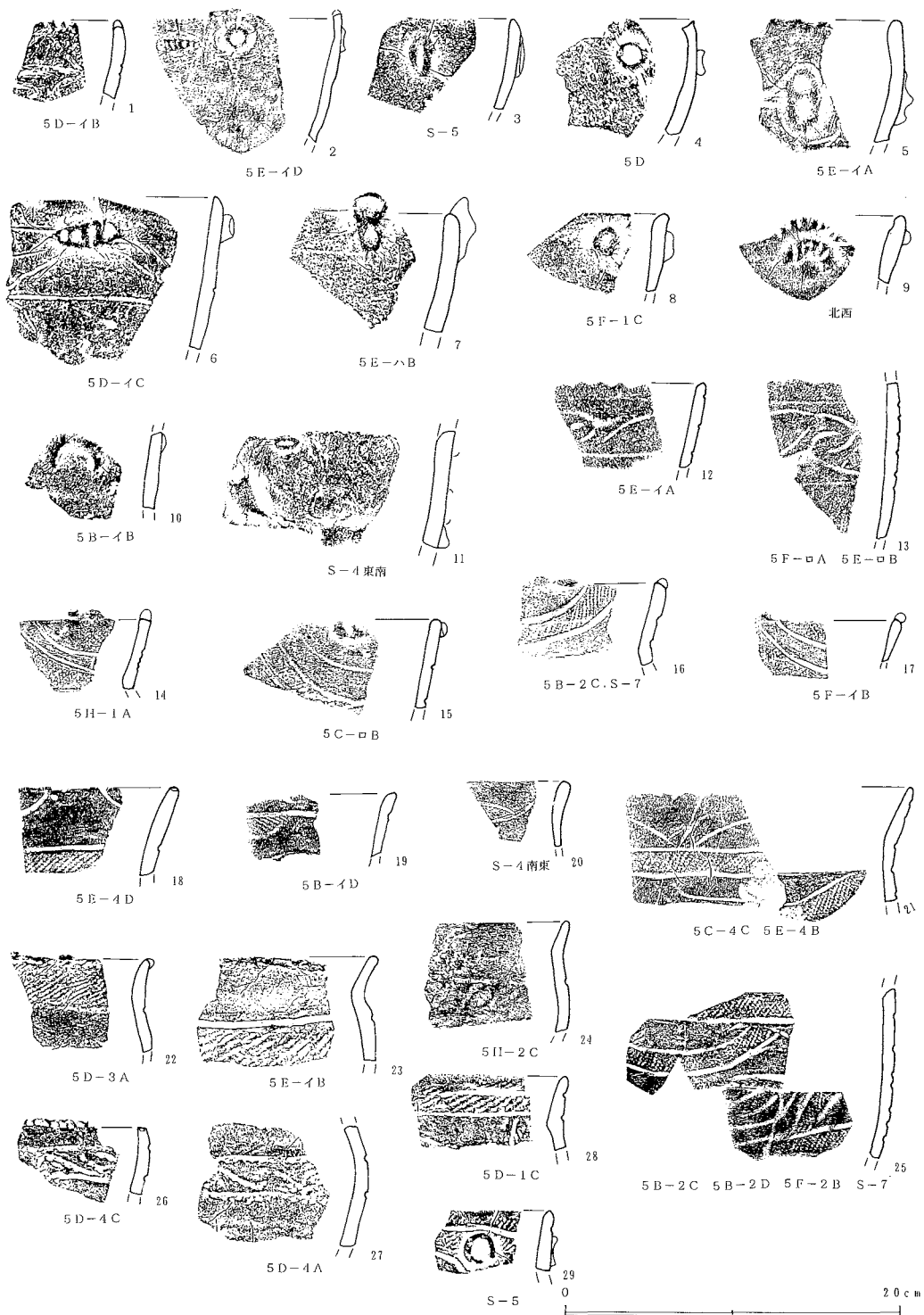
第180図 グリッド出土の土器(19)



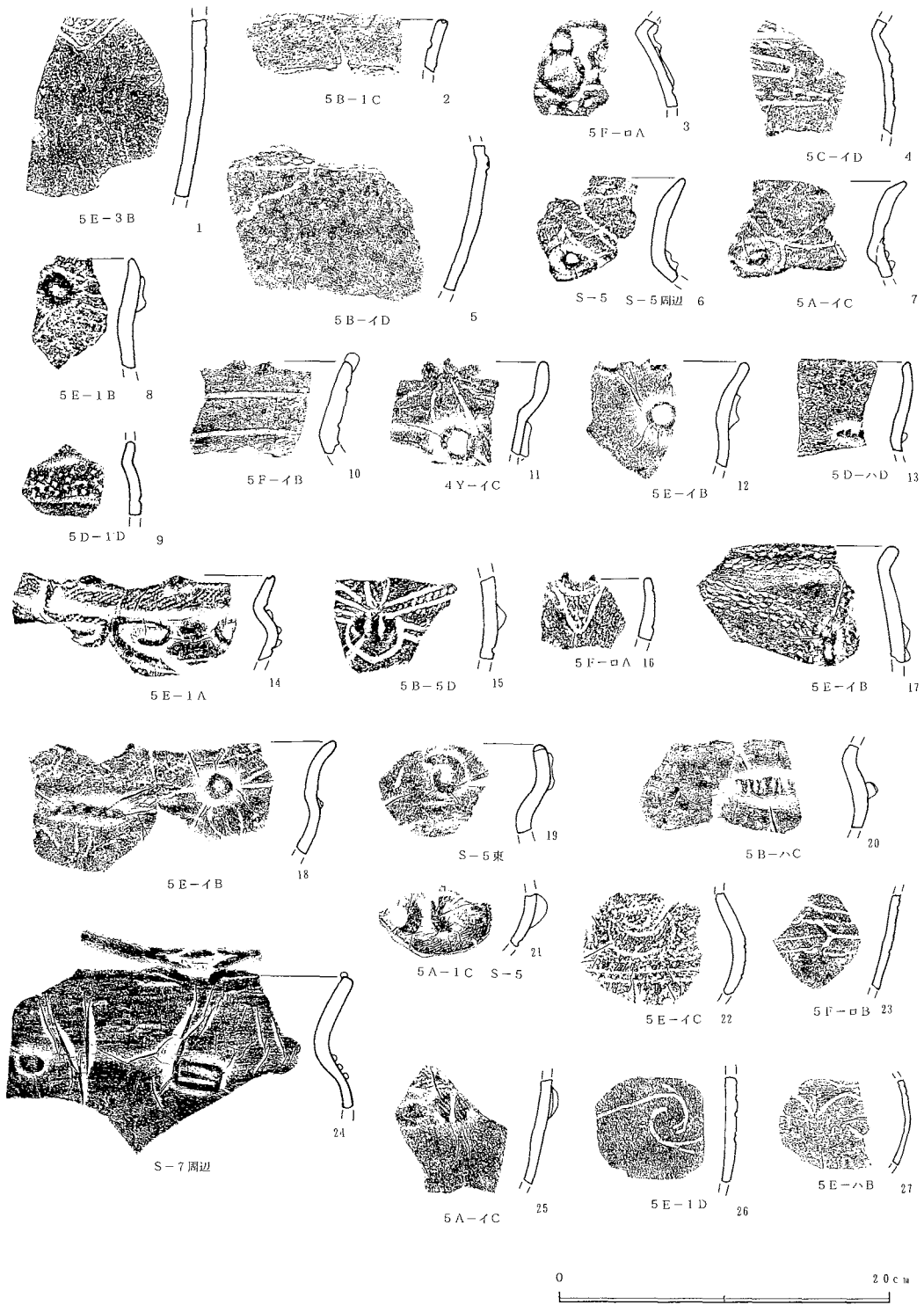
第181図 ピット・グリッド出土の土器(20)



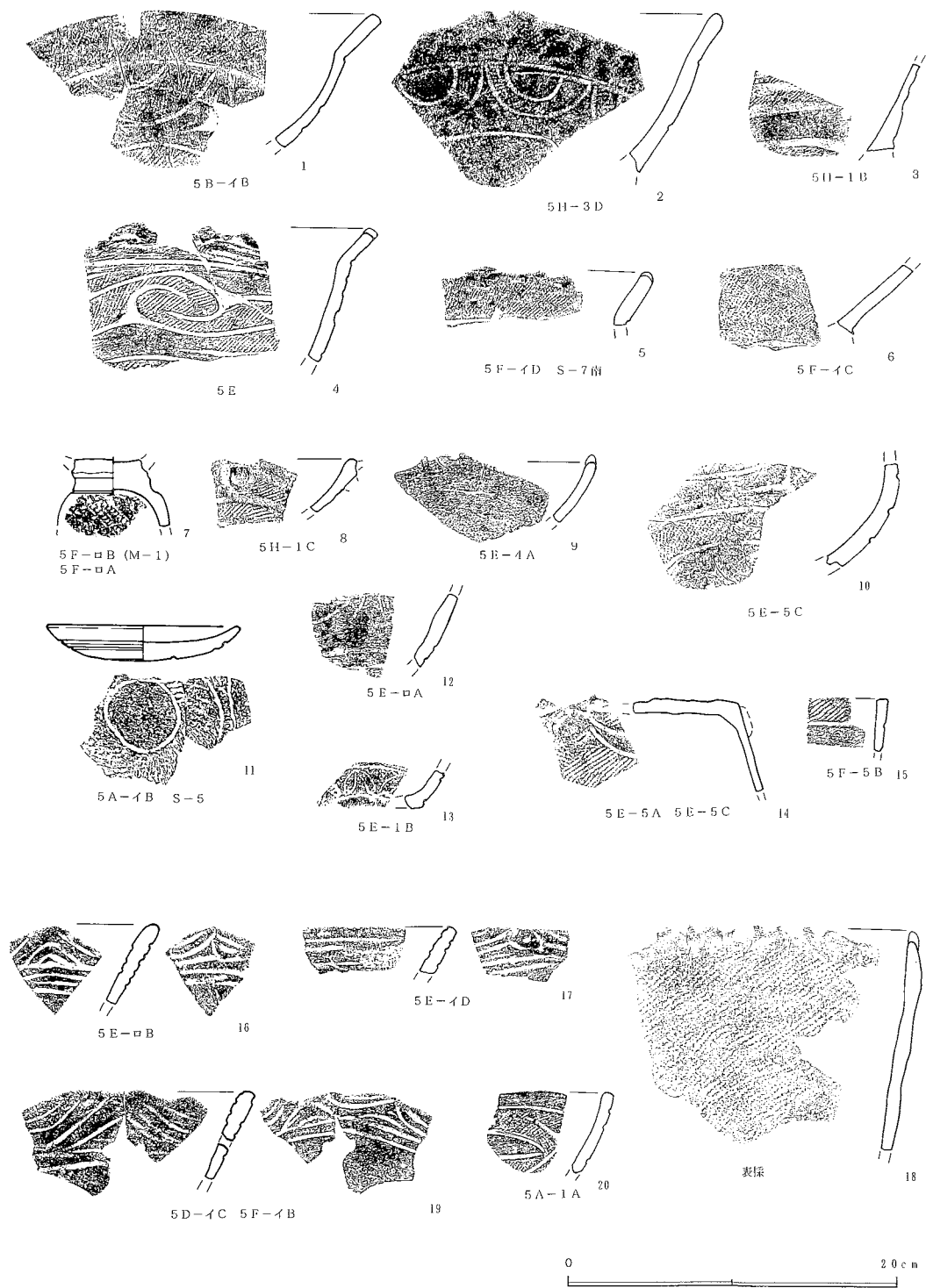
第182図 グリッド出土の土器(2)



第183図 グリッド出土の土器(2)

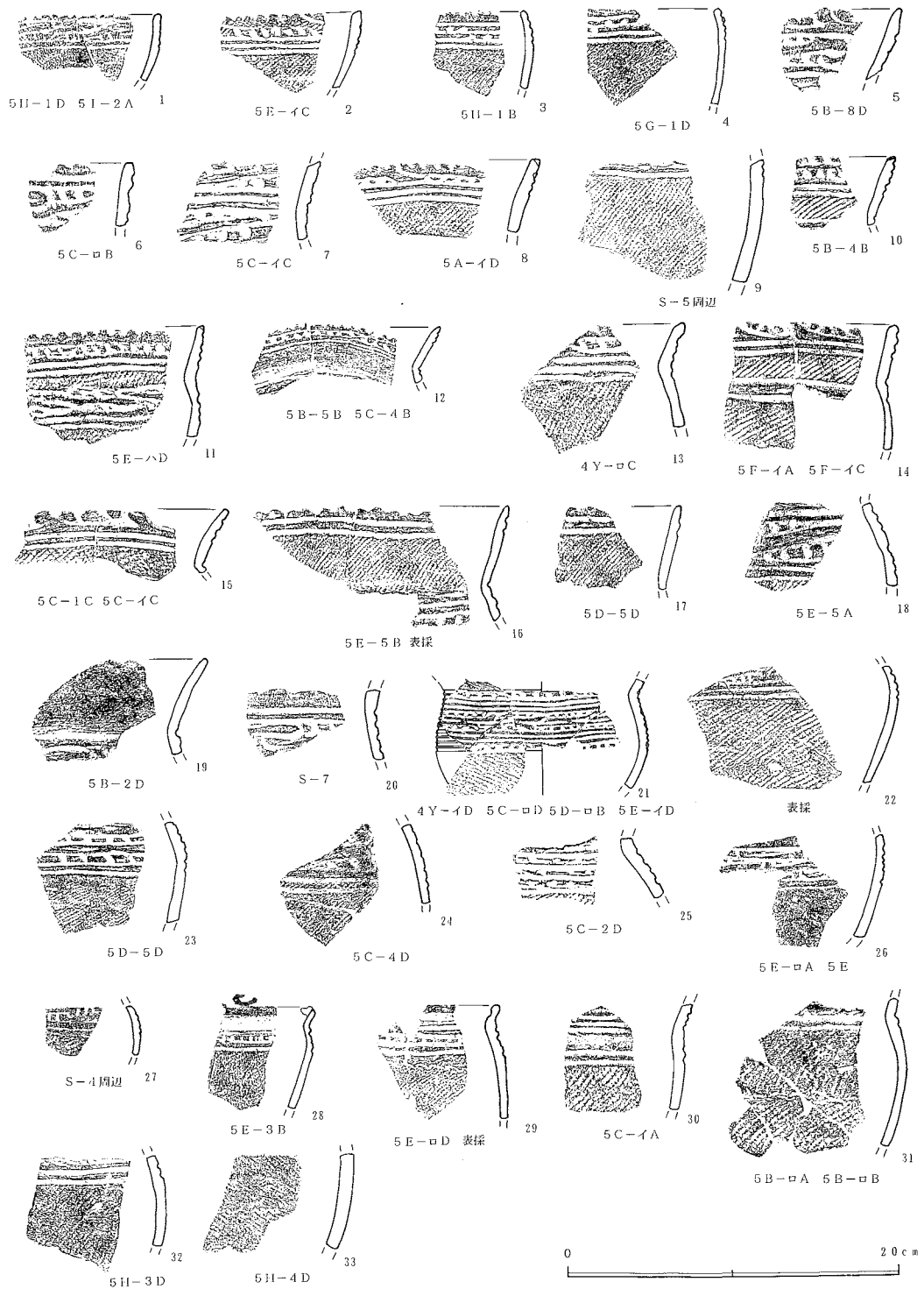


第184図 グリッド出土の土器(23)

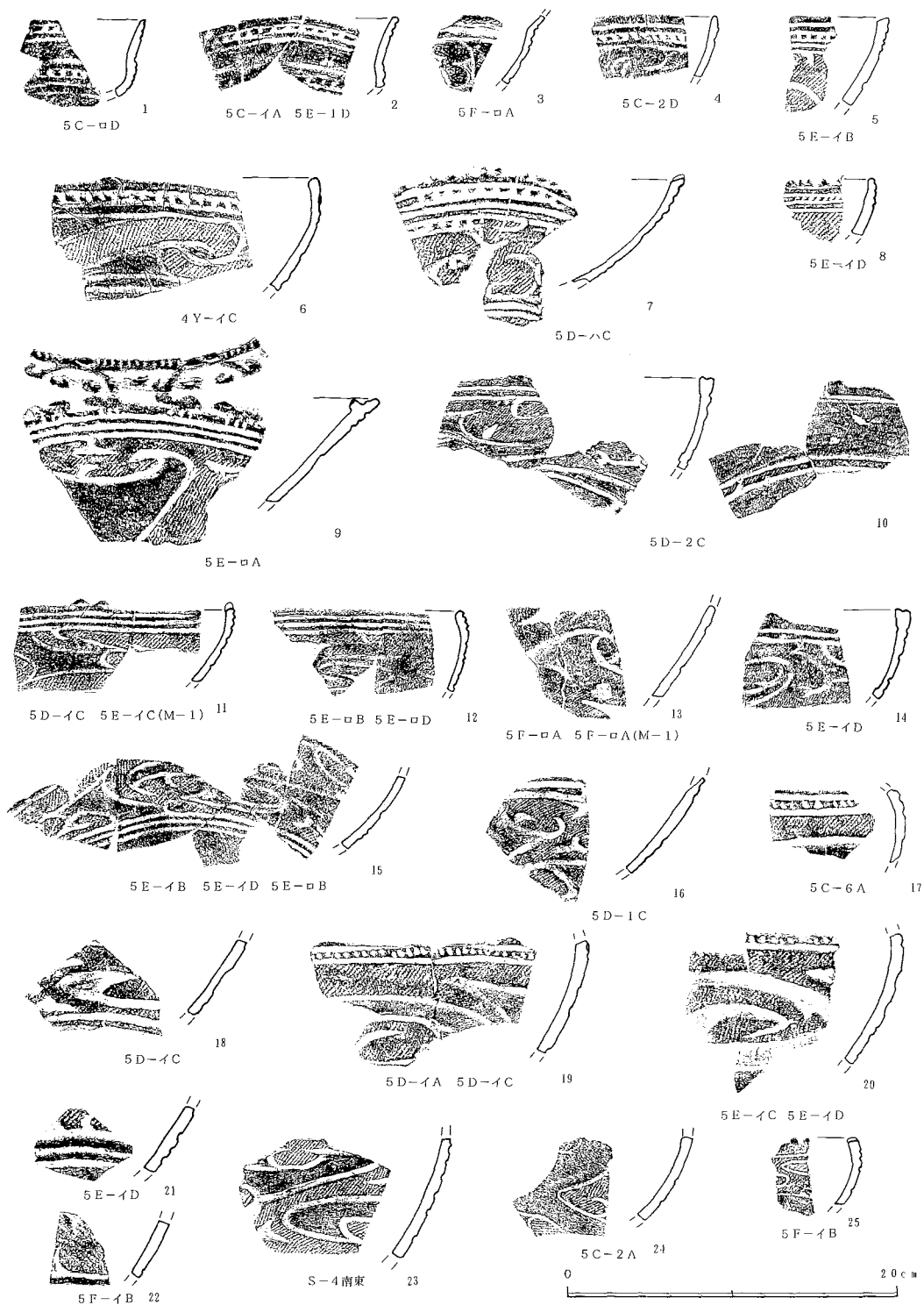


第185図 グリッド出土の土器(24)

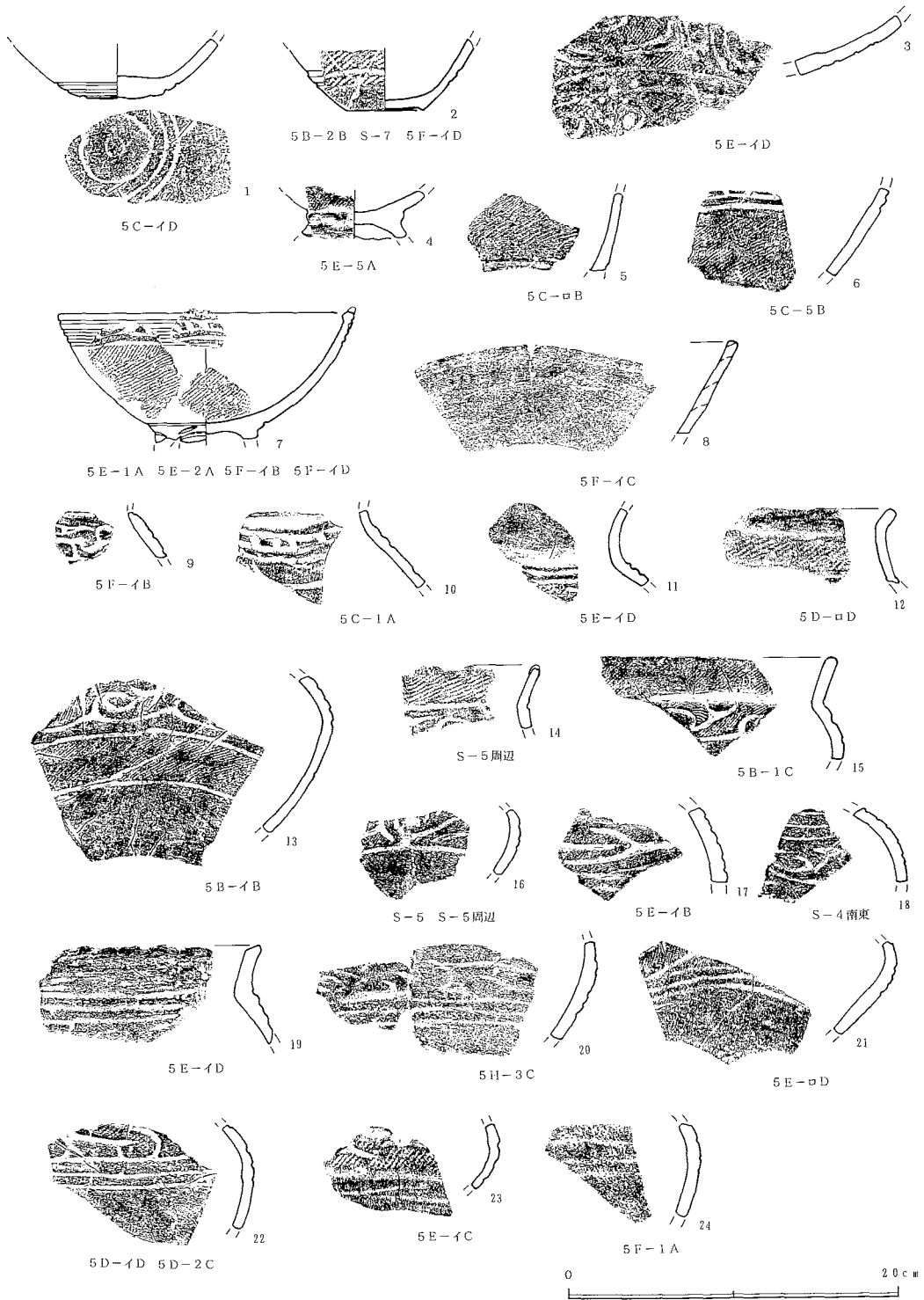




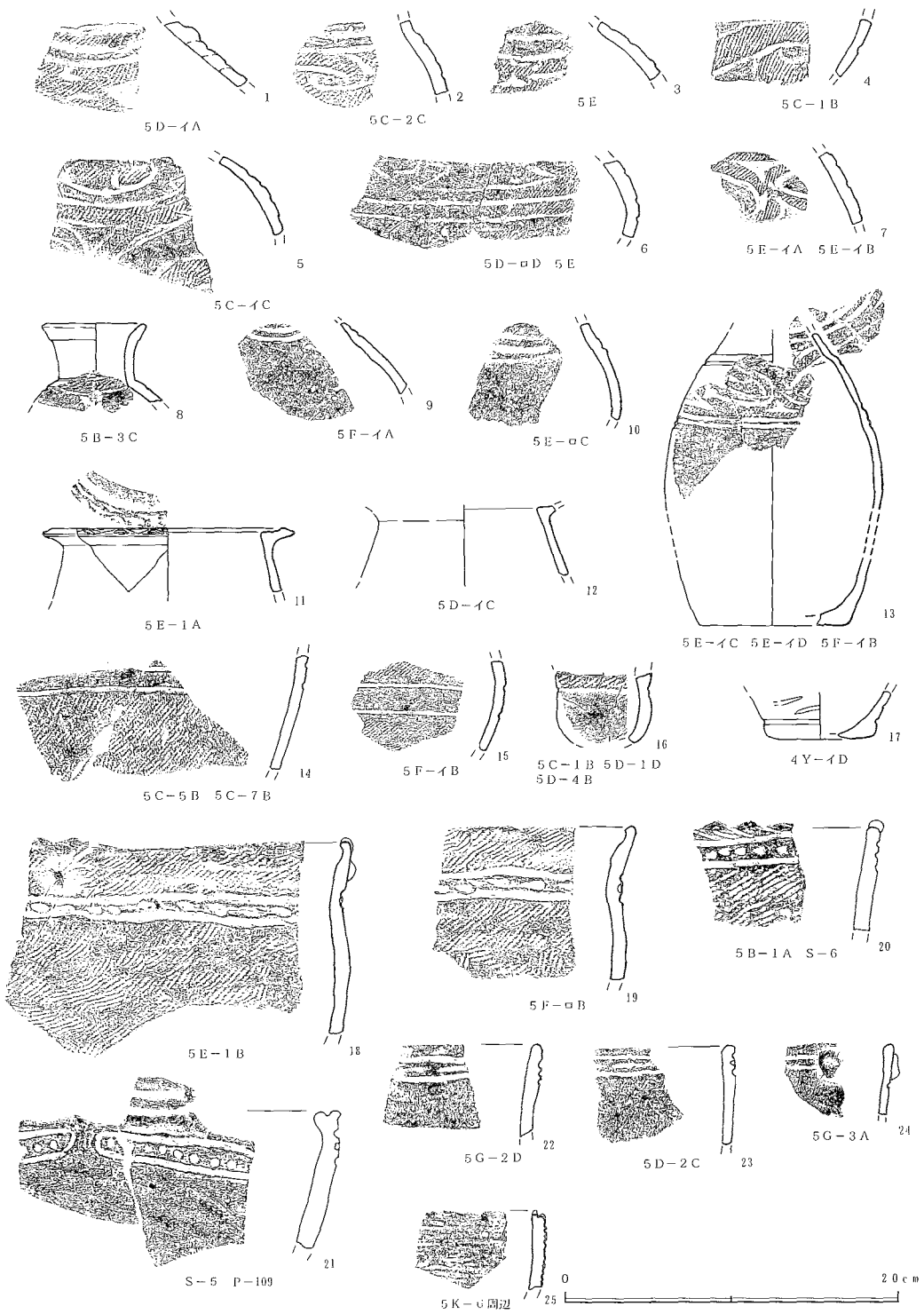
第186図 グリッド出土の土器(25)



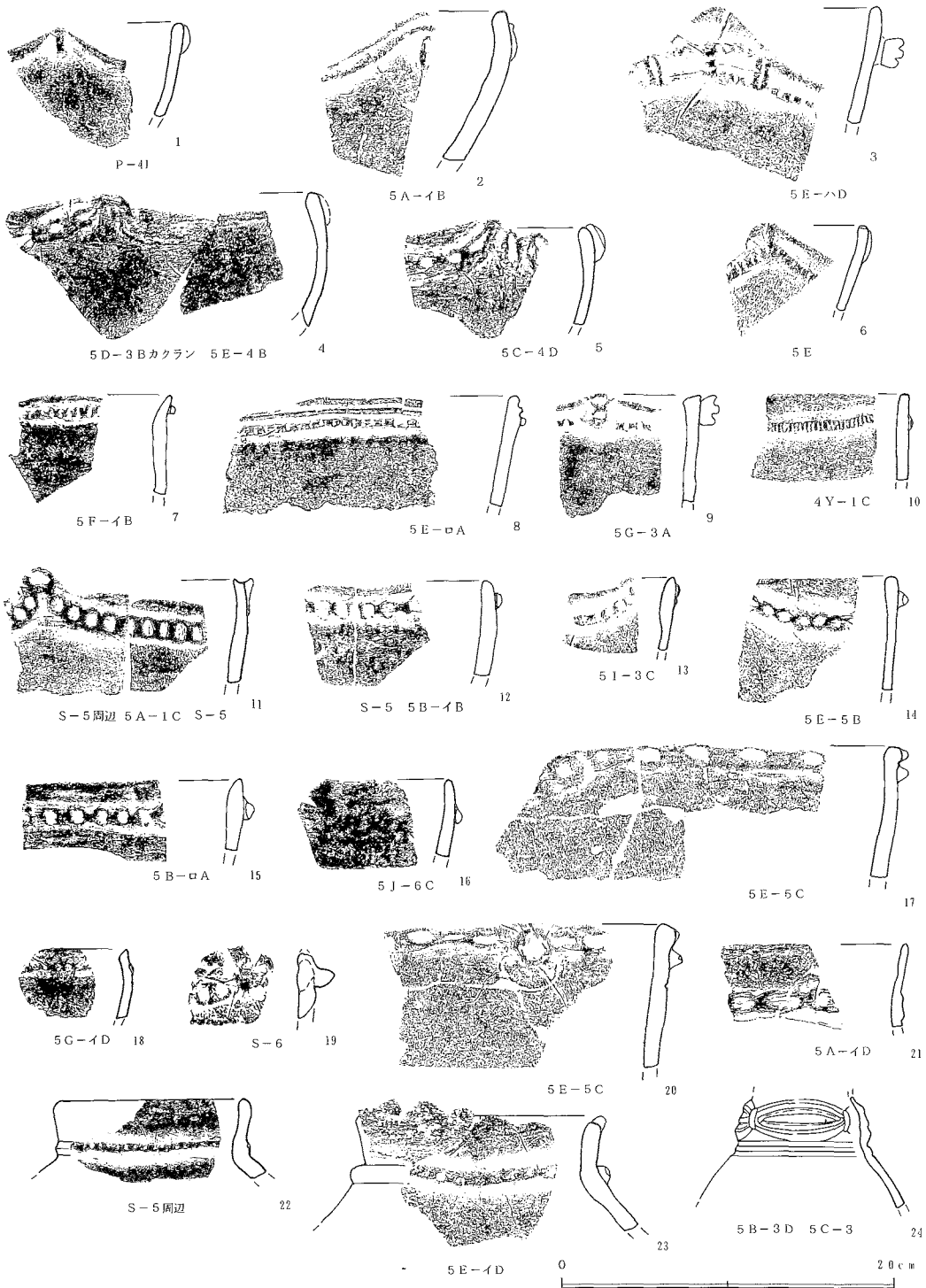
第187図 グリッド出土の土器(26)



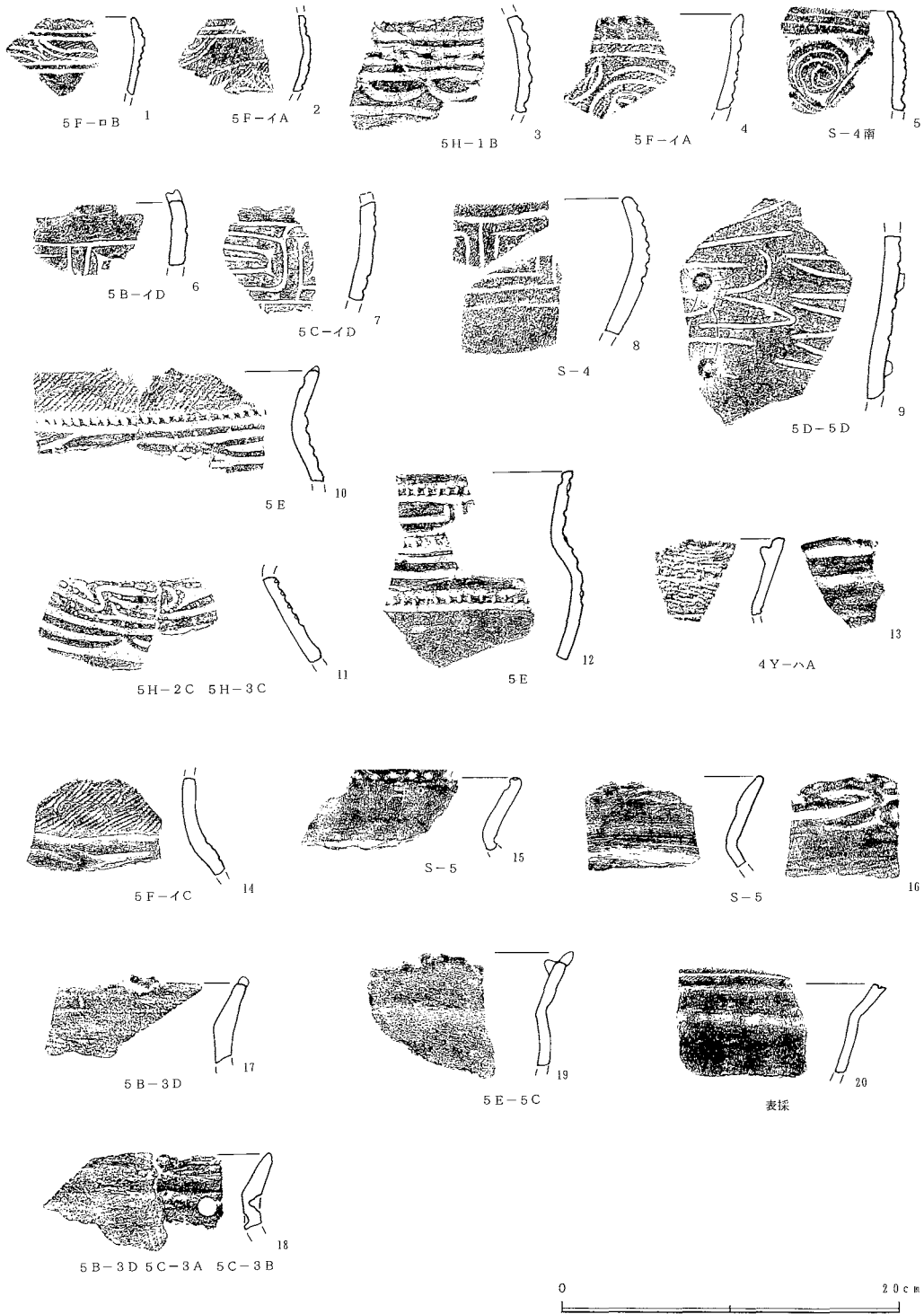
第188図 グリッド出土の土器(7)



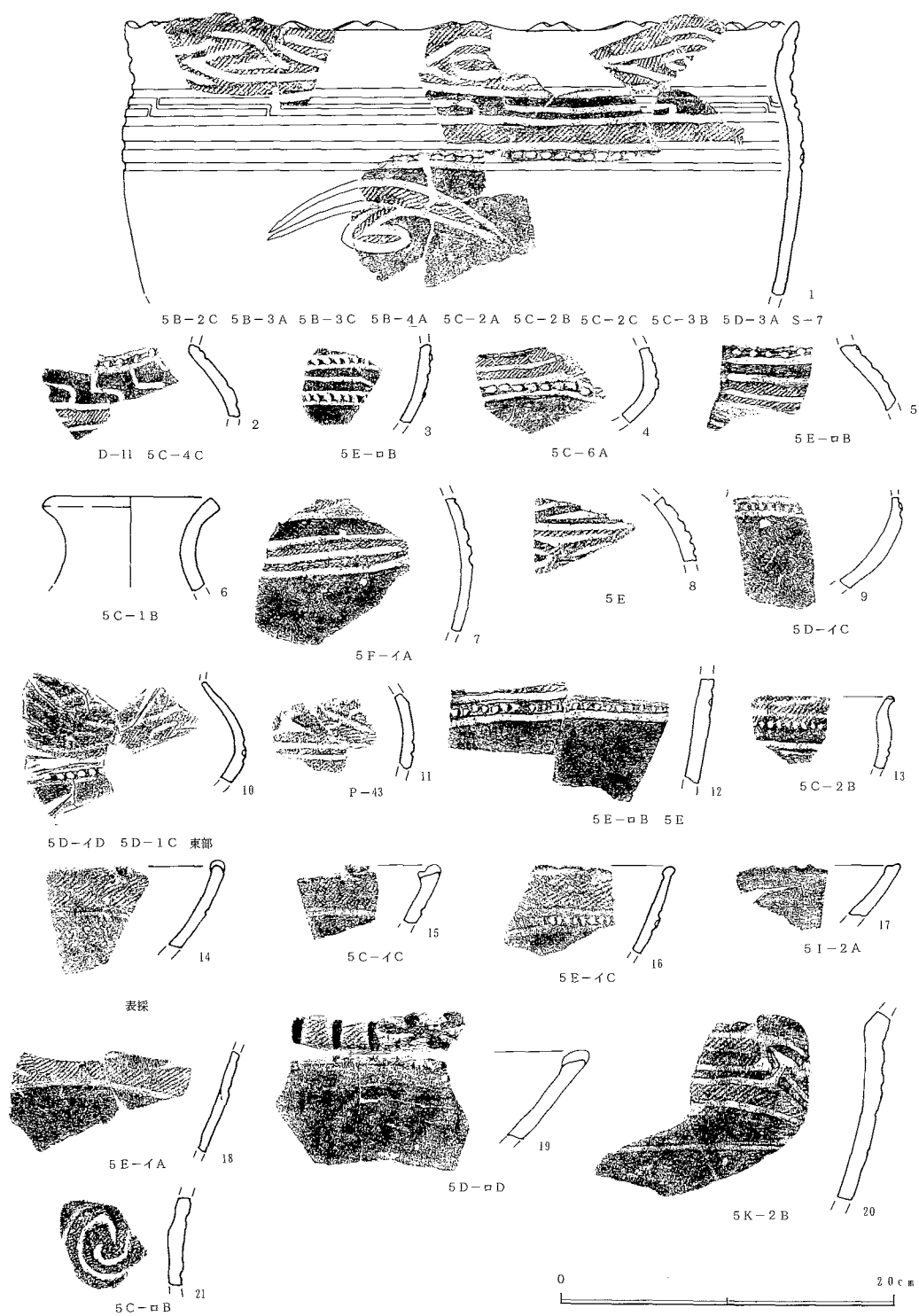
第189図 ピット・グリッド出土の土器(28)



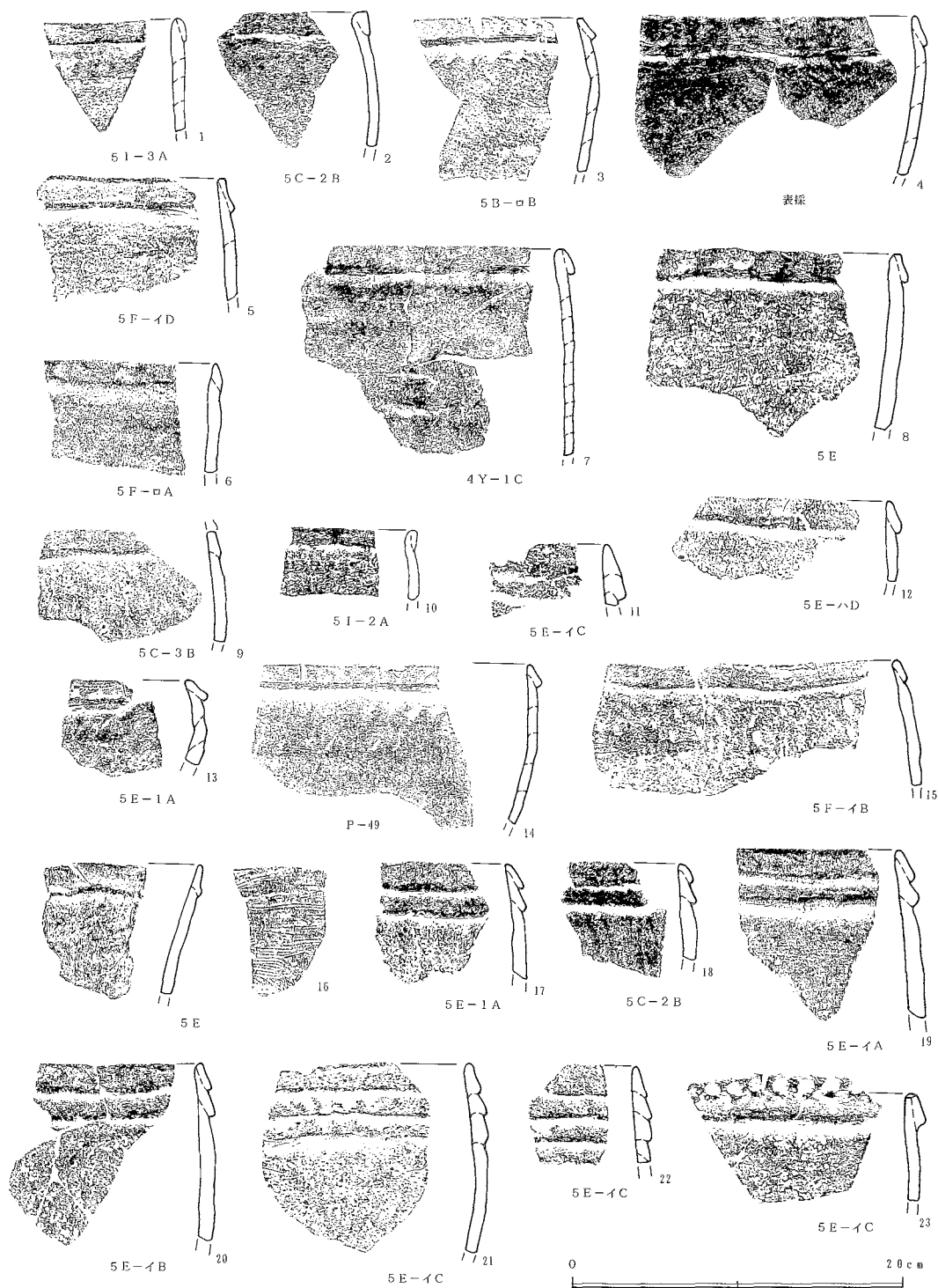
第190図 ピット・グリッド出土の土器(29)



第191図 グリッド出土の土器(30)

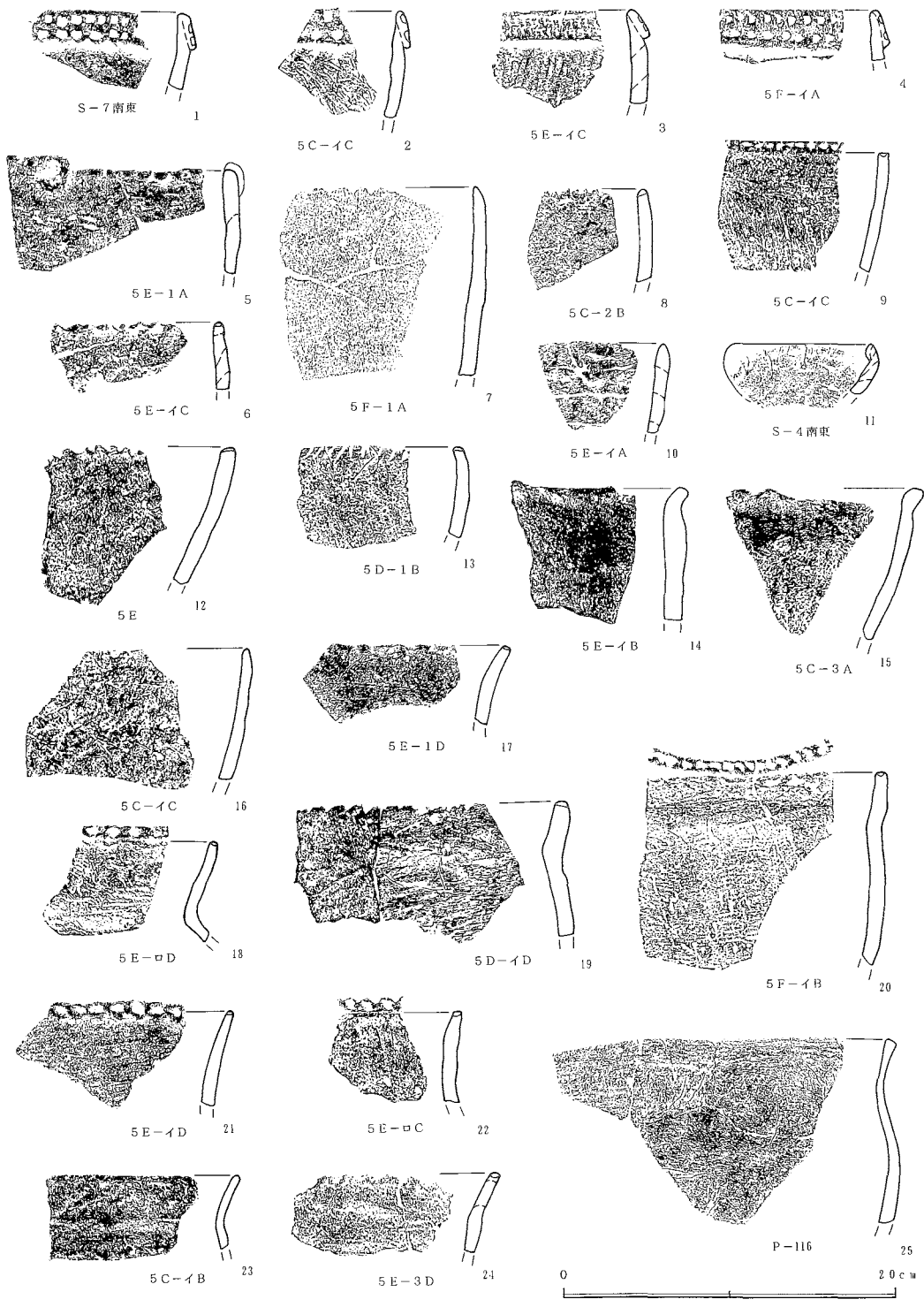


第192図 ピット・グリッド出土の土器(3)

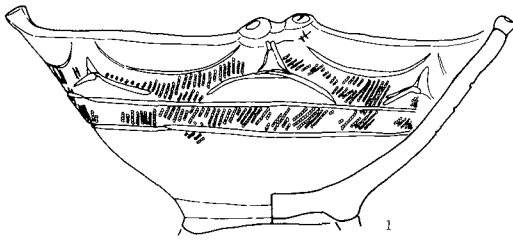


第193図 ピット・グリッド出土の土器(32)

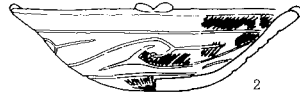




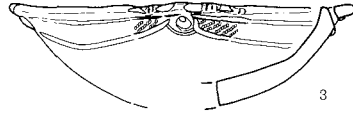
第194図 ピット・グリッド出土の土器(33)



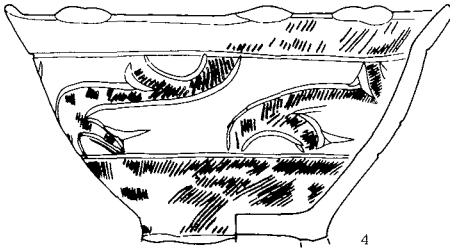
5E-3A



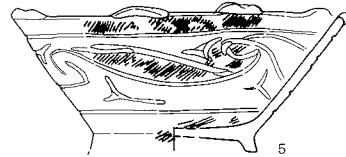
S-5



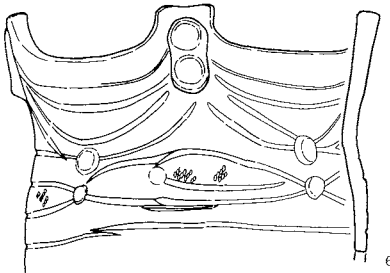
5F-1B 5E-1D 5E-5B



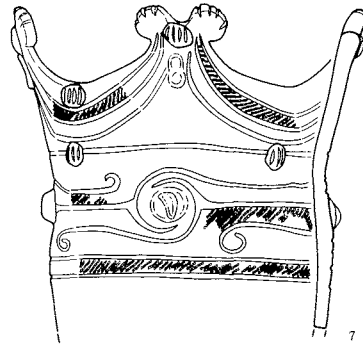
S-6 S-7B 5O-2C



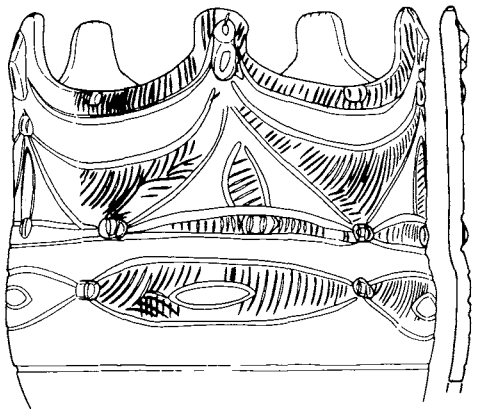
5E-3C 5E-4B 5E-5B



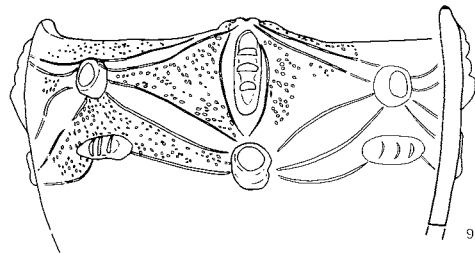
5E-1A 5E-1D 5E-1C



P-31 P-39



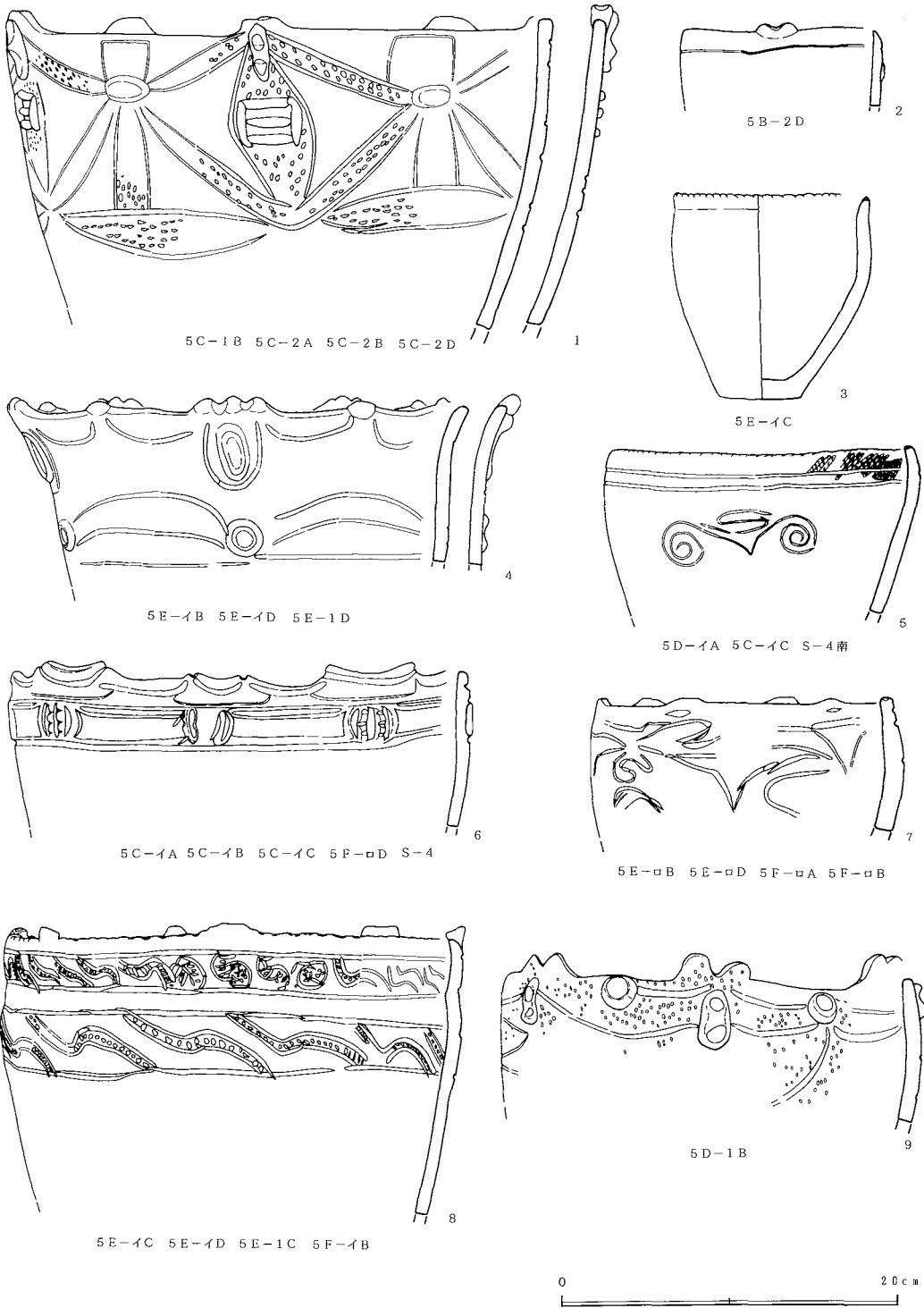
5D-3C 5D-3D



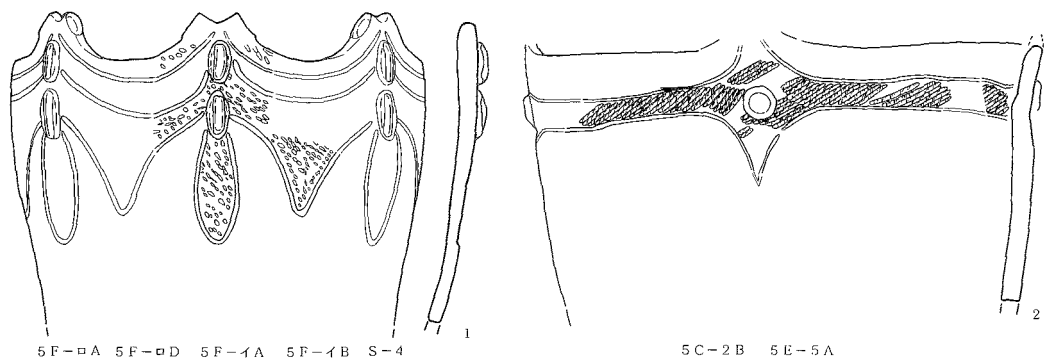
5B-2D S-7



第195図 ピット・グリッド出土の土器(34)

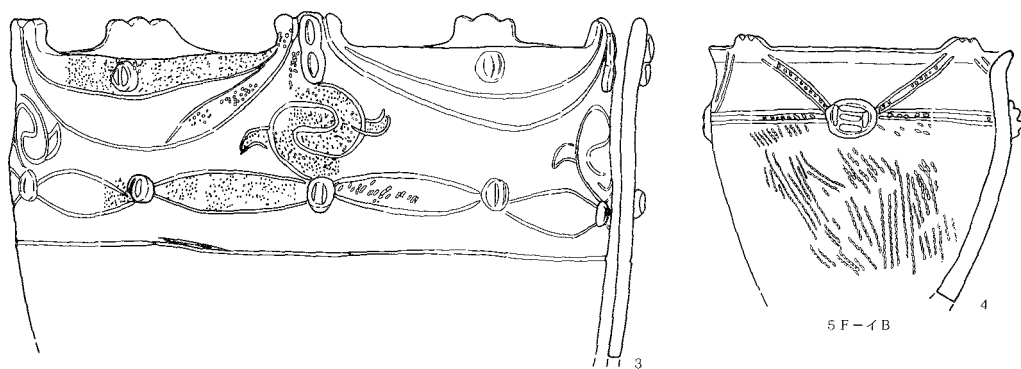


第196図 グリッド出土の土器(35)



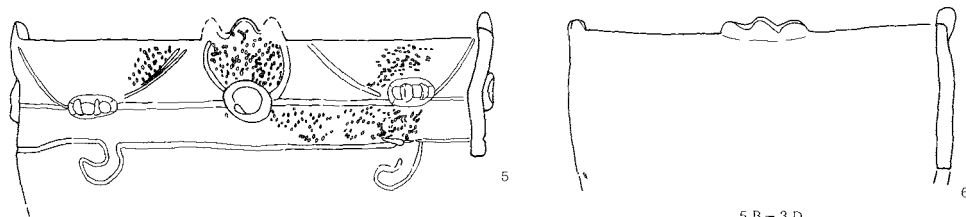
5F-□A 5F-□D 5F-1A 5F-1B S-4

5C-2B 5E-5A



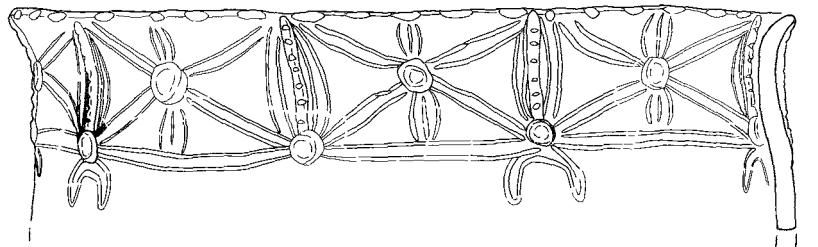
5D-3D 5F-1A 5F-1B

5F-1B



5C-2B 5C-2D 5C-3A 5D-3A

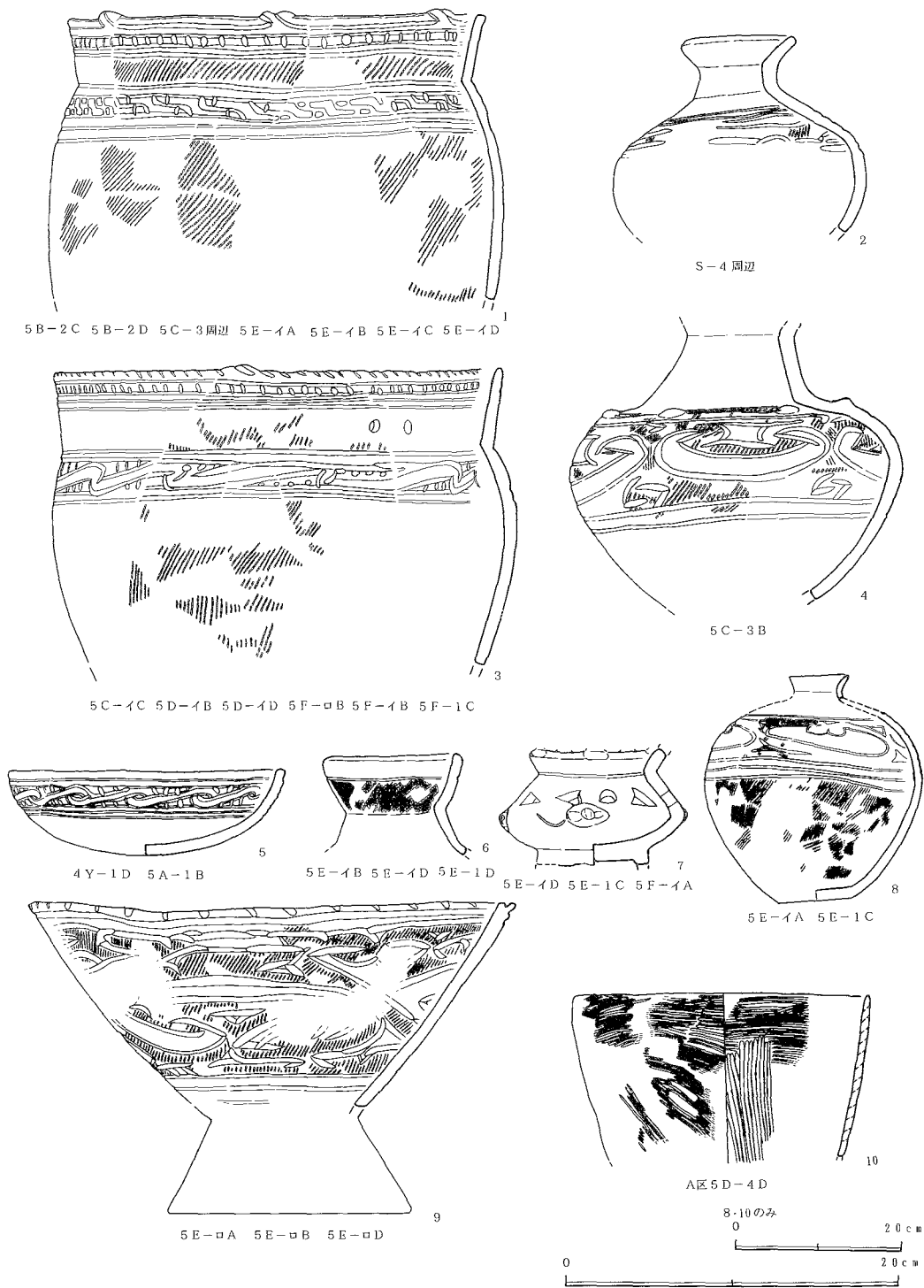
5B-3D



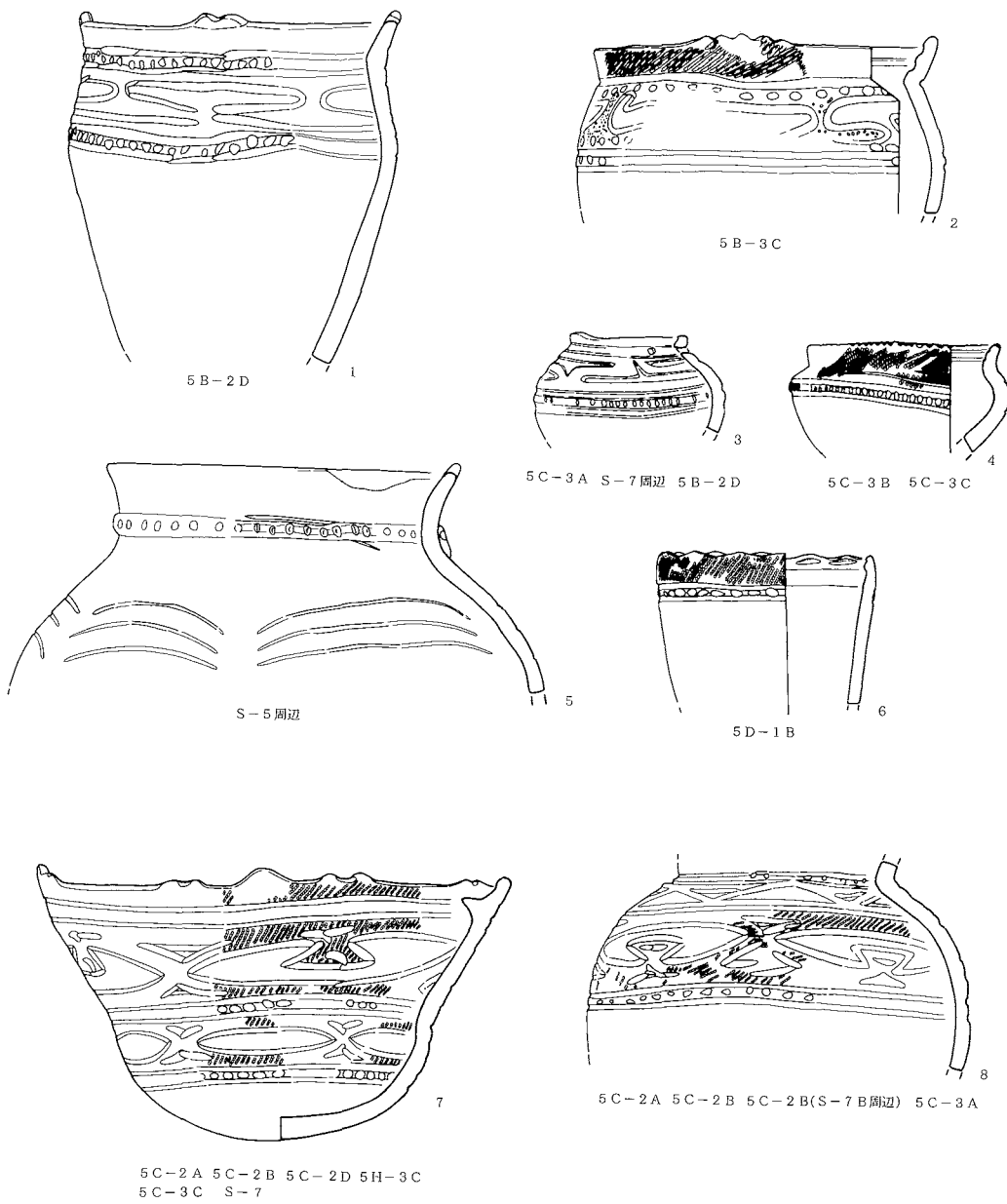
5C-1C 5C-1(M-1) 5C-2A 5C-2B



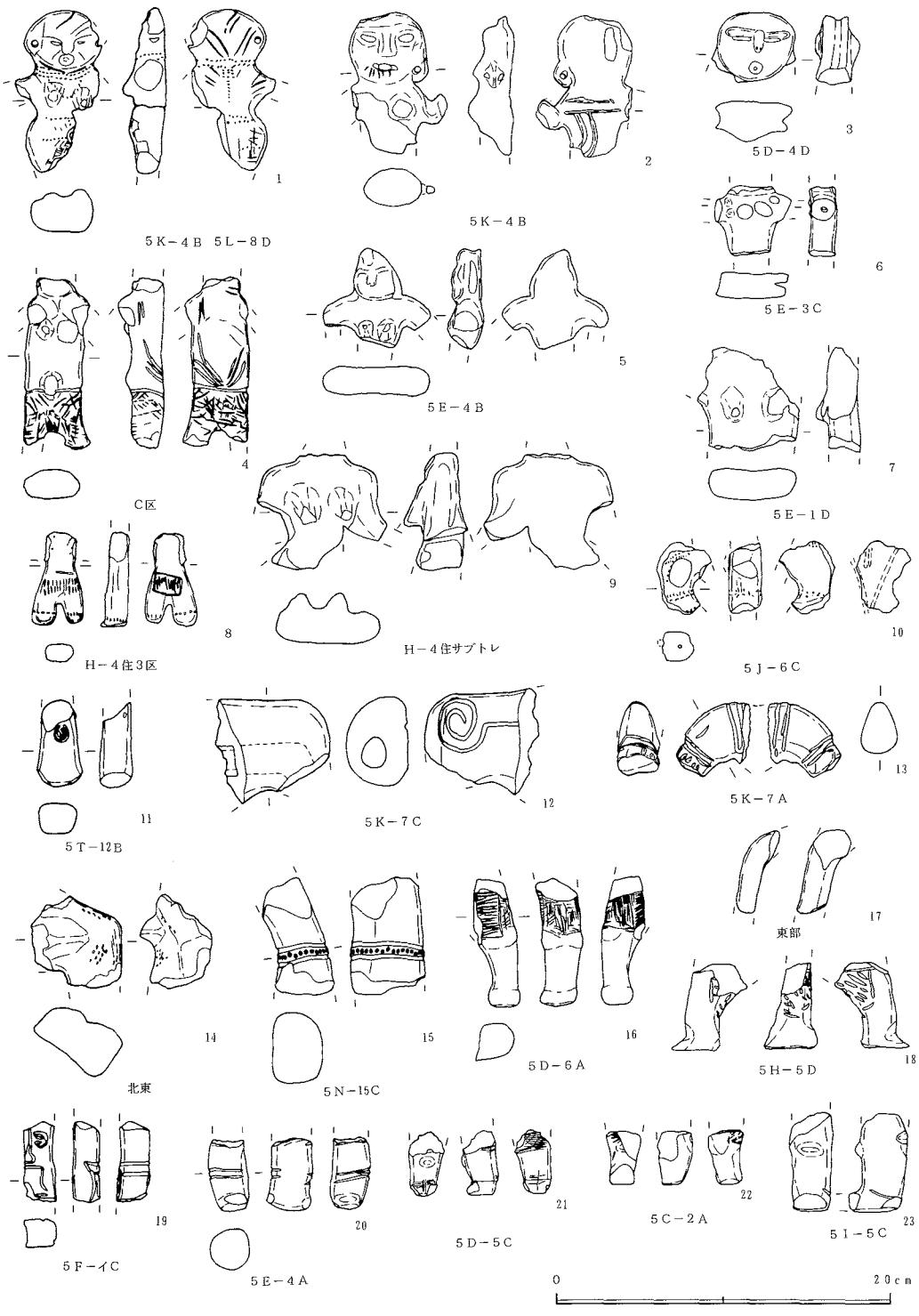
第197図 グリッド出土の土器(36)



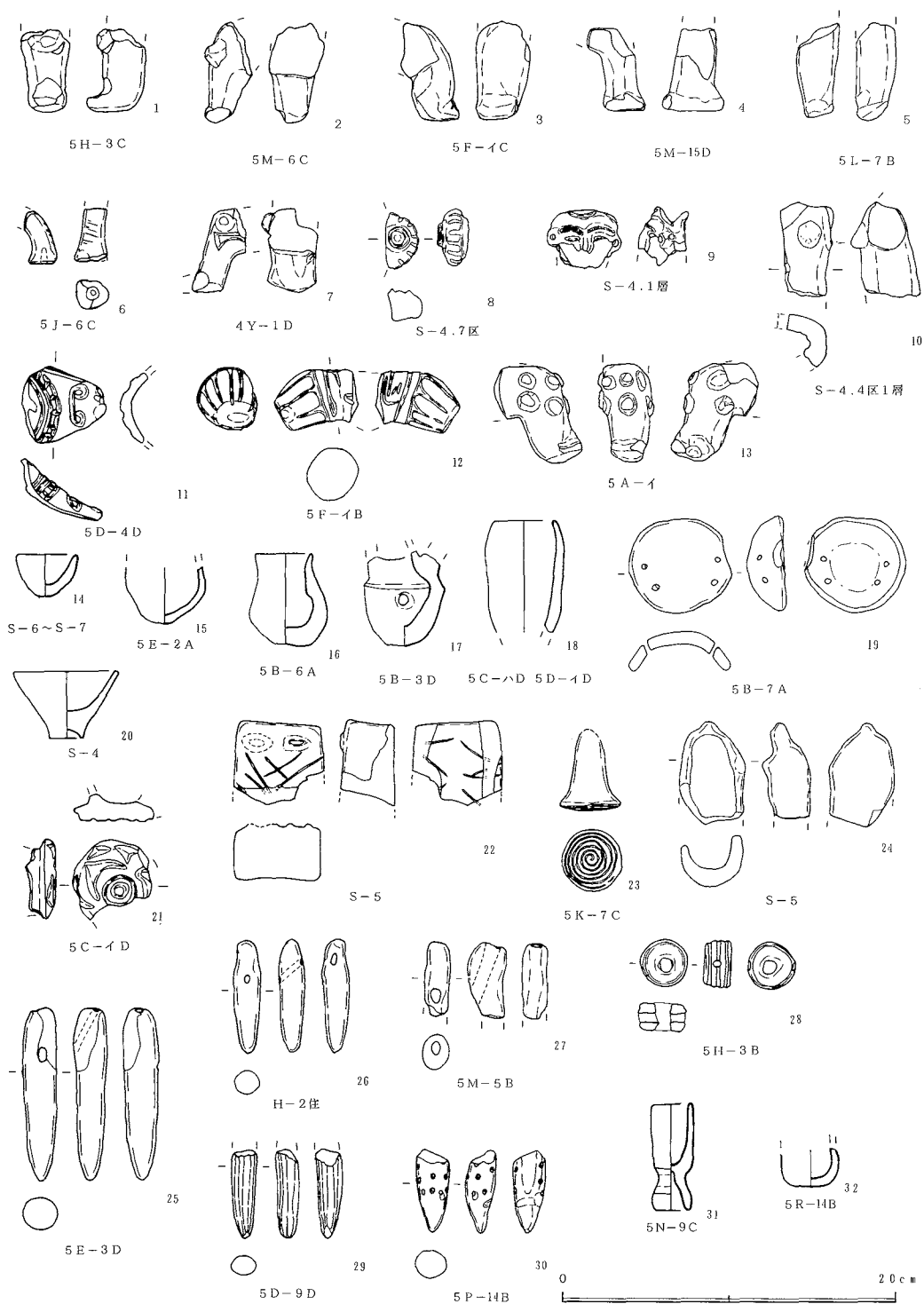
第198図 グリッド出土の土器(37)



第199図 グリッド出土の土器(38)

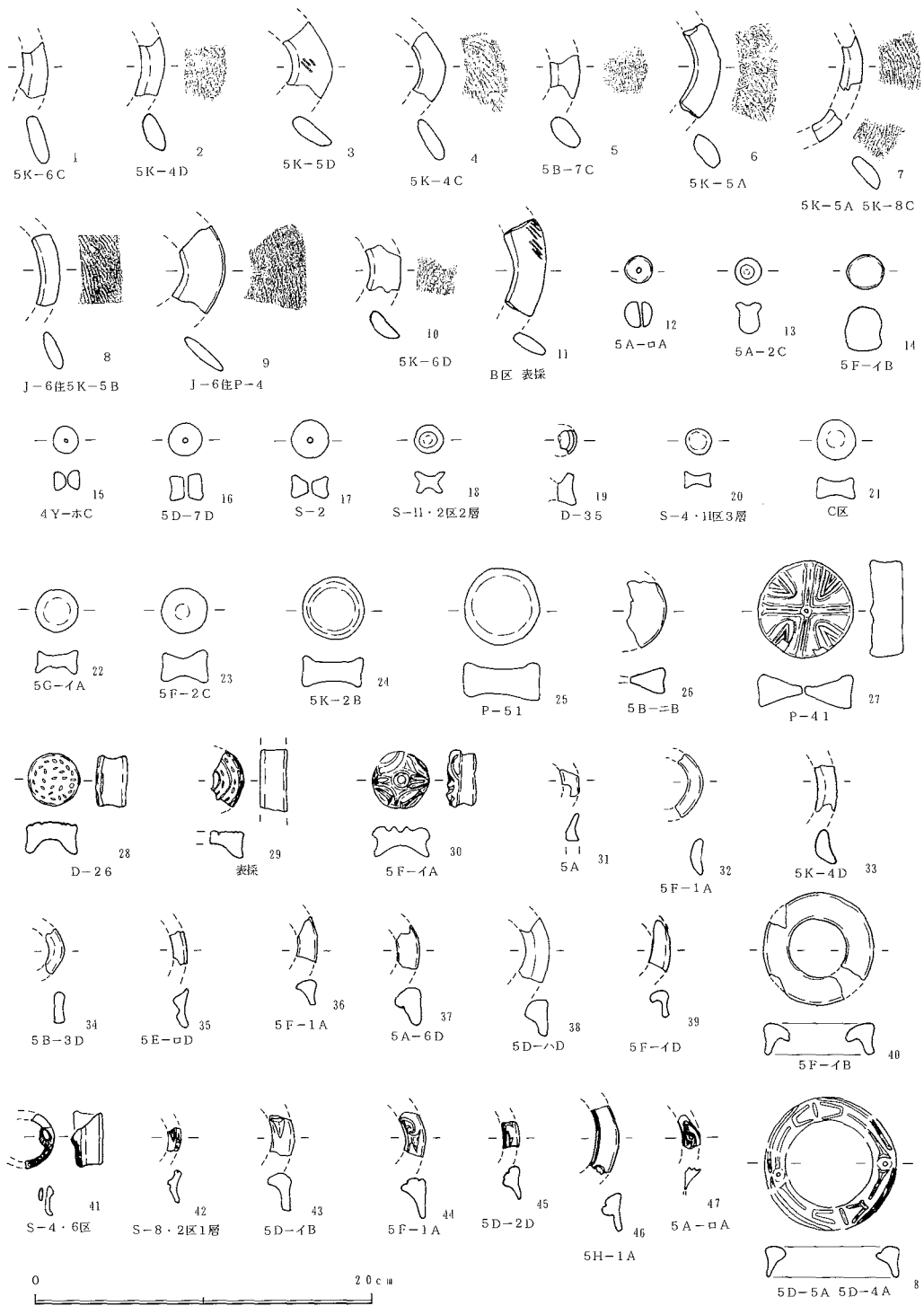


第200図 土偶実測図(1)

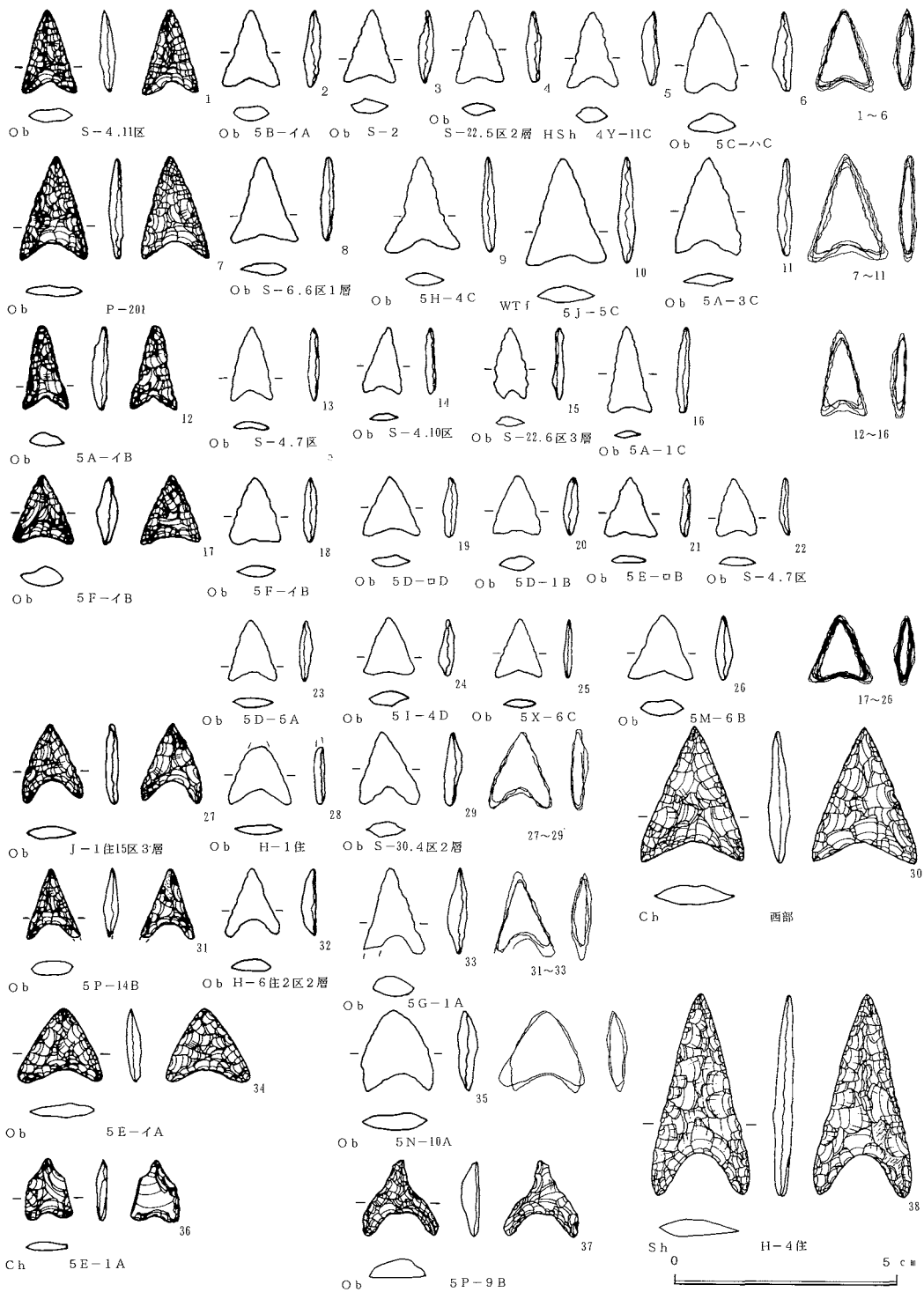


第201図 土偶(2)・土製品実測図

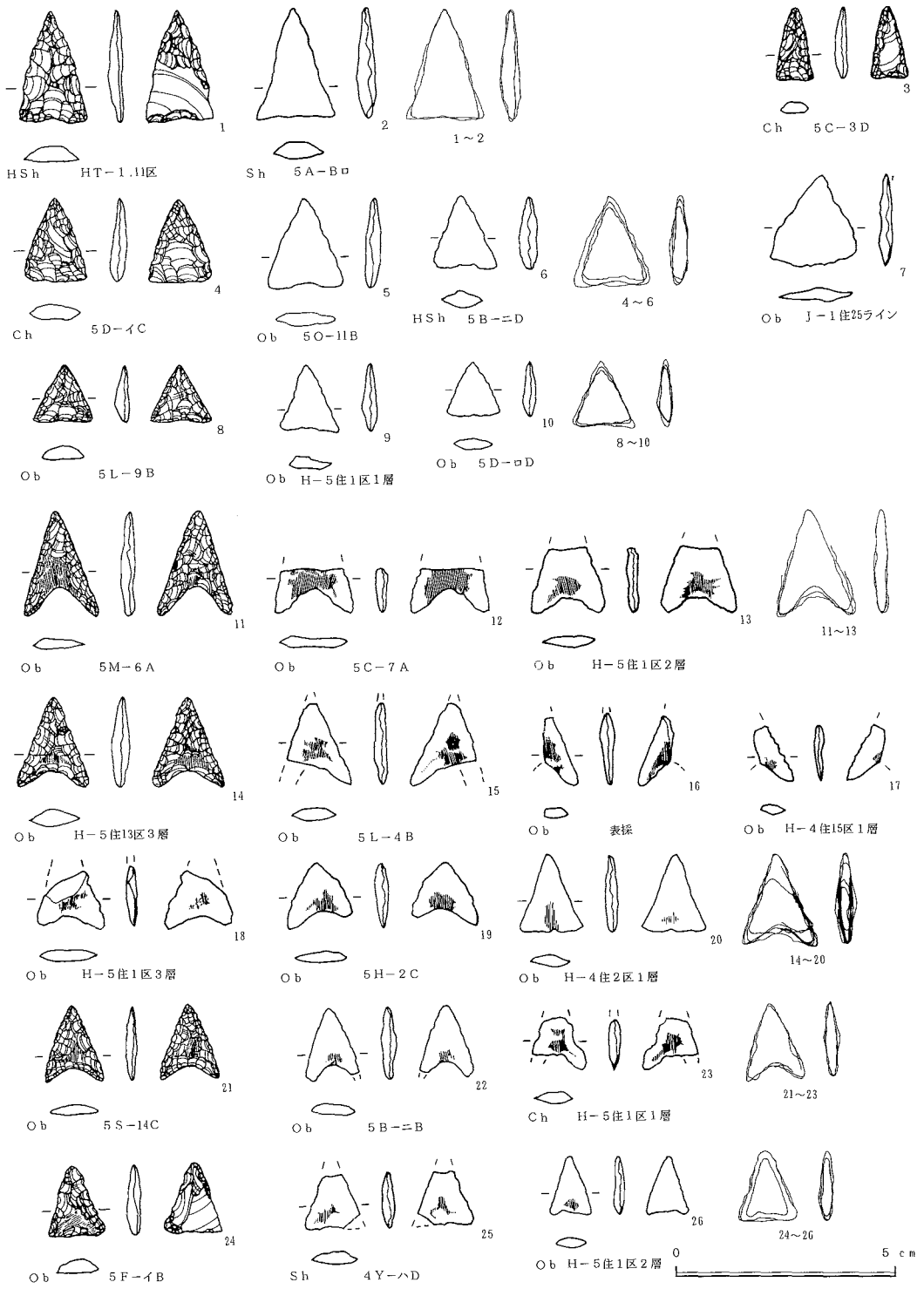




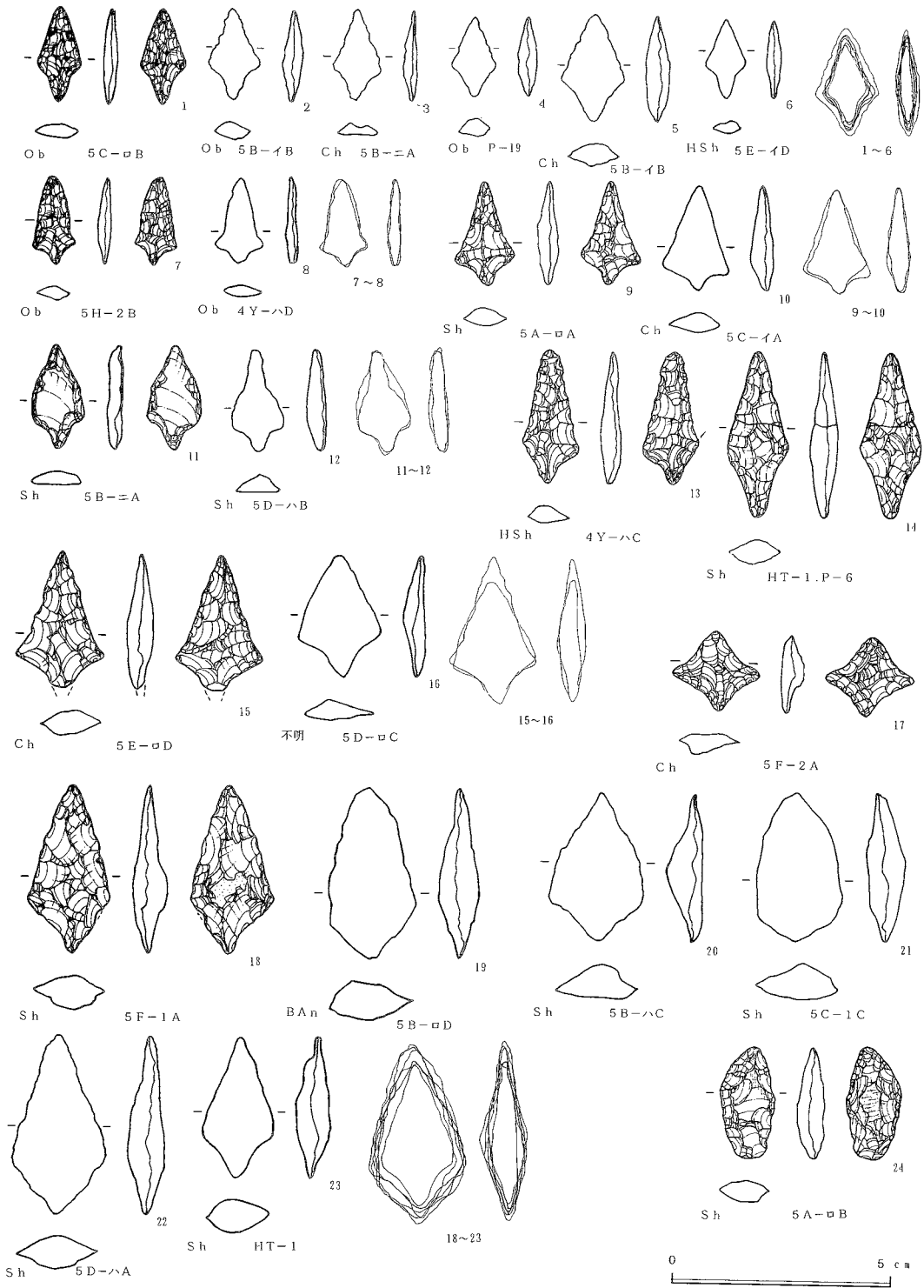
第202図 耳飾り等実測図



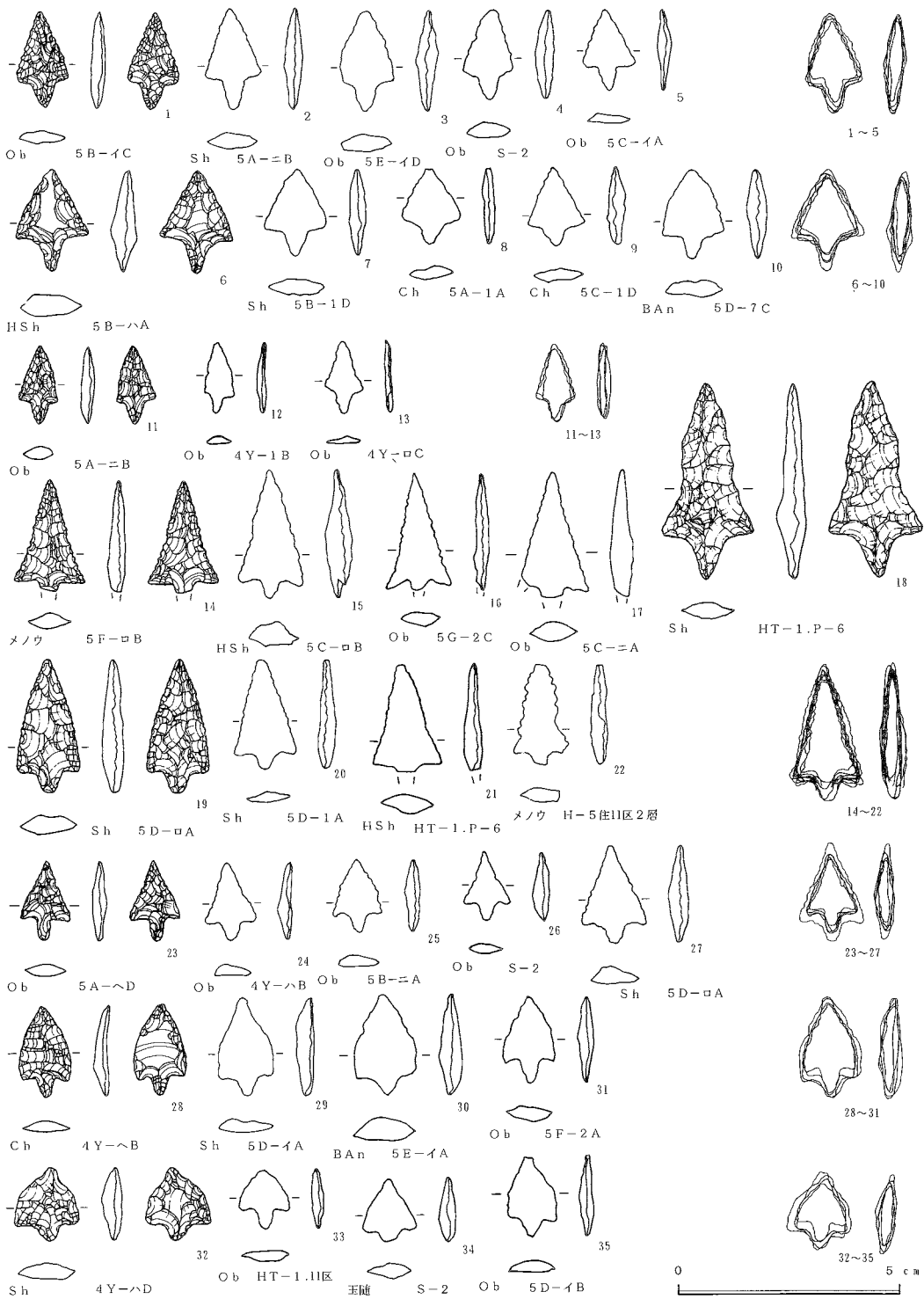
第203图 石鏃实测图(1)



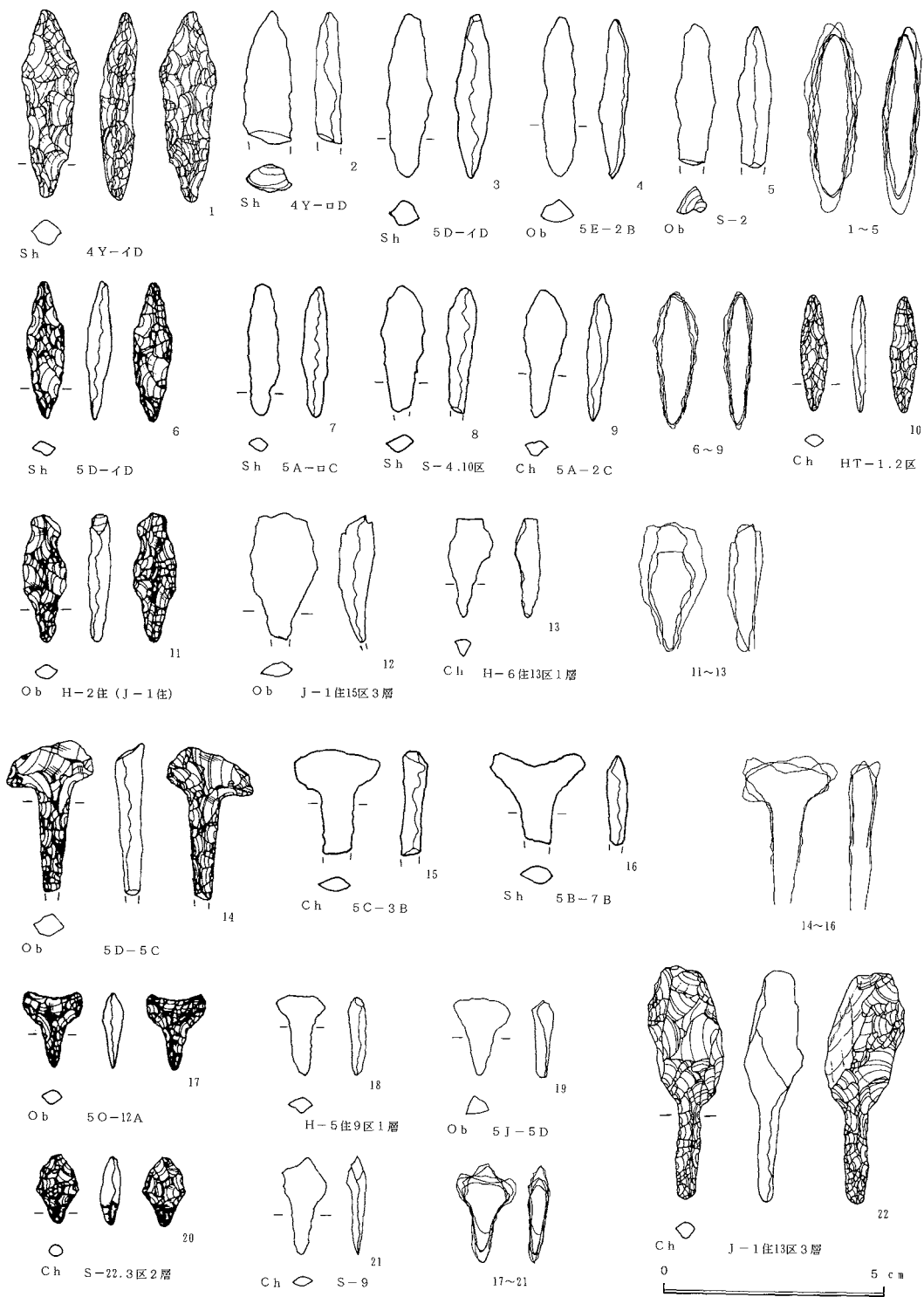
第204図 石鏃実測図(2)



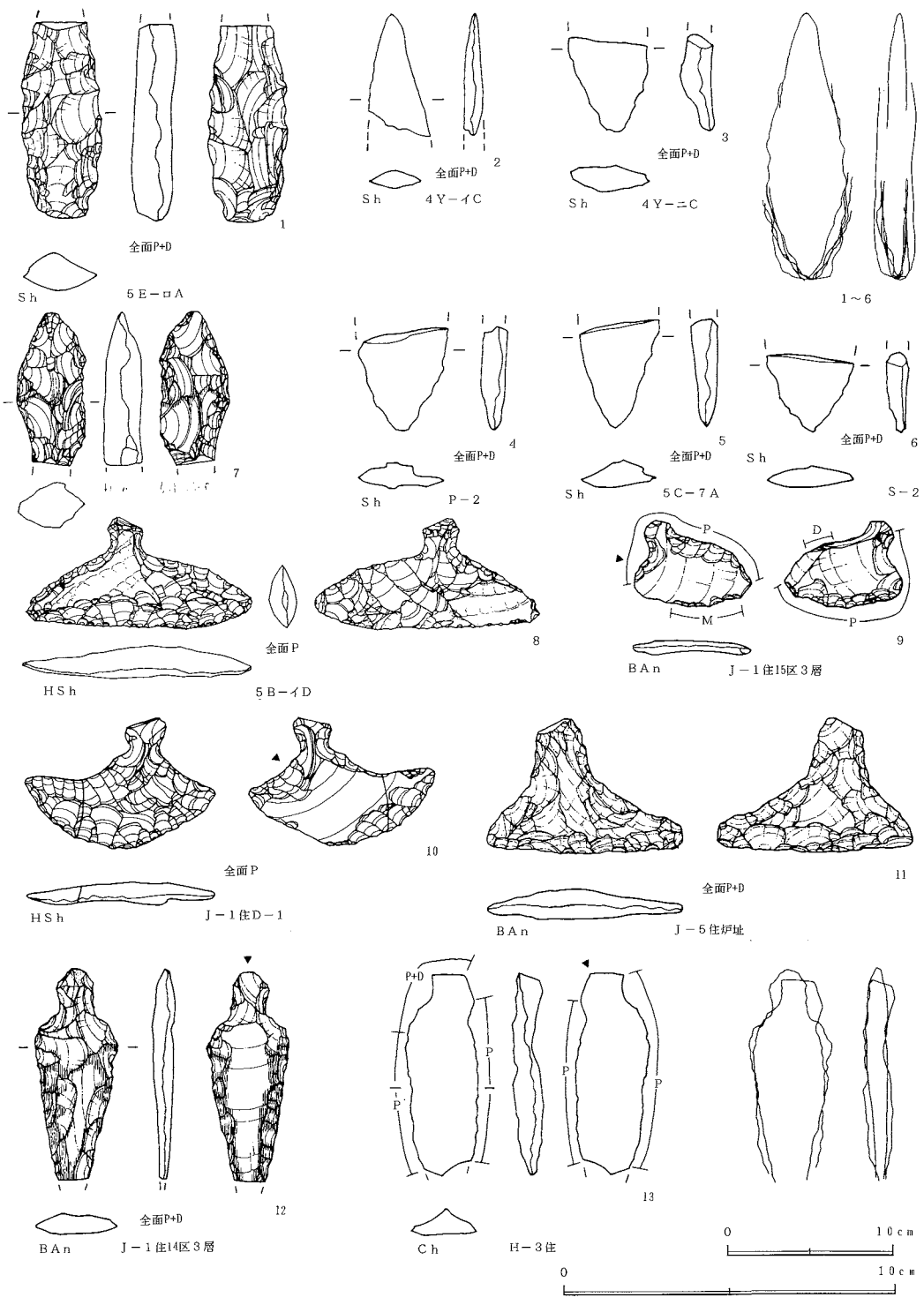
第205図 石鏃実測図(3)



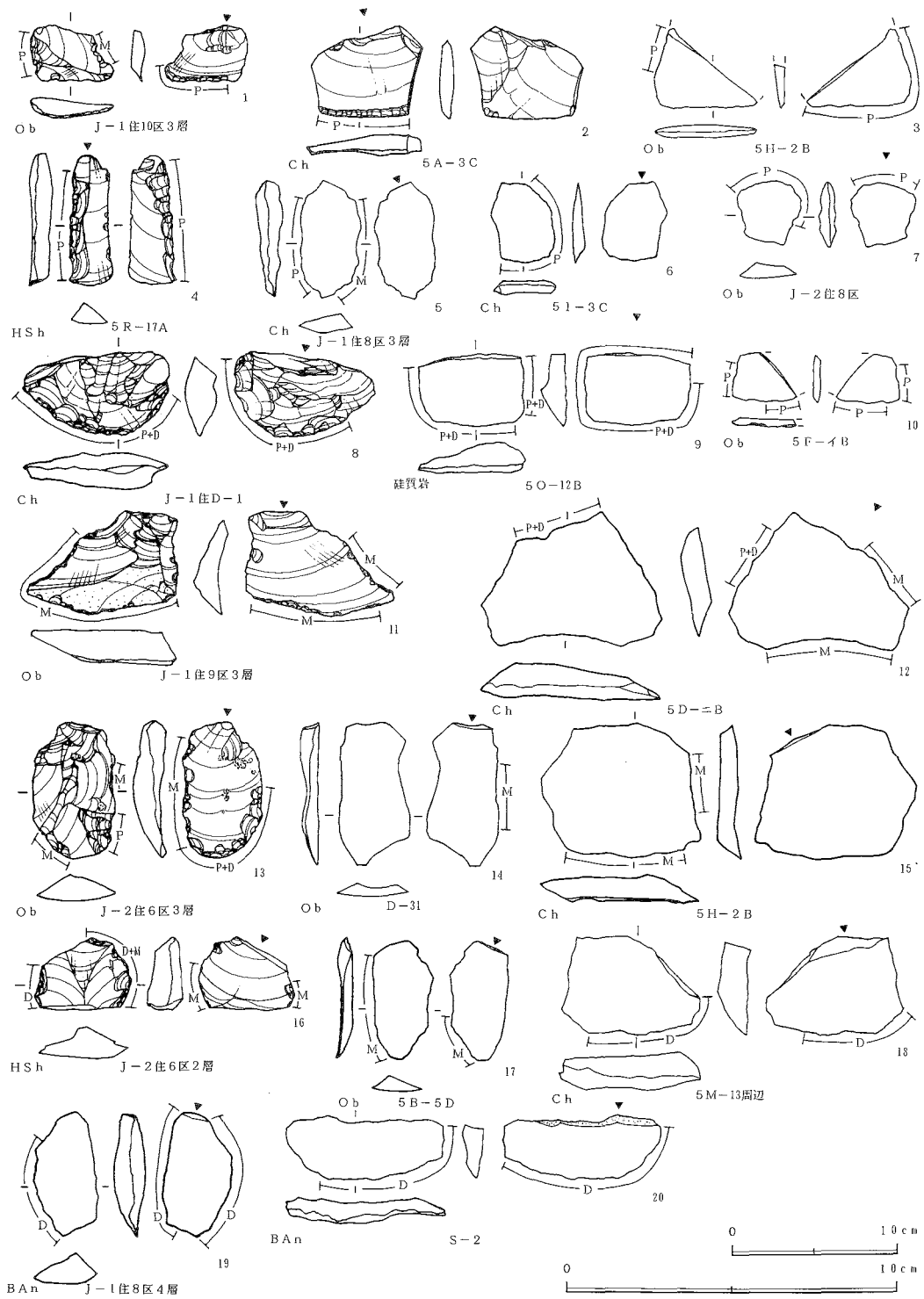
第206図 石鏃実測図(4)



第207図 石錐実測図



第208図 石匙A類・スクレイパーA類実測図



第209図 スクレイパーA類実測図



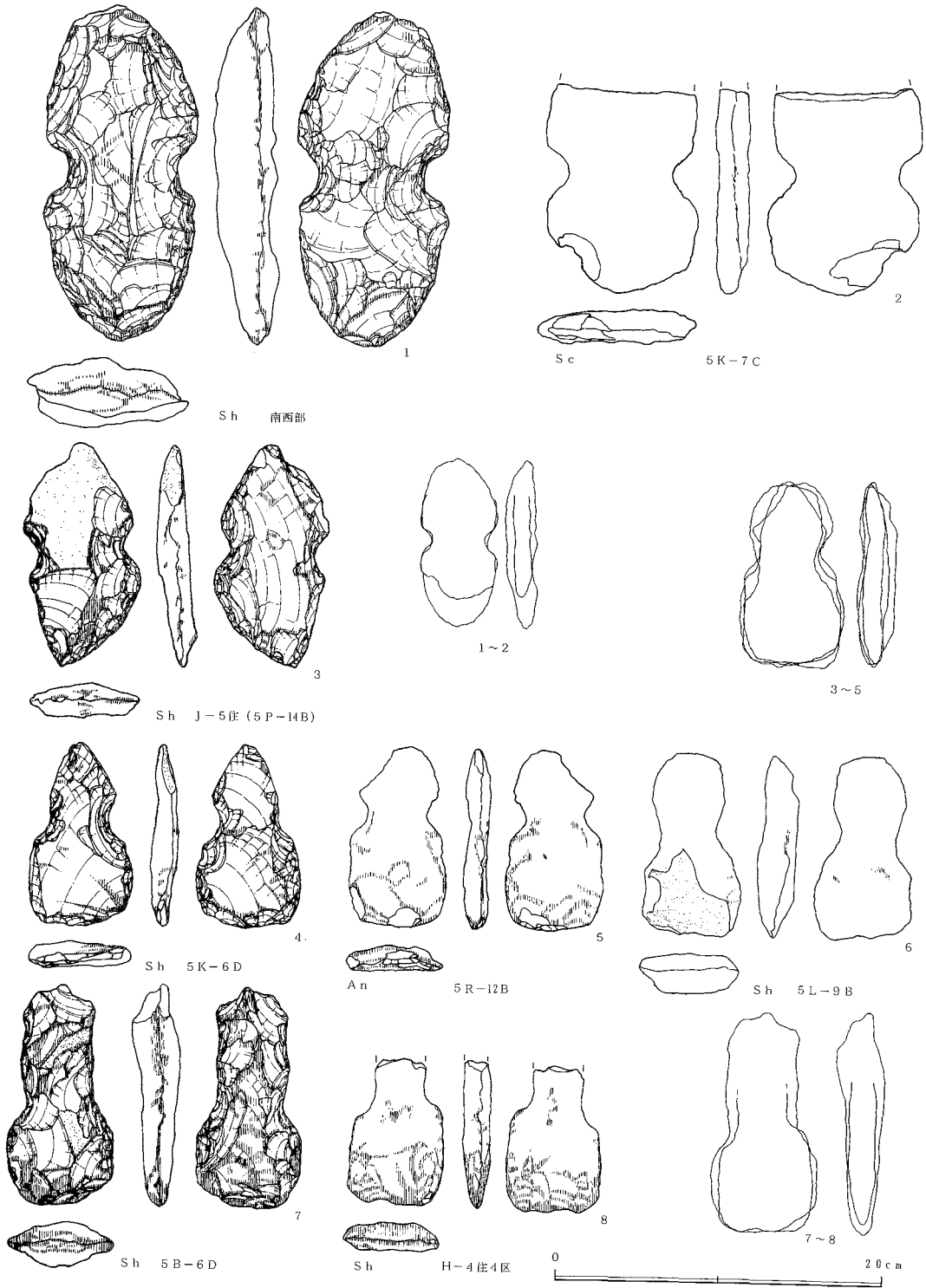




第211図 打製石斧実測図(1)



第212図 打製石斧実測図(2)

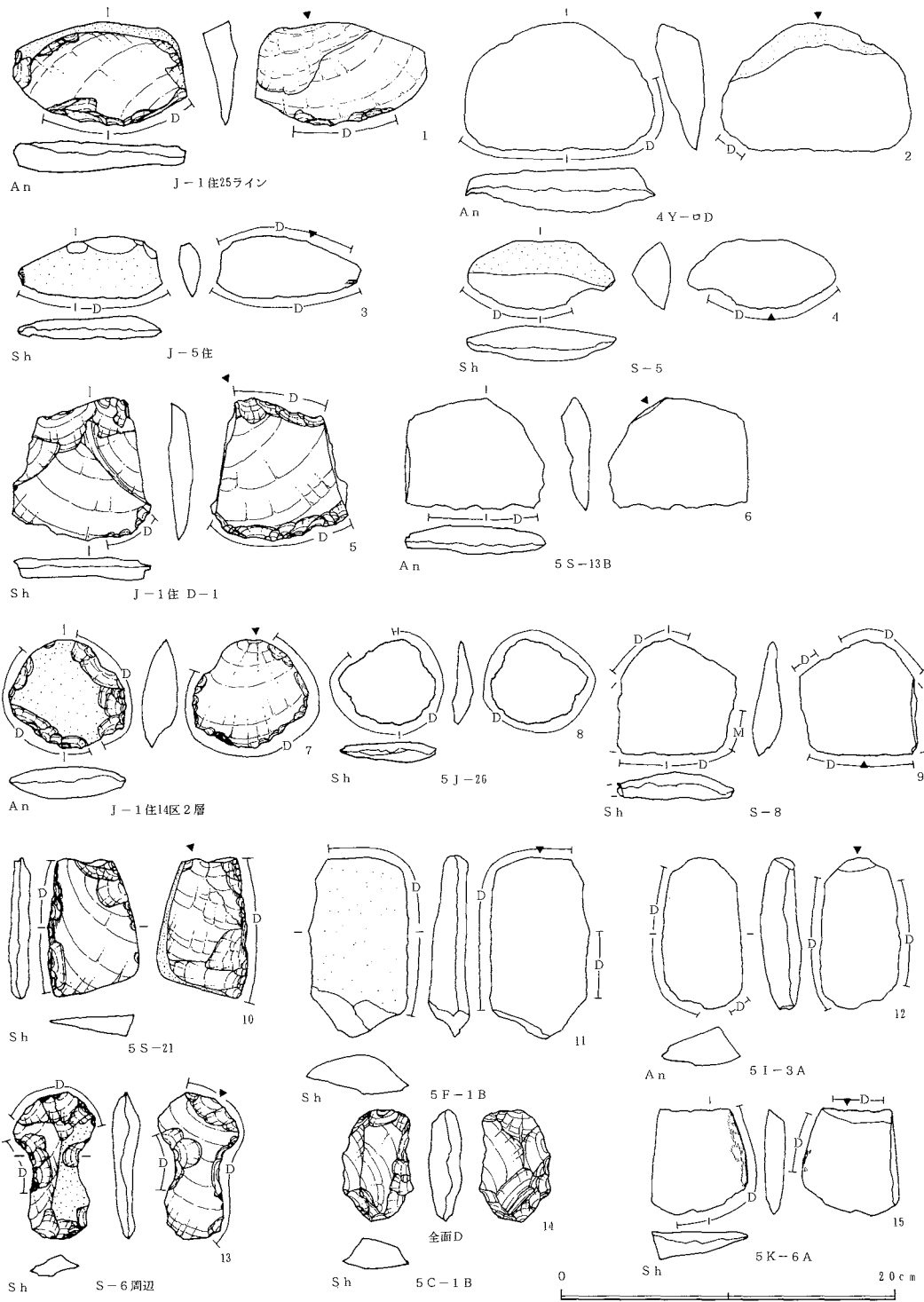


第213图 打製石斧実測図(3)

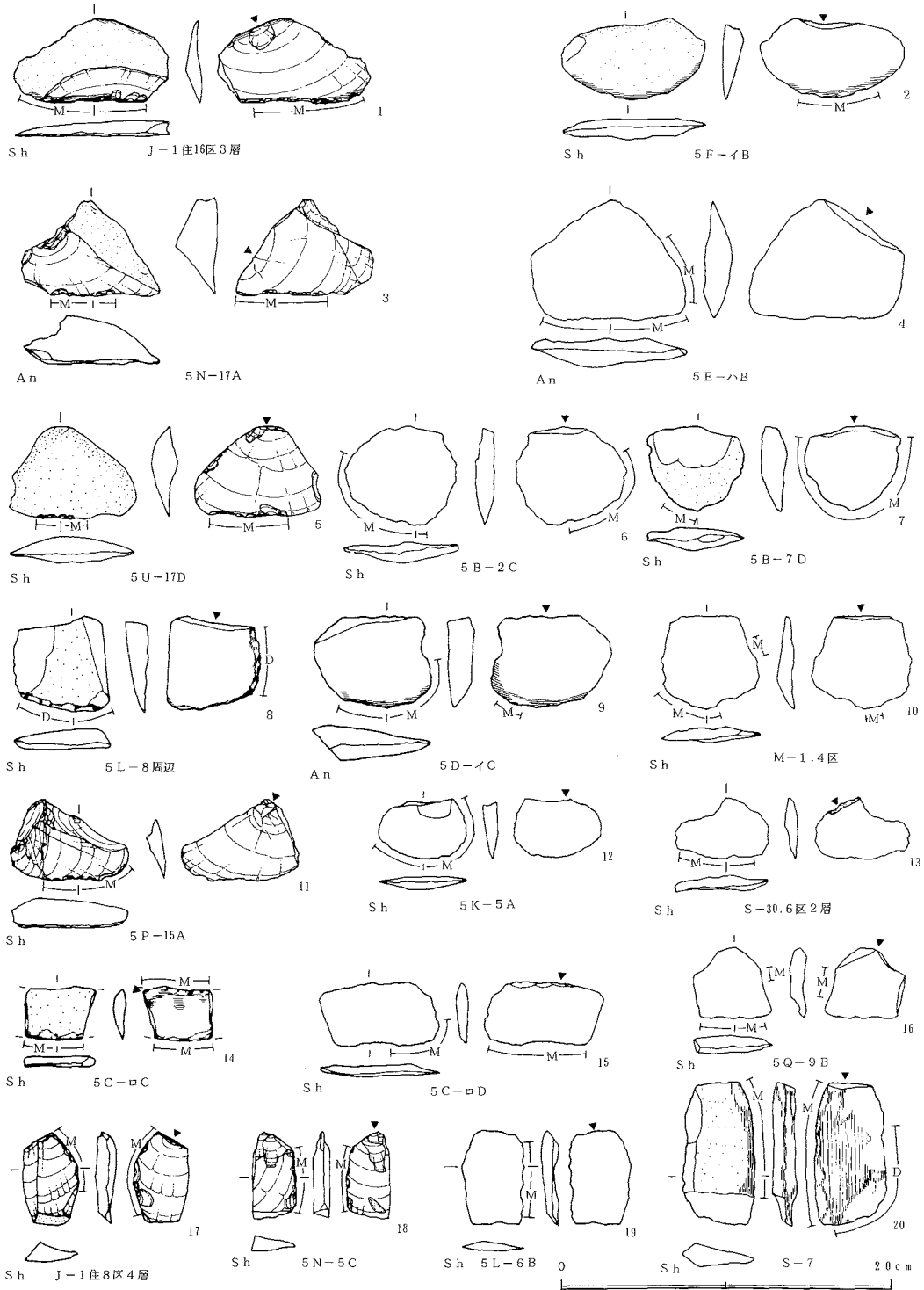


第214图 打製石斧実測図(4)



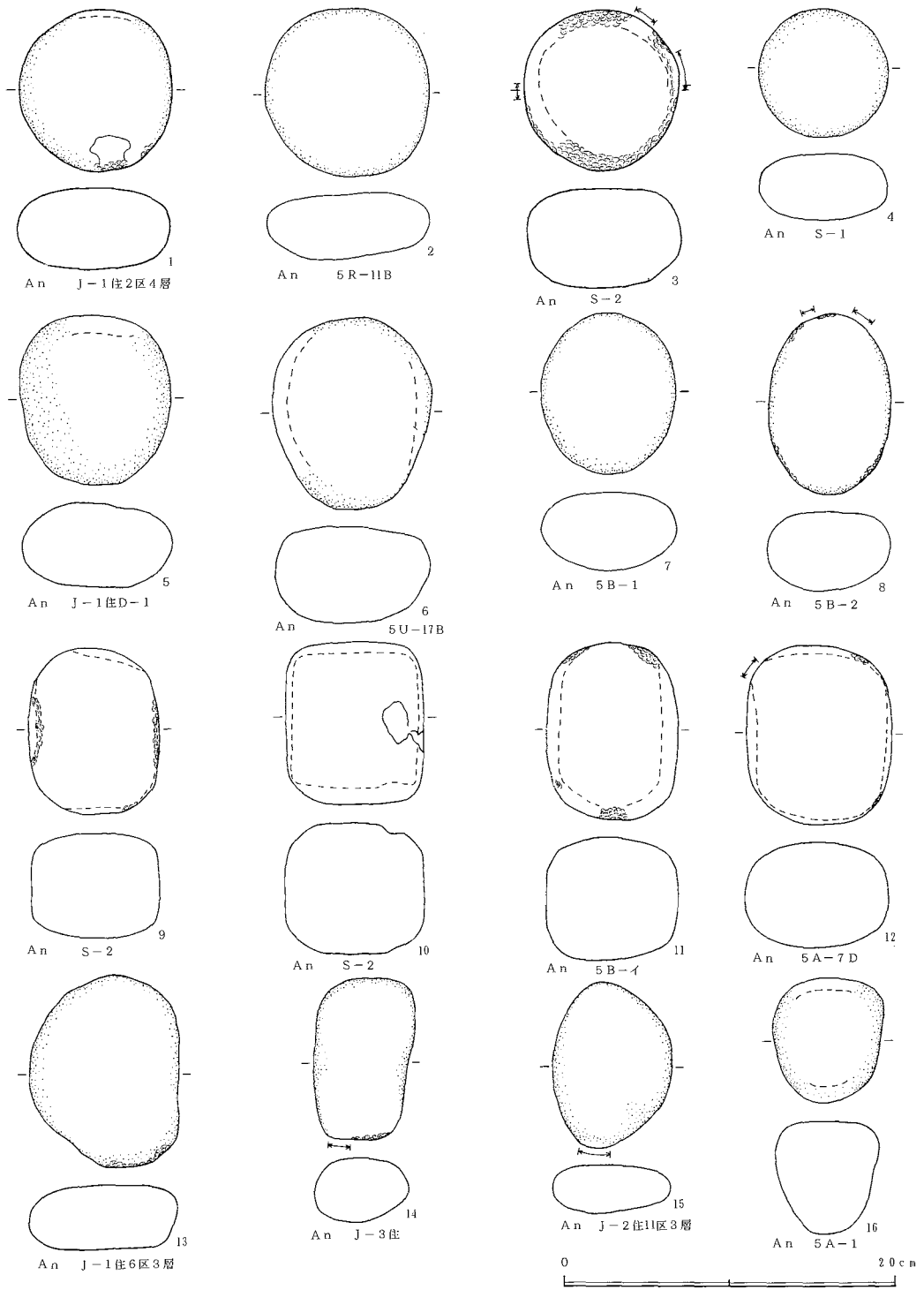


第216図 スクレイパーB類実測図(2)

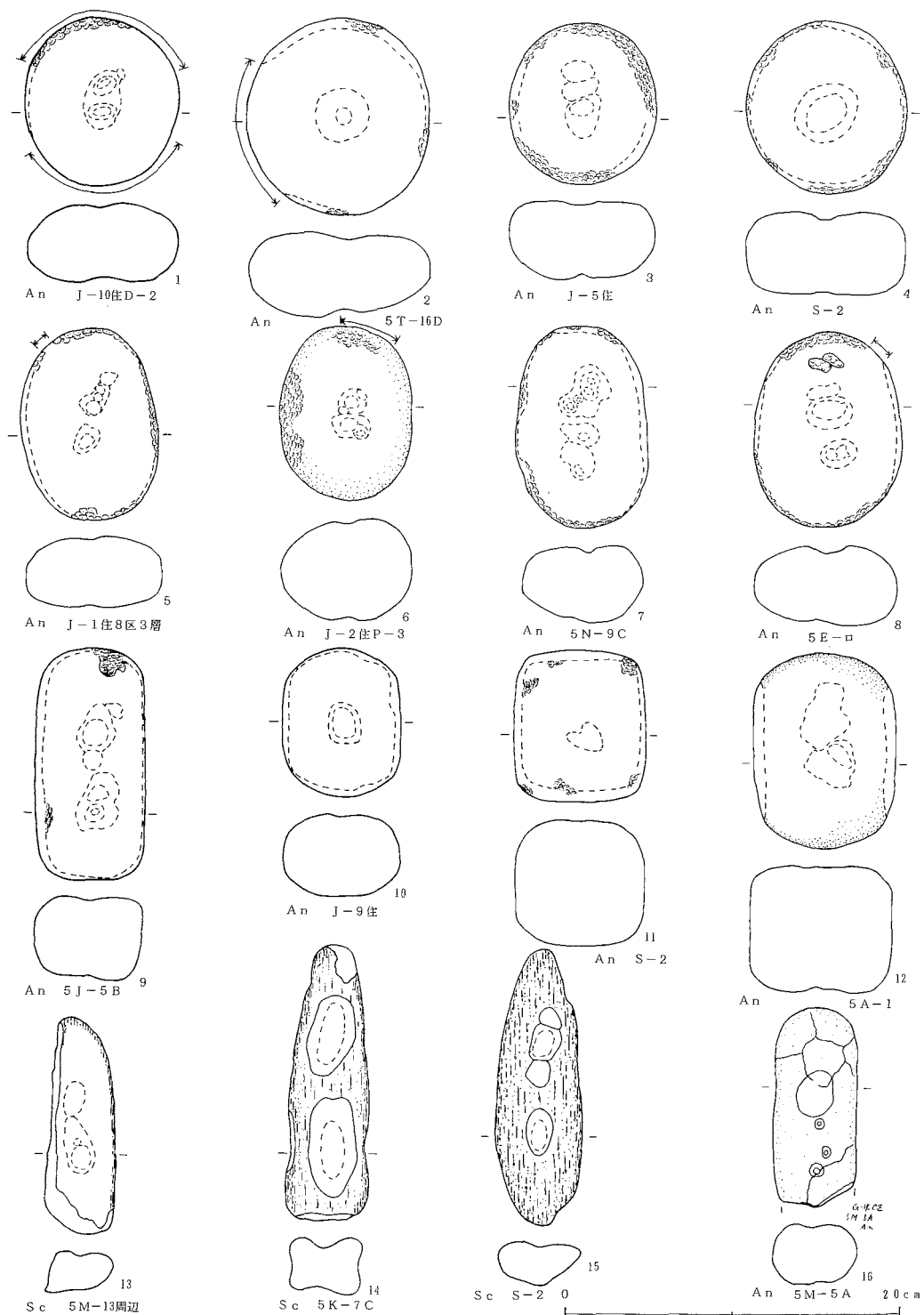


第217図 スクレイパーB類実測図(3)





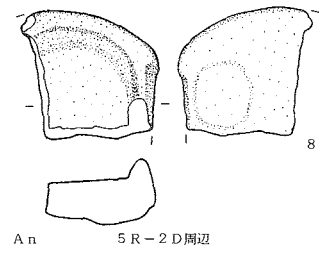
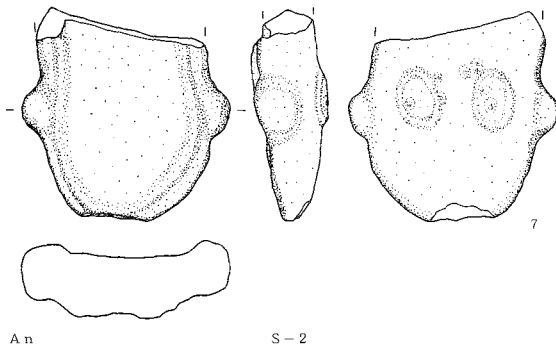
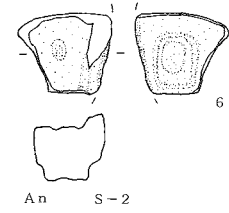
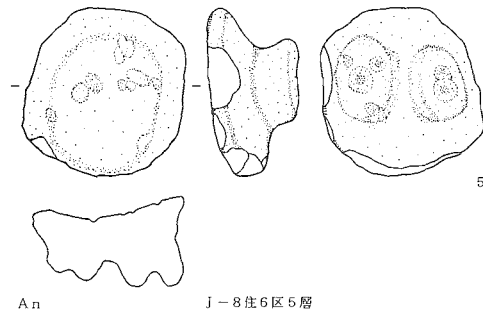
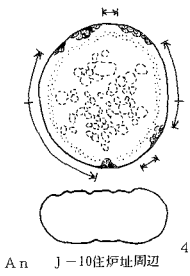
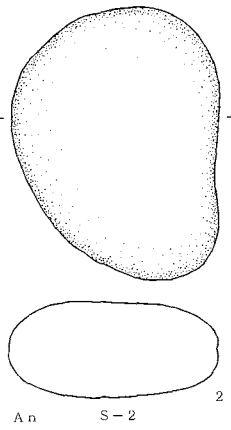
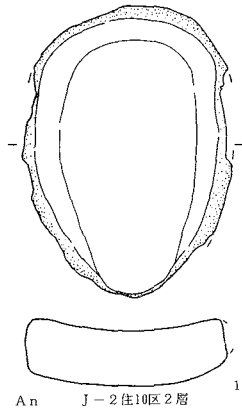
第218図 磨石実測図



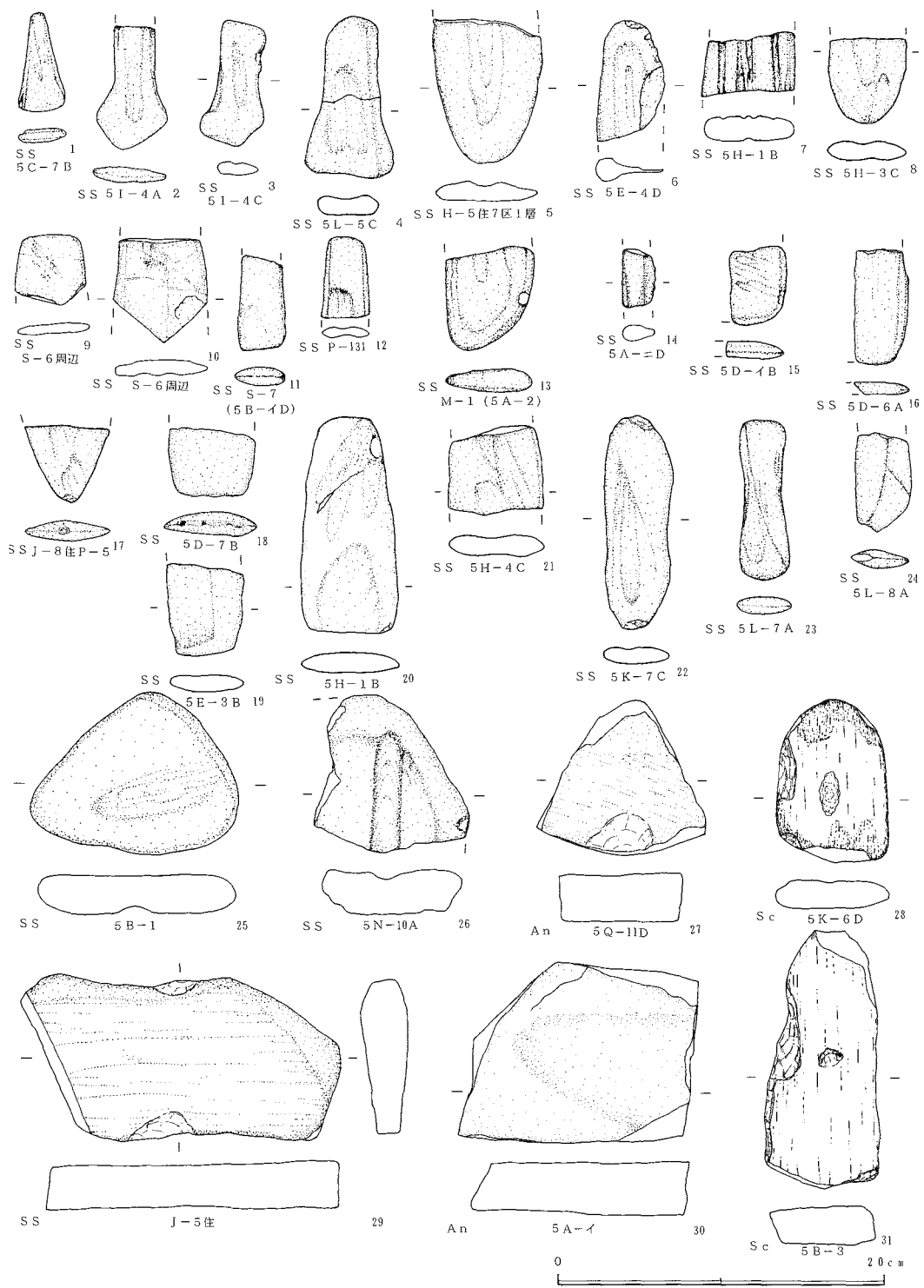
第219図 凹石実測図



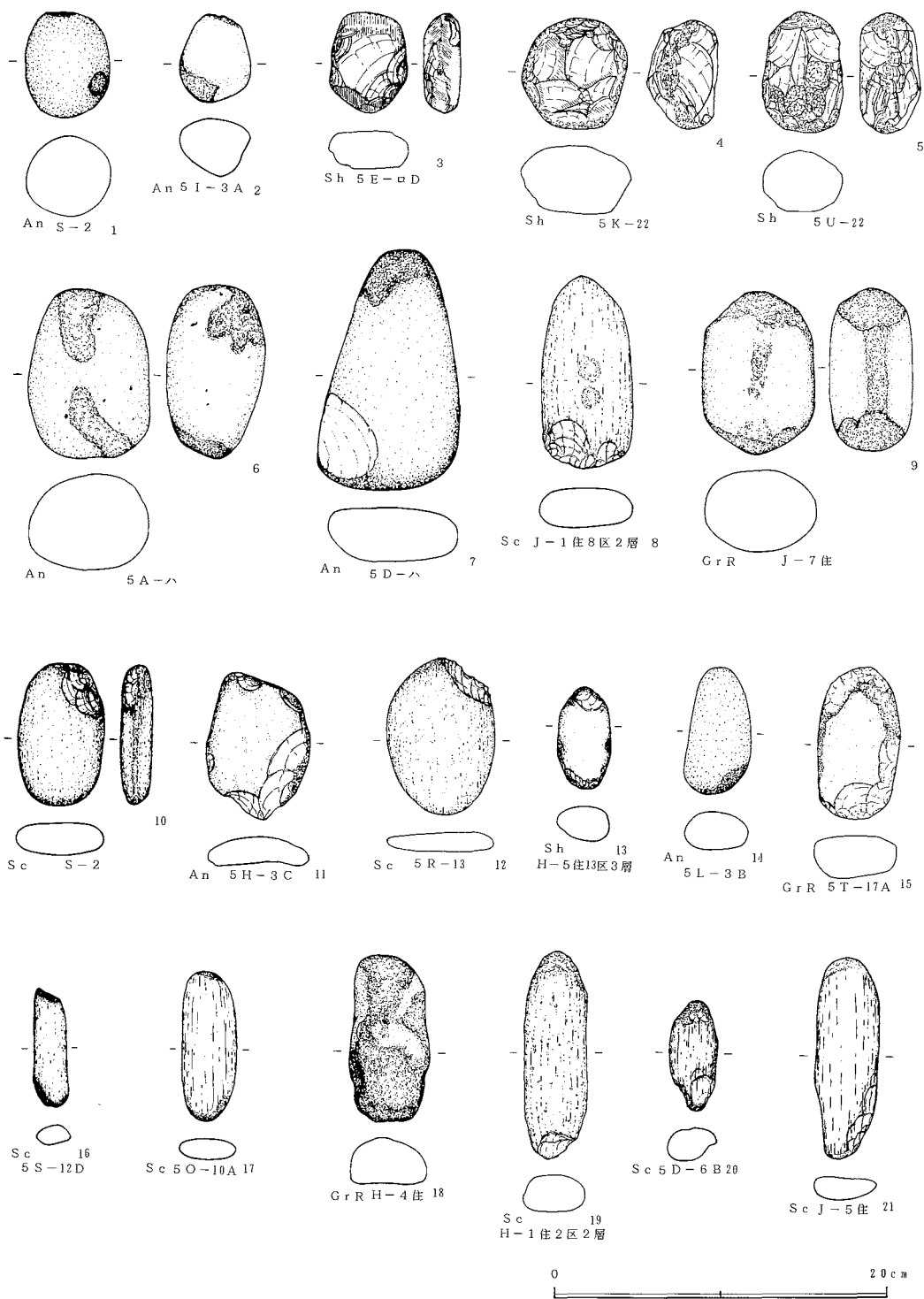
第220図 石皿実測図(1)



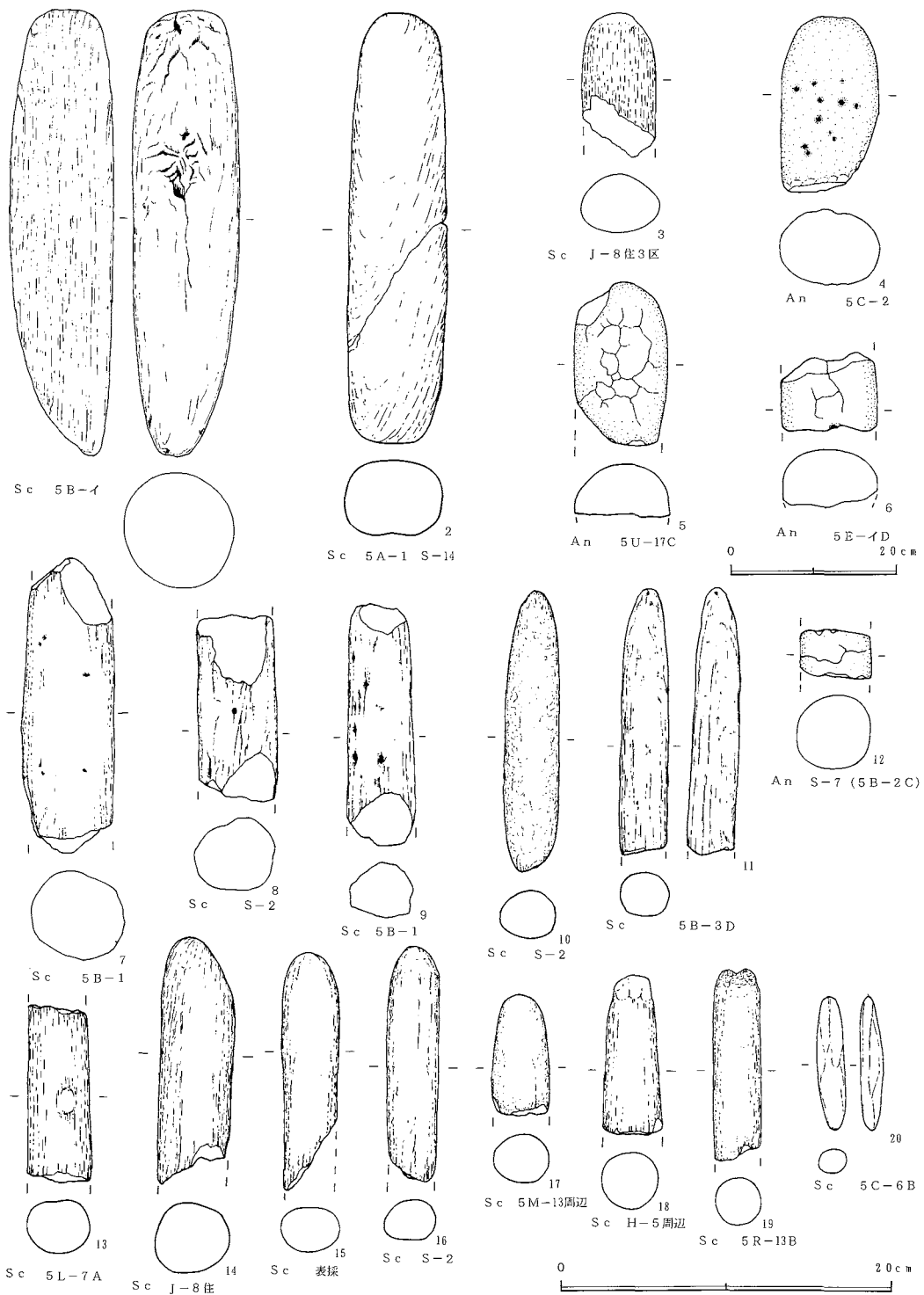
第221图 石皿実測图(2)



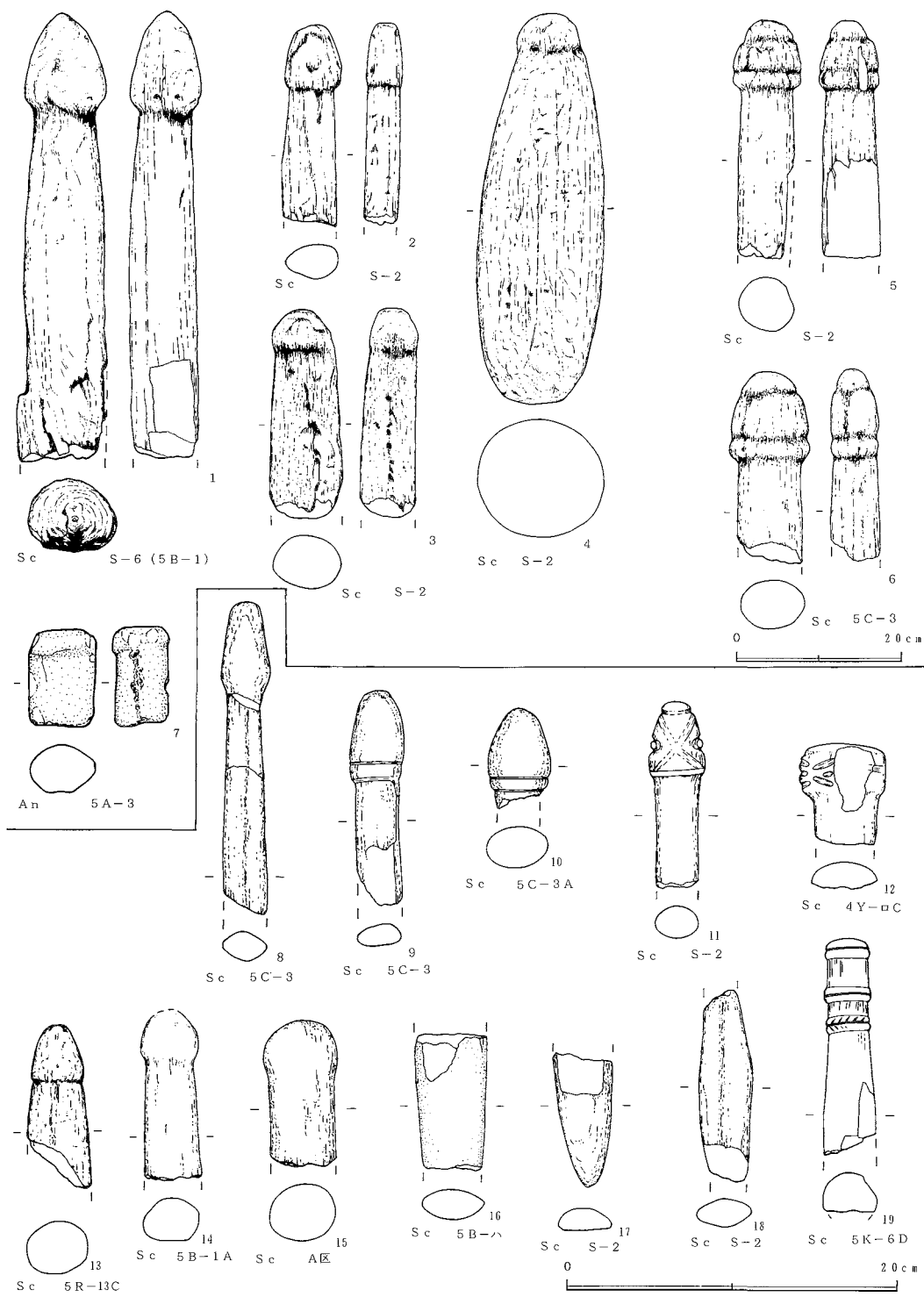
第222图 砥石实测图



第223図 敲石実測図

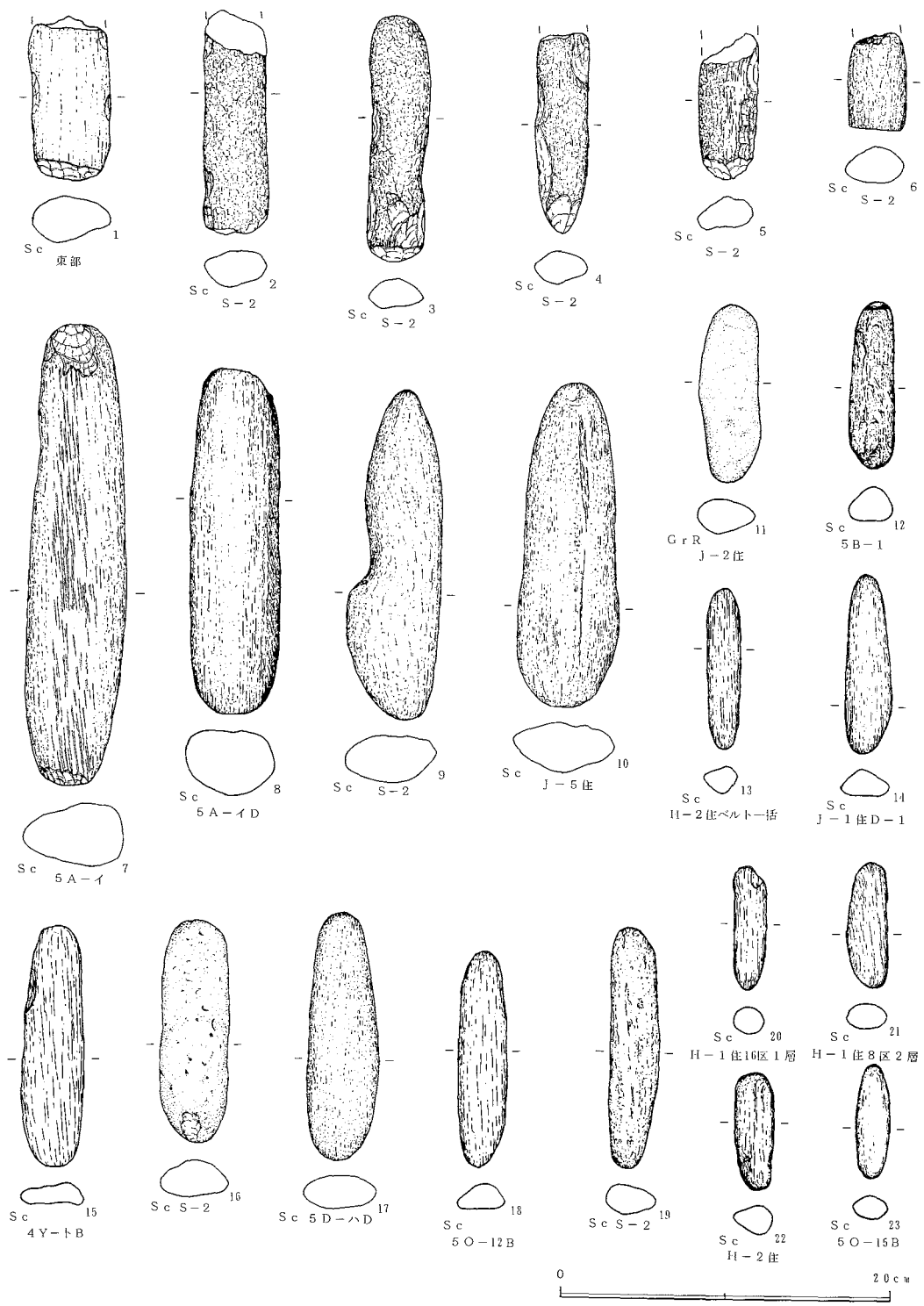


第224图 石棒实测图

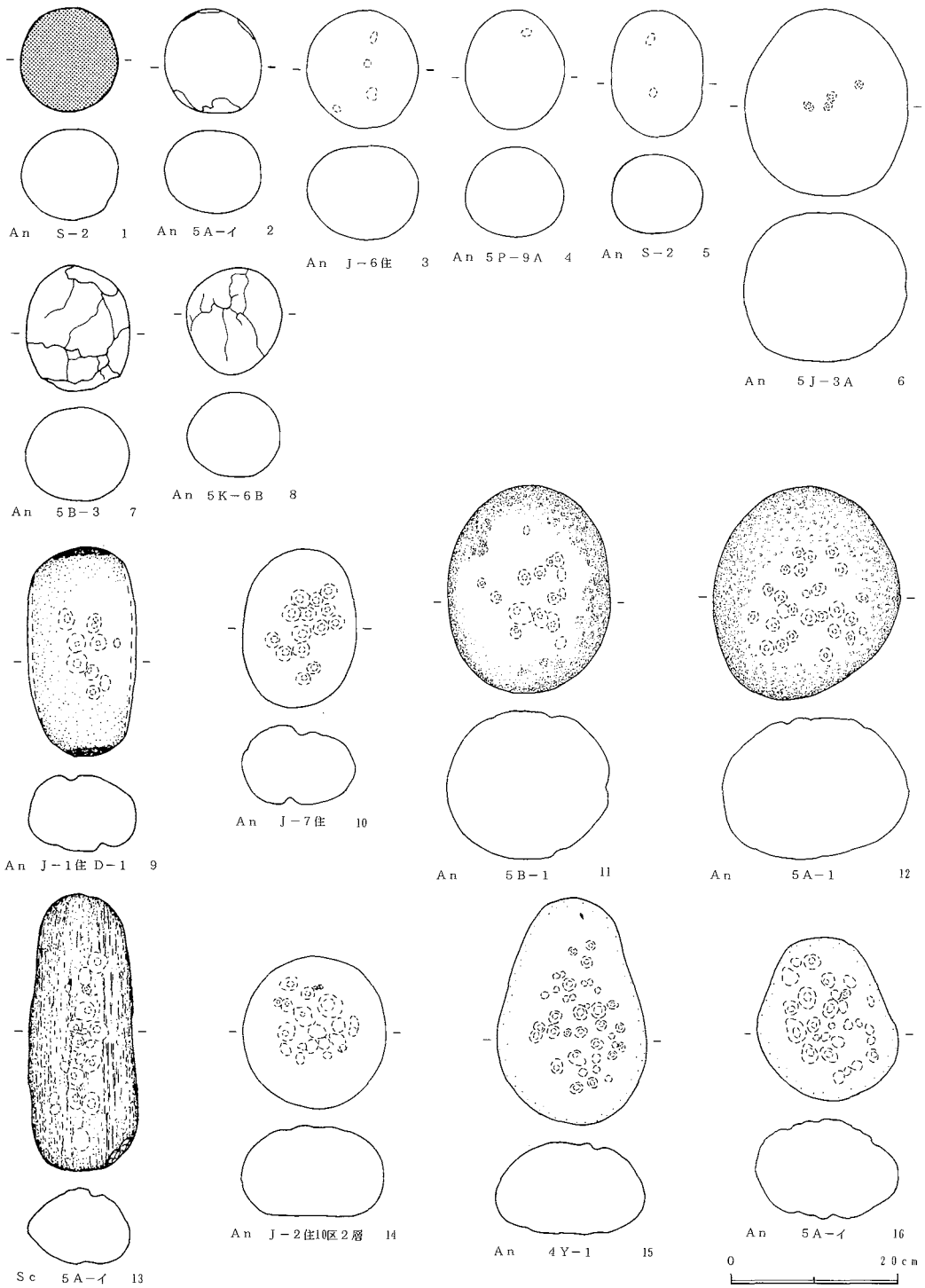


第225図 石棒・石剣実測図

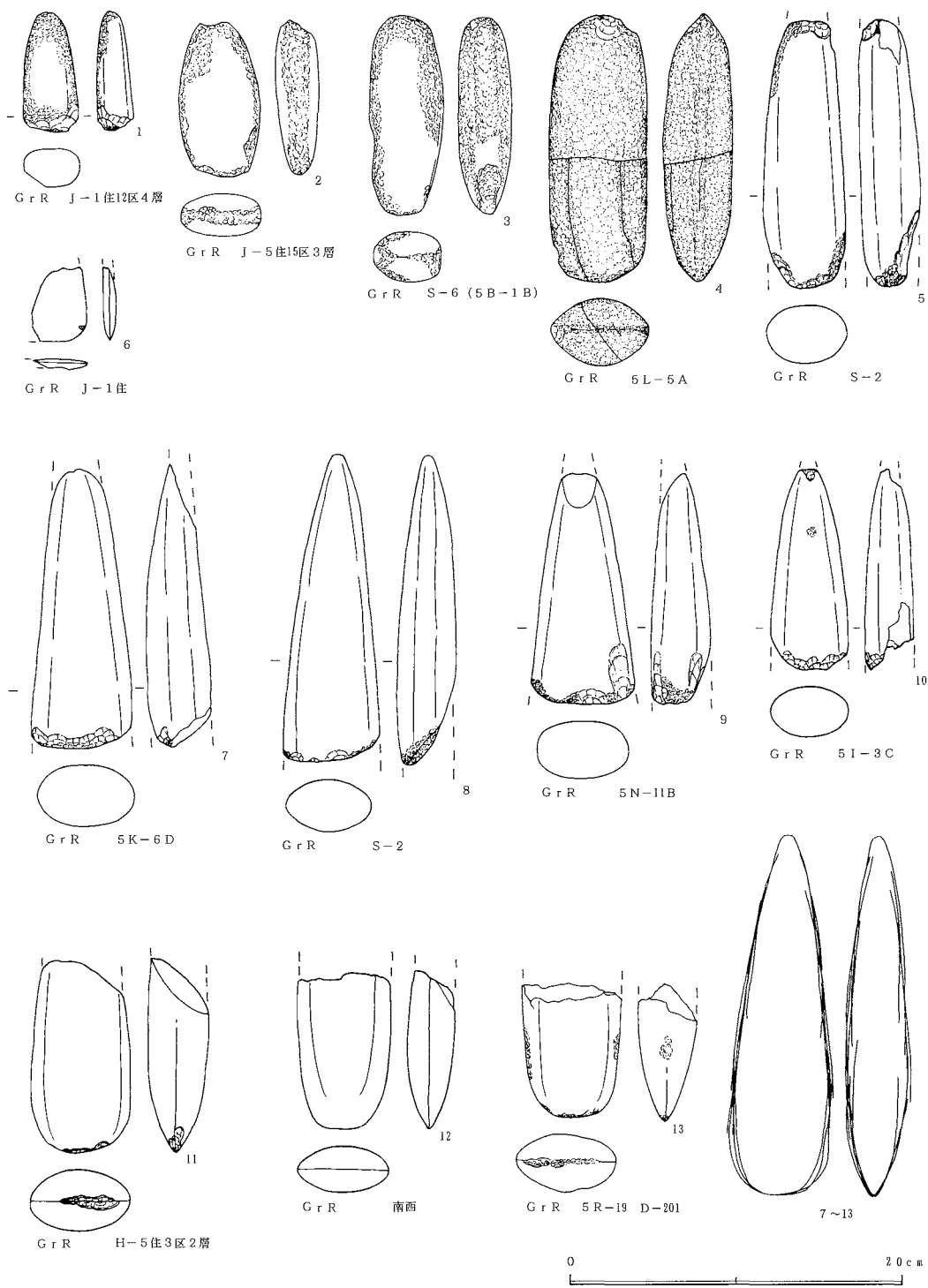




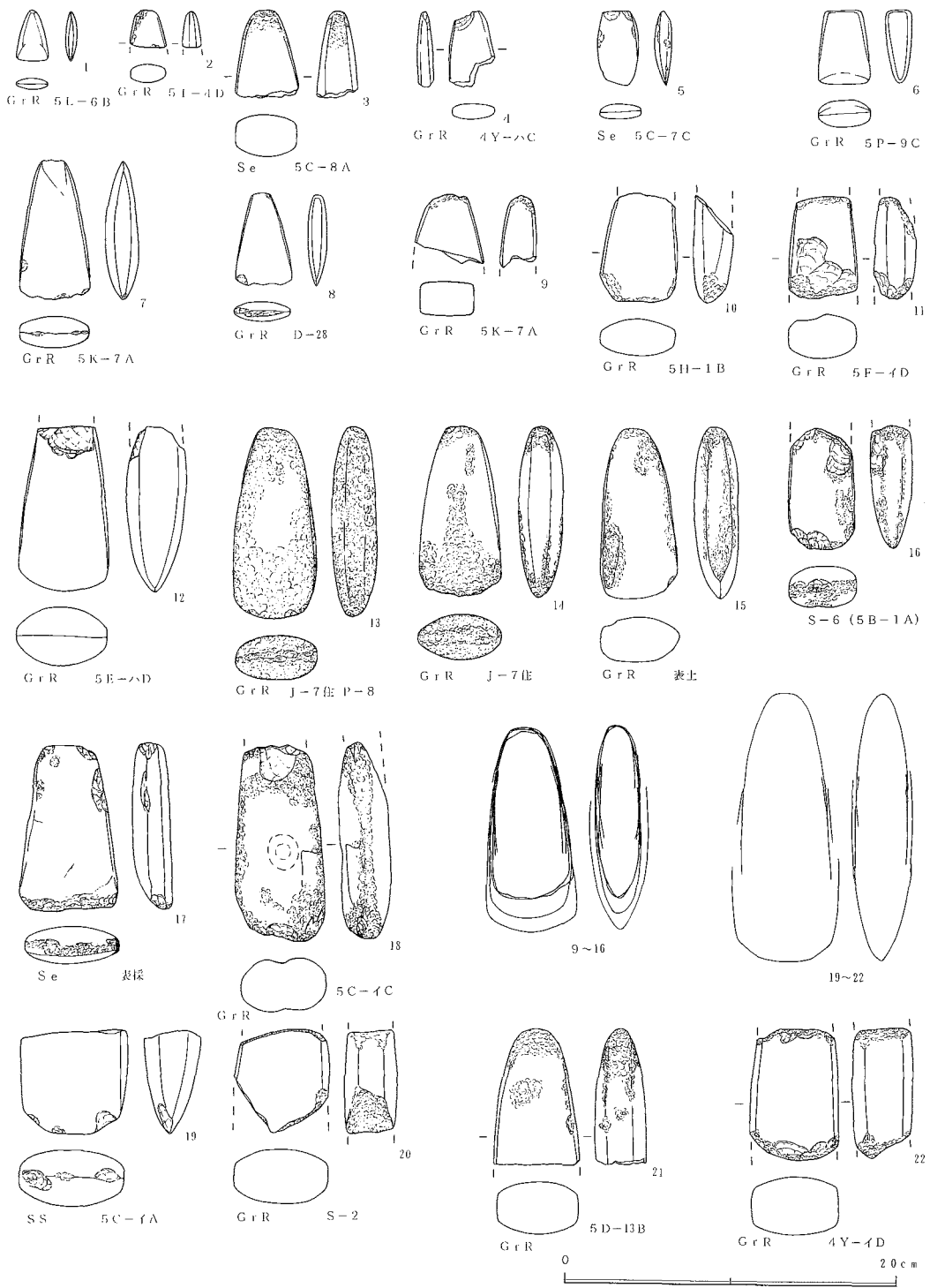
第226図 棒状礫実測図



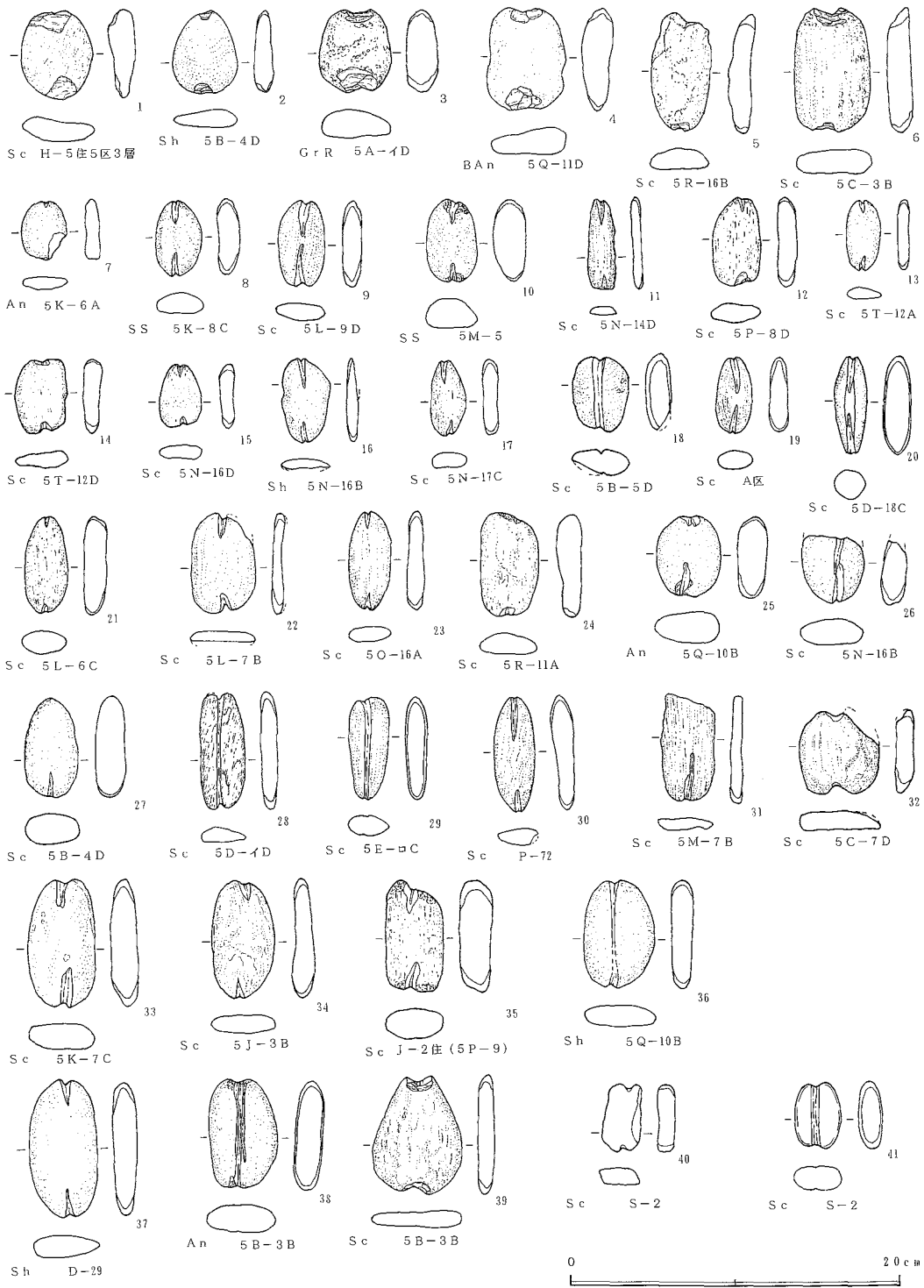
第227図 丸石・多孔石実測図



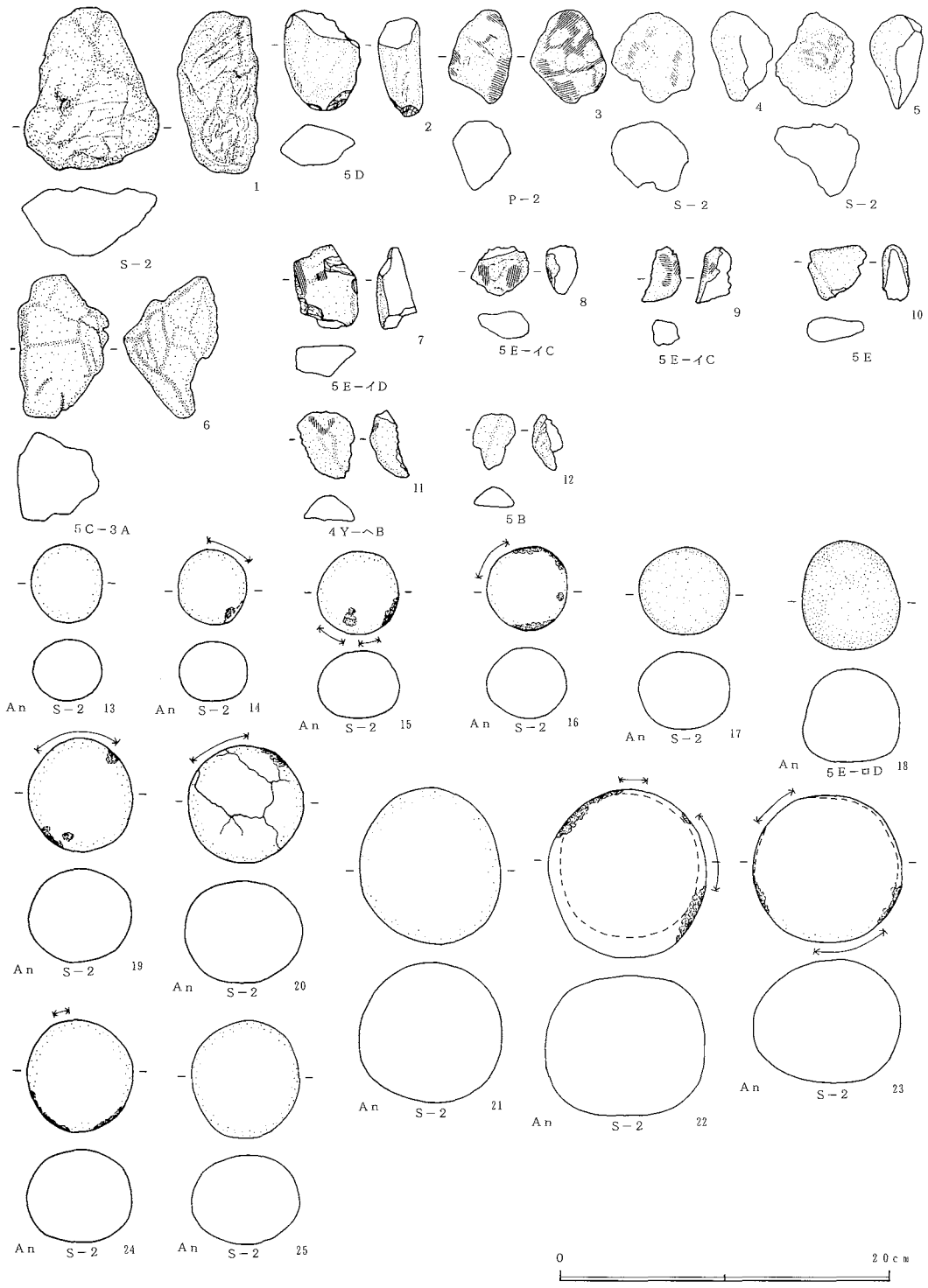
第228図 磨製石斧実測図(1)



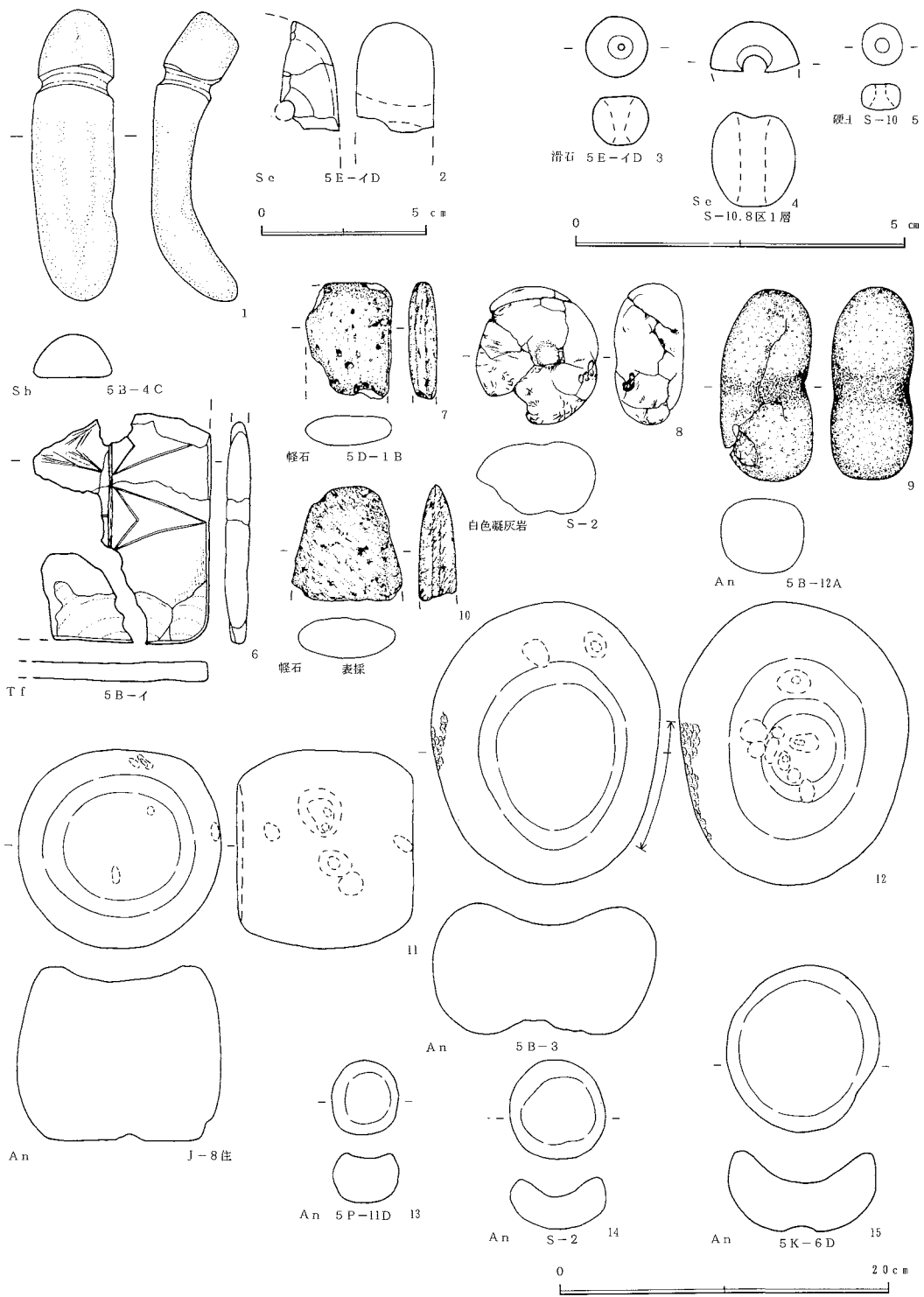
第229図 磨製石斧実測図(2)



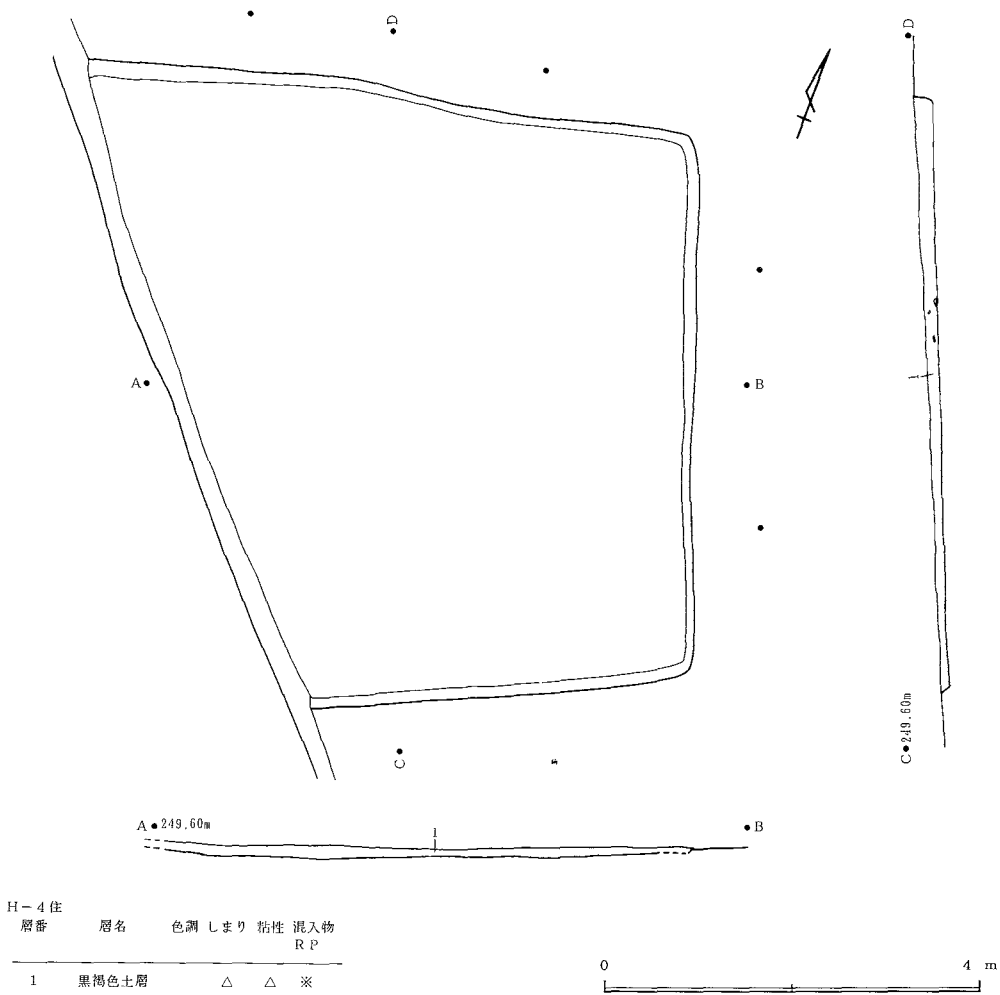
第230図 石錐夷測図



第231図 鉄鈹石・球石実測図

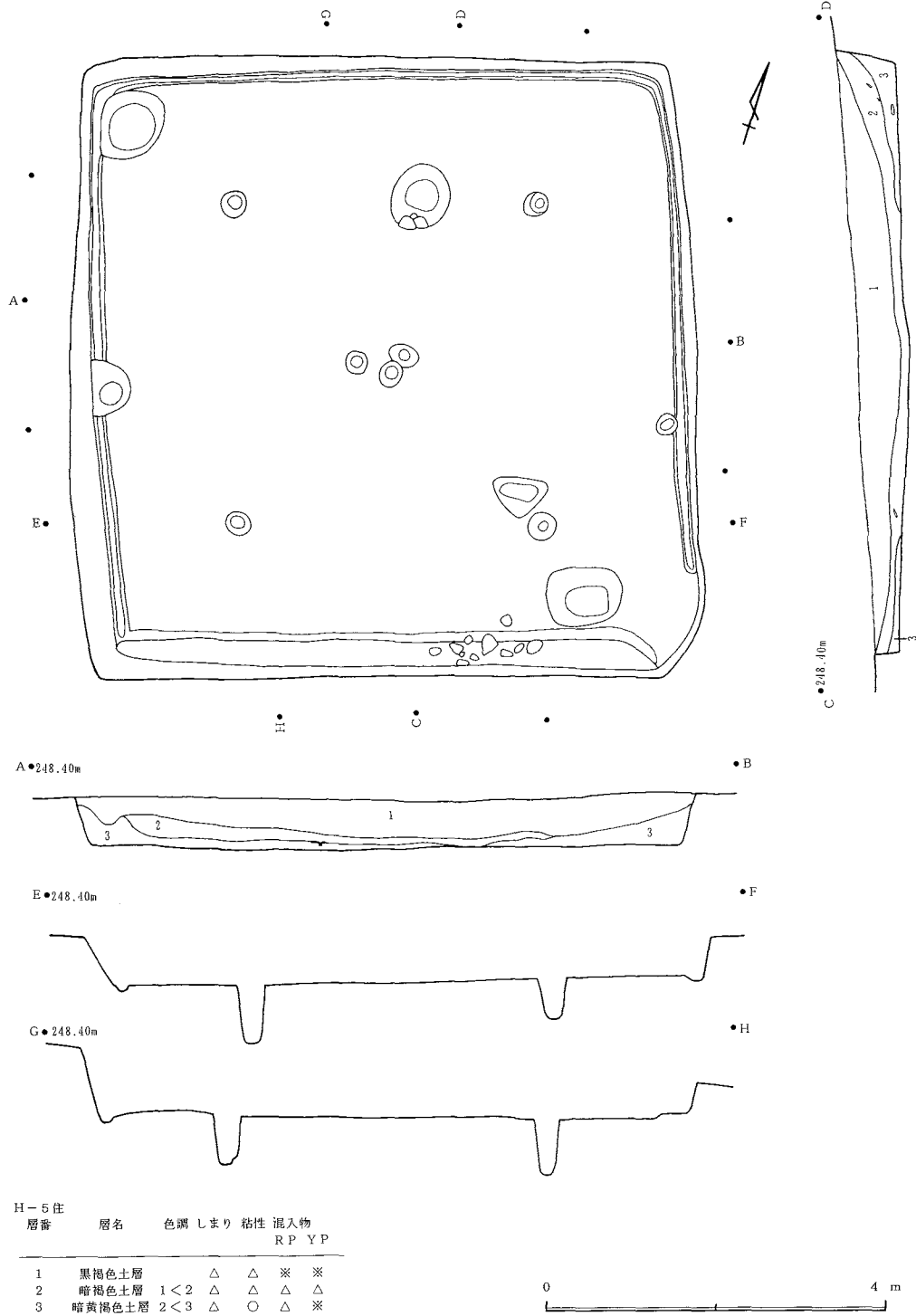


第232図 垂飾・玉・岩版・石製品・小形石皿実測図

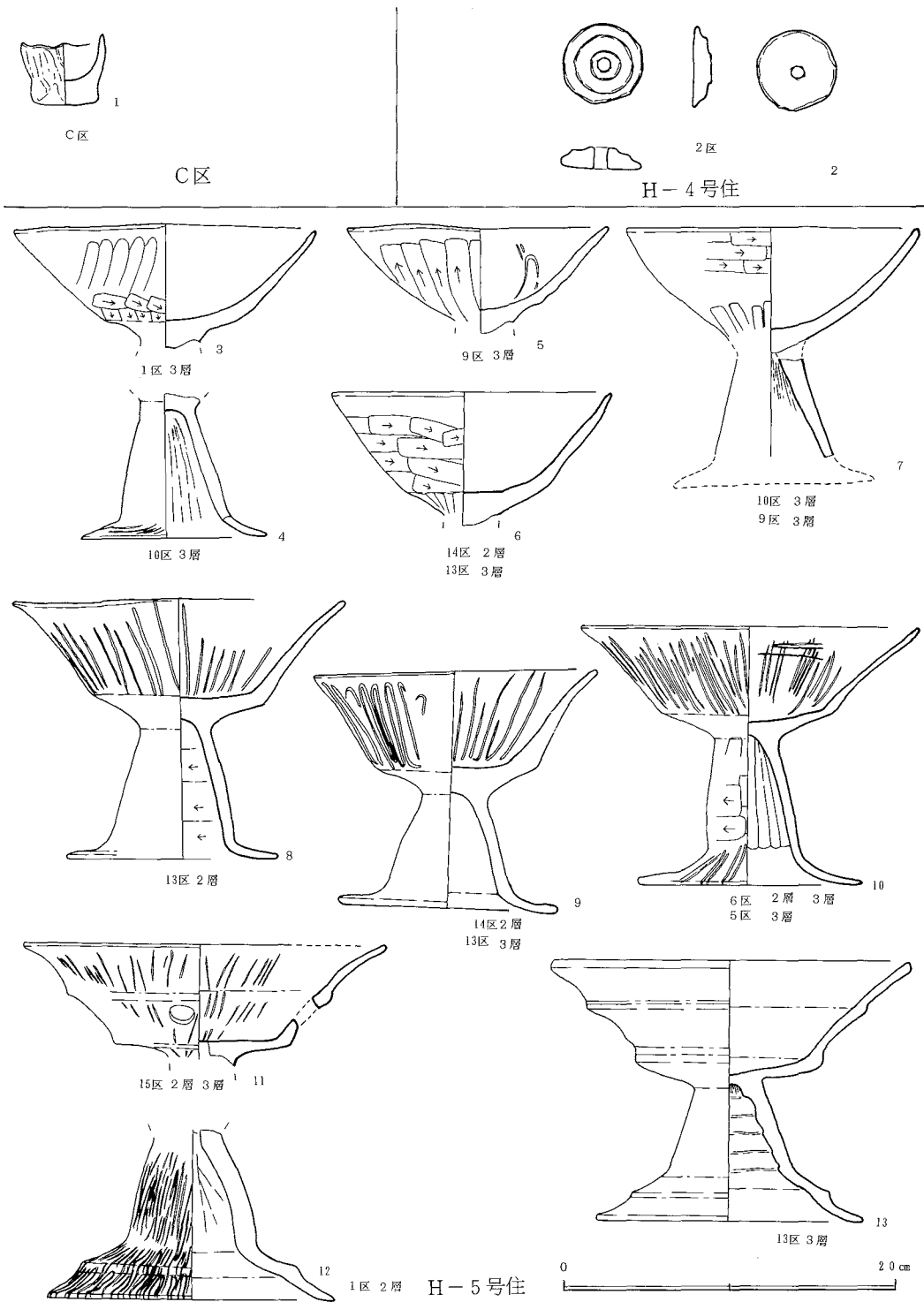


第233図 H-4号住居址実測図

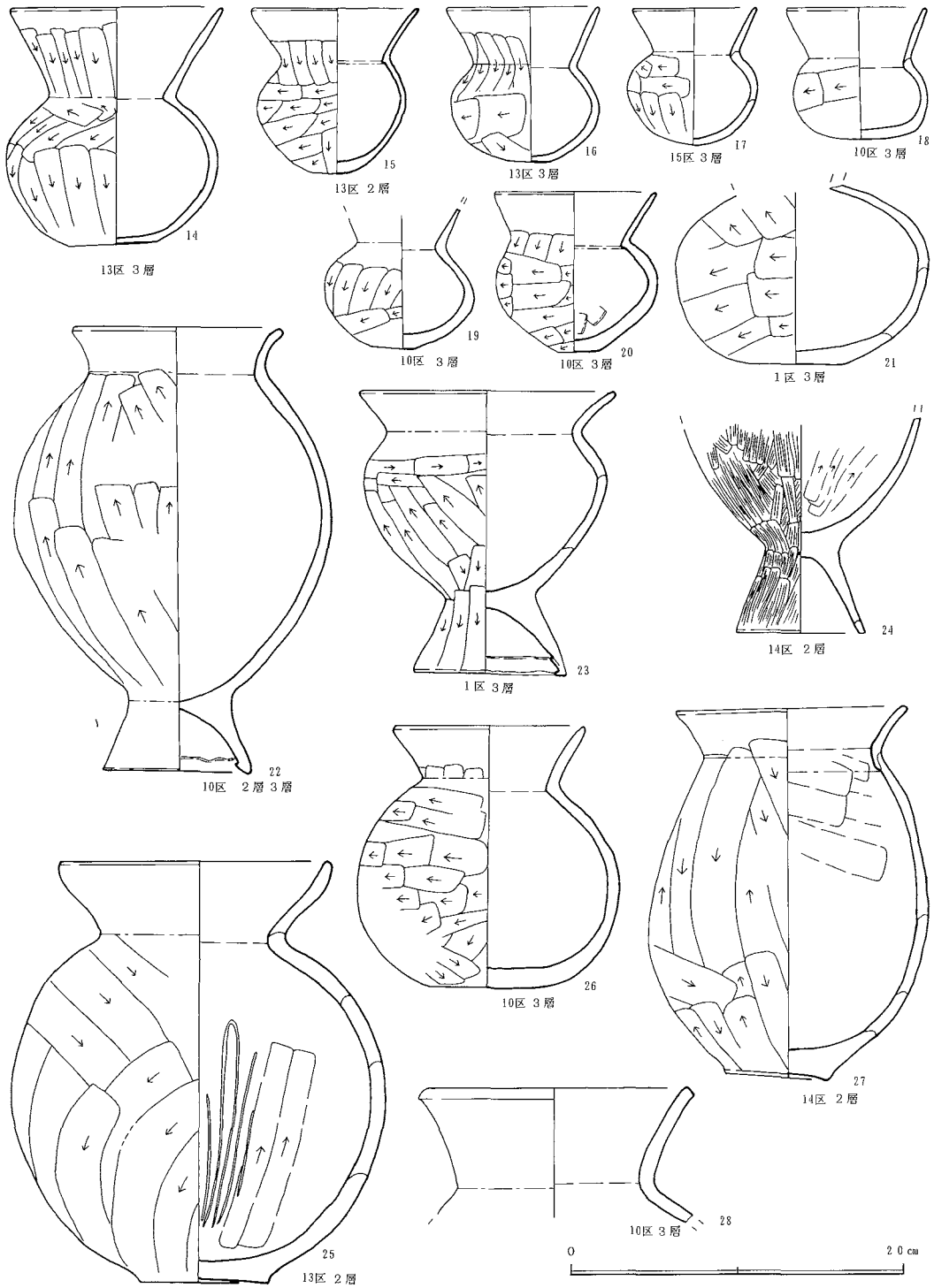




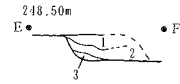
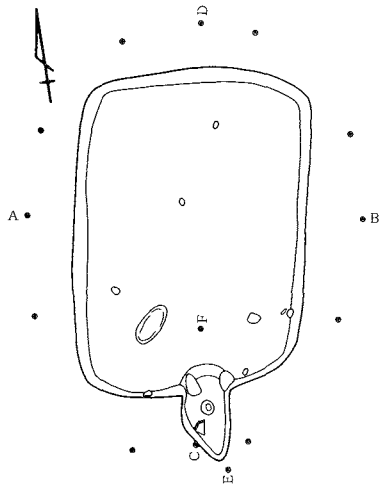
第234図 H-5号住居址実測図



第235図 H-4号住居址・5号住居址出土の遺物(1)

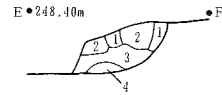
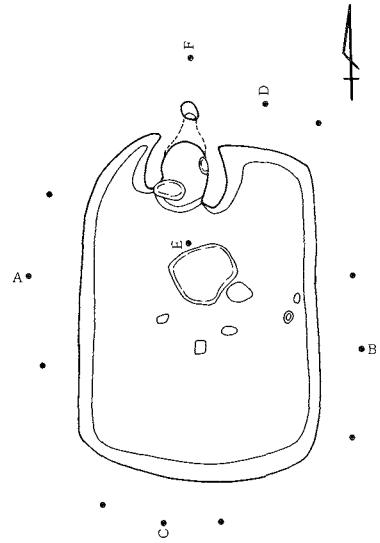
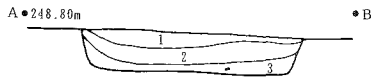


第236図 H-5号住居址出土の遺物(2)



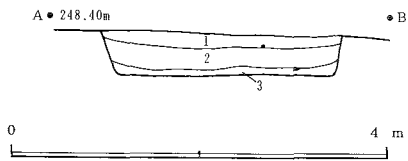
H-2 住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
					R	P	YP	焼土
1	黒褐色土層	○	△					
2	黒褐色土層	1 < 2	◎	○	※			
3	暗褐色土層	2 < 3	◎	○	△	※		
竈1	暗褐色土層		○	△	※			
竈2	暗黄赤褐色土層	1 < 2	△	△	※			○
竈3	暗黄褐色土層	2 < 3	○	△				○

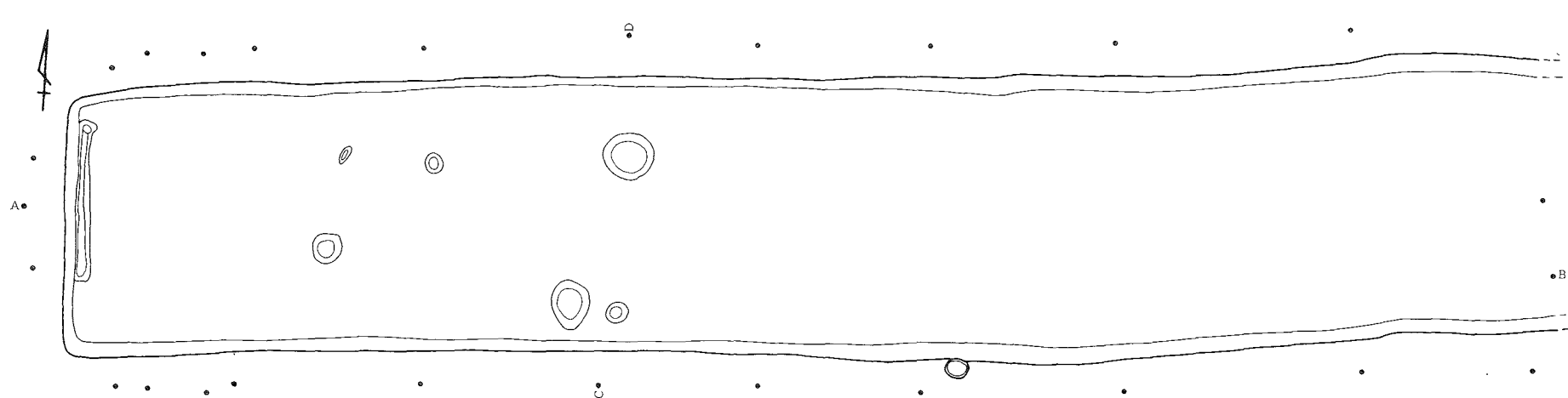


H-3 住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
					R	P	RB	YP	炭化物
1	黒褐色土層	○	△						※
2	黒褐色土層	1 < 2	◎	○	※				△
3	暗褐色土層	2 < 3	◎	○	△	※			※
竈1	黒褐色土層		○	△	※				
竈2	暗黄褐色土層	1 < 2	○	○	△	※			
竈3	暗褐色土層	2 > 3	△	△	※				△
竈4	暗赤褐色土層	3 < 4	△	△	※				※ ○

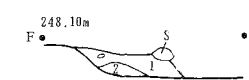
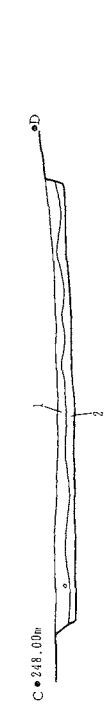
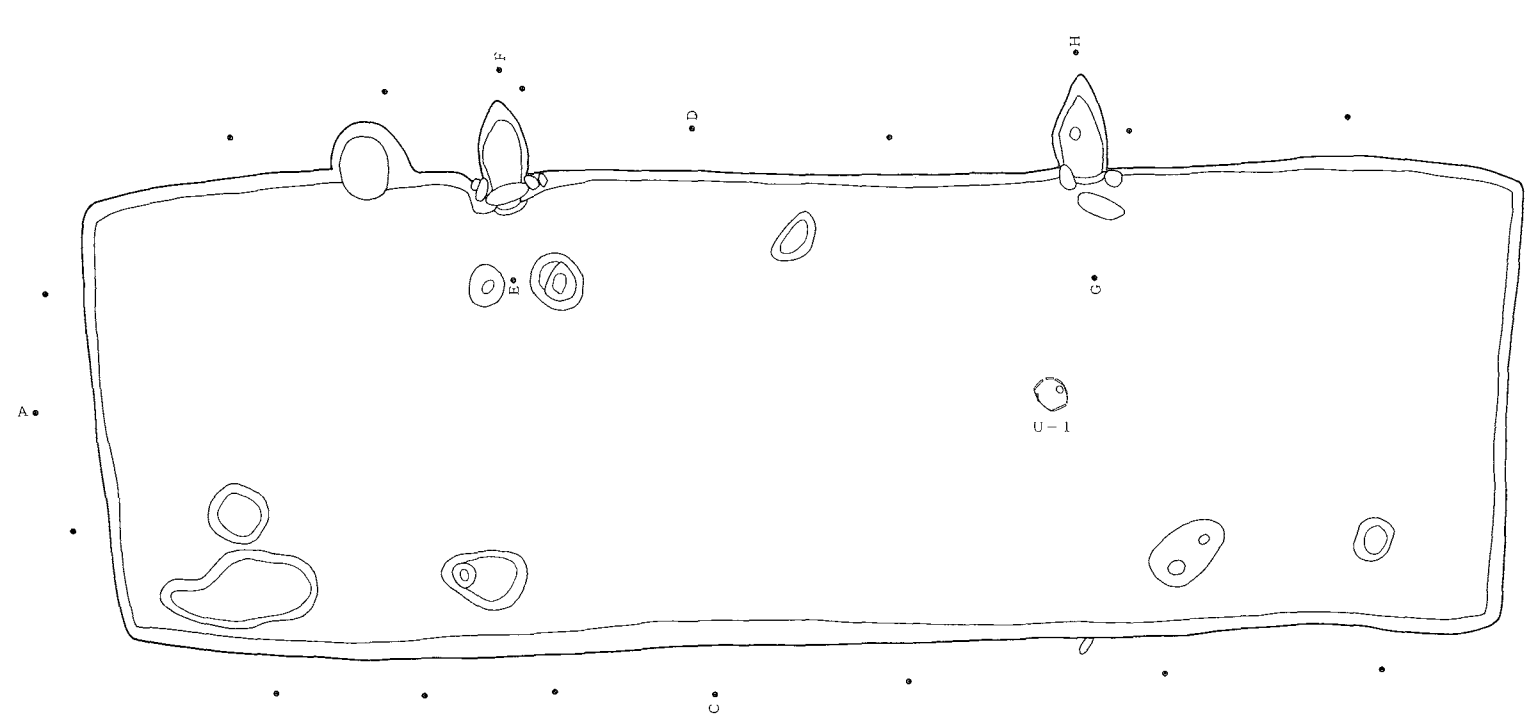


第237図 H-2・3号住居址実測図



H-1住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物					
					R	P	R	B	Y	P
1	黒褐色土層		△	○						※
2	黒褐色土層	1<2	○	○			※			△
3	暗褐色土層	2<3	○	○			△		※	△

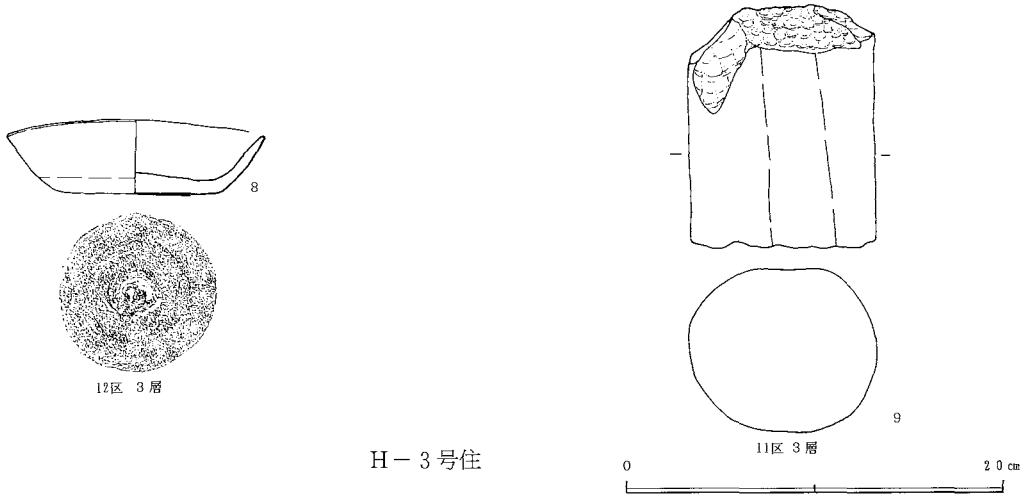
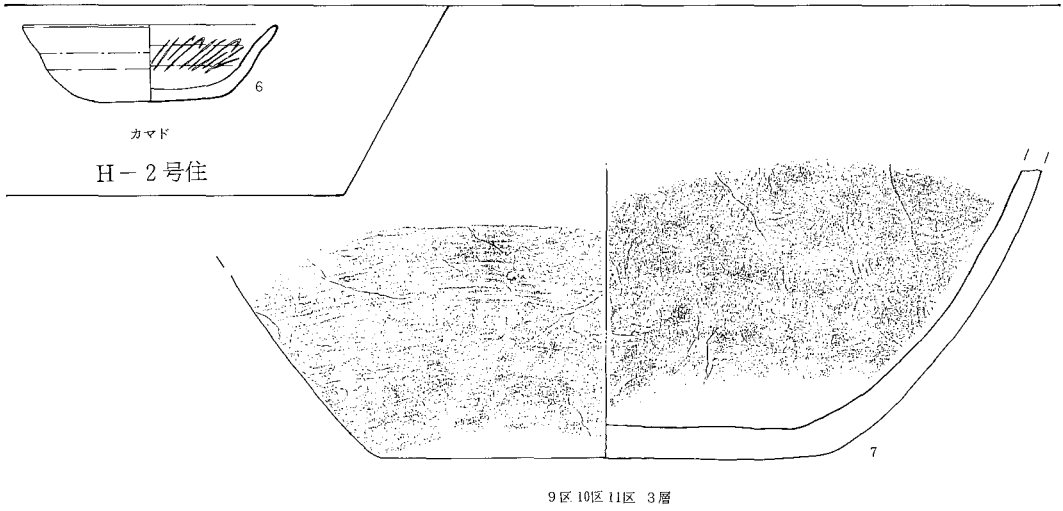
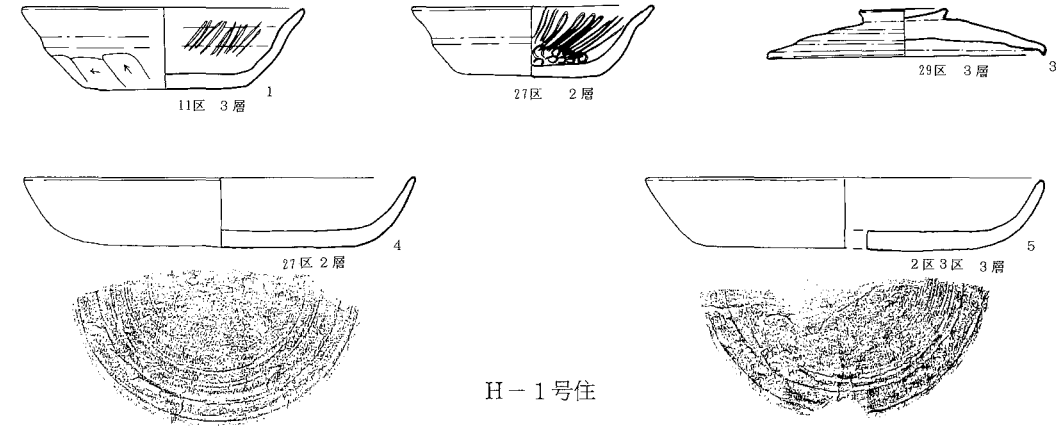


H-6住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物					
					R	P	R	B	W	焼土
1	黒褐色土層		△	○		△				※
2	暗褐色土層	1<2	○	○				※		
竈1-1	黒褐色土層		△	○						※
竈1-2	暗赤褐色土層	1<2	△	○						△
竈2-1	黒褐色土層		△	○						
竈2-2	暗赤褐色土層	1<2	△	○						△



第238図 H-1・6号住居址実測図



第239図 H-1・2・3号住居址出土の遺物

# 圖 版



天神原遺跡全景(1)



天神原遺跡全景(2)



## 2 天神原遺跡



天神原遺跡 祭壇状遺構



天神原遺跡 配石墓



天神原遺跡 全景(3)



祭壇状遺構



配石墓



巨石間遺物出土状況



作業風景

4 天神原遺跡



P-31・P-39出土の深鉢（天神原式）



グリッド出土の深鉢（天神原式）



グリッド出土の深鉢（天神原式）



グリッド出土の深鉢（天神原式）



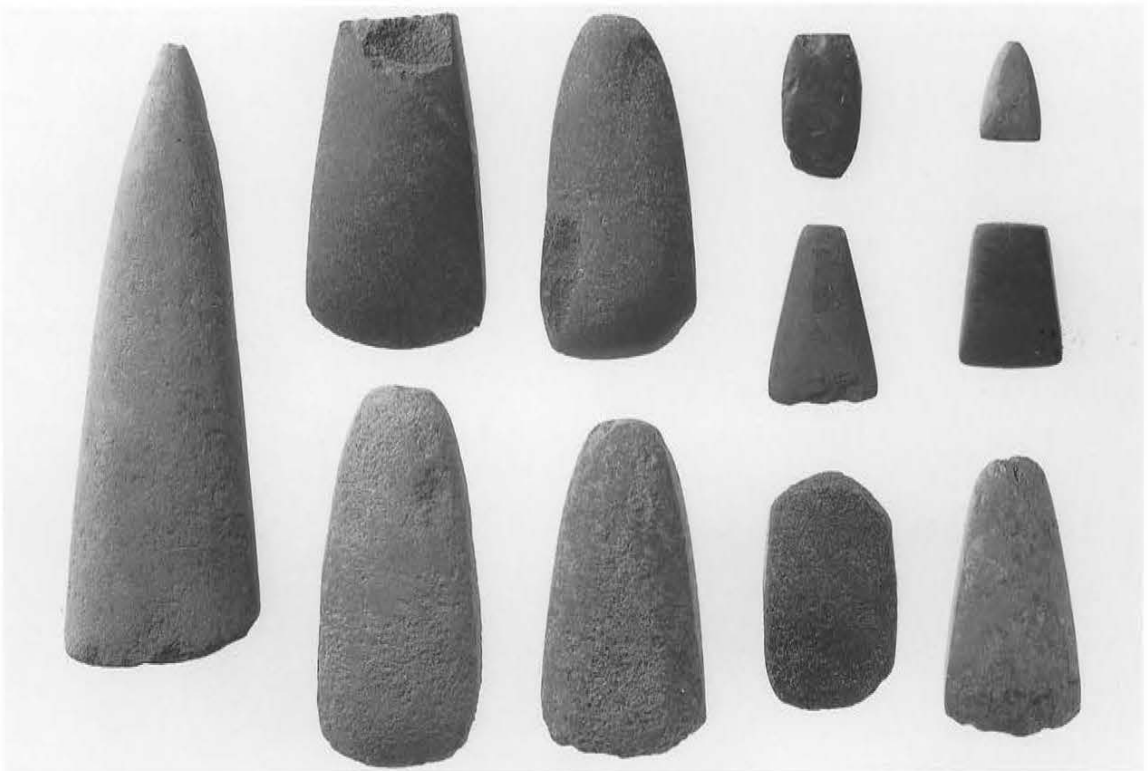
グリッド出土の深鉢（天神原式）



D-12号土坑出土の深鉢（天神原式）



石棒

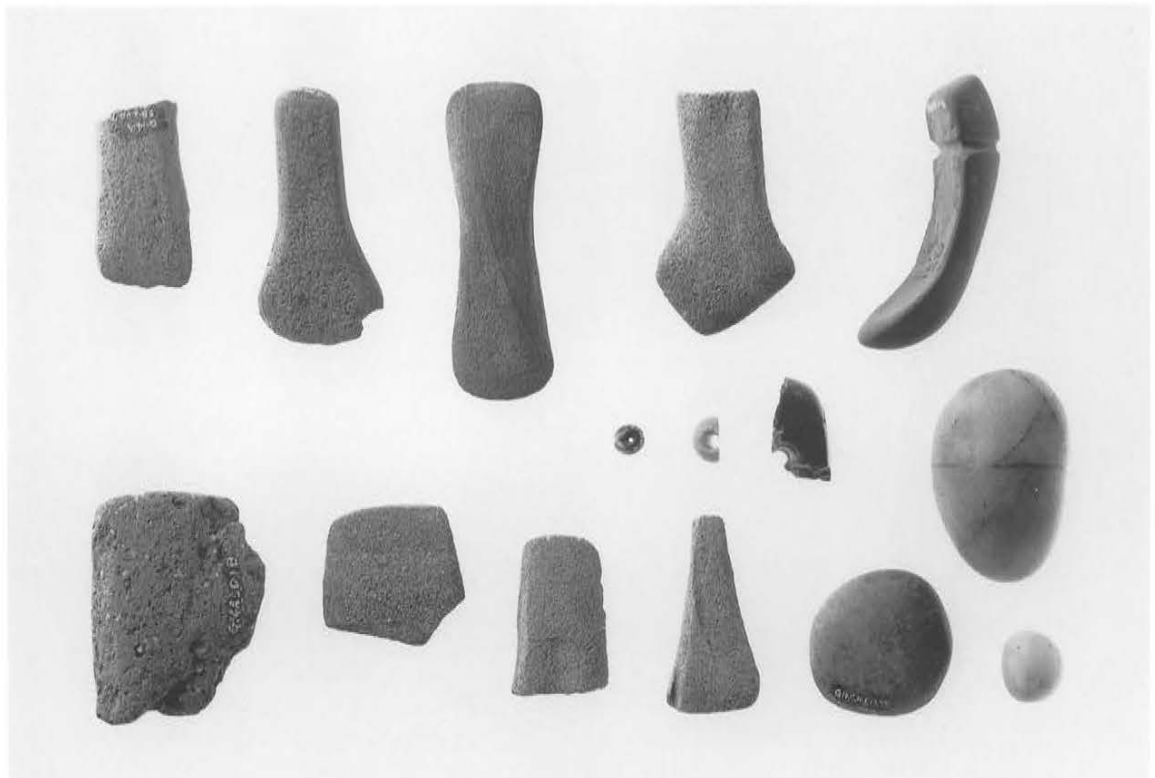


磨製石斧

6 天神原遺跡

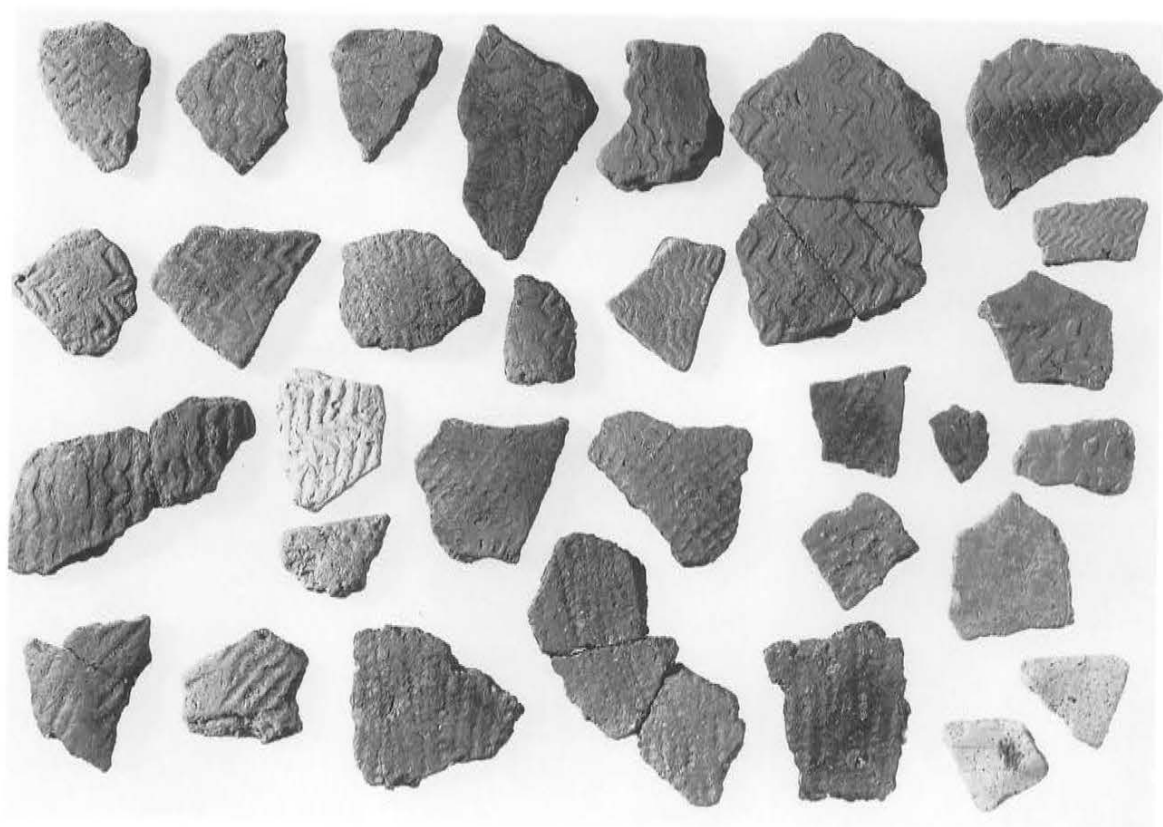
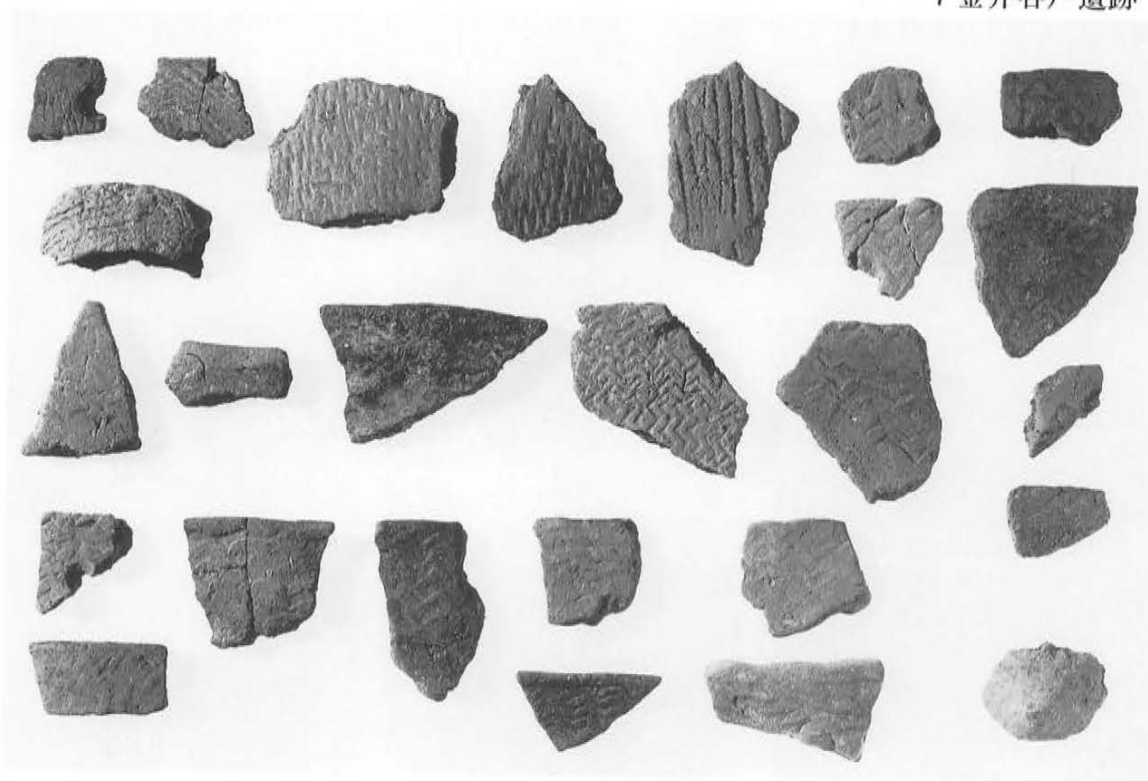


鉄鉱石



砥石・玉・垂飾・石製品  
天神原遺跡出土の遺物





金井谷戸遺跡出土の押型文土器

8 中原遺跡



J-15号住居址出土の深鉢



J-11号住居址出土の深鉢



J-11号住居址出土の深鉢



J-3号住居址出土の深鉢



J-1号住居址出土の深鉢



J-15号住居址出土の深鉢



J-15号住居址出土の深鉢



J-14号住居址出土の深鉢

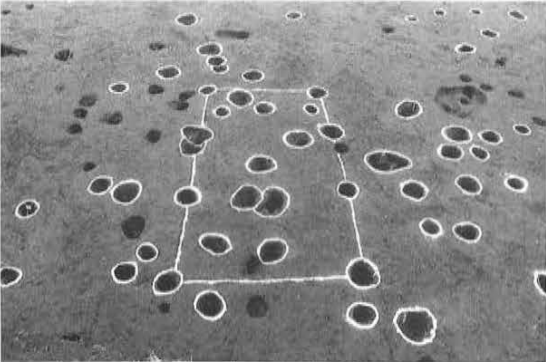


J-6号住居址出土の深鉢



中原遺跡全景





HT-1号掘立柱建物址



HT-2号掘立柱建物址



1号陷穴



2号陷穴



M-1号溝



M-1号溝土層断面



M-1号溝橋脚部



中原遺跡C区全景



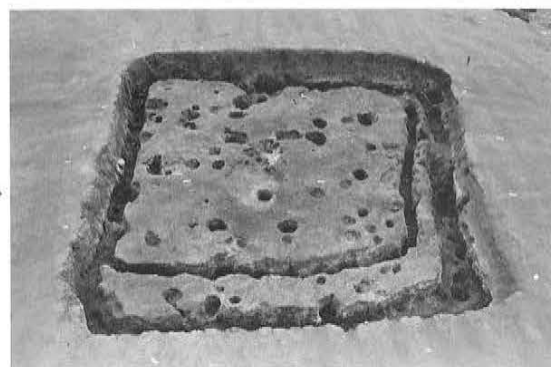
J-3・4・9号住居址



J-5号住居址



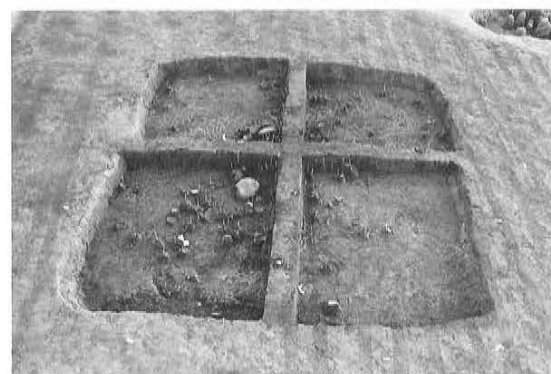
J-5号住居址炉址



J-6号住居址



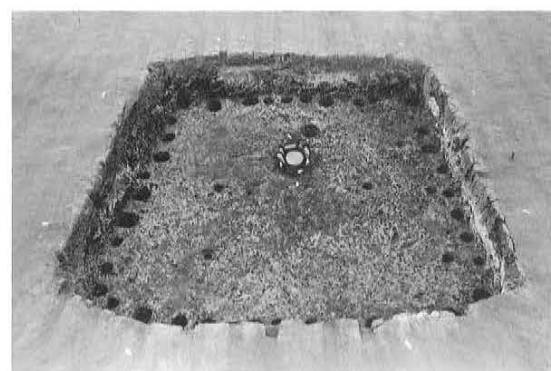
J-6号住居址炉址



J-7号住居址



J-7号住居址遺物出土狀況



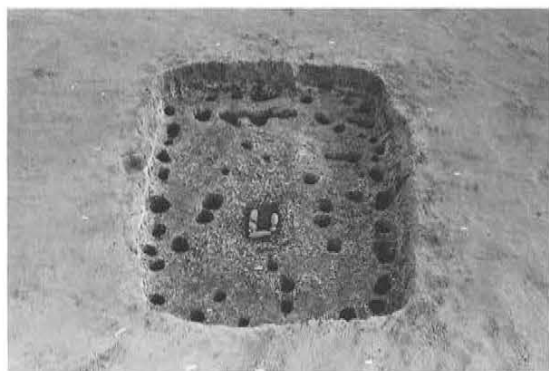
J-8号住居址



J-8号住居址炉址



中原遺跡D区全景



J-10号住居址



J-10号住居址炉址



J-11号住居址

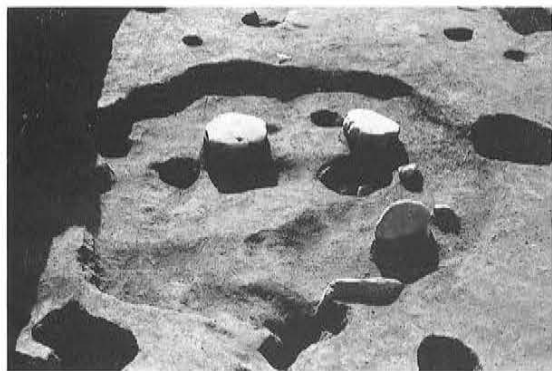


J-11号住居址炉址





J-14号住居址



J-14号住居址炉址



J-14号住居址炉址



J-12号住居址



J-12号住居址炉址



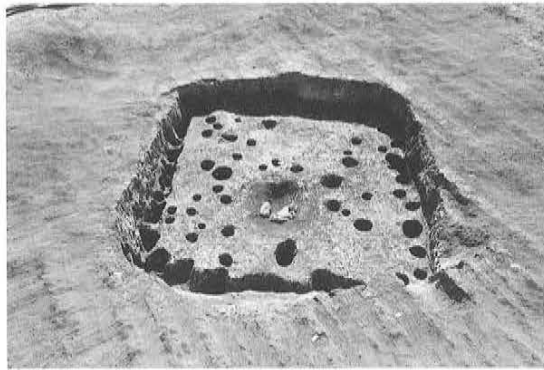
中原遺跡E区全景



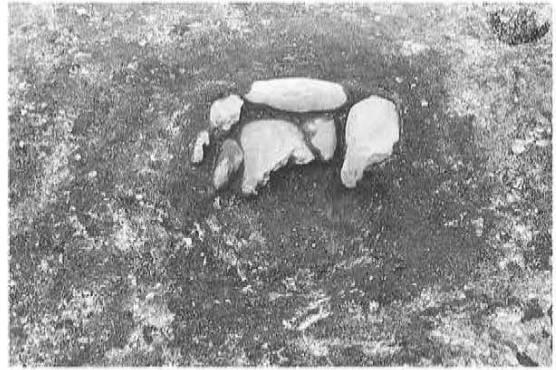
J-16号住居址



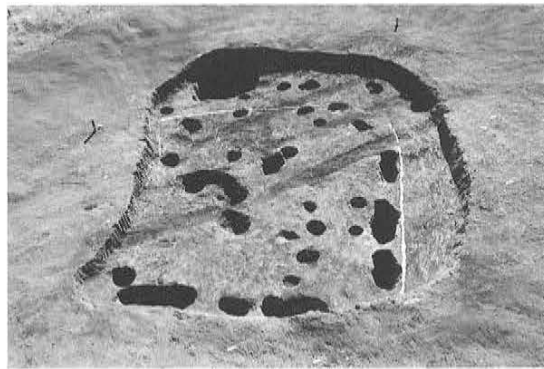
J-16号住居址炉址



J-17号住居址



J-17号住居址炉址



J-19号住居址



3号陷穴



中原遺跡 F区全景 (1)



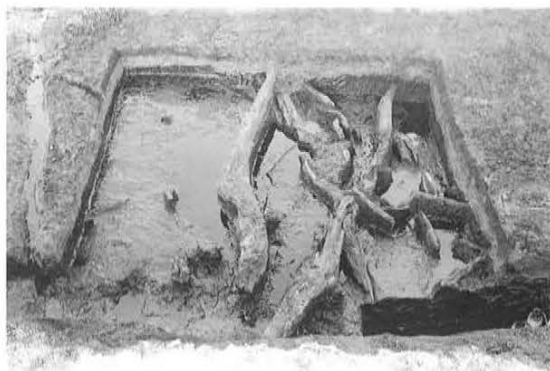
中原遺跡 F区全景 (2)



M-1号溝南西隅部分



水場・流木

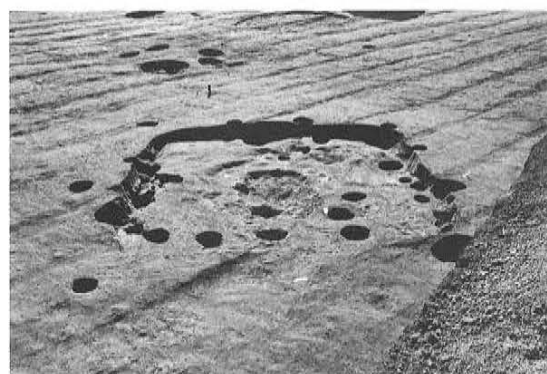


馬骨出土状況





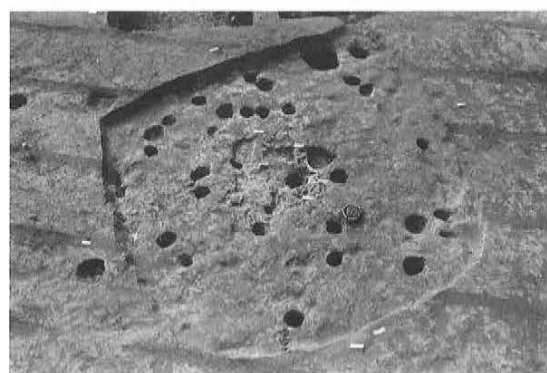
東畑遺跡全景



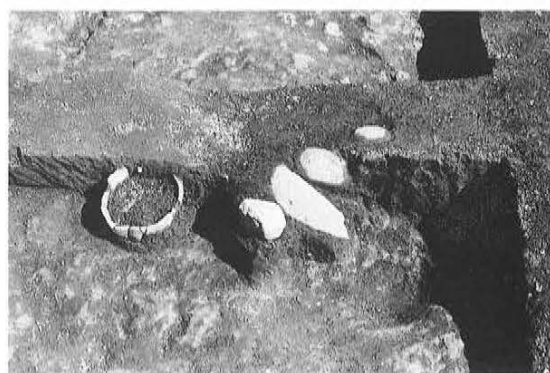
J-1号住居址



J-1号住居址炉址



J-2号住居址



J-2号住居址遺物出土状況





J-3号住居址



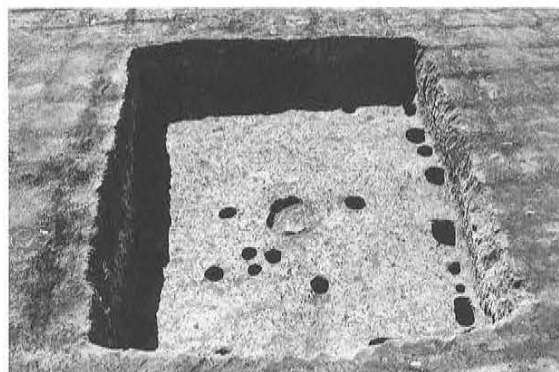
J-3号住居址炉址



J-4号住居址



J-6号住居址



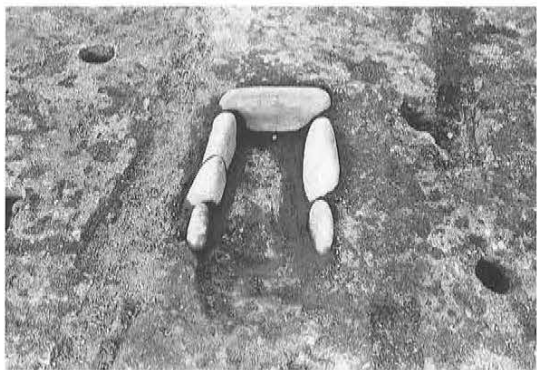
J-5号住居址



J-5号住居址炉址



J-7号住居址



J-7号住居址炉址



東畑遺跡全景



円形柱穴列遺構



J-8号住居址



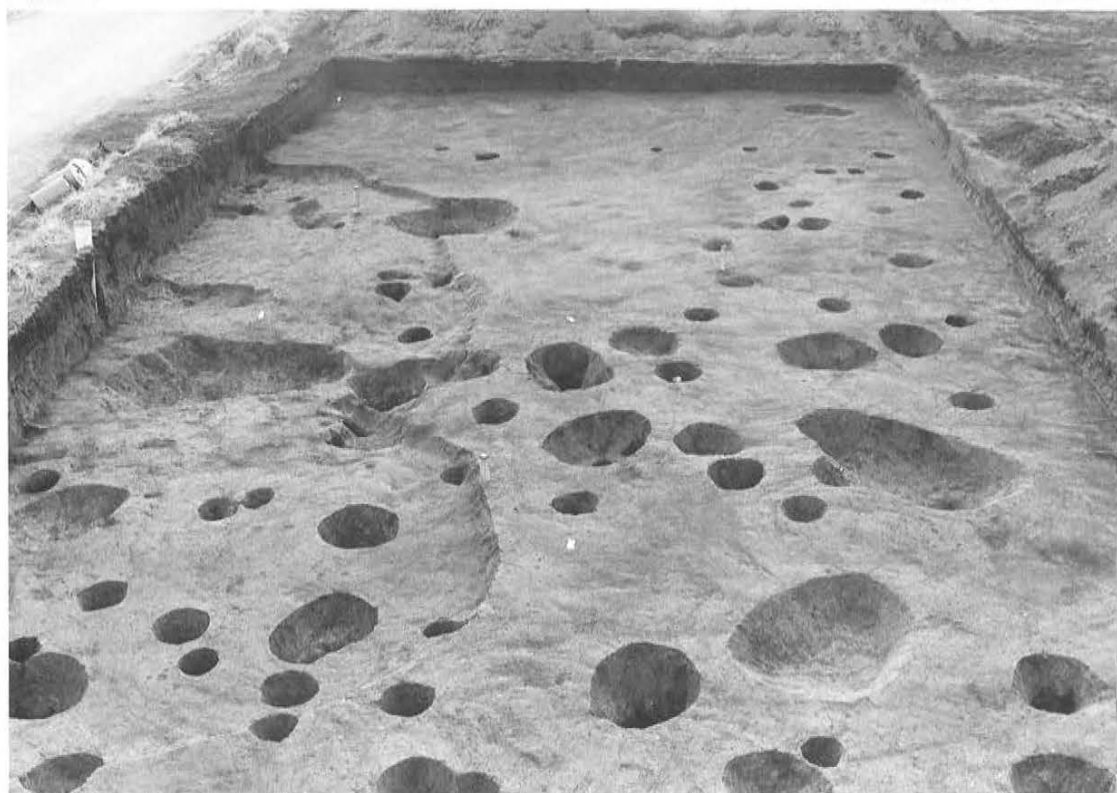
J-8号住居址埋設土器



J-7・8号住居址



円形柱穴列遺構



金井谷戸遺跡全景



S-1・3号集石土坑



S-3号集石土坑



S-1号集石土坑



S-2号集石土坑



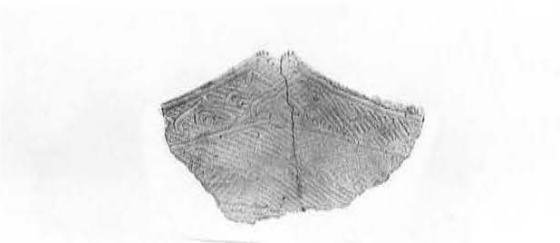
東畑遺跡 J-4号住居址出土の深鉢



東畑遺跡 J-4号住居址出土の深鉢



東畑遺跡 J-4号住居址出土の深鉢



東畑遺跡 J-4号住居址出土の深鉢



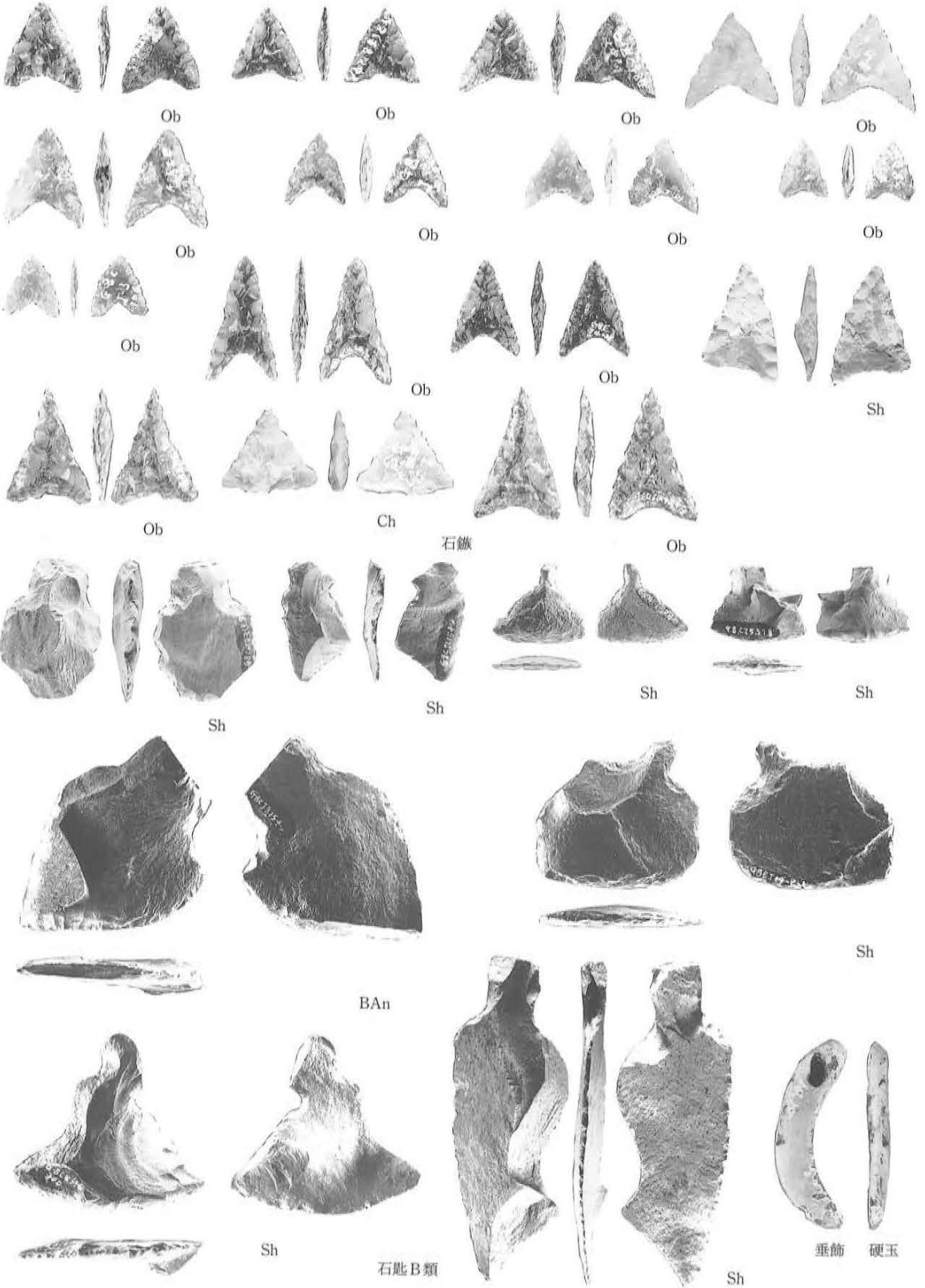
中原遺跡 H-1号住居址出土の甕



東畑遺跡 J-8号住居址出土の埋設土器

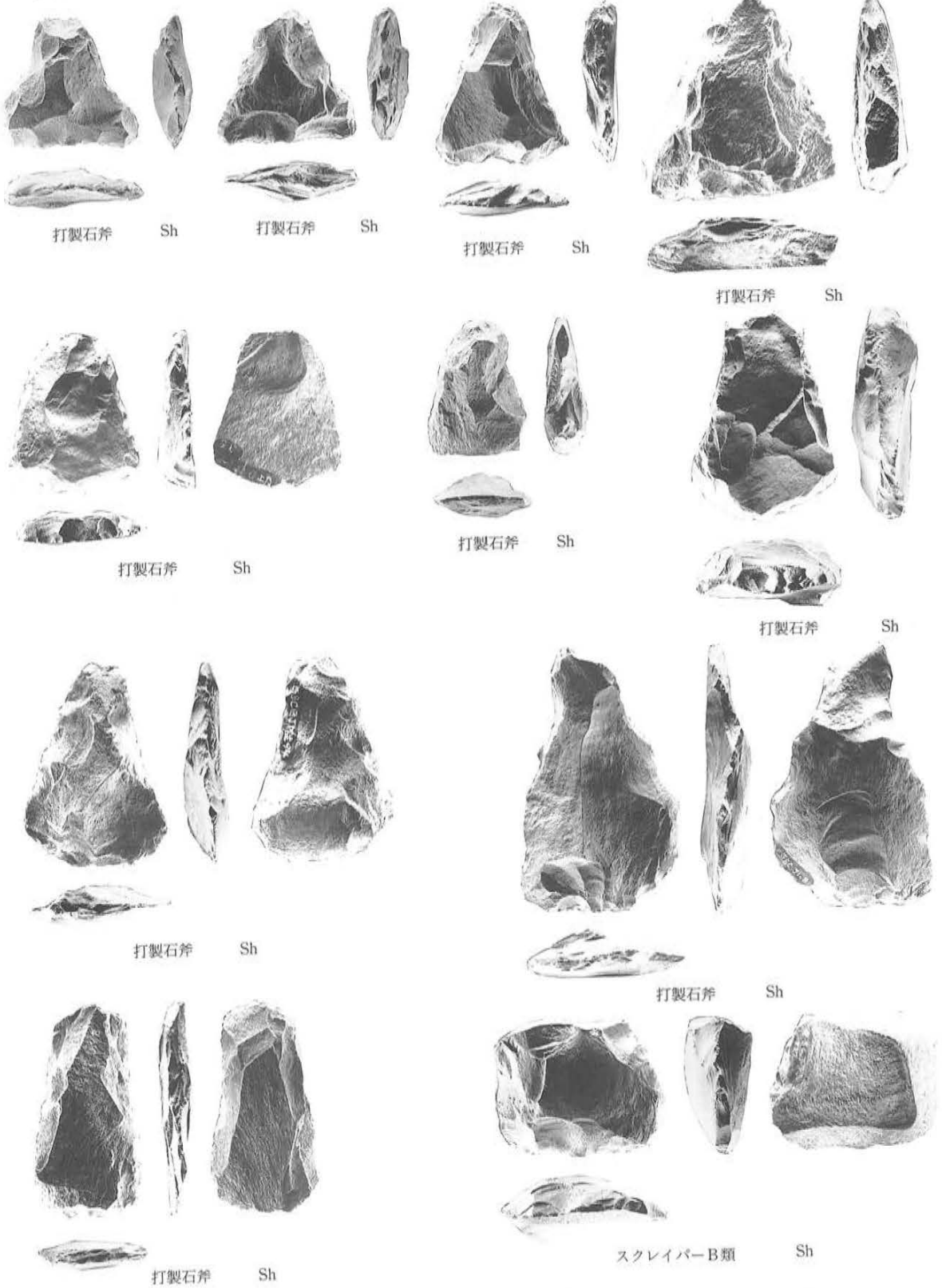


中原遺跡 H-1号住居址出土の高坏



中原遺跡出土の石器(1)





中原遺跡出土の石器(2)



局部磨製石鏃

Ob



石鏃

Ob



スクレイパーA類

HSh



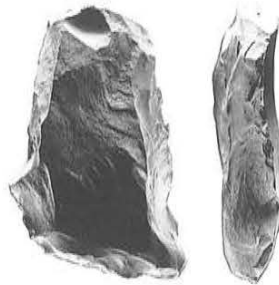
石鏃

Ch



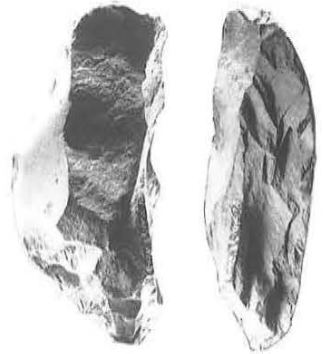
石核

Sh



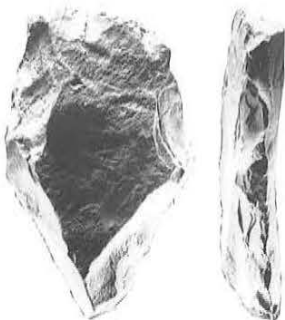
スクレイパーB類

Sh



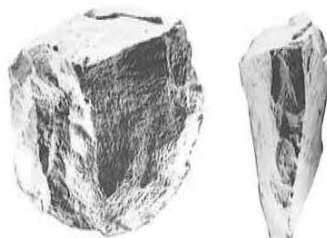
石核

Sh



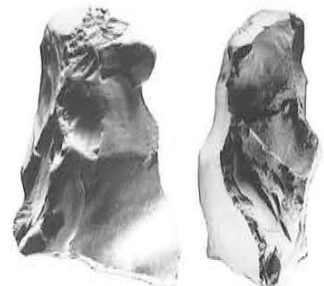
スクレイパーB類

Sh



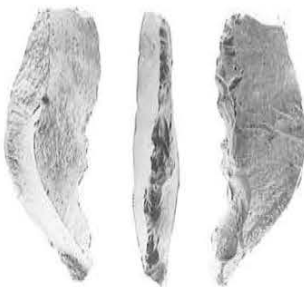
スクレイパーB類

Sh



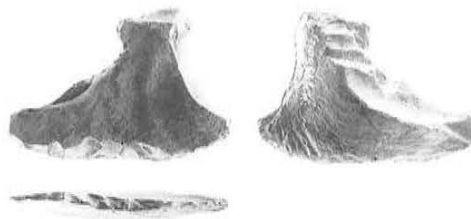
三角鍾形石器

Sh



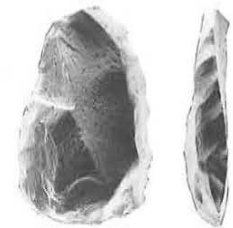
スクレイパーB類

Sh



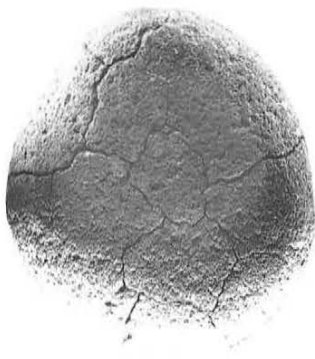
石鏃B類

Sh



打製石斧

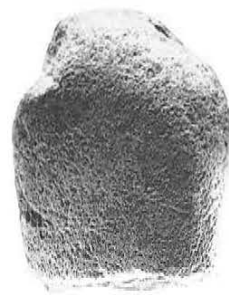
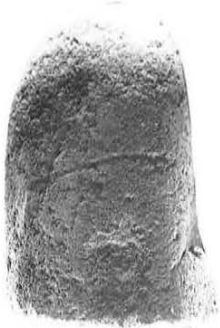
An



磨石 An



磨石 An



特殊磨石 An



特殊磨石 An



砥石 SS



石製品 Sc



スタンプ形石器 An

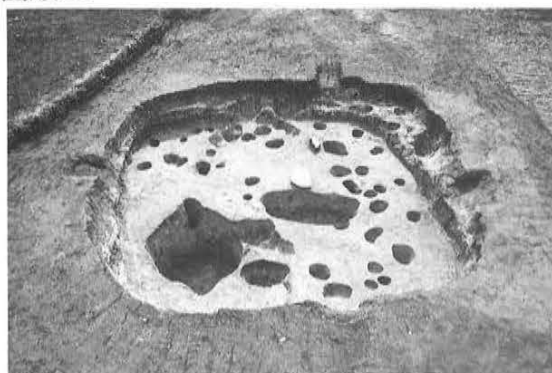


磨製石斧



Sch

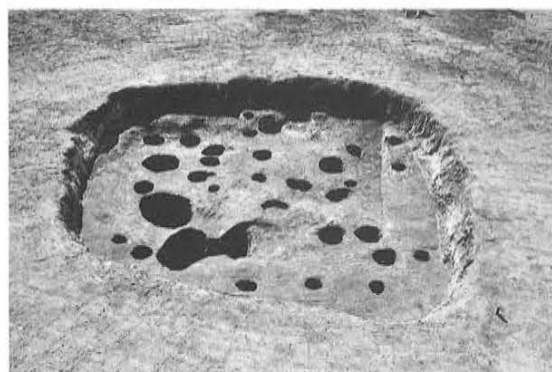




J-1号住居址



J-1号住居址遺物出土狀況



J-2号住居址



J-2号住居址遺物出土狀況



D-201号土坑



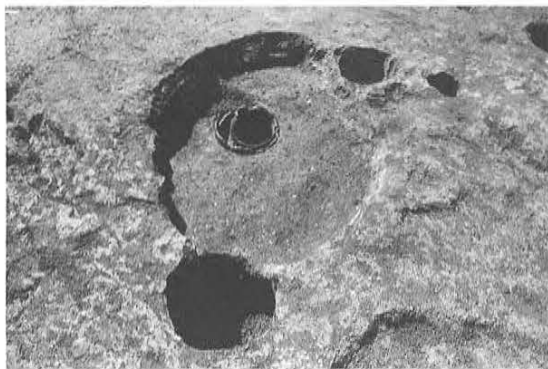
J-3号住居址



J-4号住居址



J-5号住居址



J-5号住居址炉址



J-5号住居址炉址



J-8・9号住居址



J-9号住居址炉址



J-7号住居址



J-7号住居址炉址



J-6号住居址



J-6号住居址炉址



U-4号埋設土器



U-5号埋設土器



U-6号埋設土器



U-7号埋設土器



U-201号埋設土器



U-202号埋設土器



U-203号埋設土器



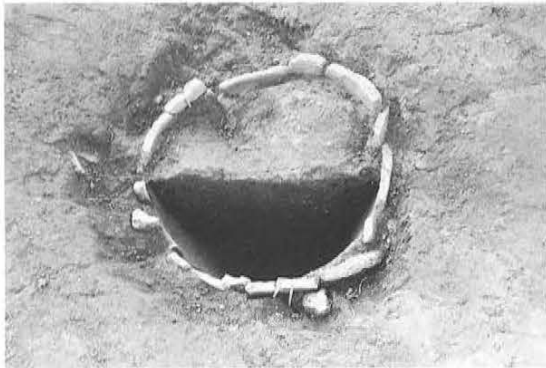
U-205号埋設土器



S-102号配石遺構



S-101号配石遺構



B区U-1号埋設土器



U-201・202・20号埋設土器



J-10号住居址



通路状配石遺構



門状配石遺構



祭壇状配石遺構





S-4号配石墓



S-40号配石墓



S-22号配石墓



S-6号配石墓



S-10号配石墓



S-7 B号配石墓



S-15・17号配石墓



S-8号配石墓



S-21号陪石墓



S-28号陪石墓



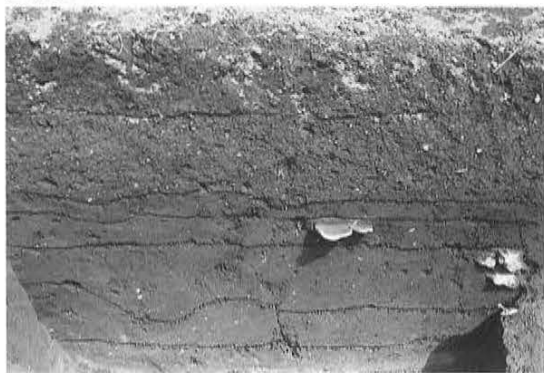
S-24A・24B・27号陪石墓



S-25A・25B陪石墓



天神原遺跡A区掘り方全景



5G-9グリッド基本層序



周堤帯



S-1号配石遺構遺物出土状況



HT-1号方形柱穴列



P-216号土層断面



石棒祭祀遺構



S-48・49号配石墓



S-50号配石墓



J-1号住居址出土の深鉢（諸磯b式）



J-1号住居址D-1号土坑出土の深鉢（諸磯b式）



J-1号住居址出土の深鉢（諸磯b式）



J-1号住居址出土の深鉢（諸磯b式）



J-2号住居址出土の深鉢（諸磯c式）



グリッド出土の深鉢（加曾利E式）





グリッド出土の深鉢（称名寺式）



J-9号住居址出土の深鉢（称名寺式）



J-11号住居址出土の深鉢（称名寺式）



J-9号住居址出土の深鉢（称名寺式）



J-6号住居址出土の深鉢（堀之内2式）



グリッド出土の深鉢（堀之内2式）



35号土坑出土の深鉢（加曾利B 1式）



U-7号埋設土器（加曾利B式）



グリッド出土の鉢（加曾利B 2式）



グリッド出土の深鉢（加曾利B 2式）



グリッド出土の鉢（加曾利B 2式）



グリッド出土の深鉢（加曾利B式）



グリッド出土の壺形土器（加曾利B式）



グリッド出土の深鉢（加曾利B式）



グリッド出土の深鉢（加曾利B式）



グリッド出土の注口土器（加曾利B式）



グリッド出土の台付鉢（高井東式）



S-2号石棒祭祀遺構出土の深鉢（高井東式）



グリッド出土の深鉢（高井東式）



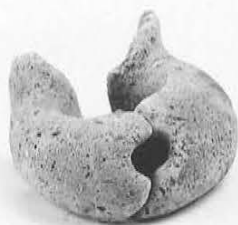
グリッド出土の浅鉢（高井東式）



グリッド出土の深鉢（安行1式）



グリッド出土の深鉢（高井東式）



グリッド出土の注口土器



墓道状配石遺構出土の注口土器（新地式）



グリッド出土の浅鉢（安行3b式）



グリッド出土の台付鉢（安行3a式）



グリッド出土の台付鉢（安行3b式）



グリッド出土の台付鉢（安行3b式）



グリッド出土の深鉢（天神原式）



グリッド出土の深鉢（天神原式）



グリッド出土の深鉢（天神原式）



グリッド出土の深鉢（天神原式）



グリッド出土の深鉢（天神原式）



グリッド出土の深鉢（天神原式）



グリッド出土の深鉢（天神原式）



グリッド出土の深鉢（天神原式）



グリッド出土の深鉢（大洞B-C式）



グリッド出土の深鉢（大洞B-C式）



グリッド出土の壺（大洞C1式）



グリッド出土の壺（大洞C1式）



グリッド出土の台付鉢（大洞C1式）



グリッド出土の浅鉢（大洞B-C式）



グリッド出土の香炉形土器（大洞B-C式）



グリッド出土の鉢（中部・北陸系）



グリッド出土の深鉢（佐野2式）



グリッド出土の深鉢（佐野2式）



グリッド出土の鉢（中部・北陸系）



グリッド出土の深鉢（中部・北陸系）





グリッド出土の壺 (中部・北陸系)



グリッド出土の壺 (佐野2式)



グリッド出土の広口壺 (中部・北陸系)



グリッド出土の鉢 (中部・北陸系)



グリッド出土の台付鉢 (中部・北陸系)



グリッド出土の深鉢



U-205号埋設土器



U-202号埋設土器



U-201号埋設土器



U-204号埋設土器



U-203号埋設土器



U-5号埋設土器



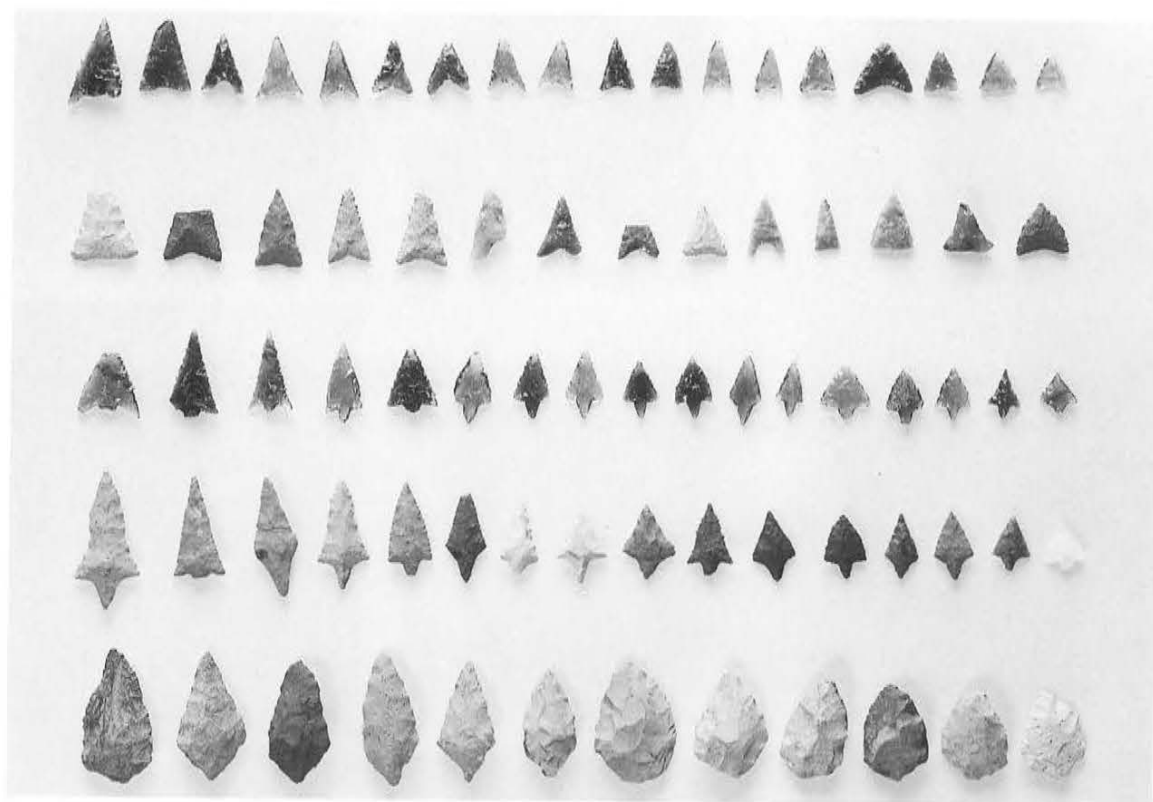
U-4号埋設土器



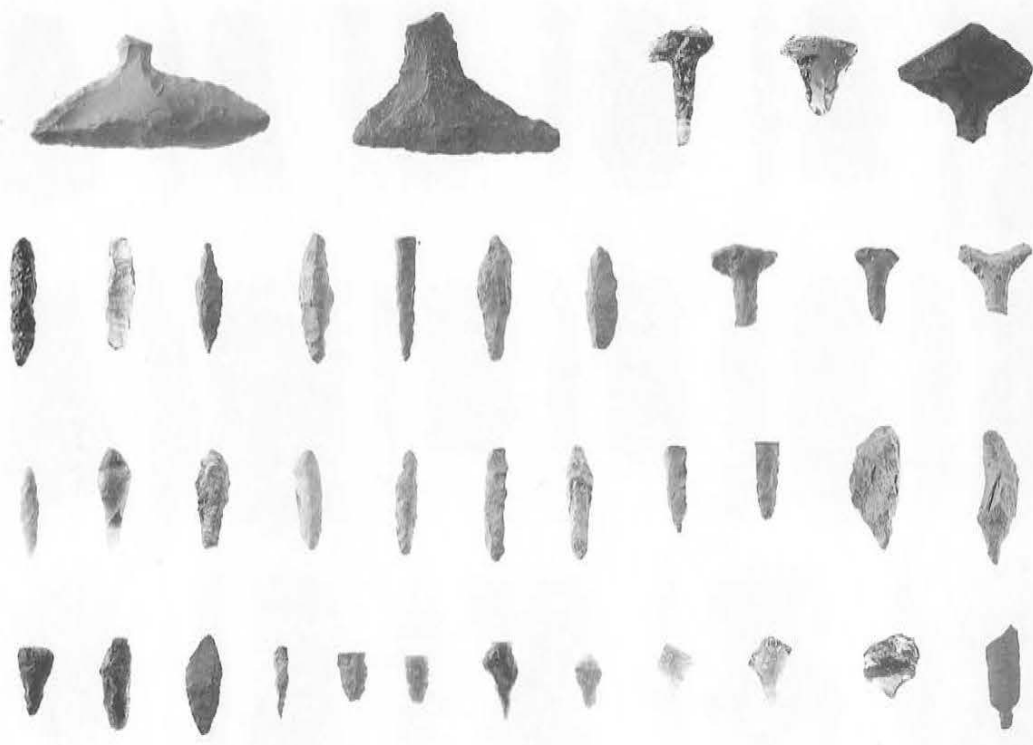
U-6号埋設土器



U-6号埋設土器



天神原遺跡出土の石器(1)石鏃

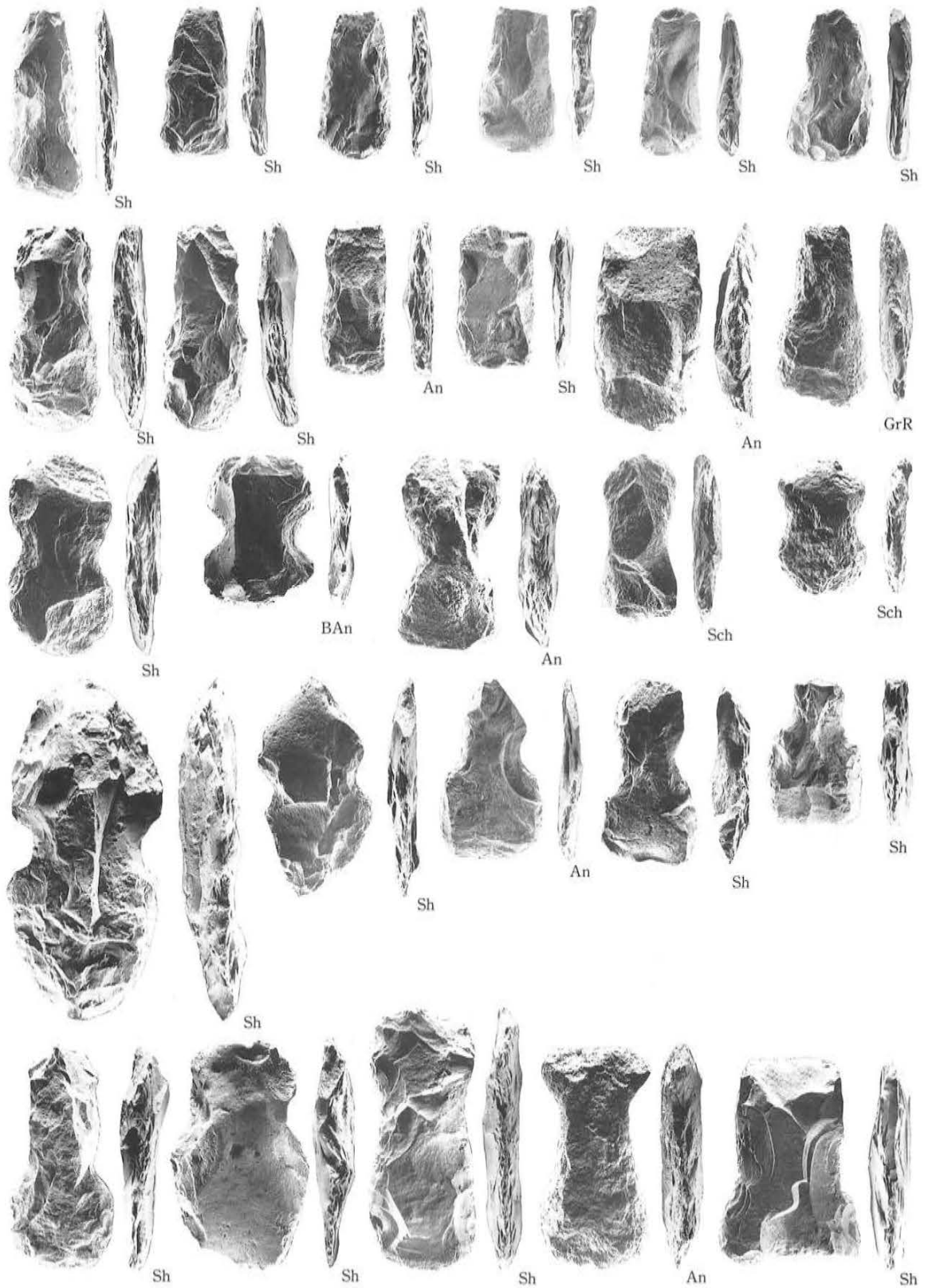


石匙・石錐

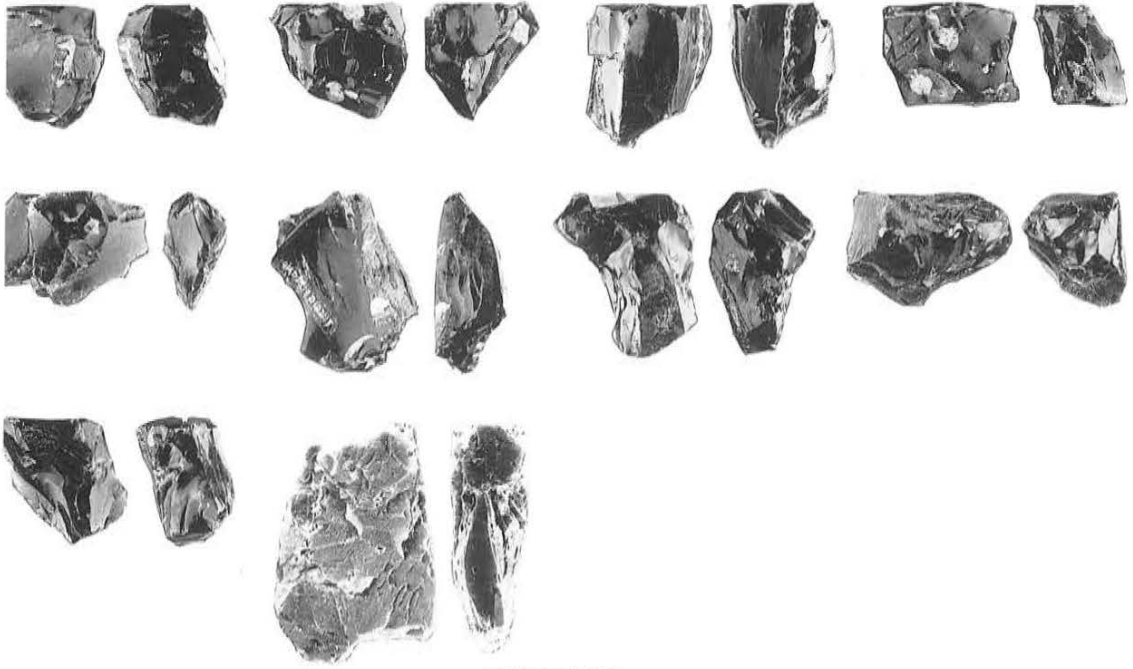


石錘

天神原遺跡出土の石器(2)



天神原遺跡出土の石器(3)打製石斧

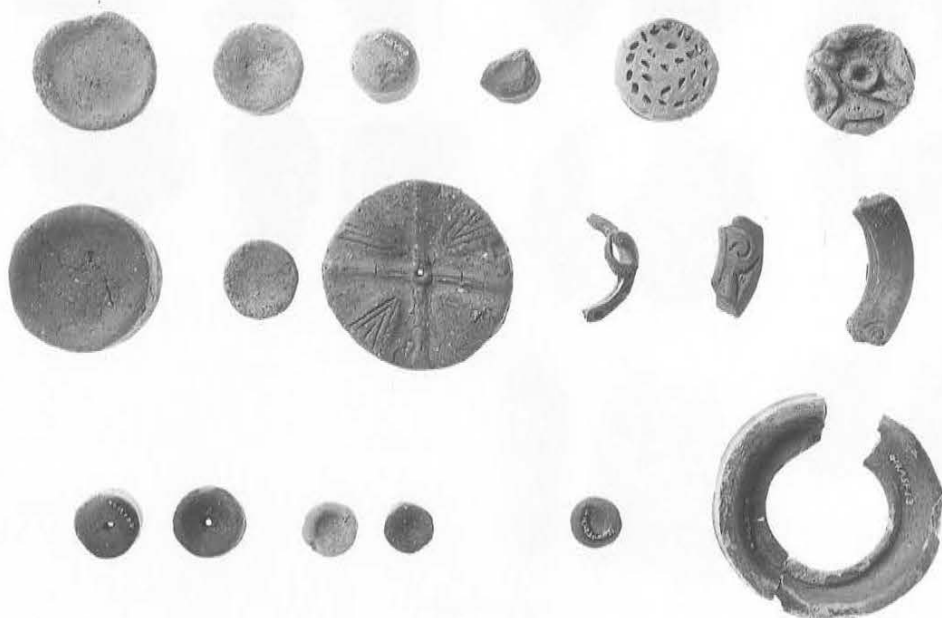


黒曜石の原石

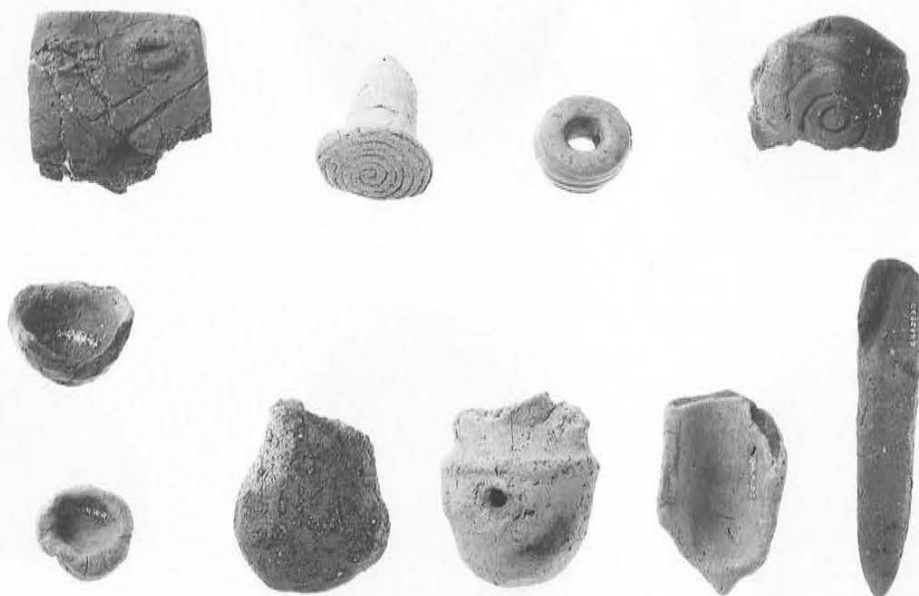


石皿

天神原遺跡出土の石器(4)



耳栓



土版・スタンプ形土製品・手燭形土器等

## 中野谷地区遺跡群

— 県営畑地帯総合土地改良事業横野平地区  
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

発行日 平成6年3月25日

編集・発行 安中市教育委員会  
群馬県安中市安中一丁目23-13

印刷 朝日印刷工業株式会社